

高崎市小八木町

ko ya gi si si kai to
小八木志志貝戸遺跡 4

2区 縄文時代・4～6区 縄文時代～平安時代編

主要地方道高崎渋川線改築(改良)工事に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第8集

2002

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

小八木志志貝戸遺跡4 正誤表

21頁13図	重複する住居は住居2区019
76頁74図	土層断面のレベルは全て104.80m

高崎市小八木町

ko ya gi si si kai to

小八木志志貝戸遺跡 4

2区 縄文時代・4～6区 縄文時代～平安時代編

主要地方道高崎渋川線改築(改良)工事に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第8集

2002

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



居宅遺構全景(垂直)



居宅3期正殿建物 掘立柱建物5区166 (S→)

序

主要地方道高崎渋川線は近世の三国往還を踏襲しており、古くから往来が盛んな道路として知られております。現在では高崎市街地を南北に縦断しながら国道17号線と交差して渋川市を結ぶ地方幹線道として、近年交通量がさらに増加しています。

本道路改築(改良)工事1期は、現道の東側を迂回するバイパスとして整備しつつあり、渋滞緩和のため早期開通が囑望されておりました。この工事に先立って、当該する埋蔵文化財の記録保存として昭和63年からは群馬町教育委員会、そして平成6年からは当事業団が発掘調査を実施してまいりました。

本遺跡の周辺には三ッ寺I遺跡、保渡田古墳群、上野国府跡、日高遺跡のような重要な遺跡が存在しております。また、周辺では高速道路、新幹線建設、土地改良工事などに伴って、発掘調査が数多く行われてきました。それらの中間に当たる地域として、本遺跡は当地域の歴史を究明する上で重要な資料を提供することと思います。

本遺跡は縄文時代から中世にいたる、特に集落、墓域、祭祀などの痕跡が密集して発見されております。これまでの弥生時代編、古墳時代編、中世編に続く本書では、これまで希薄であった古代の集落と奈良時代の居宅跡について報告します。今回の調査で発見した居宅跡は古代八木郷に新たな見知を与え、当地の古代史を解明する上で重要な資料となり得ると確信します。

本報告書の刊行にいたるまでには、群馬県土木部道路建設課、高崎土木事務所、群馬県教育委員会、高崎市教育委員会の諸機関並びに地元関係者の皆様に大変な尽力を賜りました。銘記して心から感謝申し上げるとともに、本報告書が広く基本的な歴史資料として活用されることを念願し、序とします。

平成14年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小野 宇三郎

例 言

1. 本書は、群馬県主要地方道高崎渋川線改築（改良）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本書の掲載する遺跡の範囲は下記のとおりである。
小八木志志貝戸遺跡 2 区 縄文時代
小八木志志貝戸遺跡 4 区～6 区 縄文時代～古代
3. 所在地 高崎市小八木町字志志貝戸、関添、薬師前
4. 事業主体 群馬県土木部道路建設課・高崎土木事務所
5. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
6. 調査期間 （本報告書に掲載する範囲の調査区調査期間である。）
2 区 1997年9月30日～1998年6月25日
4 区～6 区 1999年4月1日～12月20日
7. 調査組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
8. 調査担当 坂井 隆、神谷佳明、須田正久、横山千晶、長岡将之、（囑託）入沢雪絵、小林一弘
調査組織の詳細、調査担当者の関わった期間などについては当該年度の事業団年報を参照。
9. 整理期間 2001年4月1日～2002年3月31日
10. 整理組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小野宇三郎、常務理事 吉田 豊、赤山容造、管理部長 住谷 進、調査研究部長 能登 健
事務担当 大島信夫、小山建夫、笠原秀樹、須田朋子、吉田有光、森下弘美、片岡徳雄、並木綾子、
今井とも子、内山佳子、若田 誠、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野真子
資料整理課長 西田健彦
11. 整理担当 神谷佳明
12. 報告書作成関係者
編 集 神谷佳明、 本文執筆 神谷佳明
石器・石製品石材鑑定 飯島静男、樹種同定 パレオ・ラボ
遺物観察 縄文土器 山口逸弘、石器 岩崎泰一、 その他 神谷佳明
遺構写真撮影 調査担当者、(空撮)株式会社 測研、 遺物写真撮影 佐藤元彦
保存処理 関 邦一、土橋まり子、小材浩一、高橋初美
整理作業 大友幸江、六本木弘子、小久保トシ子、小菅優子、矢野純子、中橋たみ子
遺物実測補助 佐藤美代子、田中富子、矢島三枝子、富沢スミ江、大成エンジニアリング(株)
遺構図・遺物図浄書 (株)測研
13. 発掘調査、遺物基礎整理、遺構図基礎整理は1997年度、1998年度、1999年度、2000年度に(主)地方道高崎渋川線(改良)工事に伴う発掘調査に配属された事業団発掘作業員の方々をはじめ多くの方々に従事していただいた。本来なら本書に御芳名を記載すべきところであるが紙面の関係で掲載できなかった。
14. 発掘調査、整理作業では多くの方々にご指導、ご教示を受けた紙面の関係でご芳名を掲載できないがここに感謝に意を表したい。
15. 記録図面、記録写真、出土遺物、その他記録等は群馬県埋蔵文化財センターで保管している。
16. 副書名巻次は、群馬町教育委員会が実施した同事業の報告書を加えて修正を行っている。

凡 例

1. 挿図中に使用した方位は、座標北を表示している。
2. 本報告書で使用したテフラの略号は、As-B 浅間山B軽石、As-C 浅間山C軽石、Hr-F P 榛名ニッ岳噴出軽石、Hr-F A 榛名ニッ岳噴出火山灰である。
3. 挿図中の遺構図縮尺は、掘立柱建物 1/80、住居 1/60、同カマド・炉 1/30、埋甕・井戸・土坑 1/40、溝平面 1/100、溝断面 1/50、その他は各図にスケールを貼付してあるとおりである。
4. 挿図中の遺物図縮尺は、原則 1/3 であるが大型については1/4、また、石器等の小型遺物については1/2、1/1で掲載してある。1/3以外の遺物については遺物No.の後ろに（ ）で縮尺を明示してある。
5. 挿図中に使用したスクリーンパターンは下記のとおりである。

遺 構



遺 物



6. 挿図・付図中の遺構名称については調査区については省略し遺構種類名称については下記のとおり略してある。
住 住居、掘立 掘立柱建物、井 井戸、土 土坑
7. 遺物観察表の凡例は、遺物観察表扉裏に掲載している。
8. 本報告書で使用した地形図は、以下のとおりである。
国土地理院 地勢図「長野」・「宇都宮」(1/200,000)使用は昭和58年横山衡器製作所100周年記念調整図
地形図「前橋」・「室田」(1/25,000)、「前橋」・「榛名山」(1/50,000)
高崎市都市計画図
9. 遺構の面積は、デジタルプランメーターを使用して3回の計測値を平均したものである。
10. 図版中の遺物縮尺は個々に異なっている。

目 次

序

例言

凡例

挿図・表・図版 目次

I 調査の経過	
1. 調査に至る経緯	2
2. 調査の経過	4
II 調査の方法	
1. 調査の方法	6
2. 調査区の設定	7
3. 基本土層	8
III 遺跡地の環境	
1. 地理的環境	10
2. 歴史的環境	12
IV 遺構・遺物	
1. 調査の概要	17
2. 縄文時代の遺構・遺物	18
(1)敷石住居、(2)掘立柱建物、(3)柱列、(4)配石、(5)集石、 (6)遺物集中、(7)埋甕、(8)土坑、(9)溝、(10)遺構外出土遺物	
3. 弥生時代の遺構・遺物	67
(1)住居、(2)壺棺、(3)土坑、(4)遺構外出土遺物	
4. 古墳時代の遺構・遺物	73
(1)住居、(2)古墳、(3)土坑、(4)溝、(5)畠、(6)遺構外出土遺物	
5. 奈良・平安時代の遺構・遺物	90
(1)居宅、(2)住居、(3)掘立柱建物、(4)井戸、(5)土坑、 (6)溝、(7)遺構外出土遺物	
V 自然科学分析	
1. 樹種同定	168
VI おわりに	171
掲載遺物観察表	173
図版	
遺構検索表	
報告書抄録	

挿 図 目 次

1 図	遺跡位置図(1/200.000).....1	57 図	縄文時代 5 区遺構外出土遺物 遺物図(8).....61
2 図	遺跡調査区位置図(1/25.000).....3	58 図	縄文時代 5 区遺構外出土遺物 遺物図(9).....62
3 図	小八木志志貝戸遺跡調査区図.....5	59 図	縄文時代 5 区遺構外出土遺物 遺物図(10).....63
4 図	調査区設定図.....7	60 図	縄文時代 5 区遺構外出土遺物 遺物図(11).....64
5 図	基本土層概略図.....8	61 図	縄文時代 5 区遺構外出土遺物 遺物図(12).....65
6 図	調査区土層柱状図.....9	62 図	縄文時代 5 区遺構外出土遺物 遺物図(13).....66
7 図	遺跡周辺地形様相図.....11	63 図	縄文時代 6 区遺構外出土遺物 遺物図.....66
8 図	周辺遺跡図(1/25.000).....14	64 図	住居 4 区167 遺構図・遺物図.....67
9 図	遺跡地周辺調査状況図.....15	65 図	住居 4 区215 遺構図.....68
10 図	敷石住居 5 区439 遺構図.....18	66 図	住居 4 区215 遺物図.....69
11 図	敷石住居 2 区36 遺構図.....19	67 図	壺棺 4 区180 遺構図・遺物図.....70
12 図	敷石住居 2 区36 遺物図.....20	68 図	土坑 4 区211・306・307 遺構図・遺物図.....71
13 図	掘立柱建物 2 区72 遺構図.....21	69 図	弥生時代 4 区遺構外出土遺物 遺物図.....72
14 図	掘立柱建物 2 区72 遺物図.....22	70 図	弥生時代 5 区遺構外出土遺物 遺物図.....72
15 図	掘立柱建物 2 区90 遺構図.....23	71 図	住居 4 区161 遺構図.....73
16 図	円形柱列 2 区52 遺構図.....24	72 図	住居 5 区457 遺構図(1).....74
17 図	配石 2 区23 遺構図.....25	73 図	住居 5 区457 遺構図(2)・遺物図.....75
18 図	配石 2 区23 遺物図(1).....26	74 図	住居 4 区226 遺構図.....76
19 図	配石 2 区23 遺物図(2).....27	75 図	住居 4 区226 遺物図.....77
20 図	集石 2 区43 遺構図.....28	76 図	古墳 4 区105 遺構図.....78
21 図	遺物集中 2 区40 遺構図・遺物図.....29	77 図	古墳 4 区105 遺物図.....79
22 図	埋甕 2 区51 遺構図.....29	78 図	土坑 4 区109・110・115・119・120・125 遺構図.....79
23 図	埋甕 2 区51 遺物図.....30	79 図	土坑 4 区124・128・249・5 区419・466・ 6 区W03・W04・E02 遺構図.....80
24 図	埋甕 4 区228 遺構図・遺物図.....30	80 図	溝 4 区116・117 遺構図.....81
25 図	埋甕 5 区464 遺構図・遺物図.....31	81 図	溝 4 区104・5 区04 遺構図・遺物図.....82
26 図	埋甕 5 区563 遺構図.....31	82 図	溝 4 区107・108・113・121・122・123 遺構図.....83
27 図	埋甕 5 区563 遺物図.....32	83 図	畠 4 区111 遺構図・遺物図.....84
28 図	土坑 2 区42・74 遺構図.....33	84 図	畠 4 区130・131 遺構図.....85
29 図	土坑 2 区83・84・95・113 遺構図.....34	85 図	畠 6 区W01 遺構図.....86
30 図	土坑 2 区112 遺構図・遺物図.....35	86 図	畠 6 区E01 遺構図・遺物図.....87
31 図	土坑 4 区184・186・222・223・231 遺構図・遺物図.....36	87 図	古墳時代 4 区遺構外出土遺物 遺物図(1).....88
32 図	土坑 4 区242・251・252・253・264 遺構図・遺物図.....37	88 図	古墳時代 4 区遺構外出土遺物 遺物図(2).....89
33 図	土坑 4 区262・263・302・303・314・ 315・316・317・318 遺構図.....38	89 図	古墳時代 5 区遺構外出土遺物 遺物図.....89
34 図	土坑 4 区319・320・321・322・ 5 区486・519・559・575 遺構図・遺物図.....39	90 図	居宅遺構全体図.....92
35 図	溝 4 区277 遺構図.....40	91 図	居宅遺構変遷図 1 期.....92
36 図	縄文時代 2 区遺構外出土遺物 遺物図(1).....40	92 図	居宅遺構変遷図 2 期.....93
37 図	縄文時代 2 区遺構外出土遺物 遺物図(2).....41	93 図	居宅遺構変遷図 3 期.....93
38 図	縄文時代 2 区遺構外出土遺物 遺物図(3).....42	94 図	居宅区画溝 4 区03 遺構図・遺物図.....94
39 図	縄文時代 2 区遺構外出土遺物 遺物図(4).....43	95 図	居宅区画柵 5 区172 遺構図・遺物図.....95
40 図	縄文時代 2 区遺構外出土遺物 遺物図(5).....44	96 図	居宅掘立柱建物 5 区169 遺構図・遺物図.....96
41 図	縄文時代 2 区遺構外出土遺物 遺物図(6).....45	97 図	居宅掘立柱建物 5 区211 遺構図.....97
42 図	縄文時代 2 区遺構外出土遺物 遺物図(7).....46	98 図	居宅掘立柱建物 5 区400 遺構図・遺物図.....98
43 図	縄文時代 2 区遺構外出土遺物 遺物図(8).....47	99 図	居宅掘立柱建物 5 区377 遺構図・遺物図.....99
44 図	縄文時代 4 区遺構外出土遺物 遺物図(1).....48	100 図	居宅掘立柱建物 5 区387 遺構図.....100
45 図	縄文時代 4 区遺構外出土遺物 遺物図(2).....49	101 図	居宅掘立柱建物 5 区387 遺物図.....101
46 図	縄文時代 4 区遺構外出土遺物 遺物図(3).....50	102 図	居宅掘立柱建物 5 区168 遺構図・遺物図.....101
47 図	縄文時代 4 区遺構外出土遺物 遺物図(4).....51	103 図	居宅掘立柱建物 5 区166 遺物図.....102
48 図	縄文時代 4 区遺構外出土遺物 遺物図(5).....52	104 図	居宅掘立柱建物 5 区166 遺構図.....103
49 図	縄文時代 4 区遺構外出土遺物 遺物図(6).....53	105 図	居宅掘立柱建物 5 区171 遺構図.....104
50 図	縄文時代 5 区遺構外出土遺物 遺物図(1).....54	106 図	居宅掘立柱建物 5 区171 遺物図.....105
51 図	縄文時代 5 区遺構外出土遺物 遺物図(2).....55	107 図	居宅掘立柱建物 5 区170 遺構図.....105
52 図	縄文時代 5 区遺構外出土遺物 遺物図(3).....56	108 図	居宅掘立柱建物 5 区170 遺物図.....106
53 図	縄文時代 5 区遺構外出土遺物 遺物図(4).....57	109 図	居宅井戸 5 区181 遺構図.....106
54 図	縄文時代 5 区遺構外出土遺物 遺物図(5).....58	110 図	居宅井戸 5 区181 遺物図.....107
55 図	縄文時代 5 区遺構外出土遺物 遺物図(6).....59	111 図	居宅井戸 5 区180 遺構図.....107
56 図	縄文時代 5 区遺構外出土遺物 遺物図(7).....60	112 図	居宅井戸 5 区180 遺物図.....108
		113 図	居宅溝 5 区164 遺構図・遺物図.....109

114図	居宅廃棄 5区60	遺構図	110
115図	居宅廃棄 5区60	遺物図(1)	111
116図	居宅廃棄 5区60	遺物図(2)	112
117図	居宅廃棄 5区60	遺物図(3)	113
118図	居宅廃棄 5区60	遺物図(4)	114
119図	居宅廃棄 5区60	遺物図(5)	115
120図	居宅廃棄 5区60	遺物図(6)	116
121図	居宅廃棄 5区60	遺物図(7)	117
122図	居宅廃棄 5区60	遺物図(8)	118
123図	居宅廃棄 5区436	遺構図・遺物図(1)	119
124図	居宅廃棄 5区436	遺物図(2)	120
125図	住居 4区160	遺構図	120
126図	住居 5区49	遺構図(1)	121
127図	住居 5区49	遺構図(2)・遺物図	122
128図	住居 5区51	遺構図・遺物図(1)	123
129図	住居 5区51	遺物図(2)	124
130図	住居 5区52	遺構図(1)	124
131図	住居 5区52	遺構図(2)・遺物図	125
132図	住居 5区53	遺構図(1)	126
133図	住居 5区53	遺構図(2)	127
134図	住居 5区53	遺構図(3)・遺物図(1)	128
135図	住居 5区53	遺物図(2)	129
136図	住居 5区58	遺構図(1)	129
137図	住居 5区58	遺構図(2)	130
138図	住居 5区58	遺物図	131
139図	住居 5区61	遺構図(1)	132
140図	住居 5区61	遺構図(2)	133
141図	住居 5区61	遺物図	134
142図	住居 5区63	遺構図・遺物図	135
143図	住居 5区260	遺構図	136
144図	住居 5区260	遺物図	137
145図	住居 5区261	遺構図	138
146図	住居 5区261	遺物図	139
147図	住居 5区418	遺構図・遺物図	140
148図	掘立柱建物 5区167	遺構図・遺物図	141
149図	井戸 4区219	遺構図・遺物図	141
150図	井戸 4区224	遺構図	142
151図	土坑 4区132・134・137・145・150・151・ 152・153・154	遺構図	144
152図	土坑 4区159・163・164・5区50・54・56・ 57・70・71	遺構図・遺物図	145
153図	土坑 5区55・65	遺構図・遺物図	146
154図	土坑 5区74・105・114・129・134・138・ 151	遺構図・遺物図	147
155図	土坑 5区155・161・200・202・217	遺構図・遺物図	148
156図	土坑 5区219・246・271・311・319・332・ 342・347・369・426	遺構図・遺物図	149
157図	土坑 5区344・441・442・443	遺構図・遺物図	150
158図	土坑 5区445・446	遺構図・遺物図	151
159図	溝 4区114・141・146・176・177・178	遺構図・遺物図	152
160図	溝 4区148・5区48・121・147・154	遺構図	153
161図	溝 5区48	遺物図(1)	154
162図	溝 5区48	遺物図(2)	155
163図	溝 5区48	遺物図(3)、溝 5区232・370 遺構図・遺物図	156
164図	溝 5区326・421・444	遺構図・遺物図	157
165図	溝 5区437	遺構図・遺物図	158
166図	溝 5区438・6区溝W05・W06・W08	遺構図・遺物図	159
167図	奈良・平安時代 4区遺構外出土遺物	遺物図(1)	160
168図	奈良・平安時代 4区遺構外出土遺物	遺物図(2)・ 6区遺構外出土遺物 遺物図	161
169図	奈良・平安時代 5区遺構外出土遺物	遺物図(1)	161
170図	奈良・平安時代 5区遺構外出土遺物	遺物図(2)	162
171図	奈良・平安時代 5区遺構外出土遺物	遺物図(3)	163
172図	奈良・平安時代 5区遺構外出土遺物	遺物図(4)	164
173図	奈良・平安時代 5区遺構外出土遺物	遺物図(5)	165
174図	奈良・平安時代 5区遺構外出土遺物	遺物図(6)	166
175図	奈良・平安時代 5区遺構外出土遺物	遺物図(7)	167
付図1	縄文時代～古墳時代中期(3面)	全体図	
付図2	古墳時代後期～平安時代	全体図(2面) 全体図	

表 目 次

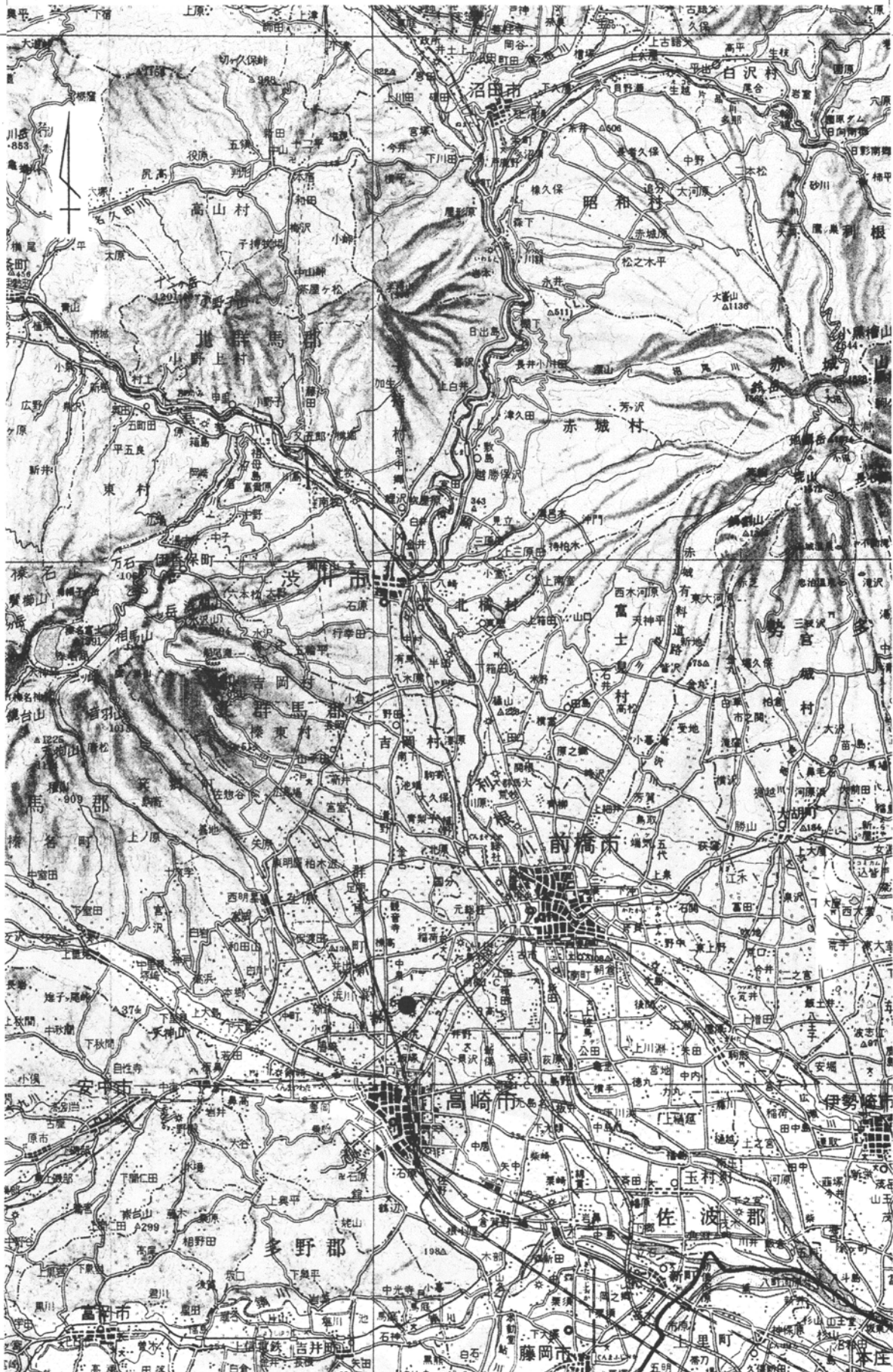
1表	調査遺跡一覧	2
2表	敷石住居 2区36柱穴計測表	19
3表	掘立柱建物 2区72柱穴計測表	21
4表	掘立柱建物 2区90柱穴計測表	22
5表	円形柱列 2区52柱穴計測表	24
6表	縄文時代土坑一覧	33
7表	古墳時代土坑一覧	77
8表	居宅内部区画柵 5区172柱穴計測表	95
9表	居宅掘立柱建物 5区169柱穴計測表	96
10表	居宅掘立柱建物 5区211柱穴計測表	97
11表	居宅掘立柱建物 5区377柱穴計測表	99
12表	居宅掘立柱建物 5区387柱穴計測表	100
13表	居宅掘立柱建物 5区168柱穴計測表	101
14表	居宅掘立柱建物 5区166柱穴計測表	102
15表	居宅掘立柱建物 5区171柱穴計測表	104
16表	掘立柱建物 5区167柱穴計測表	141
17表	奈良・平安時代土坑一覧	143
18表	小八木志志貝戸遺跡出土材の樹種	170

図 版 目 次

- P L 1 遺跡地遠景 (S→)
遺跡地遠景 (N→)
- P L 2 2区～5区縄文時代～古墳時代中期 全景(垂直)
2区(1999年度)縄文時代 全景(垂直)
- P L 3 4区縄文時代～古墳時代中期 全景(垂直)
5区縄文時代～古墳時代中期 全景(垂直)
- P L 4 4区・5区古墳時代後期～平安時代 全景(垂直)
4区・5区古墳時代後期～平安時代 全景(N→)
- P L 5 4区古墳時代後期～平安時代 全景(垂直)
5区古墳時代後期～平安時代 全景(垂直)
- P L 6 敷石住居2区36全景(S→)
敷石住居2区36全景(S→)
敷石住居2区36炉(E→)
敷石住居2区36埋甕出土状態(S→)
敷石住居5区439全景(N→)
- P L 7 掘立柱建物2区72全景(N→)
掘立柱建物2区72全景(N E→)
掘立柱建物2区72柱穴
掘立柱建物2区72柱穴断面(E→)
掘立柱建物2区72柱穴断面
- P L 8 掘立柱建物2区90全景(N→)
掘立柱建物2区90全景(S W→)
円形柱列2区52近景(S W→)
円形柱列2区52柱穴断面(W→)
円形柱列2区52柱穴断面(S W→)
- P L 9 円形柱列2区52全景(S→)
円形柱列2区52 全景(N→)
- P L 10 配石2区23全景(W→)
配石2区23-1 (W→)
配石2区23-2 (N E→)
配石2区23-3 (W→)
配石2区23-4 (N W→)
- P L 11 集石2区43全景(N E→)
集石2区43全景(N W→)
遺物集中2区40全景(W→)
遺物集中2区40全景(E→)
埋甕2区51全景(S E→)
埋甕4区228遺物出土状態(N W→)
埋甕4区228遺物出土状態(E→)
埋甕4区228掘方(N→)
- P L 12 埋甕5区464遺物出土状態
埋甕5区464掘方(N→)
埋甕5区563遺物出土状態(S→)
埋甕5区563掘方(N→)
土坑2区74断面(S W→)
土坑2区95全景(W→)
土坑2区112全景(S E→)
土坑2区112 遺物出土状態(W→)
- P L 13 土坑4区184全景(S→)
土坑4区184断面(S→)
土坑4区186全景(N→)
土坑4区186断面(S→)
土坑4区222全景(N→)
土坑4区242全景(E→)
土坑4区252全景(N→)
土坑4区262全景(N→)
- P L 14 土坑4区263全景(W→)
土坑4区302断面(S→)
- 土坑4区303断面(S→)
土坑5区559全景(N→)
土坑5区559断面(S→)
土坑5区575全景(S→)
土坑5区575断面(S→)
縄文時代埋甕4区228作業状況
- P L 15 住居4区167全景(S→)
住居4区167断面(S→)
住居4区167炉(S→)
住居4区167遺物出土状態(S→)
住居4区167掘方(S→)
- P L 16 住居4区215全景(N→)
住居4区215断面(N→)
住居4区215断面(W→)
住居4区215床面状態(E→)
住居4区215掘方(W→)
- P L 17 壺棺4区180全景(W→)
壺棺4区180検出状況(E→)
土坑4区211全景(N→)
土坑4区211遺物出土状態(N→)
土坑4区211遺物出土状態近景(N→)
土坑4区307遺物出土状態(N→)
土坑4区307断面(S→)
弥生時代4区遺構調査状況
- P L 18 住居4区161全景(W→)
住居4区161掘方(W→)
住居4区161断面(W→)
住居4区161掘方断面(S→)
住居5区457炭化材出土状態(S→)
住居5区457床面状態(S→)
住居5区457断面(S→)
住居5区457断面(E→)
- P L 19 住居5区457炭化材出土状態近景(S→)
住居5区457貯藏穴(W→)
住居5区457貯藏穴断面(S→)
住居5区457遺物出土状態
住居5区457掘方(S→)
住居4区226全景(W→)
住居4区226断面(S→)
住居4区226掘方(W→)
- P L 20 古墳4区105全景(S→)
古墳4区105全景(N→)
古墳4区105断面(S→)
古墳4区105周堀遺物出土状態(W→)
古墳4区105周堀遺物出土状態(W→)
- P L 21 土坑4区115全景(S→)
土坑6区E02全景(S→)
溝4区107全景(W→)
溝4区113全景(W→)
溝4区104・5区04全景(垂直)
溝5区04全景(S→)
溝4区104近景(S→)
溝5区04断面(W→)
- P L 22 畠4区111全景(S→)
畠4区130・畠4区131全景(垂直)
畠6区W01全景(W→)
畠6区E01全景(N→)
畠6区E01全景(E→)

- P L 23 居 宅 4 区・5 区 全景(垂直)
- P L 24 居宅区画溝 4 区03全景(W→)
居宅区画溝 4 区03全景(SW→)
居宅区画溝 4 区03断面(W→)
居宅内部柵 5 区172全景(W→)
居宅 5 区172柱穴 P 8 断面(S→)
居宅内部柵 5 区172全景(W→)
- P L 25 居宅掘立柱建物 5 区169全景(S→)
居宅掘立柱建物 5 区169全景(S→)
居宅掘立柱建物 5 区169掘方全景(S→)
居宅掘立柱建物 5 区169柱穴 P 8 断面(S→)
居宅掘立柱建物 5 区169柱穴 P 9 断面(S→)
- P L 26 居宅掘立柱建物 5 区211全景(S→)
居宅掘立柱建物 5 区211全景(S→)
居宅掘立柱建物 5 区211掘方全景(S→)
居宅掘立柱建物 5 区211柱穴 P 1 断面(S→)
居宅掘立柱建物 5 区400全景(S→)
- P L 27 居宅掘立柱建物 5 区377全景(S→)
居宅掘立柱建物 5 区377全景(S→)
居宅掘立柱建物 5 区377柱穴 P 3 断面(S→)
居宅掘立柱建物 5 区377柱穴 P 6 断面(S→)
居宅掘立柱建物 5 区377柱穴 P 9 断面(E→)
- P L 28 居宅掘立柱建物 5 区387全景(S→)
居宅掘立柱建物 5 区387全景(S→)
居宅掘立柱建物 5 区387掘方全景(S→)
居宅掘立柱建物 5 区387柱穴 P 7 断面(N→)
居宅掘立柱建物 5 区387柱穴 P 12 断面(S→)
- P L 29 居宅掘立柱建物 5 区168全景(W→)
居宅掘立柱建物 5 区168掘方全景(W→)
居宅掘立柱建物 5 区168柱穴 P 1 断面(S→)
居宅掘立柱建物 5 区168柱穴 P 6 (N→)
居宅掘立柱建物 5 区168柱穴 P 6 断面(S→)
- P L 30 居宅掘立柱建物 5 区166全景(S→)
居宅掘立柱建物 5 区166全景(S→)
居宅掘立柱建物 5 区166掘方全景(S→)
居宅掘立柱建物 5 区166柱穴 P 2 断面(S→)
居宅掘立柱建物 5 区166柱穴 P 9 断面(S→)
- P L 31 居宅掘立柱建物 5 区171全景(S→)
居宅掘立柱建物 5 区171全景(S→)
居宅掘立柱建物 5 区171柱穴 P 1 断面(S→)
居宅掘立柱建物 5 区171柱穴 P 9 (S→)
居宅掘立柱建物 5 区171柱穴 P 9 断面(S→)
- P L 32 居宅掘立柱建物 5 区170全景(W→)
居宅掘立柱建物 5 区170柱穴 P 1 (W→)
居宅掘立柱建物 5 区170柱穴 P 2 断面(W→)
居宅掘立柱建物 5 区170柱穴 P 3 (S→)
居宅掘立柱建物 5 区170柱穴 P 3 断面(N→)
- P L 33 居宅井戸 5 区180全景(N→)
居宅井戸 5 区180全景(W→)
居宅井戸 5 区180検出状態(S→)
居宅井戸 5 区180と排水溝 5 区164(S→)
居宅井戸 5 区180内部(N→)
居宅井戸 5 区180掘方全景(N→)
居宅井戸 5 区181全景(N→)
居宅井戸 5 区181掘方全景(N→)
- P L 34 住居 4 区160全景(W→)
住居 4 区160断面(S→)
住居 5 区49全景(W→)
住居 5 区49断面(W→)
住居 5 区49貯蔵穴(W→)
住居 5 区49カマド(W→)
- 住居 5 区49カマド断面(W→)
住居 5 区49掘方(W→)
- P L 35 住居 5 区51全景(W→)
住居 5 区51床面状態(W→)
住居 5 区51断面(S→)
住居 5 区51カマド(W→)
住居 5 区51カマド断面(S→)
住居 5 区51カマド前土坑(W→)
住居 5 区51掘方(W→)
住居 5 区51床下土坑(W→)
- P L 36 住居 5 区52全景(W→)
住居 5 区52貯蔵穴(W→)
住居 5 区52カマド(W→)
住居 5 区52掘方(W→)
住居 5 区53全景(W→)
住居 5 区53カマド(W→)
住居 5 区53カマド断面(S→)
住居 5 区53掘方(W→)
- P L 37 住居 5 区58全景(W→)
住居 5 区58断面(W→)
住居 5 区58カマド(W→)
住居 5 区58掘方(W→)
住居 5 区61全景(S→)
住居 5 区61断面(S→)
住居 5 区61柱穴断面(E→)
住居 5 区61カマド(S→)
- P L 38 住居 5 区260・261全景(W→)
住居 5 区260断面(W→)
住居 5 区260遺物出土状態(W→)
住居 5 区260カマド(W→)
住居 5 区260カマド断面(S→)
住居 5 区260カマド掘方(S→)
住居 5 区261カマド(W→)
住居 5 区260・261掘方、住居 5 区418全景(W→)
- P L 39 掘立柱建物 5 区167全景(S→)
掘立柱建物 5 区167柱穴 P 2 断面(S→)
掘立柱建物 5 区167柱穴 P 5 断面(S→)
掘立柱建物 5 区167 柱穴 P 7 断面(S→)
井戸 4 区219全景(E→)
井戸 4 区219断面(S→)
井戸 4 区219遺物出土状態(N→)
井戸 4 区224全景(N→)
- P L 40 土坑 4 区145全景(N→)
土坑 4 区145断面(S→)
土坑 4 区150全景(S→)
土坑 4 区150断面(S→)
土坑 4 区152全景(W→)
土坑 4 区152断面(S→)
土坑 4 区159全景(E→)
土坑 4 区159断面(E→)
- P L 41 土坑 5 区54全景(E→)
土坑 5 区54断面(E→)
土坑 5 区65全景(E→)
土坑 5 区70全景(N→)
土坑 5 区70断面(S→)
土坑 5 区71全景(N→)
土坑 5 区74全景(W→)
土坑 5 区74 断面(E→)
- P L 42 土坑 5 区114断面(W→)
土坑 5 区202断面(N→)
土坑 5 区271断面(S→)

- 土坑 5 区441全景(S→)
土坑 5 区442全景(N→)
土坑 5 区443断面(N→)
土坑 5 区445断面(S→)
土坑 5 区446断面(S→)
- P L 43 溝 5 区48全景(S→)
溝 5 区48遺物出土状態(S→)
溝 5 区48遺物出土状態
溝 5 区48遺物出土状態
溝 5 区438全景(N→)
溝 6 区05・06・08全景(E→)
溝 6 区05断面(E→)
- P L 44 縄文時代
敷石住居 2 区36出土遺物
掘立柱建物 2 区72出土遺物
配石 2 区23出土遺物
- P L 45 遺物集中 2 区40出土遺物
埋甕 2 区51出土遺物
埋甕 4 区228出土遺物
埋甕 5 区464出土遺物
埋甕 5 区563出土遺物
土坑 2 区112出土遺物
土坑 4 区186出土遺物
- P L 46 土坑 4 区222出土遺物
土坑 4 区231出土遺物
土坑 4 区251出土遺物
土坑 4 区264出土遺物
土坑 5 区559出土遺物
土坑 5 区486出土遺物
土坑 5 区519出土遺物
2 区遺構外出土遺物(1)
- P L 47 2 区遺構外出土遺物(2)
- P L 48 2 区遺構外出土遺物(3)
- P L 49 2 区遺構外出土遺物(4)
4 区遺構外出土遺物(1)
- P L 50 4 区遺構外出土遺物(2)
- P L 51 4 区遺構外出土遺物(3)
5 区遺構外出土遺物(1)
- P L 52 5 区遺構外出土遺物(2)
- P L 53 5 区遺構外出土遺物(3)
- P L 54 5 区遺構外出土遺物(4)
6 区遺構外出土遺物
- P L 55 弥生時代
住居 4 区167出土遺物
住居 4 区215出土遺物
壺棺 4 区180出土遺物
土坑 4 区307出土遺物
土坑 4 区211出土遺物
4 区遺構外出土遺物
5 区遺構外出土遺物
- P L 56 古墳時代
住居 5 区457出土遺物
住居 4 区226出土遺物
古墳 4 区105出土遺物
畠 4 区111出土遺物
畠 6 区E01出土遺物
4 区遺構外出土遺物(1)
- P L 57 4 区遺構外出土遺物(2)
5 区遺構外出土遺物
- P L 57 奈良・平安時代
居宅区画溝 4 区03出土遺物
居宅掘立柱建物 5 区169出土遺物
居宅掘立柱建物 5 区377出土遺物
居宅掘立柱建物 5 区168出土遺物
居宅掘立柱建物 5 区171出土遺物
居宅掘立柱建物 5 区170出土遺物
居宅溝 5 区164出土遺物
- P L 58 居宅井戸 5 区181出土遺物
居宅井戸 5 区180出土遺物
居宅廃棄 5 区60出土遺物(1)
- P L 59 居宅廃棄 5 区60出土遺物(2)
- P L 60 居宅廃棄 5 区60出土遺物(3)
- P L 61 居宅廃棄 5 区60出土遺物(4)
- P L 62 居宅廃棄 5 区60出土遺物(5)
居宅廃棄 5 区436出土遺物
- P L 63 住居 5 区49出土遺物
住居 5 区51出土遺物
住居 5 区52出土遺物
住居 5 区53出土遺物
住居 5 区58出土遺物
住居 5 区61出土遺物
- P L 64 住居 5 区63出土遺物
住居 5 区260出土遺物
住居 5 区418出土遺物
井戸 4 区219出土遺物
土坑 4 区132出土遺物
土坑 5 区54出土遺物
土坑 5 区65出土遺物
土坑 5 区74出土遺物
土坑 5 区134出土遺物
土坑 5 区155出土遺物
- P L 65 土坑 5 区161出土遺物
土坑 5 区246出土遺物
土坑 5 区311出土遺物
土坑 5 区342出土遺物
土坑 5 区344出土遺物
土坑 5 区369出土遺物
土坑 5 区445出土遺物
溝 4 区114出土遺物
溝 5 区48出土遺物(1)
- P L 66 溝 5 区48出土遺物(2)
溝 5 区232出土遺物
溝 5 区421出土遺物
溝 5 区437出土遺物
溝 5 区438出土遺物
溝 5 区444出土遺物
- P L 67 4 区遺構外出土遺物
5 区遺構外出土遺物(1)
- P L 68 5 区遺構外出土遺物(2)
- P L 69 5 区遺構外出土遺物(3)
6 区遺構外出土遺物
- P L 70 樹種同定(1)
- P L 71 樹種同定(2)



1 図 遺跡位置図 (1/200,000)

I 調査の経過

1. 調査に至る経緯

(主)地方道高崎渋川線は高崎市から群馬郡群馬町、前橋市、北群馬郡吉岡町を通り渋川市を結ぶ県中央部における南北方向の基幹的地方道である。近年の交通量の増加はこの地域でも例外ではなく主要道との交差点を中心に慢性的な渋滞を発生させる結果を招いているため新たにバイパスを建設する計画が持ち上がった。バイパスは第1期工事分として高崎市問屋町の国道17号大八木町交差点から前橋市青梨子町の現高崎渋川線金古上宿交差点までの8km間について建設を実施することになった。

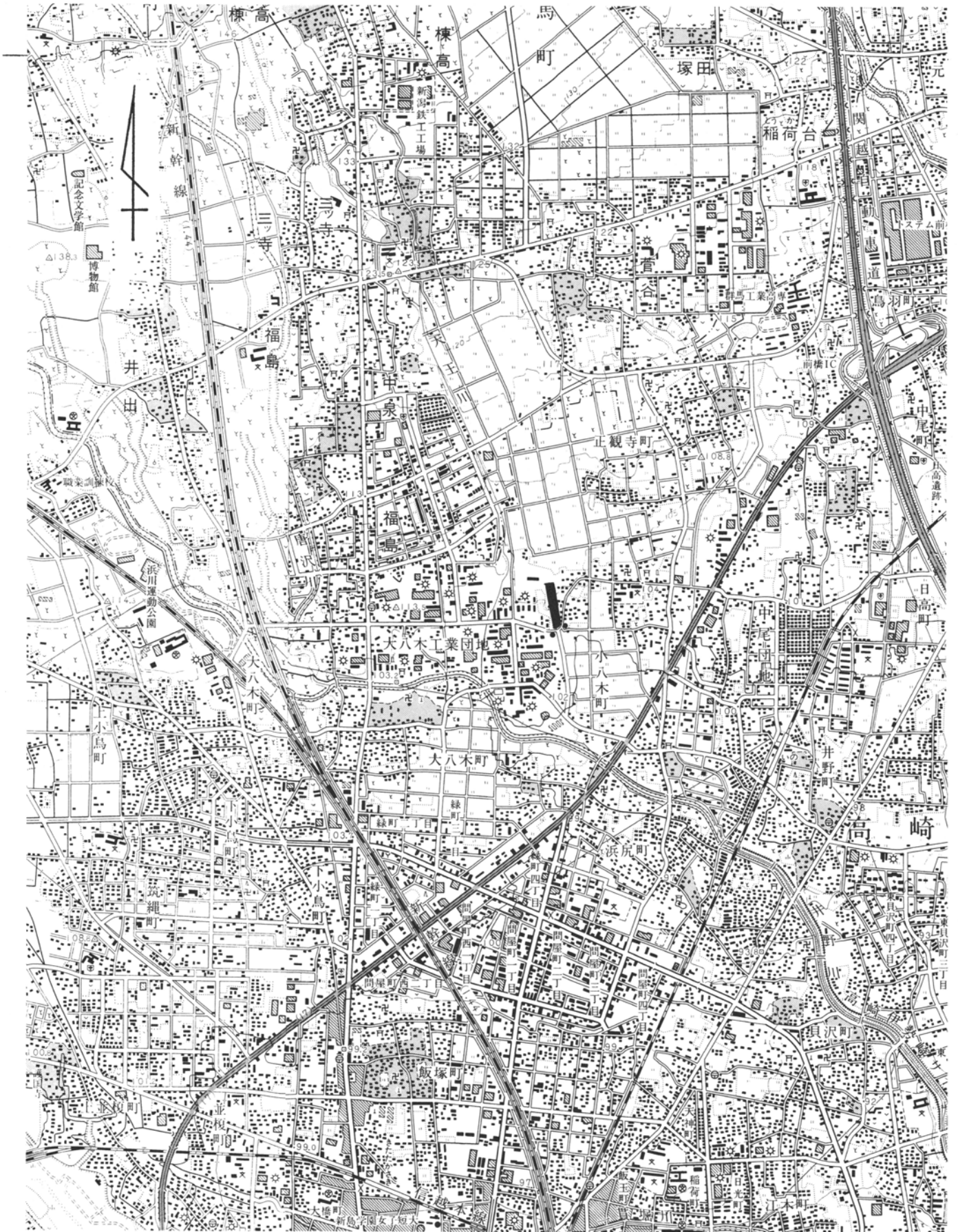
道路建設に先立ち県教育委員会文化財保護課が埋蔵文化財の有無について協議を行ったところ高崎市浜尻町、小八木町、正観寺町、群馬町菅谷・棟高・引間・冷水・西国分・金古、前橋市青梨子町で埋蔵文化財の調査を行う必要が認められたため当初は群馬町教育委員会で発掘調査を実施した。その後平成6年以降は(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団で発掘調査を実施することになった。

埋蔵文化財の調査は昭和63年度群馬郡群馬町棟高西三免社遺跡より実施され平成12年度に群馬町菅谷石塚遺跡が行われ高崎市浜尻町地区を除いて終了した。今まで行われた(主)地方道高崎渋川線改築(改良)工事に伴う埋蔵文化財の調査は下記のとおりである。

1表 調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	調査主体	調査期間(年度)	報告書
小八木井野川遺跡	高崎市小八木町	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成10～11年度	2001
小八木志志貝戸遺跡	高崎市小八木町	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	次項目参照	1999 2001 2002
正観寺西原遺跡	高崎市正観寺町	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成9～10年度	1999 2001
菅谷石塚遺跡	群馬町菅谷	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成12年度	2003
西三免社遺跡	群馬町棟高	群馬町教育委員会	昭和63年度	1990
小池遺跡	群馬町引間	群馬町教育委員会	平成2年度	1992
諏訪西遺跡	群馬町引間	群馬町教育委員会	平成5年度	1995
冷水村東遺跡	群馬町冷水	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成6年度	1998
西国分新田遺跡	群馬町西国分	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成6年度	1998
金古十三町遺跡	群馬町金古 前橋市青梨子町	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成7～9年度	1998
青梨子上屋敷遺跡	群馬町金古 前橋市青梨子町	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成12年度	2002

※菅谷石塚遺跡、青梨子上屋敷遺跡の報告書刊行年は2002年度に整理作業を行う予定のあることから不確定の部分がある。



2 遺跡調査区位置図 (S=1/25,000)

2. 調査の経過

小八木志志貝戸遺跡は、高崎市の北東部群馬町境に近い小八木町に位置する。発掘調査は、道路建設用地のセンター杭NO.49～75までの幅20m前後で全長700m、面積15,000㎡ほどが対象であった。調査対象が道路予定地であることから南北方向に線状で細長いため路線を横断する形で存在する現道で調査区を設定して行った。なお、6区は現道で調査区が3分割されるが調査面積が1,282㎡と狭いことから一括して設定したが現道ごとに6区C、6区E、6区Wとした。調査は1997年(平成9年)6月11日～1999年(平成11年)12月22日までの間で実施した。調査は、平成9年度当初に調査対象範囲であった道路センター60～95までの間で調査可能であった北端の菅谷石塚遺跡1区、正観寺西原遺跡から行い平成9年6月より小八木志志貝戸遺跡1区より行った。各区の調査期間は下記の表のとおりである。0区は1997年度と1999年度と長期の間隔があいているのは一部で用地買収が遅れたことによる。1998年11月から1999年3月までの間は北関東自動車道建設を優先するため県道に伴う発掘調査を一時中止して北関東自動車道建設に伴う発掘調査を行ったことによる。

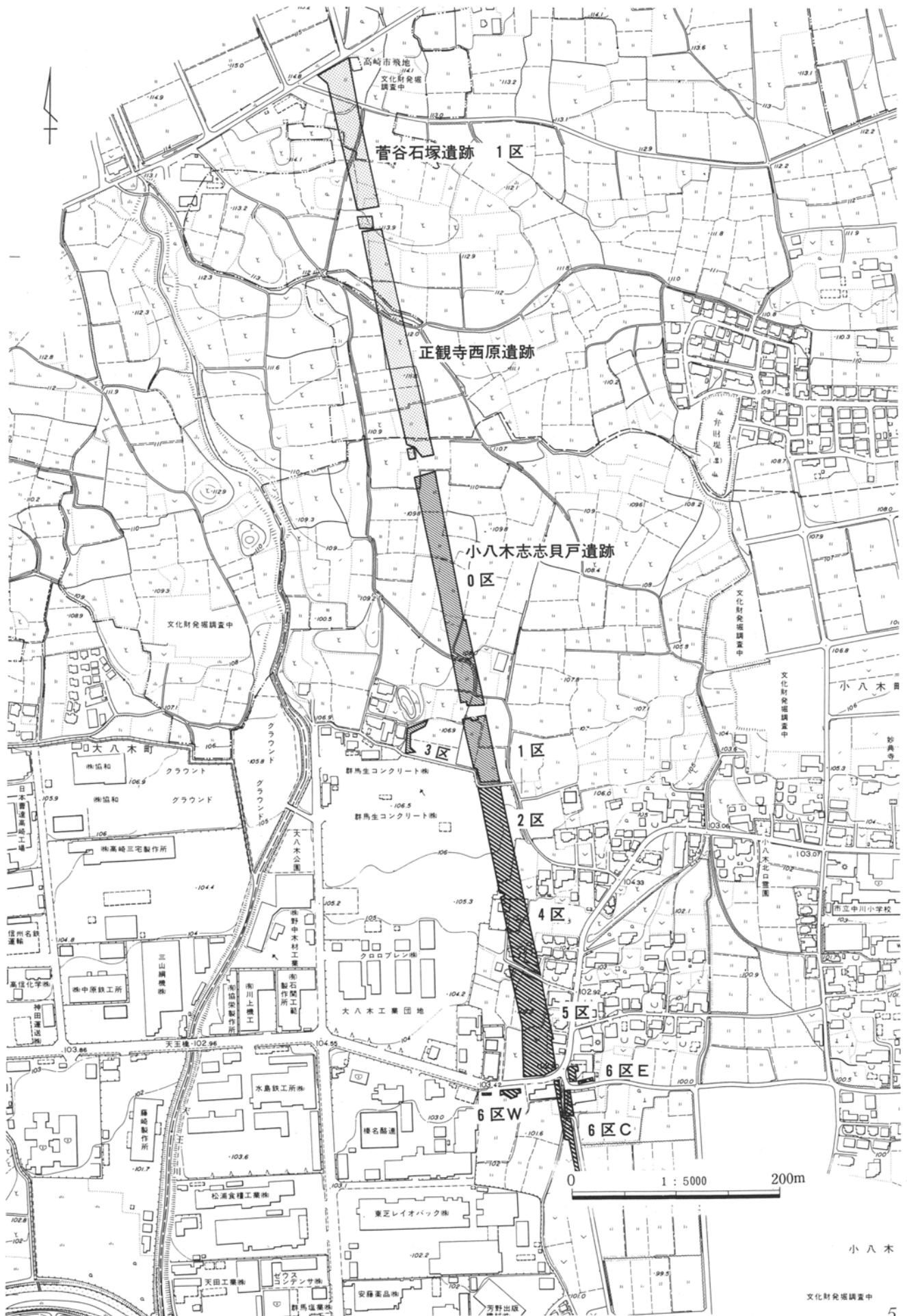
本報告書の主対象である4区、5区、6区E・Wは1999年4月より小八木井野川遺跡と平行して調査を行い同年12月末にて終了した。

整理作業は、1998年度(平成10年度)より実施した。1998年度は「小八木志志貝戸遺跡遺跡群」として菅谷石塚遺跡1区、正観寺西原遺跡、小八木志志貝戸遺跡0区～3区の弥生時代について整理を実施した。1999年度(平成11年度)は1998年度の整理した範囲の古墳時代以降と小八木志志貝戸遺跡6区中世について整理を実施した。2000年度は小八木志志貝戸遺跡4区・5区の中世、小八木井野川遺跡について整理を実施した。それぞれの整理については当該年度または次年度に報告書を刊行した。

調査区別調査期間

年 度 月	1997年度					1998年度					1999年度										
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
0区																					
1区																					
2区																					
3区																					
4区1面																					
4区2面																					
4区3面																					
5区1面																					
5区2面																					
5区3面																					
6区C																					
6区W																					
6区E																					

1面 中世以降、2面 古代(古墳時代後期～奈良・平安時代)、3面 古墳時代中期以前



3 図 小八木志志貝戸遺跡調査区図

II 調査の方法

1. 調査の方法

発掘調査は、中世遺構を検出可能である第1面の基本土層IV層上面まで重機(大型掘削機)で基本土層I、II層の掘削を行った。遺跡地は住宅地や工場用地として利用されていたためVI層やVII層まで削平されている箇所や攪乱されている箇所が数カ所見られた。そのような箇所については基本土層が確認できる地点までの掘削を行った。その後IV層上面を精査し遺構の検出を行う。中世遺構はII層、II層を含むIV層以下の土で埋没している遺構であることから該当する遺構をまず検出した。検出した遺構については遺構配置図を作成し遺構の新旧関係を確認した。

遺構番号については調査時は遺構種類を考慮しないで区毎に01から掘削順に付与を行った。本報告書では使用の便宜を考慮して遺構NO.だけでなく遺構種を通番の前に記した。なお、目次に遺構毎の本文・挿図・図版検索のための一覧表を掲載した。

竪穴住居や土坑などは2分割ないしは4分割、溝などは1～3カ所の埋没状態を観察する地点を設定後、遺構内部の掘削を行った。なお、遺跡地の隣接地域は住宅・工業団地であるが周辺は以前から水田地帯で調査区東側では現在でも水田耕作が行われており6月後半以降は地下水位が上昇し遺構掘削に支障を生じるため調査区の標高高位である北側および西側について湧水対策溝を設置して湧水対策、排水処理を行った。

出土した遺物についてはその遺構に伴うと考えられる程度の大きさが残存する物については出土状態の記録を残すため原位置に留めておいた。その他の遺物については一括して取り上げた。また、遺構に所属しない遺物については可能な限り調査区的最小単位である層位、グリッド単位で取り上げた。

調査区の設定は原則的に測量会社に委託したが、必要に応じて調査担当者が設置した。各遺構図は、土坑、土坑墓などは五輪塔や人骨が出土しているも

のについては1/10で溝などの大型遺構は1/20または1/40平面・断面図を作成した。全体図は遺構全体を区割りして1/40で作成した。記録写真は35ミリ、6×7版フィルムを利用して撮影した。土層断面は35ミリ白黒、リバーサルを遺物出土状態・掘り上がり後の状態は35ミリ白黒、リバーサルと6×7白黒を基本とした。また、4区と5区についてはアドバルーンによる上空からの全体を撮影した。

第2面はVI層上面で遺構を検出することが可能である。また、VI層の上位にはV層Hr-F Aが部分的に存在しておりV層が残存している箇所ではV層上面までを重機で掘削し、遺構検出のための精査を行った。この面での遺構の埋没土はIV層かIV層とその下層の土壌で埋没している。5区では10棟の掘立柱建物を検出したが掘立柱建物の柱穴では柱穴をさらに精査し柱痕の検出に努めた。記録の方法については第1面と同様である。

この面で検出した掘立柱建物群と区画溝、井戸は全体で豪族居宅的な施設を構成しておりこの地域でも貴重な文化財であることから広く地域住民に認知してもらう目的で見学会を実施した。

第3面はVIII層上面で遺構を検出することが可能である。この面では竪穴住居、敷石住居などが検出された。記録の方法は第1面、第2面と同様である。

第3面の調査が終了した後その下層について文化層が存在するか、否かについて試掘坑を設定して掘り下げを行った。試掘坑は調査区の10%以上を原則とし、10m四方ごとを単位として設定した。掘削はVIII層上面まで行いその面で精査を行い遺構の有無、遺物の有無を行った。その結果、遺構・遺物とも皆無であったことから試掘坑の一部をさらに掘削して下層の土層堆積状態について確認を行った。

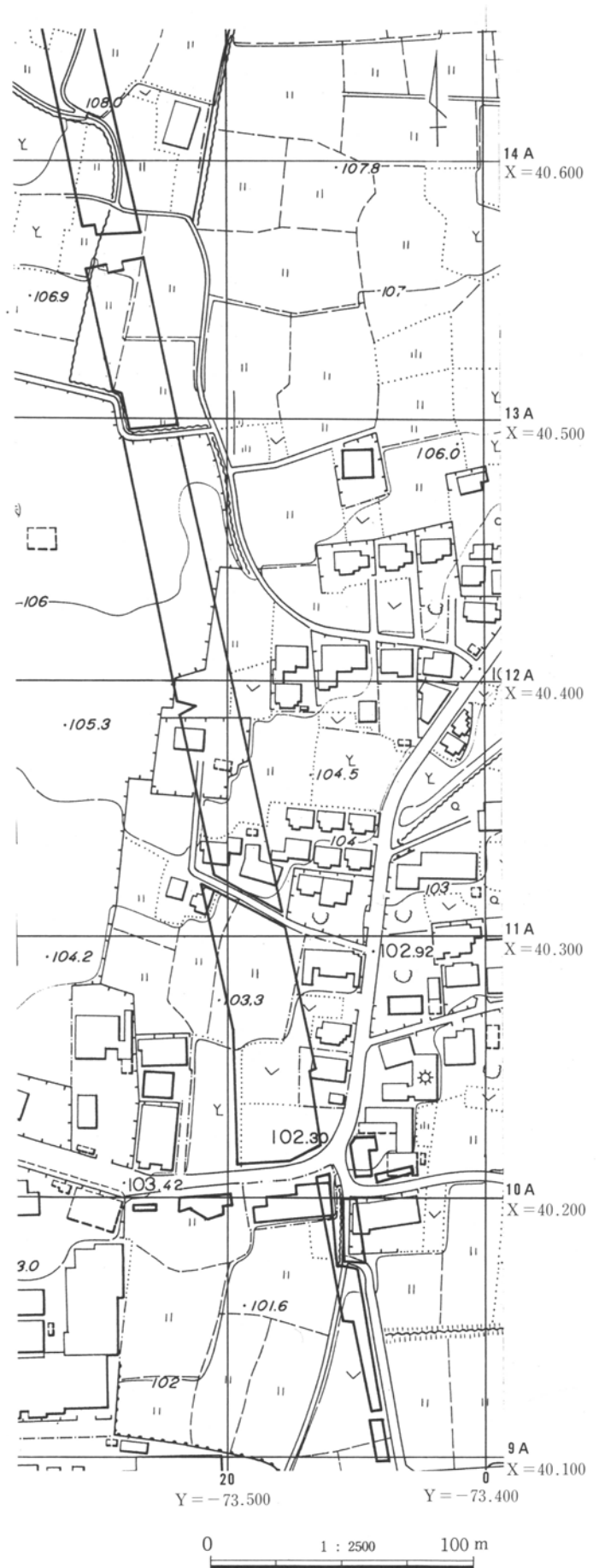
出土した遺物、および写真・記録図などは調査終了後洗浄・注記、整理を行うよう努めたが同事業に伴う発掘調査を優先したため2000年度後半になって終了した。

2. 調査区の設定

調査区の設定にあたっては周辺や隣接地の調査と遺構を照合しやすいように国家座標を基準に設定した。遺跡が存在する群馬県は国家座標第IX系にあたることから調査区の設定にあたっては調査区グリッドを国家座標値に換算しやすいように遺跡調査範囲の東南を基点に設定することにした。

基点は国家座標値 $X = 39.300$ 、 $Y = -73.400$ に設定した。各グリッドは 5m 四方を 1 単位とした。グリッドは北方向へはアルファベットを用い、西方向へは算数字を 1 から無限大まで用いた。また、北方向のアルファベットは A から T までで 100 のため 100m 北に移動したところでも A に戻ることとし 100m ごとにアルファベットの前に算数字を付けて各グリッドの認知を明確にした。

なお、調査区の区割りは現存する道路および路線の買収状況を考慮して設定したが、小八木志志貝戸遺跡では調査が北側から開始したため他の高崎渋川バイパスの発掘調査と異なり北から南へ調査区割りを設定する結果となっている。



4 図 調査区設定図

3. 基本的な土層

遺跡地内での基本的な層序は微高地、低地において堆積状態に多少の差がみられる。しかし、基本的にはほぼ同様な状態である。その違いは微高地ではわずかしか堆積していなかったりほとんど攪拌され上位の層位に混入してしまっているテフラ層が低地ではある程度の堆積で残存している点である。

層序は上位よりⅠ層、Ⅱ層とし、発掘調査では基本的にⅧ層までを対象として実施している。

各層位については次のとおりである。

Ⅰ層は現在の耕作土で浅間B軽石(以後As-Bと略す)が含まれているためか比較的サラサラした感触がある。

Ⅱ層はAs-Bが降下後の耕作によって多量に鋤き込まれている。

Ⅲ層は1108年(天仁元年)に浅間山が噴火した時の噴出物であるAs-Bの堆積層である。低地などでは軽石上位に灰褐色の火山灰が残存している地点が見られる。微高地では後世の耕作等によりⅡ層化している。

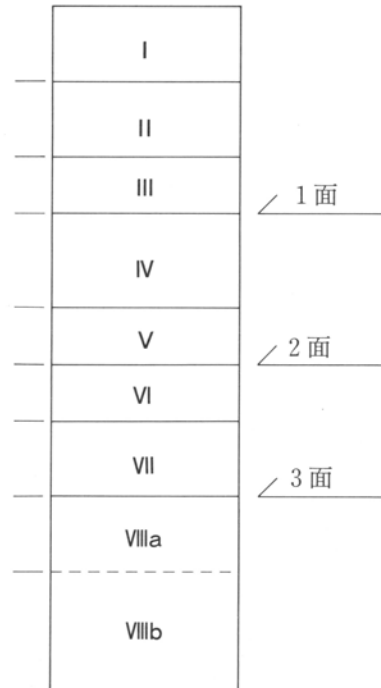
Ⅳ層は6世紀初頭に榛名二ツ岳が噴火した時の噴出物である榛名二ツ岳火山灰(以後Hr-F Aと略す)が鋤き込まれているためか灰色を帯びた土壌である。また内部には直径5ミリ前後の白色軽石が若干含まれている。この白色軽石は6世紀前半代に榛名二ツ岳が噴火した時の噴出物である榛名二ツ岳軽石(以後Hr-F Pと略す)である。

Ⅴ層はHr-F Aの堆積層であるが微高地ではほとんど後の耕作でⅣ層に鋤き込まれているため残存していない。

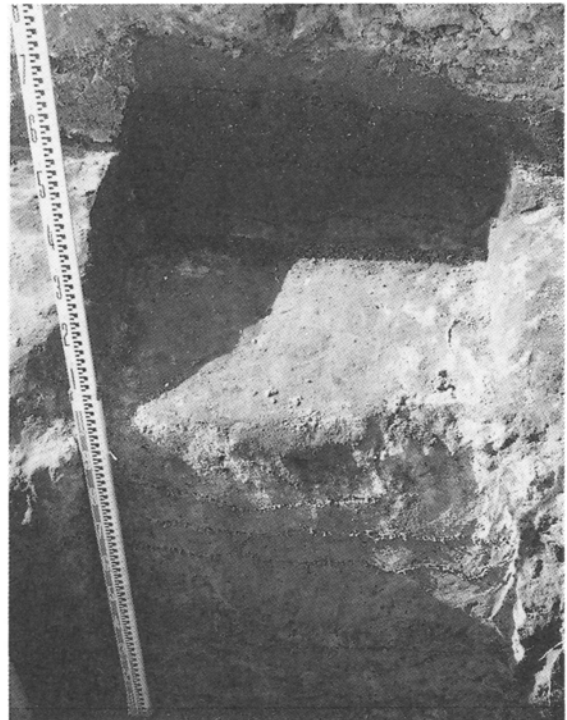
Ⅵ層は4世紀初頭に浅間山が噴火したときの噴出物である浅間C軽石(以後As-Cと略す)を多く含む黒色土である。この層に含まれるAs-Cは低地など耕作などで攪拌されていない地点では層下位に多く堆積したままの状態を確認される。

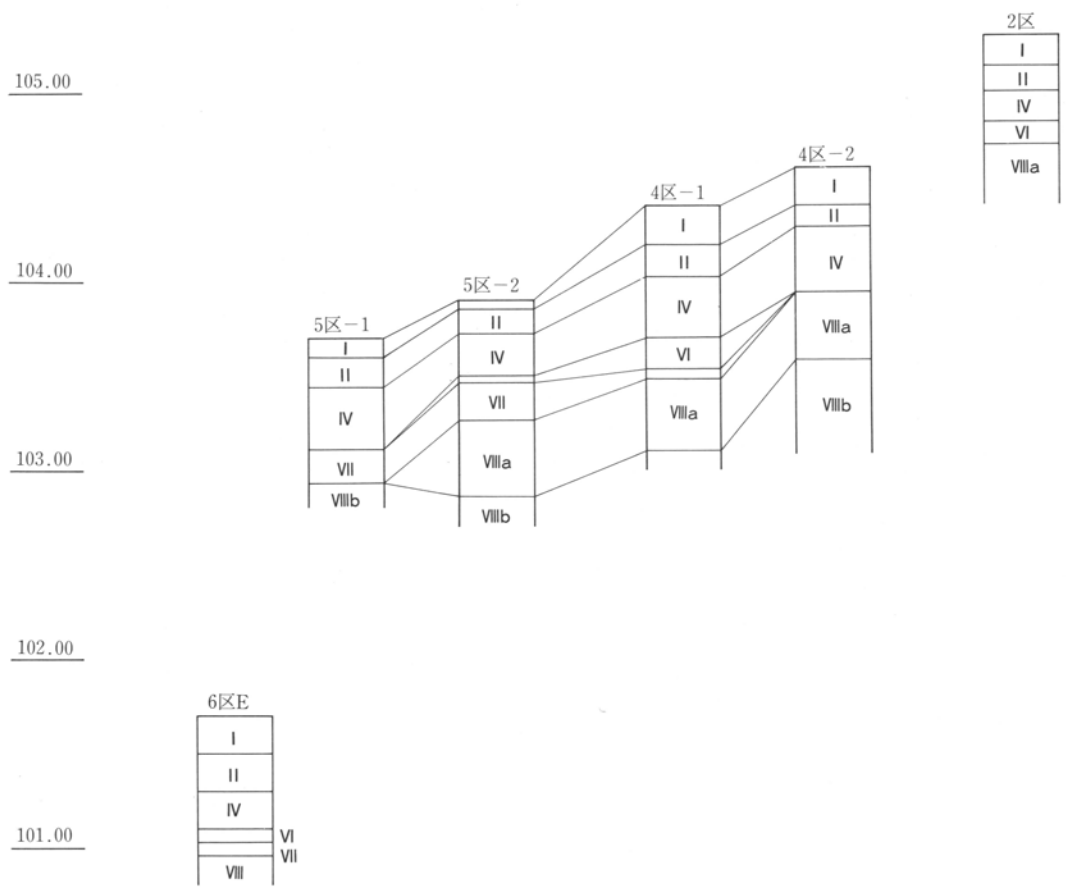
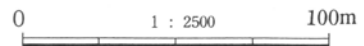
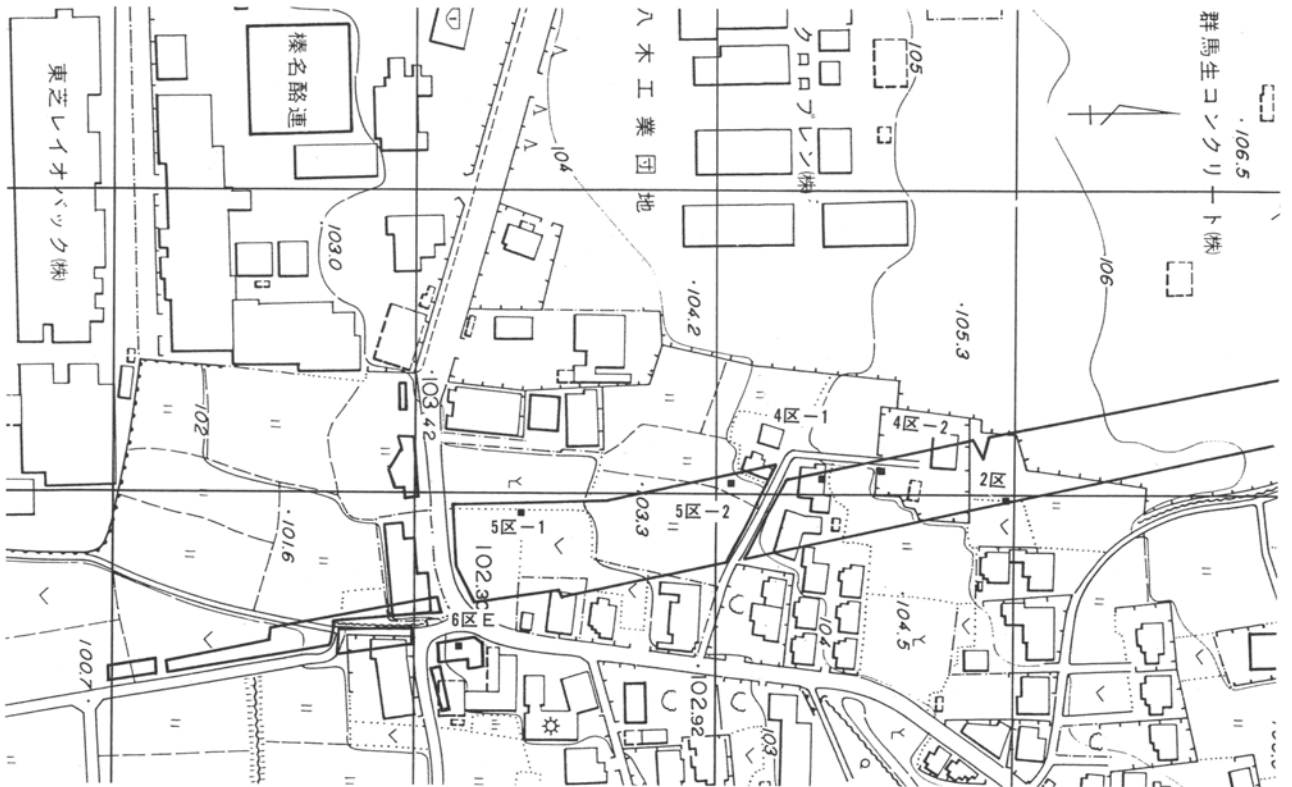
Ⅶ層はやや粘土質の黒色土である。内部には含有物はほとんど含まれていない。また、下位は上位に

比べて色調が淡い地点が多い。Ⅷ層は2区・4区の微高地では上部にローム層が存在する。5区・6区洪水堆積土である総社砂層である。



5図 基本土層概略図





6 図 調査区土層柱状図

III 遺跡地の環境

1. 地理的環境

遺跡地は、群馬県の中央部でも南に位置する高崎市に所在し、高崎市の中でも前橋市や群馬郡群馬町に近い北東部の小八木町に所在する。遺跡地は関東平野の西北端部、赤城山、妙義山と上毛三山の一つである榛名山の東南麓の末端、井野川の支流天王川の右岸で井野川と合流する地点の北側に位置する。標高は100~110mである。

榛名山東南麓は、その地形を見ると扇状地が発達していることが解る。この扇状地は相馬ヶ原扇状地と呼ばれている。この相馬ヶ原扇状地は火山山麓に形成された裾野扇状地で形成に関わった河川は榛名火山体に源流を発する白川と午王頭川である。相馬ヶ原扇状地の範囲は明確ではないが次のような範囲が示されている。

扇頂は標高600m付近の白川と午王頭川で挟まれた榛東村上野原の山麓付近である。

扇端は標高110m等高線。この付近は高崎市日高遺跡で見られるような微高地をはじめとする自然堤防状微高地が張り出しておりこの微高地を連ねた標高110m付近である。

扇側は南限が白川上流部から井野川のラインで井野川の右岸は白川扇状地である。北限は午王頭川から駒寄川のラインである。駒寄川の東側は前橋台地である。相馬ヶ原扇状地の形成は比較的短時間でほぼ終了し板鼻黄色軽石降下時(1.3~1.4万年前)にはすでに大部分が離水していたとされている。扇状地内には多くの河川により浸食され扇状地面と河床面では4~5mの比高差をもつ。そうした河川の一つに小八木志志貝戸遺跡西側を流れる井野川がある。井野川の支流である天王川も河川の規模のわりには比高差がある。遺跡地東側は染谷川まで浸食の進んだ河川が存在していないが小八木志志貝戸遺跡の北側に位置する菅谷石塚遺跡の調査により洪水により埋没した河川が複数検出されている。こうした埋没河

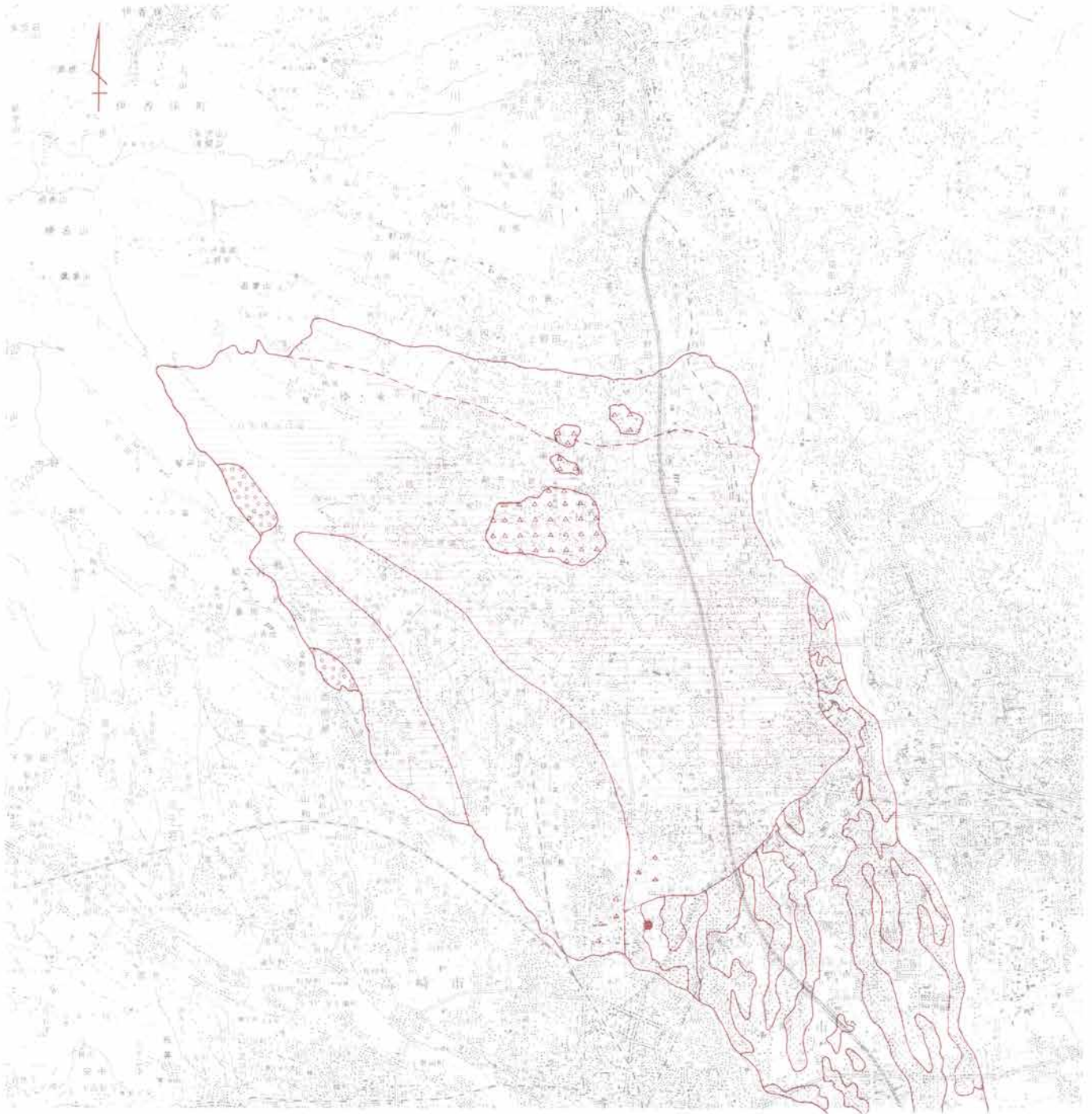
川は榛名二ツ岳火山灰(Hr-F A)降下時期のものや平安時代と推定されるものがあることから本来は扇状地内で見られるような浸食の進んだ河川が複数存在していたと推定される。

相馬ヶ原扇状地の形成後に扇状地から前橋台地にかけて存在していた谷を洪水堆積物が埋戻し始めている。この洪水堆積物は概ね灰色砂層で「総社砂層」と呼ばれているものである。この砂層は板鼻黄色軽石と浅間C軽石との間で確認され、砂層の上位では縄文時代後期の称名寺式土器が出土している。こうしたことからこの砂層の形成は縄文早期頃から始まり前期から中期には部分的に自然堤防が形成されるようになり、縄文前期から後期までその形成が続いたとされている。

総社砂層の上位は基本土層で見られるように4世紀代の浅間C軽石(As-C)、6世紀初頭の榛名二ツ岳火山灰(Hr-F A)、6世紀前半代の榛名二ツ岳軽石(Hr-F P)、1108年(天仁元年)の浅間B軽石(As-B)などが見られる。遺跡地は微高地に存在するため火山堆積物は後の耕作など(古墳時代から現代まで)で攪拌され純層は確認されなかった。周囲に低地部分では浅間C軽石(As-C)、榛名二ツ岳火山灰(Hr-F A)、浅間B軽石(As-B)の純層が確認されている。こうした低地では水田開発が行われていることからこうした水田跡が火山堆積物で覆われた状態で検出されている。

参考文献

- 早田 勉「第1章 群馬県の自然と風土」『群馬県史 通史編1 原始古代1』群馬県史編さん委員会 1990
- 沢口 宏「第1章 地形・地質」『群馬町誌 資料編4 自然』群馬町誌編纂委員会 1995



- 陣馬泥流丘
- 相馬ヶ原古期扇状地面
- 相馬ヶ原新期扇状地面
- 二ッ岳第二軽石流堆積物
- 自然堤防および微高地
- 後背低地

0 1:100000 5km

7 図 遺跡周辺地形様相図

2. 歴史的環境

本報告書は、縄文時代～平安時代までの遺構・遺物を掲載の対象としていることから本項での取り扱い対象も同時代とする。なお、中世以降については「小八木志志貝戸遺跡群3 中世編」を参照していただきたい。

小八木志志貝戸遺跡周辺は、群馬県を中心都市である高崎市と前橋市の間に位置することから近年盛んに開発が行われ、開発に伴う発掘調査も多く行われている。こうした発掘調査の成果は多くの報告書によって公表され、高崎市や群馬町では発掘調査の成果をもとに市史、町誌が編集・刊行され地域史の解明を行っている。本項ではこれらの資料をもとに周辺の遺跡について時代ごとに記載する。

縄文時代 遺跡地周辺地域では前項の地理的環境で記載したように縄文時代前期以前は度重なる洪水により居住するには不向きな環境であったため遺構・遺物の検出・出土は確認されていない。この地域の縄文時代の遺跡は、他の時代に比べると数少ない。そしてなかでもっとも古い時期の遺跡は西浦北II遺跡で検出された前期の竪穴住居が1軒、上野国分僧寺・尼寺中間地域で検出された前期諸磯C期の埋甕がある。中期になると自然堤防による微高地が発達し遺構・遺物が検出・出土する遺跡がやや多くなる。遺構がみつまっている遺跡は、西浦北遺跡から柄鏡式住居、権現原遺跡から住居、大八木箱田池遺跡から住居、上野国分僧寺・尼寺中間地域から住居などがある。後期ではまた減少する傾向がみられ福島遺跡や西浦南遺跡で土器片が出土しているだけである。こうした中において小八木志志貝戸遺跡の資料は重要なものである。

弥生時代 遺跡地周辺は水田耕作に適した小谷地が存在していることから集落遺跡が急激に増加している。集落の増加は弥生時代でも後期後半からで中期の集落は東の染谷川流域に位置する西三社免遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、新保遺跡などだけでまだ少ない。また、後期前半の集落は熊野堂遺跡、

浜尻遺跡、新保遺跡などで見つまっているだけで前段階と同様である。この様相は後期後半では一変している。小八木志志貝戸遺跡でも調査区北側の0区から2区にかけて集落、墓域などを検出した。東側に位置する正観寺遺跡群は環濠集落や方形周溝墓が検出され、南側に位置する小八木1遺跡でも集落を検出している。遺跡地西側の井野川左岸に位置する井出村東遺跡、西浦北遺跡、西浦南遺跡、熊野堂遺跡、雨壺遺跡などで多くの住居が検出されている。これらの集落遺跡では数軒単位のまとまりがみられる。こうした傾向は天王川の西側の諸口遺跡でもみることかができることから、この地域では後期後半には広範囲に小規模な集落が多く存在していたようである。

古墳時代 集落は弥生時代以上に増加の傾向が見られる。特に5世紀から6世紀にかけての集落の増加には顕著なものがみられる。こうした遺跡には中林遺跡、井出村東遺跡、三ッ寺II遺跡がある。また、弥生時代から継続する熊野堂遺跡などでもこの時期に住居件数が飛躍的に増加している。こうした背景には三ッ寺I遺跡の豪族居館に代表される豪族層の存在がある。そして2000年には新たに北谷遺跡においても三ッ寺I遺跡と同様の堀をもち堀内側を高く盛り土した豪族居館がみつまっている。この地域はこうした居館の豪族層に支配され農地拡大のために大規模な開発が行われた地域であると考えられる。この豪族層を経済的に支えた水田や畠は周辺地域でみつまっている。水田は古墳時代初頭の浅間山C軽石(As-C)、6世紀初頭の榛名二ツ岳火山灰(Hr-F A)、榛名二ツ岳軽石(Hr-F P)などで埋没したものが御布呂遺跡、芦田貝戸遺跡、大八木屋敷遺跡、熊野堂遺跡、小八木遺跡、菅谷石塚遺跡など多くの遺跡からみつまっている。このほか祭祀遺構には正観寺遺跡で巨石を利用した盤座祭祀跡や井野川遺跡では河川流路内から石製模造品などがまとまって出土しており河川に対する祭祀場の可能性が指摘されている。しかし、三ッ寺I遺跡や北谷遺跡でみられる繁栄も榛名山二ツ岳の二度の噴火やこれに伴う土

石流による生産地の埋没によって経済的基盤を失いその後は同様な繁栄はみられない。

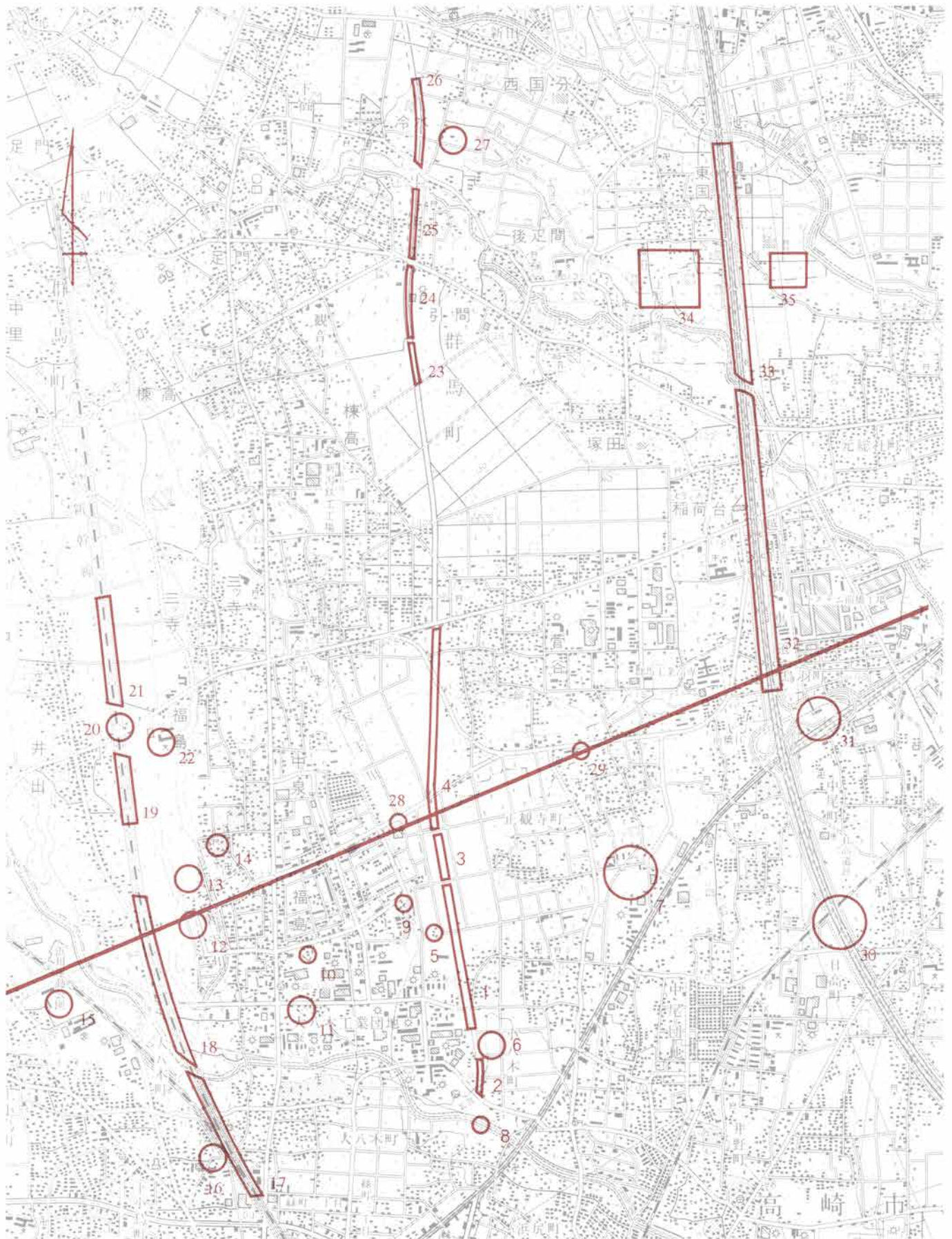
遺跡地周辺の古墳は現在ほとんど開発によって削平されているが石塚古墳、権現塚古墳、オトウカ山古墳、三本山古墳、トミヅカ山古墳などが存在した菅谷古墳群がある。この菅谷古墳群では正観寺遺跡群の発掘調査でも墳丘がすでに削平されている円墳が調査されている。1935年に刊行された「群馬県古墳総覧」では旧中川村所在の古墳は現浜尻町の天王山古墳と小八木町のトミヅカ山古墳が掲載されているだけであるが1957(昭和32年)に刊行された中川村誌では12基の古墳が確認されており実際はこの数以上に存在していたと想定される。このうち三本山古墳と権現塚古墳は発掘調査が行われ直刀、刀子、鉄鏃、銅鏡などが出土している。こうした様相から菅谷古墳群は大部分が後期、終末期の円墳を中心とした古墳群と考えられる。天王川右岸では諸口古墳群がある。諸口古墳群は現在までに円墳3基が確認され発掘調査が行われている。この3基の古墳は1号、3号が埴輪を有し6世紀代と考えられている。また、埴輪棺が1基検出されており、使用されている埴輪は5世紀中葉のものである。

飛鳥・奈良・平安時代 遺跡地は現在の町名が小八木であることなどから律令制による評里制では上毛野国車評八木(郷名の漢字は和名類聚抄による)里に相当すると推定されている。奈良時代には八木郷は推定上野国府や上野国分寺などの古代の中枢施設が存在して地域の西に隣接して位置する。古代八木郷は地名や地形から推定すると旧中川村の範囲とその周囲に郷域の範囲を設定することができる。

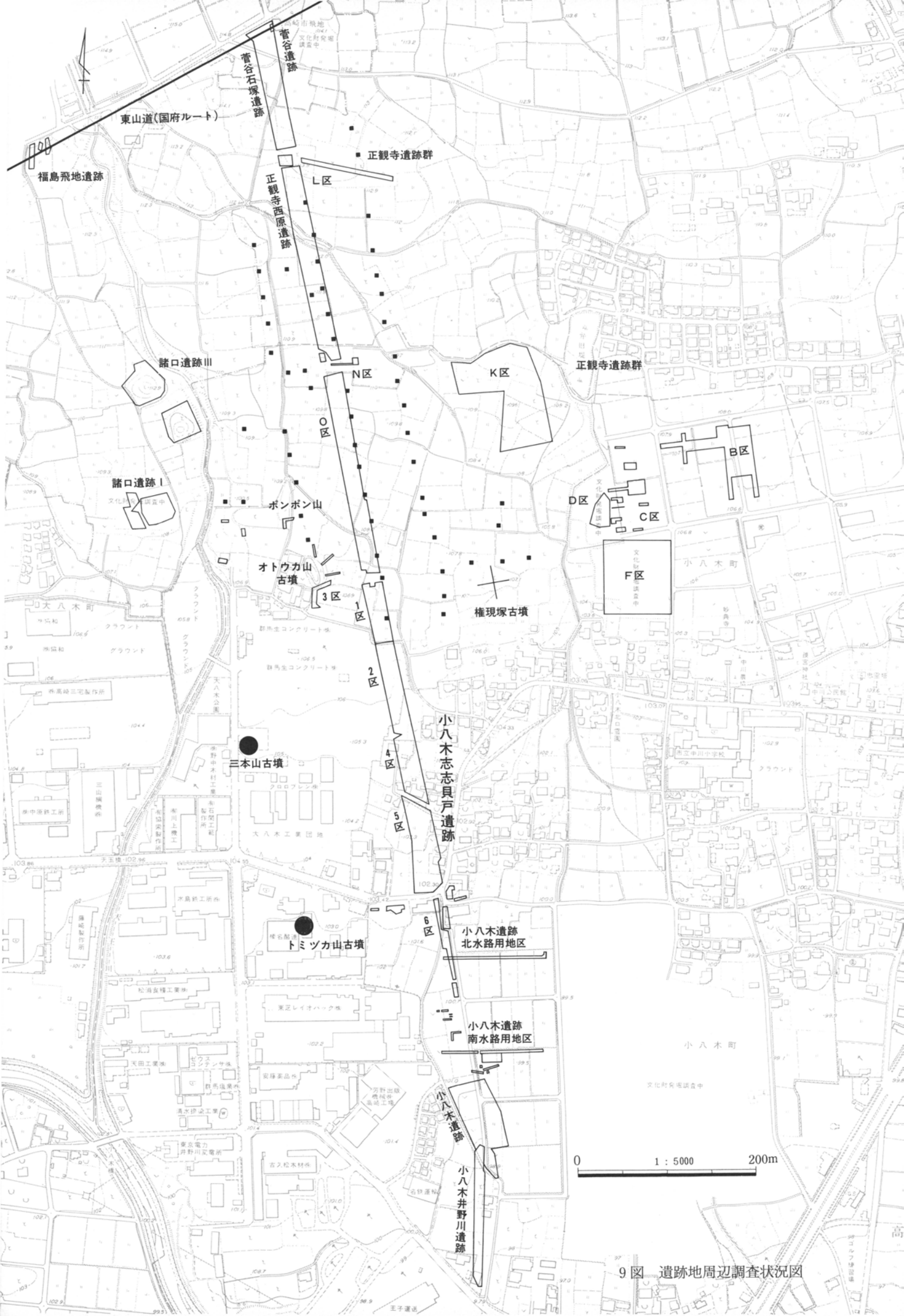
遺跡地近隣では正観寺遺跡群や小八木遺跡などでこの時代の集落が検出されているが竪穴住居が中心で農村的様相を示している。これに対して遺跡地の西、井野川の両岸に位置する大八木屋敷遺跡、融通寺遺跡、熊野堂遺跡では律令制を象徴するような遺構・遺物が検出・出土している。大八木屋敷遺跡では八脚門をもつ柵列と溝で区画された内部に掘立柱建物群が存在する施設がみつき「上野国交代実録

帳」に見られる「八木院」と想定されている。大八木屋敷遺跡の東側に隣接する融通寺遺跡では300軒近い竪穴住居が検出され大規模な集落遺跡である。融通寺遺跡ではその他に瓦、瓦塔、銅鏡、緑釉陶器唾壺が出土しており寺院が存在した可能性が指摘されている。熊野堂遺跡では200軒以上の竪穴住居と金銅製の装飾金具が出土している。こうした三遺跡は井野川を挟んではいるが至近距離にあり古代八木郷の中心的な存在を示している。

また、遺跡地の北側では東山道と想定される古道がみつまっている。この古道は両側に側溝を持ち心々間距離が6m前後の道路遺構である。この道路遺構は同様な規模のものが寺ノ内遺跡、御布呂遺跡、熊野堂I遺跡、西浦南遺跡、福島飛地遺跡、高貝戸遺跡、正観寺菅谷遺跡でみつかり、これらの遺構を地図上に落とすとほぼ一直線上に列ぶことから同一の道路遺構と考えられる。上野での東山道は金坂清則氏によって提唱されたルート(国府ルート)とこれらの遺跡で発見された遺構とが一致することや推定国府の南側を通ることなどの条件からこのルートが東山道であると想定されていた。しかし、高貝戸遺跡では道路側溝と重複して側溝より古い段階の住居が9世紀後半代であることから律令制当初からの東山道としては疑問視されていた。近年の発掘調査の成果では高崎市情報団地遺跡や玉村町砂町遺跡、境町牛堀遺跡、矢ノ原遺跡、十三宝塚遺跡で7世紀から8世紀にかけて心々間距離12m前後の直線的な道路跡が発見されている。こうしたことから坂爪久純氏によって小八木志志貝戸遺跡北側で見つまっている東山道に先行するものと想定されている(牛堀・矢ノ原ルート)。また、牛堀・矢ノ原ルートは十三宝塚遺跡で重複する住居との関係から8世紀末には廃絶されたと考えられている。こうした状況から国府ルートが開設されるまでには半世紀近い間隔があることから新田町下新田遺跡で見つまっている道路跡のような第3のルートが存在する可能性が考えられている。



- 1 小八木志志貝戸 2 小八木井野川 3 正観寺西原 4 菅谷石塚 5 オトウカ山古墳 6 小八木 7 正観寺遺跡群 8 井野川 9 諸口
 10 大八木箱田池 11 雨壺 12 西浦南 13 西浦北 14 権現原 15 芦田貝戸 16 大八木屋敷 17 融通寺 18 熊野堂 19 井出村東 20 三ッ寺 I
 21 三ッ寺 II 22 中林 23 西三社免 24 小池 25 諏訪西 26 冷水村東 27 北谷 28 福島飛地 29 高貝戸 30 日高 31 中尾 32 鳥羽
 33 上野国分僧寺・尼寺中間地域 34 上野国分僧寺 35 上野国分尼寺



9 遺跡地周辺調査状況図

参考文献

- [全般]
高崎市史編さん委員会「新編 高崎市史 資料編2 原始古代II」高崎市 2000
中川村誌編纂委員会「中川村誌」1957
群馬町誌編纂委員会「群馬町誌 資料編 原始古代中世」群馬町誌刊行委員会 1999
群馬町誌編纂委員会「群馬町誌 通史編上 原始古代中世・近世」群馬町誌刊行委員会 2001
- [個々の遺跡]
「小八木志志貝戸遺跡群1 小八木志志貝戸遺跡・正観寺西原遺跡・菅谷石塚遺跡 弥生時代編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999
「小八木志志貝戸遺跡群2 小八木志志貝戸遺跡・正観寺西原遺跡・菅谷石塚遺跡 古墳時代編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001
「小八木志志貝戸遺跡群3 小八木志志貝戸遺跡・小八木井野川遺跡 中世編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001
「菅谷遺跡」群馬町教育委員会 1980
「小八木遺跡調査報告書(I)」高崎市教育委員会 1979
「小八木遺跡(II)」高崎市教育委員会 1980
「正観寺遺跡群(I)」高崎市教育委員会 1979
「正観寺遺跡群(II)」高崎市教育委員会 1980
「正観寺遺跡群(III)」高崎市教育委員会 1981
「正観寺遺跡群(IV)」高崎市教育委員会 1982
「高崎市井野川遺跡」群馬県教育委員会 1970
「諸口古墳」群馬町教育委員会 1984
「諸口III遺跡」群馬町教育委員会 1985
「大八木箱田池遺跡」高崎市教育委員会 1983
「大八木箱田池遺跡II」高崎市教育委員会 1984
「熊野堂遺跡第III地区・雨壺遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
「西浦南遺跡」群馬町教育委員会 1988
「西浦北遺跡」群馬町教育委員会1989
「矢島遺跡・御布呂遺跡」高崎市教育委員会1979
「芦田貝戸II遺跡」高崎市教育委員会 1980
「大八木屋敷遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995
「融通寺遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991
「熊野堂遺跡(1)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
「熊野堂遺跡(2)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990
「井出村東遺跡」群馬町教育委員会 1983
「三ッ寺I遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1981
「三ッ寺II遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991
「中林遺跡」群馬町教育委員会 1983
「西三免社遺跡」群馬町教育委員会 1990
「諏訪西遺跡」群馬町教育委員会 1995
「小池遺跡」群馬町教育委員会 1992
「冷水村東遺跡・西国分新田遺跡・金子十三町遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998
「日高遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982
「中尾遺跡 遺構編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
「中尾遺跡 遺物編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
「鳥羽遺跡」(1)～(6)(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986～1992
「上野国分僧寺・尼寺中間地域」(1)～(8)(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986～1992
「史跡 上野国分寺跡」群馬県教育委員会 1989
「上野国分尼寺跡・上野国分尼寺中間地域」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993
田辺 芳昭「北谷遺跡 群馬町大字冷水・大字引間」『平成13年度調査遺跡発表会要旨』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001
- [東山道関係]
金坂清則「上野国府とその付近の東山道、および群馬、佐位駅について」『歴史地理学紀要』16 歴史地理学会 1974
金坂清則「上野国」『古代日本の交通路II 東山道』大明堂 1987
坂爪久純・小宮俊久「上野国の古代交通路」『古代交通研究』創刊号 1992
坂爪久純「上野国の古代道路」『古代文化』第47巻第4号1995
「推定東山道-群馬町中泉・福島・菅谷地区を中心とする遺構確認調査」群馬町教育委員会 1987

IV 遺構・遺物

1. 概要

小八木志志貝戸遺跡は、すでに「小八木志志貝戸遺跡群1～3」で報告されているように弥生時代から中世に至る複合遺跡である。今回の報告は1～3で報告された地区の南に位置する4区、5区、6区の縄文時代から奈良・平安時代と2区の縄文時代についてである。

発掘調査は第1面が平安時代末1108年以降の中世・近世を中心とした遺構、第2面は古墳時代後期～平安時代後半、6世紀前半代～11世紀代の遺構、第3面は古墳時代中期以前の遺構と層位ごとに調査をおこなった。報告書掲載にあたっては時代ごとの掲載にしたため古墳時代のように層位がまたがるものもある。

縄文時代は、遺構として敷石住居、掘立柱建物、円形柱列、土坑、配石遺構などを検出した。遺構の分布は2区の南半を中心に見られる。4区、5区の調査区では縄文時代から古墳時代中期に相当する遺構を3面目の調査面としてとらえ土坑、小ピット群が多く検出したが明確に縄文時代の遺構と確認できたものは4区では袋状土坑、埋甕を各1基、5区で敷石住居の一部と想定される遺構を1基と埋甕を2基検出しただけである。しかし、遺物は4区、5区のVI層、VII層から多量に出土している。出土した遺物のうち土器は縄文時代中期後半から後期前半にかけてである。これらの縄文土器はすべてが破片でそれも比較的小片が多い、さらに摩滅したものが多くみられる。こうしたことから遺構のまとまりがみられる2区南半に存在する集落で使用されていた土器類が集落の南側に広がる谷地に廃棄されたものと想定される。

弥生時代は、すでに「小八木志志貝戸遺跡群1」で報告されているように1区、2区を中心に住居、土器棺墓、濠などが検出されている。4区以南では遺構は希薄になるが4区では住居2軒、土器棺墓1

基を検出した。しかし、環濠と想定された濠KS01-07についてはその延長が検出されなかったことから環濠としての想定は今後再検討の必要性が生じている。

古墳時代については4区で住居2軒、古墳1基、畠、4区、5区で溝で区画された範囲、5区で住居1軒、6区で畠などを検出した。住居は前期2軒、中期1軒、古墳は方墳の可能性が見られるが墳丘がすでに削平されており明確ではない。石室などの埋葬施設については掘方もなく不明であった。畠はこの古墳の下層でHr-FPを復旧した畠と古墳の南側でサクの痕跡だけが残るものを検出した。なお、この区画溝の内部からは住居、建物などの施設は確認されなかった。

奈良・平安時代の遺構については2区までの調査区では希薄な地域の様相を見せていたが4区、5区において溝などで区画された内部に掘立柱建物群や井戸などが存在する居宅とその前後の時期に存在していた住居を検出した。居宅内部の掘立柱建物は比較的大型の建物でその配置は平行または直交する位置に建てられている。また、その内の2棟は庇付きの建物である。また、掘立柱建物の柱穴は方形の掘方もち柱痕も径20～30cm前後と一般の集落とされている遺跡で検出される掘立柱建物の柱痕より太い。井戸は初期の段階は素堀であったようであるが次の段階では石敷のものへと変化している。そして井戸が存在する付近から南にかけては低地へ移行するがこの場所にはこの居宅で食前具に使用されていた多量の土器類が使用されており居宅の廃絶とともに廃棄されたものである。

奈良平安時代の遺構には居宅の他、住居、掘立柱建物、溝などがある。住居は居宅構築前の7世紀末～8世紀第1四半期と9世紀第3四半期～10世紀前半代までの時期のものであるがともに6軒、7軒と軒数は少なく5区調査区の中程の微高地から谷地へ移行する地点にまとまりがみられる。

2. 縄文時代の遺構・遺物

(1) 敷石住居

敷石住居 2区36

2区調査区南、11T・12A-19・20グリッドに位置する。他遺構との重複関係は近世溝2区02、中世墓坑2区30、39と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は住居内に敷設されていた礫は僅かにその残骸が見られる程度で大部分が後の時代の耕作等で取り除かれた状態である。

形態は主体部が隅円方形に近いが柄付近の東側は直線的である。柄部も端部が丸みをもつ隅円長方形の柄鏡形を呈する。規模は長軸7.54m、短軸5.12m、柄部全長2.22m、幅1.80mを測る。壁は不明瞭であるが壁高は確認面から10~15cmと浅い。床面積は26.6㎡である。主軸方位はN-9°-Wを指す。

敷石は残存状態で記したように大部分が抜き取られた状態であるが残存している礫はほとんどが緑泥片岩などが占めている。

内部施設は炉と大小のピットを検出した。ピットは総数38本におよびそのうち36本は主体部に残り2本が柄部位置する。主体部のピットのうち23本が壁際に位置している。壁際のピットのうちP1、P5、P6、P17、P22などが規模位置関係から柱穴と想定される。また、P12、P13は主体部と柄部を連結する箇所柱穴である。

炉は主体部のほぼ中央に位置している。炉は南北に長い楕円形を呈し南西部に小ピットを配置している。規模は径104×90cm、深度32cm、小ピット径30×25cm深度22cmである。炉の西側と北側に細長い礫を配置しておりこれらの礫は被熱した状態であった。炉火床面は厚さ3cmほど焼土化した状態であった。

埋甕はP14とP33の間で検出された2の深鉢である。埋甕は上半部が欠落した状態であった。また、柄部端部のP38は埋甕を抜き取った痕跡と見られる。

埋没状態は後世の耕作、掘削などが床面までおよび敷石自体も抜き取ってしまった状態などで明確で

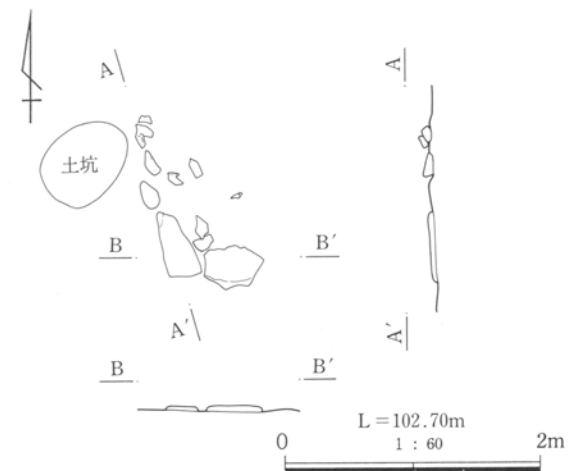
はないがVII層に近い黒褐色土で埋没しており自然埋没と推定される。

遺物は中期加曾利E式期から後期堀之内式期までの土器片と磨石、多孔石などが出土している。

本遺構の時期は埋甕や炉・柱穴などから出土している土器から後期称名寺式期に比定される。なお、敷石住居2区36から出土した他時代の土器については遺構外出土遺物の項で掲載している。

敷石住居 5区439

5区調査区中央付近、10M-16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は奈良時代住居5区260、奈良時代住居5区261、奈良時代住居5区418と重複する。これらの遺構との新旧関係は本住居のほうが古い。残存状態は重複する住居によって大部分を欠き、住居内部の床面に敷いたと思われる緑泥片岩を6点検出だけで詳細は不明である。出土遺物には黒曜石剥片が1点だけで土器・石器の出土は見られなかった。

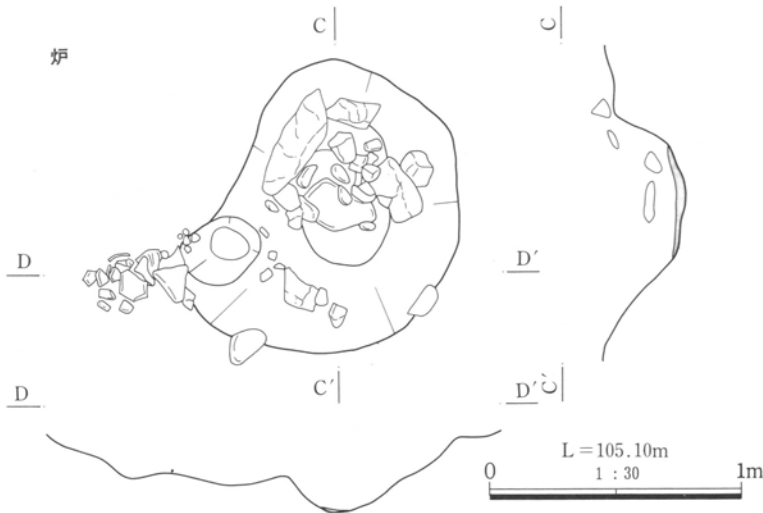
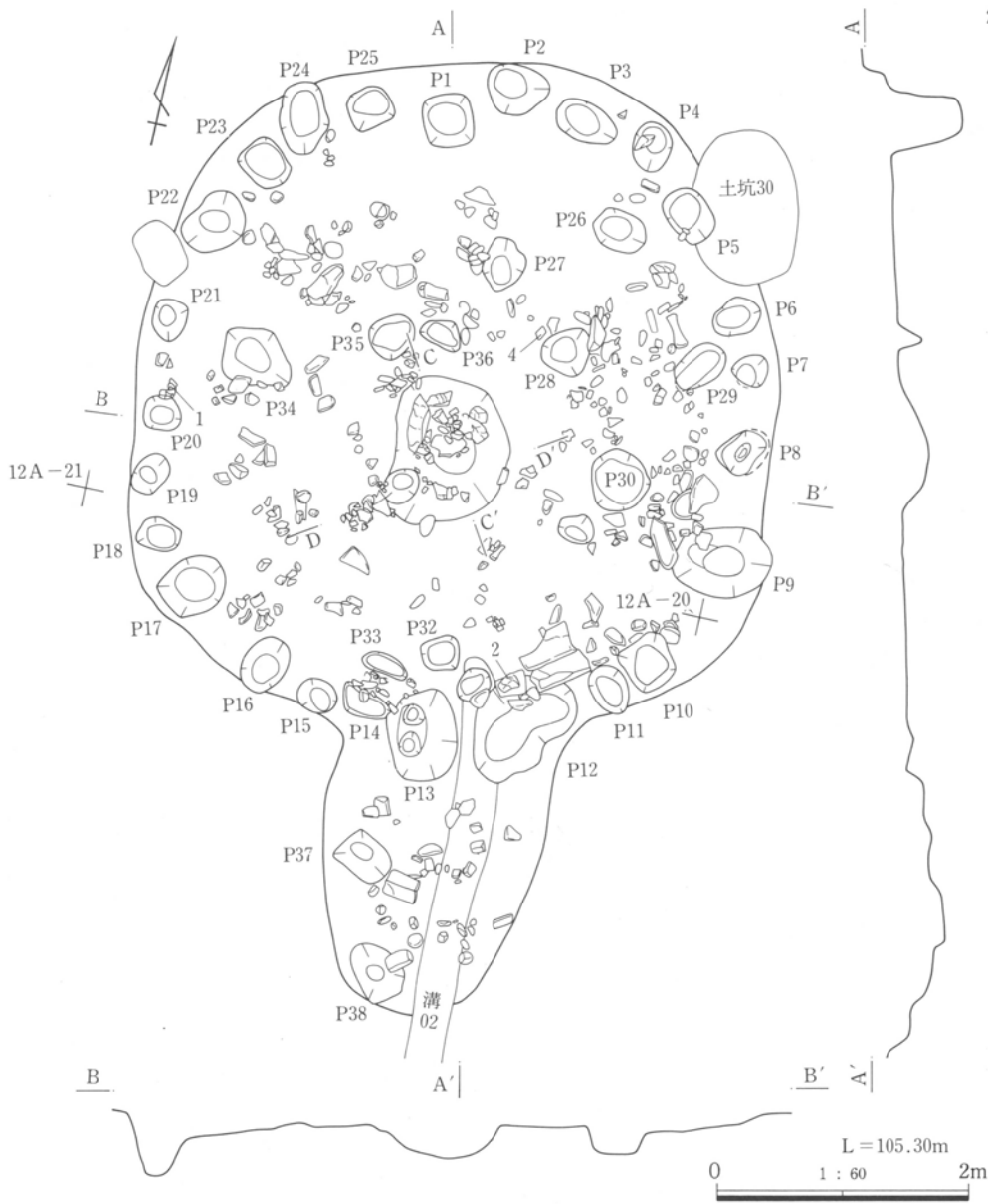


10図 敷石住居 5区439遺構図

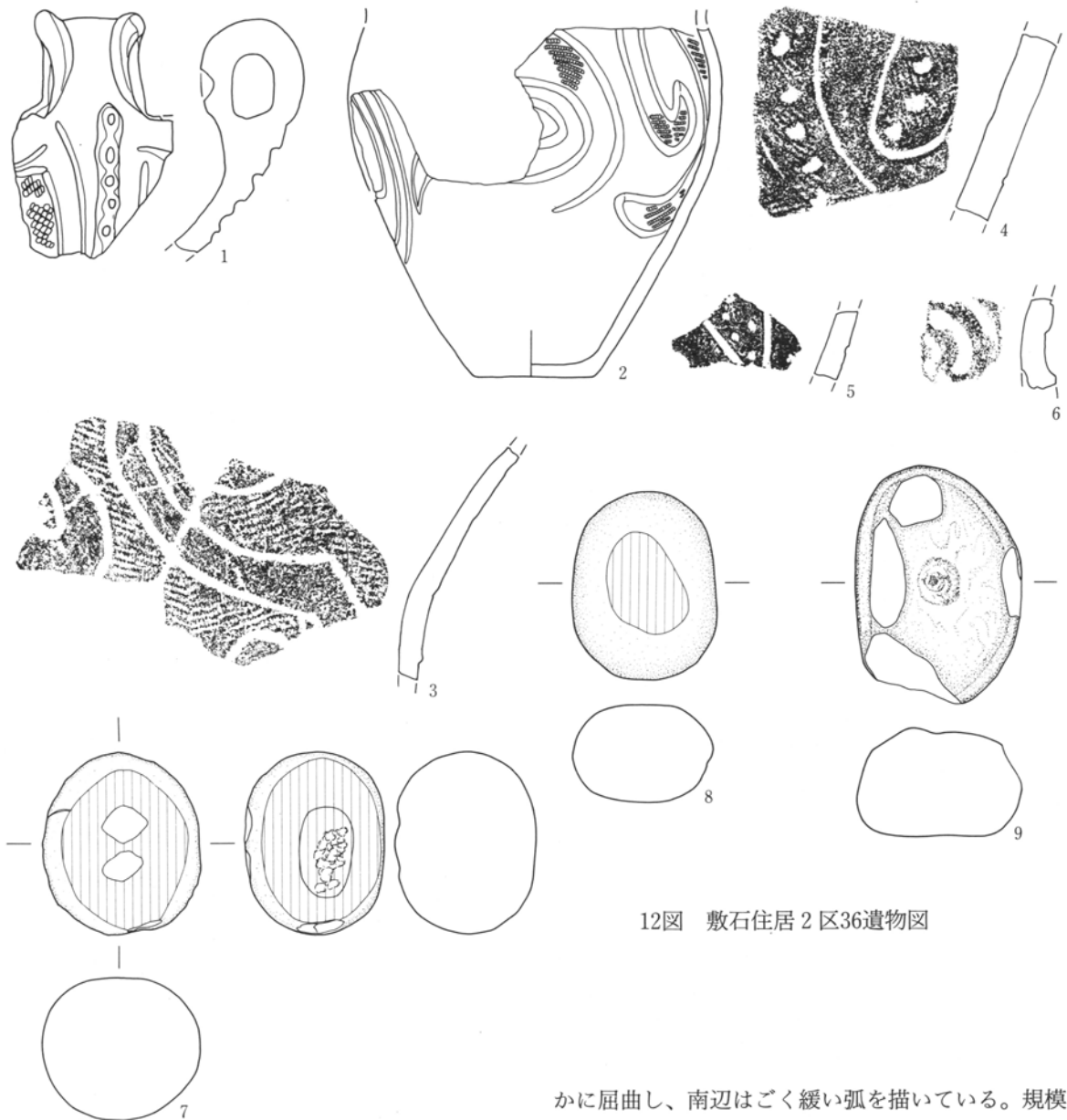
2表 敷石住居2区36柱穴計測表

NO.	長径	短径	深度
1	43	40	52
2	48	42	18
3	53	30	11
4	40	32	46
5	47	28	51
6	37	30	23
7	28	28	30
8	38	28	20
9	82	56	62
10	40	40	33
11	38	28	29
12	92	63	59
13	68	53	59
14	35	30	34
15	28	26	32
16	46	35	47
17	53	47	62
18	35	25	26
19	32	25	37
20	28	25	39
21	30	28	30
22	53	42	36
23	39	34	9
24	68	42	3
25	38	34	10
26	45	34	38
27	44	35	27
28	42	37	48
29	47	28	25
30	50	46	25
31	32	24	33
32	32	28	37
33	37	25	27
34	53	52	22
35	35	30	21
36	34	24	22
37	42	31	47
38	45	35	59

単位 cm



11図 敷石住居2区36遺構図



12図 敷石住居2区36遺物図

(2) 掘立柱建物

掘立柱建物 2区72

2区調査区南西部、11T~12B-20~23グリッド存在については確認されなかった。

墳時代住居19と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態はP5が現代の水路で東半分を欠く他は比較的良好である。

形態は南辺が北辺より0.8mほど長い長方形に近い矩形を呈す。北辺は直線ではなくP2とP5で僅

かに屈曲し、南辺はごく緩い弧を描いている。規模は桁行7間11.12m、梁行2間4.16m、各辺の長さは北辺10.80m、東辺4.24m、南辺11.60m、西辺4.72mを測る。面積は49.5㎡である。主軸方位はN-61°-Eを指す。

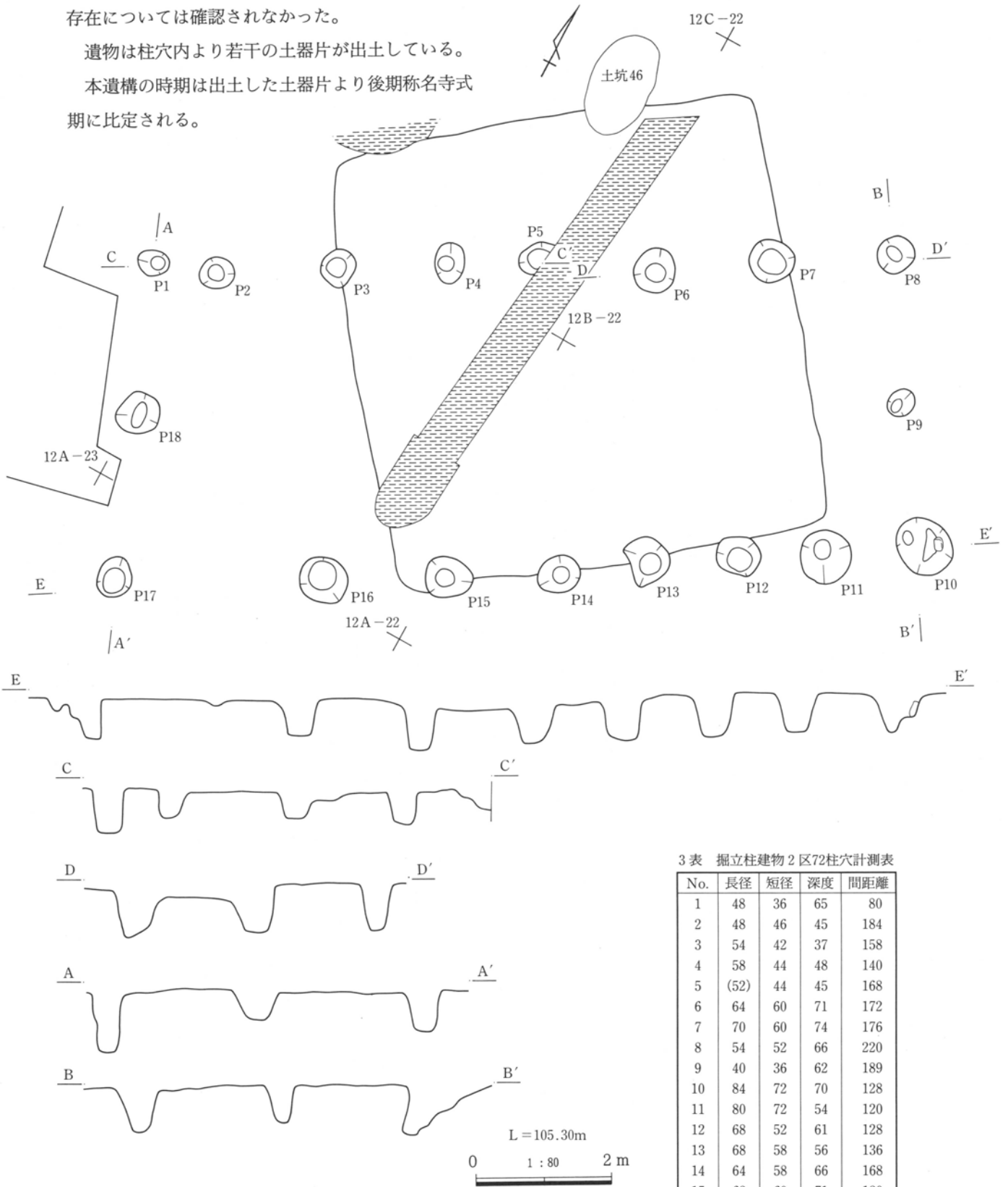
柱穴は円形、楕円形を呈す。規模は最小のP9が径40×36cm、最大がP10の径84×72cmであるが概ね50~60cmほどである。深度は37~74cmで平均58cmである。柱穴間距離はP1-2間の0.80mがもっとも短く、P16-17間の2.64mがもっとも長い。平均は1.71mである。柱痕は確認されていない。柱穴内の土層はVII層が主体である。

内部は住居が大部分を占めているため内部施設の

存在については確認されなかった。

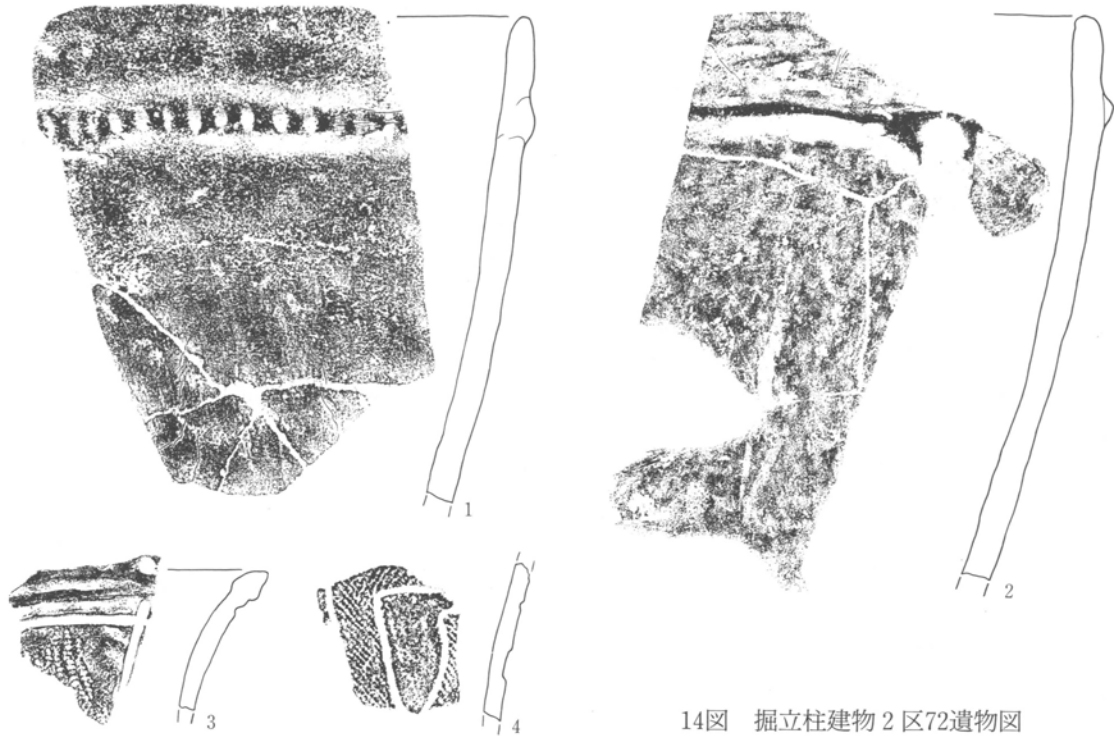
遺物は柱穴内より若干の土器片が出土している。

本遺構の時期は出土した土器片より後期称名寺式
期に比定される。



13図 掘立柱建物2区72遺構図

単位 cm



14図 掘立柱建物2区72遺物図

掘立柱建物2区90

2区調査区中程、12D～E-19～21グリッドに位置する。他遺構との重複関係は中世墓坑10・29・33・38、古墳時代住居21、弥生時代住居59、縄文時代土坑74と重複する。新旧関係は縄文時代土坑74との関係が不明確である他は本遺構の方が古い。残存状態は後世の遺構との重複が激しくP7が存在すると想定される部分に中世墓坑29が存在するため残存していないが、他の柱穴は重複する遺構より深く掘削されており比較的良好である。

形態は西辺が僅かに屈曲しているがほぼ長方形を呈する。規模は桁行3間6.38m、梁行2間3.74m、各辺の長さは北辺6.05m、東辺3.74m、南辺6.22m、西辺3.82mを測る。面積は23.6㎡である。主軸方位はN-38°-Eを指す。

柱穴は円形、楕円形を呈す。規模は最小のP2が径44×44cm、最大がP4の径76×70cmで径40cm代3本、径50cm代1本、径60cm代3本、径70cm代2本と規則性はみられない。深度は28～74cmで平均48cmである。柱穴間距離はP4-5間の1.10mがもっとも短く、P5-6間の2.64mがもっとも長い。これは

梁行の中間に位置する柱穴が東辺、西辺とも北寄りに位置していることによる。また、桁行方向の北辺、南辺の柱穴間距離は1.83mから2.13mで梁行方向に比べて大きな差はみられない。なお、柱痕は確認されていない。柱穴内の土層はVII層が主体である。

内部は住居が大部分を占めているため内部施設の存在については確認されなかった。

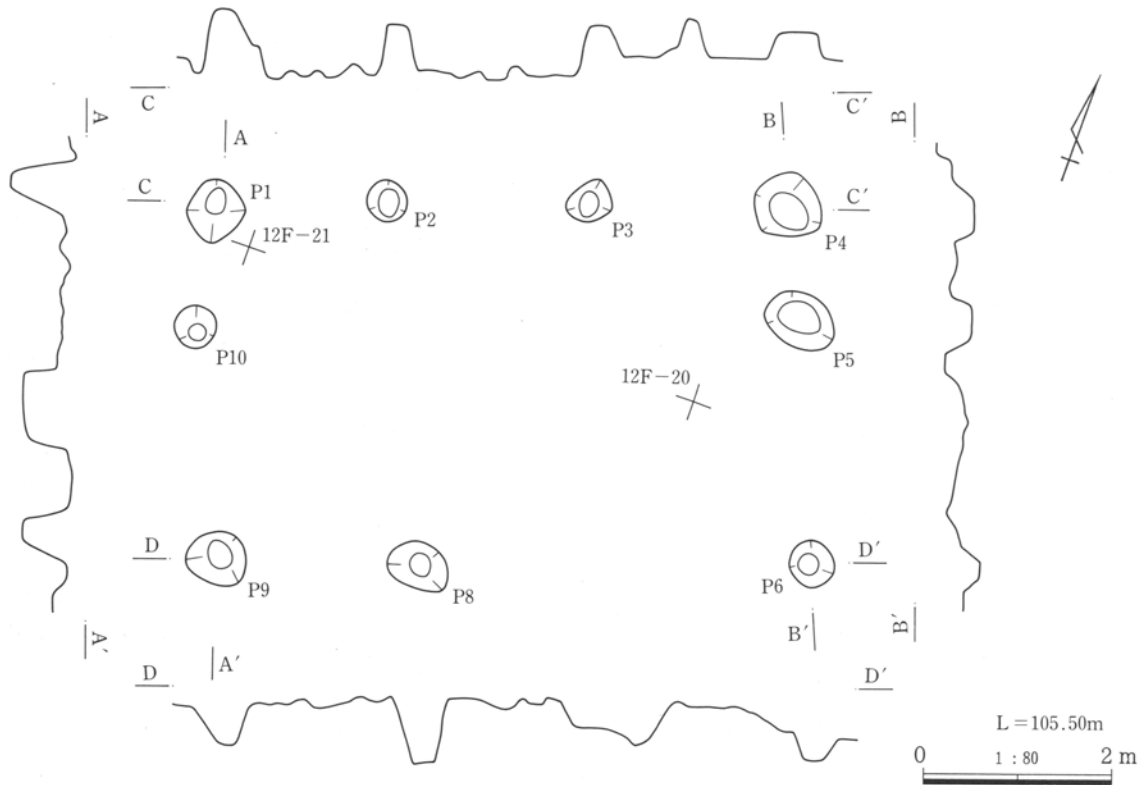
遺物は微細な土器片が僅かに出土しただけであった。

本遺構の時期は明確ではない。

4表 掘立柱建物2区90柱穴計測表

No.	長径	短径	深度	間距離
1	68	62	74	184
2	44	44	56	213
3	48	44	52	213
4	76	70	30	115
5	78	58	28	258
6	50	46	30	～P8
7	—	—	—	410
8	68	50	62	216
9	64	56	50	235
10	48	46	47	142

単位 cm



15図 掘立柱建物2区90遺構図

(3) 柱列

円形柱列2区52

2区調査区東南部、11S～12A-18～19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は近世土坑110、中世墓坑109、平安時代住居09、古墳時代住居111と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は比較的良好であるが調査区外に半分以上が存在するため全貌不明である。

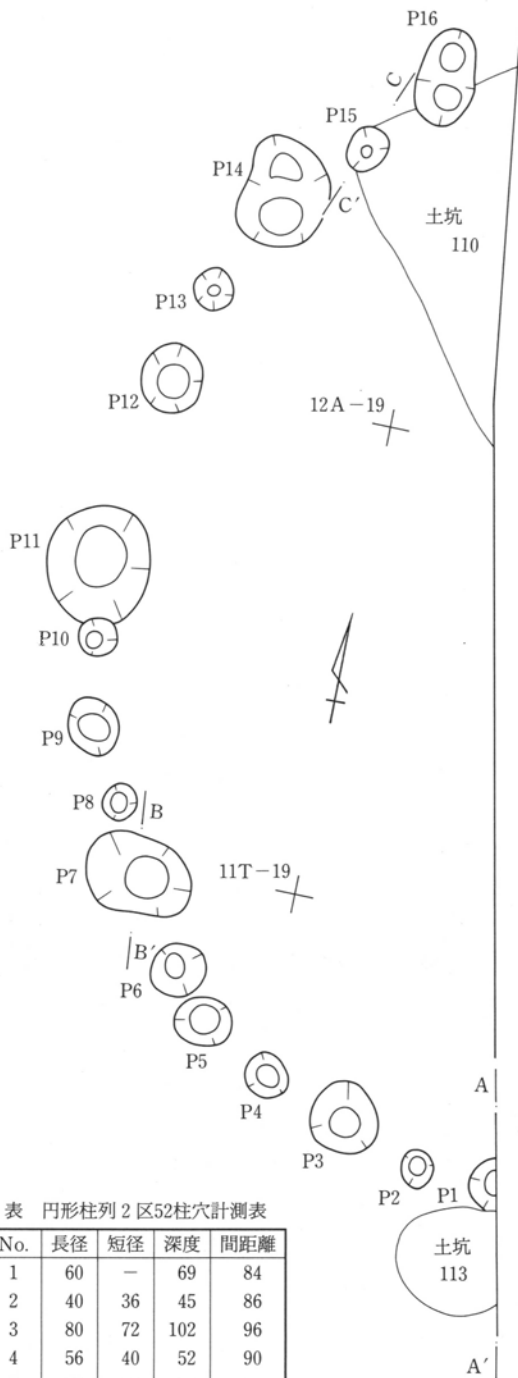
形態は若干の歪みがみられるがほぼ円形を呈する。規模は径6.20～6.40mと想定される。面積は調査区内で3.83㎡、全体は推定120.7～128.6㎡である。

柱穴は調査区内の南半の柱穴P1から柱穴P11までは64～96cm、平均86cmと比較的細かい配置であるが北半ではやや間隔を空けた配置である。特に柱穴P11と柱穴P12の間は198cmと南半の2区間に相当する間隔である。柱穴規模では柱穴P3、P7、P11、P14とやや規模の大きい柱穴を3.3～4.0mの間隔で配置し、その間を規模の小さい柱穴を配置して

いる。形態は柱穴P7、P14、P16が楕円形の他はほぼ円形を呈す。各柱穴の規模は大きい柱穴が径72～124cmで深度85～110cm、小さい方が径32～104cm、深度32～82cmを測る。柱穴深度は柱穴P8、P10、P13が30cm代の他は50cm以上の深さを有している。柱痕は柱穴P1、P7の断面観察では径20～30cmほどの木柱が立てられていたと考えられる。こうした柱自体の径を考慮すると南半は僅かな隙間しかない状態であったと推察される。

内部の施設については調査区内では検出されなかった。

遺物は出土していない。

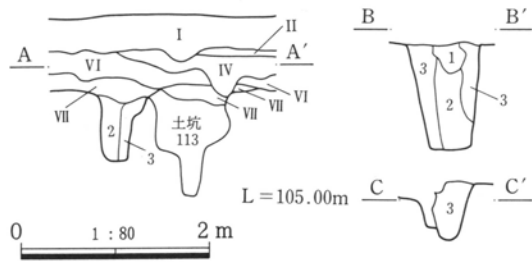


5表 円形柱列2区52柱穴計測表

No.	長径	短径	深度	間距離
1	60	—	69	84
2	40	36	45	86
3	80	72	102	96
4	56	40	52	90
5	60	52	82	64
6	60	52	60	92
7	112	68	110	84
8	40	32	39	84
9	64	56	70	88
10	44	32	32	88
11	124	104	85	198
12	76	64	65	102
13	48	42	34	96
14	120	100	91	110
15	42	36	52	104
16	104	64	58	80+α

単位 cm

16図 円形柱列2区52遺構図



円形柱列2区52 土層注記

- 1 暗褐色粘質土 ローム漸移土。粒子細。しまり強い。微少のローム粒含む。
- 2 黒褐色粘質土 粒子粗。しまり弱い。微少ローム粒を含む。
- 3 褐色シルト質土 粒子粗。しまり弱い。微少のローム粒を多く含む。

(4) 配石

配石2区23-1~4

2区調査区南端、11R・S-18~20グリッドにかけて径30cm前後の礫が多量に出土した。発掘調査時は全体を同一の遺構として考えたが遺構図を整理していく段階で4カ所のまとまりが想定されるため西側のまとまりから新たな遺構NO.を付けるのではなく枝番号を付けることにした。

配石2区23-1

11R-20グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は後世の耕作などにより礫の西半を欠く状態と想定される。

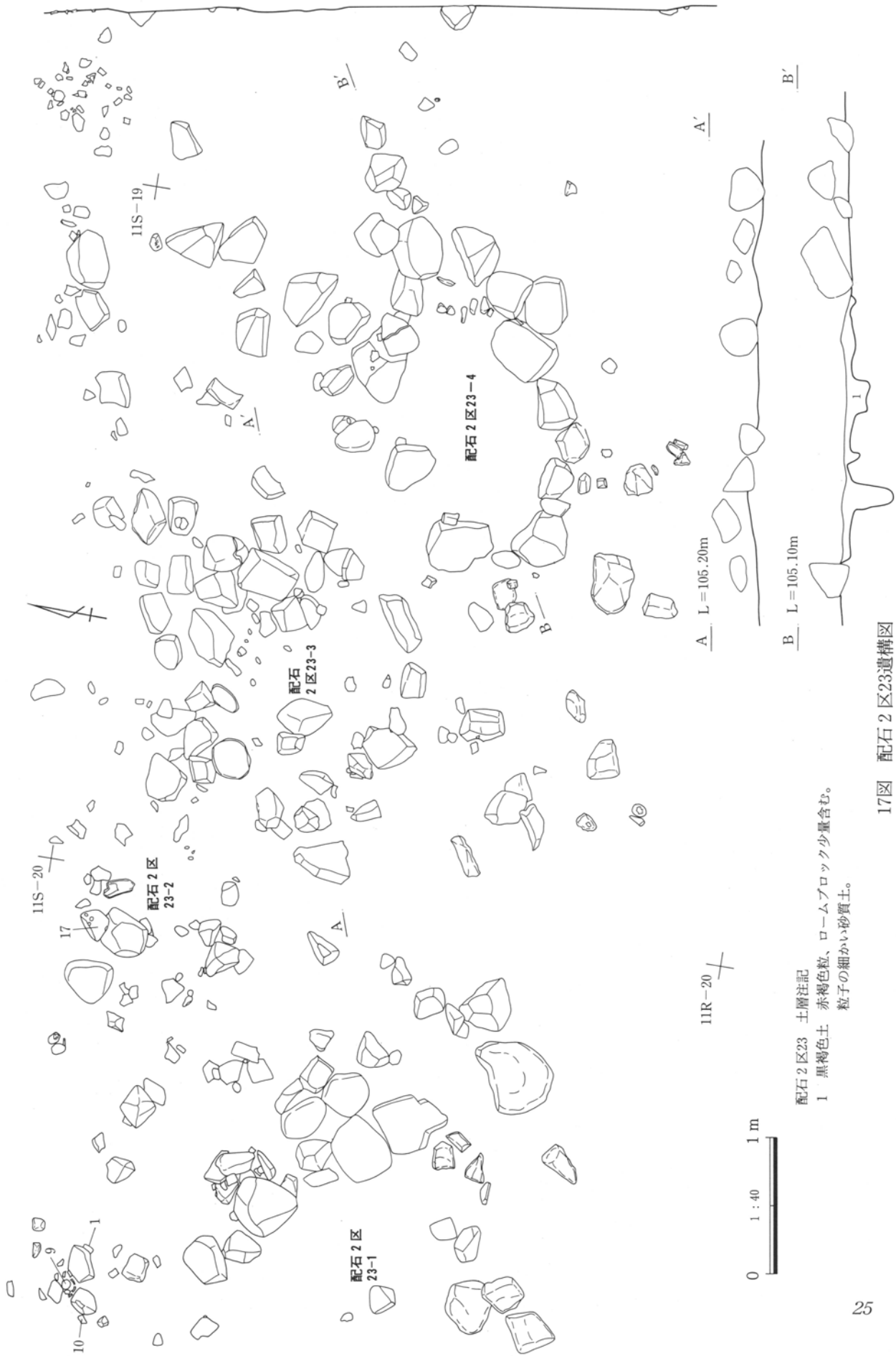
形態は本来楕円形を呈していたと想定される。規模は径東西2.0m、南北2.0m+αである。配置された礫は径40~50cm代のもが多くみられる。礫の石材はすべて粗粒輝石安山岩である。

配石2区23-2

11R-19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は後世の耕作などにより若干の礫を欠くが比較的良好である。

形態は楕円形を呈する。規模は長径2.3m、短径2.0mを測る。礫の配置は北東側に複数列になるように配置され南西側は1列の配置である。配置された礫は-1と同様に40~50cm代が主体でこれらに5~20cm代の礫を多少含む。礫の石材は1点緑色片岩がみられる他はすべて粗粒輝石安山岩である。

配石2区23-3



17図 配石 2区23遺構図

11R-19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は後世の耕作などにより若干の礫を欠く状態である。

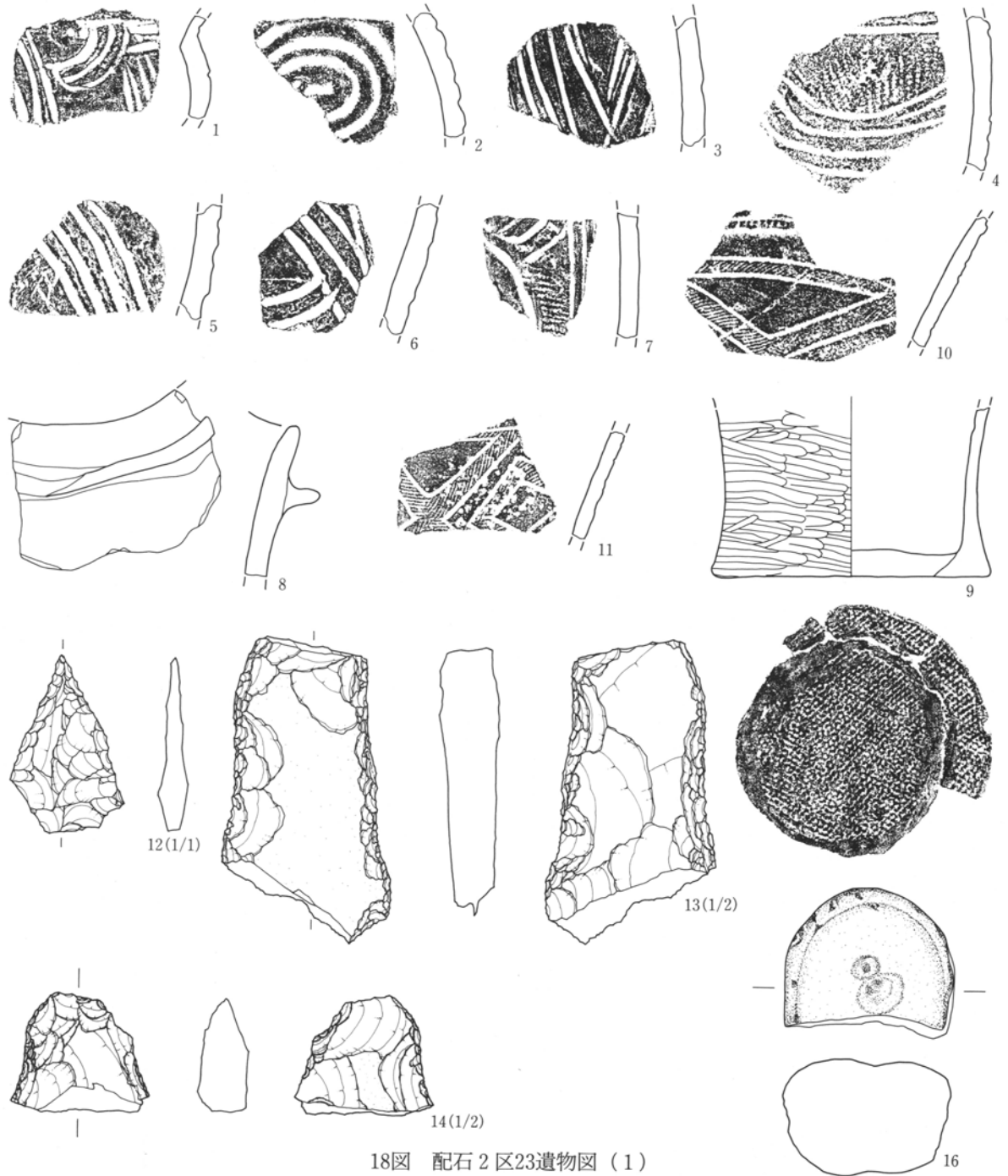
形態は楕円形を呈する。規模は長径2.9m、短径2.0mを測る。礫の配置は-2と同様に北東側に複数列になるように配置され南西側は1列の配置である。配置された礫は-1と同様に40~50cm代が主体でこれらに5~20cm代の礫を多少含む。礫の石材は

すべて粗粒輝石安山岩である。

配石 2区23-4

11R・S-19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は後世の耕作などにより多くの礫を欠くため全貌は不明確である。

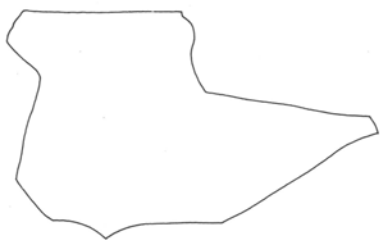
形態は円形を呈すると想定される。規模は径1.5mを測る。礫の配置は他の配石と異なり礫を1列に配



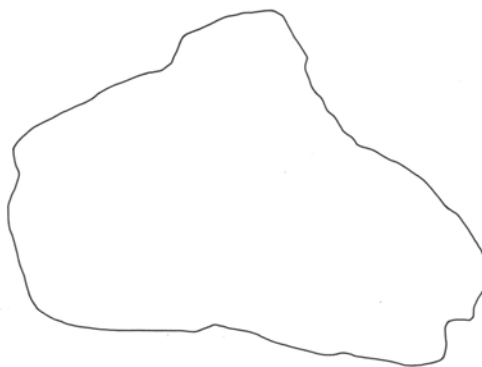
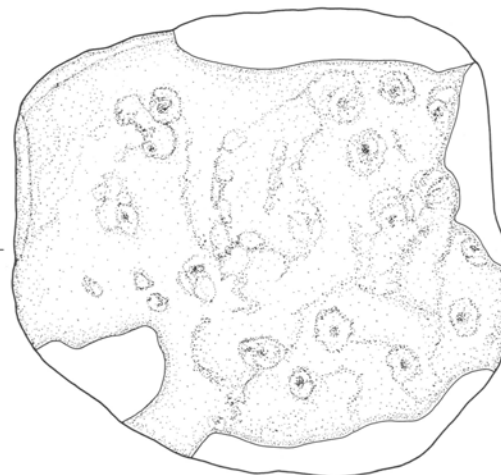
18図 配石 2区23遺物図 (1)



15(1/1)



17



置ただけの状態である。配置された礫は他の配石と同様に40~50cm代が主体でこれらに5~20cm代の礫を多少含む。礫の石材はすべて粗粒輝石安山岩である。

遺物は後期堀之内1~2式期の土器片と打製石斧、多孔石などが出土している。

本遺構の時期は出土した土器から後期堀之内式期に比定される。

19図 配石2区23遺物図(2)

(5) 集石

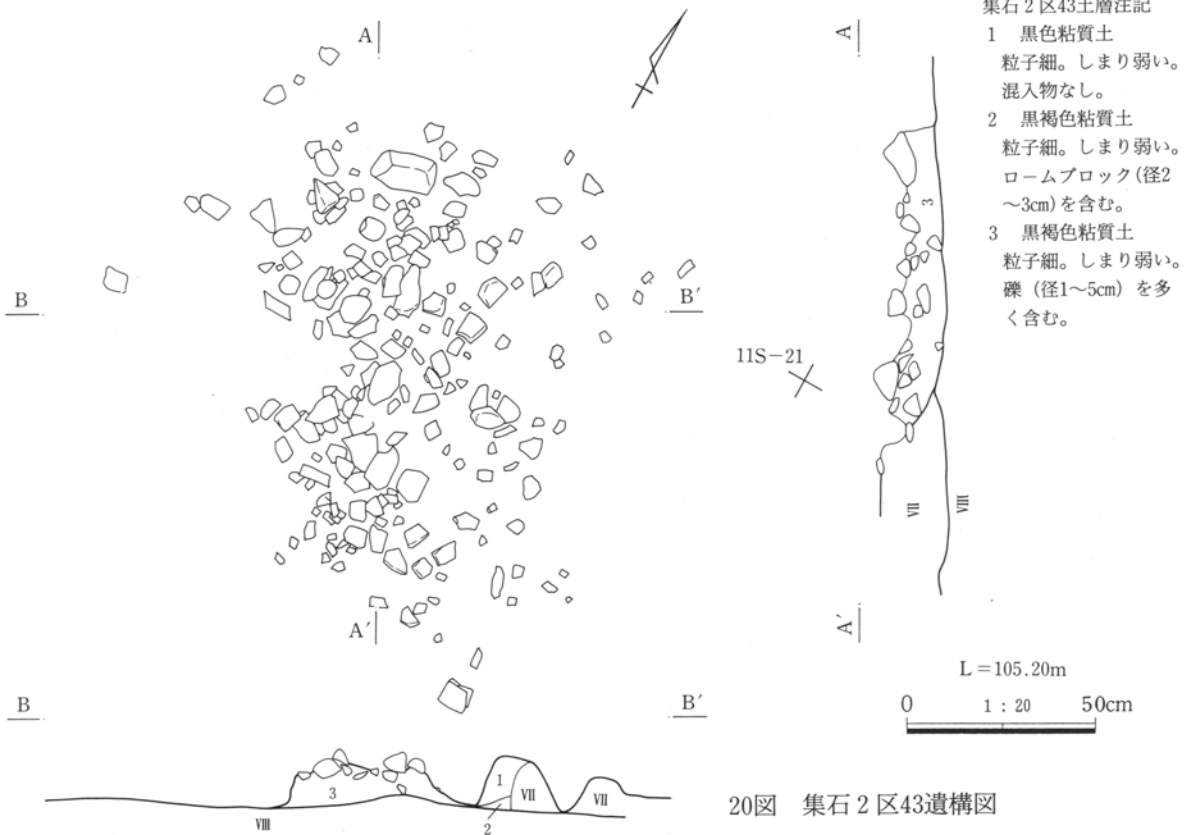
集石 2区43

2区調査区南端、11R・S-21グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は本遺構の土層断面によるとⅦ層から掘り込まれているようであるが遺構確認をⅧ層上面で行ったため土坑状の掘り込みを検出することはできなかったため、全貌詳細については不明である。

形態、規模は不明であるが小礫の出土した範囲から2.0×1.0m程の楕円形を呈していたようである。礫は径10~30cm程の垂角礫を掘り込みの上面に配置されたようである。

掘り込み内部の土層はⅦ層に近い黒褐色土である。内部からは上面と同様な礫が多少出土しているが土器類は出土していない。

本遺構の時期は明確ではない。



(6) 遺物集中

遺物集中 2区40

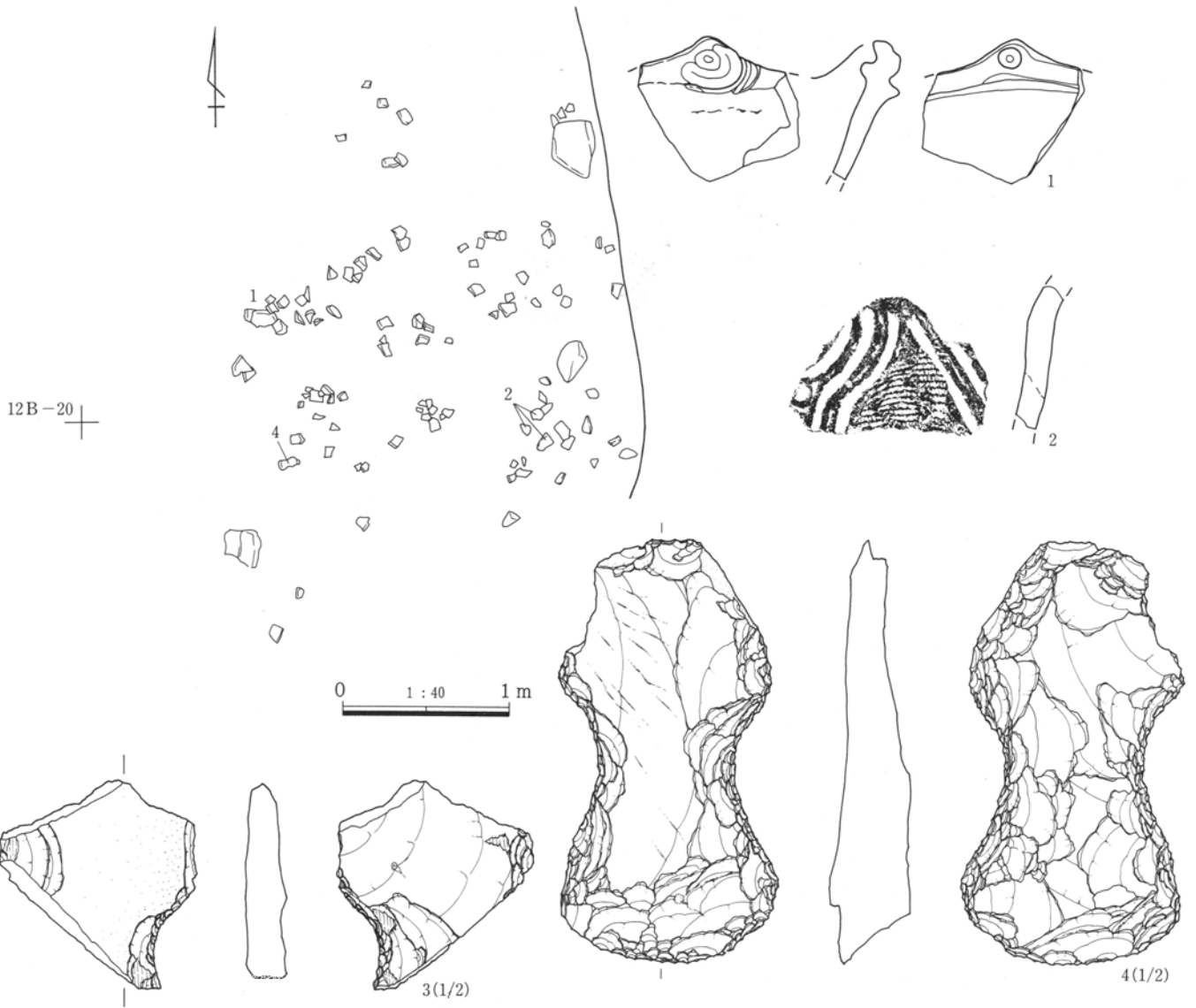
2区調査区東南部、12A・B-19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は中世墓坑31、古墳時代住居50と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は東側を攪乱によって欠く。

形態は掘り込みなどは確認されずに土器、石器、礫が散乱した状態で遺物などが検出されている。規

模は南北1.5m、東西1.2mの範囲である。

出土した遺物は後期前半の称名寺期~堀之内期までの土器片と打製石斧などがあるが土器片はすべて小片で接合するものもみられなかった。こうした状況から本遺構は廃棄的な性格が強い。

本遺構の時期は後期に比定される。

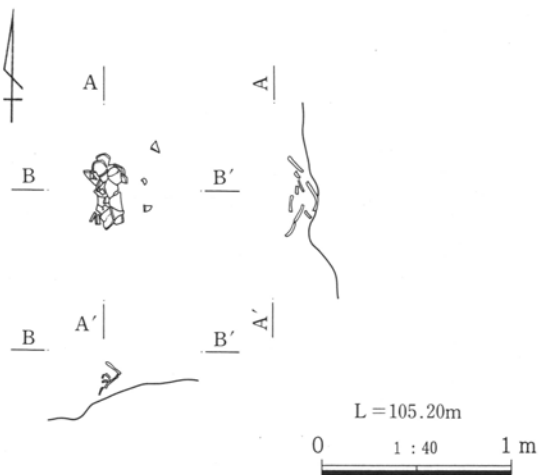


21図 遺物集中2区40遺構図・遺物図

(7) 埋 甕

埋甕 2区51

2区調査区南西部、11T-21グリッドに位置する。他遺構との重複関係は古墳住居18と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は僅かの窪みと土器の出土だけで掘り込みなどは明確ではなかった。こうした残存状態であることから形態・規模については不明である。出土した土器は後期称名寺期のもので口縁部を北に向けて傾倒した状態で出土した。出土した土器は全体の1/6程度でしかなかった。



22図 埋甕 2区51遺構図



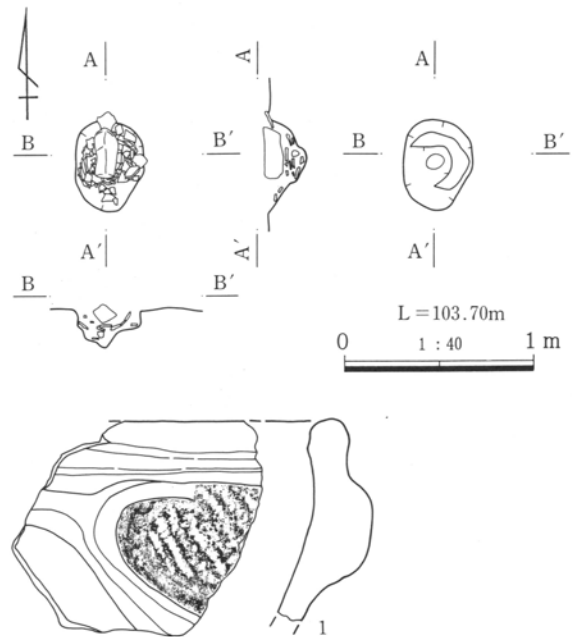
23図 埋葬2区51遺物図

埋葬4区228

4区南西部、11G-19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は比較的良好である。

掘方の形態は楕円形を呈す。規模は長径48cm、短径36cm、深度22cmを測る。掘方は一度底面を平坦に掘削して中央部に土器の座りをよくするように円錐状に掘削している。

内部には中期加曽利E式期の深鉢が埋設され、その上位に長さ28cm、幅12cm、厚さ10cmほどの長細い磔を置いている。土器は掘方内部に細片化した状態で出土しており、掘方内部から出土した土器片は同一個体の破片と見られるが接合するものは見られなかった。



24図 埋葬4区228遺構図・遺物図

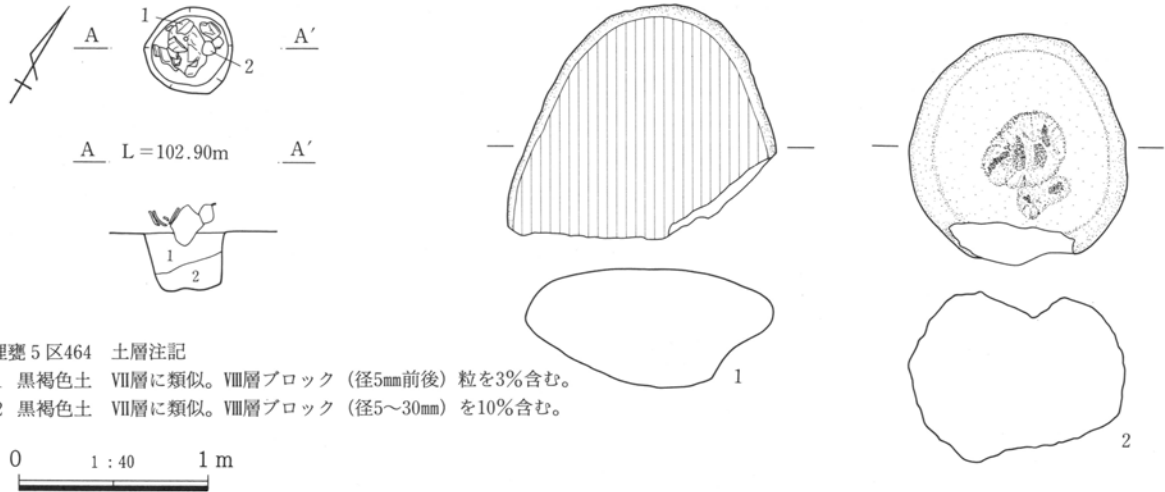
埋葬5区464

5区調査区中程の東側、10M-14グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は土器の上部を後世の掘削などによって欠落している。

掘方の形態はほぼ円形を呈す。規模は径48cm、深度32cmを測る。土器は掘方底面より30cm程上位に置かれた磔の横に据えられている。

掘方は土坑状を呈し、VII層に近い黒褐色土で埋没、埋め戻されている。

出土した土器は胴部下部の破片が主体で中期加曽利E式期のものである。



埋甕 5区464 土層注記

- 1 黒褐色土 VII層に類似。VIII層ブロック（径5mm前後）粒を3%含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。VIII層ブロック（径5~30mm）を10%含む。

25図 埋甕 5区464遺構図・遺物図

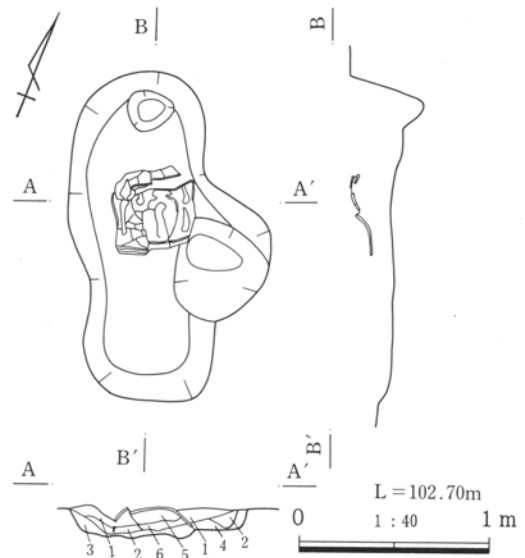
埋甕 5区563

5区調査区中程の西より、10N-18グリッドに位置する。他遺構との重複関係は西側の中程で円形の土坑と重複するが埋没土は埋甕掘方埋没土と土坑埋没土の間では明確な重複関係は確認されなかった。残存状態は土器の3/4以上は欠落した状態であったが掘方などは比較的良好な状態であった。

掘方の形態はやや細長い楕円形を呈す。掘方の中程東側に径50cm深度20cm、北端に径25cm、深度15cmの落ち込みが存在するが、本埋甕に伴うものか否かは不明である。規模は長径1.36m、短径0.68m、深度0.24mを測る。土器は掘方中央部に外面を上位に向けて傾倒した状態で出土している。

埋没土はVII層、VIII層がブロックに堆積しており人為的に埋め戻されたことが観察される。

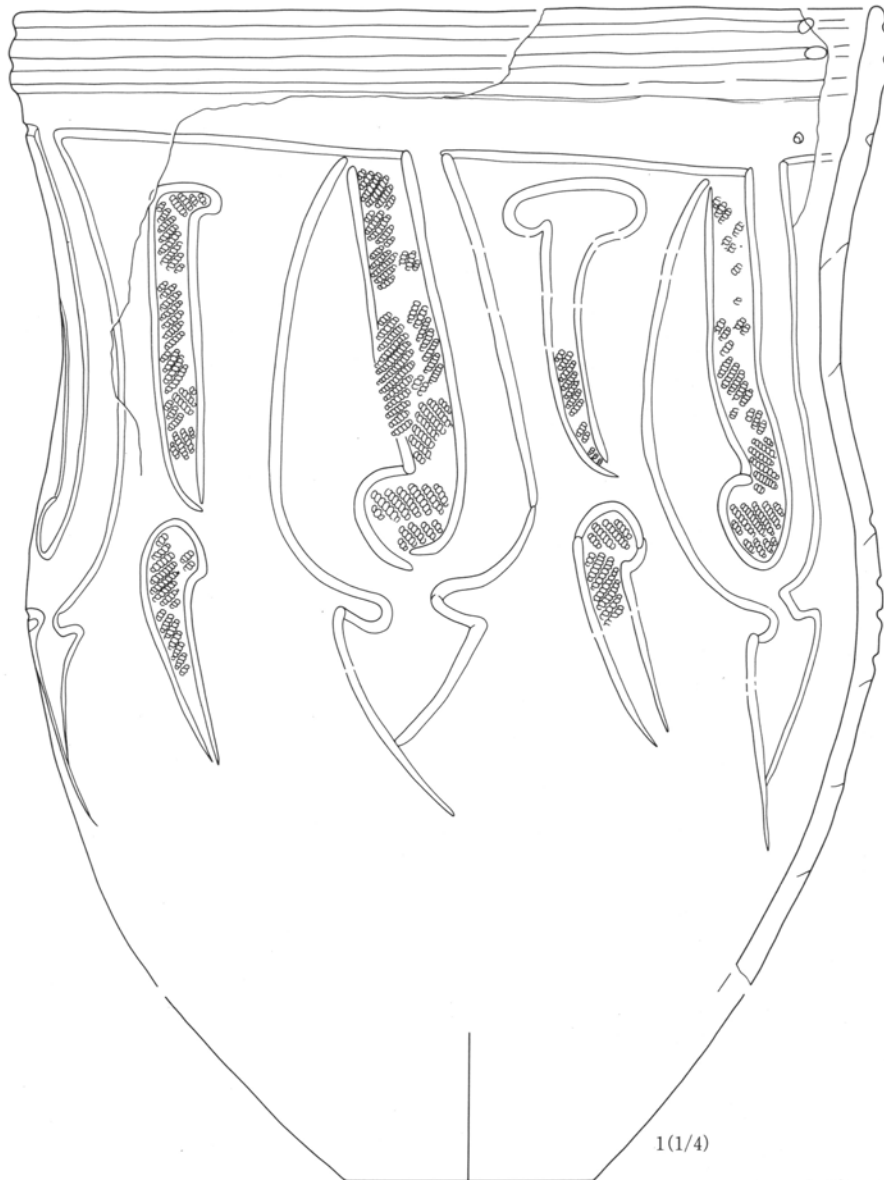
出土した土器は後期称名寺式中葉の深鉢で口縁部沈線内に貫孔補修孔、口縁部下に未貫孔補修孔が見られる。胴部上半は沈線による区画内にRL充填施文、下半はナデ整形が施されている。



埋甕 5区563 土層注記

- 1 灰黄褐色土 VIII層主体。VII層ブロックを30%含む。
- 2 灰黄褐色土 VIII層主体。VII層ブロックを10%含む。
- 3 黒褐色土 VII層に類似。
- 4 にぶい黄褐色土 VIII層ブロックとVII層ブロックの混合土。(6:4)
- 5 黒褐色土 VII層に類似。VIII層ブロック（径5mm前後）を10%含む。
- 6 黒褐色土 VII層に類似。VIII層ブロック（径5mm前後）を5%含む。

26図 埋甕 5区563遺構図



27図 埋甕 5区563遺物図

(8) 土 坑

2区調査区では重層的な調査が行えず、縄文時代から中世まで1面で遺構確認を行ったため縄文時代の遺構は出土遺物を伴うものに限定されたため土坑は7基しか確認されなかった。4区・5区調査区第3面からは約200基の土坑を検出した。第3面は縄文時代～古墳時代中期までの時期の遺構を検出していることから約200基の土坑全てが縄文時代に属するものではない。特に第3面で調査した土坑からの出土遺物は僅かで遺物から時期を確定できる土坑は少ない。こうした中で遺物を出土し時期を確定できた

土坑や埋没土がVII層を主体であるなど縄文時代の様相が観察できる土坑を中心に掲載した。

また、土坑の性格も貯蔵、墓坑など性格を明らかにできたものは貯蔵用と考えられる2区112だけで他の土坑については明確ではない。

土坑 2区112

2区調査区中程の東より、12F・G-19・20グリッドに位置する。他遺構との重複関係は古墳時代住居2区61・69と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は比較的良好である。

形態は平面がやや歪んだ楕円形、断面が袋状を呈している。規模は長軸1.12m、短軸1.00m、深度0.70m、断面最大径1.34mを測る。

土坑内部は中位に最大径をもつが埋没土はⅦ層に近似した黒褐色土で埋没している。

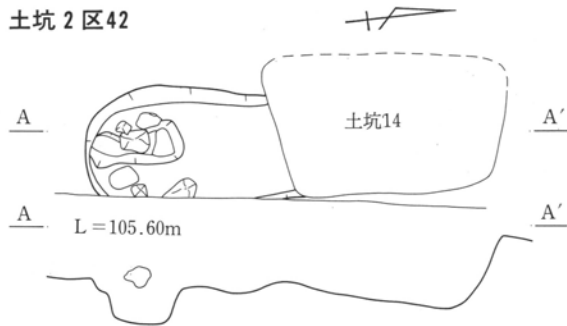
遺物は中期加曾利E期や後期堀之内期の土器が底面付近から若干出土している。

本土坑の時期は土器出土量の主体を占める堀之内式期と想定される。

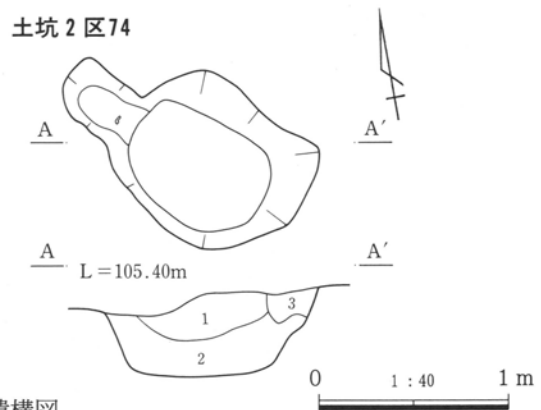
6表 縄文時代土坑一覧

区	遺構NO.	位置	重複関係		形態	規模(単位cm)			摘要	
			新	旧		長径	短径	深度		
2	42	12C-22	中世墓坑14		不整形	(102)	(60)	28		
	74	12D-20	弥生時代住居59		不整形	140	82	44		
	83	12E-20	中世墓坑10		不整形	230	104	50		
	84	12E-21	中世墓坑27		楕円形	232	152	48		
	95	12F-21	古墳時代住居13・67		不整形	(282)	(90)	78		
	112	12F-20	古墳時代住居61・69		楕円形	(112)	(100)	70	貯蔵用土坑、断面袋状	
	113	11S-18		縄文時代円形柱列52	不整形	(108)	116	102		
	4	184	11Q-19			ほぼ円形	100	91	51	
		186	11Q-19			楕円形	97	77	36	
		222	11N-20			不整形	(143)	144	70	
		223	11O-19		土坑246	楕円形	48	40	66	
231		11D-16			楕円形	73	38	15		
242		11O-18			ほぼ円形	67	65	47		
251		11I-19			楕円形	93	76	48		
252		11H-19			楕円形	78	70	15		
253		11D-17	中世溝02、奈良溝03		不整形	(183)	109	15		
262		11N-19			楕円形	62	55	85		
263		11O-19			楕円形	57	55	58		
264		11N-20			不整形	(47)	(40)	24		
302		11R-21			楕円形	69	61	75		
303		11Q-21			楕円形	88	66	67		
314		11Q-21	弥生時代住居226		楕円形	58	46	63		
315		11Q-21	弥生時代住居226		ほぼ円形	50	45	30		
316		11P-21	弥生時代住居226		円形	40	36	49		
317		11P-21	弥生時代住居226		円形	40	37	48		
318		11P-21	溝277		楕円形	61	52	33		
319		11O-21			ほぼ円形	59	54	66		
320		11P-21			楕円形	47	35	71		
321	11O-18			楕円形	56	48	33			
322	11N-18			楕円形	(41)	50	15			
5	486	10T-19			ほぼ円形	64	62	27		
	519	11B-20			ほぼ円形	110	36	30		
	559	10M-13			楕円形	113	58	45		
	575	11C-20			楕円形	52	40	44		

土坑2区42

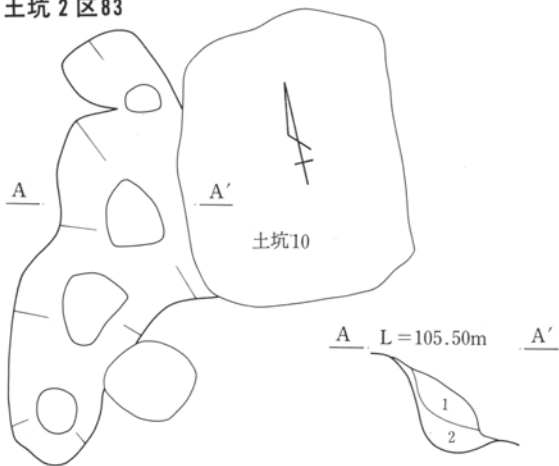


土坑2区74

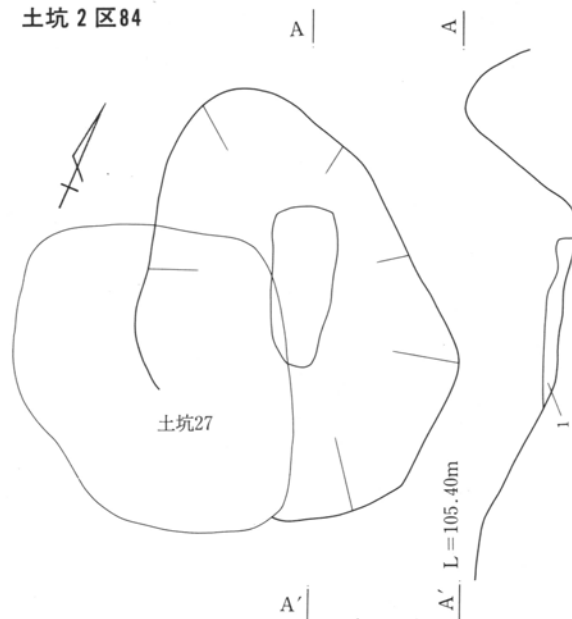


28図 土坑2区42・74遺構図

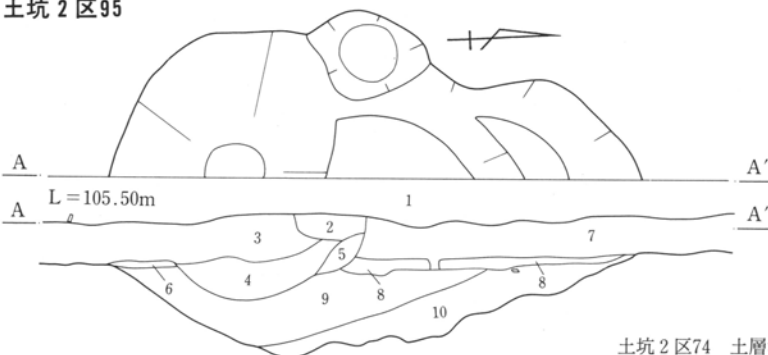
土坑 2 区83



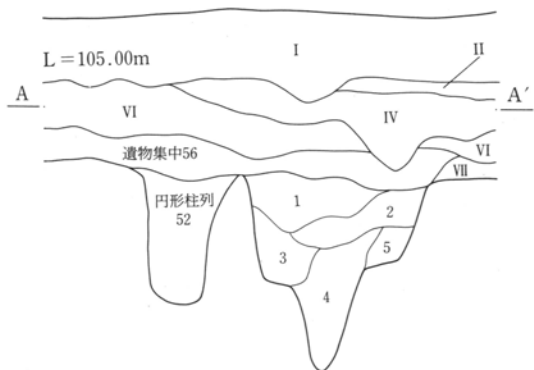
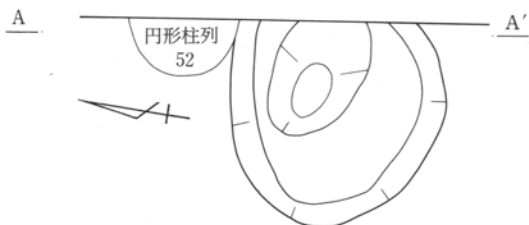
土坑 2 区84



土坑 2 区95



土坑 2 区113



土坑 2 区74 土層注記

- 1 暗褐色粘質土 As-C軽石(径2~3mm)を微量含む。
- 2 暗褐色粘質土 1に類似。ロームブロック(径5~100mm)を含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを50%含む。

土坑 2 区83

- 1 褐色粘質土 粒子細。しまりやや弱い。ローム粒を微量含む。
- 2 褐色粘質土 粒子細。しまり弱い。ローム粒を若干含む。

土坑 2 区84 土層注記

- 1 黒褐色粘質土 粒子細。しまり強い。ローム粒を僅か含む。

2 区95 土層注記

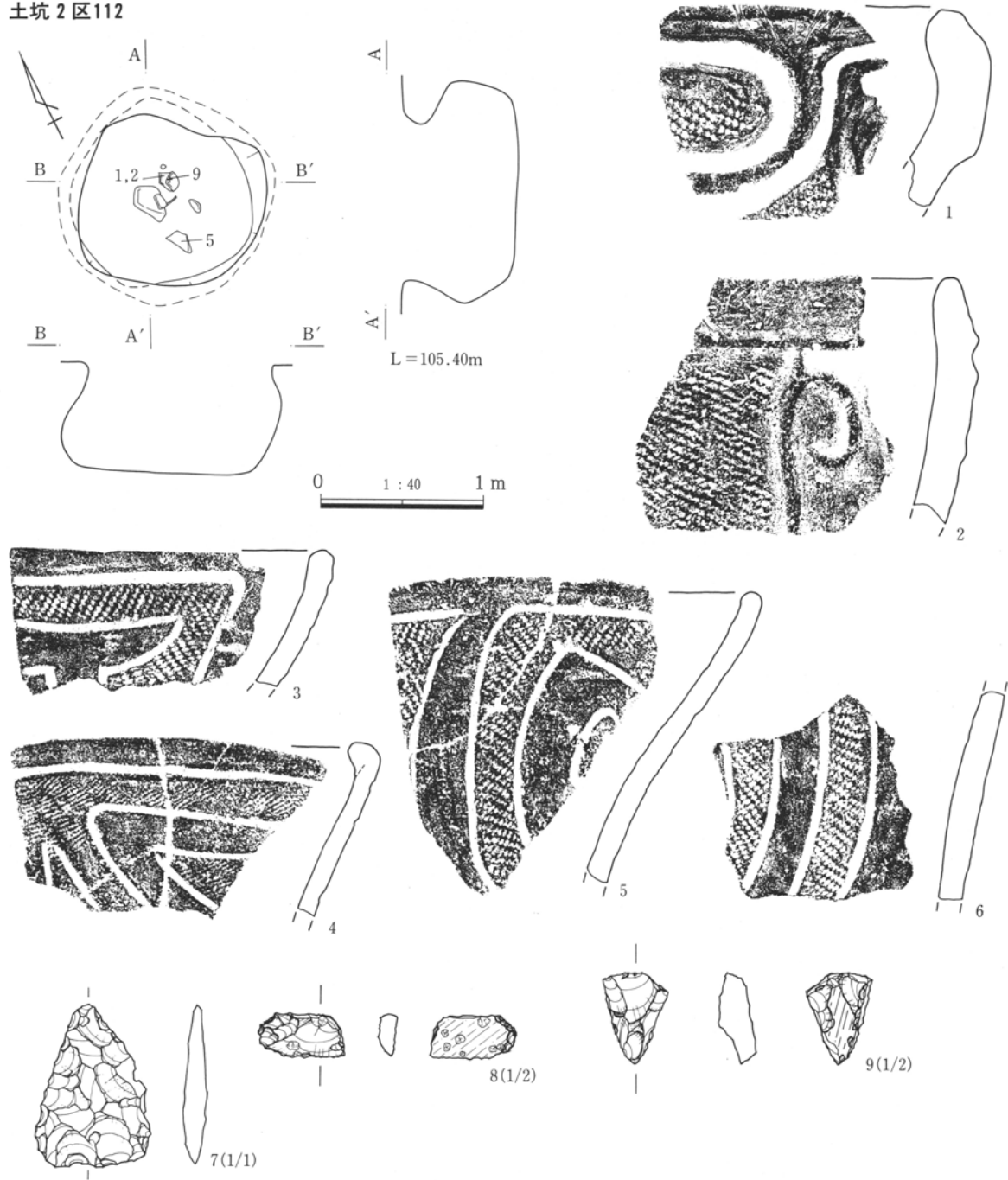
- 1 黒褐色粘質土 As-C軽石(径1~3mm)と砂礫(径5~10mm)を含む。
- 2 暗褐色粘質土 ロームブロック(径1~3cm)とAs-C軽石(径1~2mm)を含む。
- 3 黒褐色粘質土 As-C軽石(径1~5mm)を全体に含み、炭化粒(径1~2cm)も含む。
- 4 黒褐色粘質土 3にローム粒(1~2cm)を含む。
- 5 黒色粘質土 As-C軽石(径1~3mm)を含む。
- 6 黒褐色粘質土 ローム粒(径2~3cm)を含む。
- 7 黒色粘質土 僅かに微少のローム粒を含むのみ。
- 8 暗褐色粘質土 硬い。ローム粒(径1~5cm)を多く含む。
- 9 黒色粘質土 含有物なし。
- 10 暗褐色粘質土 ローム粒(径1~3cm)を含む。

土坑 2 区113 土層注記

- 1 暗オリブ褐色土 シルト質。ロームブロック(径5~10cm)を含む。
- 2 黒褐色土 粘質土。ロームブロック(径5~30mm)を含む。
- 3 黒褐色土 シルト質。ローム粒子。
- 4 褐色土 シルト質。ローム粒子。
- 5 暗灰黄色土 粘質土。ローム粒子。炭化物を若干含む。

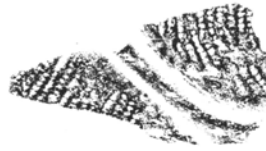
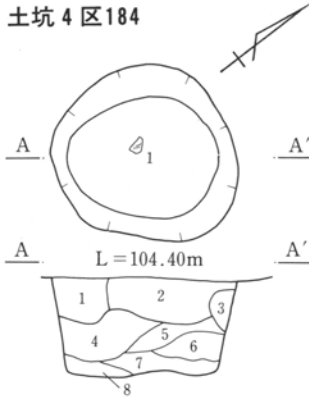
29図 土坑 2 区83・84・95・113遺構図

土坑 2 区 112



30图 土坑 2 区 112 遺構図・遺物図

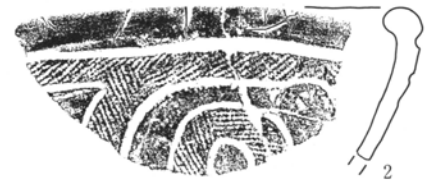
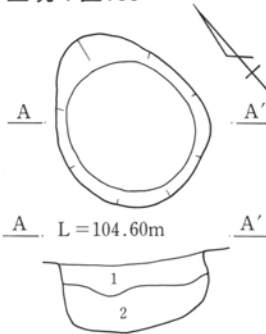
土坑 4 区184



土坑 4 区184 土層注記

- 1 黒褐色土 VIII漸移層主体。VIII層ブロック(径30~50mm)を20%含む。
- 2 暗灰黄色土 VIII漸移層主体。VII層を10%含む。
- 3 にぶい黄色土 VIII層に類似。やや暗い色調。
- 4 暗灰黄色土 2に類似。VIII層ブロック(径20~50mm)を30%含む。
- 5 黄褐色土 2・4に類似。VIII層ブロック(径20~50mm)を20%含む。
- 6 にぶい黄色土 3に類似。白色軽石粒(径5mm前後)を5%含む。
- 7 黄褐色土 5に類似。白色軽石粒(径5mm前後)を5%含む。
- 8 黒褐色土 VII層に類似。

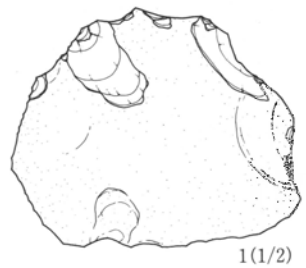
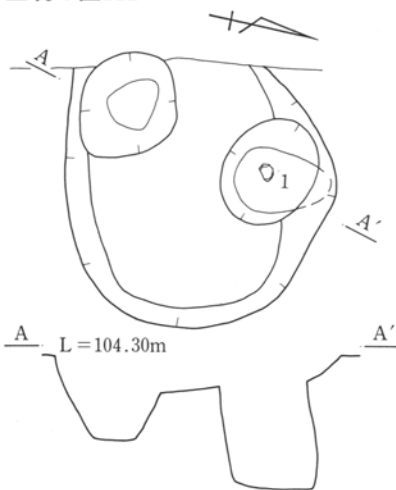
土坑 4 区186



土坑 4 区186 土層注記

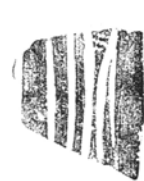
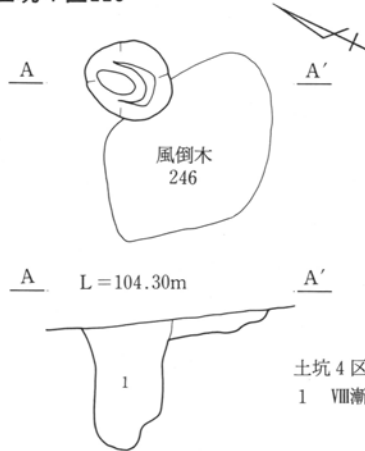
- 1 黒褐色土 VII層に類似。VIII層粒を5%含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。VII層粒を10%含む。

土坑 4 区222



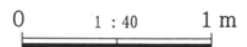
1(1/2)

土坑 4 区223

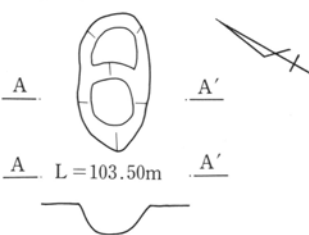


土坑 4 区223 土層注記

- 1 VIII漸移層。

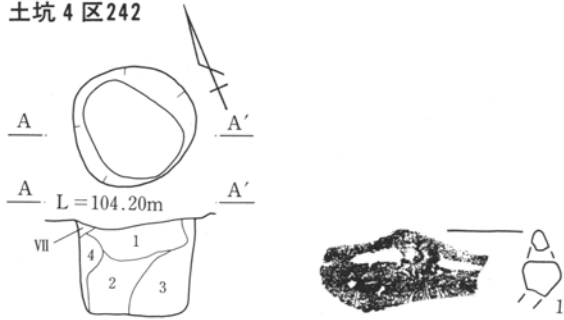


土坑 4 区231



31図 土坑 4 区184・186・222・223・231遺構図・遺物図

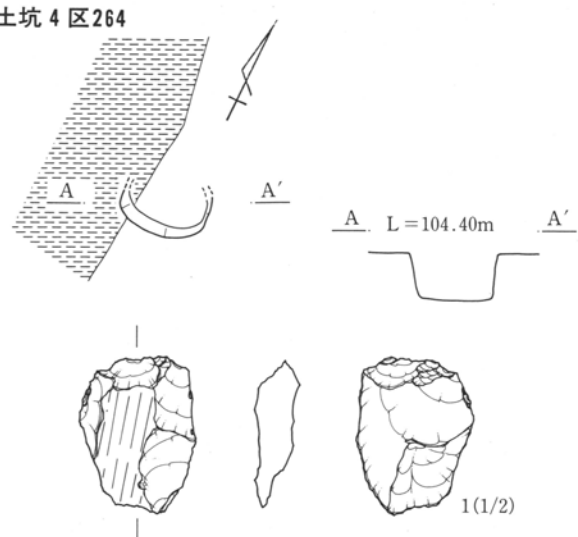
土坑 4 区242



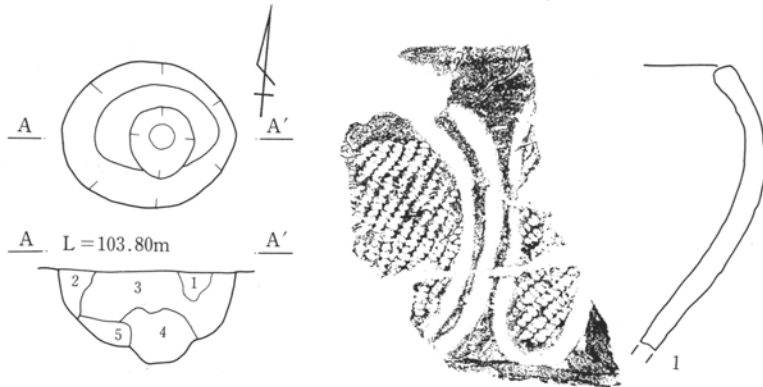
土坑 4 区242 土層注記

- 1 暗オリーブ褐色土 VIII漸移層に類似。VII層が混入。
- 2 黒褐色土 VII層主体。VIII漸移層混入。VIII層ブロック(径10~30mm)を20%含む。
- 3 黒褐色土 VII層ブロック30%・VIII層ブロック70%含む。
- 4 明黄褐色土 VIII層の崩落。

土坑 4 区264



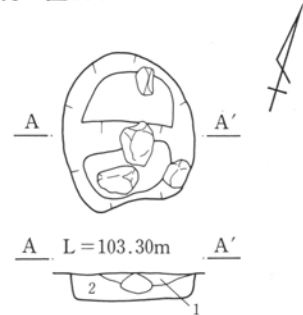
土坑 4 区251



土坑 4 区251 土層注記

- 1 黒褐色土 シルト質。白色軽石(径1mm)を微量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質。白色軽石(径1mm)を微量含む。
- 3 褐色土 シルト質。白色軽石(径2mm)・褐色粒を微量含む。
- 4 暗褐色土 シルト質。黄褐色粒(径4mm)を1%弱含む。白色軽石(径2mm)・炭化粒(径2mm)を微量含む。
- 5 暗褐色土 シルト質。VIII層が縞状に10%混入。黄褐色粒(径20mm)を含む。

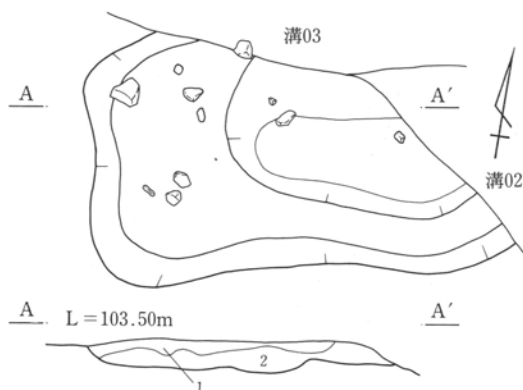
土坑 4 区252



土坑 4 区252 土層注記

- 1 暗オリーブ褐色土 VIII漸移層に類似。VII層混入か。
- 2 黄褐色土 VIII漸移層に類似。VIII層混入。

土坑 4 区253

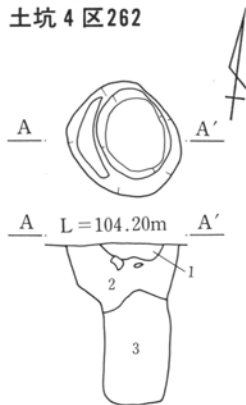


土坑 4 区253 土層注記

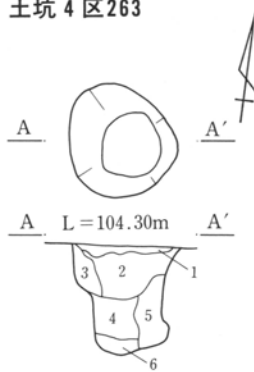
- 1 暗褐色土 シルト質。しまり強い。白色軽石(径1mm)・VII層粒(径2mm)を微量含む。
- 2 褐色土 シルト質。しまり強い。1・VII層の混合層。白色軽石(径2mm)・VII層粒(径4mm)を微量含む。

0 1 : 40 1 m

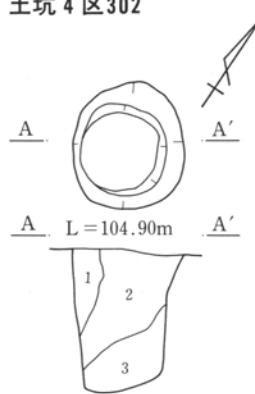
土坑 4 区262



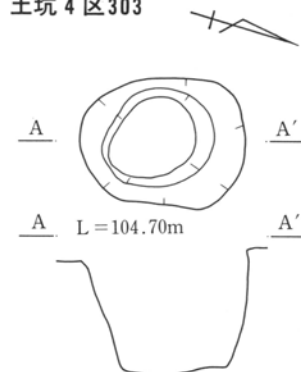
土坑 4 区263



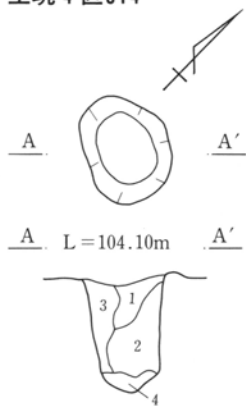
土坑 4 区302



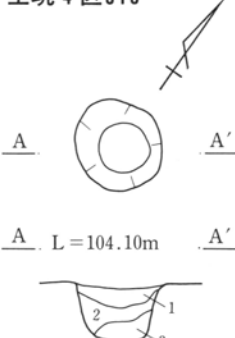
土坑 4 区303



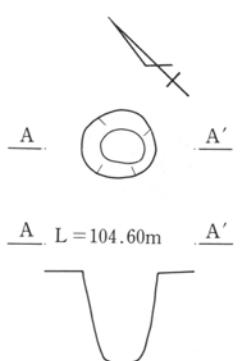
土坑 4 区314



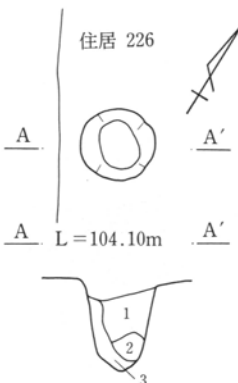
土坑 4 区315



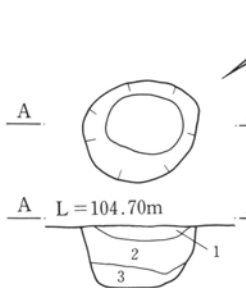
土坑 4 区316



土坑 4 区317



土坑 4 区318



土坑 4 区262 土層注記

- 1 オリーブ褐色土 VIII漸移層。VIII層ブロックを5%含む。
- 2 暗灰褐色土 VIII漸移層。VIII層ブロックを10%含む。
- 3 暗灰褐色土 VIII漸移層。VIII層ブロックを5%含む。

土坑 4 区263 土層注記

- 1 黒褐色土 VII層に類似。
- 2 オリーブ褐色土 VIII漸移層に類似。VIII層ブロック(径10mm)を10%含む。
- 3 オリーブ褐色土 2に類似。VIII層ブロック(径10~50mm)を30%含む。
- 4 暗オリーブ褐色土 VIII漸移層に類似。VIII層小ブロック(径10mm以下)を5%含む。
- 5 暗オリーブ褐色土 4に類似。VIII層ブロック(径10~30mm)を30%含む。
- 6 暗オリーブ褐色土 4に類似。VIII層ブロック(径10~20mm)を10%含む。

土坑 4 区302 土層注記

- 1 オリーブ褐色土 軽石(径2mm)を微量含む。
- 2 オリーブ褐色土 1層より やや明るい。軽石(径2mm以下)を1%含む。

3 暗オリーブ褐色土 VIII層ブロック(径15mm程度)を1%含む。

土坑 4 区314 土層注記

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質。白色軽石(径1~2mm)を1%弱含む。VIII層粒(径1~2mm)・炭化物(径3mm)を微量含む。
- 2 褐色土 シルト質。白色軽石(径1mm)・VIII層粒(径1~2mm)を微量含む。VIII層ブロック(径20mm程度)を3%含む。
- 3 暗褐色土 シルト質。白色軽石(径1mm)・VIII層粒(径1~2mm)を微量含む。VIII層ブロック(径20~40mm)20%含む。
- 4 黒褐色土 粘質土。VIII層ブロック(径2~20mm)を20%含む。

土坑 4 区315 土層注記

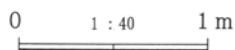
- 1 にぶい黄褐色土 シルト質。白色軽石(径1~2mm)1%・VIII層粒(径1~2mm)1%弱を含む。
- 2 褐色土 シルト質。白色軽石(径1~2mm)微量。VIII層粒(径1~2mm)1%弱を含む。VIII層が縞状に10%混入。
- 3 黒褐色土 黒褐色粘質土とVIII層の混合土。(4:1)

土坑 4 区317 土層注記

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質。VIII層粒1%弱含む。VIII層が縞状に3%混入。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質。VIII層ブロック(径5~20mm)を5%含む。
- 3 黒褐色土 シルト質。VIII層ブロック(径5~20mm)を20%含む。

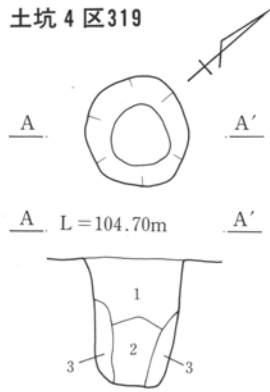
土坑 4 区318 土層注記

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質。白色軽石(径1mm)を微量含む。
- 2 褐色土 シルト質。白色軽石(径1~3mm)1%とVIII層粒(径1~2mm)を含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質。白色軽石(径1mm)極微量・VIII層粒(径1~2mm)微量含む。

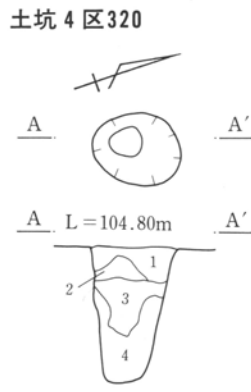


33図 土坑 4 区262・263・302・303・314・315・316・317・318遺構図

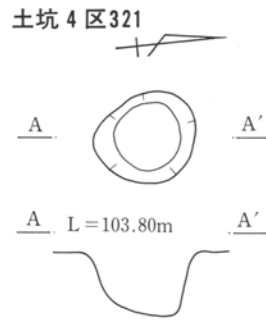
土坑 4 区319



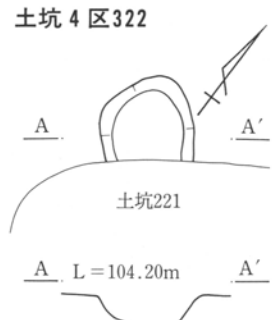
土坑 4 区320



土坑 4 区321



土坑 4 区322



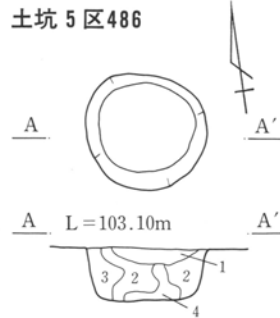
土坑 4 区319 土層注記

- 1 黒褐色土 シルト質。白色軽石(径1~2mm)微量・VIII層粒(径1~3mm)1%・炭化粒(径2mm)微量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 粘質土。白色軽石(径1mm)微量・VIII層粒(径1~3mm)1%・炭化粒(径2mm)微量含む。
- 3 黒褐色土 シルト質。VIII層粒(径1~3mm)1%弱・炭化粒(径1mm)極微量含む。

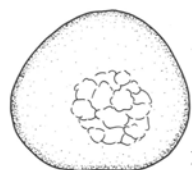
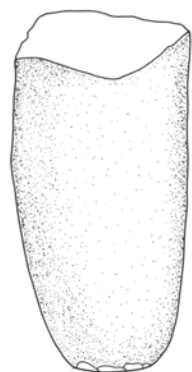
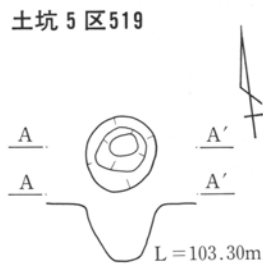
土坑 4 区320 土層注記

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質。白色軽石(径1~3mm)1%弱・VIII層ブロック(径5~20mm)1%・炭化物(径5mm)微量含む。
- 2 褐色土 シルト質。白色軽石(径1~3mm)1%弱・VIII層ブロック粒(径2~5mm)1%含む。
- 3 褐色土 シルト質。白色軽石(径1mm未満)極微量・VIII層ブロック粒(径1~5mm)1%弱含む。
- 4 にぶい褐色土 シルト質。VIII層ブロック粒(径1~3mm)を3%含む。

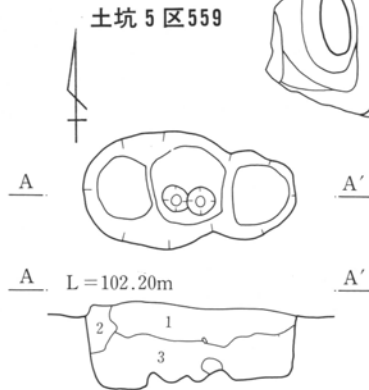
土坑 5 区486



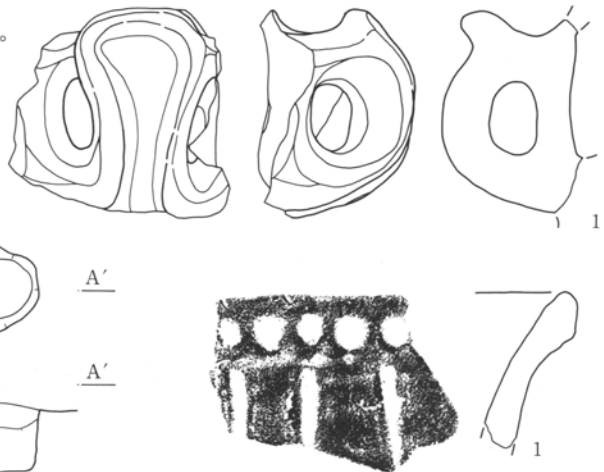
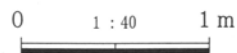
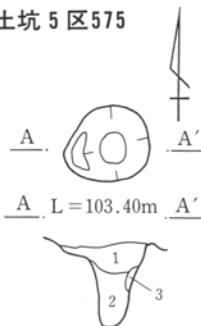
土坑 5 区519



土坑 5 区559



土坑 5 区575



土坑 5 区486 土層注記

- 1 黒褐色土 VII層に類似。VIII層ブロックを20%含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。白色粒20%・VIII層ブロック5%含む。
- 3 暗オリブ褐色土 VII層に類似。VIII層ブロックを30~50%含む。
- 4 黄褐色土 VIII層のブロック。

土坑 5 区559 土層注記

- 1 暗褐色土 VI層相当の土。As-Cを5~10%含む。
- 2 褐灰色土 1にシルト質土が混合。As-Cを2~3%含む。
- 3 暗褐色土 1にシルトブロック(径2~5cm)を1~3%含む。

土坑 5 区575 土層注記

- 1 にぶい黄橙色土 As-Y P(径1~3mm)を5%含む。
- 2 褐灰色土 As-Y Pを1%含む。
- 3 褐灰色土 As-Y Pを3%含む。

34図 土坑 4 区319・320・321・322・5 区486・519・559・575遺構図・遺物図

(9) 溝

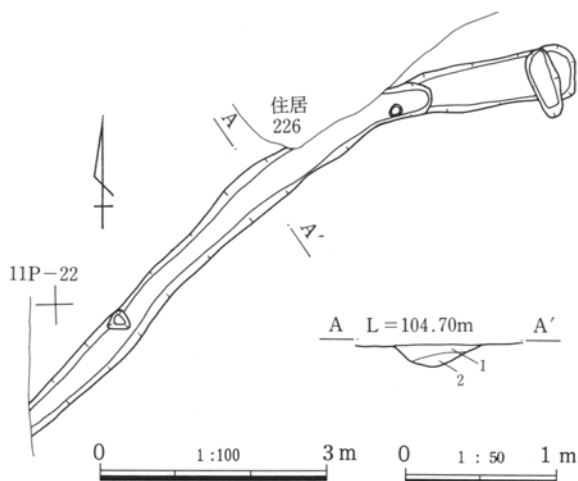
溝4区277

4区調査区北西部、11P-20・21グリッドに位置する。他遺構との重複関係は古墳時代古墳105、弥生時代住居226と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は東側を古墳105の周堀、西側が調査区外に存在するため不明瞭な点が多い。

形状は僅かに弧状を呈す。規模は全長8.86m、幅は0.42~0.60mで平均0.50m、深度5~10cmを測る。

埋没土は僅かにⅧ層ブロックをⅦ層に近い黒褐色土で埋没している。

遺物は土器が微細片が出土している程度である。



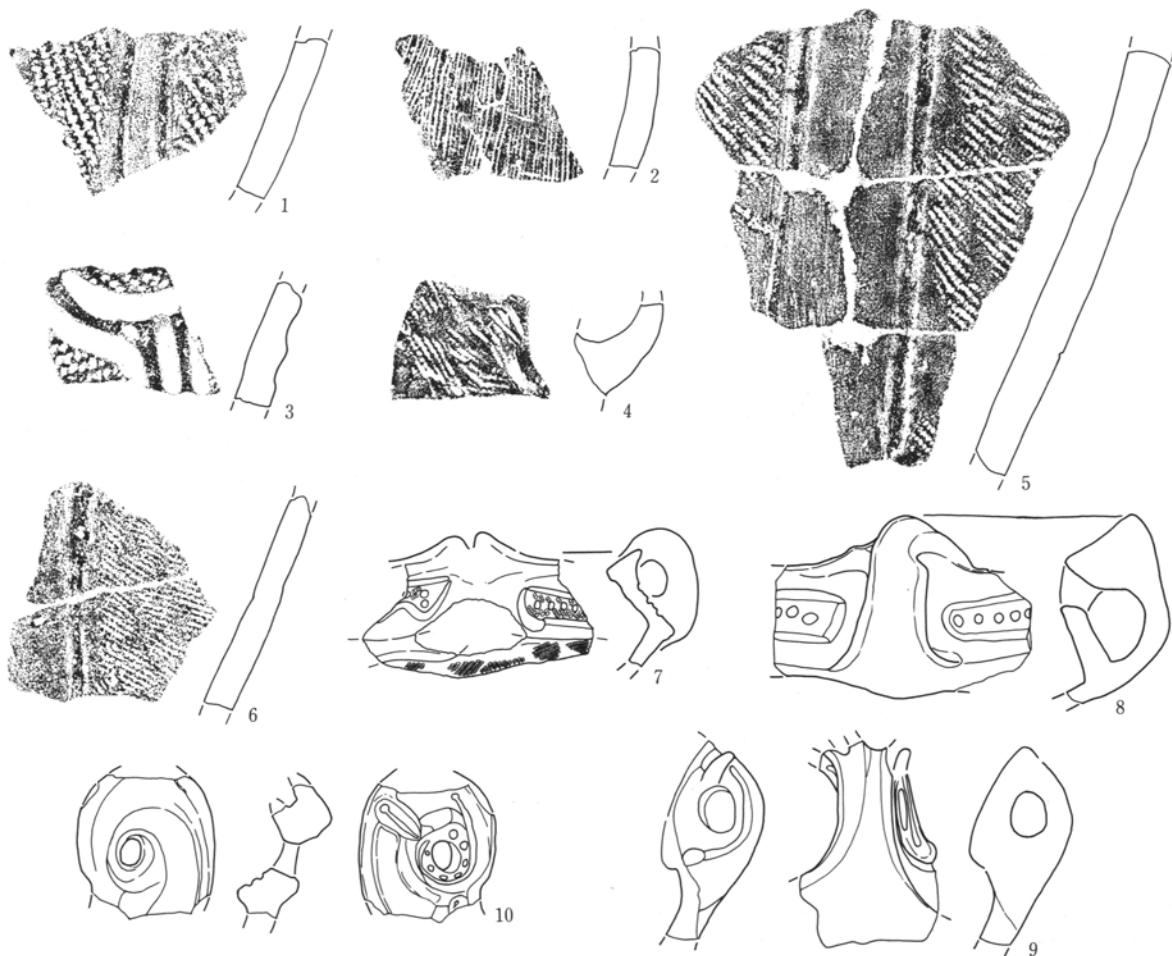
溝4区277 土層注記

- 1 黒褐色土 シルト質。Ⅶ層に類似。
- 2 黒褐色土 シルト質。Ⅶ層にⅧ層ブロック(径5mm)を1%含む。

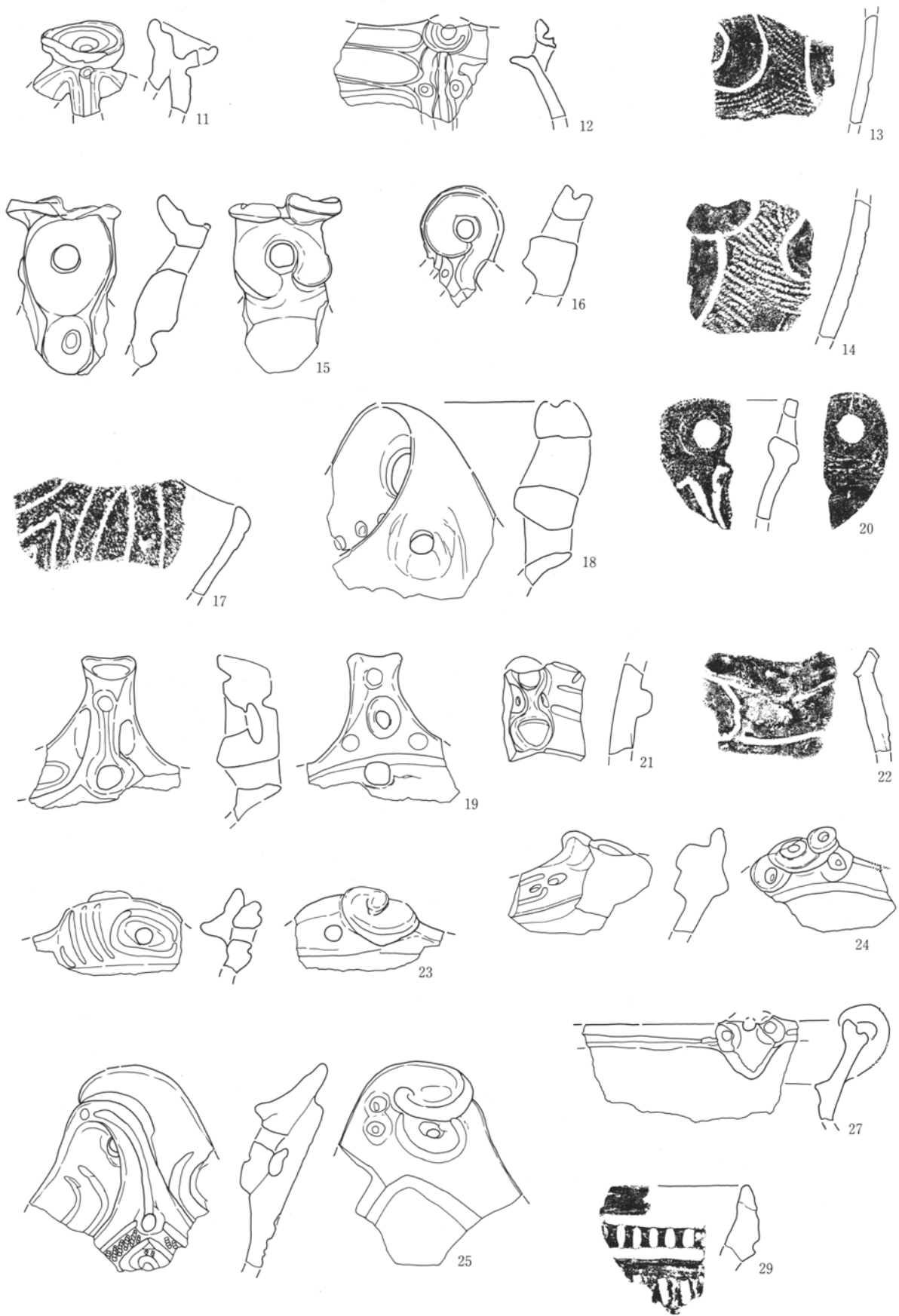
35図 溝4区277遺構図

(10) 遺構外出土遺物

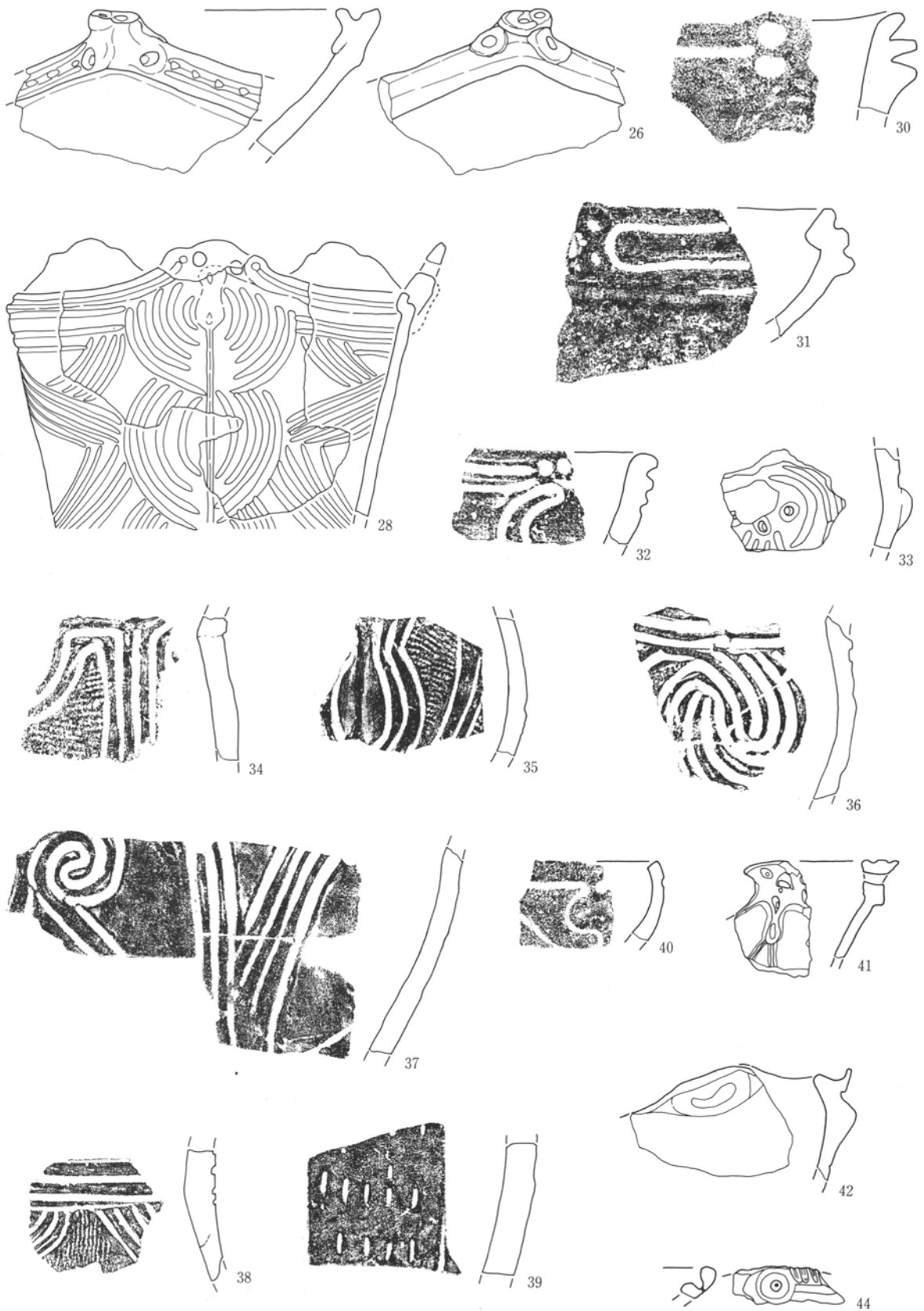
2区遺構外出土遺物



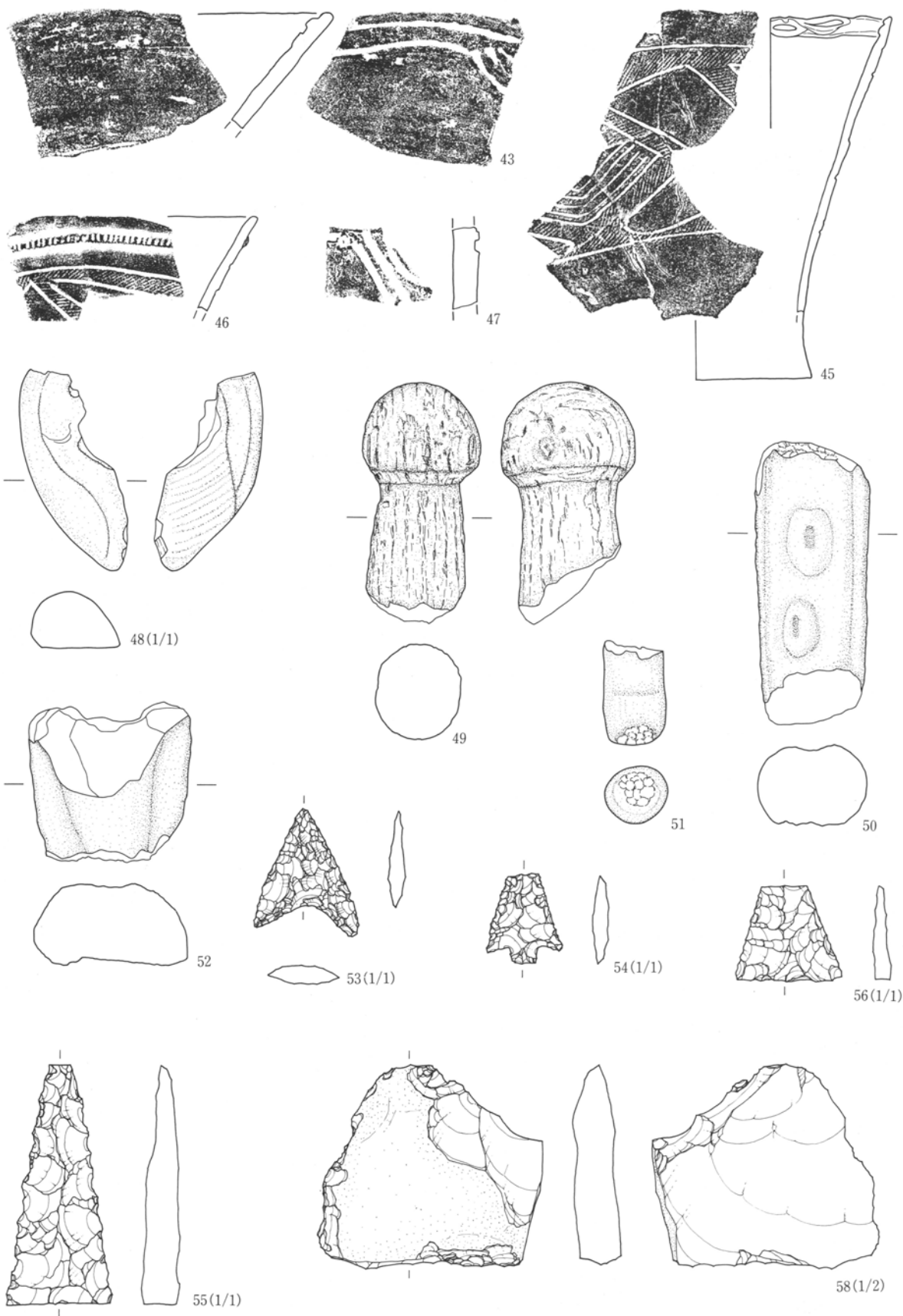
36図 縄文時代2区遺構外出土遺物 遺物図(1)



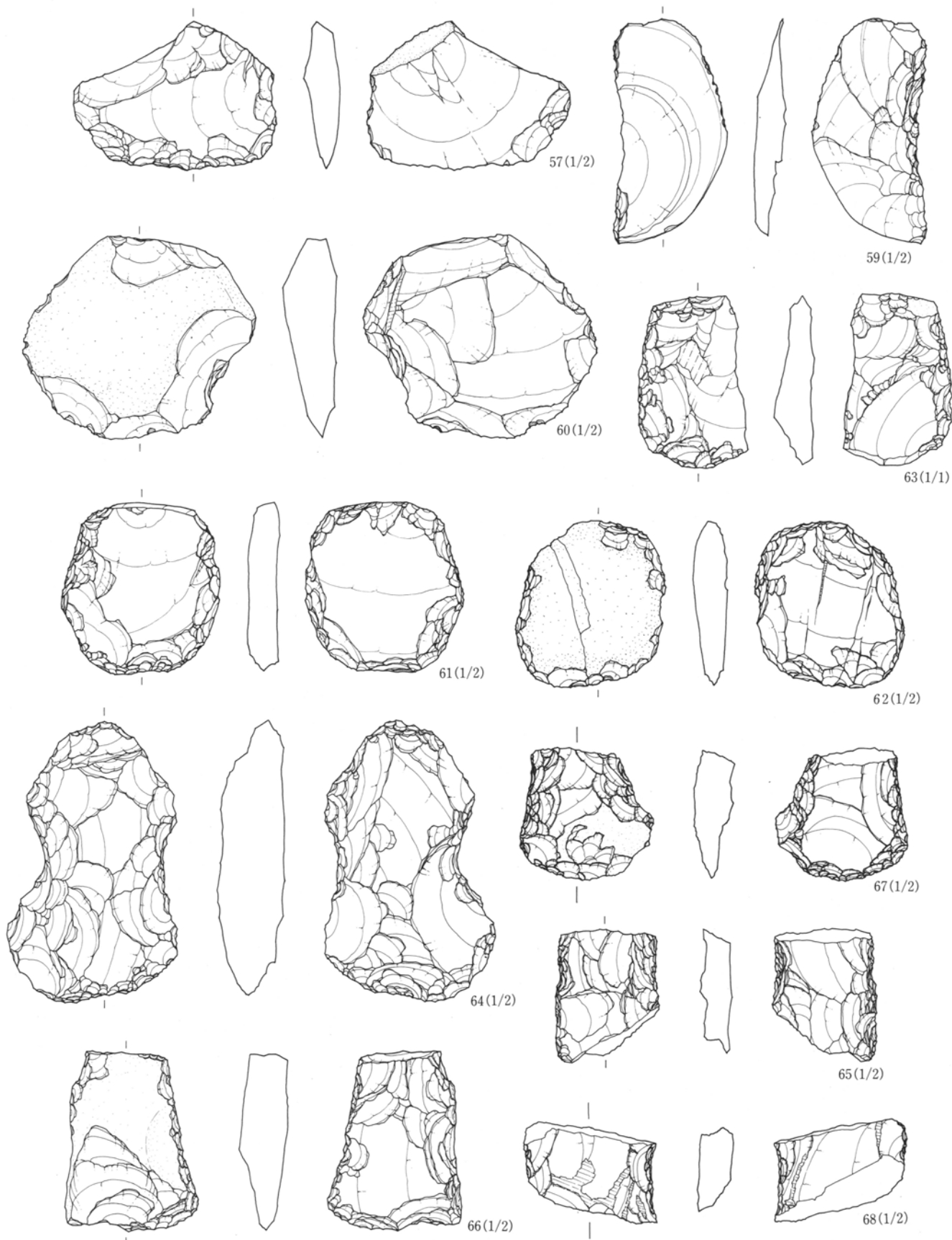
37図 縄文時代2区遺構外出土遺物 遺物図(2)



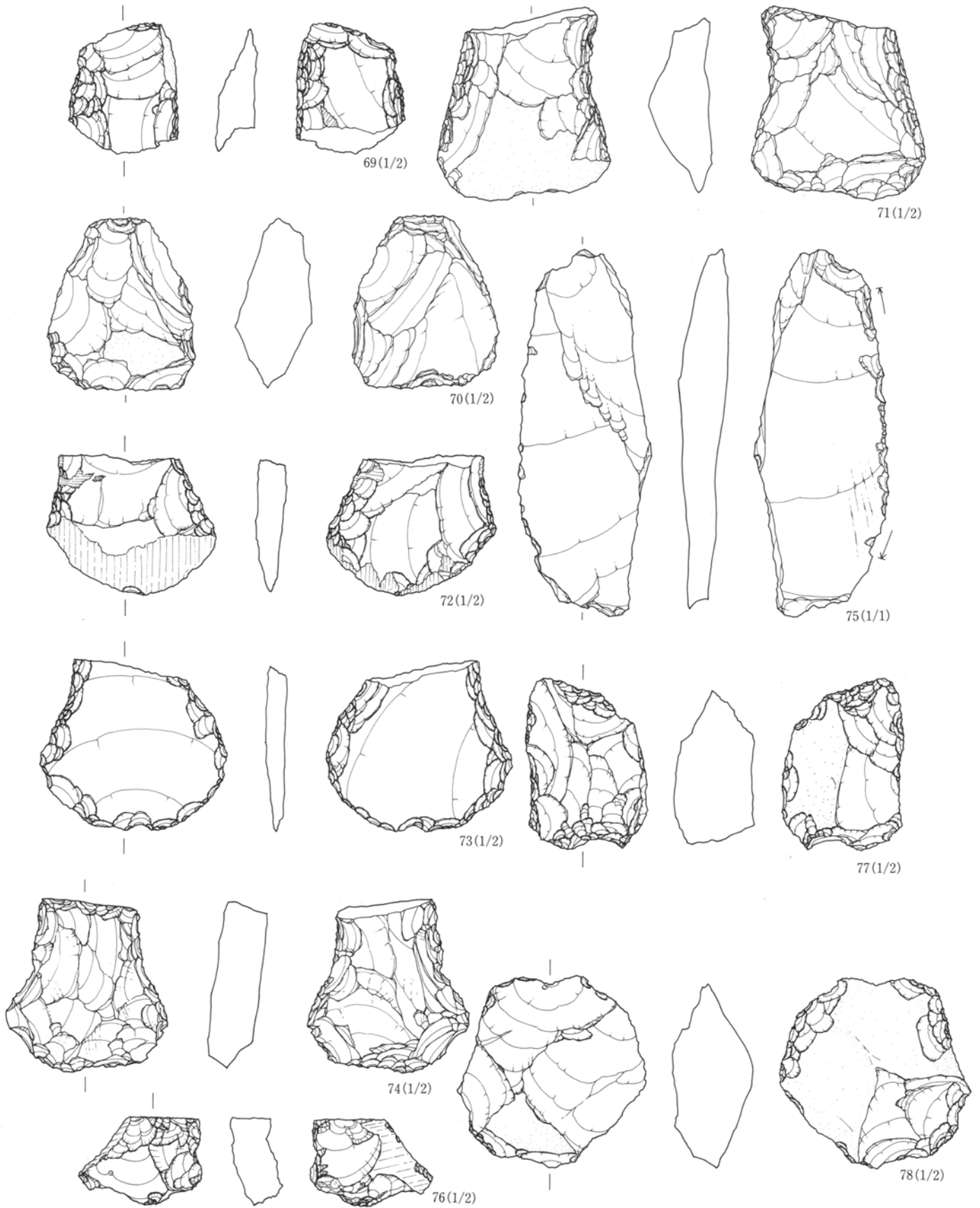
38図 縄文時代2区遺構外出土遺物 遺物図(3)



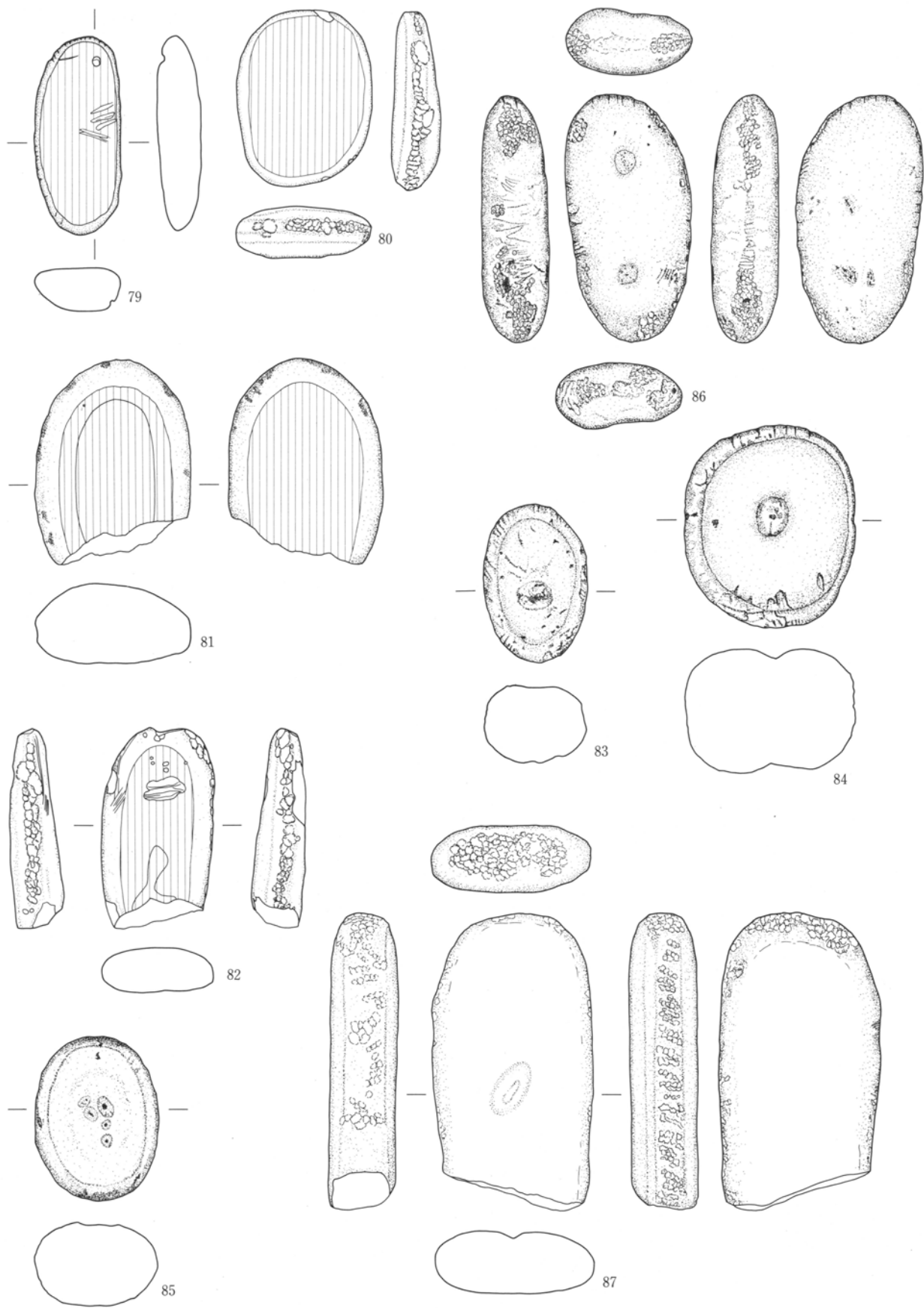
39図 縄文時代2区遺構外出土遺物 遺物図(4)



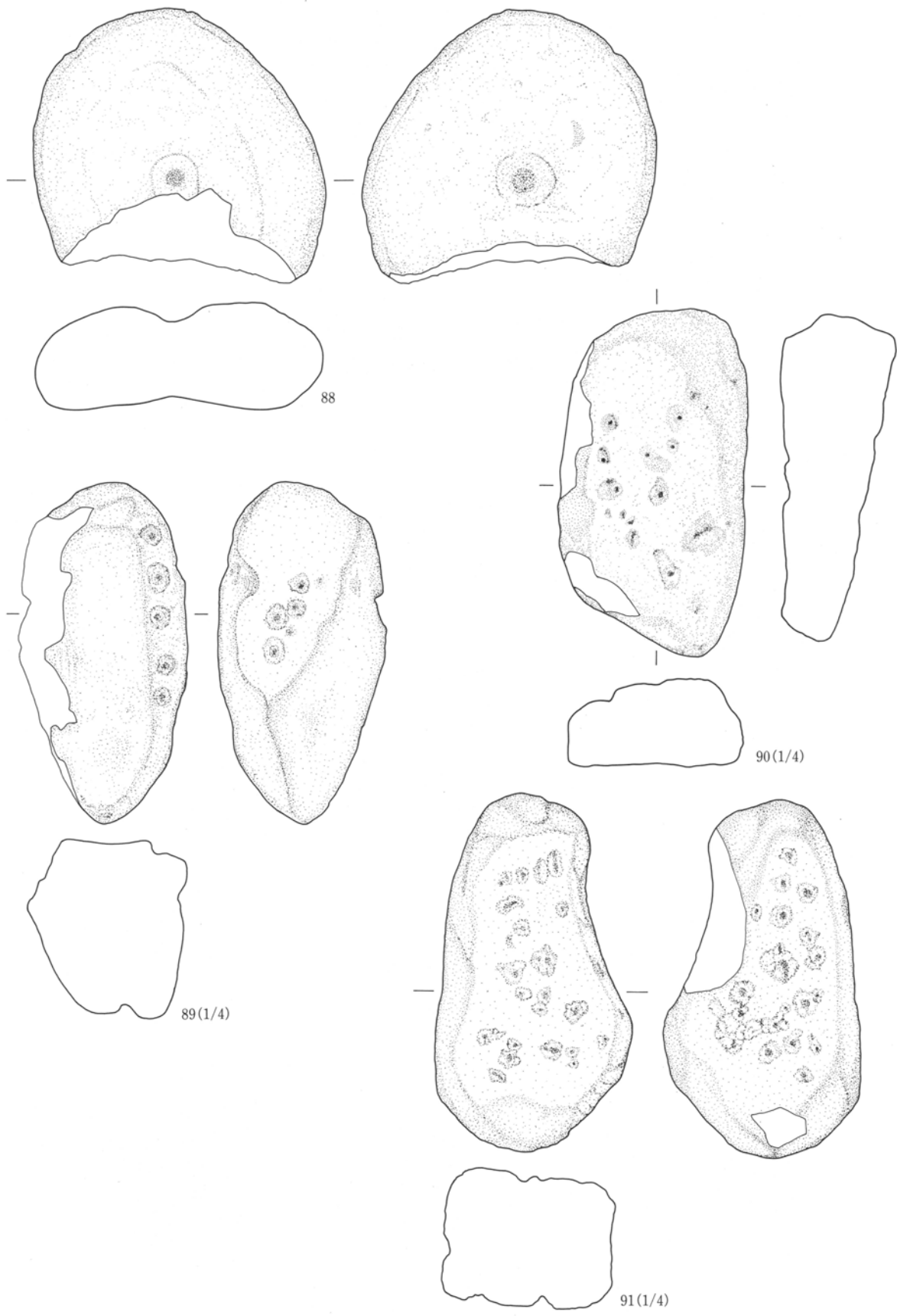
40図 縄文時代2区遺構外出土遺物 遺物図(5)



41図 縄文時代2区遺構外出土遺物 遺物図(6)

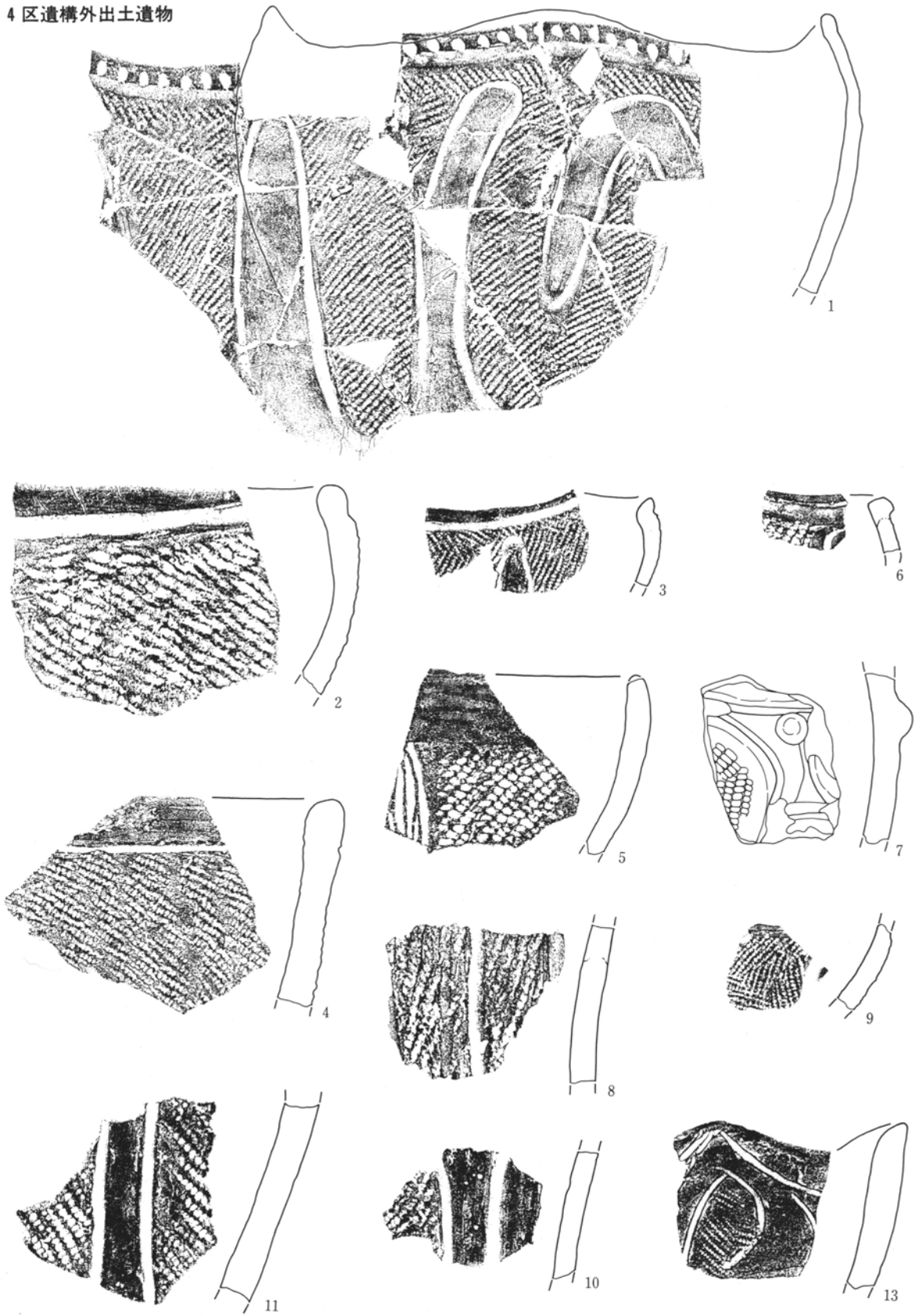


42図 縄文時代2区遺構外出土遺物 遺物図(7)

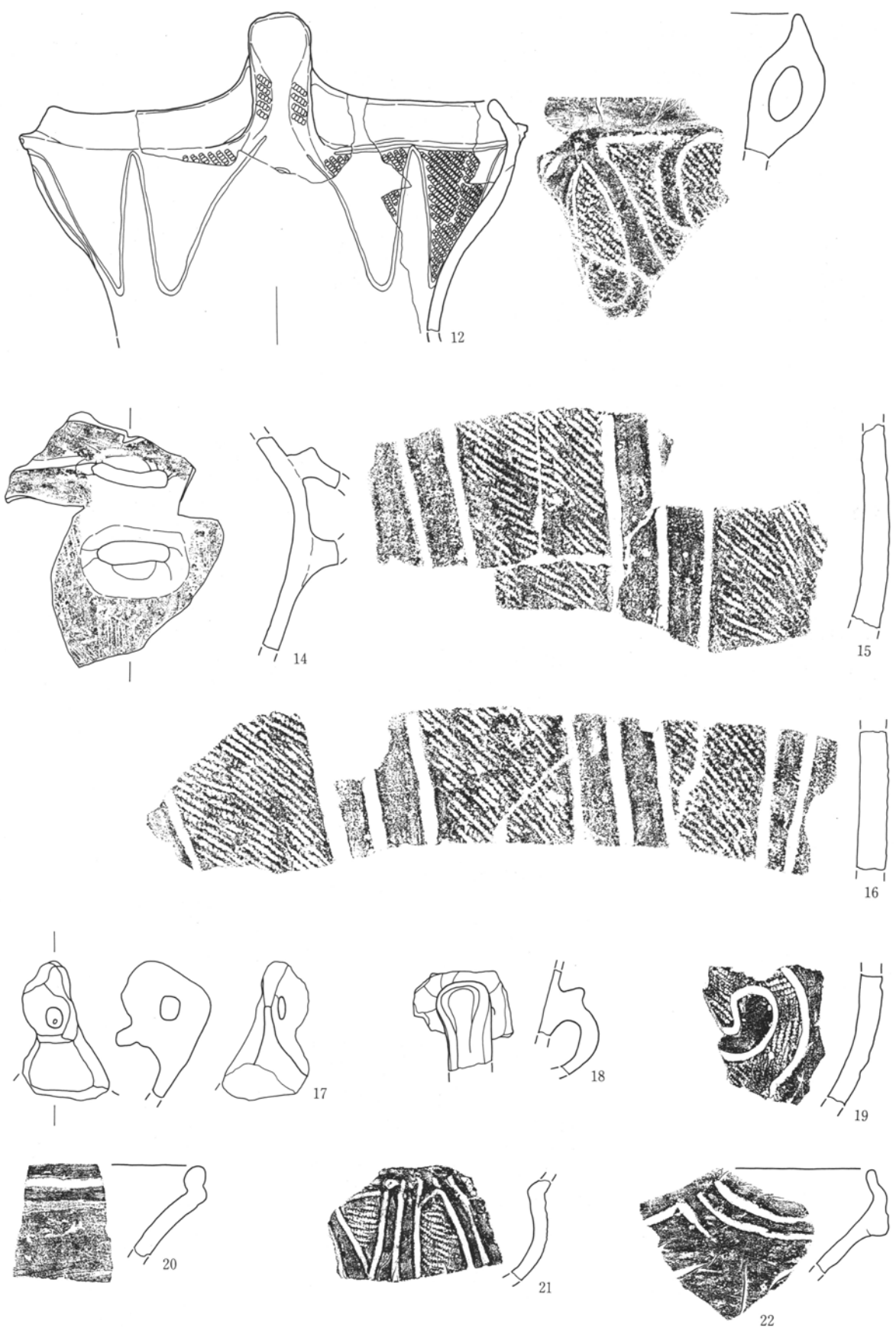


43図 縄文時代2区遺構外出土遺物 遺物図(8)

4区遺構外出土遺物



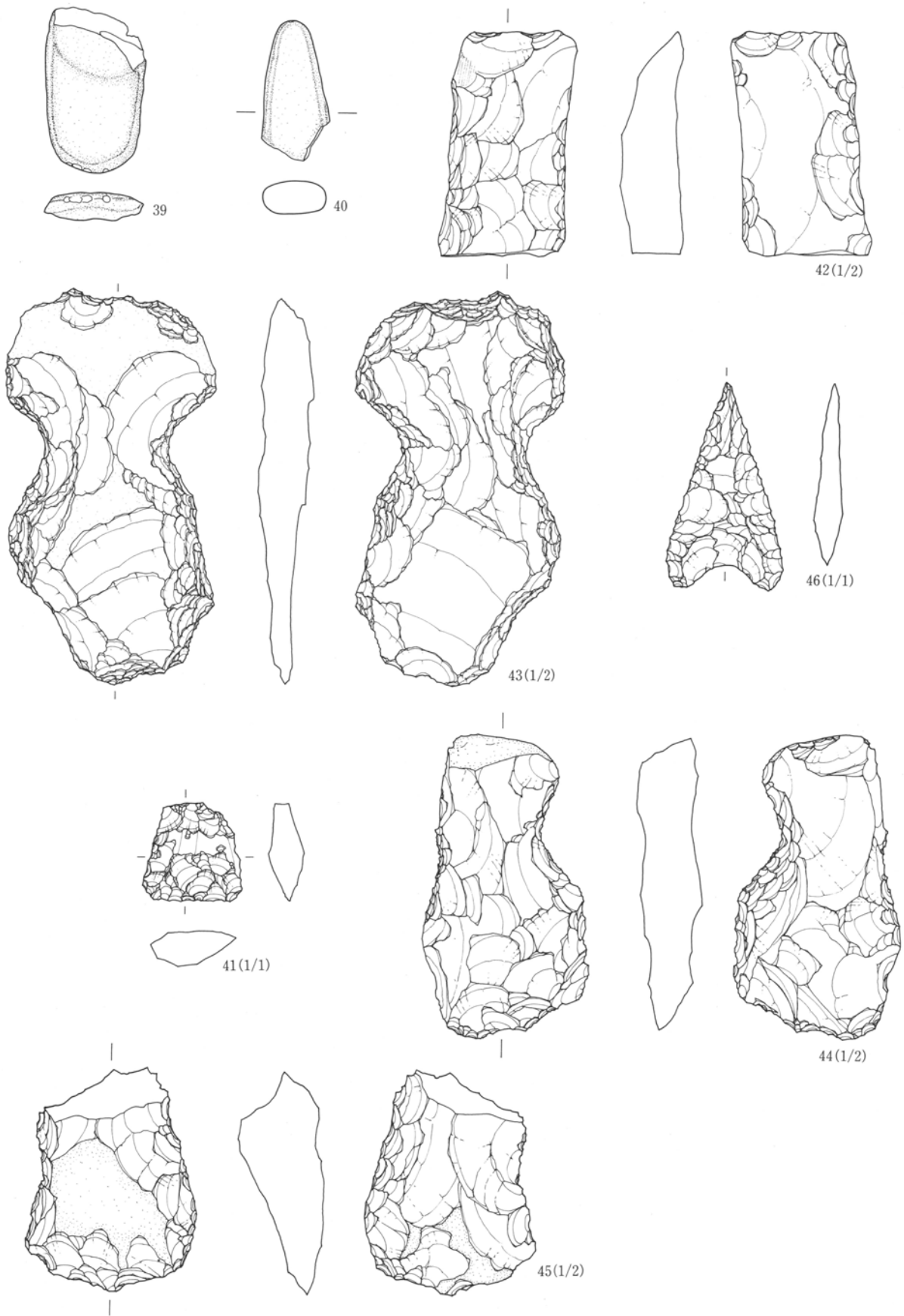
44図 縄文時代4区遺構外出土遺物 遺物図(1)



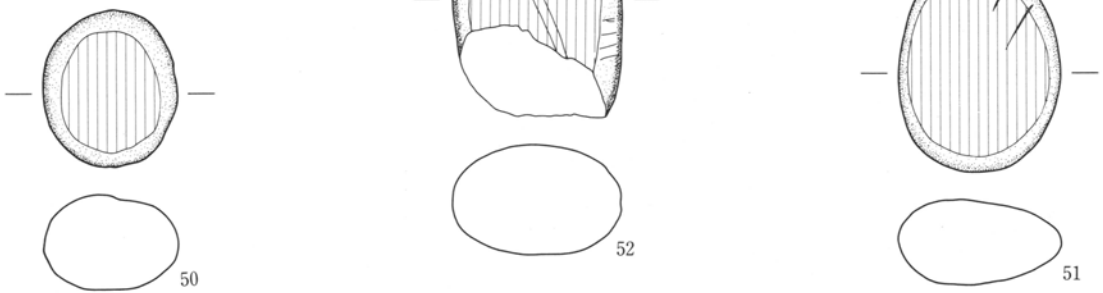
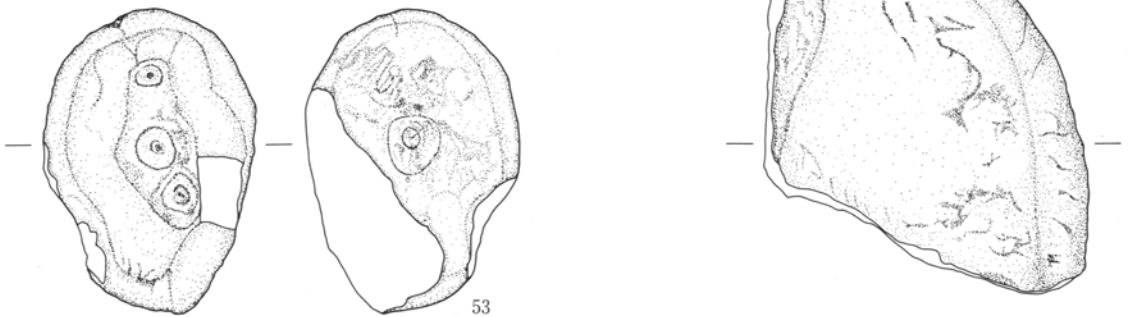
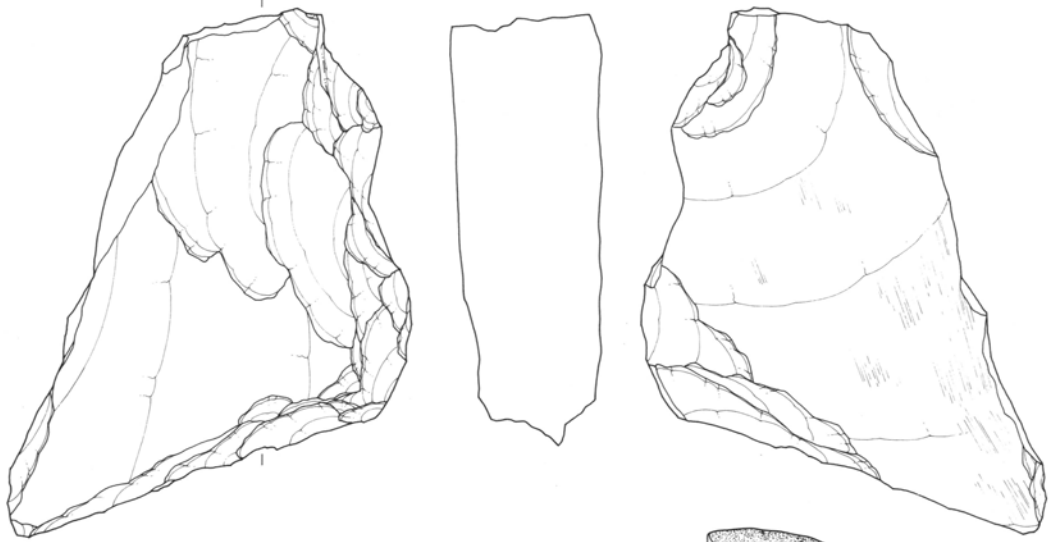
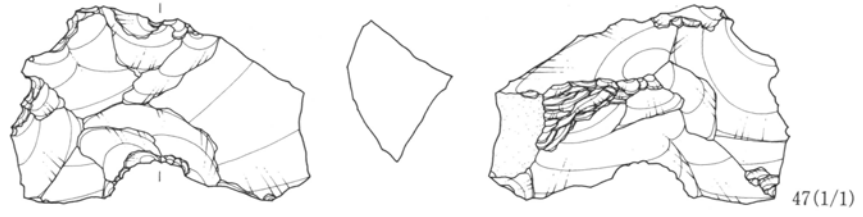
45図 縄文時代4区遺構外出土遺物 遺物図(2)



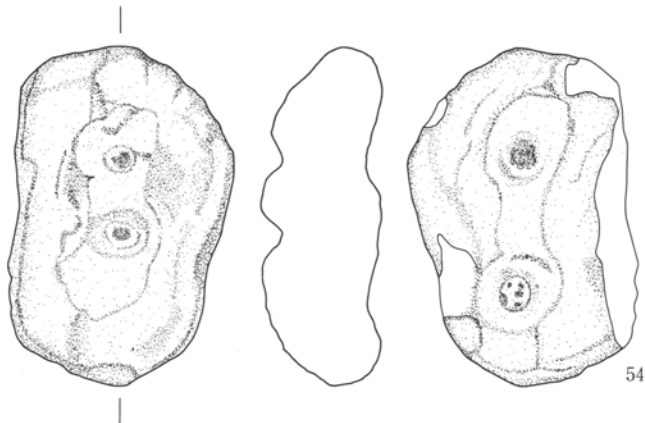
46図 縄文時代4区遺構外出土遺物 遺物図(3)



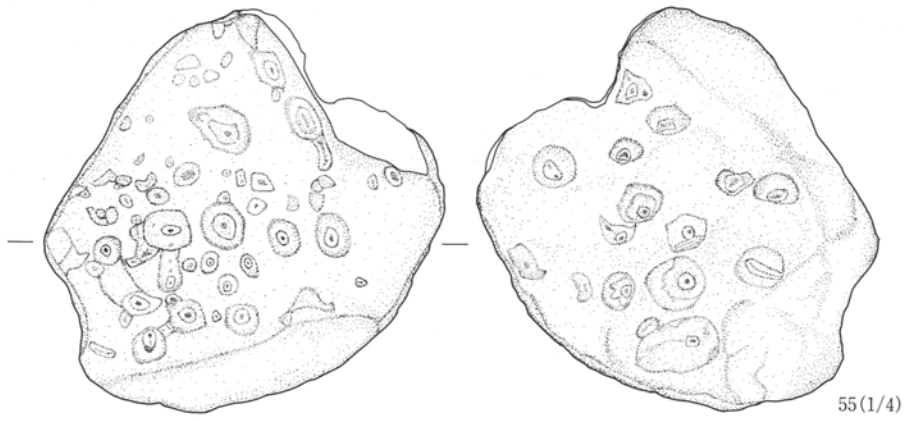
47図 縄文時代4区遺構外出土遺物 遺物図(4)



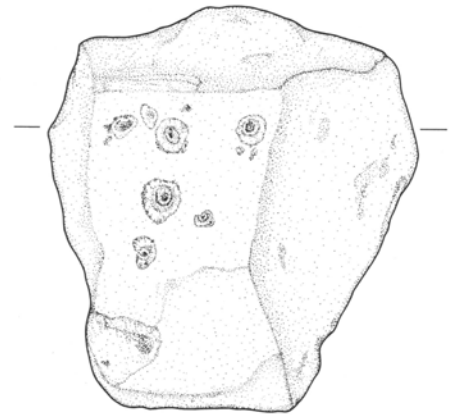
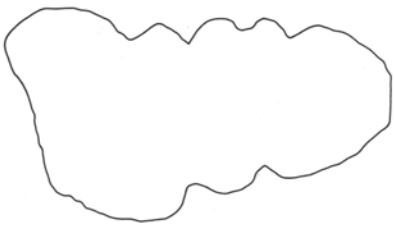
48図 縄文時代4区遺構外出土遺物 遺物図(5)



54



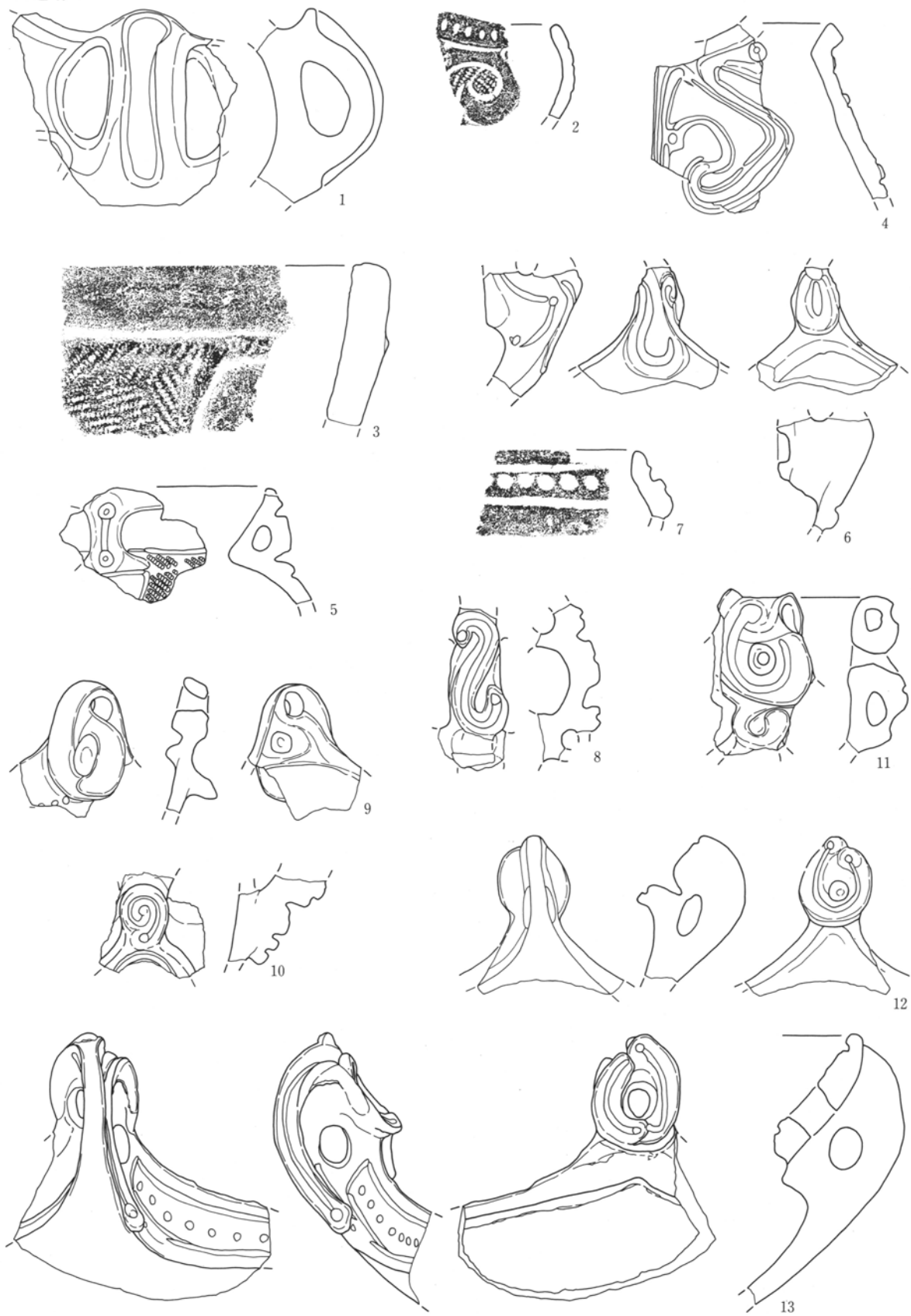
55(1/4)



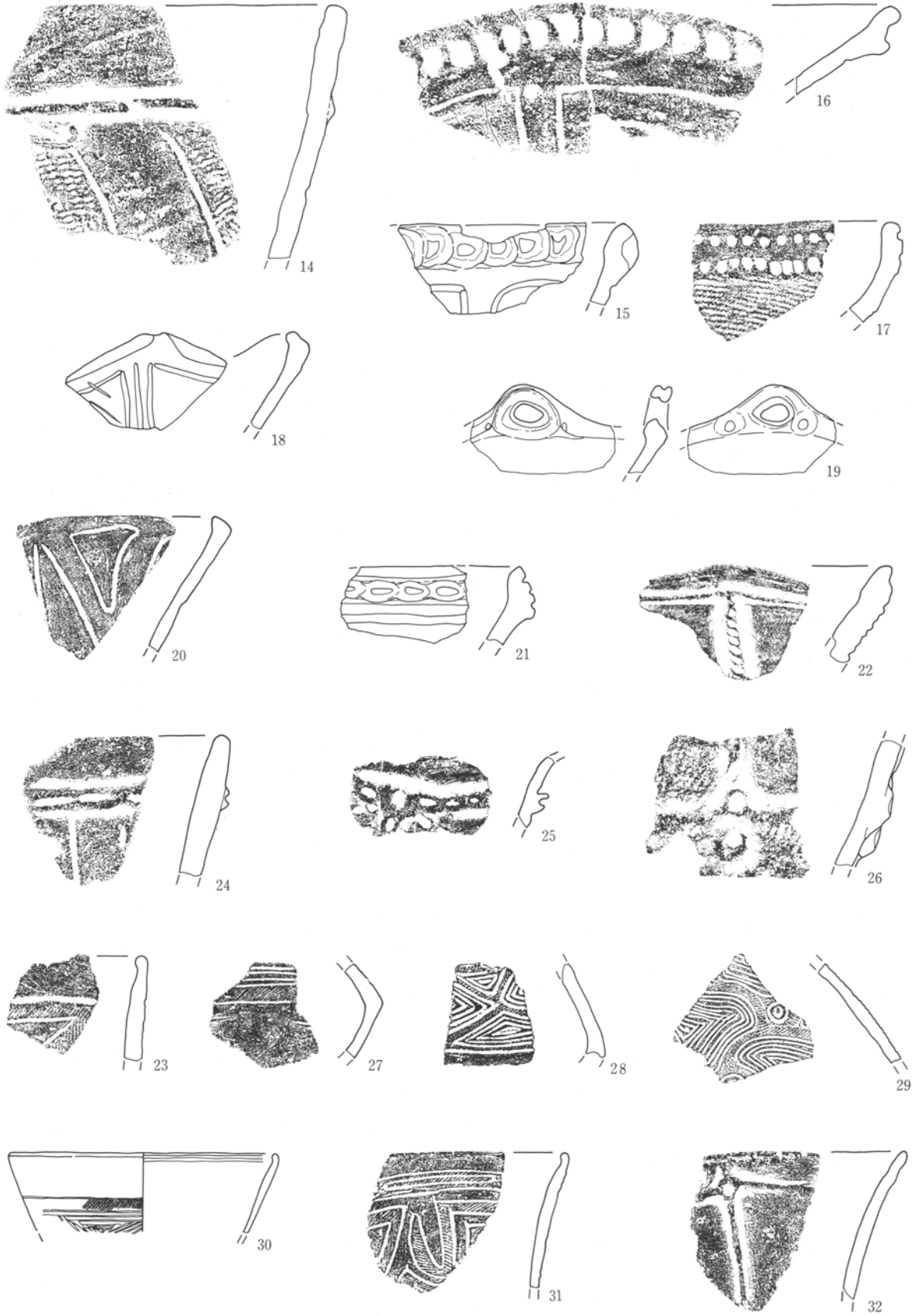
56(1/4)

49図 縄文時代4区遺構外出土遺物 遺物図(6)

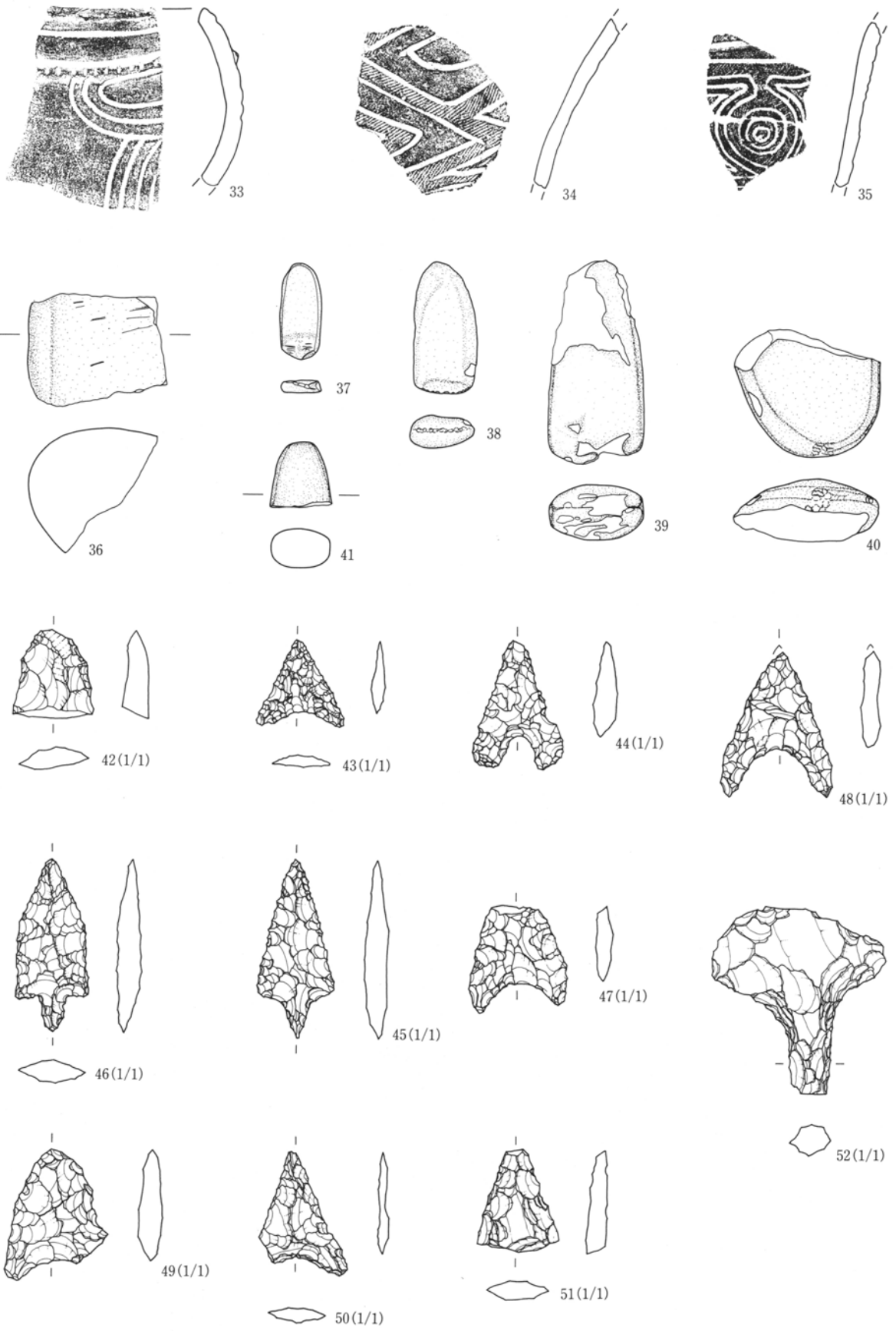
5区遺構外出土遺物



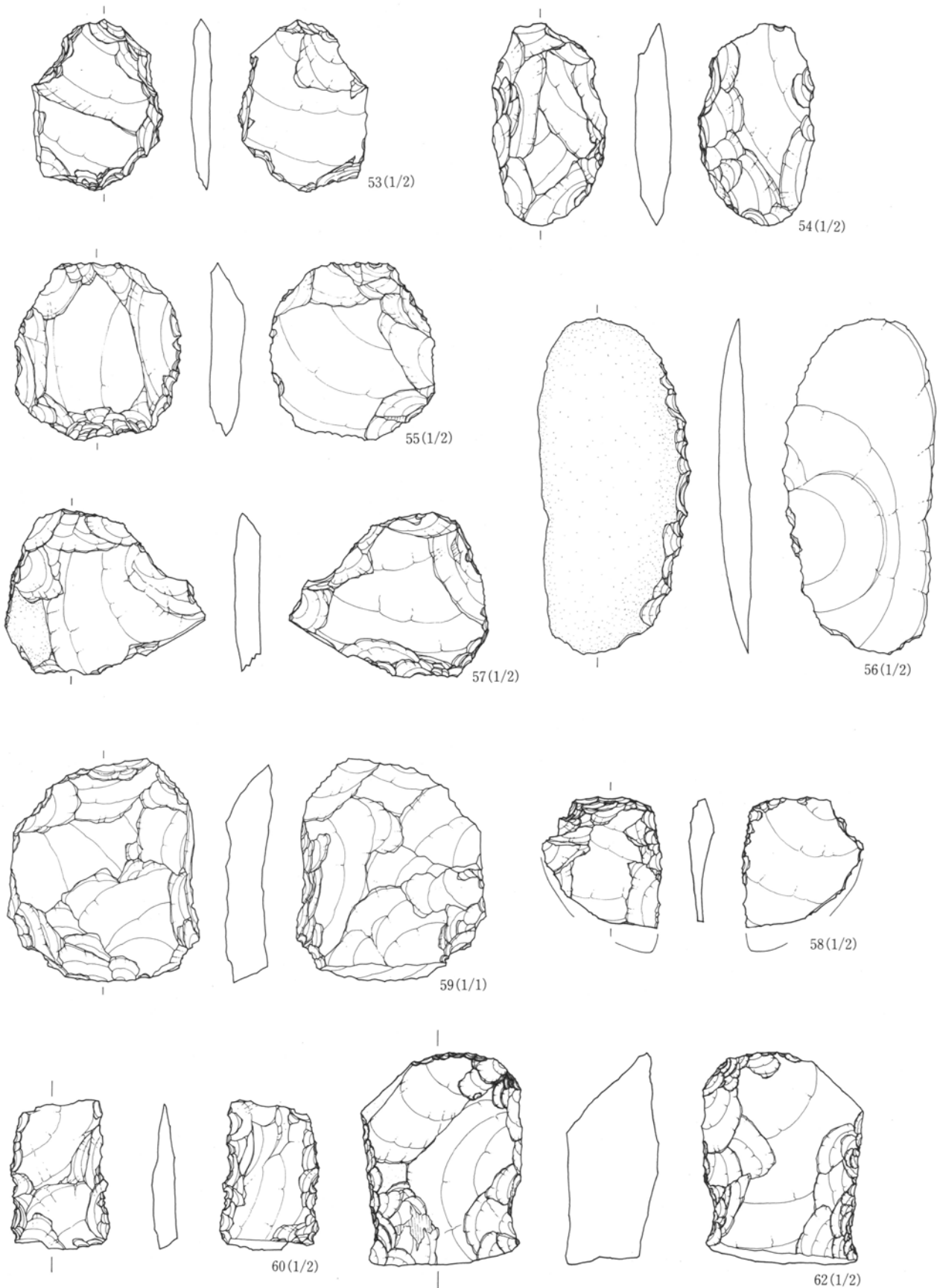
50図 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(1)



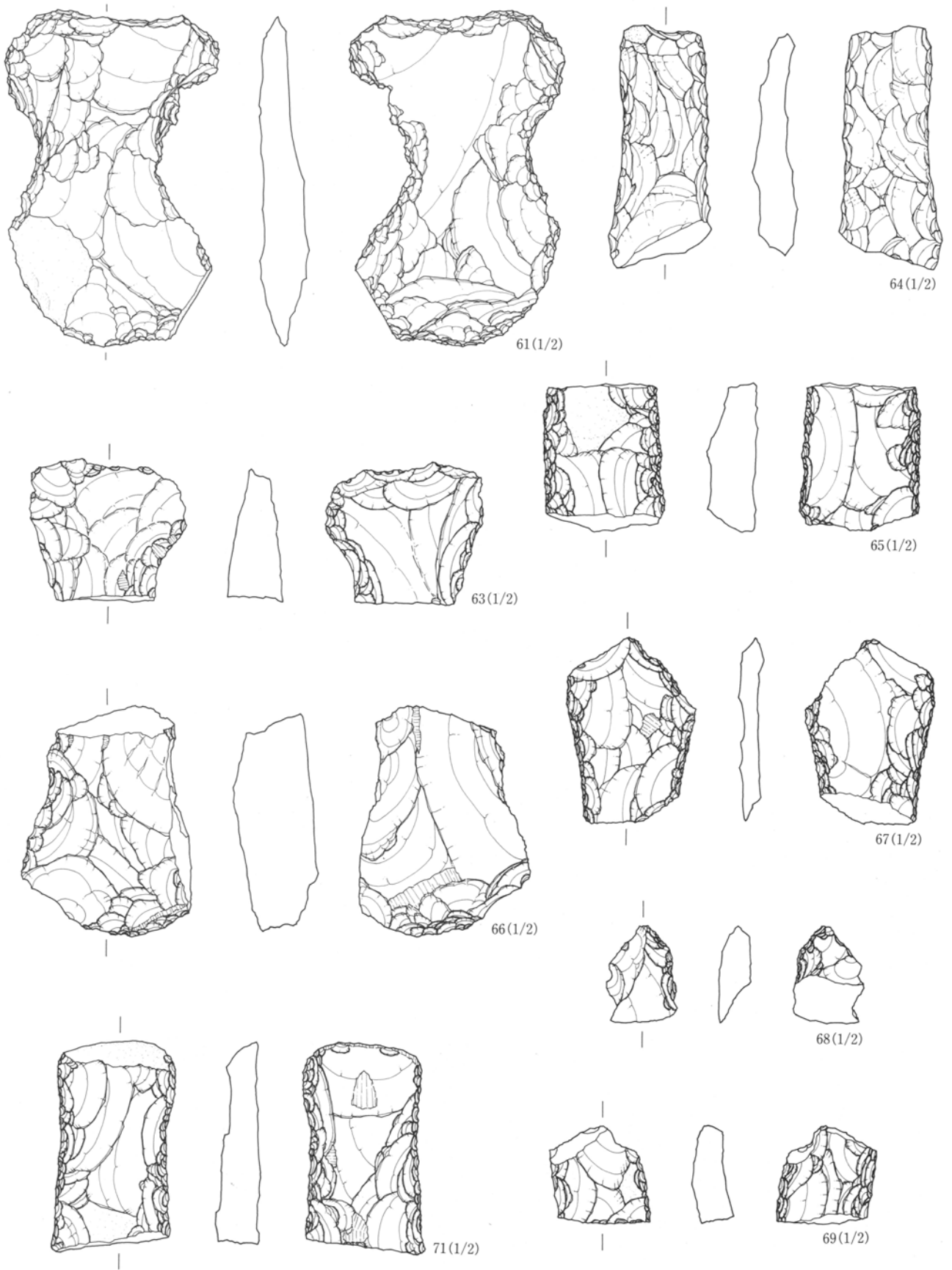
51図 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(2)



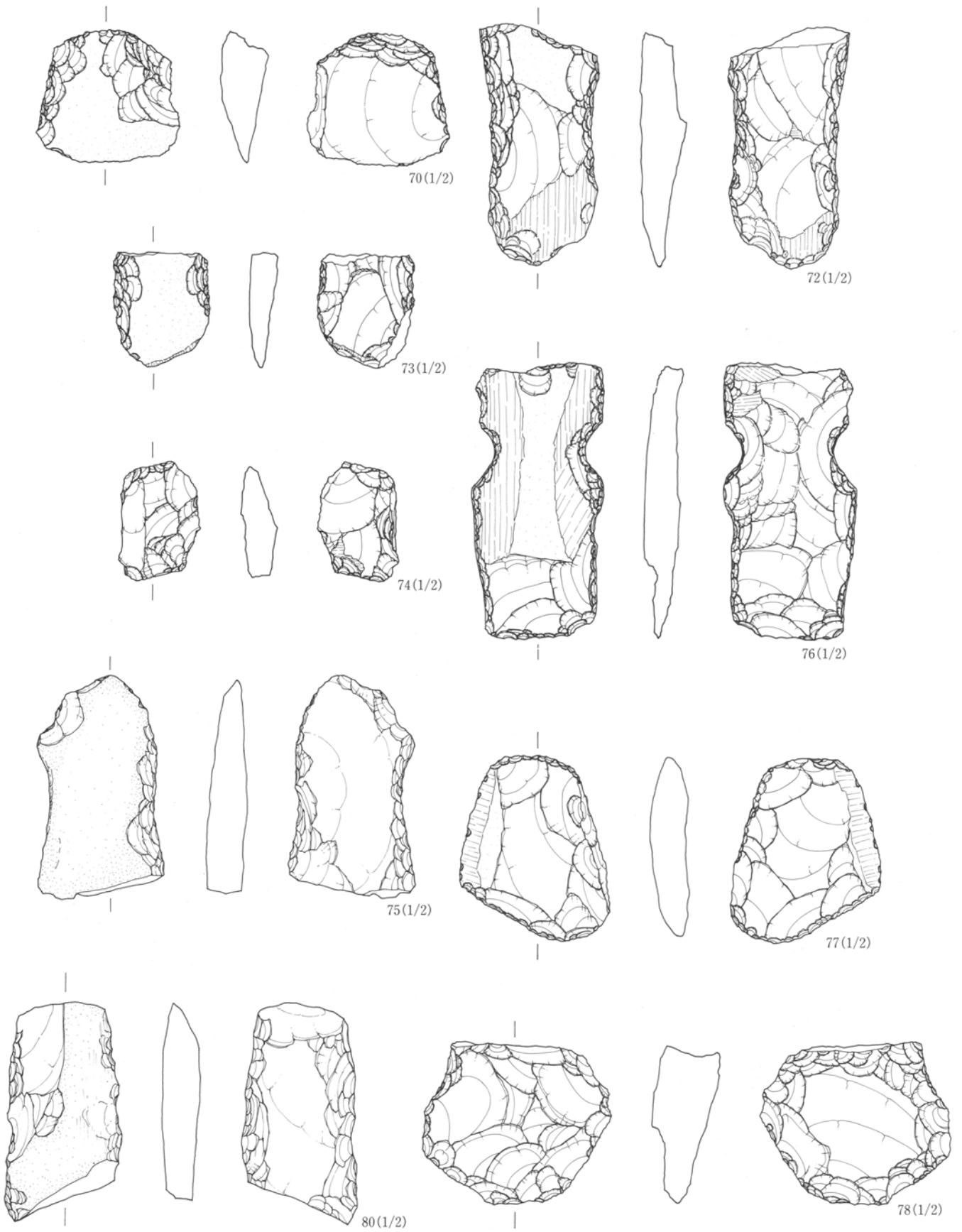
52図 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(3)



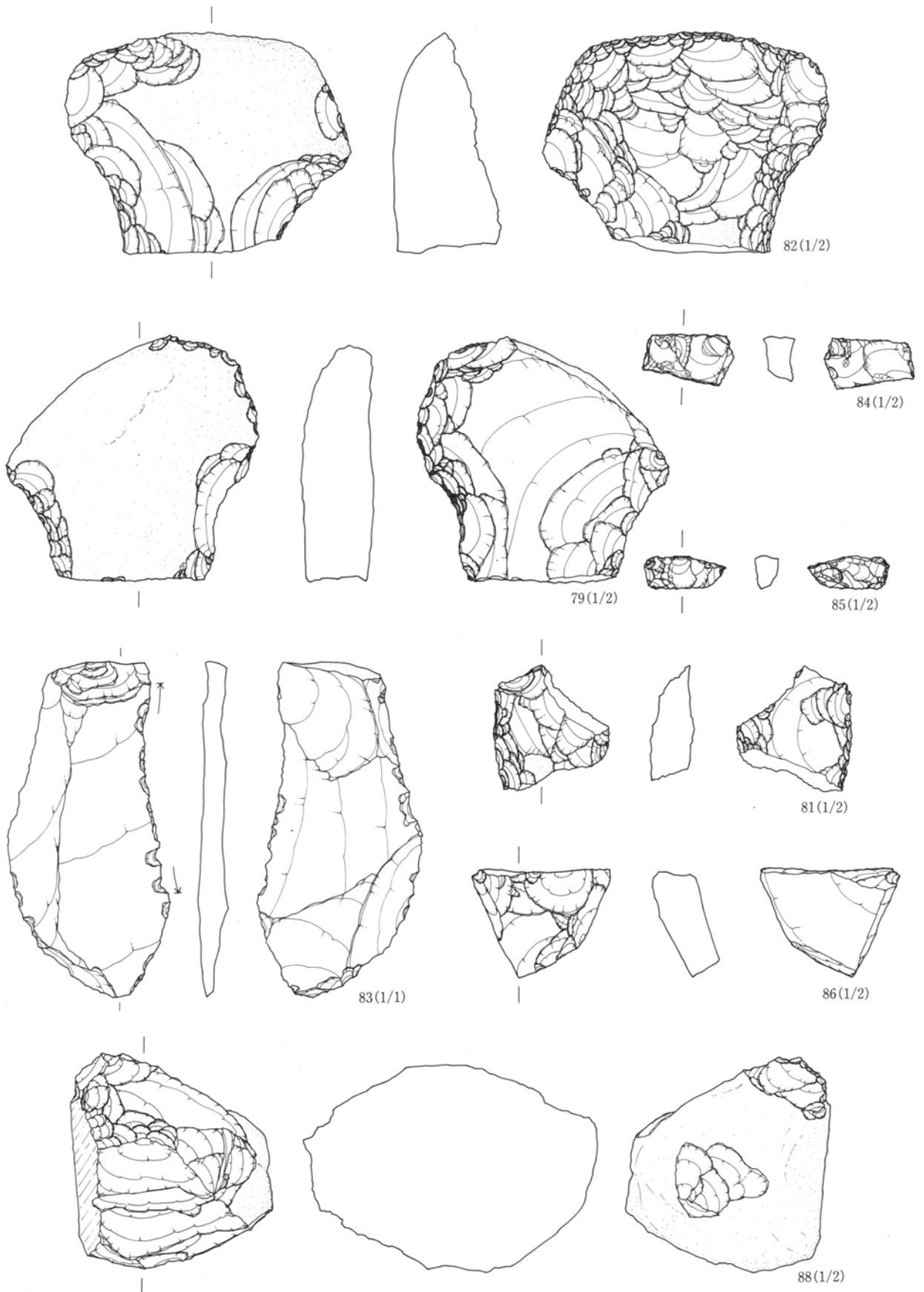
53図 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(4)



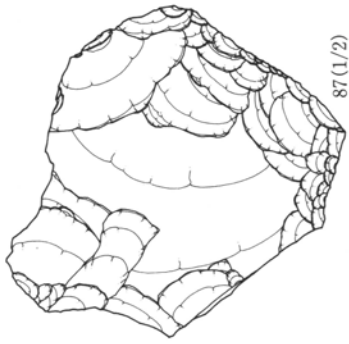
54図 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(5)



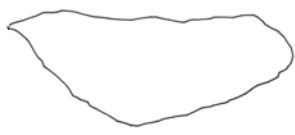
55図 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(6)



56図 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(7)



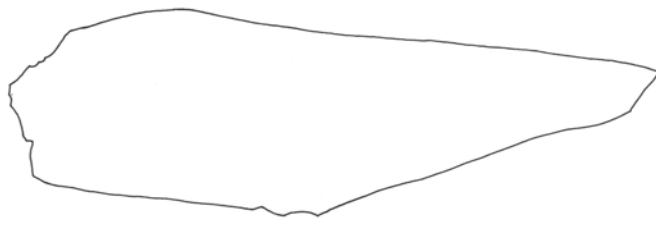
87(1/2)



89(1/1)



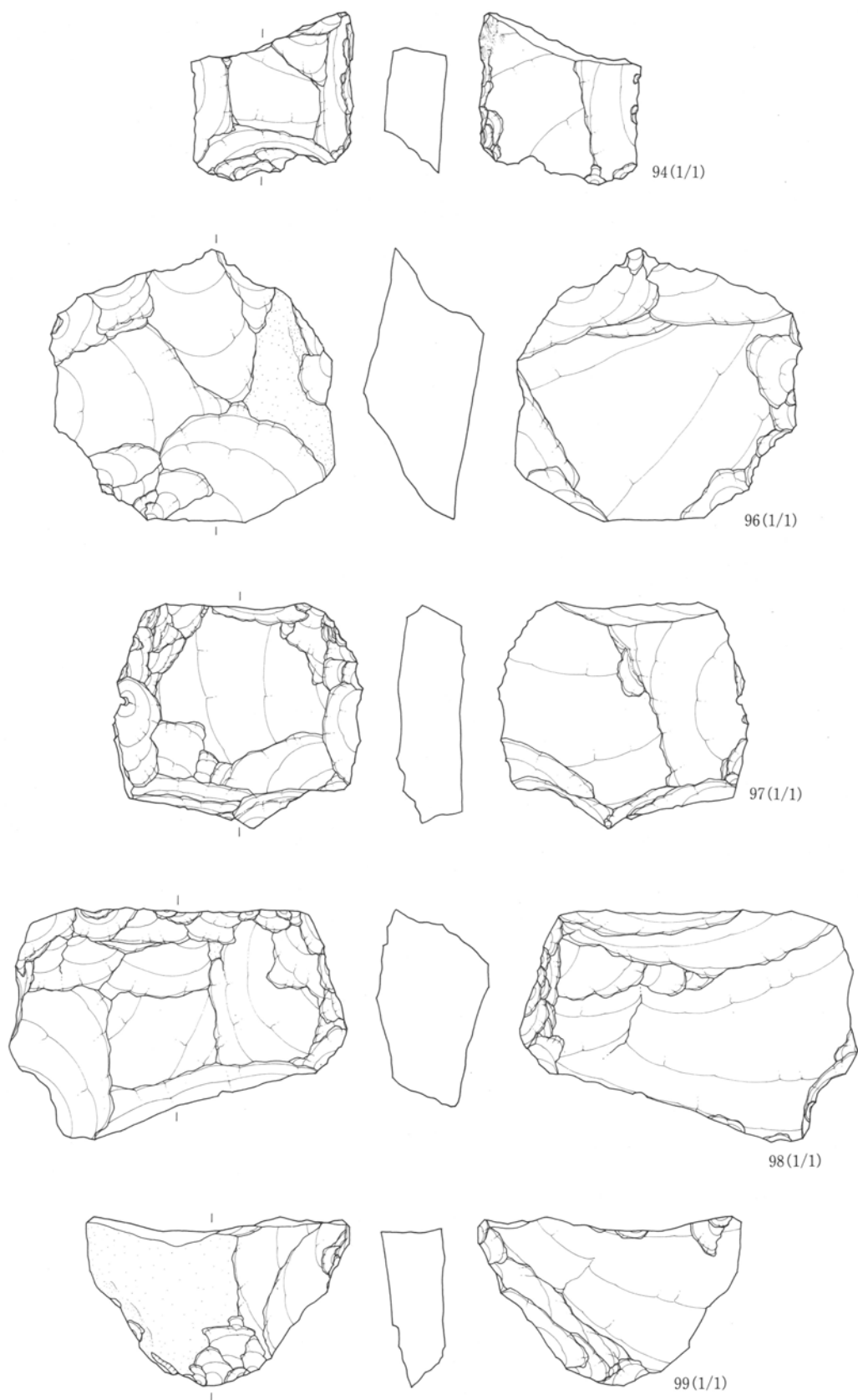
93(1/1)



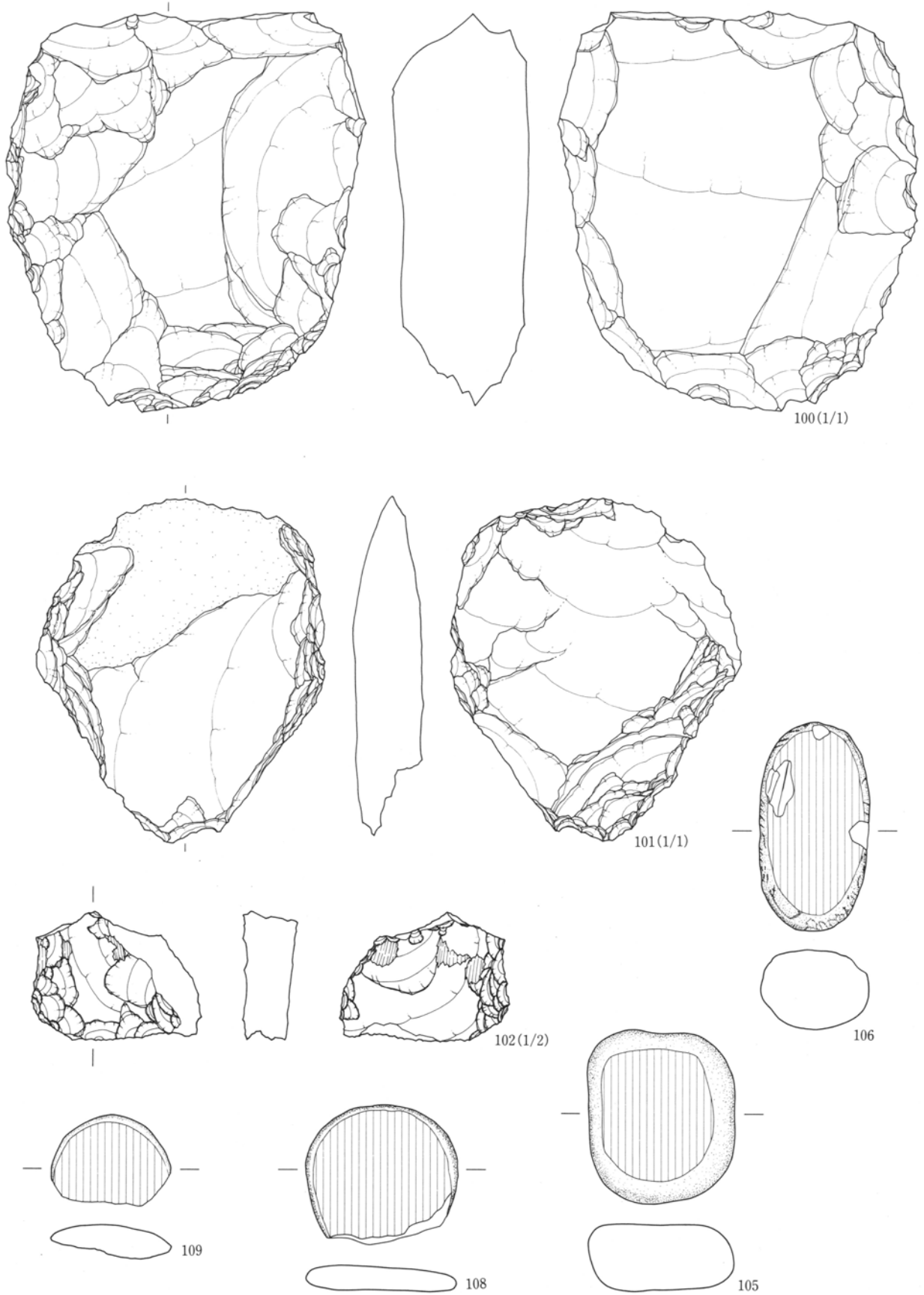
57図 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(8)



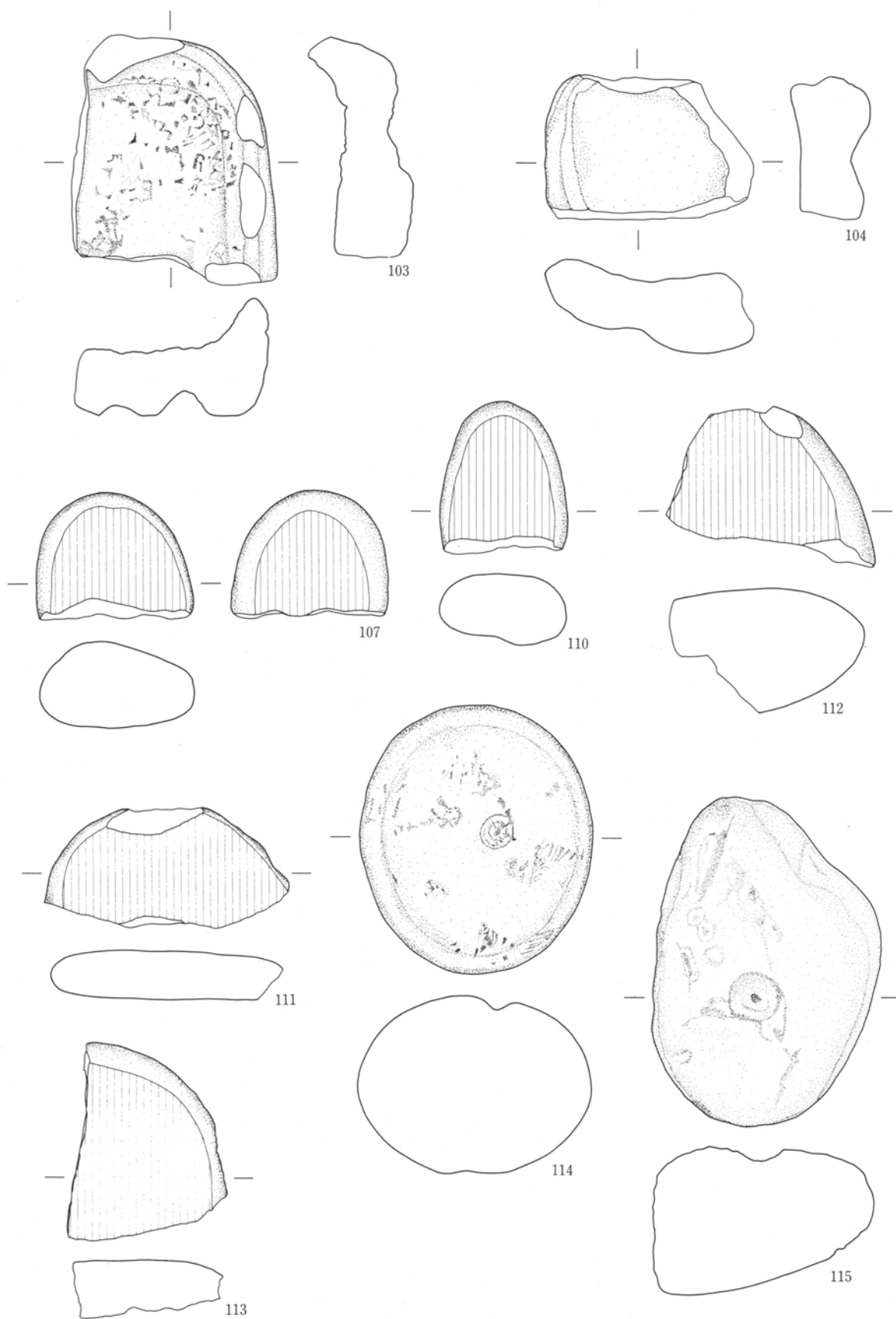
58図 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(9)



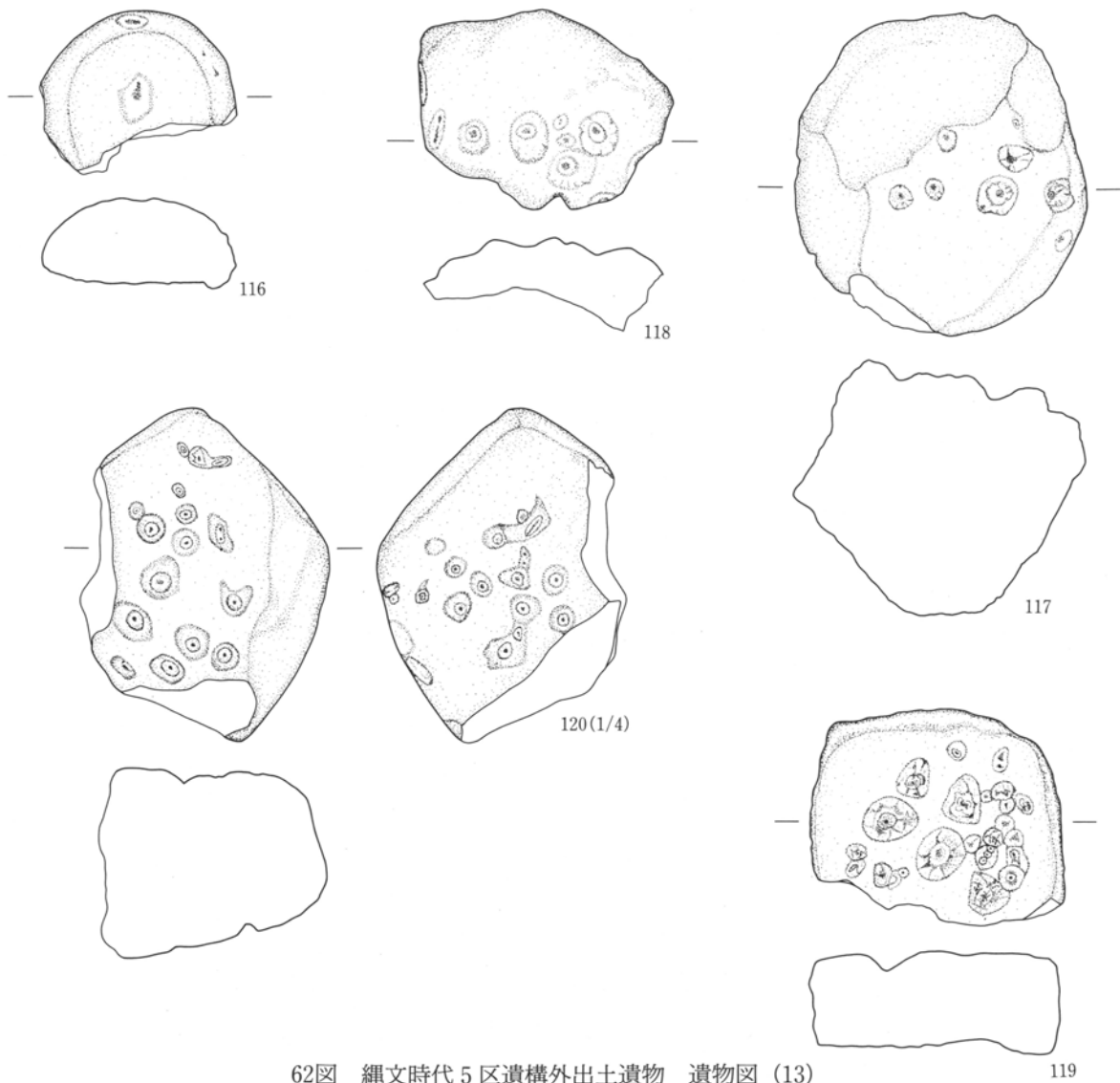
59図 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(10)



60図 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(11)

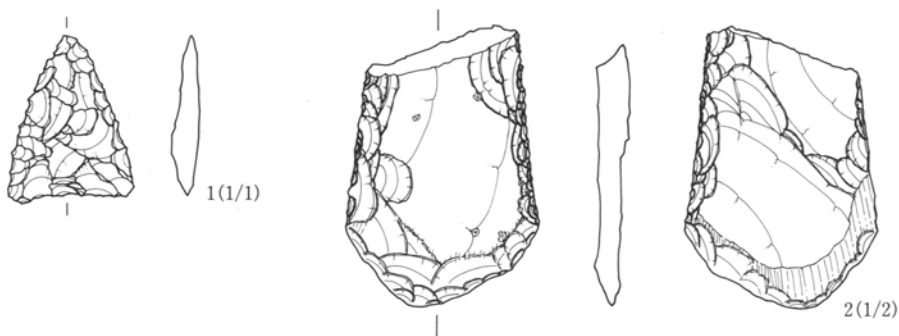


61図 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(12)



62図 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図 (13)

6区遺構外出土遺物



63図 縄文時代6区遺構外出土遺物 遺物図

3. 弥生時代の遺構・遺物

(1) 住居

住居 4区167

4区調査区南部、11F-17・18グリッドに位置する。他遺構との重複関係は本住居の西辺で中世の土坑と接する他は確認されなかった。残存状態は上部にあたるVI層までを現代の掘削で削平されているが比較的良好である。

形態は東辺が西辺より25cm長く、各辺の中程がやや張る隅円長方形を呈す。規模は長軸3.47m、短軸2.57m、各辺の長さは北3.00m、東2.40m、南2.96m、西2.15mを測る。面積は7.2㎡である。主軸方位はN-84°-Eを指す。

内部施設は北西角と南辺中程で径20cmの小ピットを検出したが柱穴、貯蔵穴、周溝などは確認されなかった。床面はVIII層をそのまま踏み固めている。

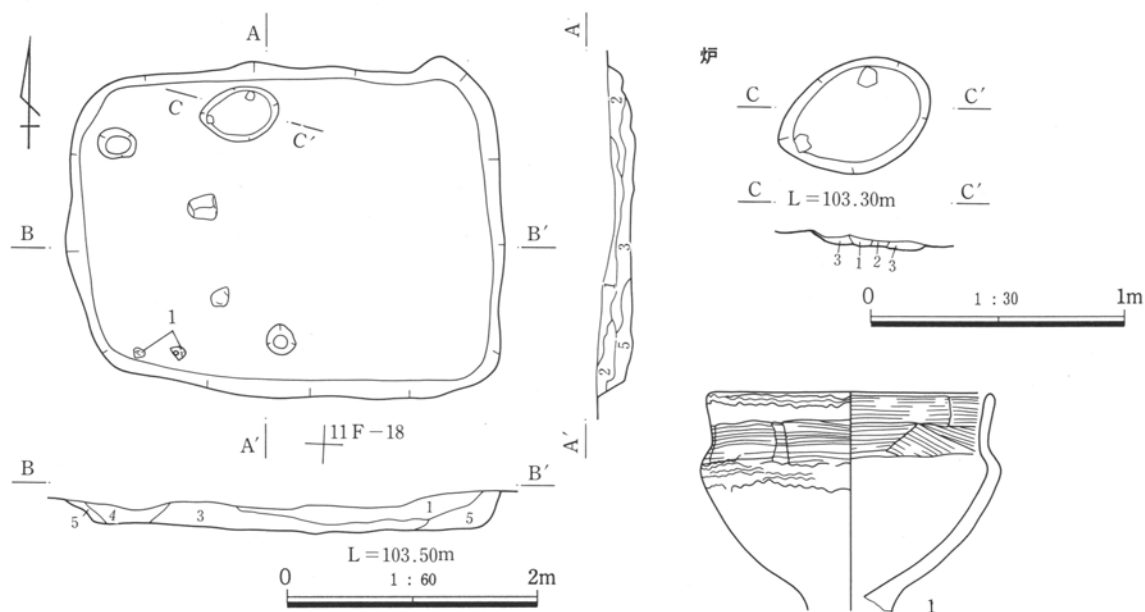
炉は北辺際に位置する。形態は楕円形で規模は径63×53cm、深度3cmである。燃烧面は多少焼土化している程度である。

掘方は確認されなかった。

埋没状態は断面でレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没である。

遺物は甕、壺の小破片が若干出土している程度で図化可能な遺物も1の台付甕だけである。なお、1は住居南西隅の床面からの出土である。

本住居の時期は出土遺物から弥生時代後期樽期に比定される。



住居 4区167 土層注記

- 1 黒褐色土 VII層に類似。VIII層ブロック(径5~20mm)を20%含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。VIII層ブロック(径5~20mm)を40%含む。
- 3 黒褐色土 VII層に類似。VIII層ブロック(径10mm前後)10%・炭化物2~3%含む。
- 4 黒色土 VII層に類似。VIII層ブロック(径5~10mm)を10%含む。
- 5 黒褐色土 VII層に類似。VIII層ブロック(径5~20mm)を30%含む。

住居 4区167 炉 土層注記

- 1 黒色土 黒色灰主体。VIII層ブロック(径5~10mm)を5%含む。
- 2 明黄褐色土 VIII層ブロック主体。1のブロックを1%含む。
- 3 黒褐色土 VII層主体。VIII層小ブロック(径5mm前後)を10%と1のブロックを1%含む。

64図 住居 4区167遺構図・遺物図

住居 4 区 215

4 区調査区中程の西より、11H・I-20・21グリッドに位置する。他遺構との重複関係は南辺中程で土坑 214 と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は北西角を現代の攪乱によって欠くが比較的良好である。

形態は西南角にやや丸みをもつがほぼ長方形を呈す。規模は長軸 3.87 m、短軸 3.16 m、各辺の長さは北 3.80 m、東 2.97 m、南 3.60 m、西 2.30 m を測る。壁高は北辺 14~21 cm、東辺 17~22 cm、南辺 16~18 cm、西辺 14~17 cm で平均 18 cm である。面積は 10.4 m² である。主軸方位は N-53°-E を指す。

内部施設は周溝を南辺の一部で検出したが柱穴、貯蔵穴は確認されなかった。周溝は南辺壁際の西半と中程に存在した。規模は幅 15~18 cm、深度 2~3 cm である。この他北辺よりで径 45 cm、深度 10 cm ほどの掘り込みに 2 の壺を据えた土坑を検出した。

床面は全面ではないが貼床が施され全面を踏み固めて硬化面になっている。炉は確認されなかった。

掘方は住居構築時に掘削した痕跡と思われる小ピット状の掘り込みを多数検出したが床下土坑のような施設は検出されなかった。

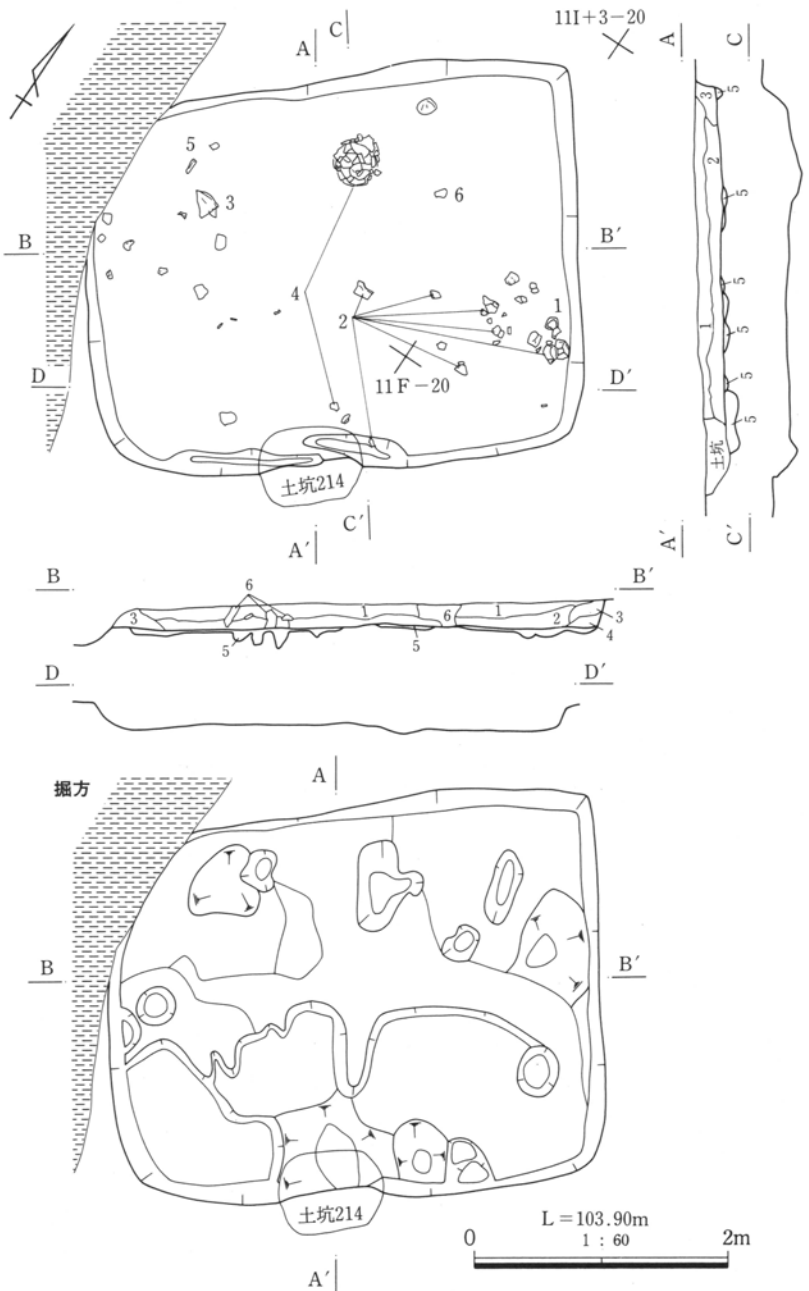
埋没状態は壁際で周囲から流れ込んだ三角堆積が中程は VII 層に近似した黒色土により水平堆積が観察できることから自然埋没であると想定される。

遺物の出土は甕、壺、高坏などを中心に量的には少量であるが住居床面全体に散乱した状態であるが東南部に若干まとまりが見られる。ここからは 1 の台付甕、2 の壺が出土しているが 1 は床面、2 は床上 10~17 cm から出土している。4 の壺は北側の貯蔵穴からの出土である。

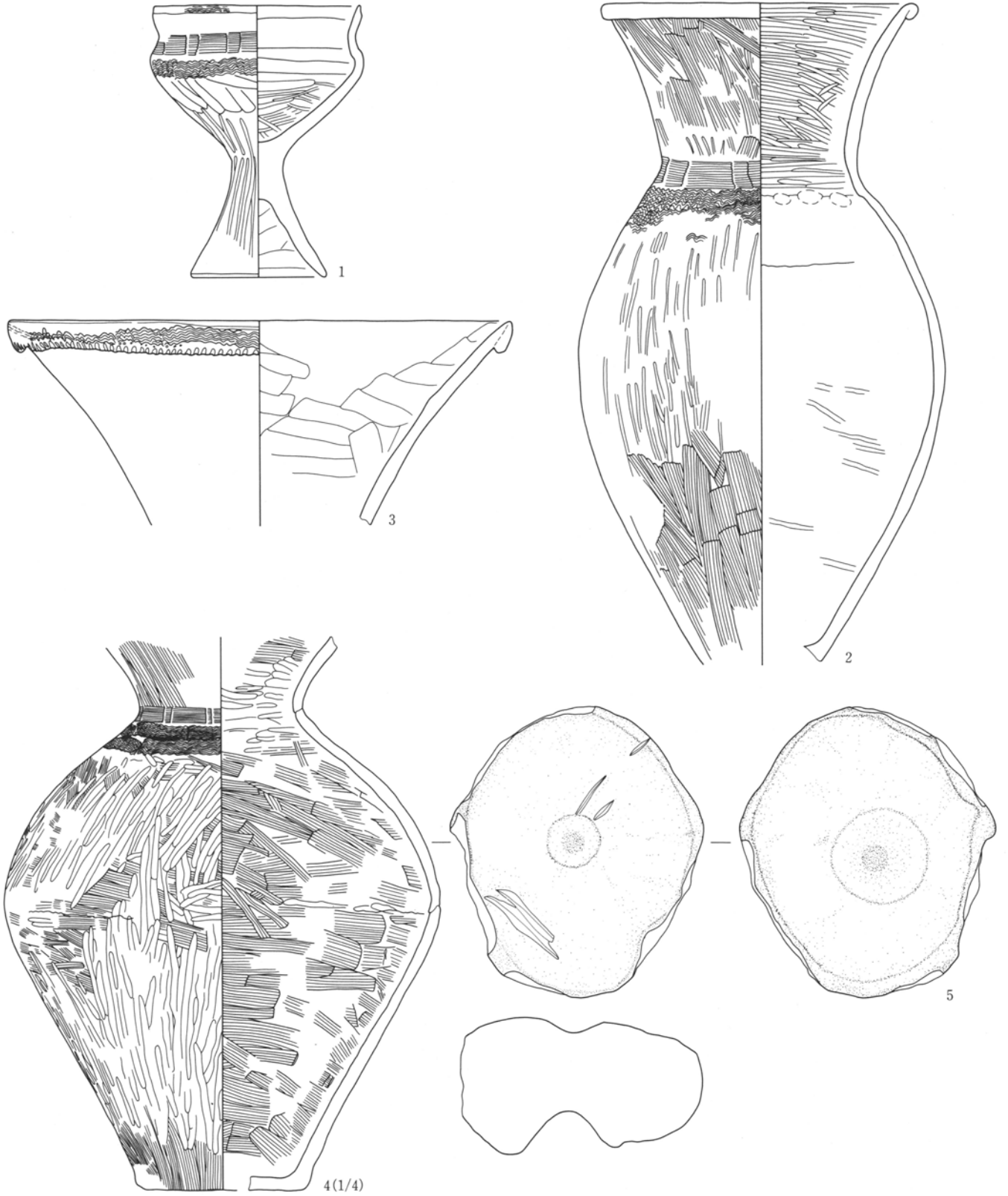
本住居の時期は出土遺物から弥生時代後期樽期に比定される。

住居 4 区 215 土層注記

- 1 黒褐色土 黒色土は VII 層に近似か。VIII 層粒 10% と白色軽石粒 5% 含む。
- 2 黒褐色土 黒色土は VII 層に近似か。VIII 層粒 10% と白色軽石粒を 3% 含む。
- 3 暗オリブ褐色土 黒色土は VII 層に近似か。VIII 層ブロック (径 5~20 mm) を 30% 含む。
- 4 黒色土 黒色土は VII 層に類似。VIII 層ブロック (径 10~30 mm) を 5% 含む。
- 5 オリブ褐色土 VII 類似層に VIII 層混入。VIII 層ブロック (径 2~10 mm) を 5% 含む。
- 6 黒褐色土 VIII 層ブロック



65 図 住居 4 区 215 遺構図



66图 住居4区215遺物図

(2) 壺 棺

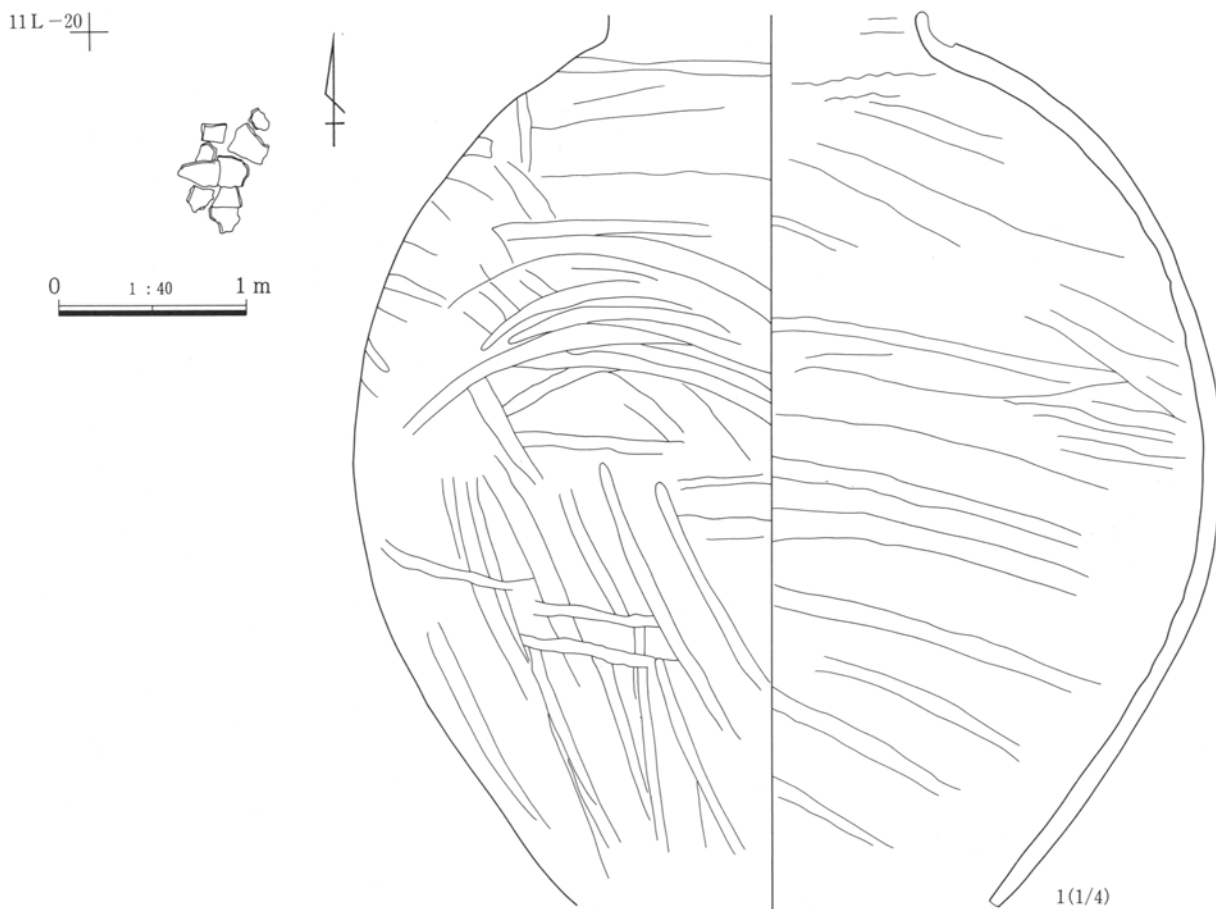
壺棺 4区180

4区調査区中程、11L-19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は中世火葬跡4区28、中世墓坑4区103と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は重複する中世遺構の掘削時に土器の一部を壊されている。こうした土器の一部が中世墓坑内部より出土している。

遺構は3面の確認面では掘り込みなどの痕跡は確

認されなかった。土器の出土だけであるが周囲には「小八木志貝戸遺跡群1」に掲載されているような壺棺多くが存在することから本遺構も壺棺と同定した。

出土した壺は口縁部を頸部から打ち欠かされている。底部は中世遺構の掘削時に欠落したと想定される。頸部を塞いでいたと想定される土器については壺棺埋納後の耕作などで欠落してしまったようである。また、壺の下位の土層からは骨片などの他の遺物は出土しなかった。



67図 壺棺4区180遺構図・遺物図

(3) 土 坑

土坑 4区211

4区調査区の南より、11H-18グリッドに位置する。他遺構との重複関係は土坑4区191と重複するが、重複する191が人工的な掘り込みなのか自然による落ち込みなのかは明確ではない。新旧関係についても不明確ではあるが本遺構の方が新しいと想定される。

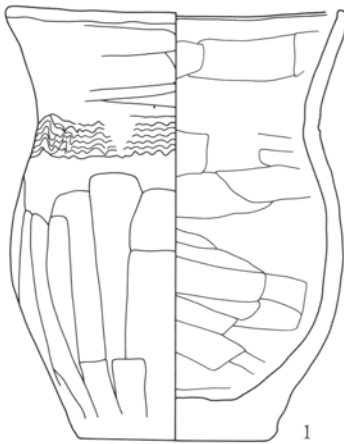
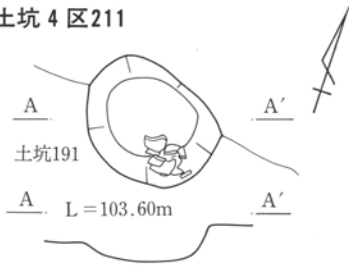
形態は楕円形を呈し、規模は長径0.74m、短径0.58m、深度0.16mを測る。埋没土は上位にVI層が確認されたが大部分はVII層によって埋没している。土坑南端からは1の甕が出土している。

土坑 4 区 306

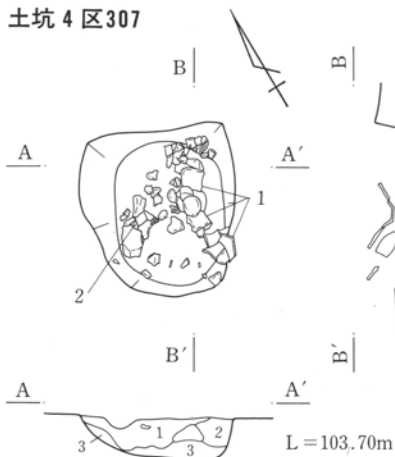
4 区調査区中程、11K-18グリッドに位置する。他遺構との新旧関係は小ピットと風倒木と重複する。新旧関係は本遺構の方が風倒木より新しく小ピットより古い。

形態は楕円形を呈し、規模は長径0.72m、短径0.40m、深度0.22mを測る。埋没土は僅かにAs-Cを含むVII層で埋没していることから自然埋没と想定される。遺物は壺胴部片が出土している。

土坑 4 区 211



土坑 4 区 307

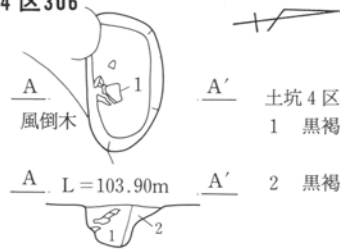


土坑 4 区 307

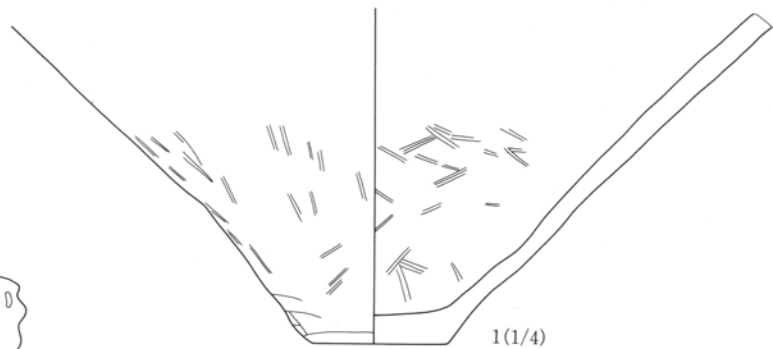
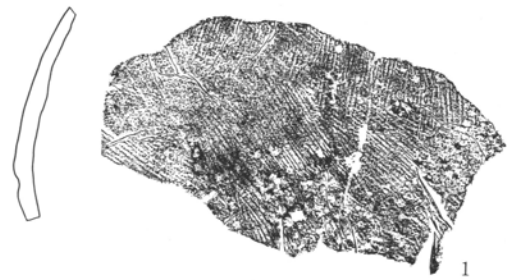
4 区調査区の東より、11J-17グリッドに位置する。他遺構との新旧関係は細い溝状遺構と重複する。新旧関係は本遺構の方が新しい。

形態は南辺がやや弧を描くが逆台形に近い矩形を呈す。規模は長軸1.02m、短径0.90m、深度0.18mを測る。埋没土はVII層とVIII層の混合した状態が観察できることから人為的な埋め戻しが行われたと想定される。遺物は確認面付近から壺と甕の底部が出土している。

土坑 4 区 306



土坑 4 区 306 土層注記
1 黒褐色土 VII層に類似。As-Cを1%含む。
2 黒褐色土 VII層に類似。VIII漸移層混入。



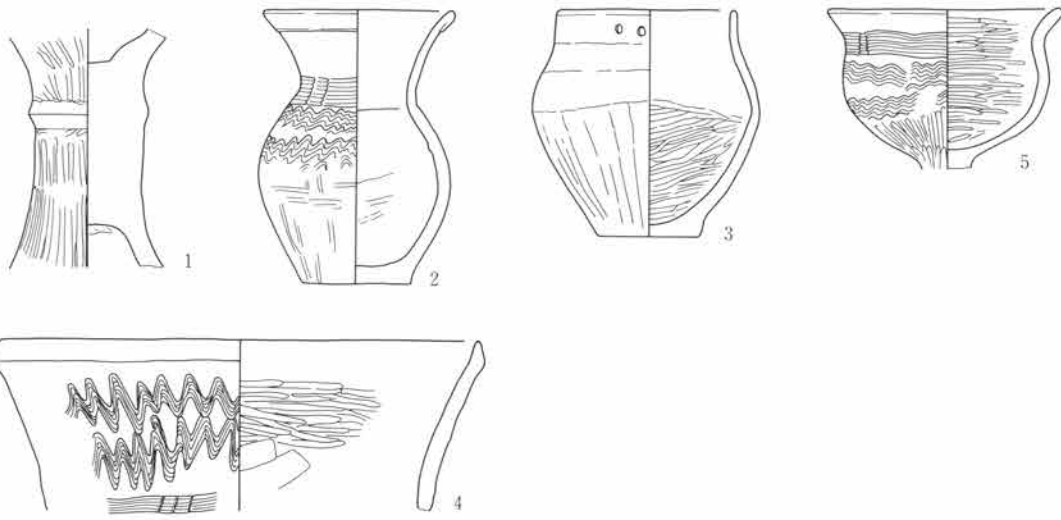
土坑 4 区 307 土層注記
1 黒褐色土 VIIとVIII漸移層の混合土(5:5)。
2 暗オリブ色土 1に類似。1よりVIII漸移層の割合が多い(3:7)。
3 オリブ褐色土 VIII漸移層主体。VII層混入。(2割)

0 1:40 1m

68図 土坑 4 区 211・306・307遺構図・遺物図

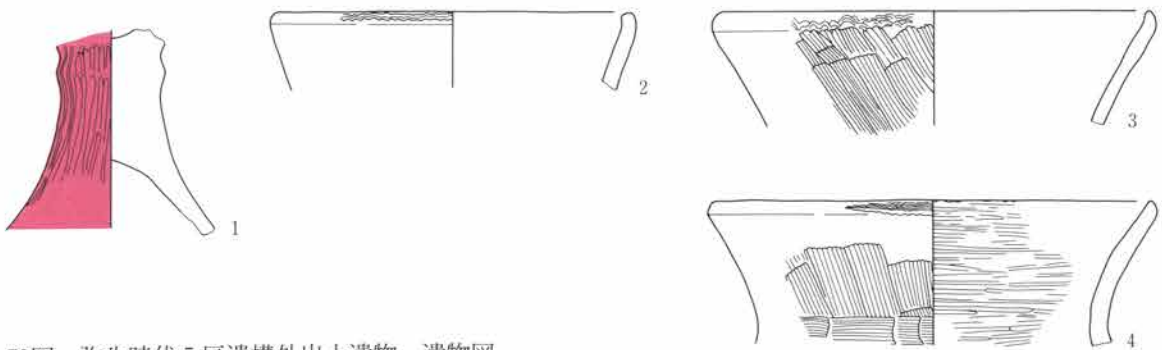
(4) 遺構外出土遺物

4区遺構外出土遺物



69図 弥生時代4区遺構外出土遺物 遺物図

5区遺構外出土遺物



70図 弥生時代5区遺構外出土遺物 遺物図

4. 古墳時代の遺構・遺物

(1) 住居

住居 4区161

4区調査区南の東端、11E・F-15・16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は住居4区160と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は上部を現代の攪乱や古代住居4区160によって削平されているためよい状態ではない。また、住居東半は調査区外に位置するため全貌は不明である。

形態は方形、または長方形を呈する。規模は長軸3.0m+ α 、短軸2.74m、西辺の長さは3.12mを測る。

壁高は削平されていない土層観察断面北側で25cmが観察できた。主軸方位はN-65°-Eを指す。

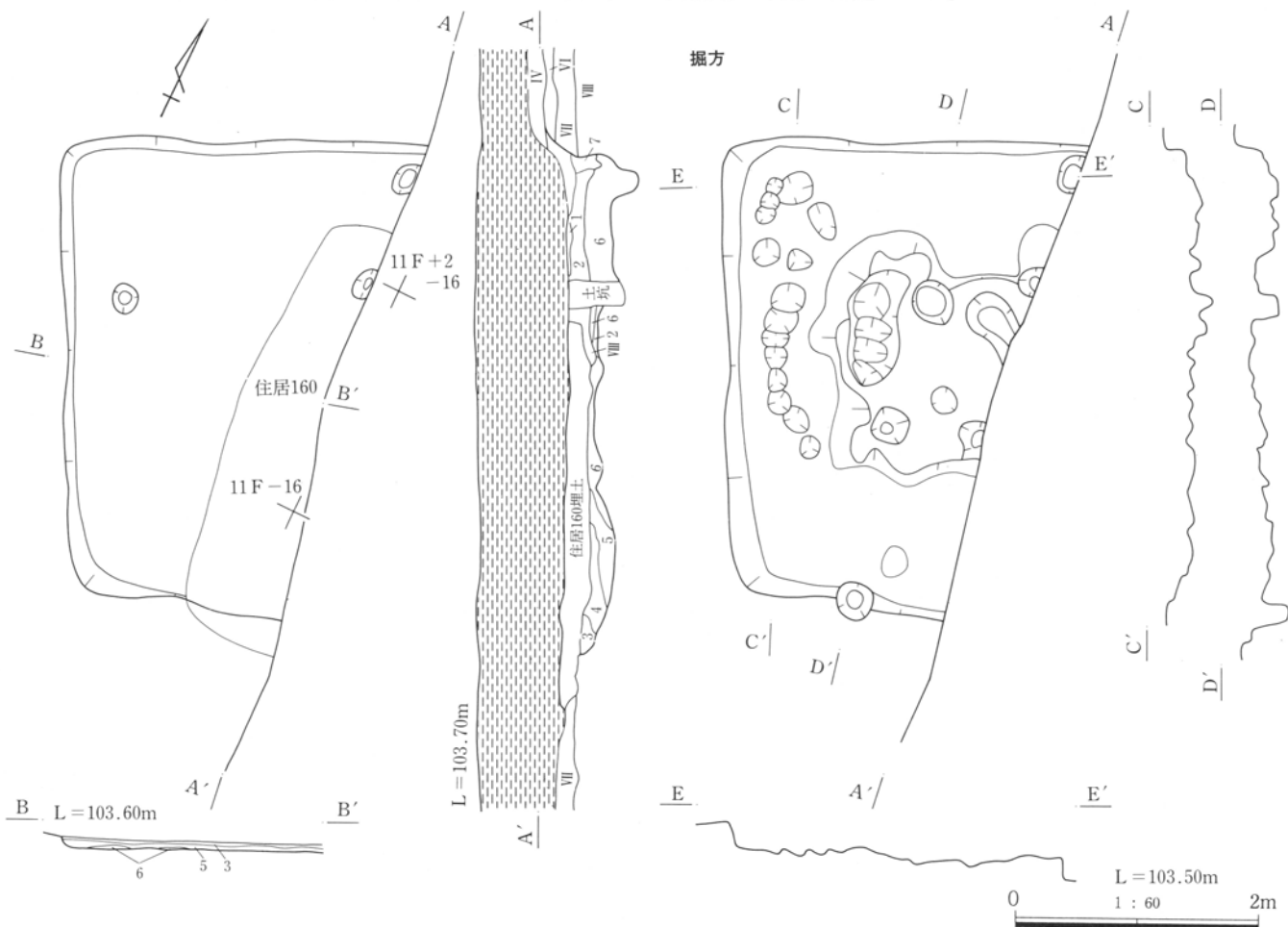
内部施設は確認されなかった。床面貼床が施され踏み固めら硬化面が施されている。

掘方は周辺部が中央部より10~20cmほど掘り下げられ、掘削時の小さな凹凸がそのまま残されている。

埋没状態は上部を削平されているため明確ではないが断面北側の観察から自然埋没と想定される。

遺物は土師器甕、杯などの小片が若干出土しているが図化可能なものはなかった。

本住居の時期は出土遺物、埋没土などから古墳時代前期~中期に比定される。



住居 4区161 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層・VI層の混合土、VIIIブロックを10%とAs-Cを2%含む。
- 2 黒褐色土 VII層主体。VIII層ブロック(径10~20mm)を10%含む。
- 3 黒褐色土 VII層主体。VIII層ブロック(径3~5mm)5%・As-C? 1%含む。

- 4 黒褐色土 VII層主体。VIII層ブロック(径10~40mm)20%・As-C 3%含む。
- 5 黒褐色土 VII層主体。VIII層ブロック(径10~50mm)30%・As-C 3%含む。
- 6 黒色土 VII層ブロックとVIII層ブロックの混合土。(5:5)
- 7 黒褐色土 3に類似。3よりVIII層ブロックが細かく、やや多い。

71図 住居4区161遺構図

住居 5 区457

5 区調査区の北西角隅、11C・D-20・21グリッドに位置する。他遺構との重複関係は 3 面では確認されなかった。残存状態は比較的良好であるが住居の 4 分の 3 が調査区外に位置するため詳細は不明である。

形態は調査範囲から隅円方形ないしは長方形を呈すると想定される。規模は長軸・短軸とも 3.50m 以上である。壁高は確認面から 5cm 前後を測る。主軸方位は N-67°-E を指す。

内部施設は貯蔵穴を南辺際で検出した。形態は円形で規模は径 59×56cm、深度 38cm を測る。内部からは土師器小形椀 1、2 や土師器甕片などが出土している。床面は 5~10cm ほど黒色土で貼床を施している。

炉は貯蔵穴北側から浅い落ち込みが 2 カ所検出されておりこのうちのどちらかであると想定されるが

明確ではない。

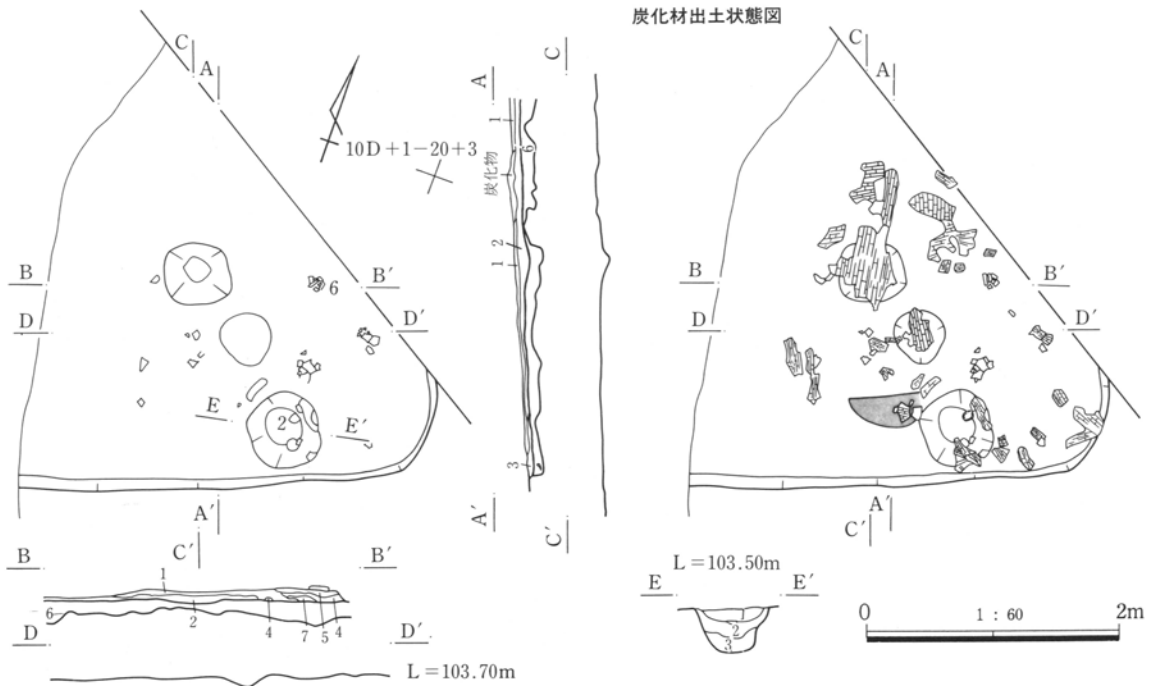
住居の掘方は径 20~30cm の浅い凹凸が連続しており掘り起こしたままの粗い状態である。

埋没土状態は確認面から床面までが浅いため不明瞭であるが床面と建築部材の間には VII 層に近い黒色土が堆積しており、住居焼失後周囲の土層が流入したものと考えられる。

本住居は床面よりやや上位で建築部材と想定される炭化材が多量に出土していたり床面の一部が焼土化していることから焼失家屋である。出土した建築部材と想定される炭化材は樹種同定の結果ではすべてクヌギ節である。(詳細は V 章を参照)

遺物出土状態は 1、2 の土師器小型椀が貯蔵穴、他は東南角付近の床面より 10cm 程度上位から 3 の土師器小形甕、4~7 の土師器壺、甕が出土している。

本住居の時期は古墳時代前期に比定される。



住居 5 区457 土層注記

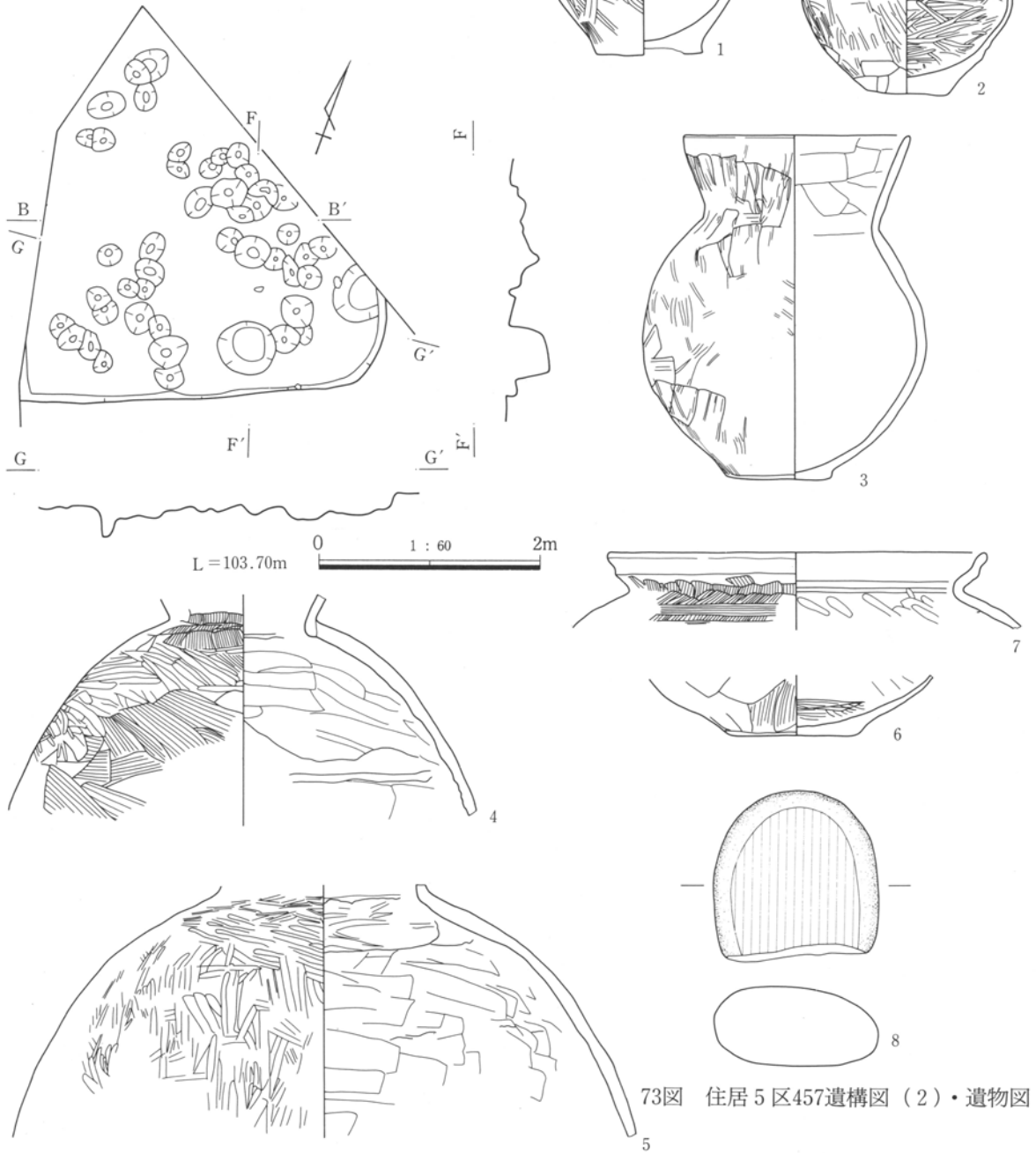
- 1 黒褐色土 VII層に近似。As-C? を 2~3% 含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。VIII層の小ブロック (径5~10mm) を 10% 含む。
- 3 黒褐色土 VII層に類似。VIII層の小ブロック (径5~10mm) を 2~3% 含む。
- 4 黒褐色土 1 に類似。
- 5 黒褐色土 1 に類似。1 より As-C がやや多い。
- 6 黒色土 VII層と VIII層の混合土。
- 7 VII層ブロック。

住居 5 区457 貯蔵穴 土層注記

- 1 褐色土 砂質土。As-C (径1~5mm) 5%・ローム粒 (径3mm~1cm) 1% 含む。
- 2 暗褐色土 As-C (径1~5mm) を 10% 含む。下層部は、やや粘質性をもつ。
- 3 黒褐色土 As-C (径1~3mm) を 2% 含む。焼土粒を部分的に 2% 含む。下層部にロームブロック (径5mm~1cm) を 20% 含む。

72図 住居 5 区457遺構図 (1)

掘方



73図 住居 5 区457遺構図 (2)・遺物図

住居 4 区226

4区調査区北、11P・Q-20・21グリッドに位置する。他遺構との重複関係は弥生時代土坑4区225と重複する。新旧関係は本遺構の方が新しい。残存状態は床面の一部を重複する土坑4区225によって欠くが他は良好な状態である。

形態はやや歪みはみられるがほぼ方形を呈す。規模は長軸4.62m、短軸4.59m、各辺の長さは北4.30m、東4.27m、南4.50m、西4.55mを測る。壁高は12

～31cmで平均21cmである。床面積は19.2㎡である。主軸方位はN-60°-Eを指す。

内部施設は周溝を検出したが柱穴、貯蔵穴などは確認されなかった。周溝は北辺の中程3分の1を除く箇所と西辺から南辺の西4分の3に存在する。北辺の東側は壁際から10～25cmほど離れている。規模は幅10～30cm、深度2～6cmである。床面は周囲より中央部が5cmほど高くなるように貼床が施され、全面踏み固められ硬化面化している。

炉は中央北寄りに位置する。規模は径42×34cm、深度4cmである。炉底面は僅かに焼土粒が確認できる程度でほとんど使用されていないようである。

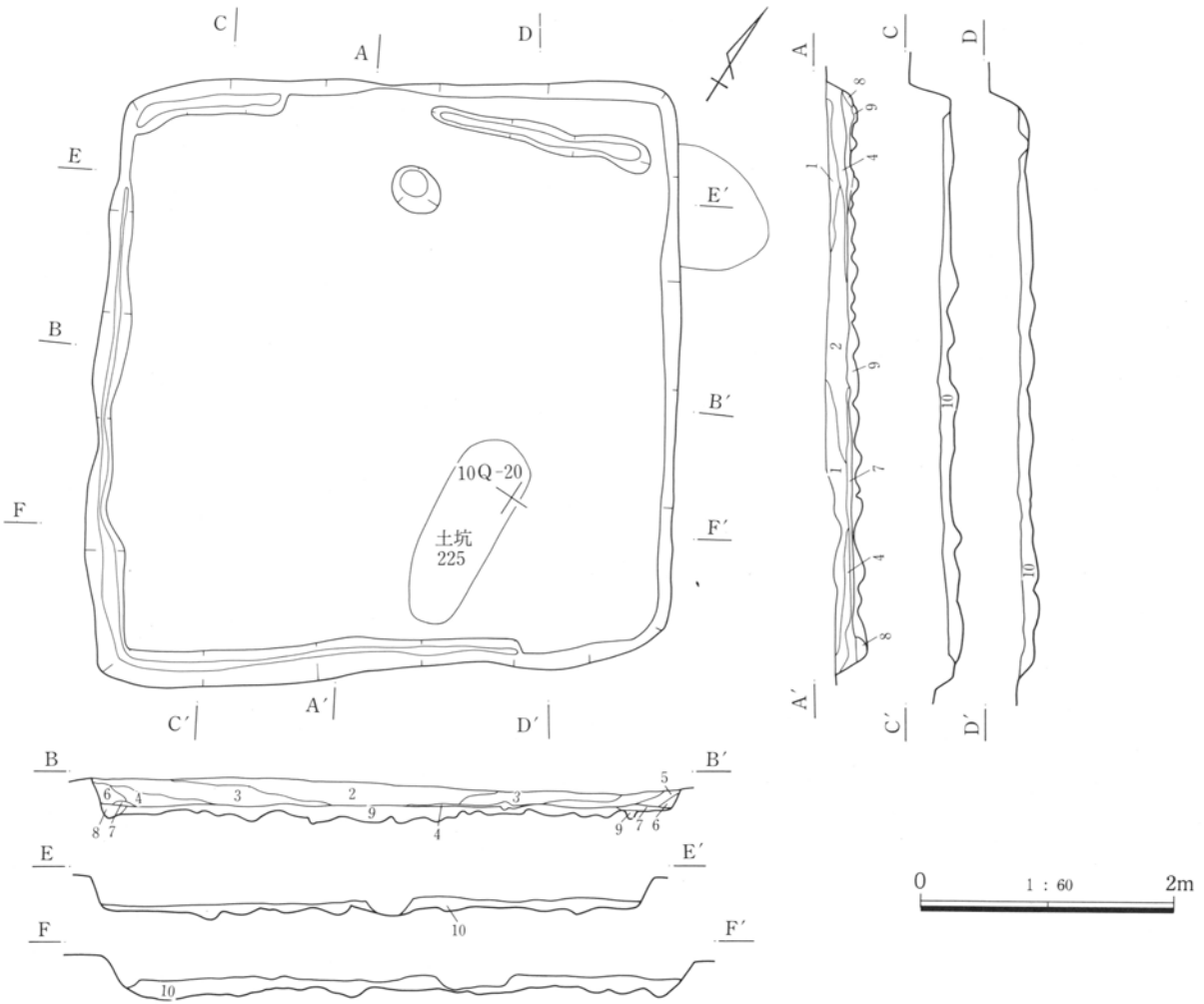
掘方は細かい凹凸が確認できたが床下土坑などの施設は確認されなかった。

埋没状態はVI層主体の土砂がレンズ状に堆積した

様子が観察できることから自然埋没である。

遺物は図示した土師器杯、高杯の各1点のほか土師器甕、杯の小片が微量出土している程度である。

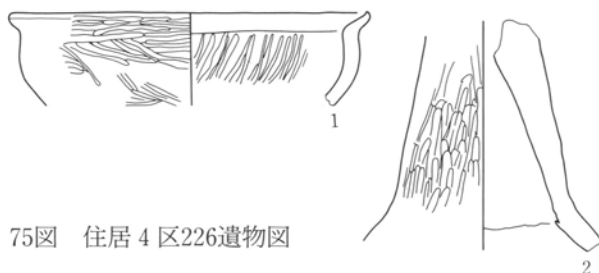
本住居の時期は出土遺物などから古墳時代中期6世紀中葉に比定される。



住居 4 区226 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層類似。粘性やや有り、しまりやや弱い。白色軽石(径3mm)2%・VIII層ブロック(径20mm以下)1%弱含む。
- 2 黒褐色土 粘性やや有り、しまりやや弱い。白色軽石(径2mm)1%弱・VIII層ブロック(径50~20mm)2%含む。
- 3 黒褐色土 VI層類似。粘性やや有り、しまり弱い。白色軽石(径4mm)2%・VIII層ブロック(径4mm以下)微量含む。
- 4 褐色土 シルトと砂質土の混合層。白色軽石(径2mm)1%未満・VIII層ブロック(径3mm)1%含む。
- 5 黒褐色土 4に近似。白色軽石(径2mm)1%・VIII層粒(径2mm)微量含む。
- 6 黒褐色土 シルト質。しまりやや強い。VIII層ブロック(径3mm以下)を微量含む。
- 7 黒褐色土 シルトとVIII層ブロックの混合層。しまりやや強い。VIII層ブロック(径15mm以下)を30%含む。
- 8 黒褐色土 シルト質。しまりやや強い。VIII層粒(径2mm)を微量含む。
- 9 にぶい黄褐色土 シルト質。VII・VIII層の混合土。白色軽石(径1~4mm)1%・VIII層粒ブロック(径3~30mm)20%含む。
- 10 にぶい黄褐色土 VI層、VII層、VIII層ブロックの混合土。

74図 住居 4 区226遺構図



75図 住居4区226遺物図

ないことから羨道入口の閉塞に使用されていた礫が墳丘削平時に一部残存した物と考えられる。

出土遺物は周堀内より古代から中世にかけての土器、陶器類が多く出土したが、本遺構に伴う遺物は土師器杯、高坏、須恵器甕、石製模造品などが僅かに出土した程度であった。

本古墳の時期は出土した遺物から7世紀前半代に比定される。

(2) 古墳

古墳4区105

4区調査区中央よりやや北、11M～P-17～20グリッドに位置する。他遺構との重複関係は中世溝4区01、中世墓坑群、溝4区108などと重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態では墳丘は削平されており周堀だけの状態である。

形態は周堀東側で丸みが見られ円墳と想定されるが、北側や西側では比較的直線的要素が見られることから方墳の可能性も窺える。規模は墳丘部分が南北11.3m、東西10.7mを測る。周堀を含む規模は南北16.0m、東西17.6mを測る。周堀外周での面積は約255㎡、墳丘部分の面積は106㎡である。周堀は南側を除く東から北、西側に巡る。規模は幅が3.85～5.00m、深度0.5mほどである。

石室など主体部は掘方を含めて確認されなかったが前庭にあたりと想定される箇所では礫のまとまりが検出された。この箇所では掘り込みなどは確認でき

(3) 土坑

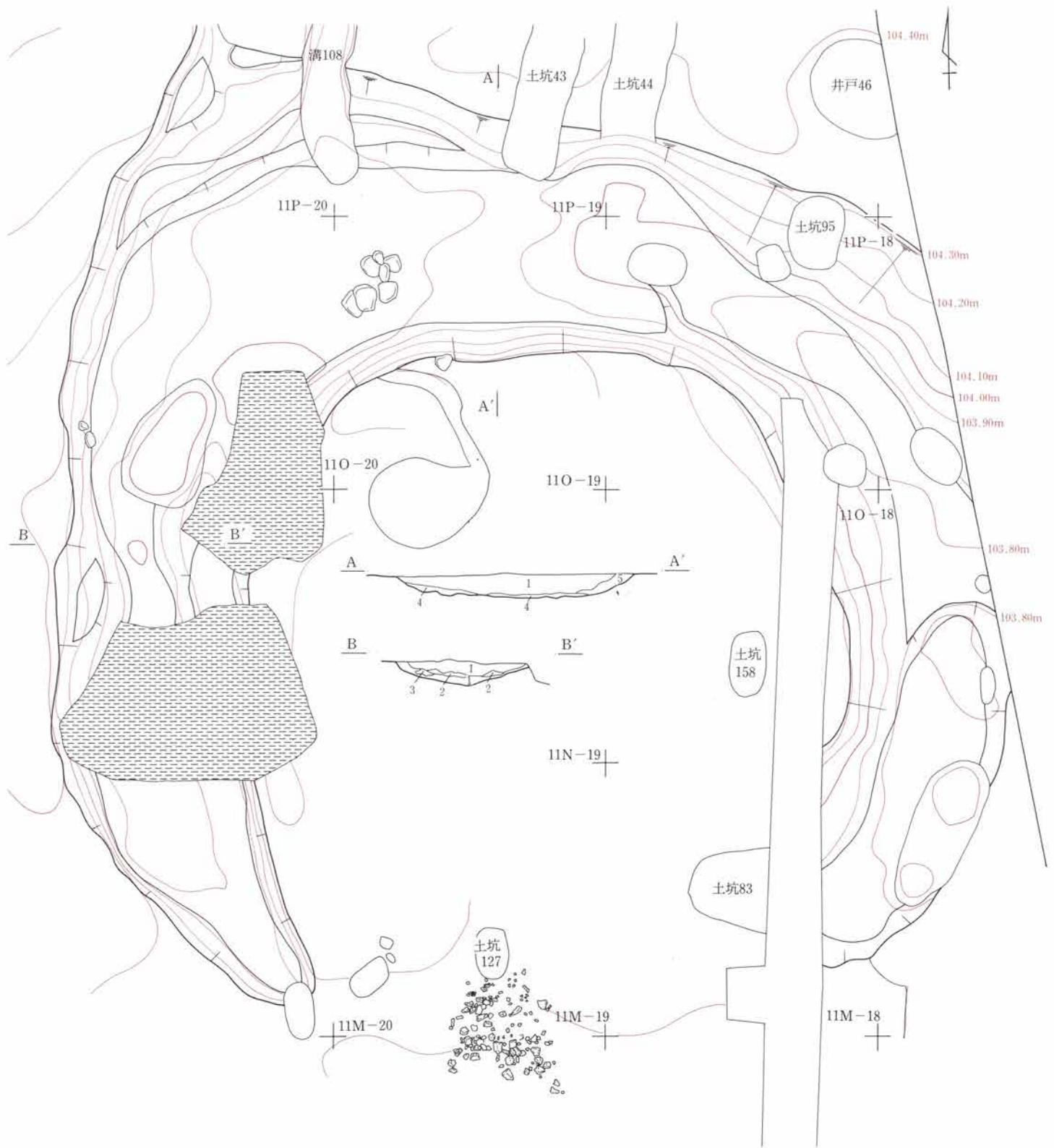
4～6区調査区第1面、第2面では数多くの土坑を検出した。これらの土坑のうち出土遺物や重複する遺構などから古墳時代に属すると断定できる土坑は11基だけであった。特に5区調査区では古墳時代の遺構は住居1軒、溝1条を検出したが他の古墳時代に属する遺構は全く検出されなかった。土坑は4区調査区から10基、6区調査区から1基を検出した。

遺物は各土坑とも土師器を僅かに出土しているが図化可能な個体はみられなかった。

個々の土坑の性格についても残存状態や遺物の出土状態から究明できるものはなかった。

7表 古墳時代土坑一覧

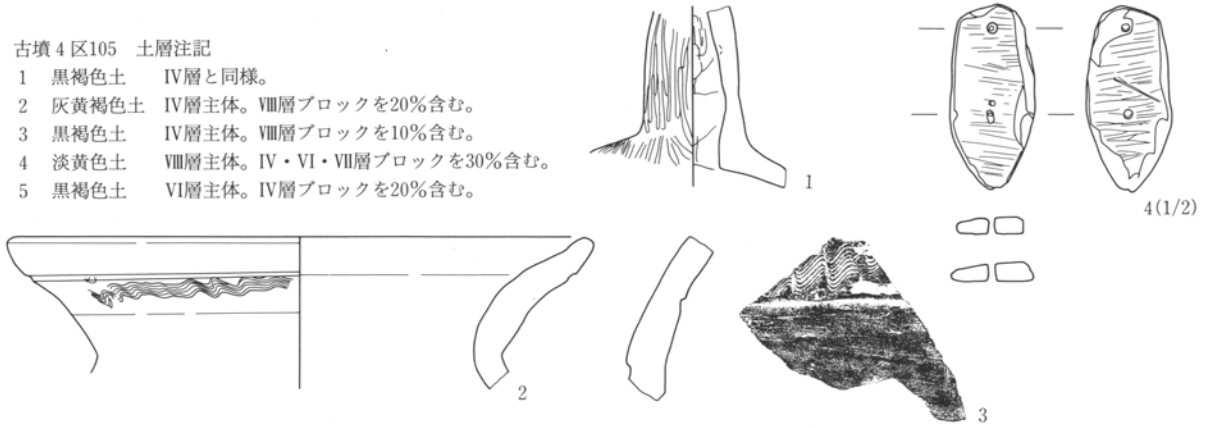
区	遺構NO.	位置	重複関係		形態	規模(単位cm)			摘要
			新	旧		長径	短径	深度	
4	109	11Q-19			不整形	218	(84)	34	
4	110	11P-18	古墳時代溝113(?)		不整形	(68)	44	16	
4	115	11K-19		古墳時代溝115	楕円形	92	56	10	
4	119	11L-18	中世土坑55		楕円形	92	80	40	
4	120	11L-18			不整形	(42)	54	12	
4	124	11J-17			楕円形	288	116	36	
4	125	11J-16			不整形	142	60	30	
4	128	11H-17		古墳時代畠130	楕円形	186	100	36	
4	249	11G-17			不整形	332	262	28	
5	419	10M-16			矩形	44	38	15	
5	466	11A-20			円形	98	86	32	
6	W03	9T-21		古墳時代畠W01	楕円形	75	46	5	
6	W04	9T-20		古墳時代畠W01	矩形	80	40	5	
6	E02	10D-9		古墳時代畠E01	楕円形	68	64	22	



76図 古墳4区105遺構図

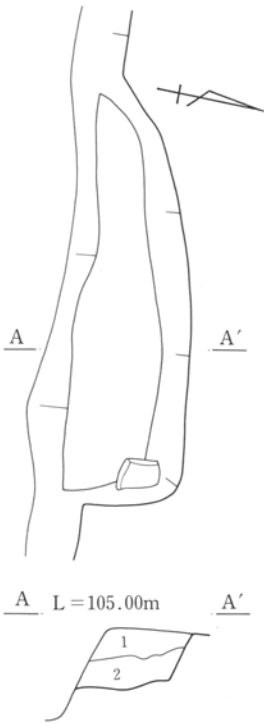
古墳 4区105 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層と同様。
- 2 灰黄褐色土 IV層主体。VIII層ブロックを20%含む。
- 3 黒褐色土 IV層主体。VIII層ブロックを10%含む。
- 4 淡黄色土 VIII層主体。IV・VI・VII層ブロックを30%含む。
- 5 黒褐色土 VI層主体。IV層ブロックを20%含む。

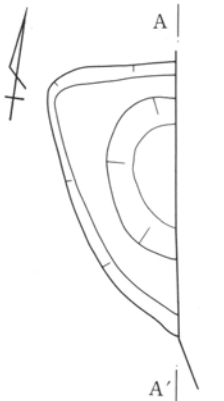


77図 古墳 4区105遺物図

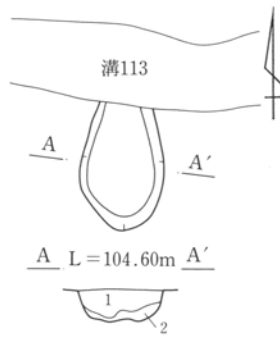
土坑 4区109



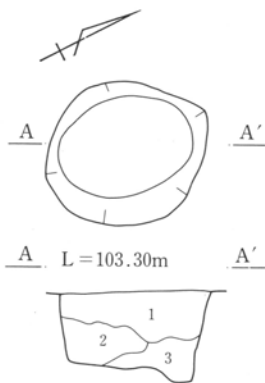
土坑 4区125



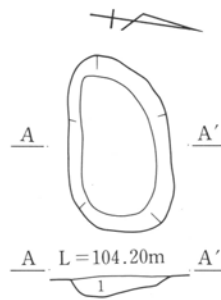
土坑 4区110



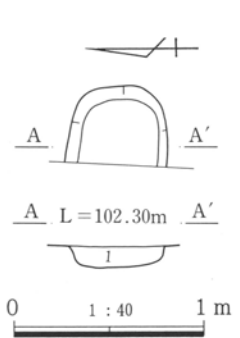
土坑 4区119



土坑 4区115



土坑 4区120



土坑 4区109 土層注記

- 1 黒褐色土 IV・VI層の混合土。As-Cを5%含む。
- 2 黒褐色土 IV・VI層の混合土。As-Cを2%含む。

土坑 4区110 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層主体。VI層ブロック20%・VIII層ブロック5%含む。

土坑 4区115 土層注記

- 1 暗褐色土 IV層に類似。VI層ブロックを5%含む。

土坑 4区119 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層主体。VI層ブロック20%・VIII層ブロック5%含む。

土坑 4区120 土層注記

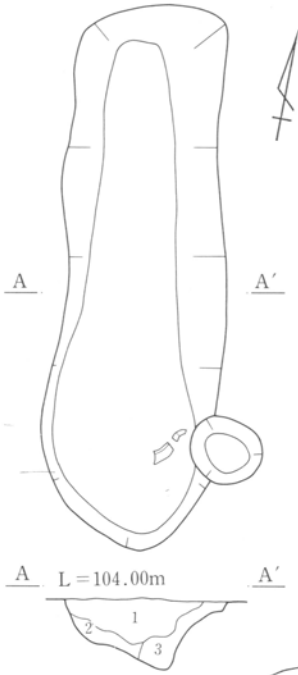
- 1 灰黄褐色土 IV層主体。VI層ブロックを20%含む。

土坑 4区125 土層注記

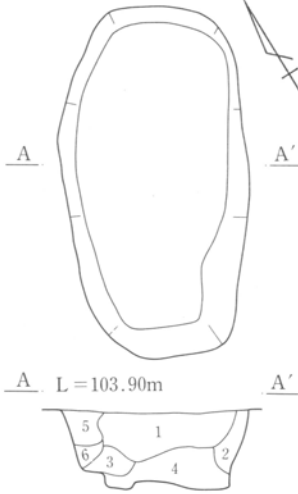
- 1 黒褐色土 IV・VI層の混合土。
- 2 黒褐色土 IV層に類似。VI層ブロックを20%含む。
- 3 黒褐色土 VI層主体。IV層ブロック30%・VIII層ブロック20%含む。

78図 土坑 4区109・110・115・119・120・125遺構図

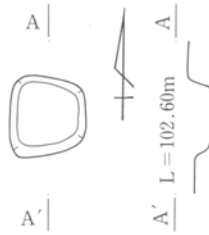
土坑 4 区124



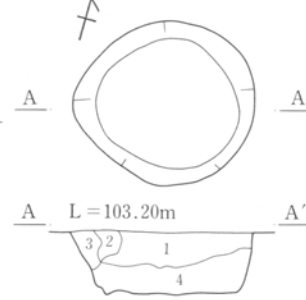
土坑 4 区128



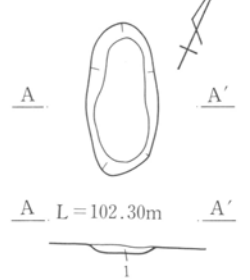
土坑 5 区419



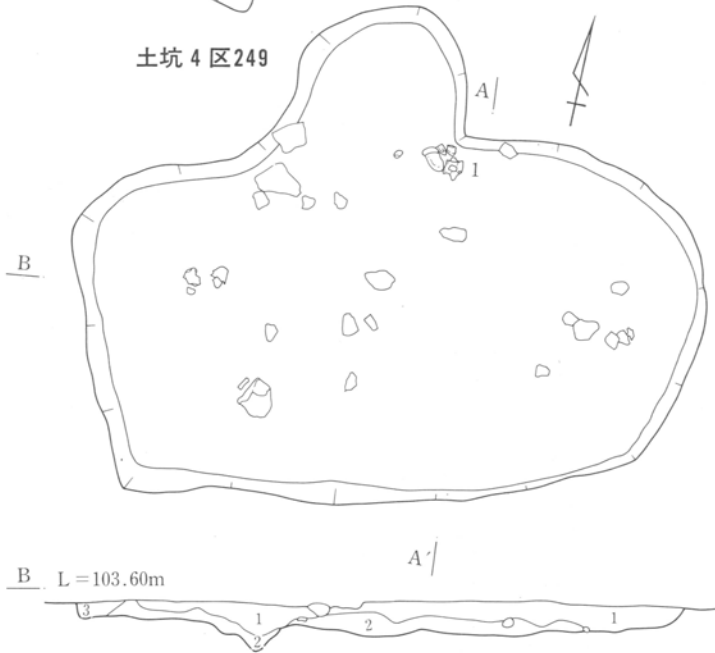
土坑 5 区466



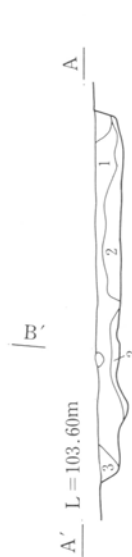
土坑 6 区W04



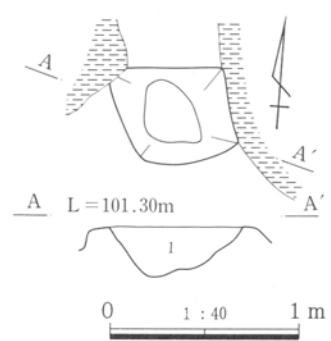
土坑 4 区249



土坑 6 区W03



土坑 6 区E02



土坑 4 区124 土層注記

- 1 灰黄褐色土 IV層に類似。
- 2 黒褐色土 IV層主体。VI層ブロックを20%含む。
- 3 黒褐色土 VI層主体。IV層混入。

土坑 4 区128 土層注記

- 1 黒褐色土 IV・VI層の混合土。
- 2 灰黄褐色土 II層に近似。
- 3 黒褐色土 IV層に類似。As-Cを5%含む。
- 4 褐色土 IV層に近似。VIII層ブロックを20%含む。
- 5 VI層の崩落。
- 6 VII層の崩落。

土坑 4 区249 土層注記

- 1 暗褐色土 シルト質。しまり強い。白色軽石(径1mm)・VIII層粒(径2mm)を微量含む。
- 2 褐色土 シルト質。I層とIII層の混合土。
- 3 暗褐色土 シルト質。しまり強い。白色軽石(径1mm)微量・VIII層ブロック(径10mm)2%含む。

土坑 5 区466 土層注記

- 1 灰褐色土 VII層主体。やや粘性。As-Cを少量と黄色ロームブロック(径10mm以下)を5%含む。
- 2 淡黄色土 VIII層ブロック、VII層粘質ブロック(径5mm以下)を含む。
- 3 黒褐色土 VII層主体。黒褐粘質土、VIII層ブロック(径3mm以下)を5%含む
- 4 におい黄褐色土 粘性有り。VII・VIII層混合土(5:5)。

土坑 6 区E02 土層注記

- 1 灰褐色土 粒子粗い。砂質土60%・黒褐粘質土30%・As-B10%含む。

土坑 6 区W03 土層注記

- 1 におい黄褐色土 IV層に近似。やや粘質土。As-Cを1%含む。

土坑 6 区W04 土層注記

- 1 灰褐色土 IV層に類似。

79図 土坑 4 区124・128・249・5 区419・466・6 区W03・W04・E02遺構図

(4) 溝

古墳時代と想定できる溝は4～6区調査区で10条検出した。このうち4区104と5区04は調査区が異なるだけで同一の溝と考えられることから総計で9条である。これらの溝は5区04以外すべて4区北半に位置している。5区04については区画施設としての要素がみられることから遺構の様相について個別に記述した。その他の溝は他遺構や現代の攪乱によって欠落する部分も多くみられるがその性格などに究明できるものはなかった。また、遺物についてもその出土状況は古墳時代の土坑と同様に土師器小片を僅かに出土しているが図化可能なものは存在していない。

溝 5 区04(4 区104)

4区調査区南部、5区北半、10M-13から西北方向に走行し10T-19で北西方向に向きを変え11E-15グリッドまで位置する。他遺構との重複関係は4区で中世溝4区02、居宅区画溝4区03、5区で中世館堀5区03、居宅掘立柱建物5区166、169、377、住居5区58、61、溝5区48や土坑など多くの遺構と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は重複する多くの遺構によって欠く部分があるが比較的良好である。

規模は確認面での幅45～110cm、底面の幅27～77cm、深度6～20cm、全長78m、北西方向の走行47m、北東方向の走行31mを測る。走行は前記のように10T-19グリッドでほぼ直角に向きを変える。底面はほぼ平坦で地形に沿った傾きが見られる。断面の観察では底部に砂粒の堆積は観察できないことから、水の流れた様子は確認されず空堀状の状態であった。

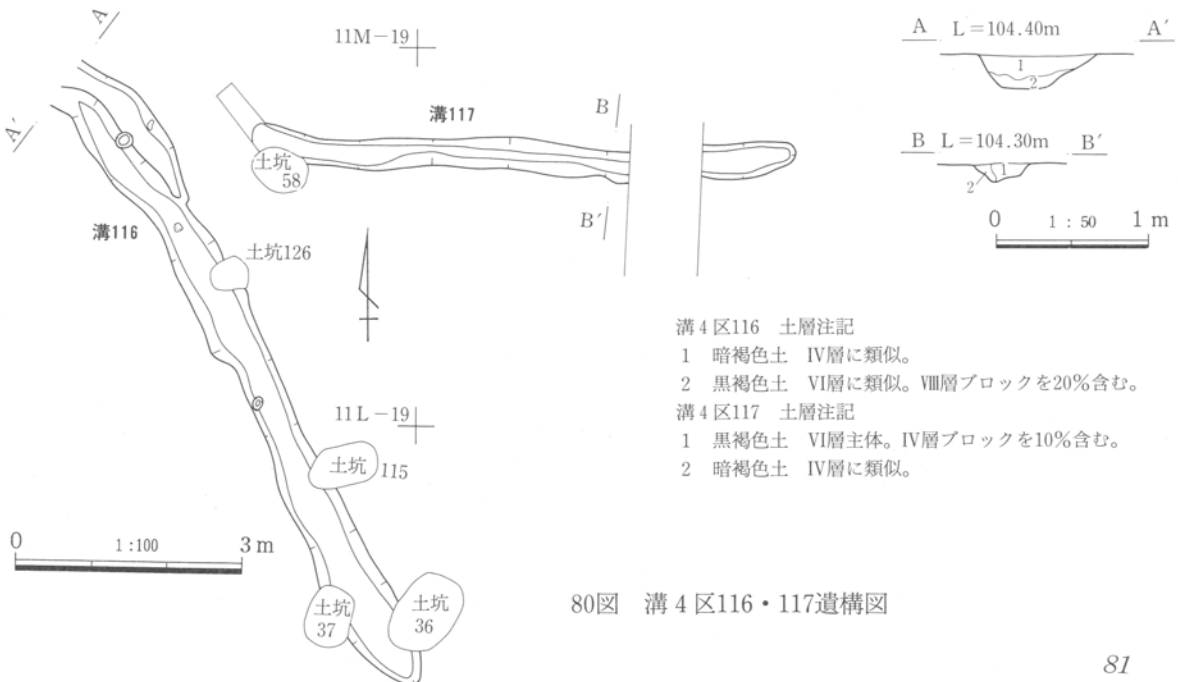
埋没土はIV層に類似した暗褐色土で埋没している。断面観察では自然埋没と想定され土塁などの施設の有無については判断できなかった。

遺物は土師器、須恵器など160点が出土しているがその大部分が本遺構より新しい時期の土器類で本遺構に伴うと想定される遺物は図化した1の土師器壺底部片と高坏脚部小片が出土しているだけであった。

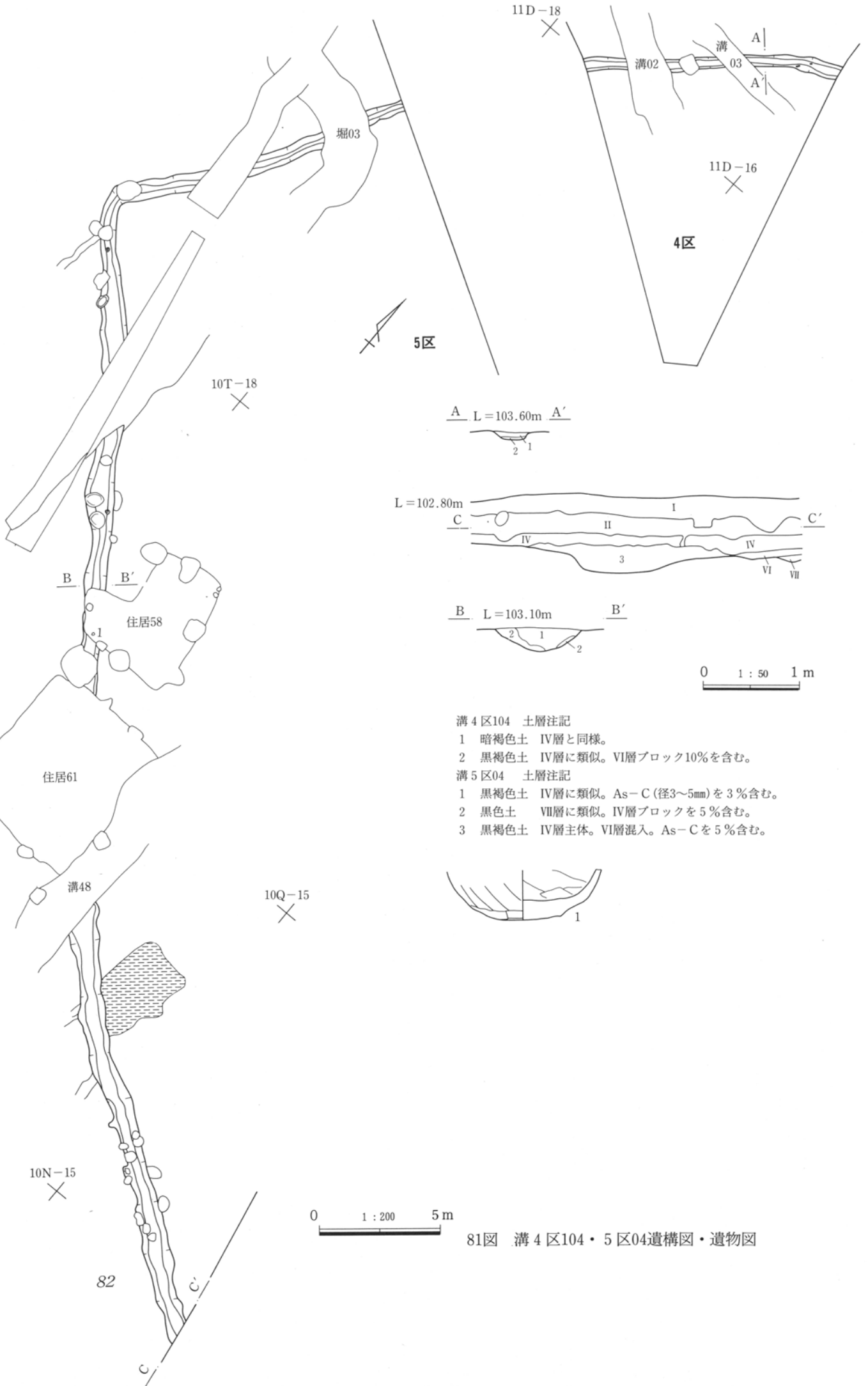
本溝の時期は僅かに出土した本遺構に伴う土器と重複する遺構から古墳時代後期7世紀代に比定される。

なお、溝は前記のように10T-19グリッドで直角に走行を変えることから方形を呈する区画溝的な要素が窺えるが内部からはこの区画に伴うような施設、溝と同一時期と想定される遺構は検出されなかった。

溝 4 区116・117



80図 溝 4 区116・117遺構図

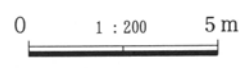


溝4区104 土層注記

- 1 暗褐色土 IV層と同様。
- 2 黒褐色土 IV層に類似。VI層ブロック10%を含む。

溝5区04 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。As-C(径3~5mm)を3%含む。
- 2 黒色土 VII層に類似。IV層ブロックを5%含む。
- 3 黒褐色土 IV層主体。VI層混入。As-Cを5%含む。

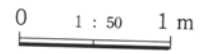
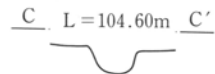
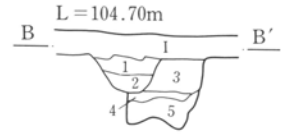
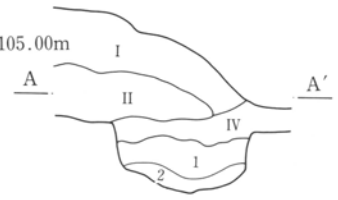
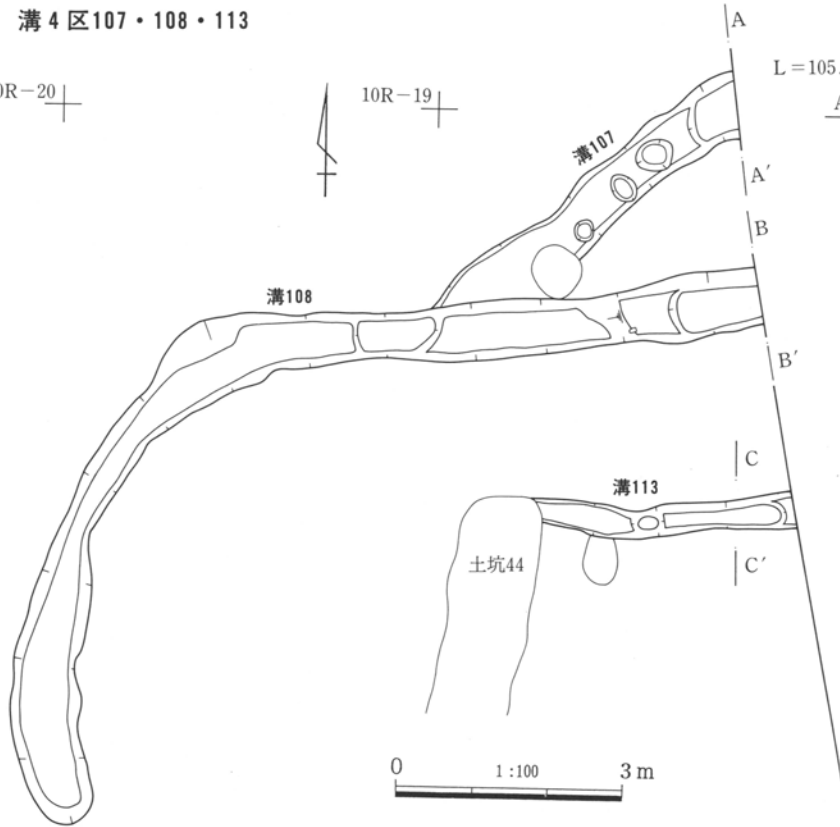


81図 溝4区104・5区04遺構図・遺物図

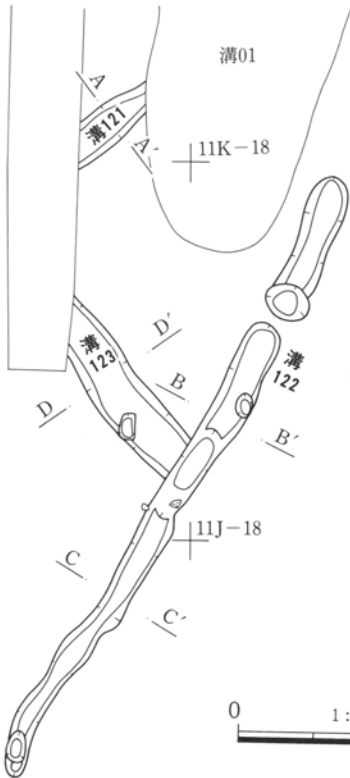
溝4区107・108・113

10R-20

10R-19



溝4区121・122・123

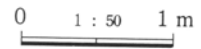


A L = 104.10m A'

B L = 104.00m B'

C L = 104.00m C'

D L = 104.00m D'



溝4区107 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層主体。下位にVIII層ブロックを5%含む。
- 2 明黄褐色土 VIII層主体。VII層ブロックを10~20%含む。

溝4区108 土層注記

- 1 灰黄褐色土 IV層と同様。
- 2 黒褐色土 VI層と同様。
- 3 灰黄褐色土 IV層に近似。VI層ブロックを10%含む。
- 4 黒褐色土 VI層に類似。As-Cを1%含む。
- 5 褐色土 VIII層ブロックを10~20%含む。

溝4区123 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層と同様。As-Cを10%含む。

82図 溝4区107・108・113・121・122・123遺構図

(5) 畠

畠4区111

位置は4区調査区北、11M～O-18～20グリッド、古墳4区105周堀の内側である。他遺構との重複は古墳4区105と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は本遺構が古墳4区105の墳丘下に位置したことから残存したと考えられる。

畠が位置する地形は東南にかけて緩い傾斜地である。形態、規模は全体が残存していないため不明である。耕作土はVI層のAs-Cを含む黒色土である。

ウネ・サクのうちウネは上半が削平されており不明である。サクは4区他の畠と比較しても深度が5～10cmと比較的良好な状態である。サクの中には重複した状態の箇所が数カ所確認できることから複数年におよぶ耕作が行われていたことが推定される。サクの走行は傾斜に直交する方向に掘られている。

埋没土は大部分がHr-FPである。しかし、全面がHr-FPで覆われておらず、部分的にVI層の黒色土ブロックが確認されることから畠を復旧するためHr-FPを降下前の畠サクに入れた災害復旧を行った畠跡と想定される。この地域は榛名二ツ岳噴火の際10cm前後の火山灰(Hr-FP)で覆われたことが低地や谷地等のHr-FPの堆積状態から判明しているが、台地上では降灰後の復旧や耕作などによってVI層と攪拌され灰褐色のIV層となっている。畠4区111ではHr-FP降灰後復旧があまり行われな段階で古墳墳丘が造築されたため畠サクにHr-FPが残存したと想定される。

遺物は白玉が1点出土しているが本遺構に伴うか否かは明確ではない。

本遺構の時期は6世紀初頭のHr-FA降下後比較的早い時期に比定される。



畠 4 区130

位置は4区調査区中程の東より、11G～I-16～18グリッドである。他遺構との重複関係は中世墓坑、土坑4区128、畠4区131と重複する。新旧関係は本遺構の方が中世墓坑、土坑4区128より古く、畠4区131よりあたらしい。残存状態は遺構が調査区東へも広がり南側を攪乱によってⅧ層まで掘削されているため全貌は不明である。

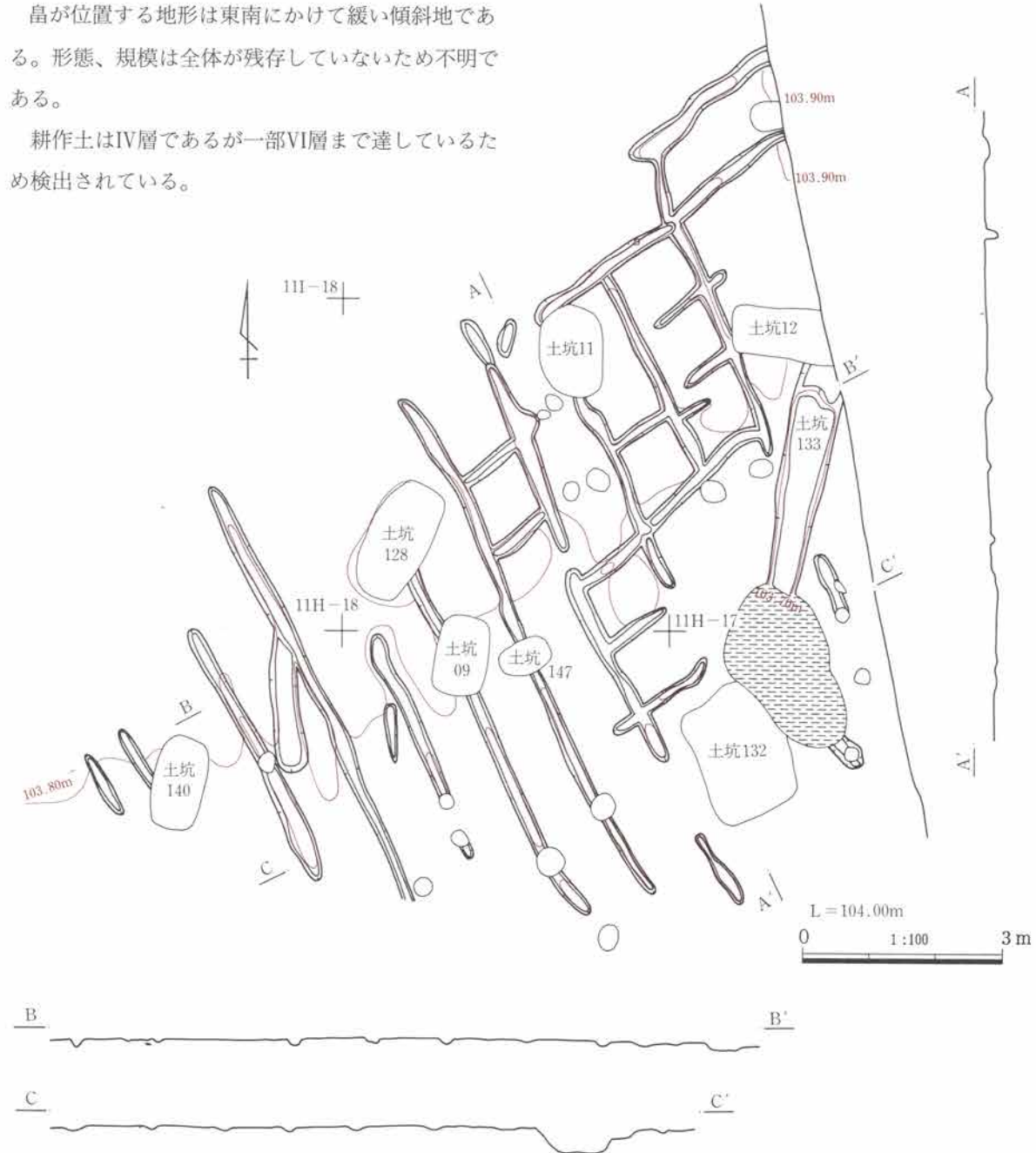
畠が位置する地形は東南にかけて緩い傾斜地である。形態、規模は全体が残存していないため不明である。

耕作土はⅣ層であるが一部Ⅵ層まで達しているため検出されている。

ウネ・サクのうちウネについては不明である。サクはほぼ傾斜に沿った状態で掘られている。規模はほぼ幅1m間隔で確認される。規模は幅20cm前後、深度5cm程度である。

埋没土はⅣ層である。

遺物の出土はみられなかった。畠の時期は埋没土の状態やサクの掘り込みの状態から7世紀代に比定される。



84図 畠 4 区130・131遺構図

畠 4 区131

位置は4区調査区中程の東より、11G～I-16～18グリッドである。他遺構との重複関係は中世墓坑、畠4区130と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は遺構が調査区東へも広がり南側を攪乱によってVIII層まで掘削されているため全貌は不明である。

畠が位置する地形は東南にかけて緩い傾斜地である。形態、規模は全体が残存していないため不明である。

耕作土はIV層であるが一部VI層まで達しているため検出されている。

ウネ・サクのうちウネについては不明である。サクはほぼ傾斜に直交する状態で掘られている。規模は130と同様にほぼ幅1m間隔で確認される。規模は幅20cm前後、深度5cm程度である。

埋没土はIV層である。

遺物の出土はみられなかった。畠の時期は埋没土の状態やサクの掘り込みの状態から7世紀代に比定される。

畠 6 区W01

位置は6区調査区W地点の南、9S-20・21グリッドにある。他遺構との重複関係は見られない。残存状態は畠の大部分が調査区外に広がり、上部は攪乱によって削平されているため確認面もVII層中位であり不明な点が多い。地形は調査区の上部が現代の攪乱が激しいため、確認面は基本土層が残存している層位であるVII層中まで掘削を行ったところ東へ向けて緩い傾斜が見られるが本来は南へのより緩い傾斜と想定される。

形態、規模は全体が残存していないため不明である。

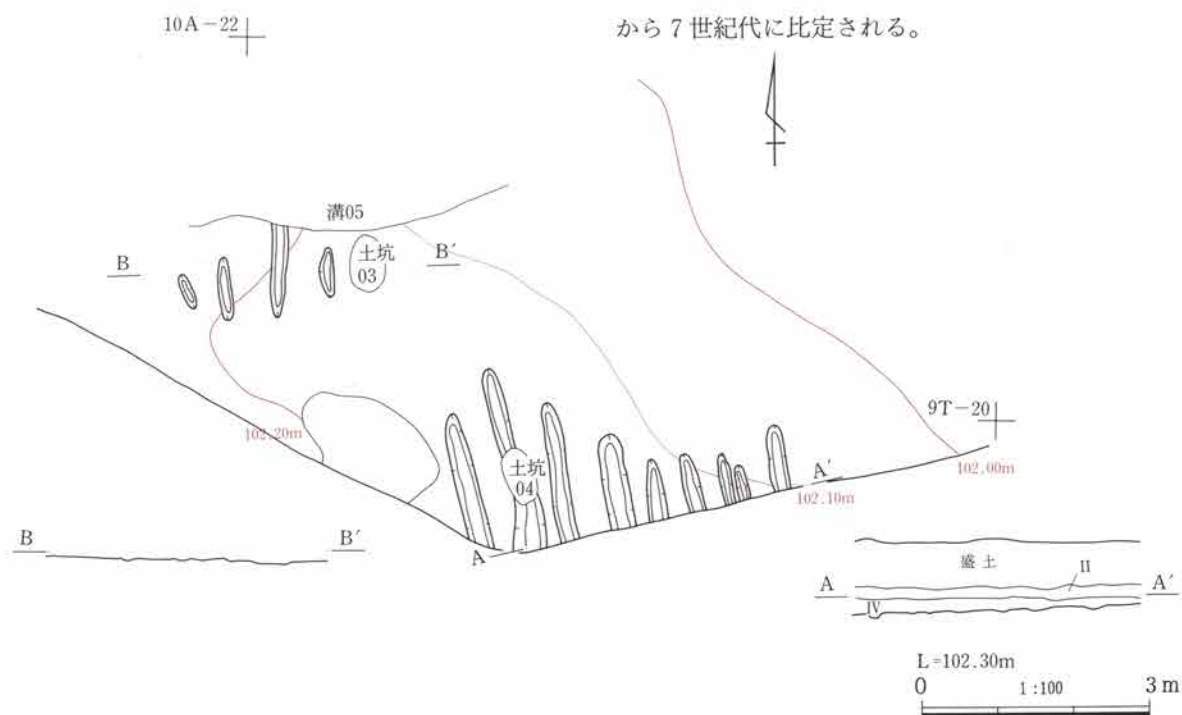
耕作土は埋没土がIV層であることからVI層であると想定される。

ウネ・サクのうちウネについては不明である。サクはほぼ傾斜に直交する状態で掘られている。規模はほぼ幅20cm前後、深度3～5cm程度である。

埋没土はIV層である。

遺物は土師器甕底部片が出土しているが出土した土師器甕は5世紀代に比定され畠の埋没土が6世紀以降であることから後の混入と考えられる。

畠の時期は埋没土の状態やサクの掘り込みの状態から7世紀代に比定される。



85図 畠 6 区W01遺構図

畠 6 区 E 01

位置は 6 区調査区 E-2 地点、10B・E-8・9 グリッドである。他遺構との重複関係は土坑 6 E-02 と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は畠の南部は調査区外に広がり、表土から VI 層上面まで攪乱によって削平されているが畠 6 区 W01 より良好な状態である。

地形は南へ向けて緩い傾斜である。また、東南部分は 6 区 1 地点の様相から比較的急激な傾斜で谷地へ移行するようである。

形態は細長い矩形に区画されていると想定される。規模は東西幅 6 m、南北長 16m + α である。

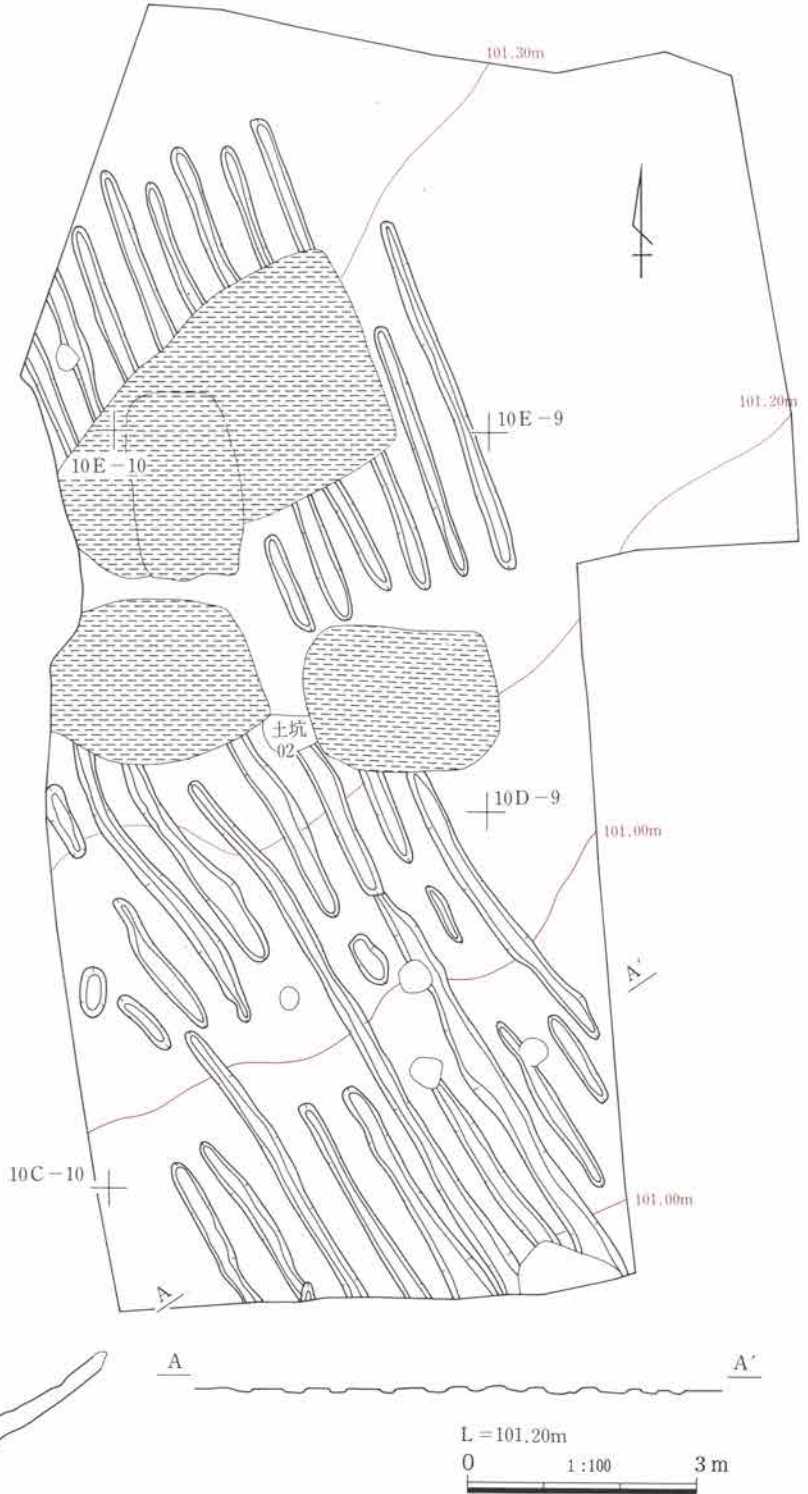
耕作土は IV 層を主としているが VI 層でのサクの状態から IV 層下位で V・VI 層も鋤き込んでいるようである。

ウネ・サクのうちウネについては不明である。サクはほぼ傾斜に沿った走行で掘られている。規模はほぼ幅 20cm 前後、深度 15~20cm 程度である。

埋没土は IV 層である。

遺物の出土はみられなかった。

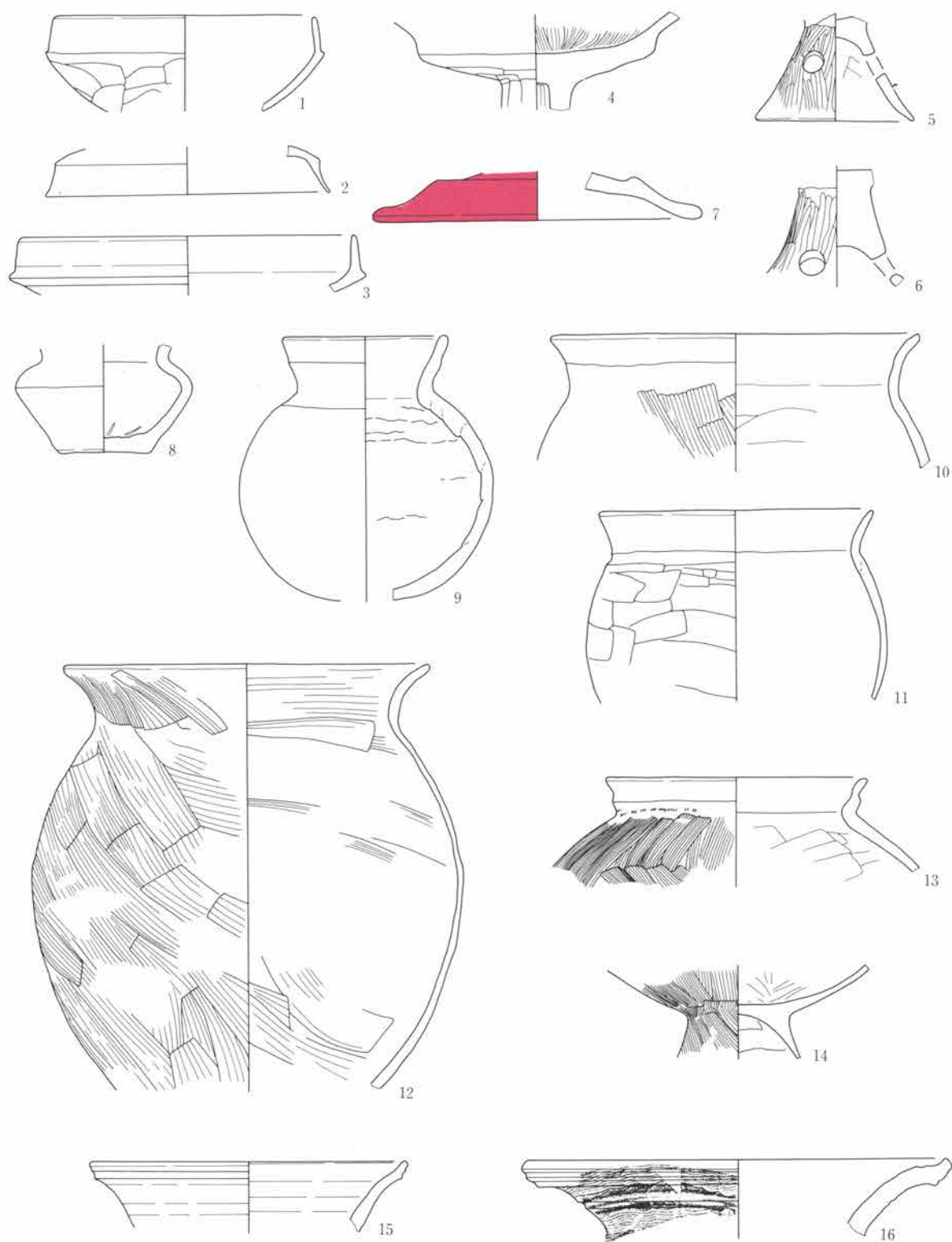
畠の時期は埋没土の状態やサクの掘り込みの状態から 7 世紀代に比定される。



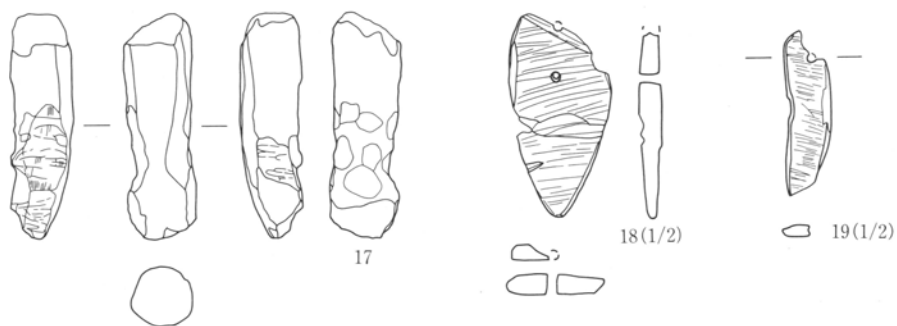
86図 畠 6 区 E 01 遺構図・遺物図

(6) 遺構外出土遺物

4区遺構外出土遺物

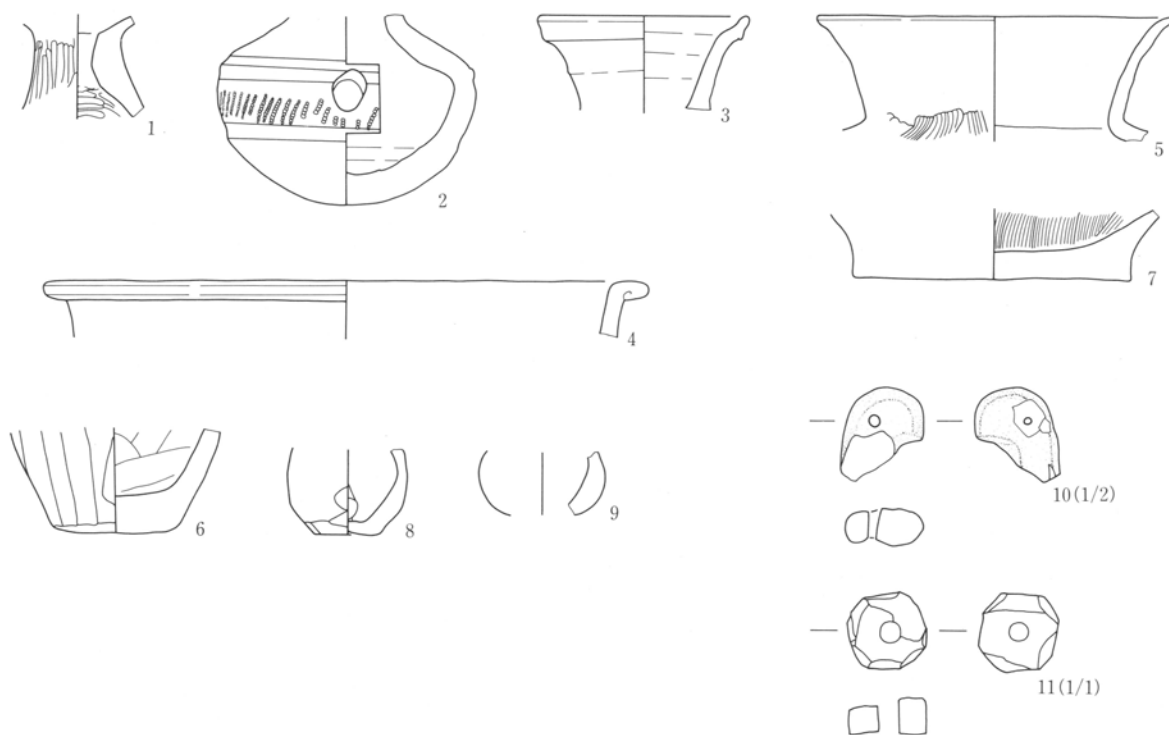


87図 古墳時代4区遺構外出土遺物 遺物図(1)



88図 古墳時代4区遺構外出土遺物 遺物図(2)

5区遺構外出土遺物



89図 古墳時代5区遺構外出土遺物 遺物図

5. 奈良・平安時代の遺構・遺物

(1) 居宅

4区調査区南端から5区調査区にかけて掘立柱建物群や、井戸を溝で区画した居宅と想定される施設を検出した。この居宅施設は北辺を溝4区03で区画され、内部に3時期に変遷される掘立柱建物群で構成されている。掘立柱建物は5区166など9棟以上の掘立柱建物群が存在しており、さらにその南の低地に移行する箇所では井戸が設けられている。この居宅の存在した時期は、掘立柱建物群と重複関係にある竪穴住居の居宅より古い段階のものの中で、もっとも新しい段階が8世紀第1四半期であることや区画溝、掘立柱建物柱穴、井戸など各遺構出土遺物の年代観から8世紀第2四半期から第3四半期の奈良時代中葉に比定できる。

居宅施設を外部と区画する施設は北辺に溝が掘られている。居宅南、東、西側を区画する施設については調査区外や現道路下に想定されることから検出されなかった。また、5区南側は谷地地形であることから自然地形を利用している可能性が考えられる。西辺、東辺の区画については、東は南側に存在する谷地が広がることから南と同様な自然地形を利用している可能性がある。西は微高地が広がることから北辺と同様な溝が掘られていたと想定される。

区画内部の建物は調査区内では掘立柱建物だけで構成されている。掘立柱建物は掘立柱建物5区166、377、169、211の間で柱穴に重複関係が認められる。その重複関係から掘立柱建物5区169→377→166、211→166の新旧関係が確認されることから3時期に渡る建て替えが行われたことが解る。そして建物の配置や規模などから同時期に存在していたと想定される掘立柱建物が存在する。それらの掘立柱建物は前述の重複関係によって変遷が明らかな掘立柱建物と平行な位置に建てられたり、建物の側柱列を揃えて設置されるなどその配置に規則性が認められる。

居宅内の掘立柱建物群の変遷についてその建物の様相を見てみると以下の通りである。

1期建物群と想定される掘立柱建物には掘立柱建物5区169、211、400がある。掘立柱建物5区400は調査した範囲が僅かであるため詳細は不明であるが、建物全体を調査した掘立柱建物5区166と211の柱穴とほぼ同規模であることや断面の状態から居宅に伴う掘立柱建物の一部であると断定した。建物配置は掘立柱建物5区166と211が主軸方位が直交する関係に位置し、西側の側柱列を揃えて建てられている。また、掘立柱建物5区400については東側の側柱だけの検出であるが211の東側側柱列と揃っていることから211とは桁行きが揃った平行関係の位置に配置が行われていると想定される。

1期の掘立柱建物群では2期、3期の掘立柱建物5区377、166のような正殿的建物の存在は確認されていない。

こうした掘立柱建物5区169、211、400の様相や配置から1期ではほぼ同一の規模による建物によって構成され、井戸5区181の位置関係などから田型の配置が取られていたと想定される。

2期建物群と想定される掘立柱建物には5区377、387、168がある。掘立柱建物5区168は建物の東半が調査区外にのびるため詳細は不明であるが、掘立柱建物5区377、387と梁行がほぼ同規模であることから377と同規模であると想定される。建物配置は掘立柱建物5区377と387が東西の側柱が揃った平行関係、そして掘立柱建物377と168は南北の側柱が揃った平行関係に配置されている。

2期では掘立柱建物5区377が南面に庇をもち東柱が確認されることから床をもつ高床の建物と想定される。そしてこの建物は庇、床の存在から2期の正殿的な建物であったと想定される。

2期の建物配置は正殿の前方に併行して前殿が設けられ官衙の様相も見られるが東側に位置する掘立柱建物5区168は桁行が正殿と同一であり官衙施設で見られる配置とは異なっている。

3期建物群と想定される掘立柱建物には5区166、171がある。掘立柱建物5区166は南面に庇をもち、建物規模も2期の正殿377より大規模になっている。

そして正殿の前方には平行する位置関係に掘立柱建物5区171が存在する。171の規模は166の身舎部分とほぼ同規模である。建物配置は掘立柱建物5区166と171は東西の側柱が揃った平行関係に配置されている。

居宅内には前記のように3期に渡る建物群が存在するが、こうした中で北側に柵をもつ掘立柱建物5区170が存在する。この建物は側柱列の方向や柱穴の規模など居宅内の2期～3期の掘立柱建物と同一でこの居宅の建物の一部であると想定される。しかし、1期～3期の建物群のどれとも側柱列が他の掘立柱建物と揃っていないためどの時期に属するのか明確にできないが、柱穴の規模からすると2期、3期に属するものと想定される。

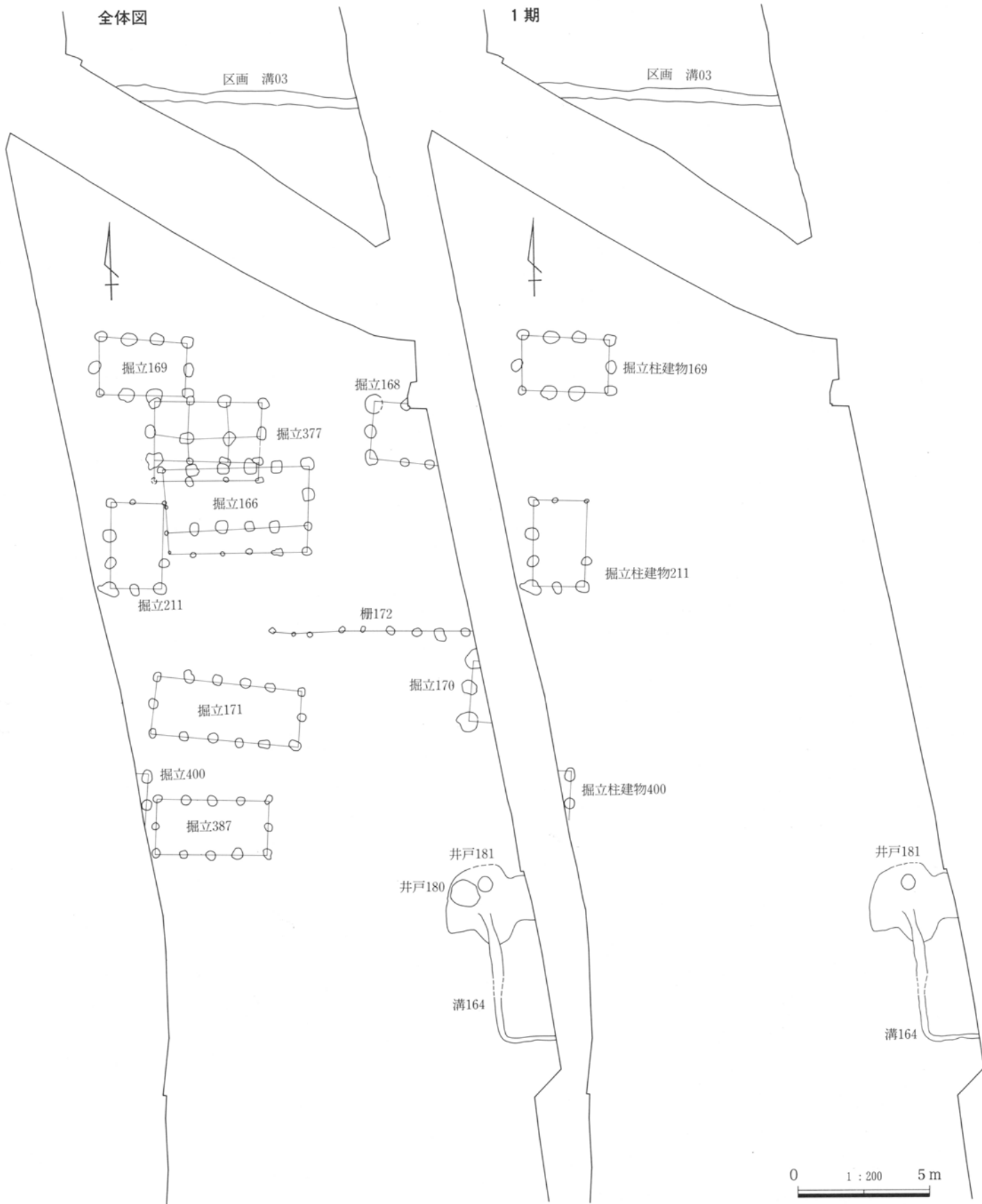
各期の建物は1期から3期にかけて規模が大きくなっている。1期では正殿と想定される建物は断定できないが1期掘立柱建物169と3期掘立柱建物166の間では約2.5倍の差が認められる。また、建物自体の構造も1期建物は庇や床をもたない比較的貧相な建物の可能性があるが2期の正殿と想定される掘立柱建物5区377は束柱の存在から高床で南面に庇を設けており大きな変化が見られる。3期の正殿と想定される掘立柱建物5区166も庇を有し、さらに桁行方向へ拡大されるなど建物自体も官衙風の建物に変化している。さらに2期以後は正殿の南側に前殿を配置するなど建物配置にも官衙風の要素を取り入れている。ただし建物の配置を見ると調査範囲の制約があるものの2期建物である掘立柱建物5区168、時期が不明な建物ではあるが掘立柱建物5区170の位置関係から「口」の字的配置が見られる。また、官衙に存在する脇殿的な建物が存在しないなど官衙での建物配置とは異なる配置をしている。

建物の他には居宅に属すると想定される井戸が谷地へ移行する箇所が存在する。井戸は重複関係が認められ井戸181→180への新旧関係が解ることから2期に渡って掘り直されている。そして古い段階の井戸5区181は掘方の形態が円形で井戸枠等の痕跡が確認されないことから素堀であった可能性が高い。

これに対して新しい段階の井戸5区180は掘方も方形を呈し内部には井戸枠を設置し周囲を石敷にするなど整備された施設になっている。こうした変化は建物の1期から2期への変化に併せて掘り直されたと推定される。

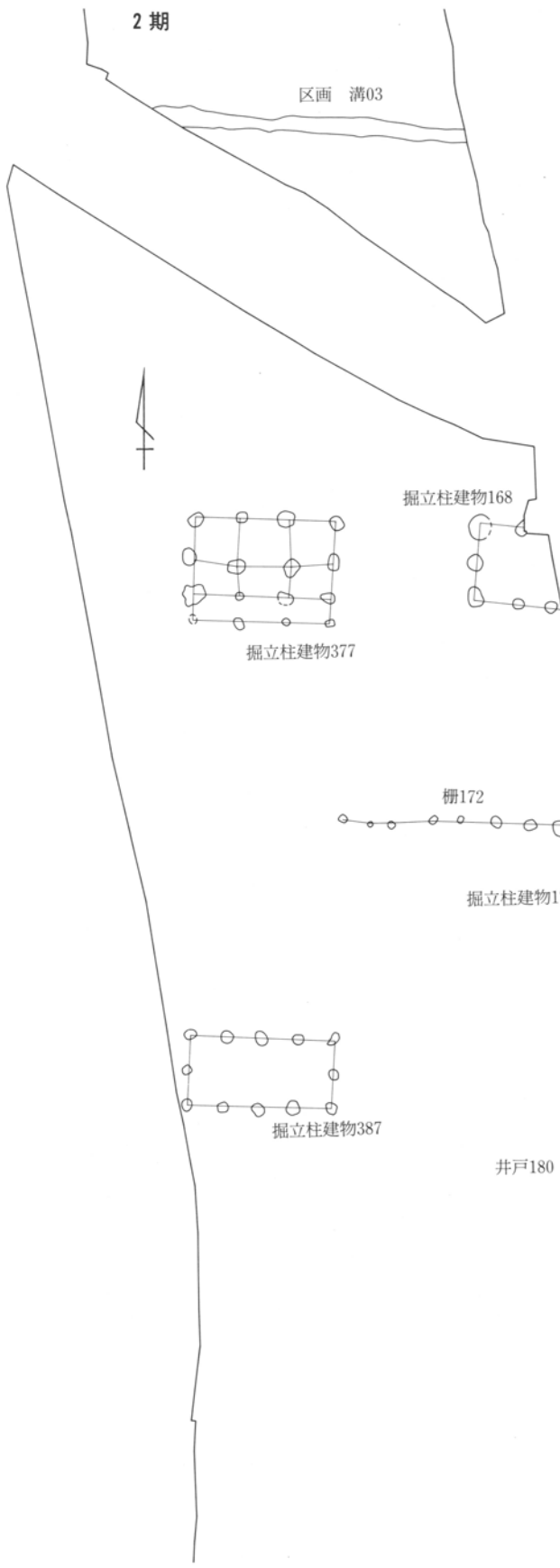
また、この井戸の上部では多量の食膳具を主体とする土器が出土している。これらの土器の出土状態は井戸の周辺5～10mの範囲に散乱した状態であることから、居宅が廃棄された時に居宅で使用されていた食膳具をはじめとする土器類も一緒に廃棄されたと考えられる。

出土遺物は土師器、須恵器の杯・碗を中心とした食膳具が主体に長頸壺、平瓶、甕など多量の土器群が出土している。食膳具の割合は土師器、須恵器ともほぼ同様な比率である。須恵器杯は蓋の出土量から比較的有蓋杯の比率が高いが杯は有台のものが少なく無台杯に蓋が伴っているようである。しかし、こうした食膳具の割には高坏、長頸壺など付随する食膳具の比率が小さい。

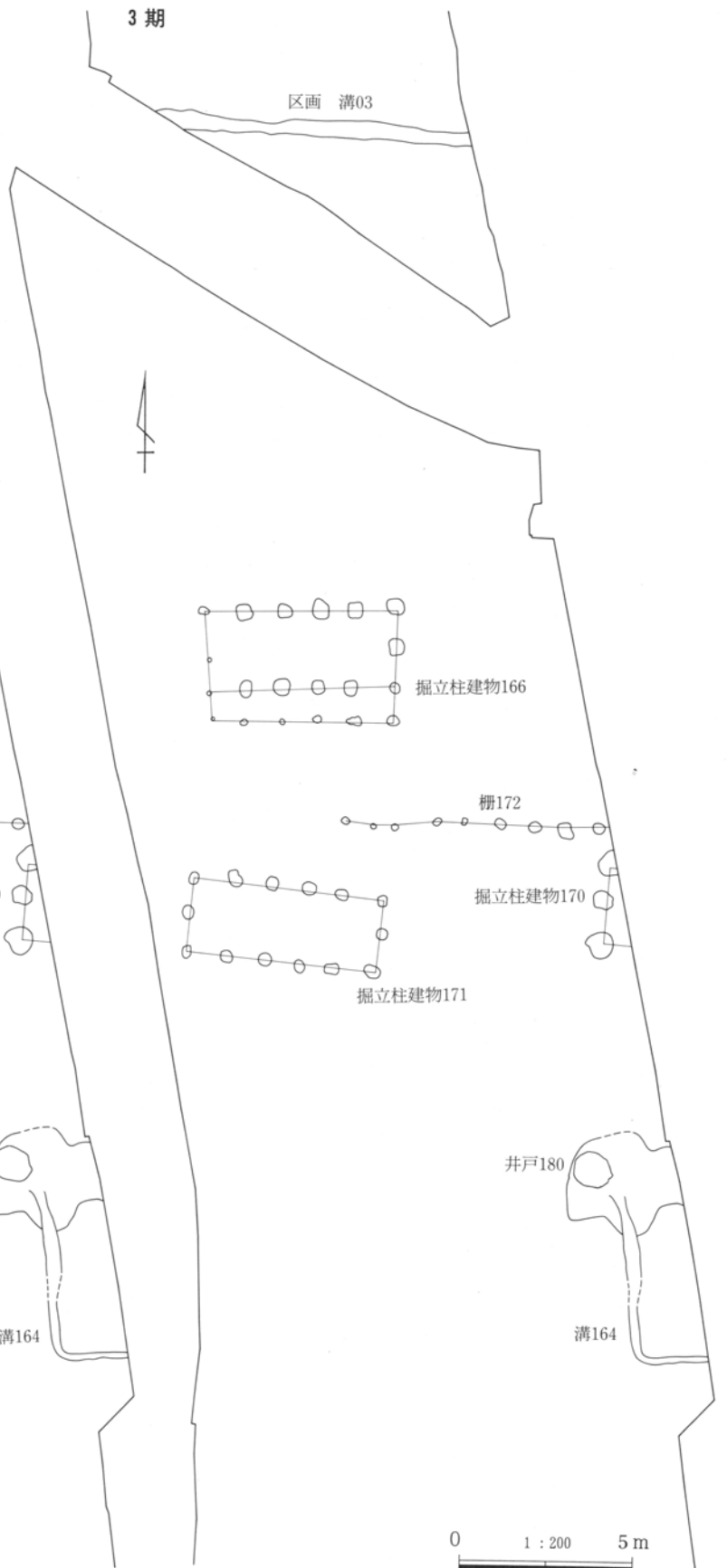


90図 居宅遺構全体図

91図 居宅遺構変遷図 1期



92図 居宅遺構変遷図 2期



93図 居宅遺構変遷図 3期

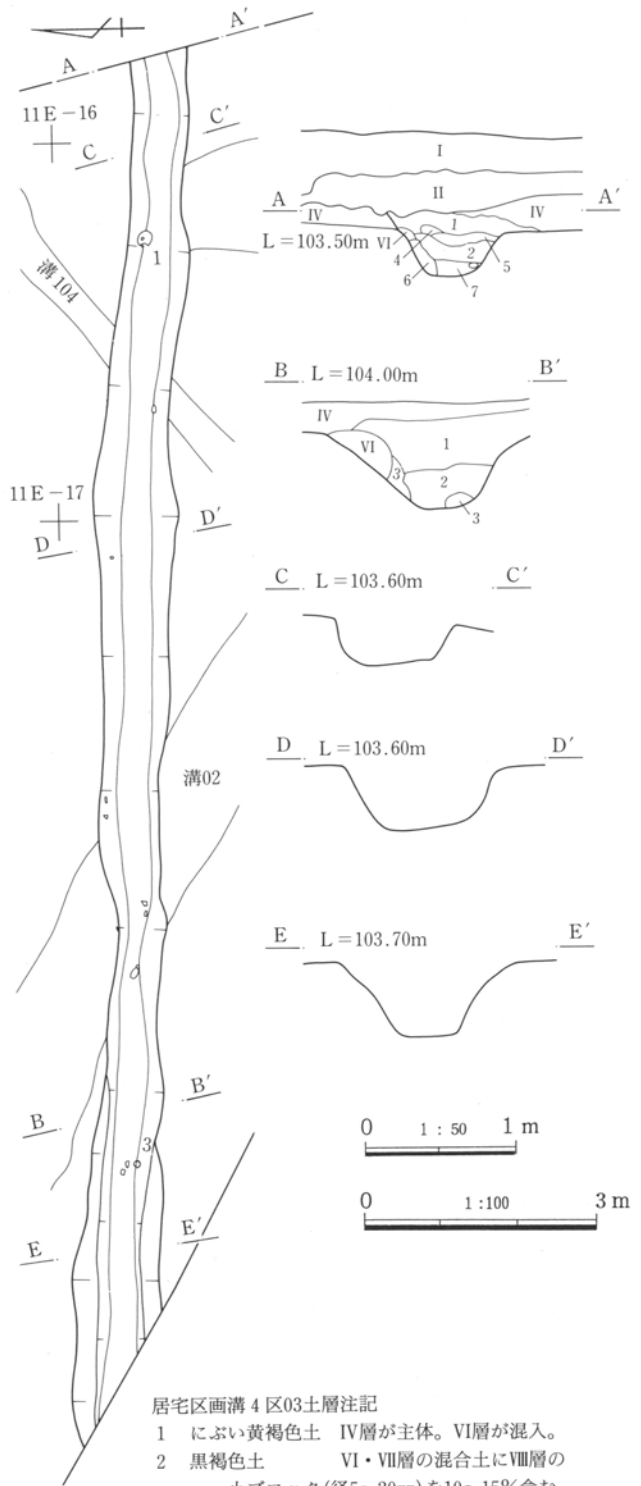
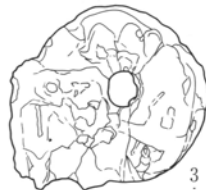
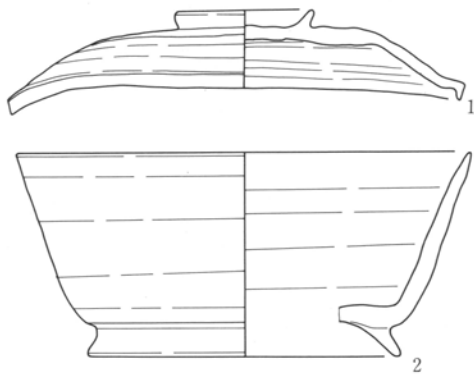
0 1 : 200 5 m

居宅区画溝4区03

4区調査区南、11D-16~19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は中世溝4区02、古墳時代溝4区104と重複している。新旧関係は溝104より本遺構のほうが新しく、中世溝4区02より古い。残存状態は重複する中世溝や攪乱で一部を欠くが比較的良好である。

規模は確認面での幅60~115cm、底面での幅15~40cm、深度30~50cmで調査区内での全長は約19mを測る。走行はほぼ東西方向に直線に掘られている。底面はほぼ平坦で東から西へ僅かに傾斜している。また、底面の状態は水が流れた様子は確認されていないことから空堀状の状態であった。断面の形状は逆台形を呈し、掘った土砂は施設内側、すなわち溝の南側に土累状に盛られこの居宅廃絶によりその土砂が溝内部に流れ込んだ様子が土層断面で観察できる。

遺物は土師器杯、須恵器杯、椀などが僅かに出土しているが、中位で図化した1の須恵器杯蓋、2の椀などが出土している。



居宅区画溝4区03土層注記

- 1 におい黄褐色土 IV層が主体。VI層が混入。
- 2 黒褐色土 VI・VII層の混合土にVIII層の小ブロック(径5~20mm)を10~15%含む。
- 3 明黄褐色土 VIII層がブロック状に崩落土。
- 4 におい黄褐色土 1に類似。
- 5 黒褐色土 IV層とVIII層の混合土。
- 6 褐灰色土 VII層とVIII層の崩落土。
- 7 黒色土 VII層とVIII層のブロックから成る。

94図 居宅区画溝4区03遺構図・遺物図

居宅内部区画柵 5区172

5区調査区中程、10P-14~17グリッドに位置する。他遺構との重複関係は平安時代溝5区48、奈良時代住居5区61と重複する。新旧関係は溝5区48より本遺構の方が古く住居5区61より新しい。残存状態は東側が調査区外に延びるため全貌は不明であるが調査区内では比較的良好な状態である。

形態はほぼ直線的であるが柱穴P3、P4で僅かに屈折する。規模は調査区内で全長16.2mを測る。方位はほぼ東西方向で居宅内の掘立柱建物と平行する位置関係になる。なお、居宅内の配置としては掘立柱建物5区170を正殿建物である掘立柱建物5区377や166から隠すような設置である。

柱穴の掘方は形態が方形に近いものから不整形のものまであり統一がなされていない。規模も最大径36cm 最小径10cmと差が激しい。柱痕は柱穴P4、6、9で確認され13から16cmと柱穴規模のような差は見られない。

遺物はほとんど出土していないが僅かに須恵器蓋、杯が出土している。図化可能な遺物は1の須恵器蓋だけであった。



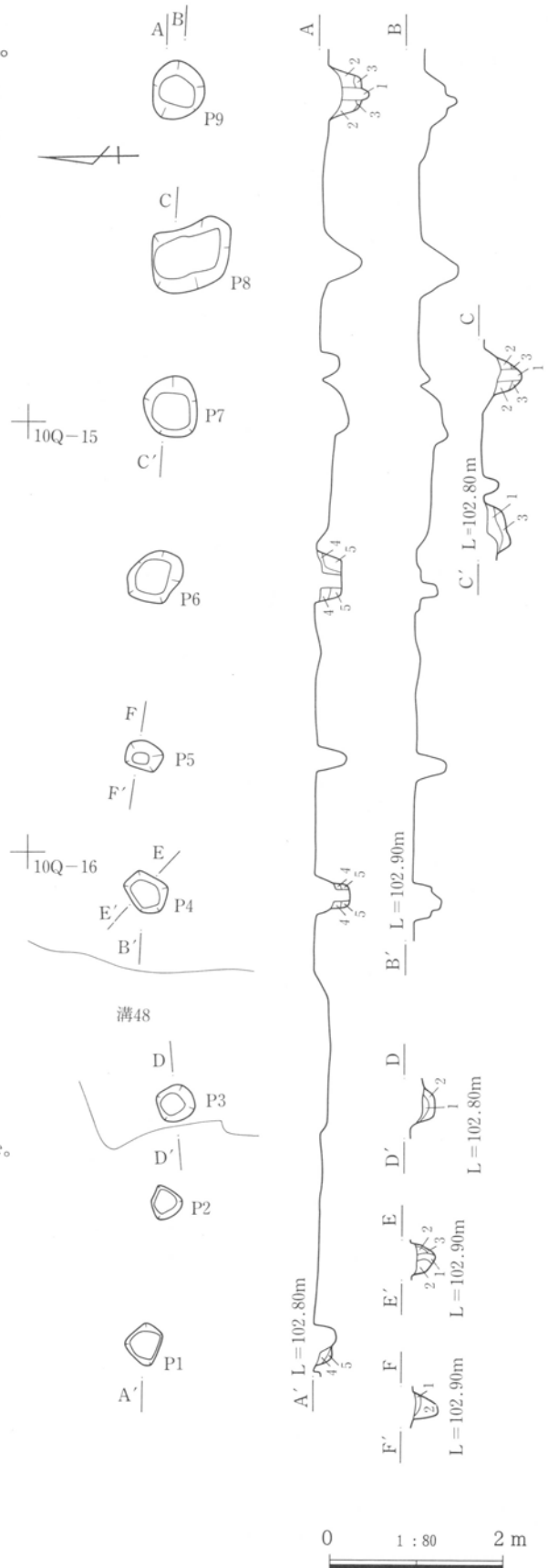
居宅内部区画柵 5区172 土層注記

- 1 褐灰色土 粘質土主体。As-Cを少量含む。砂質土を30%含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。VIII層30%混入。
- 3 黒褐色土 黒褐粘質土。しまり強い。砂質土を5%含む。
- 4 黒褐色土 VII層に類似。VI層混入。
- 5 黒褐色土 黒褐粘質土。白色シルトブロック(径2cm以下)を30%含む。

8表 居宅内部区画柵 5区172柱穴計測表

No.	長径	短径	深度	柱痕径	間距離
1	43	42	28		172
2	36	34	31		117
3	44	43	28		240
4	54	44	41	13	162
5	44	27	34		207
6	78	58	32	16	192
7	72	64	36		174
8	100	74	48		196
9	66	64	48	15	118+α

単位 cm



95図 居宅区画柵 5区172遺構図・遺物図

1 期建物群

掘立柱建物 5 区169

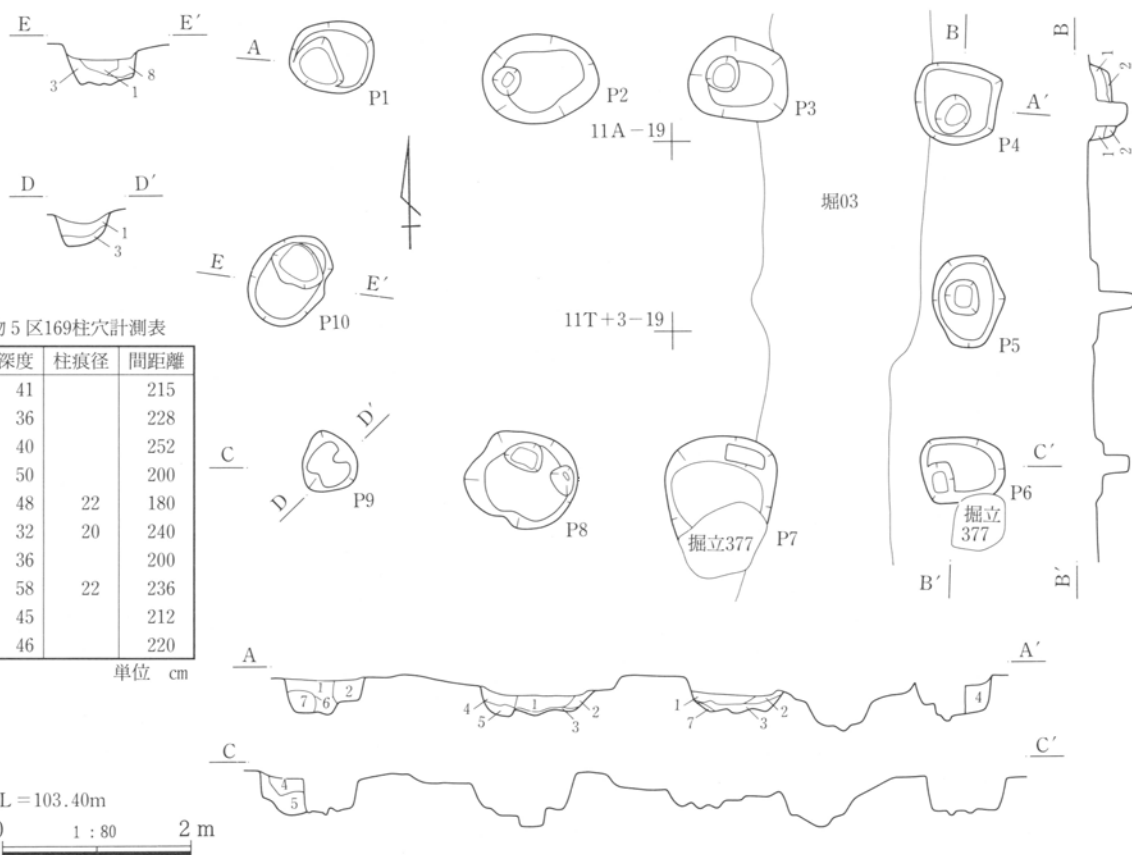
5 区調査区北、西よりの10T・11A-18・19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は中世館掘、居宅 2 期掘立柱建物 5 区377、古墳時代溝 5 区04と重複する。新旧関係は本遺構の方が居宅掘立柱建物 5 区377より古く、溝 5 区04より新しい。残存状態は居宅掘立柱建物 5 区377の柱穴により柱穴 P 7の一部と柱穴 P 6 の縁辺を欠くが比較的良好である。

形態は東辺が西辺より0.5mほど短いやや歪んだ矩形を呈する。規模は梁行 2 間3.80~4.32m、桁行 3 間6.76~6.95mを測る。面積は27.8㎡である。主軸方位はN-180°-Eを指す。

柱穴は P 4、P 6 が比較的正方形に近い他は角は見られるが丸みをもった形態である。規模は柱穴 P 9 が径60cm代と小規模であるが他は100cm前後と比較的規模が大きい。柱痕は痕跡が残存している柱穴 P 5、6、8 での確認面、断面によると径20cmほどである。

本建物は西側柱列が居宅掘立柱建物 5 区211西側柱列と一直線になるように揃えている。

遺物は土師器杯、甕を中心に約100点ほど出土しているが、図化可能な遺物は柱穴 P 8 から出土した 2 の須恵器杯と柱穴 P 10 から出土した土師器高坏の 2 点だけであった。



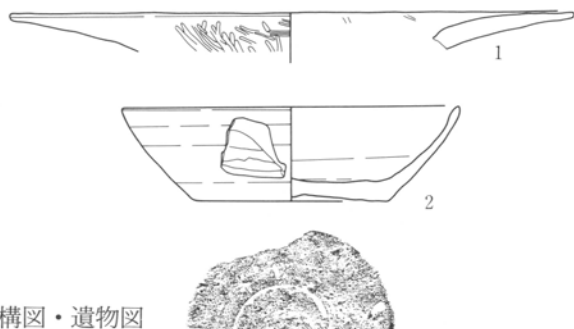
9 表 居宅掘立柱建物 5 区169柱穴計測表

No.	長径	短径	深度	柱痕径	間距離
1	90	75	41		215
2	124	96	36		228
3	106	86	40		252
4	90	86	50		200
5	100	76	48	22	180
6	90	72	32	20	240
7	(110)	118	36		200
8	122	103	58	22	236
9	65	62	45		212
10	102	80	46		220

単位 cm

居宅掘立柱建物 5 区169 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。VI層のブロックを10%含む。
- 2 灰黄褐色土 VII層主体。VIII層ブロックを20%含む。
- 3 灰黄褐色土 VII層主体。VIII層ブロックを30~50%含む。
- 4 黒褐色土 IV層に類似。VIII層ブロック10%含む。
- 5 にぶい黄色土 VIII層ブロック主体。IV・VI・VII層ブロックを20%含む。
- 6 黒褐色土 VII層とIV層の混土?。As-Cを1%含む。
- 7 黒褐色土 VII層に類似。VIII層ブロックを5%含む。
- 8 暗褐色土 IV層に類似。VIII層ブロックを5%含む。



96 図 居宅掘立柱建物 5 区169遺構図・遺物図

掘立柱建物 5区211

5区調査区北の西より、10Q・R-18・19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は中世館堀、平安時代住居5区49、土坑5区215と重複する。新旧関係は本遺構の方が住居5区49より古く、土坑5区215より新しい。残存状態は中世館堀により柱穴P3の中位から上位と柱穴P4全体を欠くが他の柱穴は比較的良好である。

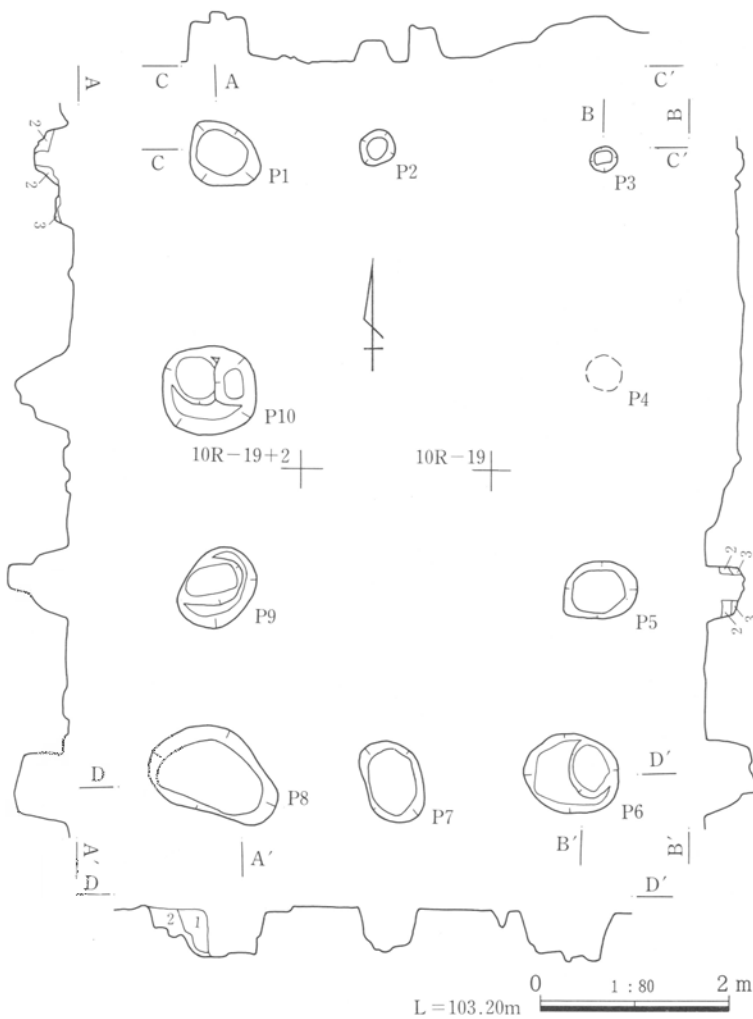
形態は対になる辺長も同一で各角もほぼ直角である長方形を呈する。規模は梁行2間4.04m、桁行3間6.50~6.58mを測る。面積は26.1m²ほどである。

主軸方位はN-90°-Eを指す。

柱穴は柱穴P10が方形に近い他は丸みをもった形態を呈す。規模は柱穴P2が径40cmと小規模であるが他は径80~100cmと比較的大規模である。

本建物は前述のように居宅掘立柱建物5区169と西側柱列が揃い、東側柱列が居宅掘立柱建物5区400の東側柱列と一直線になるように揃えられているようである。

遺物は土師器杯、甕などが30点ほど出土しているが図化可能なものはなかった。



10表 居宅掘立柱建物5区211柱穴計測表

No.	長径	短径	深度	柱痕径	間距離
1	86	70	54		160
2	40	38	25		244
3	30	28			~P5
4	-	-	-		450
5	80	65	48		200
6	100	85	56		224
7	88	60	46		180
8	134	90	62		206
9	90	72	65		206
10	100	96	60		246

単位 cm

居宅掘立柱建物5区211 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層主体。IV層混入。VIII層ブロック(径10~50mm)を10%含む。
- 2 黒褐色土 VI層に類似。IV層混入。
- 3 黒褐色土 2に類似。VIII層ブロック(径5~20mm)を10%含む。

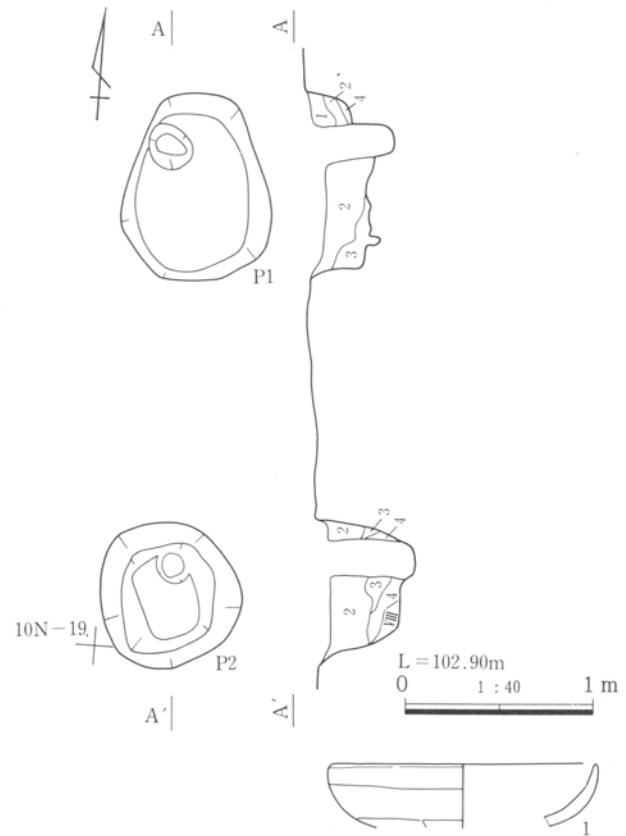
97図 居宅掘立柱建物5区211遺構図

掘立柱建物 5区400

5区調査区中程の西端、10N-19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は見られない。残存状態は調査区範囲内では柱穴P1、2しか存在しないため詳細は不明である。

柱穴は東側柱列の東北角柱穴とその南側柱穴の2本と推定される。柱穴P1は楕円、柱穴P2は方形を呈し、規模は径100×80cm、深度45cmと径78cm、深度54cmである。柱痕は柱穴P1、2で確認でき径はともに18cmである。

遺物は土師器杯、甕などが30点ほど出土しているが図化可能な遺物は柱穴P2から出土した1の土師器杯だけであった。



居宅掘立柱建物 5区400 土層注記

- 1 黒褐色土 IVに類似。VIが混入。As-Cを3%含む。
- 2 黒褐色土 VIに近似。IVが混入。As-Cを5%含む。
- 3 黒褐色土 VIに近似。IVが混入。As-Cを5%とVIIIブロックを5%含む。
- 4 黒褐色土 VIIに類似。VIIIブロック(径5~20mm)を10%含む。

98図 居宅掘立柱建物 5区400遺構図・遺物図

痕は痕跡が残存している柱穴での確認面、断面によると径20~40cmほどである。庇柱穴は残存する3本は長方形、円形、楕円形と形態は不統一である。規模は径50cmと身舎柱穴に比べると小規模である。

本建物は居宅掘立柱建物 5区387と桁行方向が平行し、居宅掘立柱建物 5区468と梁行方向が平行する位置関係にある。

遺物は土師器杯、甕を中心に90点ほど出土しているが、図化可能な遺物は柱穴P6、8、9などから出土した土師器杯の4点だけであった。

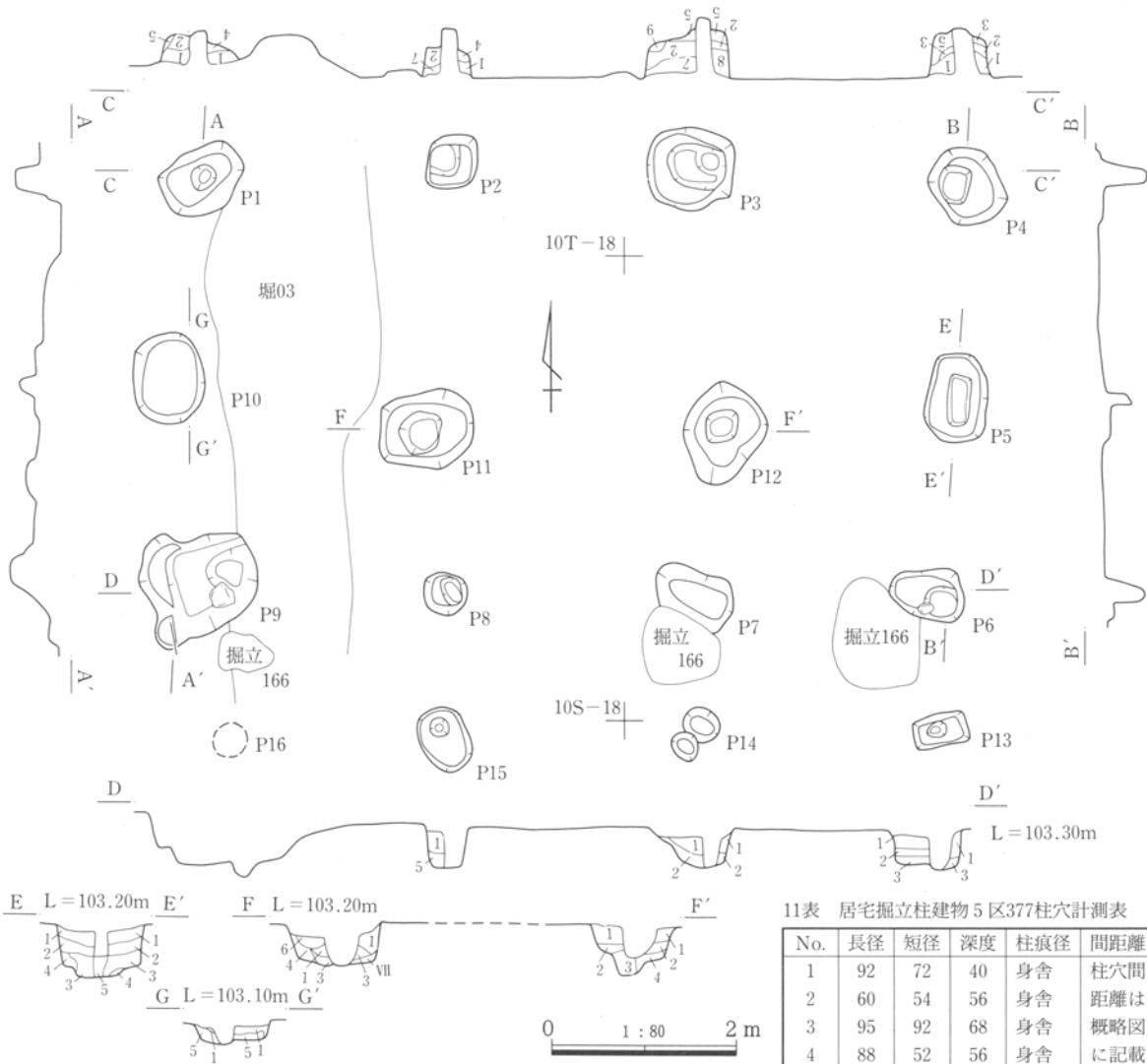
2期建物群

掘立柱建物 5区377

調査した範囲の2期建物群では正殿をなす建物と考えられる。位置は5区調査区北よりの中央、10S・T-17・18グリッドである。他遺構との重複関係は中世館堀 5区03、居宅3期立建柱建物 5区166と重複している。新旧関係は本遺構の方が居宅掘立柱建物 5区167より新しい。残存状態は庇西端柱穴が中世館堀 5区03によって残存していない他は比較的良好な状態である。

形態は南側柱列、庇柱列以外は中程が直線的ではなく脹らみをもつ矩形を呈する。規模は全体が梁行5.88m、桁行7.60~8.16mを測る。身舎部分は梁行2間4.36~4.50m、桁行3間7.74~8.16m、庇は1間で幅1.42m~1.60mを測る。面積は身舎部分36.8㎡、庇を含めた全体で48.3㎡である。主軸方位はN-181°-Eを指す。

身舎柱穴はやや脹らみをもつ長方形または方形を呈す。規模は柱穴P8が径50cm前後と小規模であるが他は1.00m前後と比較的大きい掘方である。柱



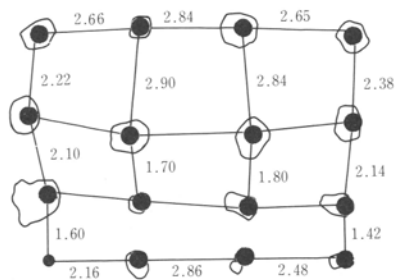
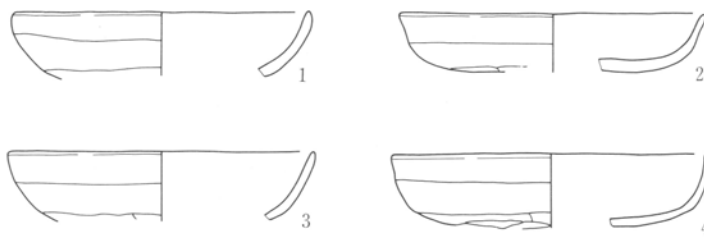
居宅掘立柱建物5区377 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層とVI層の混合土。As-C (径3~5mm) を3%含む。
- 2 黒褐色土 VII層主体。VI層を20%含む。
- 3 黒褐色土 VII層主体。VIII層ブロック (径10~30mm) を10%含む。
- 4 黒褐色土 3と同じ。VIII層ブロック (径10~30mm) を20~30%含む。
- 5 黒褐色土 3と同じ。VIII層ブロック (径10~30mm) を50%含む。
- 6 黒褐色土 IV層とVI層の混合土。VIII層ブロック (径5~30mm) を10%含む。
- 7 黒褐色土 IV層とVI層の混合土。As-C 3%・VIII層ブロック (径10~30mm) 30%含む。
- 8 にふい黄橙色土 IV層・VI層・VII層・VIII層の混合土。VIII層ブロック50%・VII層ブロック (径1~3cm) 10%含む。
- 9 灰黄色土 VIII層主体。VII層ブロックを5%含む。

11表 居宅掘立柱建物5区377柱穴計測表

No.	長径	短径	深度	柱痕径	間距離
1	92	72	40	身舎	柱穴間
2	60	54	56	身舎	距離は
3	95	92	68	身舎	概略図
4	88	52	56	身舎	に記載
5	94	58	57	身舎	
6	84	56	64	身舎	
7	90	60	44	身舎	
8	52	48	48	身舎	
9	132	90	70	身舎	
10	100	76	24	身舎	
11	104	86	52	床束柱	
12	108	72	58	床束柱	
13	60	32	20	庇	
14	40	40	28	庇	
15	75	52	16	庇	
16	-	-	-	庇	

単位 cm



99図 居宅掘立柱建物5区377遺構図・遺物図

掘立柱建物 5区387

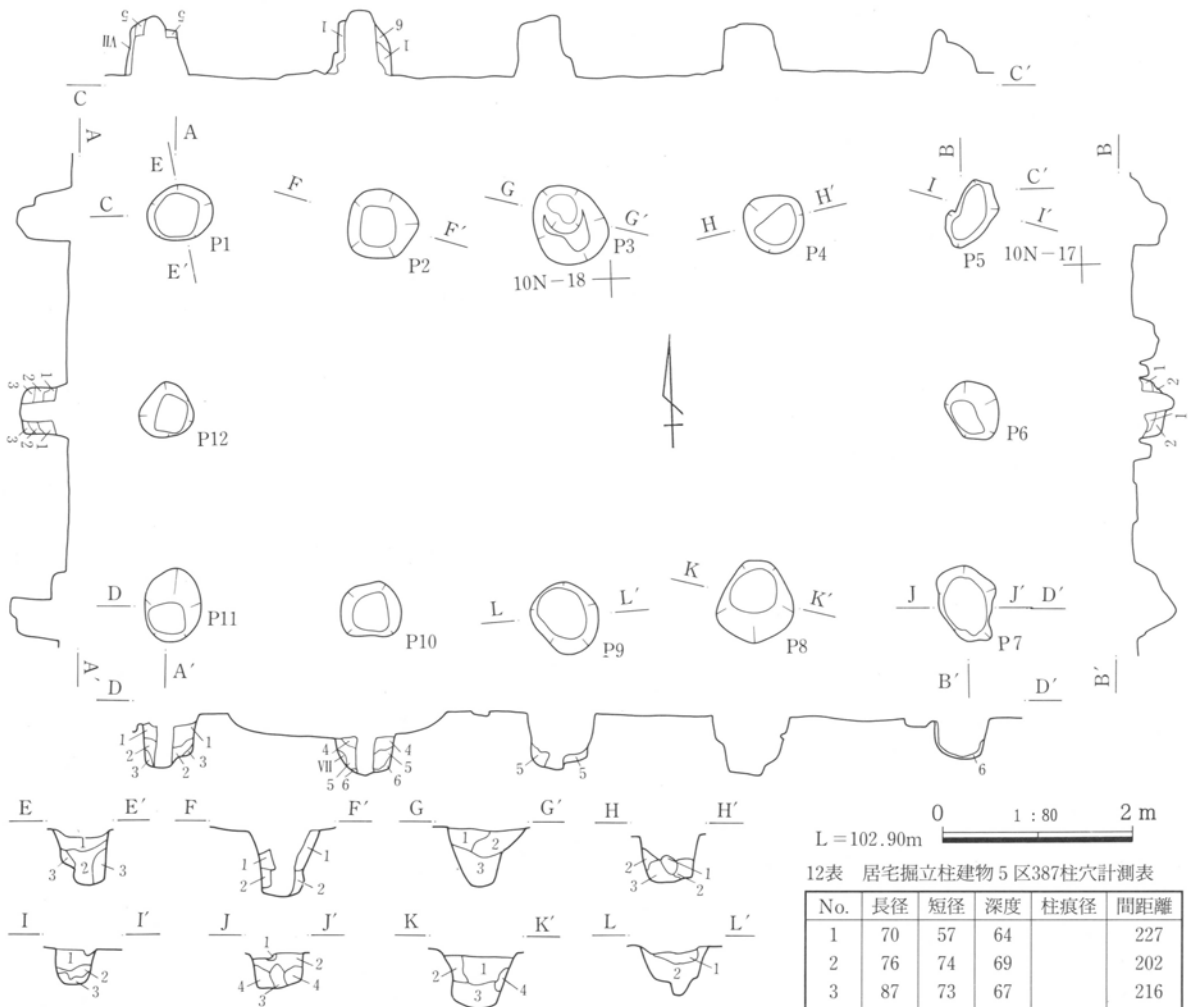
2期建物群正殿掘立柱建物5区377の前殿に相当する建物と考えられる。5区調査区中程の西より10M・N-17・18グリッドに位置する。掘立柱建物5区377の南に20mの間隔を空けて平行して建てられている。他遺構との重複関係は土坑5区55などと重複している。新旧関係は本遺構の方が土坑5区55より古い。残存状態は柱穴P10の上半が土坑5区55によって削平されている他は比較的良好的な状態である。

形態は西辺が東辺に比べて35cmほど長いがほぼ長

方形を呈している。規模は梁行2間8.45~8.48m、桁行4間3.90~4.24mを測る。面積は34.2㎡である。主軸方位はN-180°-Eを指す。

柱穴は掘立柱建物5区377と同様に円形、楕円形、方形、不整形を呈し全体としては統一されていない。規模は径60~90cm、平均75cmで掘立柱建物5区377の柱穴に比較するとやや小規模である。柱痕は柱穴P10、P11、P12で確認でき径20cmほどである。

遺物は土師器杯、甕を中心に110点ほど出土しているが、図化可能な遺物は柱穴P5、6、8などから出土した須恵器杯蓋2点と杯身の1点だけであった。



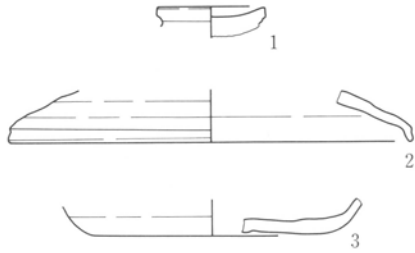
居宅掘立柱建物5区387 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。VI層30%混入。As-Cを5~10%含む。
- 2 黒褐色土 VI層に近似。IV層30~50%混入。As-Cを3%含む。
- 3 黒色土 VII層の崩落土。
- 4 黒褐色土 VI層に類似。IV層40%混入。VIII層ブロック10%・As-C5%含む。
- 5 黒色土 VII層主体。VI層20%・VIII層ブロック30%含む。
- 6 黒色土 VII層に類似。

12表 居宅掘立柱建物5区387柱穴計測表

No.	長径	短径	深度	柱痕径	間距離
1	70	57	64		227
2	76	74	69		202
3	87	73	67		216
4	63	61	52		200
5	82	42	48		203
6	75	55	47		187
7	82	64	50		224
8	90	78	63		200
9	75	64	70		204
10	65	60	72	20	220
11	76	64	58	20	212
12	60	60	53	20	212

100図 居宅掘立柱建物5区387遺構図



101図 居宅掘立柱建物5区387 遺物図

掘立柱建物5区168

2期建物群正殿掘立柱建物5区377の東側、5区調査区北よりの東側10S・T-14・15グリッドに位置する。他遺構との新旧関係は平安時代住居5区63と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は建物東半が調査区外に存在するが調査した範囲では良好である。

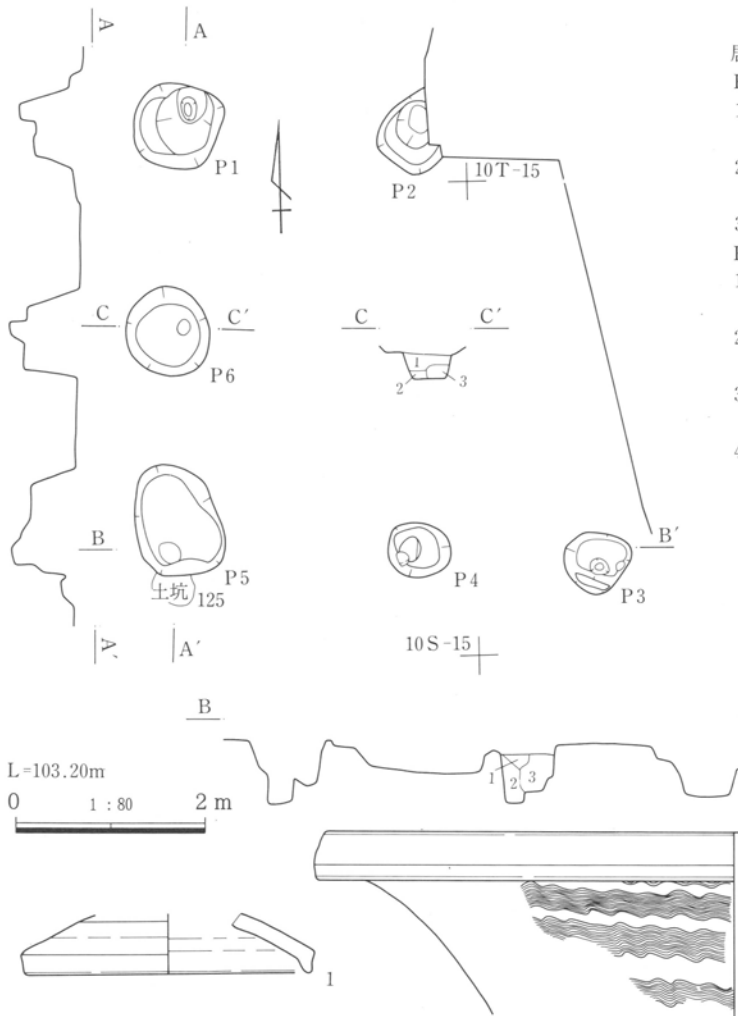
形態は長方形を呈すると想定される。規模は梁行

2間4.66m、桁行は $2m + \alpha$ 、3間か4間で8m前後と推定される。面積は全貌が不明のため測定できないが調査部分で24㎡ほどであることから掘立柱建物5区377身舎部分や387と同様に35㎡前後と想定される。主軸方位は $N-182^\circ-E$ を指す。

柱穴は隅に円みをもつ方形、長方形を呈す。規模は径60~120cm、深度28~68cmを測る。柱痕は柱穴P5、P6で確認でき径は24cm、18cmほどである。

本建物は居宅掘立柱建物5区377の身舎部分南北側柱列とほぼ一直線になるように揃えられている。

遺物は土師器杯、甕を中心に95点ほど出土しているが、図化可能な遺物は柱穴P2、P5などから出土した須恵器杯蓋と甕口縁部片の各1点だけであった。



居宅掘立柱建物5区168 土層注記

- P4
- 1 黒褐色土 シルト質。砂質気味。しまりやや弱い。軽石を1%含む。
 - 2 黒褐色土 シルト質。しまり弱い。軽石・焼土微量含む。
 - 3 黒褐色土 1に類似。軽石微量。VI層混合土。
- P6
- 1 灰黄褐色土 シルト質。しまり強い。白色シルトブロック15%・白色軽石1%含む。
 - 2 黒褐色土 シルト質。しまりやや弱い。軽石を微量5%含む。
 - 3 黒褐色土 シルト質。しまりやや強い。軽石・焼土を微量含む。
 - 4 黒褐色土 3と白色シルトブロックの混合土。

13表 居宅掘立柱建物5区168柱穴計測表

No.	長径	短径	深度	柱痕径	間距離
1	94	90	62	~P2	250
2	$80 + \alpha$	78	28		
3	68	66	56	~P4	204
4	66	58	50	~P5	250
5	120	92	62	~P6	236
6	98	88	68	~P1	230

単位 cm

102図 居宅掘立柱建物5区168 遺構図・遺物図

3 期建物群

掘立柱建物 5 区166

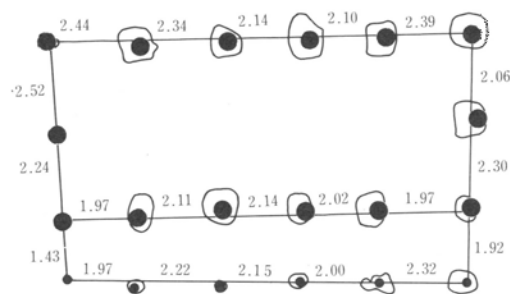
調査した範囲の3期建物群では正殿をなす建物と考えられる。位置は5区調査区北よりの中央、10Q～S-16～18グリッドである。他遺構との重複関係は中世館堀5区03、居宅1期建物群掘立柱建物5区211、2期建物群掘立柱建物5区377、奈良時代住居5区58、古墳時代溝5区04と重複している。新旧関係は本遺構の方が居宅1期建物群掘立柱建物5区211、2期建物群掘立柱建物5区377、住居5区58、溝5区04より新しい。残存状態は西側柱列、庇西端柱が中世館堀5区03、と県教委試掘坑によって上部を欠き底面だけが残存する状態であるが他の柱穴は比較的良好な残存状態である。

形態は身舎が東側より西側が40cmほど幅広の矩形であるが庇幅を東側が西側より50cmほど開くことで全体を長方形に近い形態に調整している。規模は底を含めた建物全体の大きさが梁行6.24～6.32m、桁行10.84～11.40m、身舎は梁行2間4.36～4.74m、桁行5間10.84～11.40m、庇は1間で幅1.43～1.92mを測る。面積は身舎部分51.0㎡、底を含めた全体で70.3㎡である。主軸方向はN-178°-Eを指す。

身舎柱穴は柱穴P1、P13、P14が後世の遺構によって形態が不明なものと柱穴P8以外は方形または長方形を呈する。

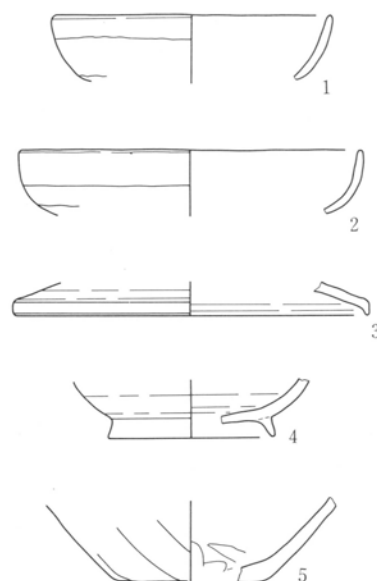
柱穴は、柱穴一覧表のように0.8～1.00mと比較的大きい掘方である。柱痕は痕跡が残っている柱穴での確認面、断面によると25cmほどであることが観察された。庇柱穴は身舎柱穴に比べるとやや小規模で形態も楕円形に近い。

遺物は土師器杯、甕を中心に80点ほど出土しているが、図化可能な遺物は柱穴P2、P3、P7、P8、P13などから出土した土師器杯の2点と甕1点、須恵器杯蓋1点、椀1点だけであった。ただし4の須恵器椀は本遺構に伴う時期のものではなく後の混入と考えられる。



14表 居宅掘立柱建物5区166柱穴計測表

No.	位置	形態	長径	短径	深度	柱痕径	間距離
1	身舎	-	-	-	-	-	柱穴間
2	身舎	方形	88	83	60	-	距離は
3	身舎	方形	84	84	33	-	概略図
4	身舎	方形	120	96	35	-	に記載
5	身舎	方形	89	84	57	30	
6	身舎	ほぼ方形	100	90	53	32	
7	身舎	方形	96	89	53	-	
8	身舎	円形	68	60	32	32	
9	身舎	ほぼ方形	92	80	33	33	
10	身舎	方形	80	74	40	-	
11	身舎	方形	96	92	32	-	
12	身舎	楕円形	100	67	41	28	
13	身舎	-	-	-	-	-	
14	身舎	-	-	-	-	-	
15	庇	楕円形	80	62	52	30	
16	庇	不整形	88	30	30	28	
17	庇	楕円形	49	42	45	30	
18	庇	円形	32	32	44	-	
19	庇	円形	40	40	30	28	
20	庇	-	-	-	-	-	



103図 居宅掘立柱建物5区166 遺物図

掘立柱建物 5区171

3期建物群主殿である掘立柱建物5区166の前殿に相当する建物と考えられる。掘立柱建物5区166の南10mに平行する位置関係である。グリッドは10N・O-16~18である。他遺構との重複関係は平安時代溝5区48、平安時代住居5区53、古代土坑5区231、396と重複している。

新旧関係は本遺構の方が平安時代溝5区48より古く、奈良時代住居5区53、土坑5区231、土坑5区396より新しい。残存状態は後世の深い遺構との重複関係がないため比較的良好である。

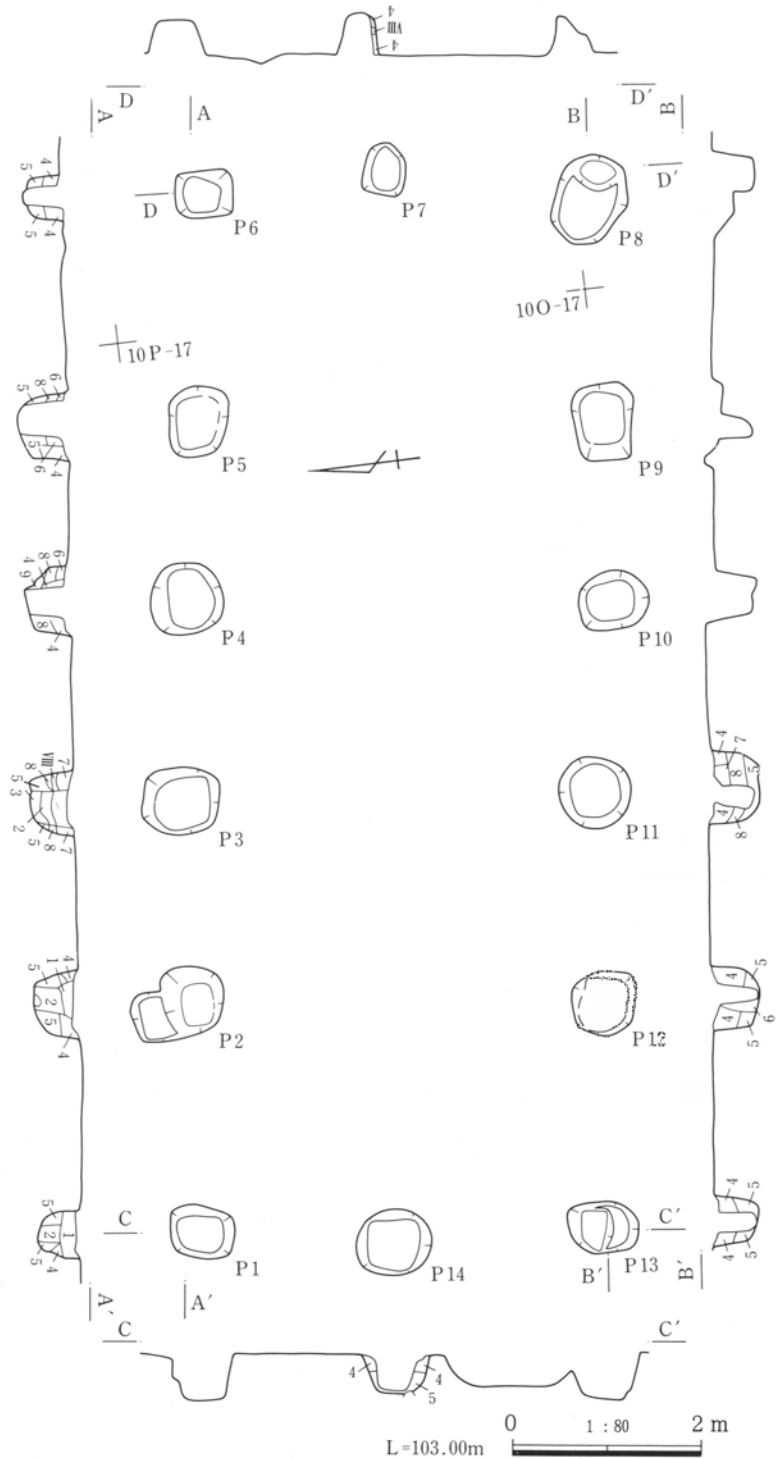
規模は梁行2間1.26~4.46m、桁行5間11.18~11.26を測る。面積は49.1m²である。主軸方位はN-185°-Eを指す。形態は比較的歪みのない長方形を呈す。柱穴は掘立柱建物5区166に比べるとやや小規模な掘方である。規模は0.6から0.8mほどである。形態は方形に近いが角がやや丸みをもつ。柱痕は掘立柱建物5区166と同様に25cmほどである。

遺物は土師器杯、甕を中心に90点ほど出土しているが、図化可能な遺物は柱穴P5、P10などから出土した須恵器杯の1点と砥石2点だけであった。

15表 居宅掘立柱建物5区171柱穴計測表

No.	長径	短径	深度	柱痕径	間距離
1	70	64	48	30	250
2	76	68	46		218
3	82	72	45		218
4	78	78	49	30	192
5	76	64	56		240
6	60	50	42	32	202
7	56	46	45		224
8	100	78	46	32	270
9	82	66	49		182
10	76	63	54		216
11	67	66	56		208
12	68	68	54	28	250
13	77	56	50	28	228
14	83	75	40	28	218

単位 cm



居宅掘立柱建物5区171 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。VI層・VII層ブロックを20%含む。
- 2 黒褐色土 IV層に類似。VII層ブロックを10%含む。
- 3 黒褐色土 2に類似。VIII層ブロックを含む。
- 4 黒褐色土 IV層に近似。VI層混入。As-C 3%・VIII層ブロック(径10~20mm) 5%含む。
- 5 灰黄褐色土 VIII層漸移層主体。VII層ブロック(径10~30mm)を20%含む。
- 6 黒褐色土 VII層主体。IV層・VI層ブロックを30~50%含む。
- 7 黒褐色土 1に類似。VIII層ブロック(径30~50mm)を50%含む。
- 8 黒褐色土 VII層に類似。IV層ブロック30%・VI層ブロック20%含む。
- 9 黒色土 VII層に類似。VIII層ブロック(径10~30mm)を20%含む。

105図 居宅掘立柱建物5区171 遺構図



106図 居宅掘立柱建物 5区171 遺物図

時期を明確にできない掘立柱建物

居宅掘立柱建物 5区170

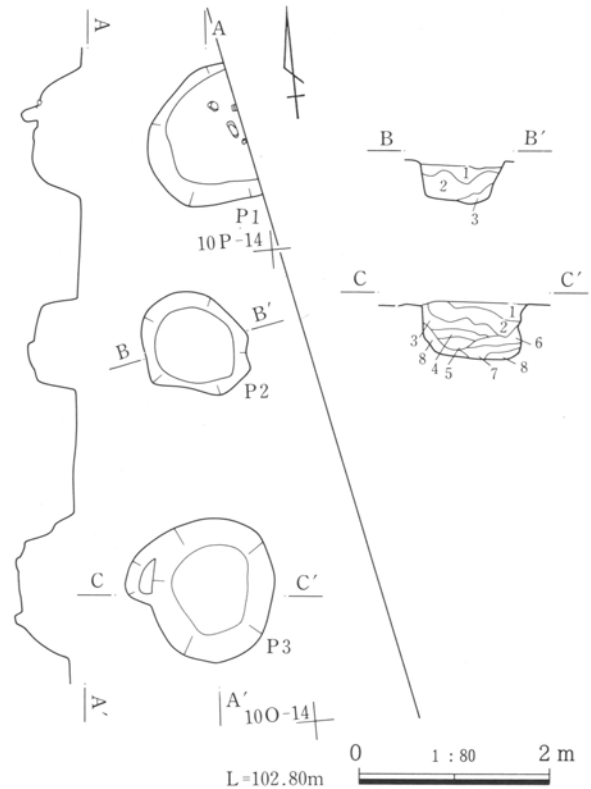
5区調査区中程の東端、10O・P-13・14グリッドに位置する。他遺構との重複関係は攪乱、小土坑などと柱穴端部で重複が確認できる程度であった。残存状態は西梁行だけで他の大部分は調査区外に存在する。

形態は長方形を呈すると想定される。規模は梁行2間、4.070mを測る他は不明である。主軸方位はN-182°-Eを指す。

柱穴は楕円形に近い形態で規模は柱穴P1が径147×140+αcm、深度65cm、柱穴P2が径124×110cm、深度52cm、柱穴P3が径160×154cm深度62cmを測る。柱痕は各柱穴底部で確認され柱穴P1が18cm、柱穴P2が28cm、柱穴P3が20cmである。柱間距離は柱穴P1～P2が2.54m、柱穴P2～P3が2.16mを測る。

遺物は土師器杯、甕を中心に160点ほど出土しているが、図化可能な遺物は柱穴P2、3から出土した土師器杯、須恵器杯蓋、杯身、甕など他の掘立柱建物より比較的多くの遺物が出土していた。

本掘立柱建物は側柱の方向や柱穴の規模、出土遺物から居宅に付随する建物であると断定されるが、側柱列は1期から3期の建物群と一致する建物が見られないため時期を明確にできなかった。ただし、柱穴が大規模であることから2期または3期の建物群と併存した可能性が高い建物である。



居宅掘立柱建物 5区170 土層注記

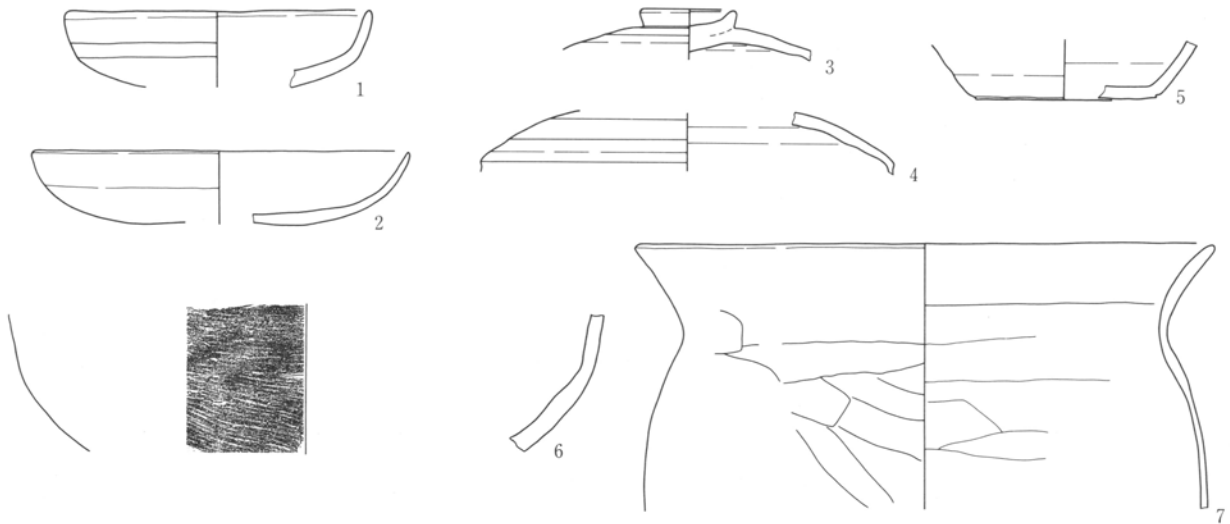
P 2

- 1 黒褐色土 粘質土。砂質土をまだらに含む。
- 2 黒褐色土 粘質土。白色シルトブロック(径3cm以下)を20%含む。
- 3 黒褐色土 粘質土。白色シルトブロック(径5mm以下)10%含む。

P 3

- 1 灰褐色土 シルト質。白色シルトブロック(径30mm)7%・焼土3%・炭化物微量・白色軽石1%含む。
- 2 灰褐色土 1に同じ。白色シルトブロック微量。
- 3 黒褐色土 シルト質。焼土炭化物(径3mm)微量・白色軽石微量含む。
- 4 黒褐色土 粘質土。白色シルトブロック(径40mm)10%・焼土・炭化物(径2mm)微量含む。
- 5 黒褐色土 粘質土。砂質土を若干含む。焼土・炭化物微量含む。
- 6 黒褐色土 粘質土。白色シルトブロック30%・焼土・炭化物微量含む。
- 7 黒褐色土 粘質土。焼土・炭化物2%含む。
- 8 黒褐色土 粘質土。白色シルトブロック30%含む。

107図 居宅掘立柱建物 5区170 遺構図



108図 居宅掘立柱建物5区170 遺物図

居宅に付随する施設等

居宅内部には掘立柱建物群の他、井戸5区180、181の2基、井戸に付随する排水溝と想定される溝5区164が検出されている。この他に施設ではないが居宅廃絶後の食膳具を中心とする土器類を廃棄した遺構である廃棄5区60、436が検出されている。廃棄5区60は井戸5区180、181の存在する上部に重複するように存在している。こうした施設は南側の谷地に移行する部分に位置している。

井戸は居宅の概要で記述したように並列して存在しており、井戸5区180に付随する敷石が井戸181の一部に及ぶことから新旧関係は明らかである。

居宅井戸5区181

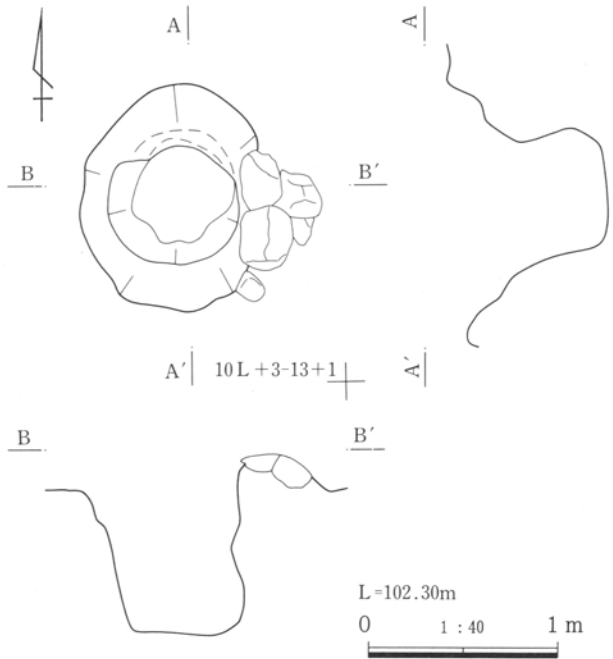
5区調査区中程東より、10M-13グリッドに位置する。他遺構との重複関係は居宅井戸5区180と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は比較的良好である。

形態は確認面が南北にやや長い楕円形であるが底面は方形に近い。断面形態は下位で湧水によるアグリが見られるがほぼ円筒状を呈す。規模は長径120cm、短径100cm、深度86cmを測る。

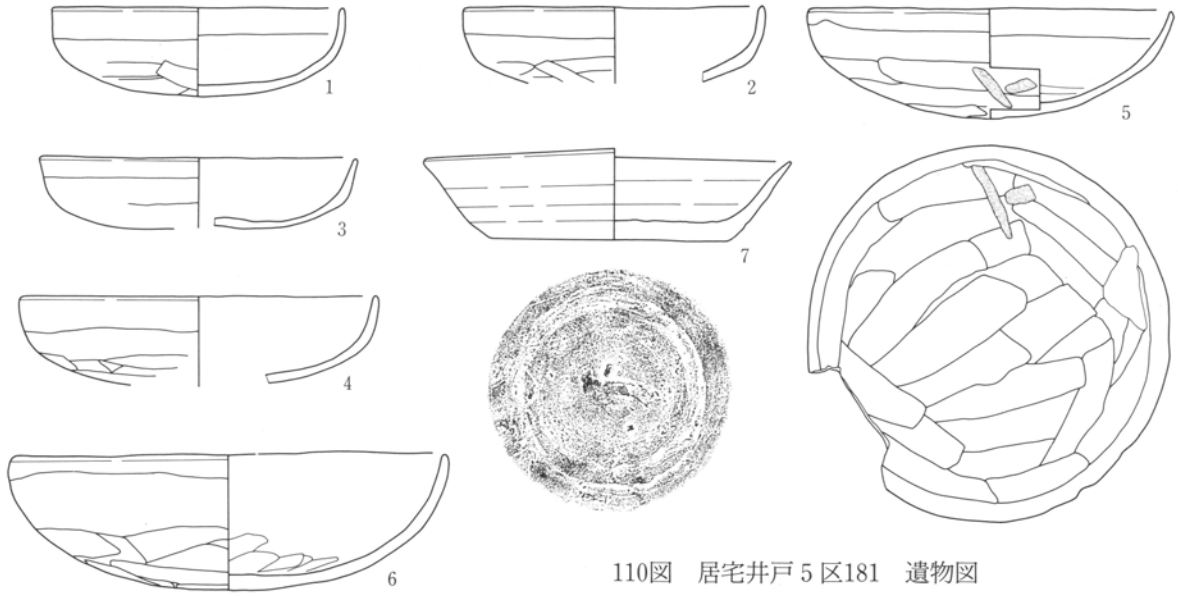
埋没土は調査時の湧水のため観察することができなかった。

遺物は土師器杯、甕など600点と須恵器杯、甕など90点と多くの遺物が出土している。出土した遺物の

中には居宅で使用している中で破損したりしたため井戸を掘り返すときに廃棄されたものも含まれるように比較的残存状態の良好なものもみられた。

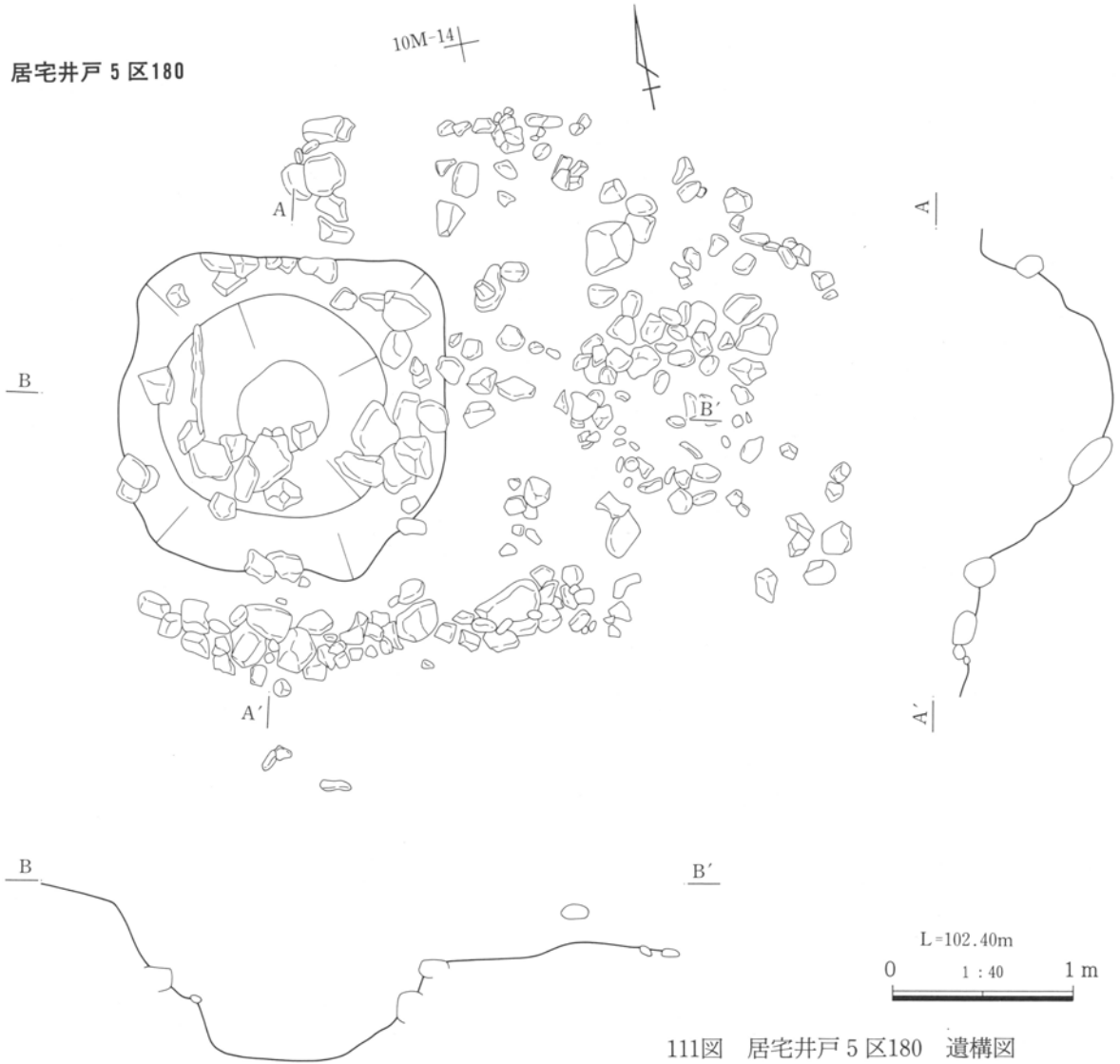


109図 居宅井戸5区181 遺構図



110图 居宅井戸 5区181 遺物図

居宅井戸 5区180



111图 居宅井戸 5区180 遺構図

後期居宅井戸 5区180

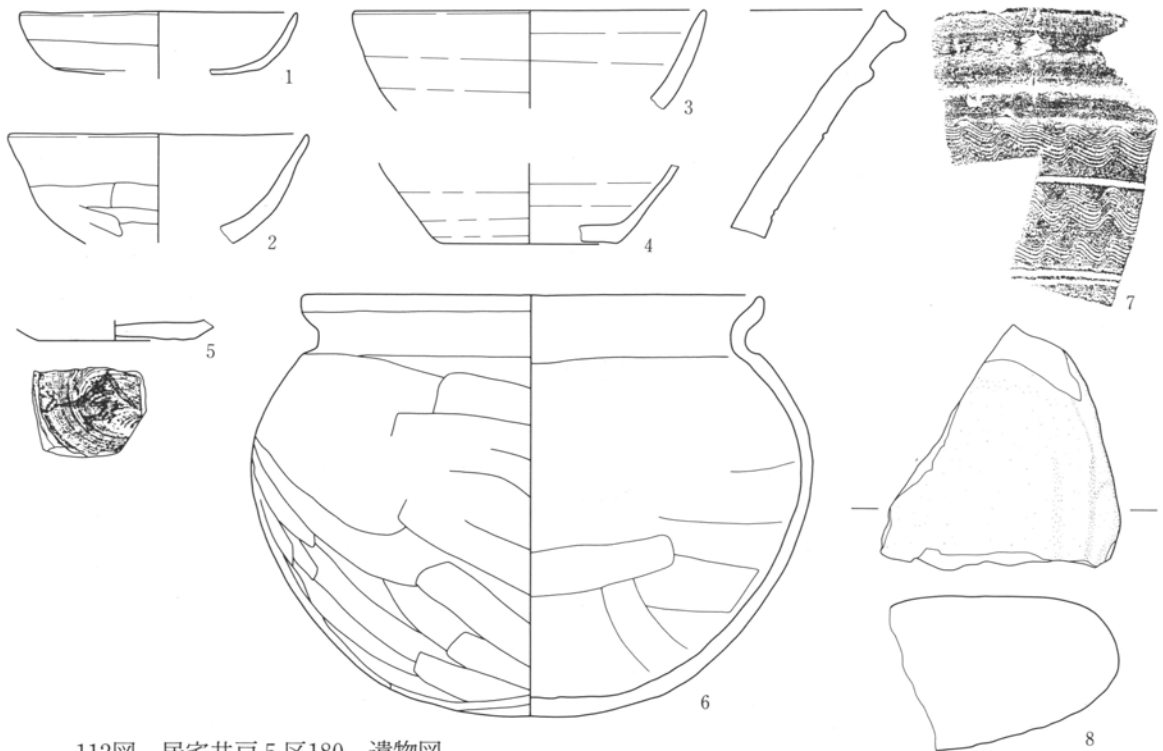
5区調査区中程東より、10L-13・14グリッドに位置する。他遺構との重複関係は居宅井戸5区181と重複する。新旧関係は本遺構の方が新しい。本井戸は井戸本体の周囲に礫がしかれている。残存状態は石敷部分の礫の大部分が取り除かれていたりしているため詳細が不明な点がある。

井戸本体は形態が確認面で方形、底面は円形を呈す。規模は確認面で一辺が170~180cm、底面は径50cm、深度は石敷上面から88cmほどである。石敷部分は形態が方形に近い形態と想定され、その範囲は礫の残存部分や地形から井戸本体の南北と東側に設け

られていたと想定される。規模は南北3.2m、東西3.6mほどである。石敷に使用されている礫は径10~30cm代の円礫、角礫の両方が使用されている。礫は井戸周囲だけでなく井戸本体の上半にも積まれているようであるが内部の礫は大部分が崩落などで欠いている。

埋没土は調査時の湧水のため観察することができなかった。

遺物は土師器杯、甕など110点と須恵器杯、甕など20点と若干の材が出土している。出土材の樹種はウツギ属、モミ属、クリ、アカガシ亜属などであった。



112図 居宅井戸5区180 遺物図

溝5区164

5区調査区中程東よりの居宅井戸5区180・181の南、10J-12、10J~L-13グリッドに位置する。他遺構との重複関係は溝5区438と重複する。新旧関係は本遺構の方が新しい。残存状態は中程を現代の掘削によって欠き、東側が調査区外に延びるため全貌は不明である。

形状は10J-13グリッドで走行をほぼ直角に変えている。規模は確認面で幅50~90cm、底面幅20~30

cm、深度22cmである。

埋没土はIV層を主体に僅かにVI層を含む土砂によって埋没している。

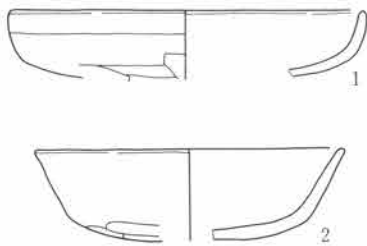
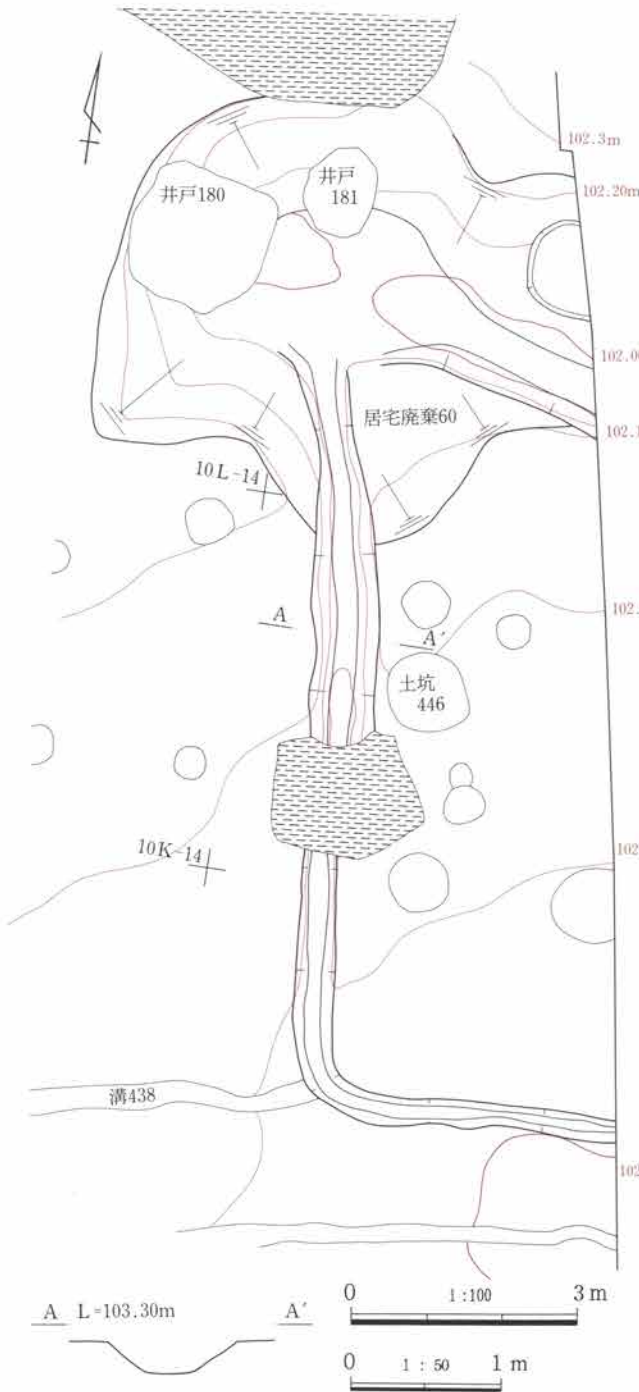
遺物は図化した土師器杯の他に須恵器杯などが若干出土しているが北側で検出した居宅廃棄5区60からの流れ込みの可能性もある。

なお、本溝は居宅井戸との位置関係や地形、溝底面の傾斜から居宅井戸での排水を流すための排水溝としての役割をもつ溝と考えられる。

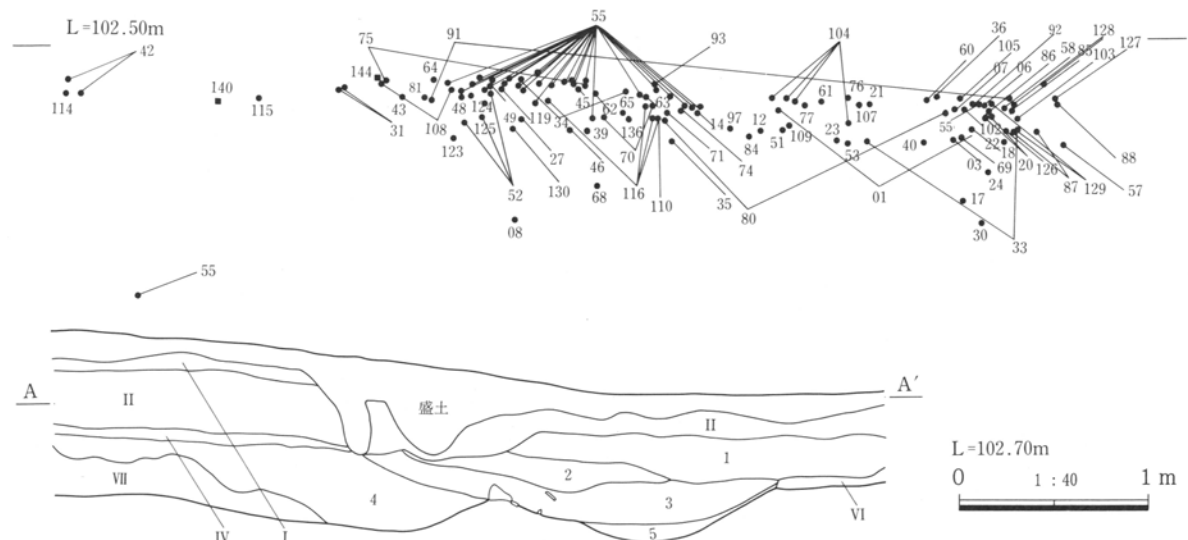
居宅廃絶後の土器類廃棄遺構

廃棄 5 区 60

5 区調査区中程の東端、10L-13グリッドに位置する。遺構は明確な掘り込みではなく隣接する居宅井戸 5 区 180・181が存在する窪みに居宅で使用していた食膳具を中心とする土器群や居宅井戸 5 区 180の周辺部にしかれた礫群を廃棄した遺構である。遺構の範囲は出土状況から調査区外に広がると想定される。規模は南北2.0m、東西3.5m以上である。土器群はIV層中の標高109.90~102.40mの間に居宅井戸 5 区 180の周辺部にしかれた礫群と重なるような状態で出土している。こうした出土状況から居宅使用時に窪みを利用した廃棄を行ったものではなく居宅が使用されなくなった段階で土器群などが廃棄されたと考えられる。出土した土器の残存状態は完形に近い比較的良好なものから108の須恵器平瓶のように細かな破片で出土したものまで幅広い状態であった。出土土器量は全体で7.412点でそのうち須恵器1.620点(22%)、土師器5.792点(78%)、黒色土器2点であった。須恵器のうち杯・椀類が1.151点(全体の20%、須恵器の71%)を占め、残り杯蓋153点(2%、9%)、甕151点(2%、9%)、壺・瓶類(2%、10%)である。土師器では杯が5.102点(全体の69%、土師器の88%)を占めている。こうした状況からも食膳具の割合が全体の89%と高い割合を占めている。

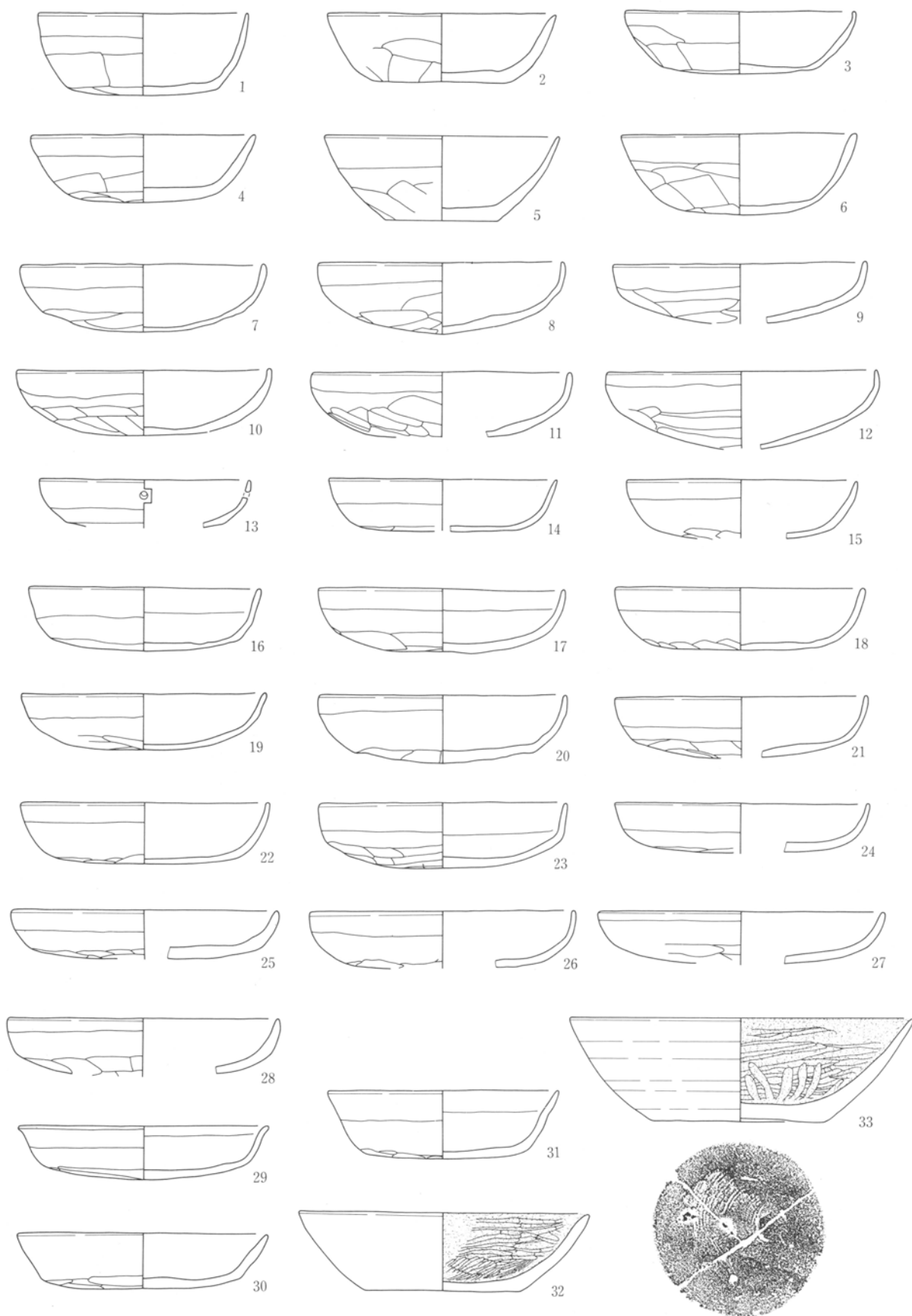


113図 居宅溝 5 区164 遺構図・遺物図

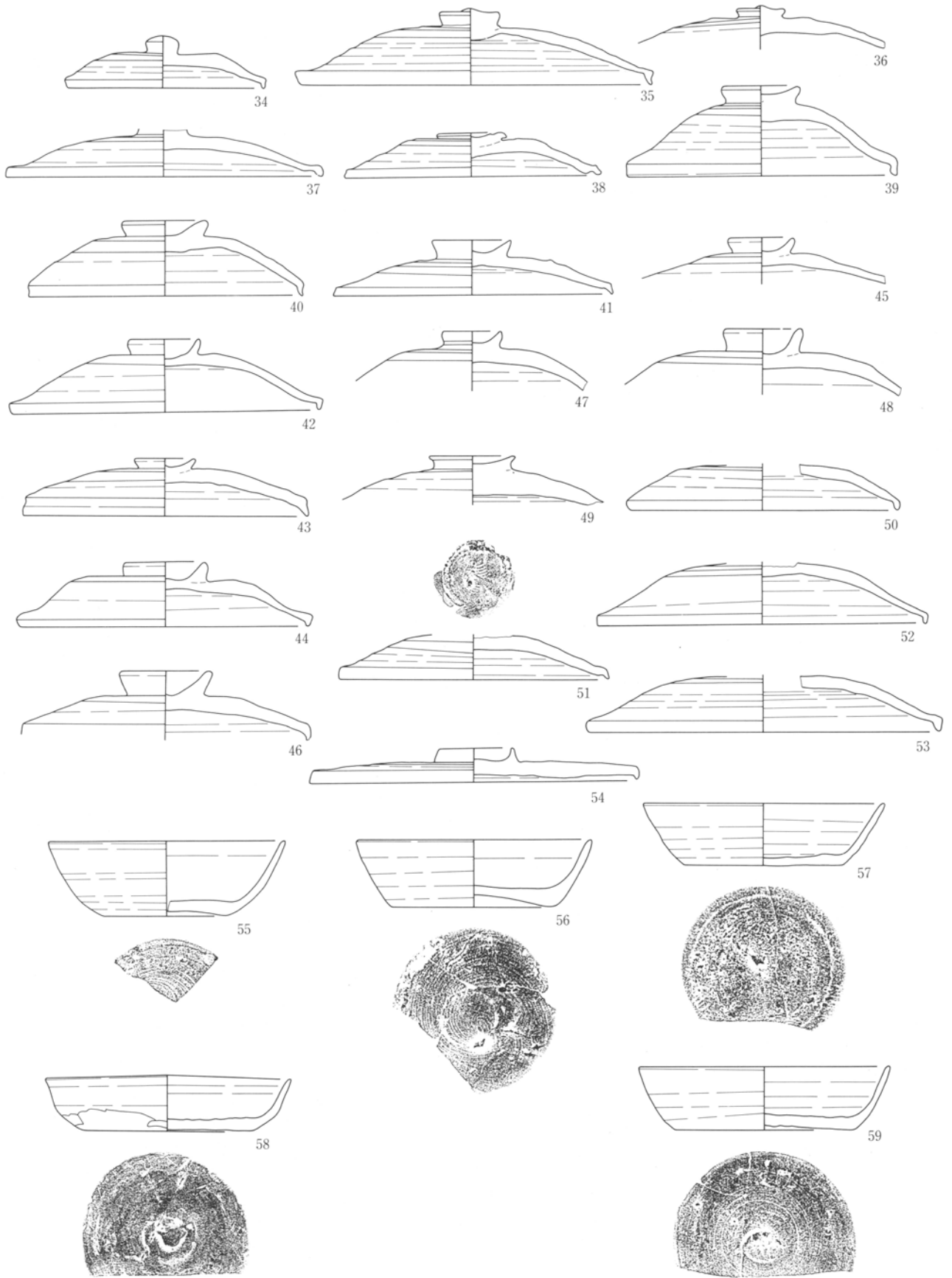


- 居宅廃棄 5区60 土層注記
- | | |
|--------------------------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色土 II層に類似。褐色砂を30%含む。 | 3 黒褐色土 黒褐色砂を30%とVII層ブロックを10%含む。 |
| 2 黒褐色土 褐色砂を50%含む。 | 4 黒褐色土 黒褐色砂を20%位とAs-C(径2~5mm)を3%含む。 |
| | 5 黒色土 砂質土。 |

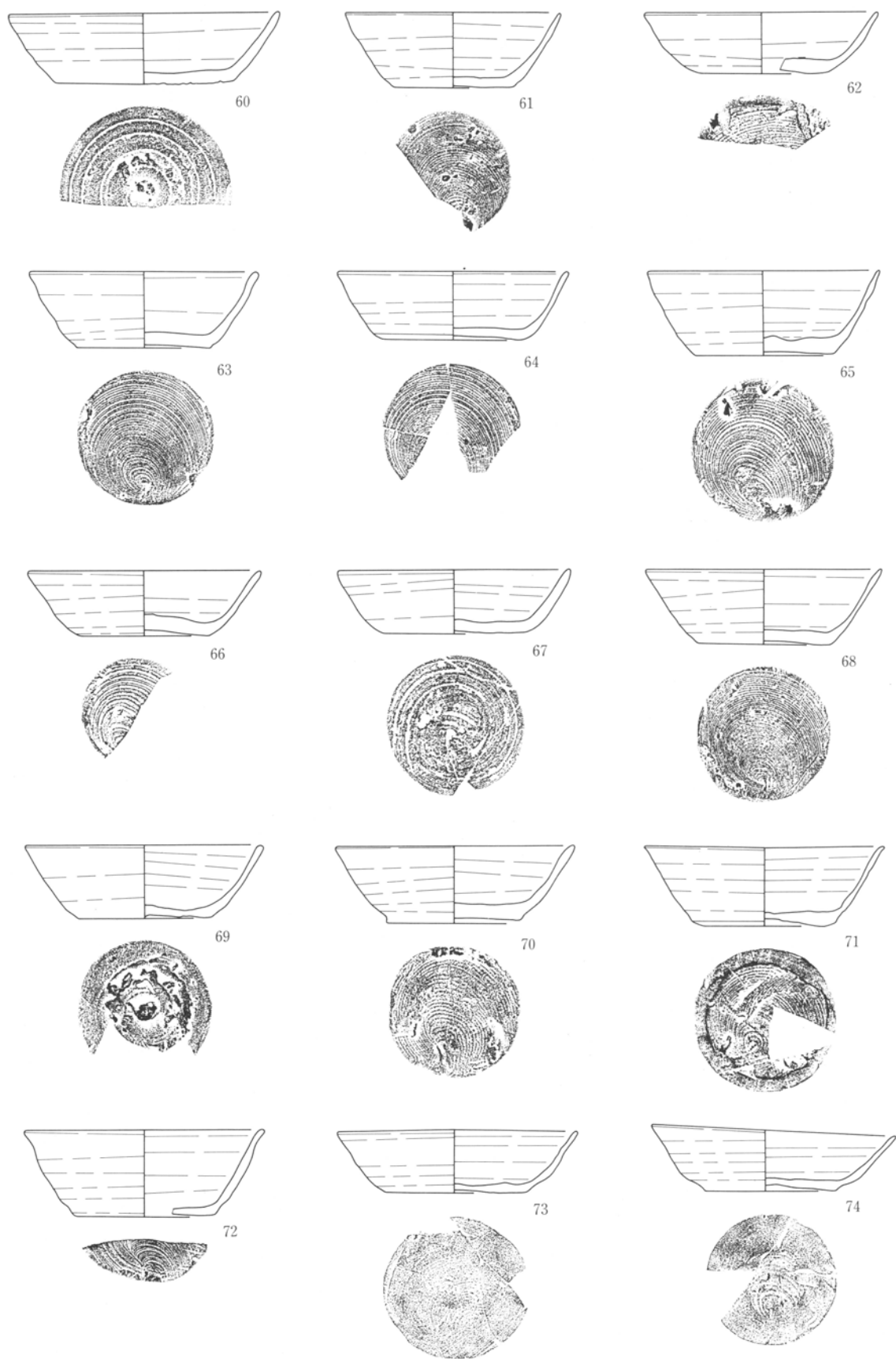
114図 居宅廃棄 5区60 遺構図



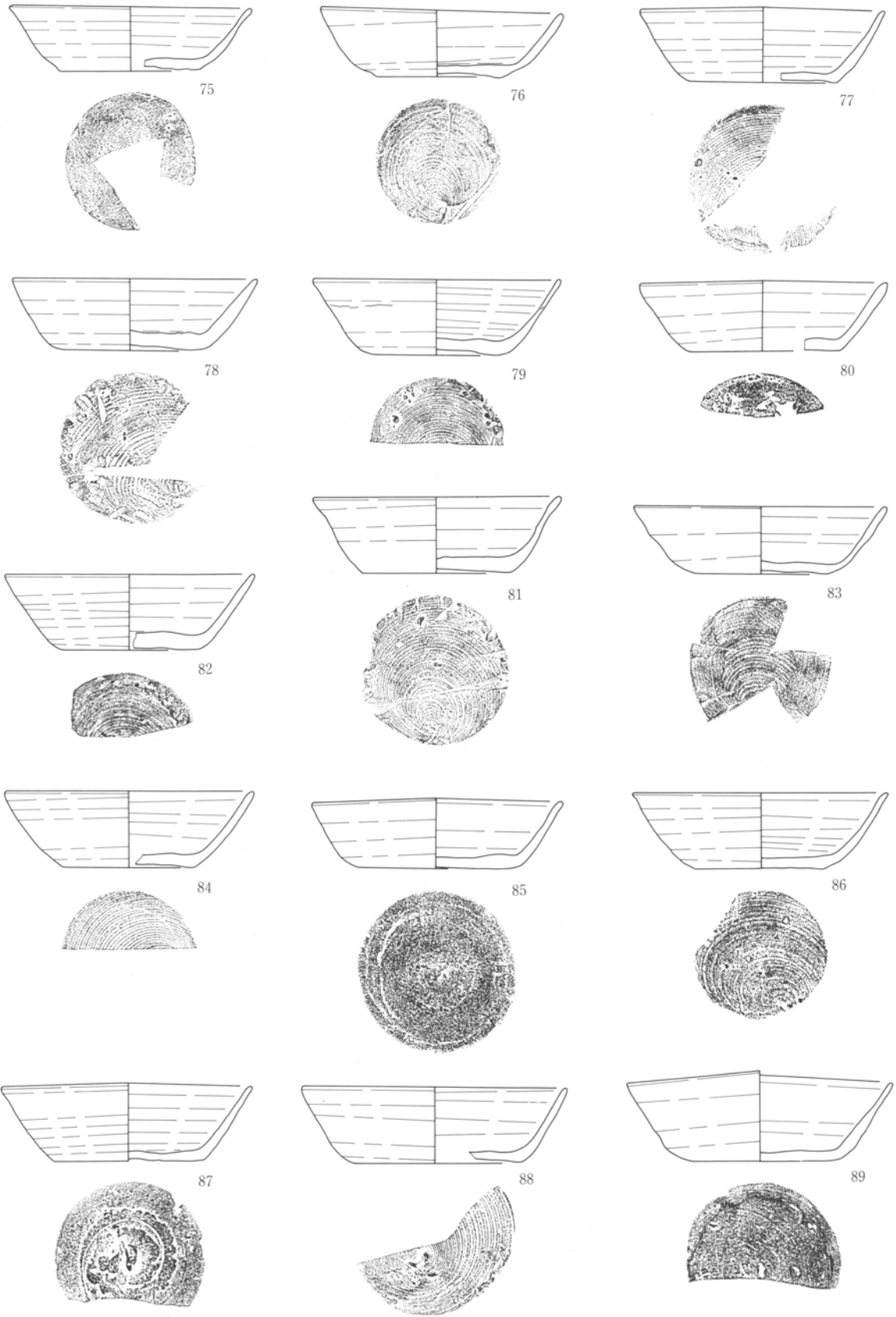
115図 居宅廃棄5区60 遺物図(1)



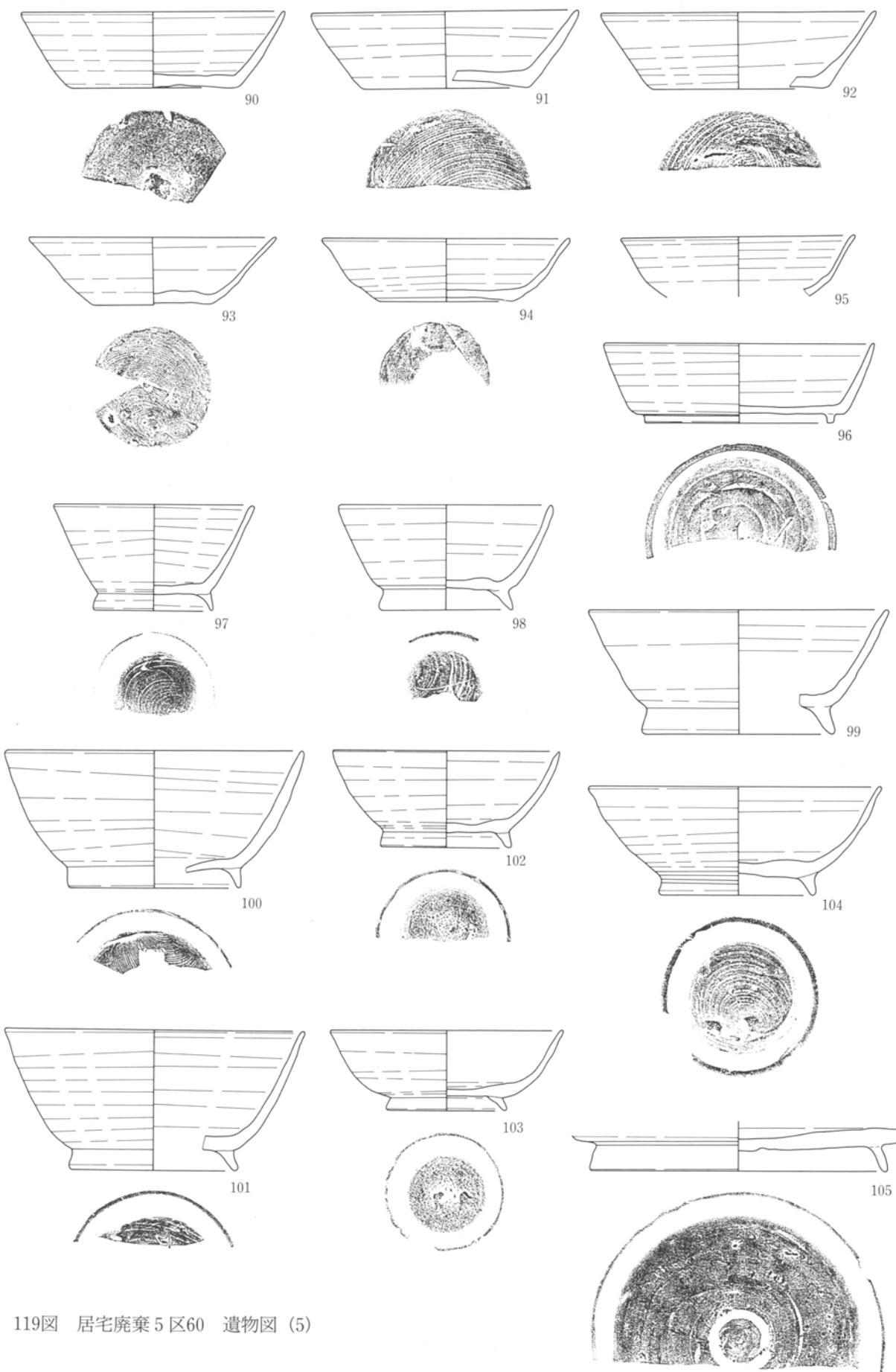
116図 居宅廃棄5区60 遺物図(2)



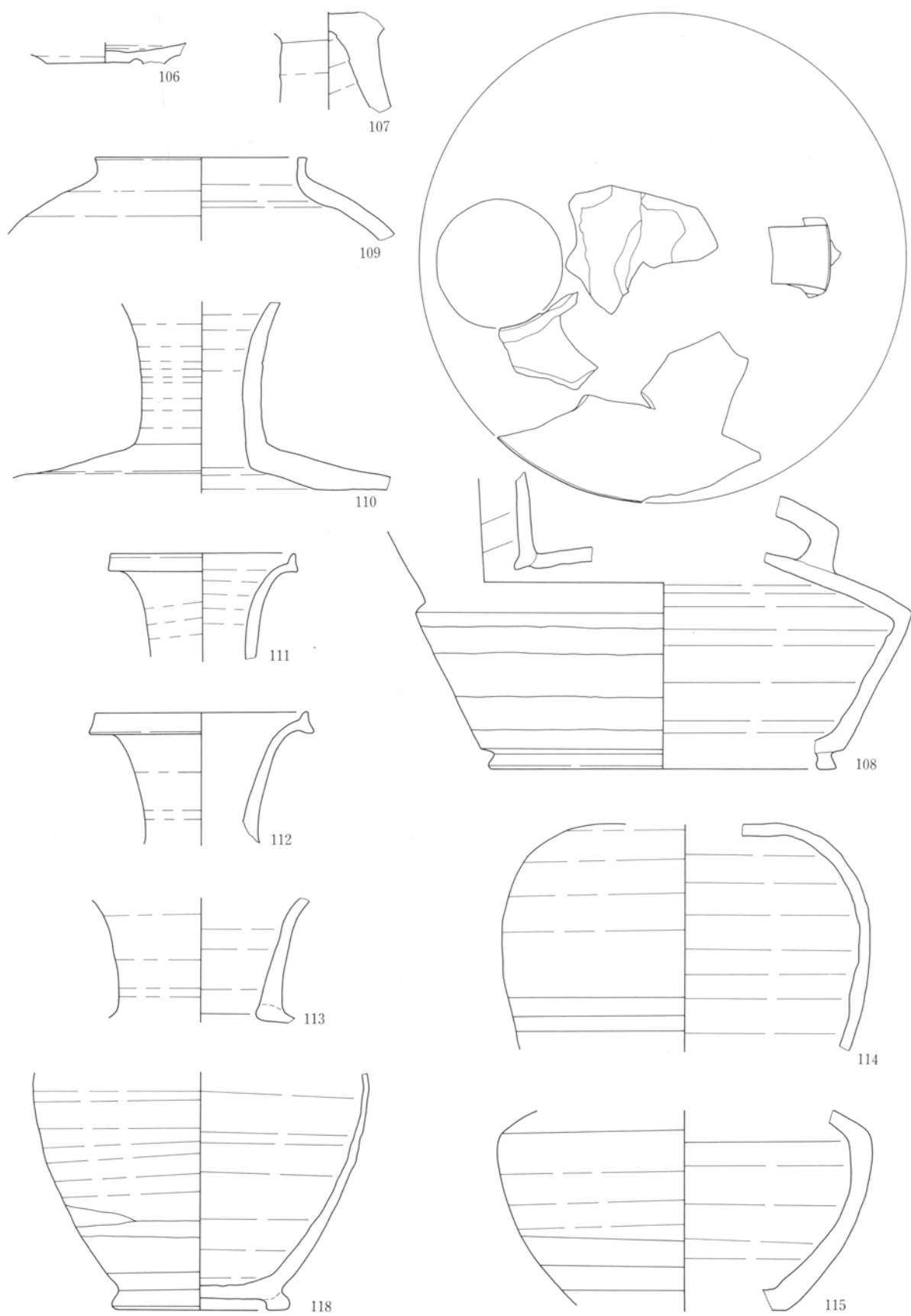
117図 居宅廃棄5区60 遺物図(3)



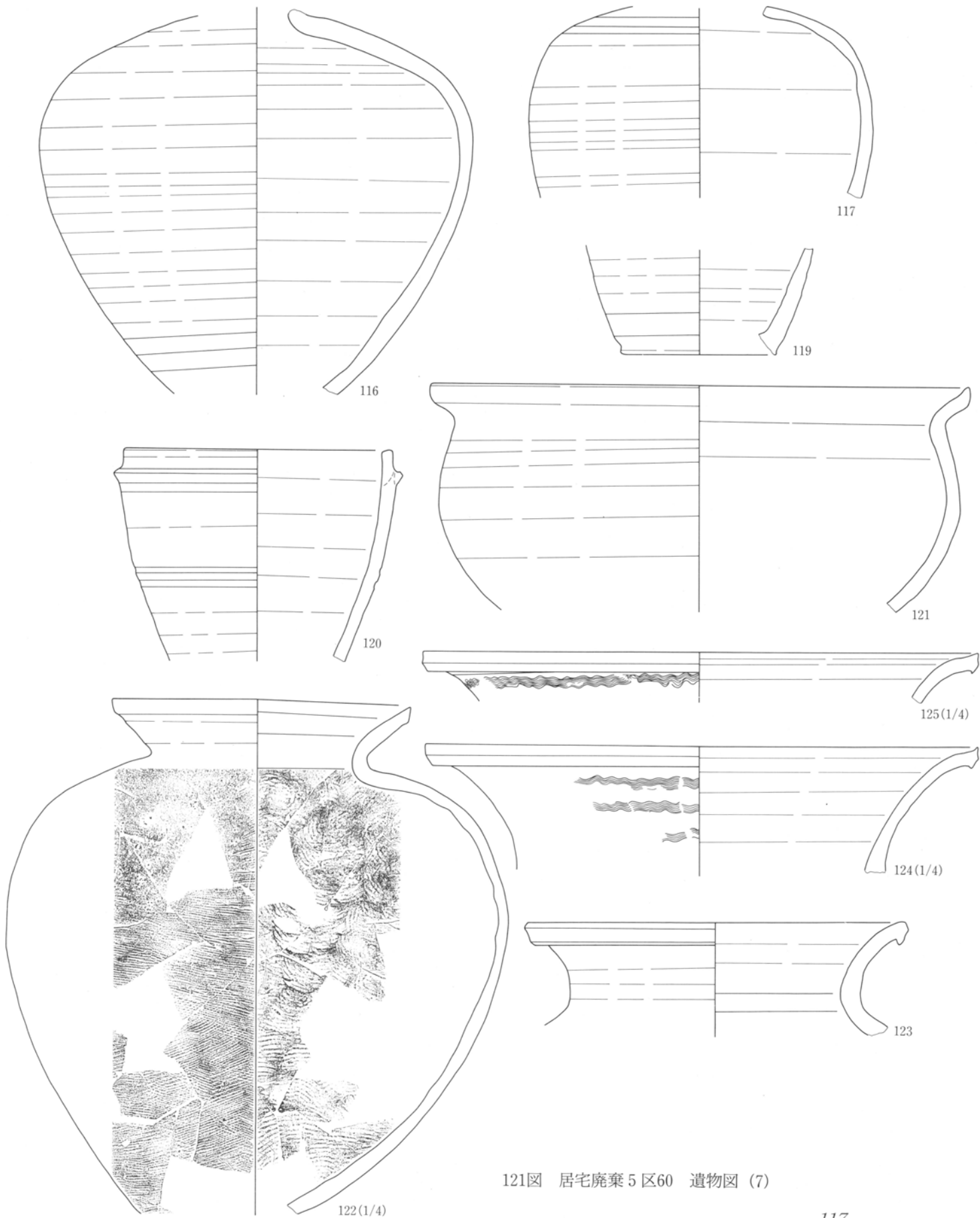
118図 居宅廃棄5区60 遺物図(4)



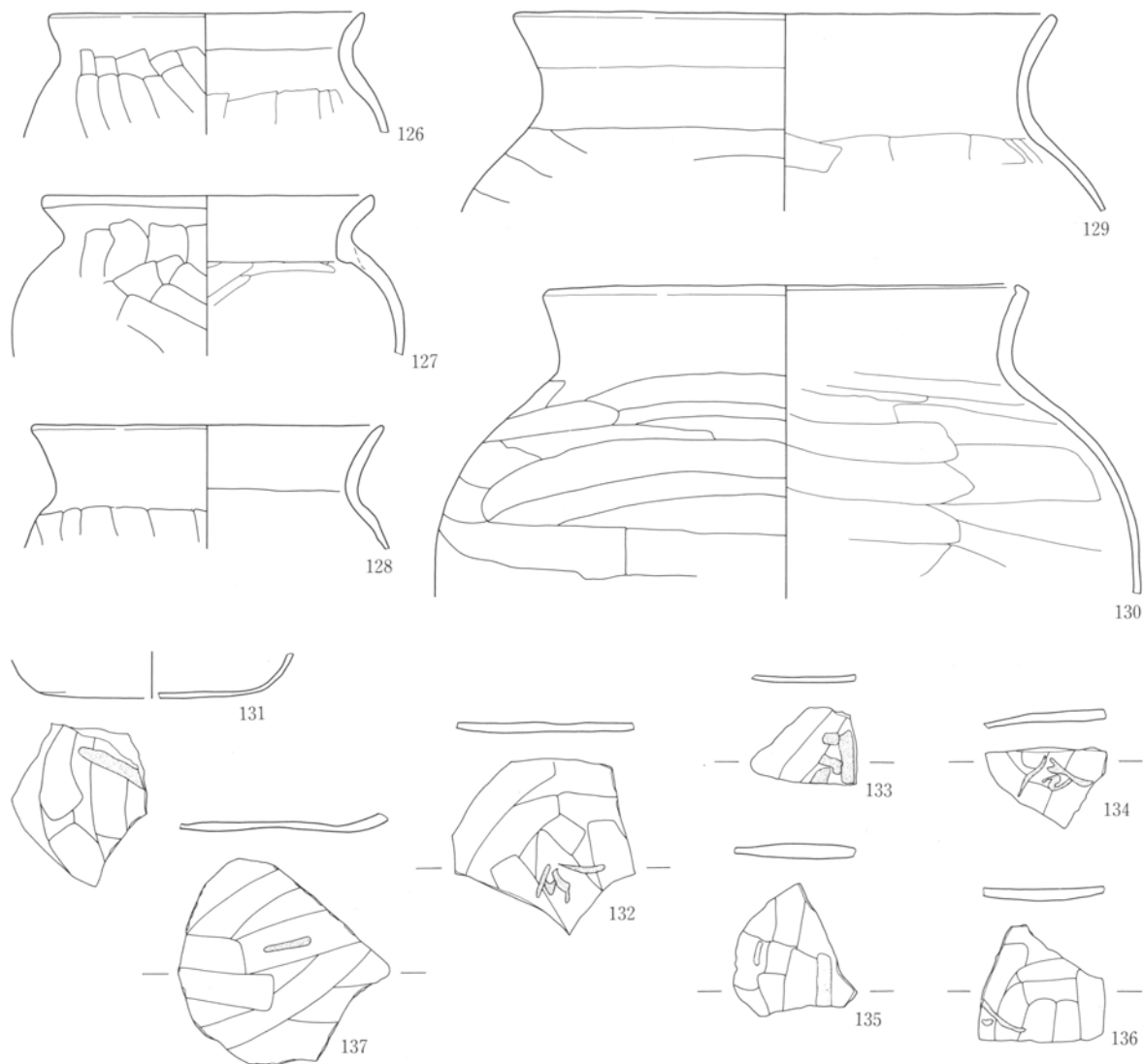
119図 居宅廃棄5区60 遺物図(5)



120図 居宅廃棄5区60 遺物図(6)



121図 居宅廃棄5区60 遺物図(7)



122図 居宅廃棄5区60 遺物図(8)

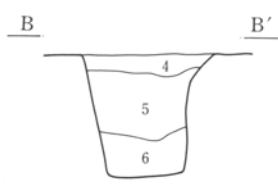
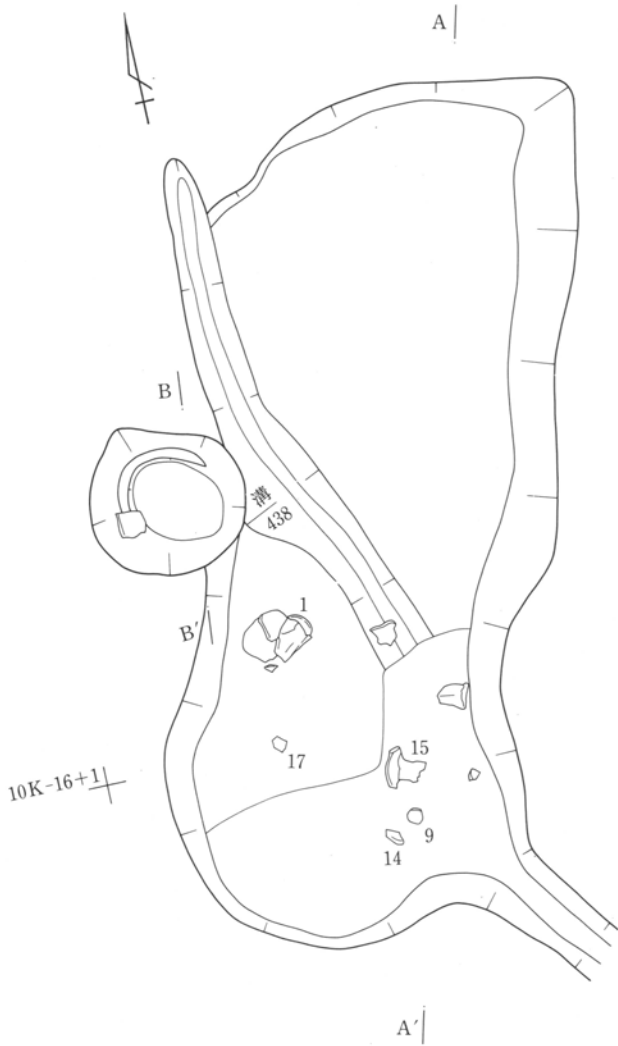
廃棄5区436

5区調査区南半、10K-15グリッドの微高地から谷地へ移行する所に位置する。他遺構との重複関係は溝438と重複する。新旧関係は明確ではないが遺構東南部で溝438の形態が確認できない状態であることから本遺構の方が新しい可能性がある。残存状態は比較的良好である。

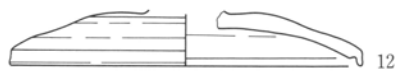
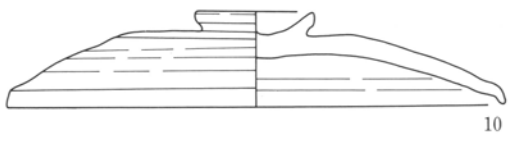
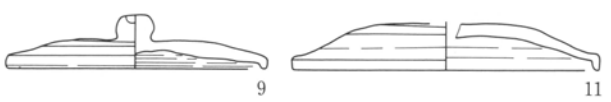
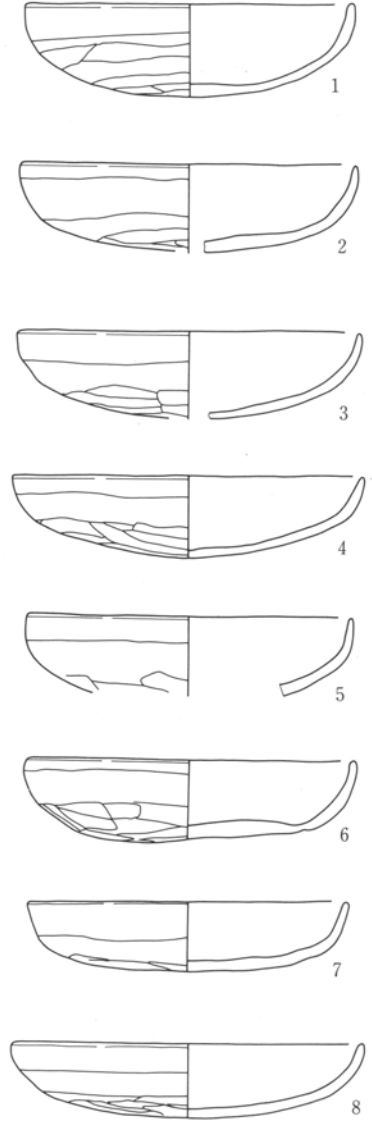
形態は南北に長い歪んだ長方形を呈し、西辺中程に円形の土坑状のやや深い落ち込みを付随する。規模は長軸4.60m、短軸2.54m、深度0.1m前後、付随する土坑状の落ち込みは径0.8m、深度0.68mを測る。底面は平坦でなく凹凸がみられる。

埋没土は北半がIV層主体、南半がVI層主体の土砂によるが堆積状態は落ち込みが浅いため不明確ではあるが自然堆積と想定される。

遺物は須恵器20点、土師器150点であるが杯類などの食膳具が多い。遺物量そのものは少ないが居宅廃棄5区60と同様な様相がみられる。

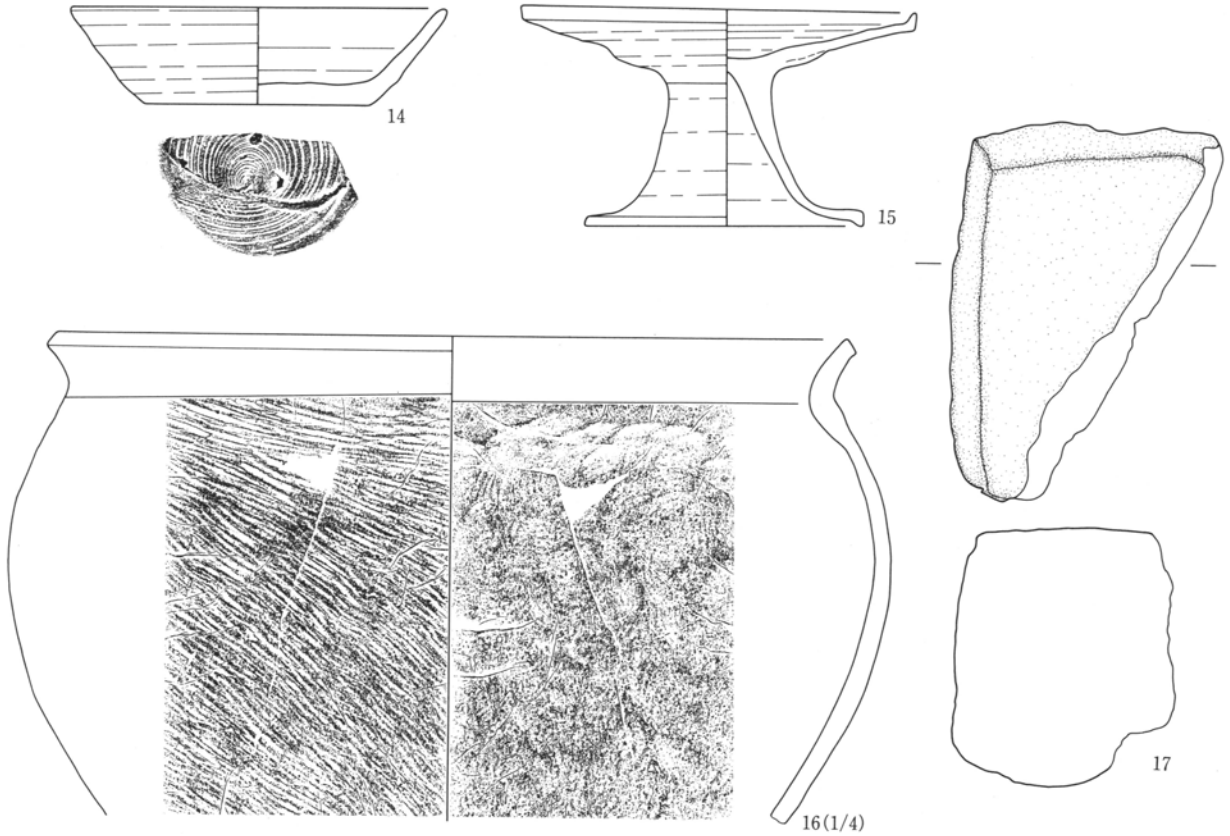


L=102.40m
0 1:40 1m



- 居宅廃棄 5区436 土層注記
- 1 黒褐色土 焼土化?カマドの焼土廃棄。
 - 2 黒褐色土 カマドの粘土をブロック状に50%含む。カマド材の廃棄。
 - 3 黒褐色土 VI層類似。焼土ブロックを10%含む。
 - 4 灰黄褐色土 IV層主体。VIII層ブロック(径10~30mm)を5%含む。
 - 5 黒褐色土 VII層に類似。VI層を30%含む。
 - 6 黒色土 VII層に類似。

123図 居宅廃棄 5区436 遺構図・遺物図 (1)



124図 居宅廃棄5区436 遺物図 (2)

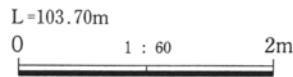
(2) 住居

住居4区160

4区調査区南の東端、11E・F-16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は古墳時代住居4区161と重複する。新旧関係は本遺構の方が新しい。残存状態は上部を現代の攪乱によって削平されているためよい状態ではない。また、住居5分の4は調査区外に位置するため全貌は不明である。

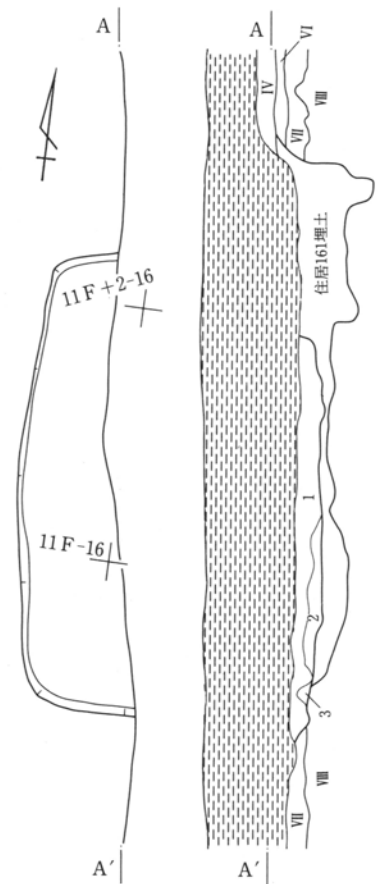
形態は方形または長方形を呈する。規模は長軸3.60m、短軸0.8m+ α 、西辺の長さは3.34mを測る。壁高は12~16cmである。主軸方位はN-92°-Eを指す。

内部施設は確認されなかった。床面は下層の住居埋没土、VIII層を踏み固めている。



住居4区160 土層注記

- 1 暗褐色土 IV層に類似。VI層が混入。As-Cを5%含む。
- 2 灰黄褐色土 VI層主体。VIII層ロームブロック(径10~30mm)20%とAs-Cを3%含む。
- 3 黒褐色土 VI層とVII層の混合土。(5:5)



125図 住居4区160 遺構図

埋没状態はIV層とVI層が混入した暗褐色土で埋没しているのが観察できることから自然埋没と想定される。

遺物は土師器甕、杯などの小片が若干出土しているが図化できる個体が存在しなかった。

本住居の時期は出土遺物、埋没土などから7世紀以降に比定される。

住居 5区49

5区調査区の北より西隅、10R・S-19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は南西角で土坑5区50と重複する。新旧関係は本住居の方が古い。残存状態は確認面から床面までが浅いためあまり良好ではない。

形態は各角がやや丸みをもつ長方形を呈す。規模は長軸2.78m、短軸2.05m、各辺の長さは北2.09m、東2.73m、南1.96m、西2.63mを測る。壁高は4~7cmと浅い。床面積は4.8㎡である。主軸方位はN-96°-Eを指す。

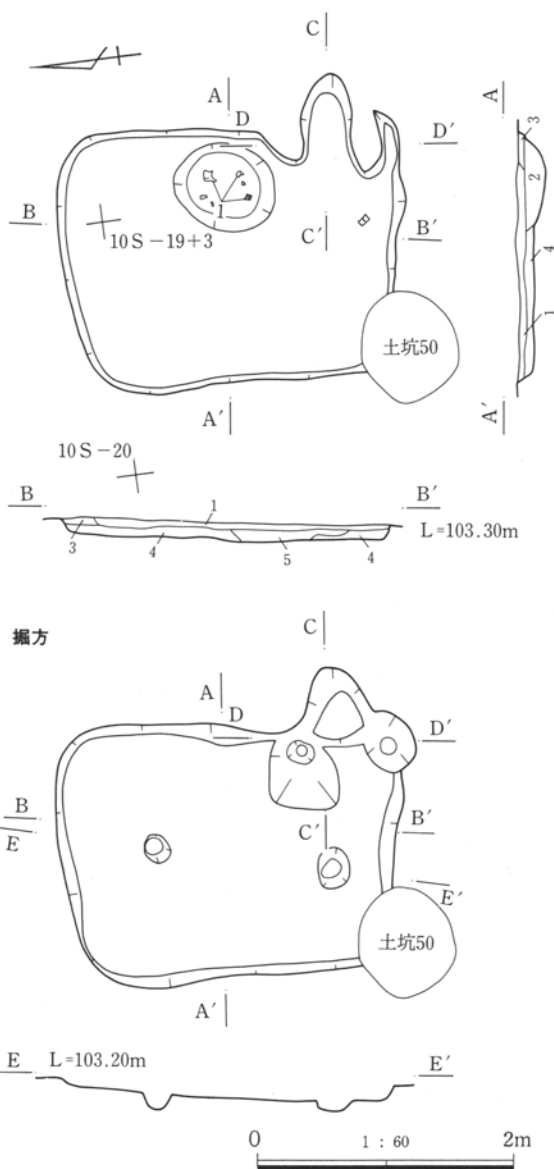
内部施設は柱穴、貯蔵穴、周溝などは確認されなかったが、住居中央より東よりに径80×68cm、深度15cmの楕円形をした土坑を検出した。床面は周囲の土層よりやや堅い程度で明確に踏み固めている様子は窺えない。

カマドは東辺の南よりに構築されている。残存状態は燃焼部に焼土、灰が残存し袖の痕跡が解る程度でしかない。規模は全長95cm、幅100cm、焚口幅31cmを測る。煙道は不明である。カマドの掘方は両袖の下部に土坑状の落ち込みが見られた。

住居掘方は床面より5~8cmほど掘り込まれているが底面はほぼ平坦である。埋没状態は確認面から床面までが浅いため土層観察断面での堆積状態が不明瞭であるがIV層に近似した黒褐色土で埋没していることから自然埋没であると想定される。

遺物は土師器甕が80点、須恵器杯、甕が30点ほど出土しているが小片だけで図化可能なものは僅かに1点であった。図化した遺物は貯蔵穴内からの出土であった。

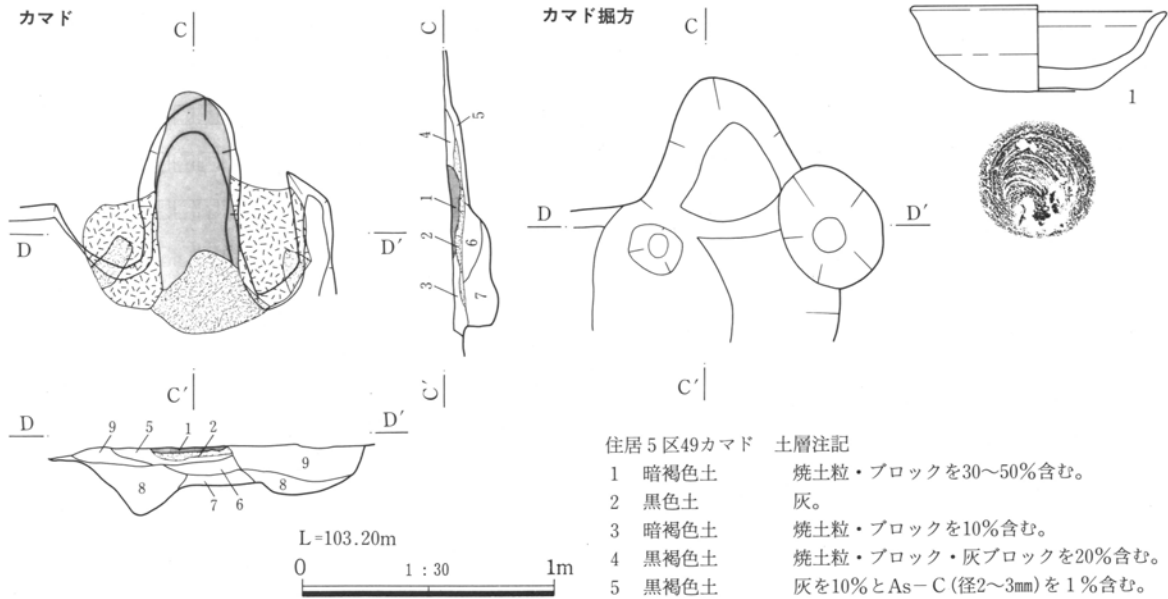
本住居の年代は出土遺物である1の須恵器杯から10世紀中葉に比定される。



住居 5区49 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に近似。VI層が混入。As-C (径2~4mm)を5%含む。
- 2 黒褐色土 VI層に類似。As-Cは殆ど見られない。
- 3 黒褐色土 IV層に類似。As-C (径1mm前後)を1%含む。
- 4 黒褐色土 しまり強い。As-Cは殆ど含まない。
- 5 黒褐色土 ロームブロック(径5cm)、As-C(径1cm以下)を1%含む。

126図 住居 5区49 遺構図 (1)



- 住居 5 区49カマド 土層注記
- | | | |
|---|---------|---------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | 焼土粒・ブロックを30~50%含む。 |
| 2 | 黒色土 | 灰。 |
| 3 | 暗褐色土 | 焼土粒・ブロックを10%含む。 |
| 4 | 黒褐色土 | 焼土粒・ブロック・灰ブロックを20%含む。 |
| 5 | 黒褐色土 | 灰を10%とAs-C (径2~3mm)を1%含む。 |
| 6 | 黒褐色土 | 焼土粒・灰を10%含む。 |
| 7 | 黒褐色土 | VI層に類似。 |
| 8 | にぶい黄褐色土 | 焼土粒3%・黒色灰50%含む。 |
| 9 | 暗褐色土 | 焼土粒10%・黒色灰30%含む。 |

127図 住居 5 区49 カマド遺構図 (2)・遺物図

住居 5 区51

5 区調査区の中程西より、10P・Q-18グリッドに位置する。他遺構との重複関係は平安時代住居 5 区52と重複する。新旧関係は本住居の方が新しい。残存状態は確認面から床面まで浅いためあまり良好な状態ではない。

形態はほぼ長方形を呈する。規模は長軸3.84m、短軸2.90m、各辺の長さは北3.76m、東2.56m、南3.46m、西2.68mを測る。壁高は7~12cmと浅い。床面積は9.6㎡である。主軸方位はN-96°-Eを指す。

内部施設は柱穴、貯蔵穴、周溝等は確認されなかった。床面は中央部が地山をそのまま踏み固めて周辺部は黒色土を固めた貼床であった。

カマドは東辺中央よりやや南よりに構築されている。残存状態は燃烧部底面と両袖基部が解る程度しかなかった。規模は全長160cm、幅199cm、焚口幅48cmを測る。焚口前部に径72cm、深度24cmで円形の土坑状の落ち込みを検出したが内部には10%程度焼土粒、小ブロックを含む程度で灰・焼土等の廃棄に使用されたものではない。カマド掘方は燃烧部、右袖は一体の掘込みであったが、左袖は小土坑状の掘込

みが見られた。

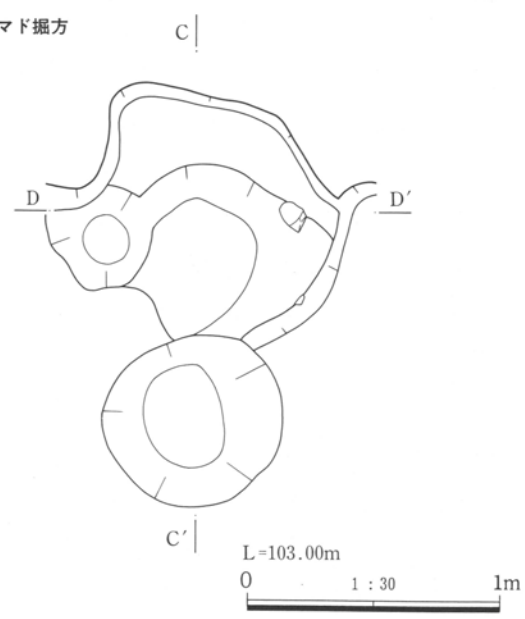
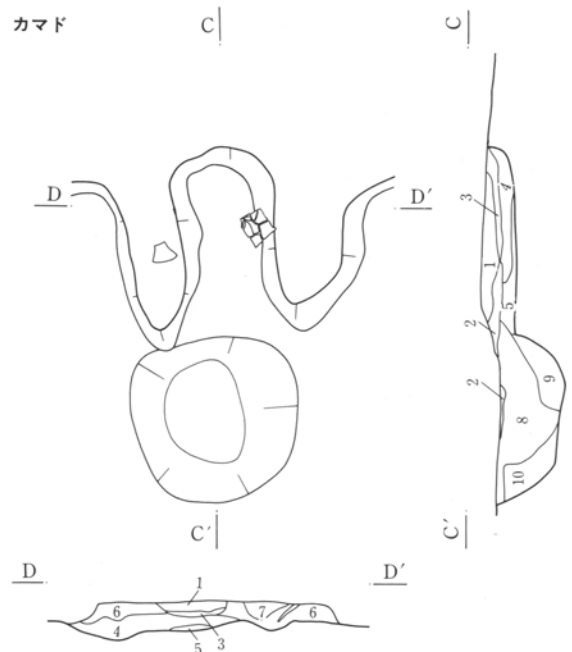
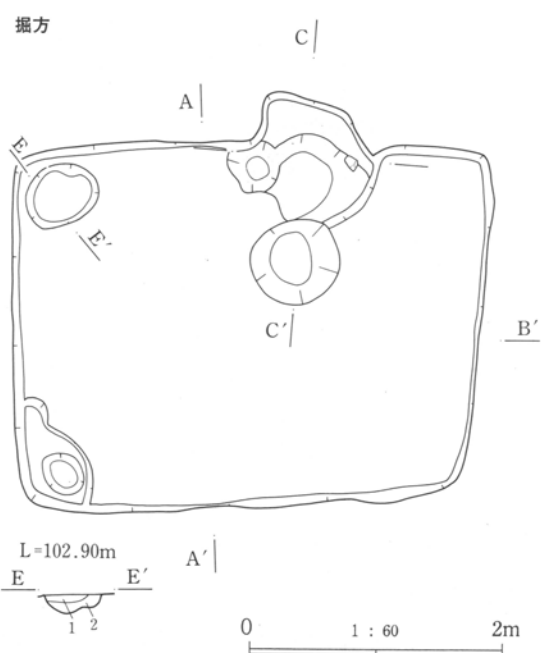
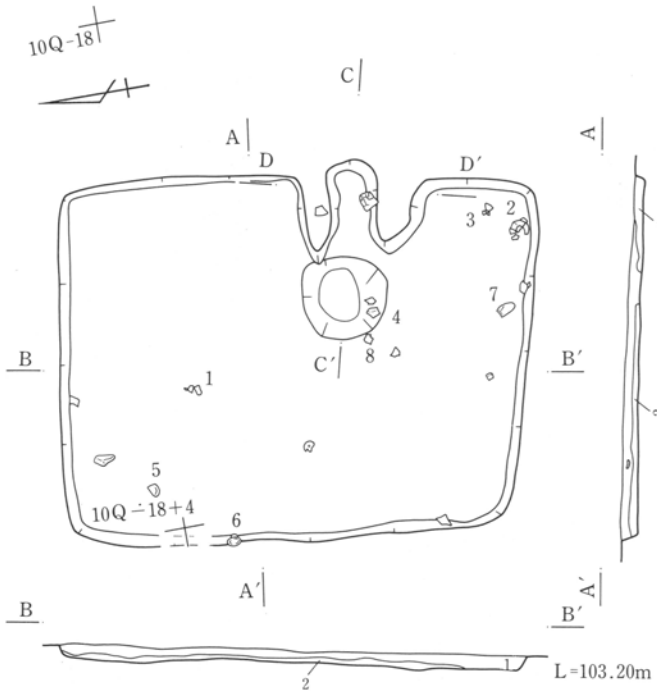
住居掘方は北東角、北西角を深度15cmほどの土坑状の掘込みが確認されただけである。埋没状態は土層観察断面ではほぼ水平な堆積が観察されたことから自然埋没と考えられる。

遺物は土師器杯・甕が250点、須恵器杯を中心に57点ほどが東南角付近、カマド前部、北西部に散乱した状態で出土している。図化可能なものは8点であった。図化した遺物のうち5が床直、他の遺物は床面から5~10cmほど上位の埋没土内からの出土であった。

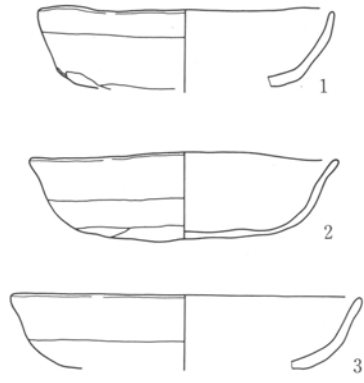
本住居の年代は出土遺物、重複する遺構などから9世紀第3四半期前半に比定される。

住居 5 区51 土層注記

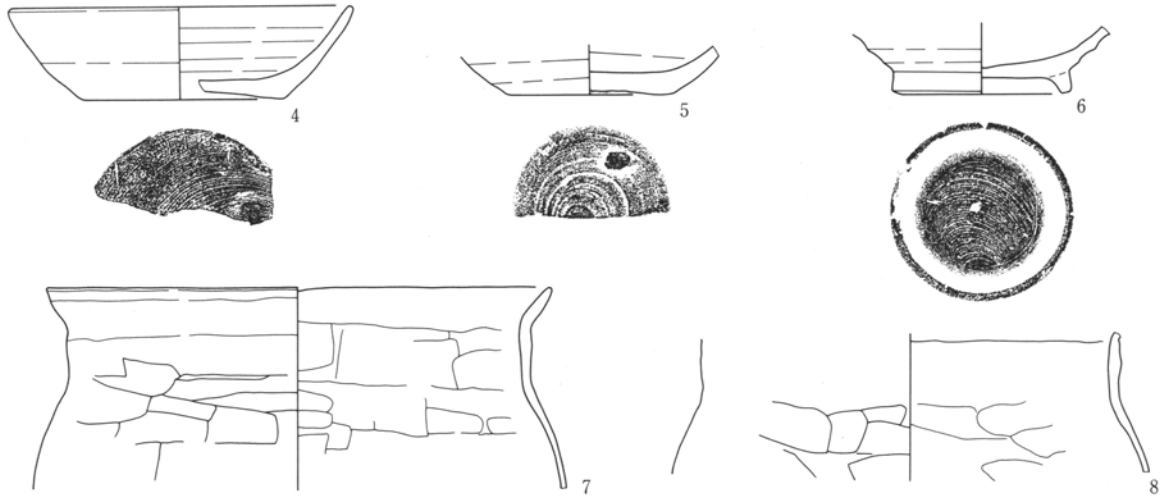
- | | | |
|---|-------|---------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | IV層主体でVI層混入。As-C (径3~5mm)を5%含む。 |
| 2 | 灰黄褐色土 | IV層に近い。As-C (径1~4mm)を3%含む。 |
- 住居 5 区51床下土坑 土層注記
- | | | |
|---|------|--------------------|
| 1 | 黒褐色土 | VII層に類似。As-Cを5%含む。 |
| 2 | 黒褐色土 | VII層に類似。As-Cを1%含む。 |



- 住居5区51カマド 土層注記
- 1 黒褐色土 炭化物、焼土粒ブロックを1~2%と、As-Cを3%含む。
 - 2 黒褐色土 灰主体。焼土を10%含む。
 - 3 黒褐色土 焼土粒、ブロックを20%と炭化物を10%含む。
 - 4 黒褐色土 VI層に近似。焼土粒を3%含む。
 - 5 黒褐色土 VII層に近似。焼土粒を1%含む。
 - 6 暗褐色土 焼土小ブロック・炭化物を10%含む。
 - 7 淡黄色土 凝灰岩?左袖補強材。
 - 8 暗褐色土 焼土粒10%・As-C(径2~3mm)2~3%含む。
 - 9 暗褐色土 8に類似。VIIIブロック(径20~30mm)を10%含む。
 - 10 黒褐色土 VI層に類似。焼土粒5%、As-C(径2~3mm)2~3%含む。



128図 住居5区51 遺構図・遺物図(1)



129図 住居 5 区51 遺物図 (2)

住居 5 区52

5区調査区の中程西より、10P・Q-18・19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は平安時代住居5区51、土坑5区74と重複する。新旧関係は本住居の方が古い。残存状態は北東部1/6、南東角を重複する遺構によって欠き、確認面から床面まで浅いためあまり良好な状態ではない。

形態はほぼ長方形を呈する。規模は長軸4.57m、短軸3.90m、各辺の長さは南3.80m、西4.27mを測る。壁高は12~16cmと浅い。床面積は16.0m²である。主軸方位はN-101°-Eを指す。

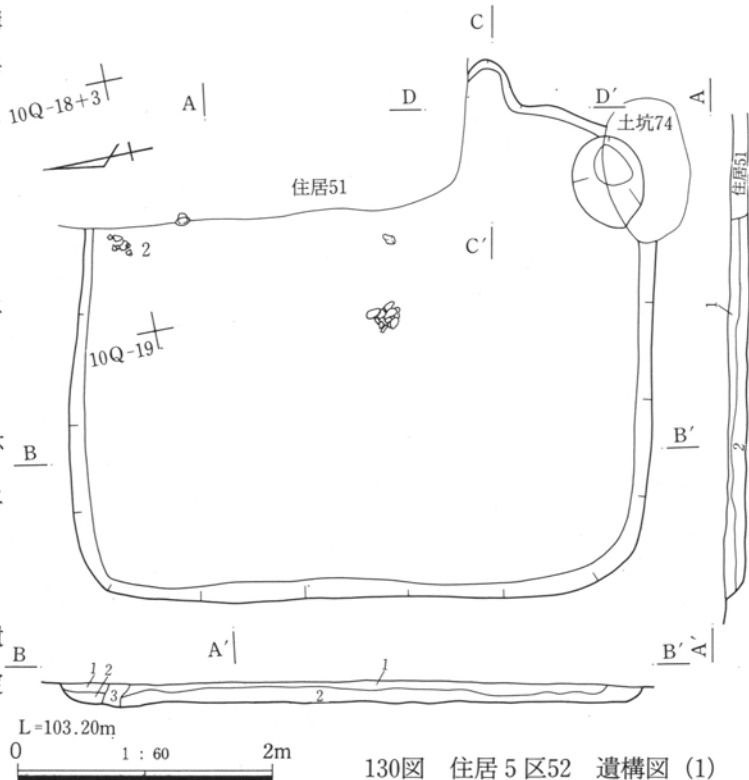
内部施設は柱穴、周溝等は確認されなかったが、貯蔵穴は東南角で確認された。貯蔵穴は楕円形で径62×58cm、深度53cmである。床面は西半がIV層である灰褐色土を入れて固めた貼床であった。

カマドは東辺中央よりやや南よりに構築されている。残存状態は重複する住居5区51によって西半分を欠き、わずかに10Q-18+3[†]燃焼部底面が解る程度でしかなかった。規模は全長45cm、幅50cm+αを測る。

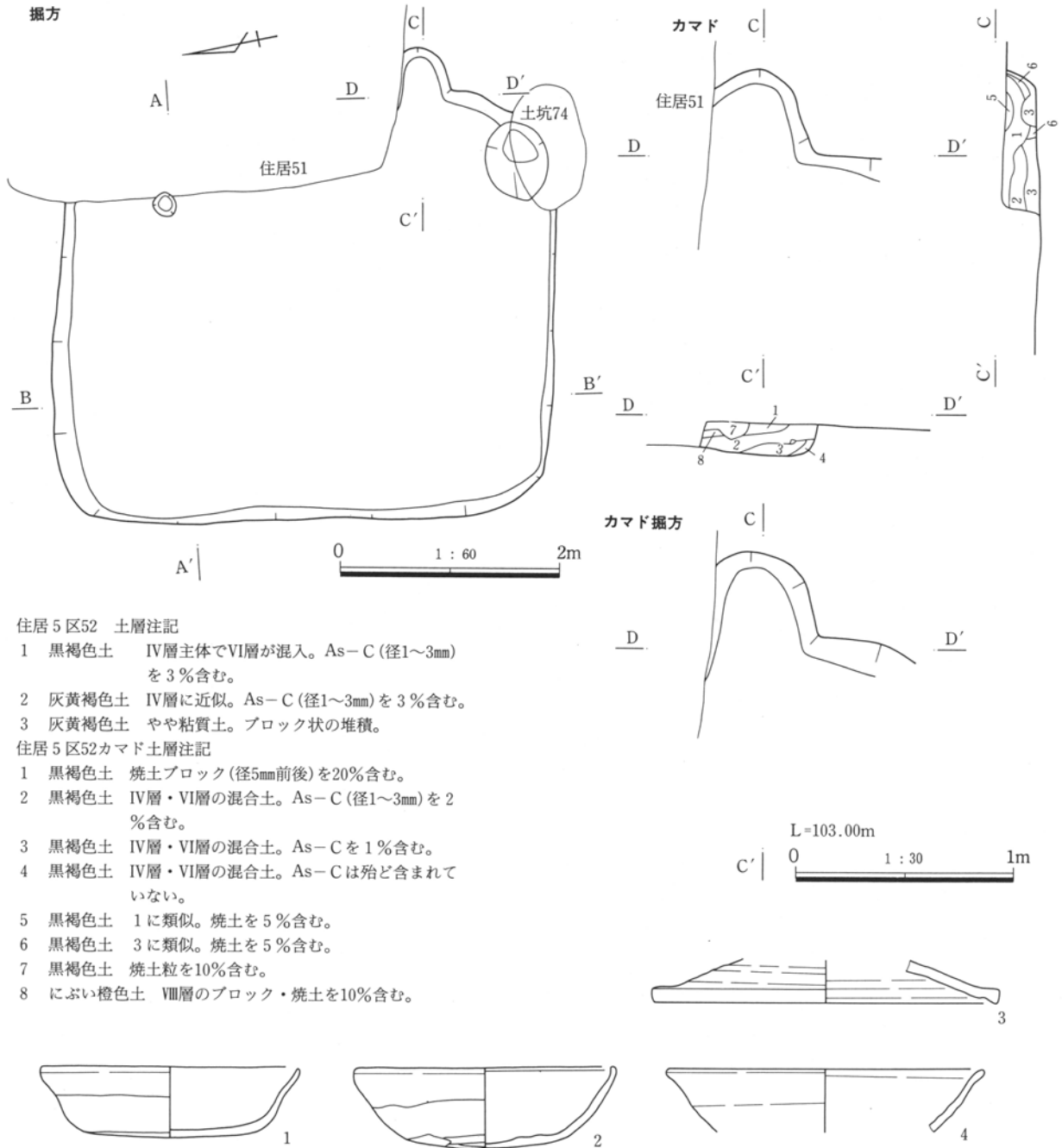
住居掘方は西半分だけを掘込んでいるが底面はほぼ平坦である。埋没状態は土層観察断面ではほぼ水平な堆積が観察されたことから自然埋没と考えられる。

遺物は土師器杯・甕が114点、須恵器杯を中心に28点ほどが散乱した状態で出土している。図化可能なものは4点であった。

本住居の年代は出土遺物、重複する遺構などから9世紀第2四半期前半に比定される。



130図 住居 5 区52 遺構図 (1)



131図 住居5区52 遺構図(2) 遺物図

住居5区53

5区調査区の中央よりやや北より、10N・O-16・17グリッドに位置する。他遺構との重複関係は溝5区48、居宅掘立柱建物5区171、内部区画柵と重複する。新旧関係は本住居の方が古い。残存状態は東辺部分を重複する遺構溝5区48によって欠き、確認面から床面まで浅いためあまり良好な状態ではない。形態はほぼ長方形を呈する。規模は長軸5.86m

+α、短軸5.62m、各辺の長さ北6.30m、南5.70m +α、西5.45mを測る。壁高は8~16cmと浅い。床面積は32.7㎡と想定される。主軸方位はN-95°-Eを指す。

内部施設は床面では柱穴、貯蔵穴、周溝等は確認されなかったが、掘方調査時において柱穴と周溝を検出した。柱穴は4本がほぼ2.5mの方形になる位置に設置されており掘方形態は長方形に近い。規模

は柱穴P1が径56×47cm、深度40cm、柱穴P2が径47×45cm、深度28cm、柱穴P3が径60×42cm、深度20cm、柱穴P4が径58×48cm、深度41cmである。周溝は北辺と南辺の西よりで検出した。幅は10～40cm、深度10cmほどである。床面はVI層、VII層の黒色土による貼床である。

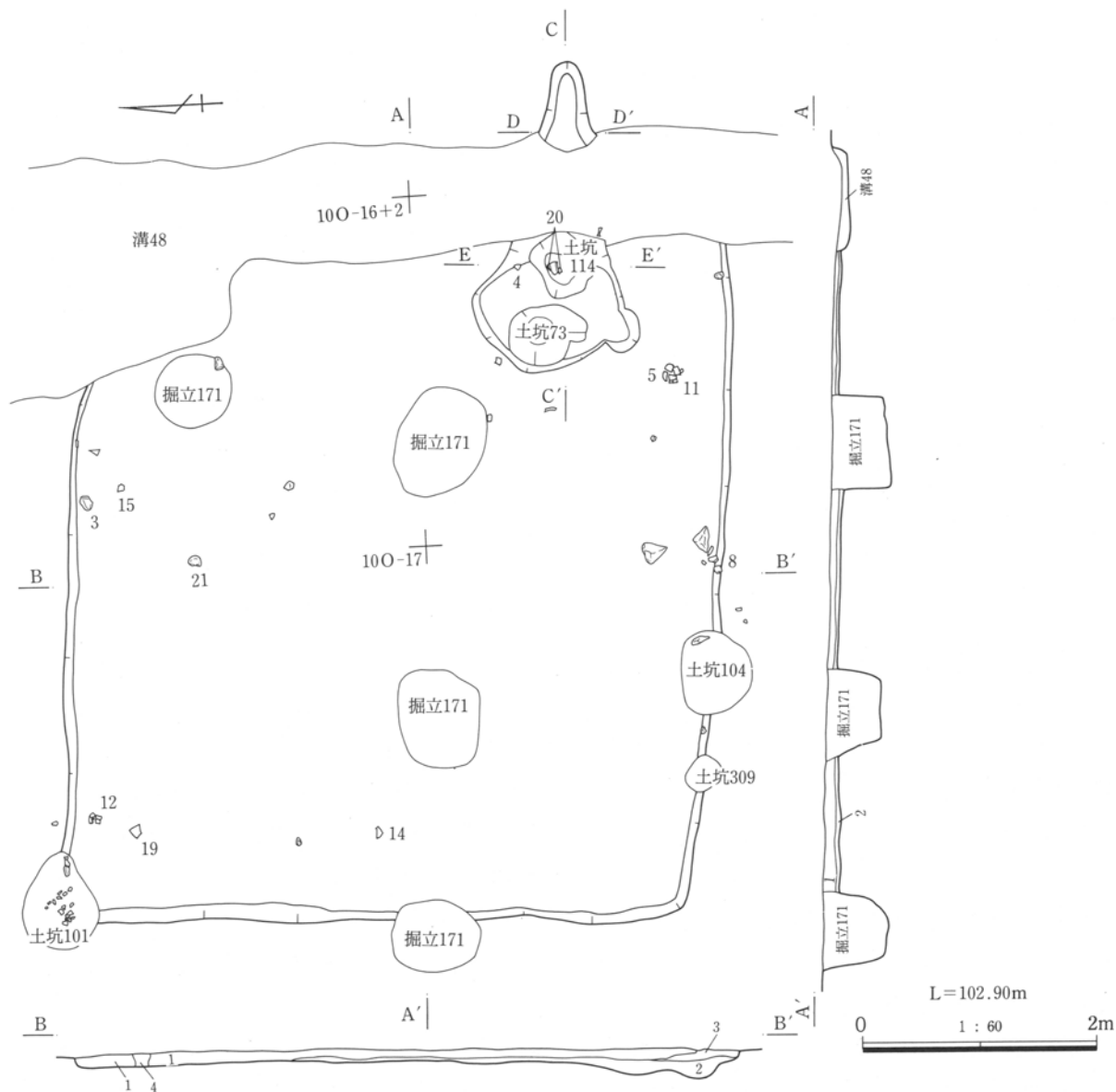
カマドは東辺中央よりやや南よりに構築されている。残存状態は煙道部の一部と燃烧部掘方が解る程度しかなかった。規模は全長267cm、幅145cmを測る。掘方は全体的に大きく土坑状に掘込み、長軸方向に径50cmほどの小さい掘込みが見られる。

住居掘方は周辺部を中央部より5～10cmほど深く

掘込んでいる。埋没状態は土層観察断面ではほぼ水平な堆積が観察されたことから自然埋没と考えられる。

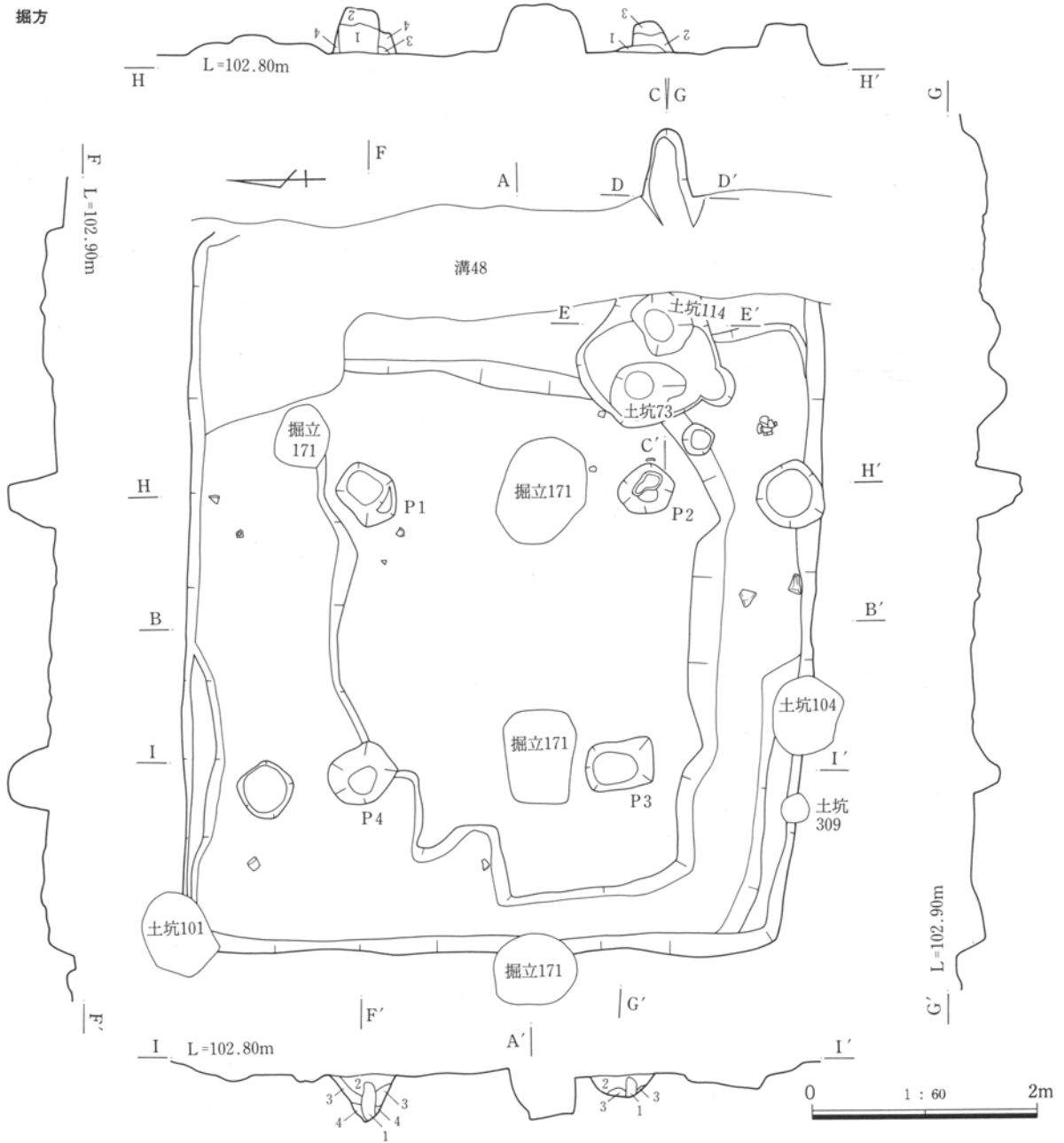
遺物は土師器杯・甕が810点、須恵器杯を中心に80点ほどがカマド周辺と北東部にややまとまった状態で出土している。図化可能なものは砥石1点を含めて21点であった。図化した遺物のうち3、5、8、11、21が床直、20がカマド、15、16が床下からの出土であった。

本住居の年代は出土遺物、重複する遺構などから8世紀第1四半期前半に比定される。



132図 住居5区53 遺構図(1)

掘方



住居5区53 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。As-C (径2~3mm) を2%含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。As-C (径2~3mm) を1%含む。
- 3 黒褐色土 1に類似。1よりAs-C少ない。
- 4 黒褐色土 VI層と同様。

住居5区53柱穴 土層注記

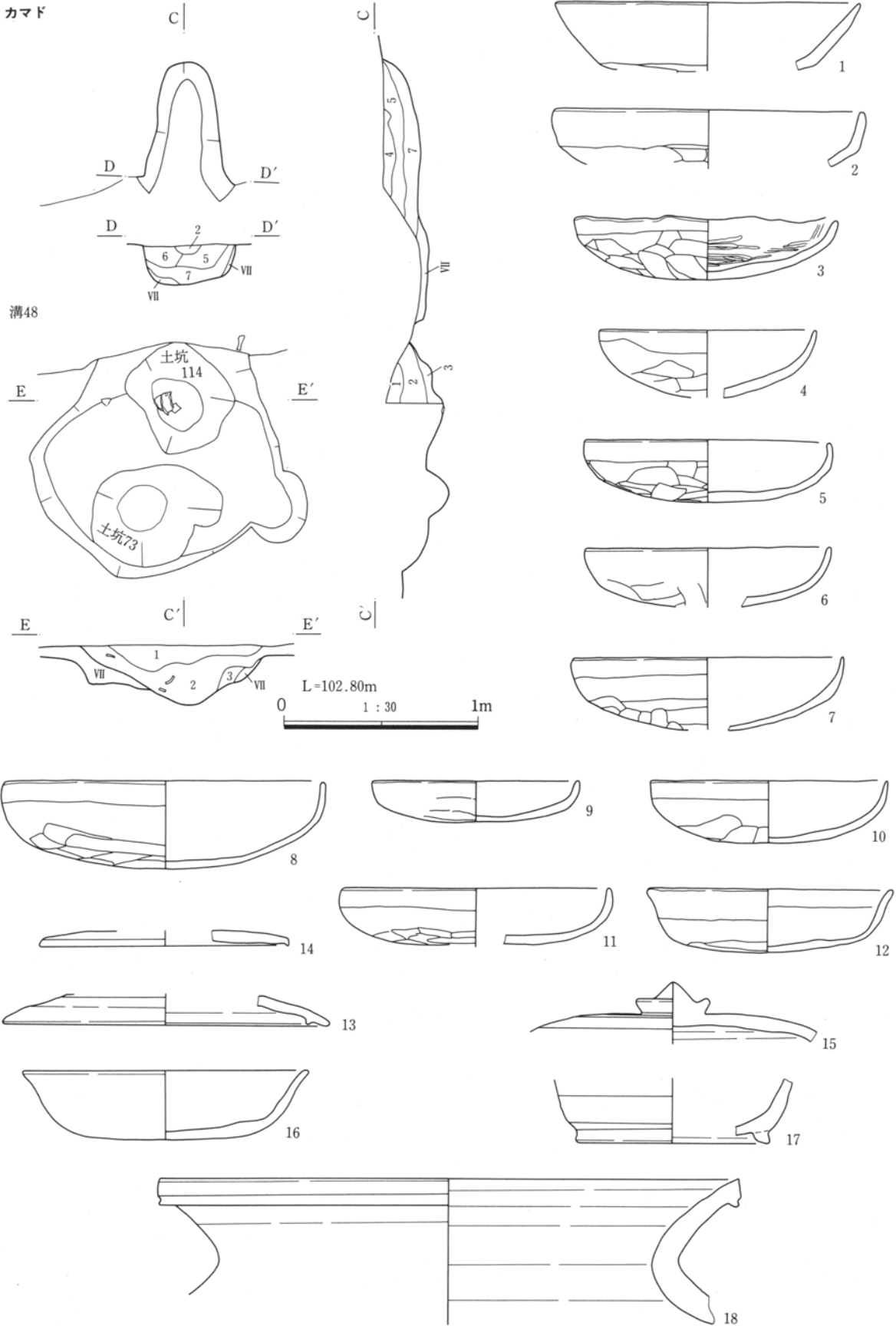
- 1 黒褐色土 シルト質。白色軽石 (径2mm) を2%含む。
- 2 黒褐色土 粘質土。
- 3 黒褐色土 シルト質。白色軽石 (径1mm) を微量含む。
- 4 黒褐色土 3に類似。

住居5区53カマド 土層注記

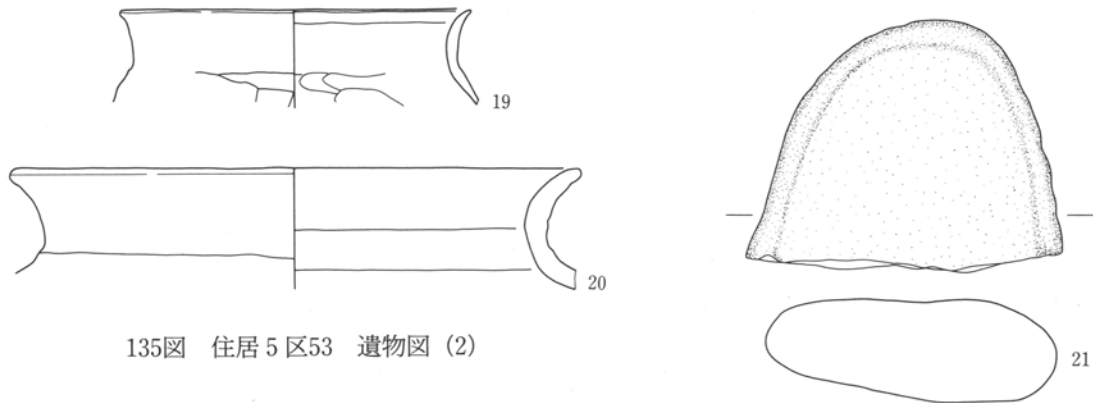
- 1 暗褐色土 As-Cを3%と焼土粒を3%含む。
- 2 暗褐色土 As-Cを5%と焼土粒を30%含む。
- 3 黒褐色土 As-Cを2%と炭化物粒を1%含む。
- 4 黒褐色土 As-Cを1%と焼土粒を20%含む。
- 5 黒褐色土 VII層に類似。焼土粒を5%含む。
- 6 黒褐色土 焼土粒を10%含む。
- 7 黒色土 焼土粒を5%含む。

133図 住居5区53 遺構図(2)

カマド



134図 住居5区53 遺構図(3)・遺物図(1)



135図 住居5区53 遺物図(2)

住居5区58

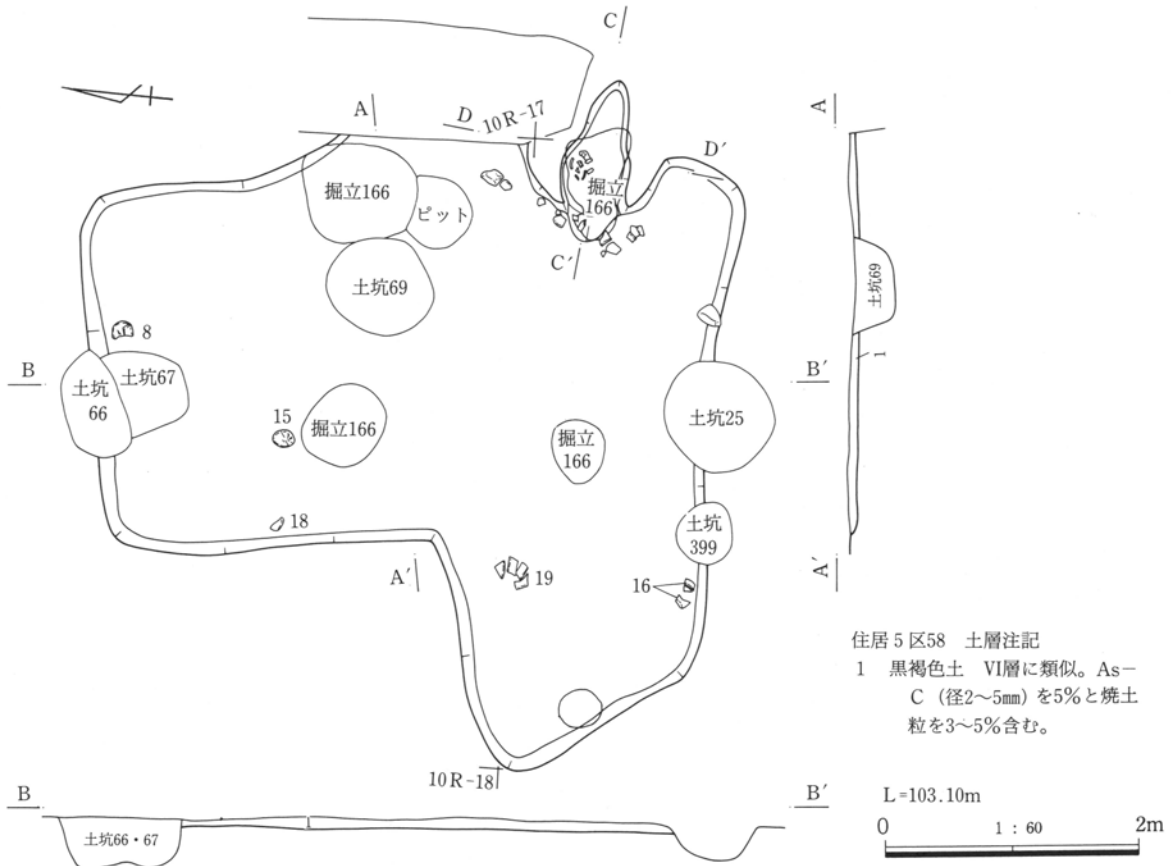
5区調査区の中央より北より、10Q・R-17グリッドに位置する。他遺構との重複関係は居宅掘立柱建物5区166、土坑、古墳時代溝5区04と重複する。新旧関係は本住居の方が居宅掘立柱建物5区166、土坑より古く、溝5区04より新しい。残存状態は一部を重複する遺構によって欠き、確認面から床面まで浅いためあまり良好な状態ではない。

形態は南西部に矩形の張り出しをもつ鍵形を呈す

る。規模は長軸5.30m、短軸5.20m、各辺の長さ北2.75m、東5.10m、南3.90m、西2.44m、張り出し部分の北1.85m、同西1.60mを測る。壁高は5~20cmほどである。床面積は16.7㎡である。主軸方位はN-82°-Eを指す。

内部施設は床面では柱穴、貯蔵穴、周溝等は確認されなかった。床面は地山をそのまま踏み固めている。

カマドは東辺中央よりやや南よりに構築されてい



136図 住居5区58 遺構図(1)

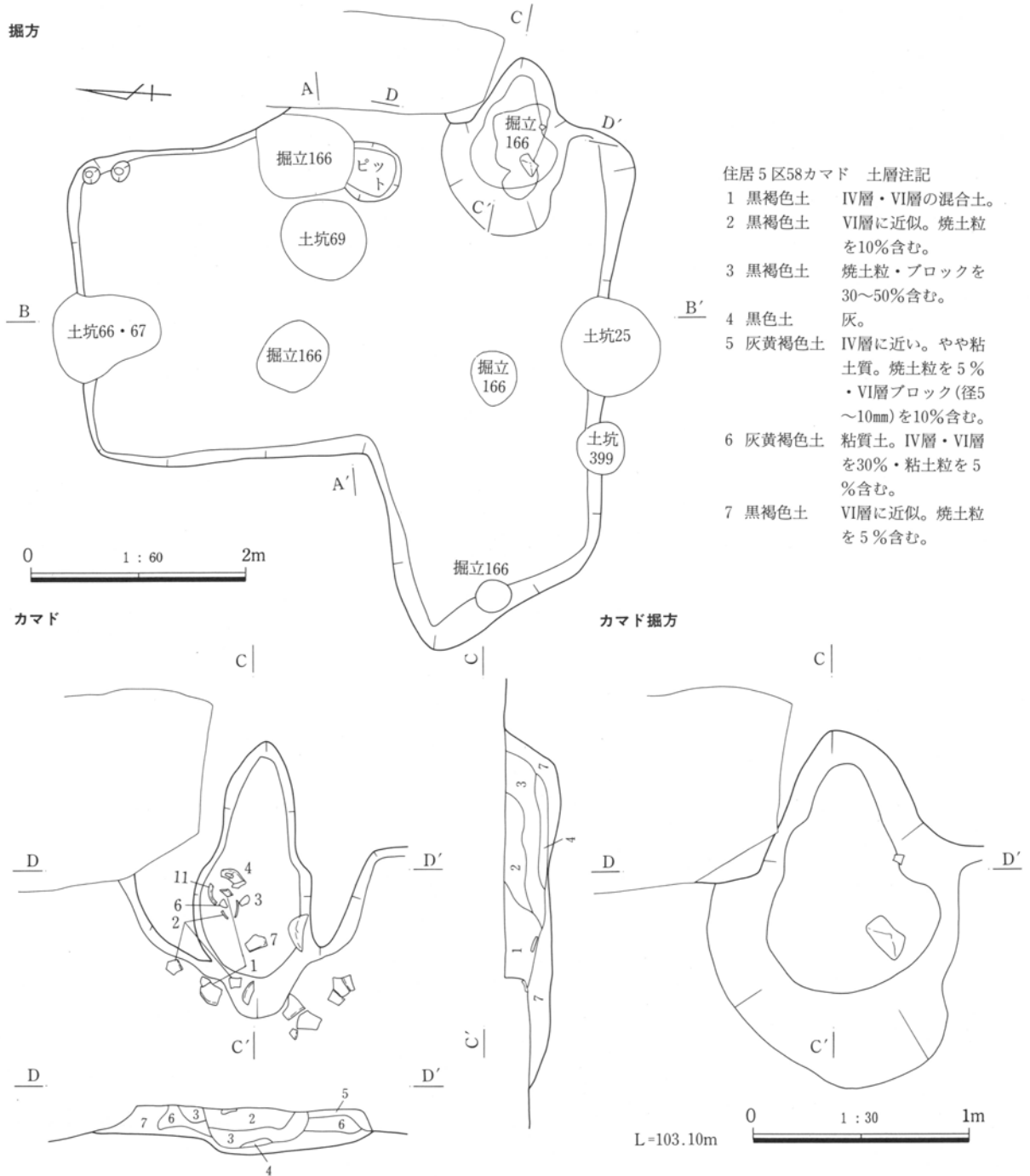
る。残存状態は袖の下部、燃焼部、煙道部の一部が残存している程度であるが本遺跡の中では比較的良好的な状態であった。規模は全長128cm、幅122cmを測る。袖は灰褐色粘質土を使用して構築されている。掘方は全体的に大きく土坑状に掘込みを呈している。

埋没状態は土層観察断面では1層の堆積しか確認できなかったが自然埋没と考えられる。

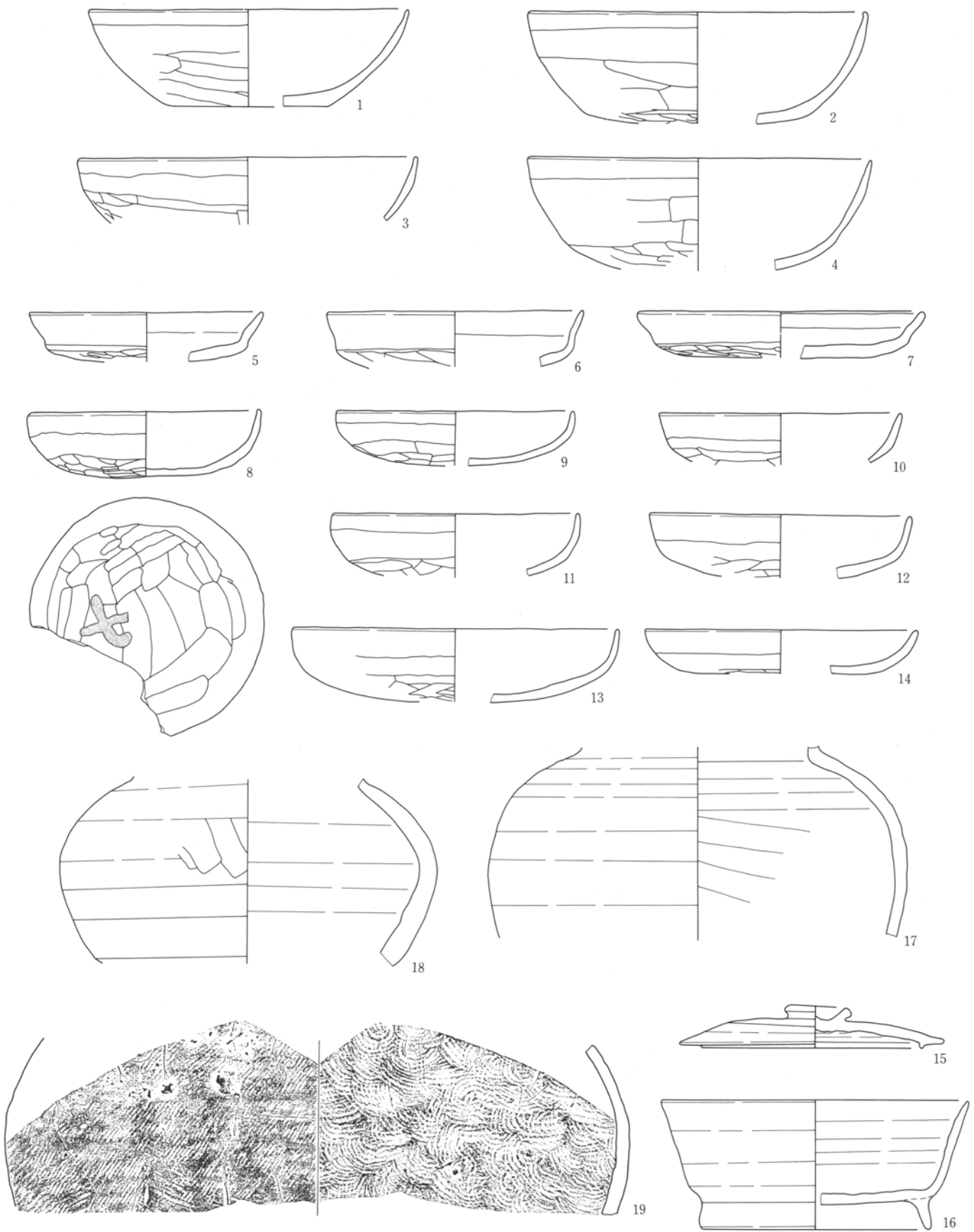
出土遺物は土師器杯・甕、須恵器杯を中心に150点

ほどの出土であるが図化可能なものは19点と比較的が多い。図化した遺物のうち7、8、15、16、18、19が床直、1～7、11がカマドからの出土であった。また、8の土師器杯底部には「七」が墨書されている。

本住居の年代は出土遺物、重複する遺構などから8世紀第1四半期に比定される。



137図 住居5区58 遺構図(2)



138図 住居5区58 遺物図

住居 5 区 61

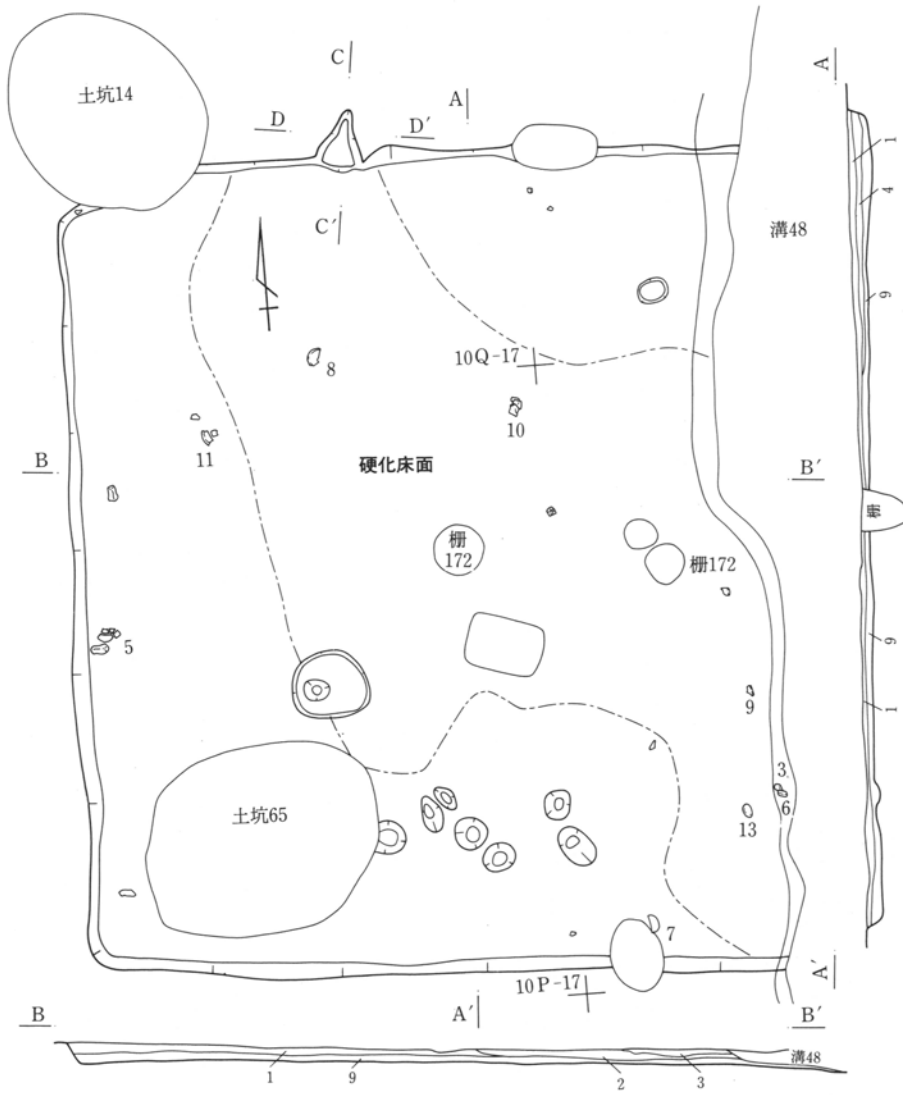
5 区調査区の中程、10P・Q-16・17グリッドに位置する。他遺構との重複関係は居宅内部区画柵 5 区172、平安時代溝 5 区48、土坑 5 区65と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は東辺部分を溝 5 区48によって欠き、確認面から床面までが浅いためあまり良好ではない。

形態は比較的明瞭な角をもつ方形か。規模は長軸 6.48m、短軸 6.44m + α 、各辺の長さは西 5.94m、北 6.44m を測る。壁高は 5~12cm と浅い。床面積は 39.4 m² である。主軸方位は N-1°-E を指す。

内部施設は床面では柱穴、貯蔵穴、周溝等は確認されなかったが、掘方調査時において柱穴を検出した。柱穴は 4 本でほぼ 3.0m の方形になる位置に設置

されており掘方形態は長方形、楕円形である。規模は柱穴 P 1 が径 130×74cm、深度 54cm、柱穴 P 2 が径 76×70cm、深度 50cm、柱穴 P 3 が径 106×76cm、深度 64cm、柱穴 P 4 が径 90×68cm、深度 58cm である。床面は VI 層、VII 層の黒色土による貼床でカマド前部から東南部分にかけて踏み固められている。

カマドは北辺の中央部よりやや西よりに構築されている。残存状態は壁外に位置する煙道の一部が残存する程度で燃烧部や袖などは残存していない。規模は全長 96cm、幅 70cm を測る。住居内部ではカマドの痕跡などは掘方を含めて全く検出されないことから北辺に位置するカマドは初期のもので溝 5 区 48 によって欠く東辺に造り替えられた可能性も想定され



- 住居 5 区 61 土層注記
- 1 黒褐色土
VI層に類似。焼土粒 1%・VIII層ブロック (径 3~10mm) を 5% 含む。
 - 2 黒褐色土
VI層に類似。IV層混入。VIII層ブロック (径 5~30mm) を 20% 含む。
 - 3 黒褐色土
2 に類似。2 より VIII層ブロックがやや多い。
 - 4 黒褐色土
2 に類似。2 より VIII層ブロックが 30% 多い。
 - 5 黒色土
VII層と同様。VII層の崩落か。
 - 6 灰黄褐色土
VIII層 50%・VIII漸移層・VII層 50% を含む。
 - 7 黒褐色土
IV層に類似。焼土粒を 2~3% 含む。
 - 8 黒褐色土
VI層に類似。焼土粒 1% と VIII層ブロック (径 5mm 前後) 3% 含む。
 - 9 にぶい黄褐色土
VIII層ブロック主体。VI層・VII層を 20% 含む。
 - 10 灰黄褐色土
VII層と VIII層がブロック状 (7:3) に混合。
 - 11 にぶい黄褐色土
VIII層をブロック状に 80%・VII層を 20% 含む。

139 図 住居 5 区 61 遺構図 (1)

る。

掘方はほぼ平坦で北辺際に幅25~35cm、深度2cmほどの周溝状の落ち込みを検出した。

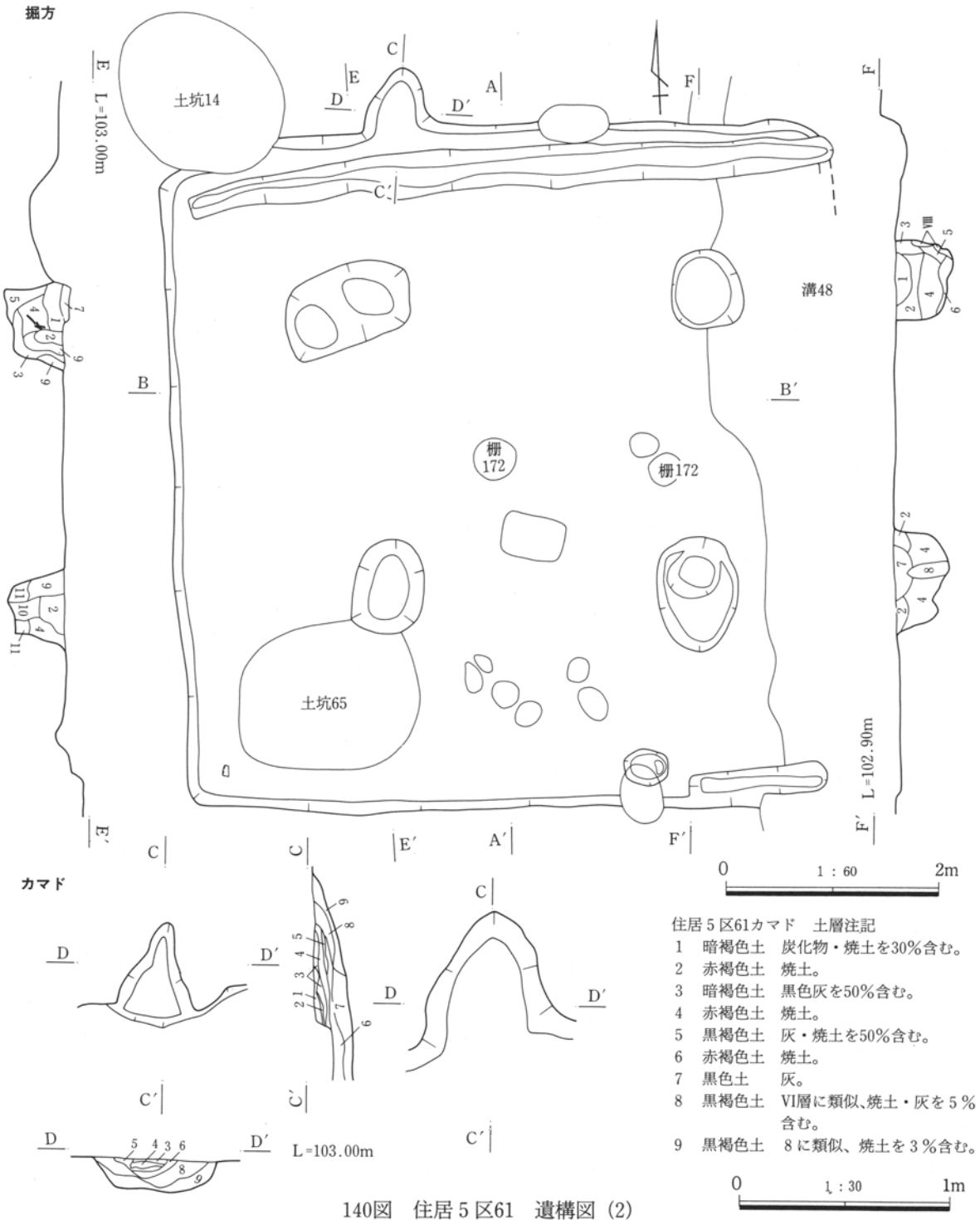
埋没状態はほぼ水平な堆積が観察できることから自然埋没と考えられる。

遺物は土師器杯・甕が310点、須恵器杯を中心に28

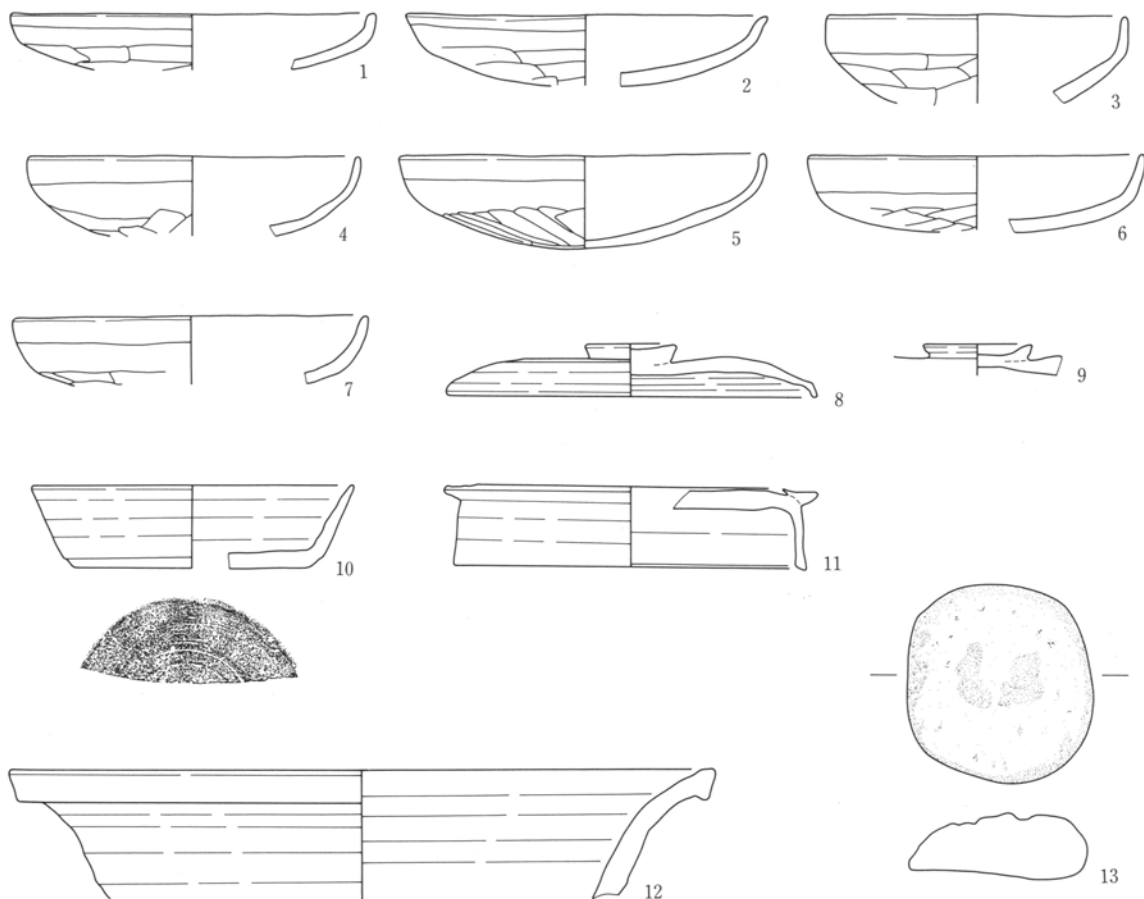
点ほどが住居全体に散乱した状態で出土している。

図化可能なものは礫1点を含めて13点であった。図化した遺物のうち3、5、6、9、11、13が床直、4、7、8が床下からの出土であった。

本住居の年代は出土遺物、重複する遺構などから8世紀第2四半期前半に比定される。



140図 住居5区61 遺構図(2)



141図 住居5区61 遺物図

住居5区63

5区調査区の北東端、10S・T-14・15グリッドに位置する。他遺構との重複関係は居宅掘立柱建物5区168、土坑(遺構NO.無)と重複する。新旧関係は本遺構の方が居宅掘立柱建物5区168より新しく、土坑より古い。残存状態は確認面から床面までが浅いためあまり良好な状態ではない。また、住居の大部分が調査区外に存在するため詳細は不明である。

形態は南辺にやや湾曲が見られることからやや歪みをもった矩形と推定される。規模は西辺3m+ α 、南辺2m+ α 、壁高は3~10cmと浅い。主軸方位はN-98°-Eを指すと想定される。

内部施設は調査した範囲では柱穴、貯蔵穴、周溝等は確認されなかった。床面はVI層、VII層の黒色土

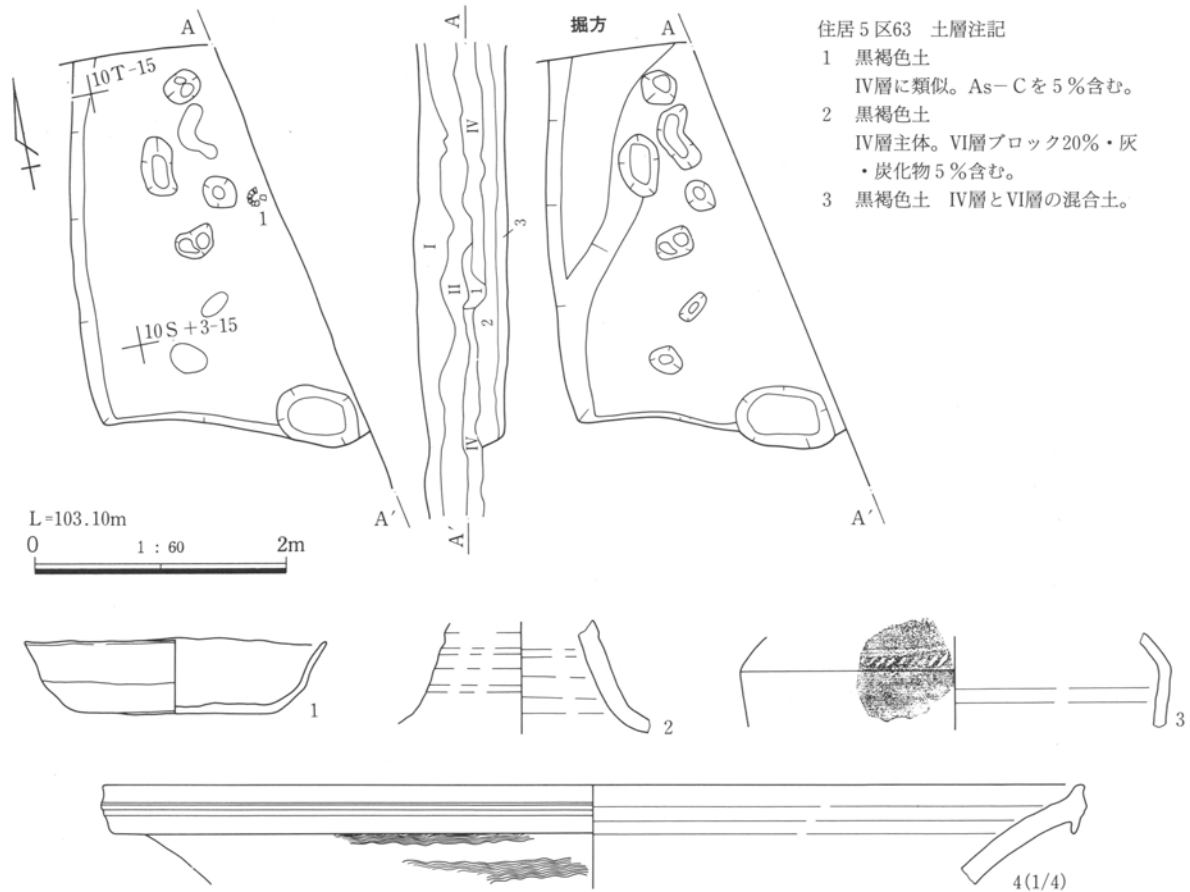
による5~10cmほど貼床されている。

掘方は多少の凹凸が見られるが床下土坑などの施設は確認されなかった。

埋没状態は1層のみの堆積であるがほぼ水平な堆積が観察できることから自然埋没と考えられる。

遺物は土師器杯・甕が60点、須恵器杯・甕が6点ほど出土しているだけであった。図化可能なものは4点であった。図化した遺物のうち1が床直からの出土であった。2の高坏、3の長頸壺は居宅に伴う時期の遺物であることから本住居廃棄後の混入と考えられる。

本住居の年代は数少ない出土遺物や重複する遺構などから9世紀第中葉に比定される。



142図 住居5区63 遺構図・遺物図

住居5区260

5区調査区の中程、10L・M-15・16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は平安時代溝5区48、土坑5区287、奈良時代住居5区261、5区418と重複する。新旧関係は本遺構の方が溝5区48、土坑5区287より古く、住居5区261、5区418より新しい。残存状態は確認面から床面までが浅く特に南辺側は谷地へ移行する傾斜地のため住居範囲も不明確な部分もあり良好な状態ではない。

形態は東西方向にやや長いがほぼ方形を呈す。規模は長軸4.89m、短軸4.72m、各辺の長さは北4.76m、東4.12m、南4.72m、西4.24mを測る。壁高は0~11cmと浅い。床面積は20.8㎡である。主軸方位はN-90°-Eを指す。

内部施設は床面では柱穴を1本検出したが、貯蔵穴、周溝等は確認されなかった。柱穴は住居東南部に位置し、形態は円形で規模は径42×38cm、深度21

cmである。床面は西南部で黒色土による貼床が確認された。

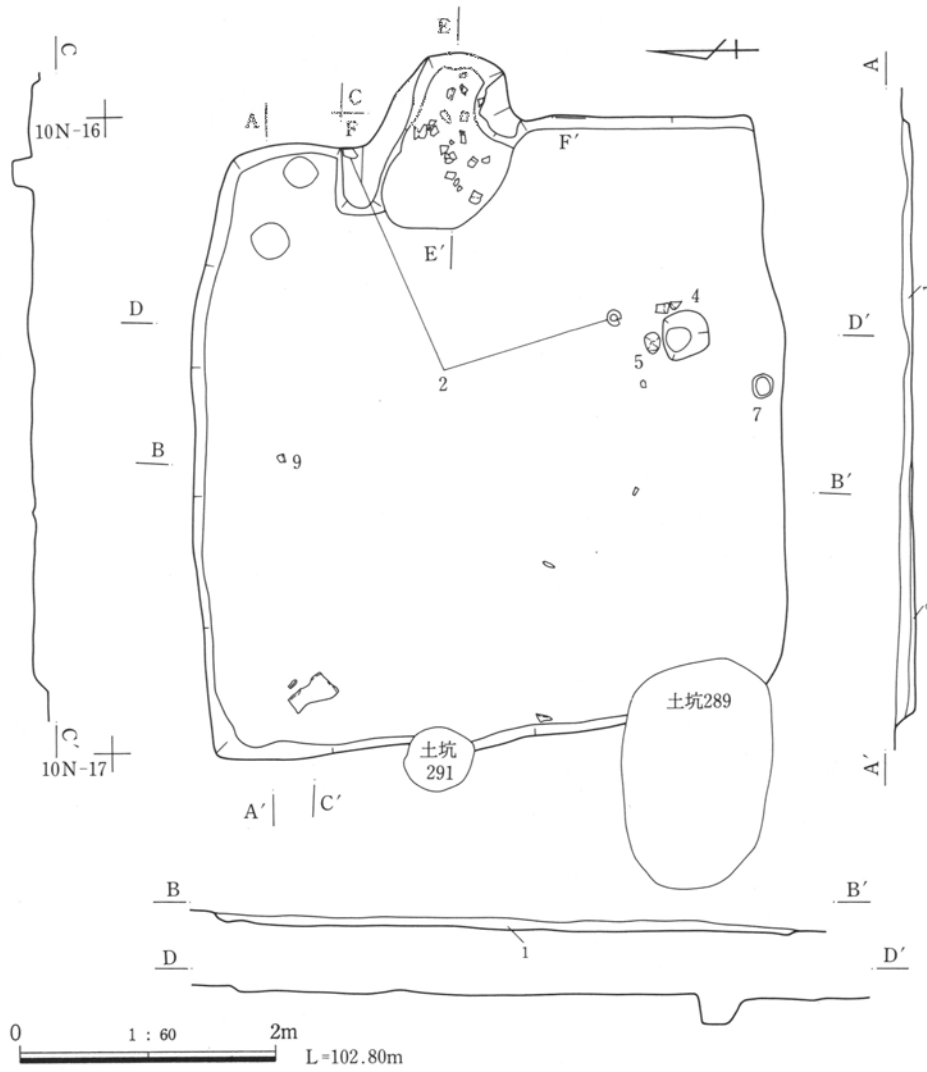
カマドは東辺の中程よりやや北よりに構築されている。残存状態は天井部、右袖の前部を欠くが他は比較的良好である。規模は全長138cm、幅134cm、焚口幅55cmである。掘方は全体を大きな土坑状に掘削したものである。

掘方は下位に住居5区418が存在するため明確ではないがほぼ平坦である。

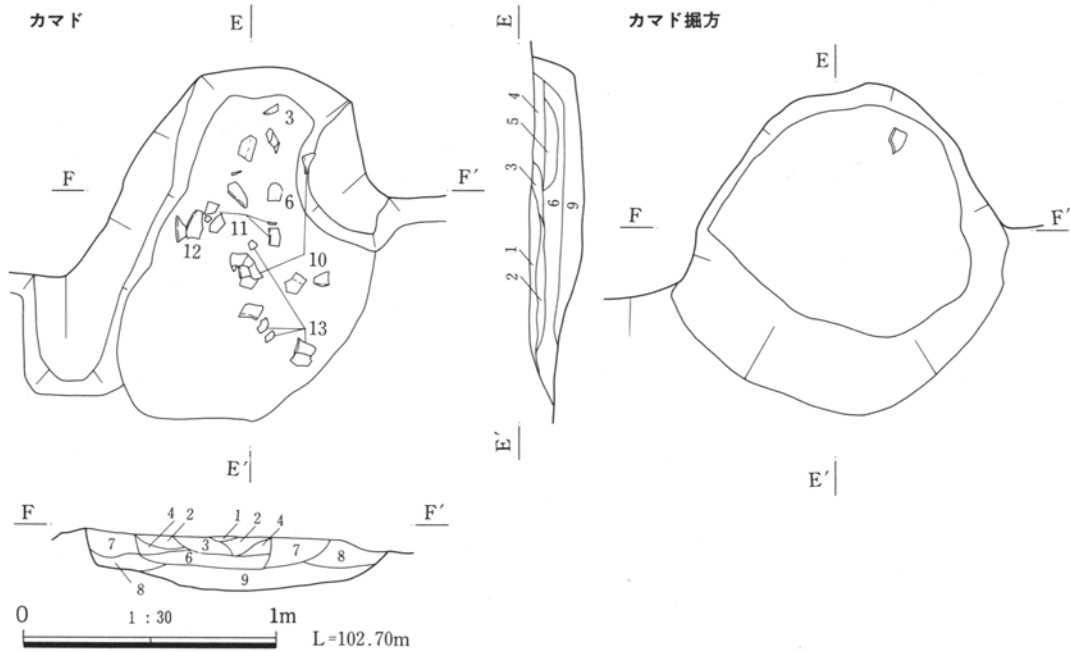
埋没状態は1層のみの堆積であるが自然埋没と考えられる。

遺物は土師器杯・甕、須恵器杯を中心に310点ほど出土しているが図化可能なものは13点であった。図化した遺物のうち2、7、9が床直、3、6、10~13がカマド、4が床下からの出土であった。

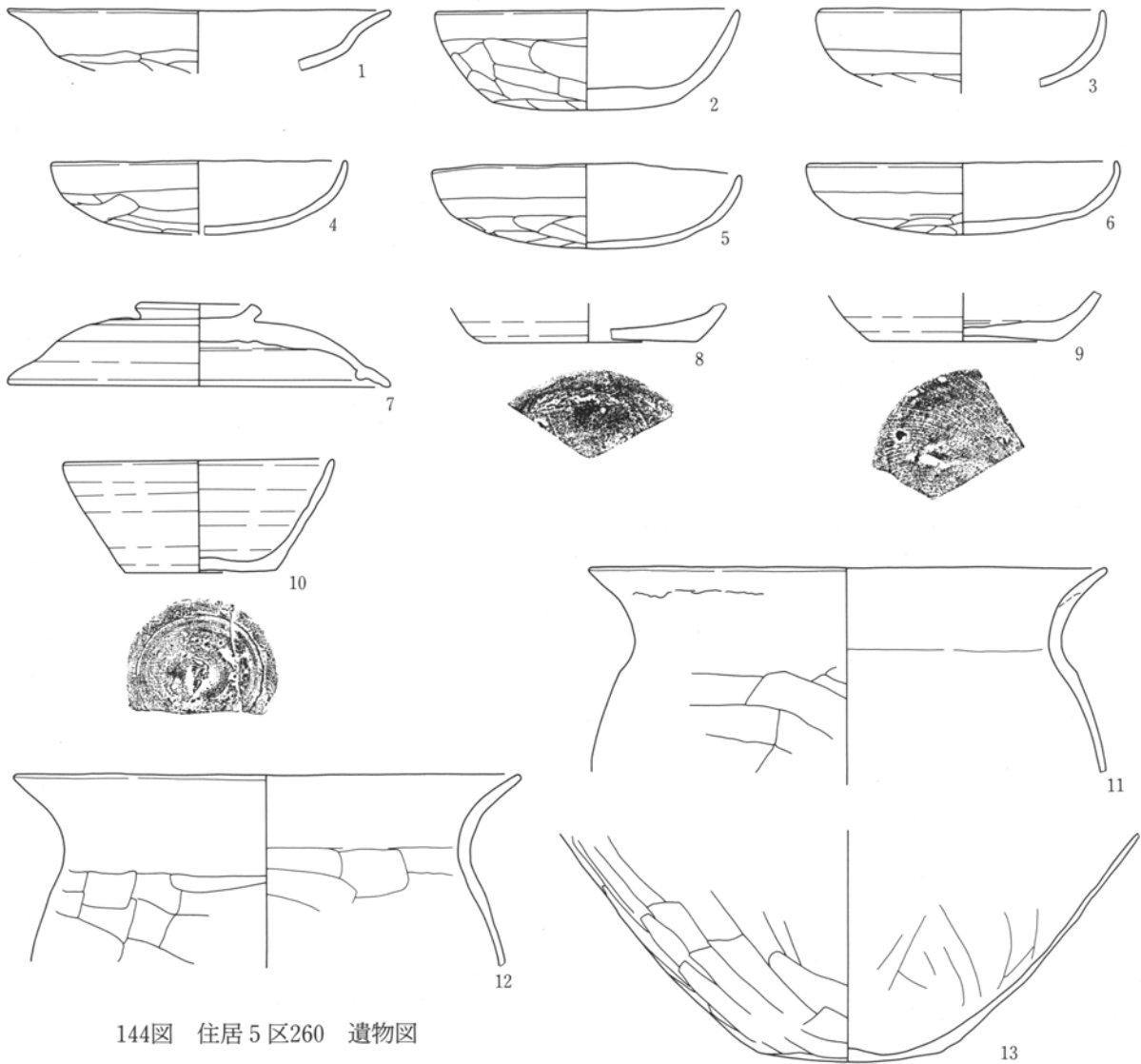
本住居の年代は出土遺物、重複する遺構などから8世紀第1四半期後半に比定される。



- 住居 5 区 260 土層注記
- 1 黒褐色土 IV層に類似。VI層を20%含む。
 - 2 黒色土 VII層と同様。
- 住居 5 区 260カマド土層注記
- 1 灰褐色土 灰層。焼土粒 10%・C軽石(径2mm)微量含む。
 - 2 灰褐色土 灰とシルト混合土。炭化粒(径2~10mm程度)7%・焼土粒(径2~5mm)3%含む。
 - 3 暗褐色土 焼土ブロック主体。シルト15%・炭化物10%含む。
 - 4 黒褐色土 シルト質。炭化粒(径2~5mm)2%・焼土粒(径1~4mm)3%・As-C(径2mm程度)3%含む。
 - 5 黒褐色土 炭・焼土・灰を30~50%含む。
 - 6 黒色土 炭・焼土・灰黄褐色粘土ブロック。
 - 7 におい黄橙色土 VIII層下をカマド袖に使用するためブロック状に切り取ったもの。
 - 8 灰黄褐色土 焼土ブロックを30%と炭化物を5%含む。
 - 9 黒褐色土 IV層・VI層の混土。焼土粒5%・炭化物3%含む。



143図 住居 5 区 260 遺構図



144図 住居 5区260 遺物図

住居 5区261

5区調査区の中程、10M・N-15・16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は平安時代溝5区48、奈良時代住居5区260、5区418、土坑5区287と重複する。新旧関係は本遺構の方が溝5区48、住居5区260、土坑5区287より古く、住居5区418より新しい。残存状態は重複する住居5区260によって南半の2分の1を欠き、確認面から床面までが浅いため良好な状態ではない。

形態は南北方向に長い長方形を呈す。規模は長軸6.54m、短軸4.79m、各辺の長さは北4.70m、東6.40mを測る。壁高は5~17cmと浅い。床面積は29.1㎡である。主軸方位はN-93°-Eを指す。

内部施設は床面では柱穴を2本検出したが、貯蔵

穴、周溝等は確認されなかった。柱穴はカマド前の両側で住居東南部に位置する。形態はともに円形で規模は柱穴P1が径40×40cm、深度24cm、柱穴P2が径52×52cm、深度20cmである。床面は地山をそのまま踏み固めている。

カマドは東辺の中程よりやや南よりに構築されている。残存状態は天井部、両袖とも欠く。規模は全長72cm、幅74cmである。掘方は全体を大きな土坑状に掘削したものである。

埋没状態は1層のみの堆積であるが自然埋没と考えられる。

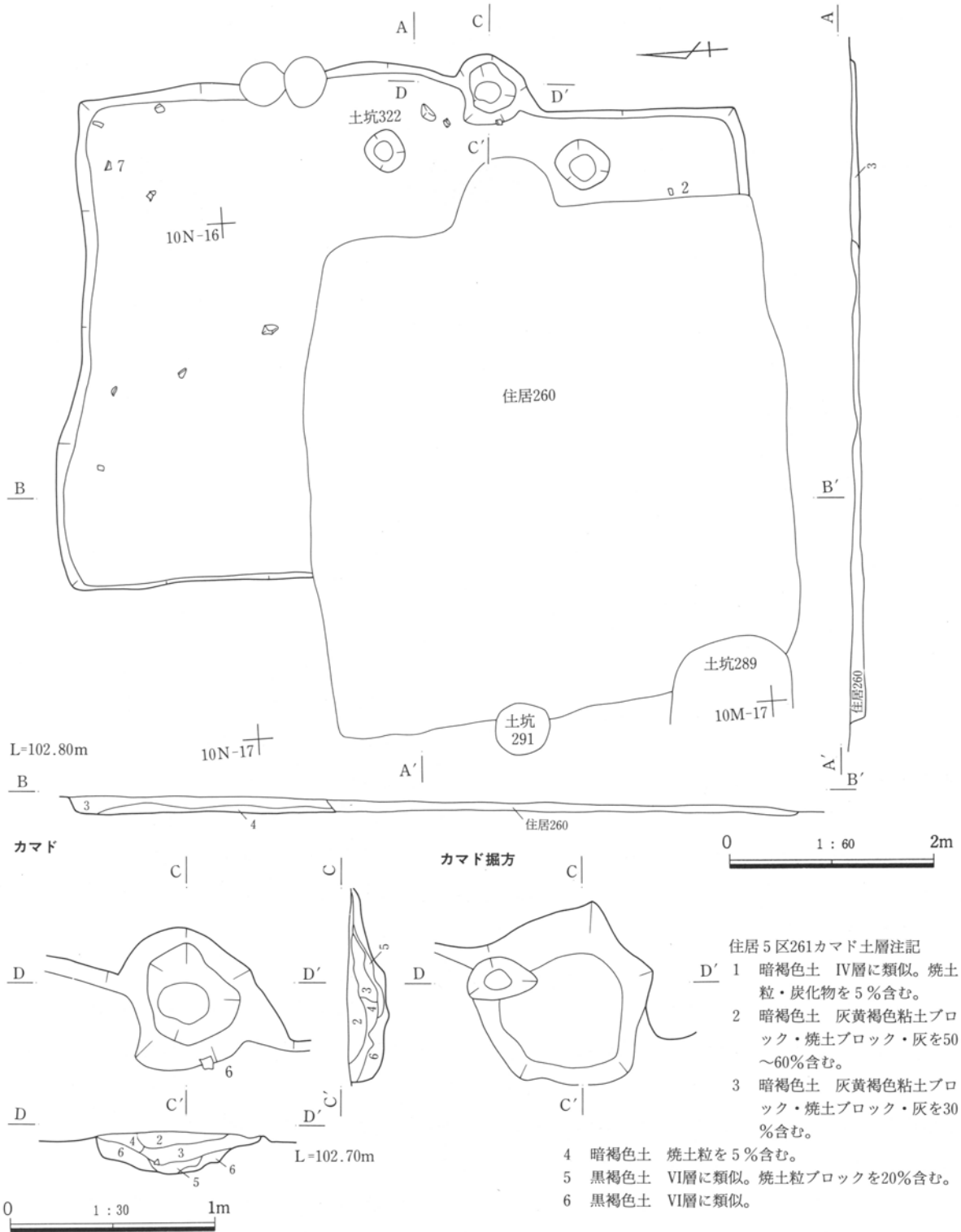
遺物は土師器杯・甕、須恵器杯を中心に280点ほど出土しているが図化可能なものは7点であった。図化した遺物のうち7が床直、6がカマド、2が床下

からの出土であった。

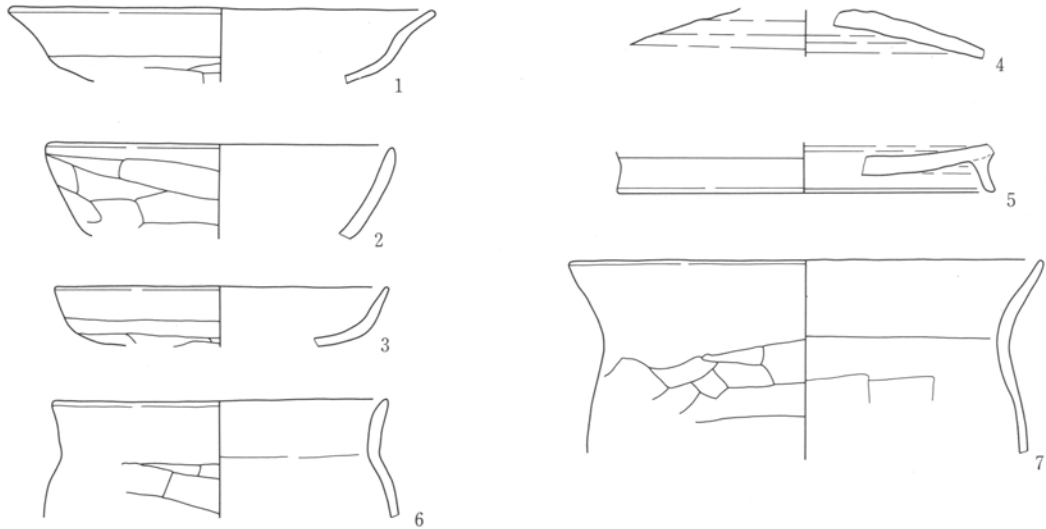
本住居の年代は出土遺物、重複する遺構などから
8世紀第1四半期に比定される。

住居5区261 土層注記

- 3 黒褐色土 IV層に類似。1より、やや暗い色調。
- 4 黒褐色土 2に類似。VI層ブロックを30%含む。



145図 住居5区261 遺構図



146図 住居5区261 遺物図

住居5区418

5区調査区の中程、10M・N-16・17グリッドに位置する。他遺構との重複関係は平安時代溝5区48、奈良時代住居5区261、5区418、土坑5区287と重複する。新旧関係は本遺構の方が重複する他の遺構より古い。残存状態は重複する住居5区261によって北東部の2分の1を欠き、確認面から床面までが浅いため良好な状態ではない。

形態は東西方向に長い長方形を呈す。規模は長軸4.72m、短軸4.15m、各辺の長さは北3.60m、東4.60m、南3.90m、西4.60mを測る。壁高は15cmと浅い。床面積は17.5㎡である。主軸方位はN-92°-Eを指す。

内部施設は床面では柱穴を2本検出したが、貯蔵穴、周溝等は確認されなかった。柱穴はカマド前と中央部に位置する。形態はともに円形で規模は柱穴P1が径80×55cm、深度13cm、柱穴P2が径65×65cm、深度12cmである。床面は地山をそのまま踏み固めている。

カマドは東辺の中程よりやや南よりに構築され住居5区260のカマドとほぼ同じ位置である。残存状態はほとんど欠落した状態である。

埋没状態は断面で厚さ5~7cmで3層が水平に堆積していることが観察でき他の住居での水平堆積で

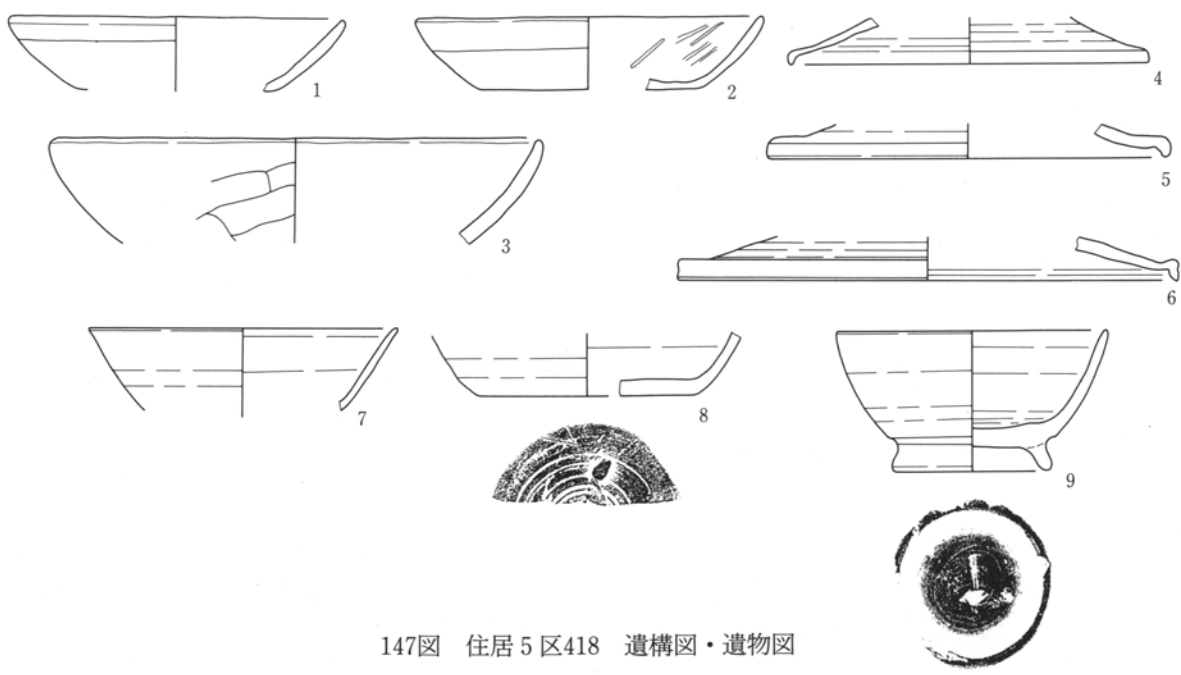
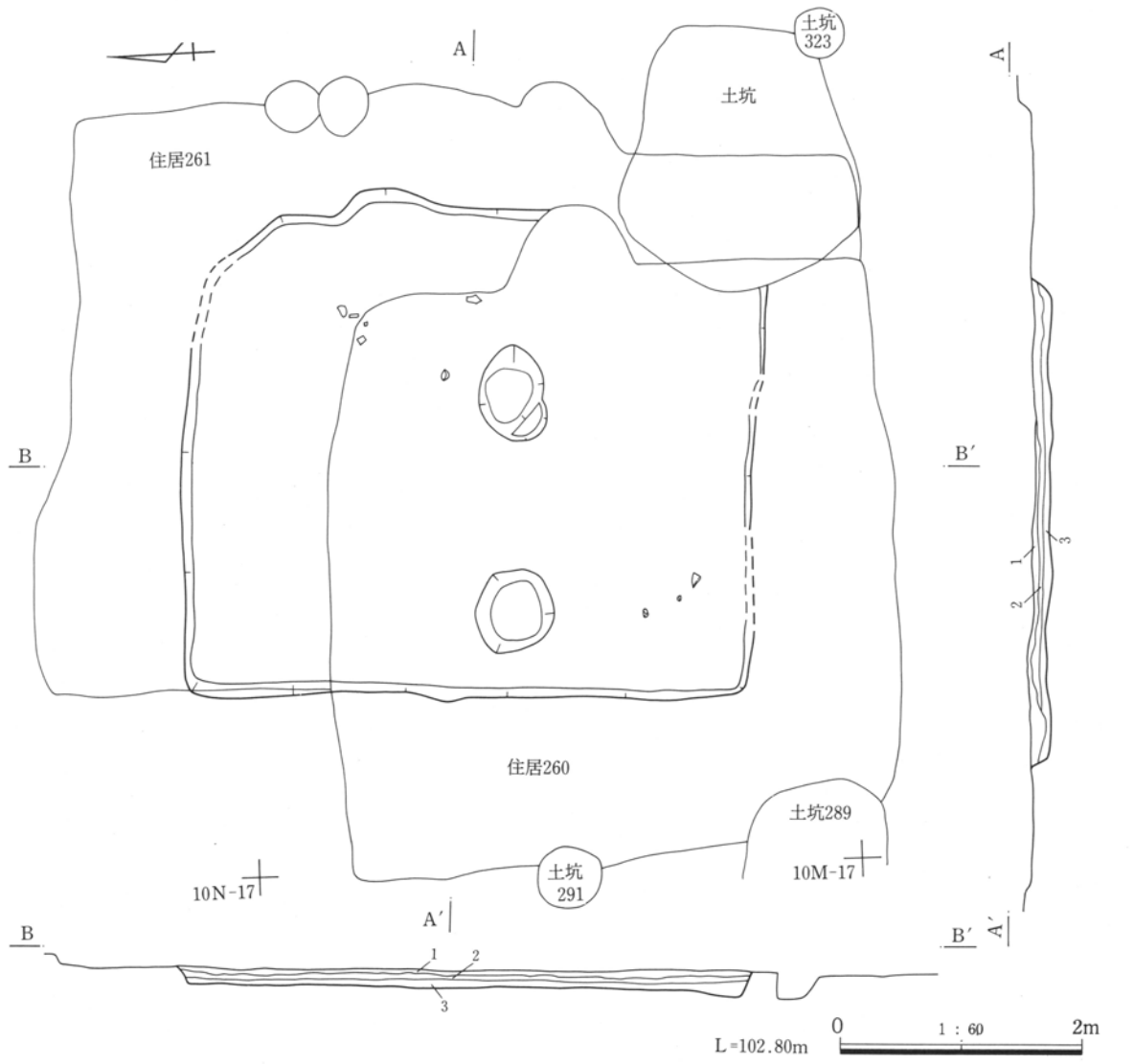
の自然埋没と様相が異なる。こうしたことから重複する住居5区261等を構築する際に人為的に埋め戻した可能性が想定される。

遺物は上位を住居5区260、261によって削平されているため少ないが土師器220点、須恵器20点が出土している。図化した遺物は9点あるが本住居に伴うものは1~3の土師器杯、8、9の須恵器杯、碗の5点と考えられるが上位に存在する2軒の住居も本住居と同様な時期に比定されることからこれらの遺物についても明確ではない。

本住居の時期は出土した遺物や重複する遺構などから7世紀後半代に比定される。

住居5区418 土層注記

- 1 黒褐色土 粘質土。焼土粒・炭化物を2~3%含む。
- 2 黒褐色土 1に類似。(径2~3mm)の白色軽石を3%含む。
- 3 黒褐色土 1に類似。



147图 住居 5 区418 遺構図・遺物図

(3) 掘立柱建物

掘立柱建物 5区167

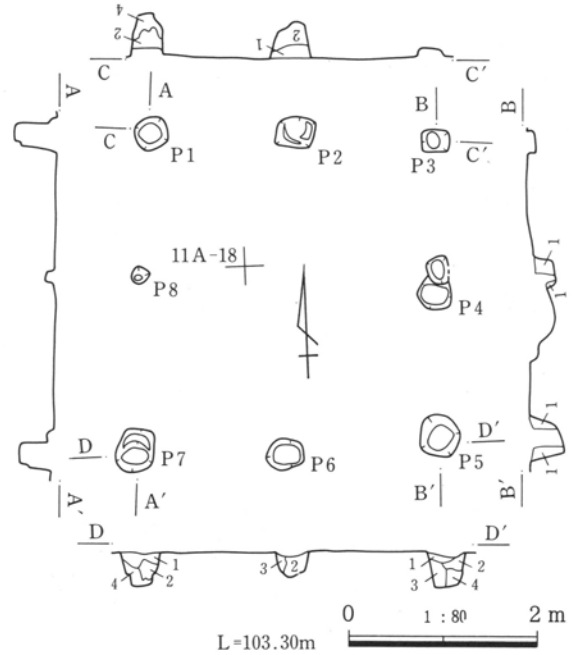
5区調査区北、10T・11A-17・18グリッドに位置する。他遺構との重複関係は見られない。残存状態は比較的良好である。

形態は西辺が東辺よりやや長いがほぼ南北に長い長方形を呈す。規模は梁行2間3.08m、桁行2間3.28~3.52mを測る。面積は10.6㎡である。主軸方位はN-91°-Eを指す。

柱穴は円形、矩形などとやや不統一な掘方である。規模も最小径16cm、最大径46cmと差があるが大部分は径30~40cmである。また、深度も12cmから40cmと差が見られる。柱痕は柱穴P5の断面で20cmほどであることが観察された。

遺物の出土は僅かであったが、柱穴P7より図示した須恵器甕口縁部が出土している。

本掘立柱建物の時期は他遺構との関係や埋没土の様相、出土遺物から10世紀代に比定される。



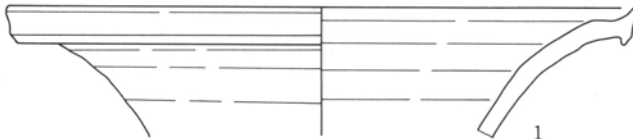
掘立柱建物5区167 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。As-Cを1%含む。
- 2 褐色土 As-Cを1%含む。
- 3 黒褐色土 IV層・VI層の混合土。As-Cを2~3%含む。
- 4 黒褐色土 VI・VII層の混土。VIII層ブロック(径5~30mm)を20%含む。

16表 掘立柱建物5区167柱穴計測表

No.	長径	短径	深度	柱痕径	間距離
1	36	32	45		160
2	40	36	40		146
3	30	24	12		142
4	32	22	24		184
5	44	40	40		164
6	40	36	28		164
7	46	44	40		186
8	16	16	12		162

単位 cm



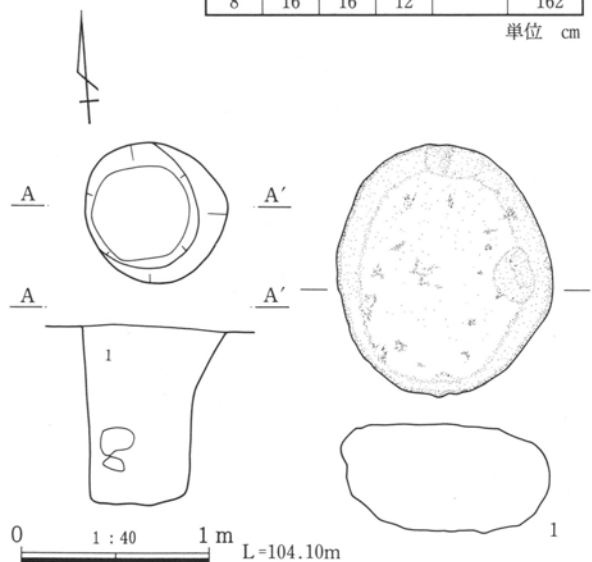
148図 掘立柱建物5区167 遺構図・遺物図

(4) 井戸

井戸4区219

4区調査区中程、11M-18グリッドに位置する。他遺構と直接の重複は確認されなかった。

形態は確認面でほぼ円形を呈し、断面は上位から0.40mの地点でやや細まりその下位は径0.60mほどの筒状を呈す。規模は確認面で径0.76m、底面で径0.52m、深度0.96mを測る。埋没土は内部にブロック状の塊が確認できることから人為的な埋め戻しが行われたと想定される。遺物は土師器の破片が多少と礫が出土しただけであった。なお、本井戸は断面でアグリなど湧水の痕跡がみられないことから掘削途中で断念した可能性が強い。



井戸4区219 土層注記

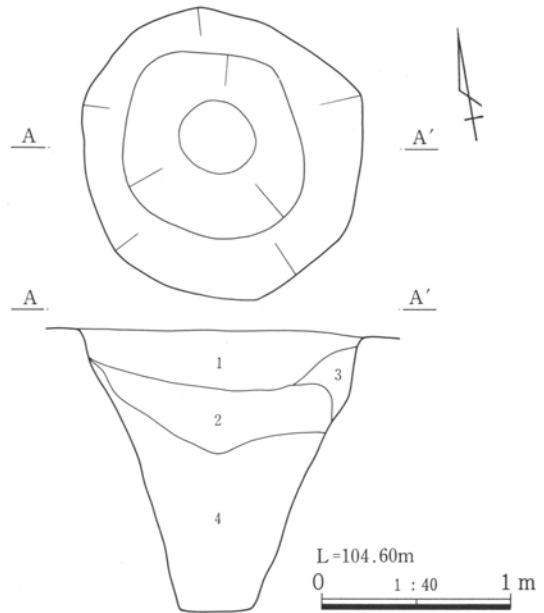
- 1 黒褐色土 VII層に近似。As-Cを3%とVIII層ブロック(径10~30mm)を10%含む。

149図 井戸4区219 遺構図・遺物図

井戸 4 区224

4 区調査区北側、11N・O-21グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。

形態は確認面ではやや歪んだ円形を呈し、断面は逆円錐に近い台形を呈する。規模は確認面で径1.56m、底面で0.40m、深度1.50mを測る。埋没土は下半に多くのブロック状の塊が観察できることから人為的な埋め戻しが行われたと想定される。遺物は土師器、弥生土器、縄文土器などが混在して出土していた。なお、本井戸は219同様に断面でアグリなど湧水の痕跡がみられないことから掘削途中で断念した可能性が高い。



井戸 4 区224 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層に類似。VIII層ブロック(径5~20mm)を5%含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。VIII層ブロック(径10~50mm)30%・As-C 3%含む。
- 3 黒褐色土 VII層に類似。VIII層を縞状とブロックで50%含む。
- 4 黒色土 VII層とVIII層がブロックで混入。

(5) 土 坑

4 区、5 区調査区第2面からは多くの土坑を検出した。第2面で検出した土坑は「II 調査の方法」で記載したように古墳時代後期から平安時代後期までの時期に属するものである。このうち遺物などが出土して奈良・平安時代に属する土坑は17表に掲げたものである。

土坑は形態・規模も一応ではなくその差が大きい。遺物はほとんどが出土量も少なく図化可能な遺物も1点または2点でしかない。そうした中では5区65、155、344で比較的まとまった出土がみられた。特に5区344では土師器甕が3個体以上出土しており4区・5区調査区のなかの土坑では特異なものであった。また、土坑内から出土した遺物は比較的同一の時期のもので占めているものが多かったが5区55のように時期の異なる遺物が出土している土坑もいくつか存在する。

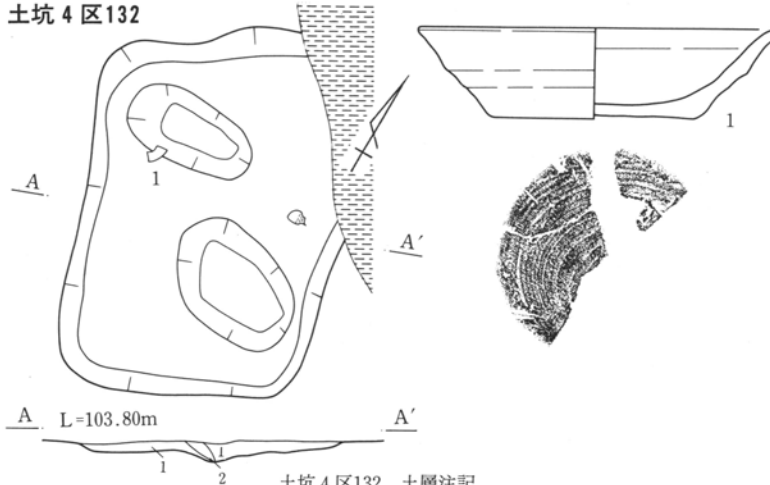
土坑の性格については墓坑、貯蔵、廃棄、下部の土砂掘削などいろいろな目的が想定されるが断定できる遺構はなかった。

150図 井戸 4 区224 遺構図

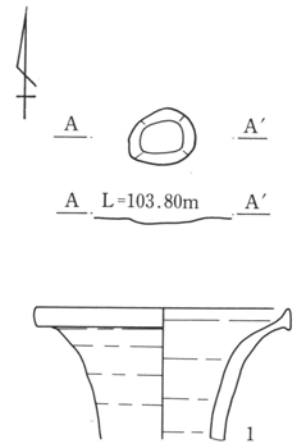
17表 奈良・平安時代土坑一覽

区	遺構 NO.	位 置	重 複 関 係		形 態	規 模			摘 要
			新	旧		長径	短径	深度	
4	132	11G-16			長方形	198	(138)	10	一部攪乱で欠損。
	134	11H-16			ほぼ円形	36	29	2	
	136	11F-16			不整形	(112)	78	6	南側を攪乱で欠損。
	137	11G-16	土坑146		長方形	80	60	10	
	145	11H-19			円形	76	74	18	
	150	11L-19			楕円形	70	62	12	
	151	11J-18			楕円形	172	86	20	
	152	11I-18			長方形	108	72	10	
	153	11F-19			長方形	82	60	10	
	154	11F-19			長方形	76	48	22	
	159	11D-16		古墳時代溝104	長方形	82	66	26	
	163	11F-19	古代土坑?162		楕円形	124	60	4	
	164	11D-17	中世溝02		円形	(46)	66	20	
	5	50	10R-19	平安時代住居49		円形	88	76	8
54		10Q-18		居宅掘立柱建物166	楕円形	212	166	42	
55		10M-18		居宅掘立柱建物387	楕円形	566	282	26	
56		10O-16	平安時代溝48		楕円形	(78)	68	4	
57		10O-16	古代土坑350		長方形	(90)	50	4	
65		10P-17		奈良住居61	長方形	188	148	40	
70		10R-14			楕円形	84	72	24	
71		10R-14			楕円形	88	72	28	
74		10P-18		奈良時代住居52	楕円形	110	66	46	
105		10N-14		古墳時代溝04	円形	52	(30)	38	
114		10N-16		奈良時代住居53	楕円形	58	38	12	
129		10R-15	古代土坑128		楕円形	160	(70)	8	
134		10Q-15			楕円形	144	84	20	
138		10Q-15			円形	100	92	22	
151		10P-15			方形	32	28	12	
155		10Q-16		平安時代溝48	ほぼ円形	173	155	23	
161		10S-16	平安時代溝48		方形	32	28	12	
200		10R-17	古代土坑201	古代土坑202	楕円形	114	96	40	
202		10R-18	古代土坑200		不整形	(96)	84	32	
217		10Q-19	古代土坑218		長方形	284	54	10	
219		10Q-18			不整形	302	140	16	
246		10N-17			楕円形	66	46	10	
271		10M-18		平安時代土坑55	楕円形	84	68	38	
311		10N-16			楕円形	52	50	10	
319		10N-15			不整形	(70)	(14)	24	
332		10M-14		古代溝	楕円形	84	54	14	
342		10N-18			楕円形	98	58	28	
344		10N-15			円形	68	66	38	
347		10N-15	古代土坑319		不整形	(118)	38	12	
369		10N-17			不整形	134	74	28	
426		10G-15			楕円形	60	50	6	
441		10K-16			楕円形	88	74	66	
442	10L-16			方形	94	86	70		
443	10L-15			円形	98	94	66		
445	10J-13			円形	80	76	42		
446	10K-13			楕円形	114	104	40		

土坑 4 区132



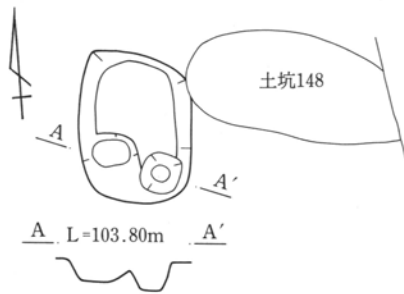
土坑 4 区134



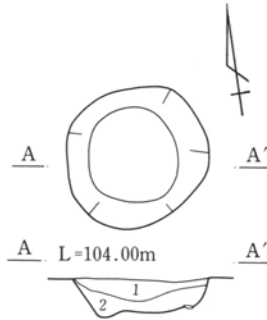
土坑 4 区132 土層注記

- 1 灰黄褐色土 IIに近似。VIII層ブロック(径30~50mm)を30%含む。
- 2 灰黄褐色土 1とVIII層のブロック。

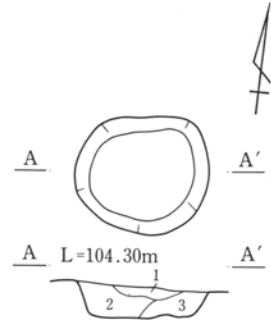
土坑 4 区137



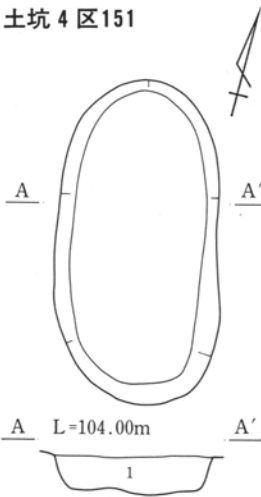
土坑 4 区145



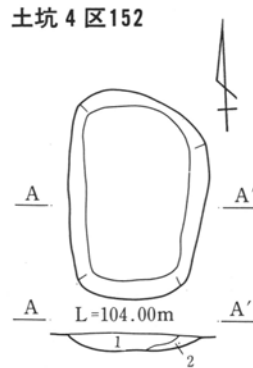
土坑 4 区150



土坑 4 区151



土坑 4 区152



土坑 4 区145 土層注記

- 1 黒褐色土 IV・VI層がブロック状に混合。炭化材の小片を5%含む。
- 2 黒褐色土 IV層が主体。

土坑 4 区150 土層注記

- 1 にぶい黄褐色土 IV層に類似。As-C・VIII層粒3%含む。
- 2 暗褐色土 IV層に類似。VIII層粒3%含む。
- 3 黒褐色土 IV・VI層の混土。VIII層ブロック10%含む。

土坑 4 区151 土層注記

- 1 灰黄褐色土 IV層に類似。

土坑 4 区152 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。VI層ブロックを10%含む。
- 2 黒褐色土 VI層と同様。

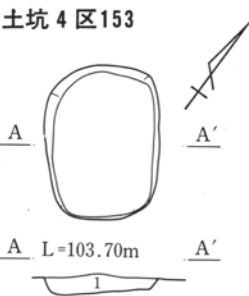
土坑 4 区153 土層注記

- 1 黒褐色土 As-C混土。黄色ロームブロックを若干と炭化物小ブロック(径3mm以下)を少量含む。

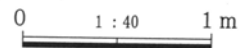
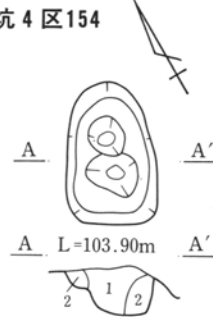
土坑 4 区154 土層注記

- 1 暗褐色土 As-C混土。砂質土主体。黒褐色土をまだらに含む。
- 2 黒褐色土 As-C混土。粘質土。砂質土を若干含む。

土坑 4 区153

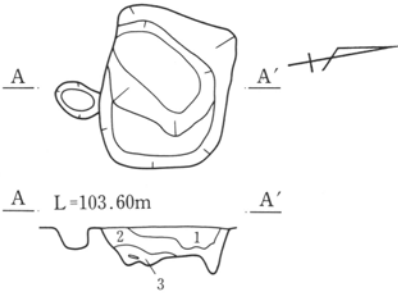


土坑 4 区154



151図 土坑 4 区132・134・137・145・150・151・152・153・154 遺構図

土坑 4 区159



土坑 4 区159 土層注記

- 1 灰黄褐色土 IV層に類似。
- 2 黒褐色土 VI層に類似。IV層が混入。
- 3 黒褐色土 VI層に類似。

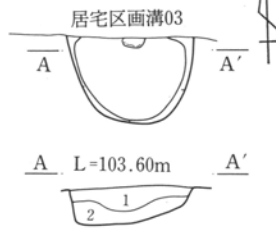
土坑 4 区163 土層注記

- 1 黒褐色土 黒褐粘質土。As-C混土。ローム粒を少量含む。
- 2 黄橙色土 黄色シルト (VIII層)。
- 3 にぶい黄橙色土 黒褐粘質土とVIII層の混合土 (5:5)。

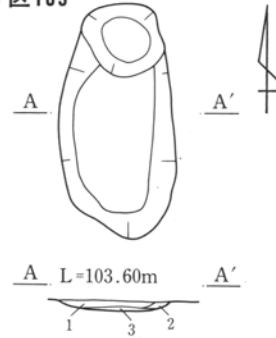
土坑 4 区164 土層注記

- 1 灰黄褐色土 IV層に類似。
- 2 黒褐色土 VI層に類似。IV層が混入。

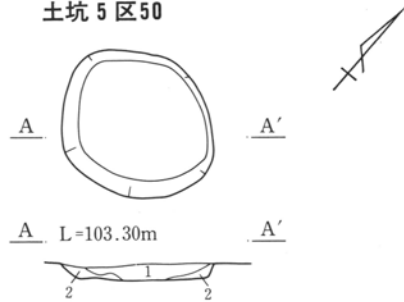
土坑 4 区164



土坑 4 区163



土坑 5 区50



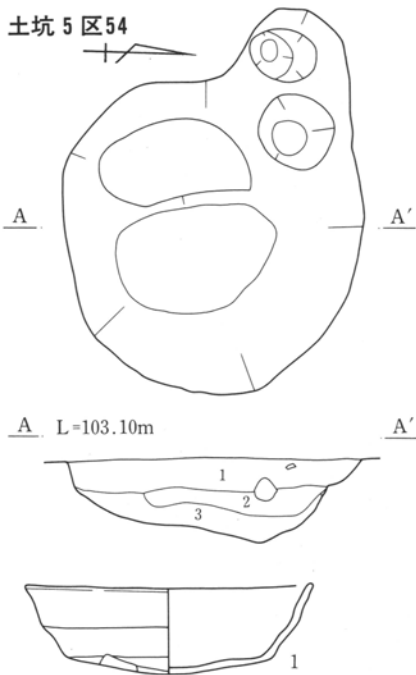
土坑 5 区50 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。As-C (径2~5mm)を3~5%含む。
- 2 黒褐色土 VII層の崩落土。VI層を10%程度混入。

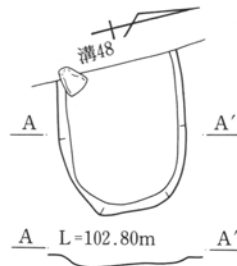
土坑 5 区54 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層主体。VII層が混入。As-Cを5%・焼土粒を1%含む。
- 2 黒褐色土 VI層に類似。As-C (径2~3mm)を2%含む。
- 3 黒色土 VII層に類似。VIII層ブロック (径10~30mm)を10%含む。

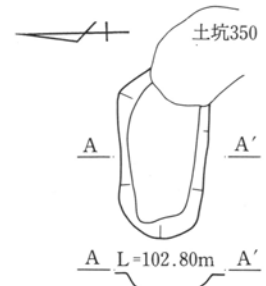
土坑 5 区54



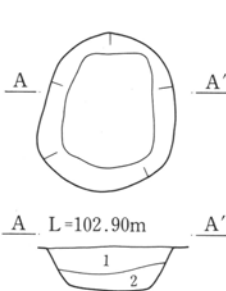
土坑 5 区56



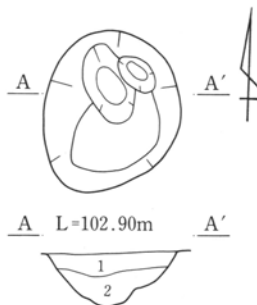
土坑 5 区57



土坑 5 区70



土坑 5 区71

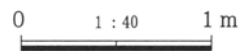


土坑 5 区70 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層に類似。As-C (径2~4mm)を5%含む。
- 2 黒褐色土 1に類似するが、As-Cを1~2%含む。

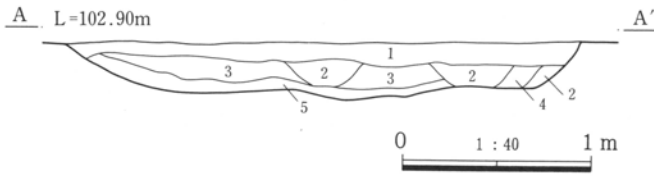
土坑 5 区71 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層に類似。As-C (径2~4mm)を5%含む。
- 2 黒褐色土 1に類似するが、As-Cは1~2%含む。



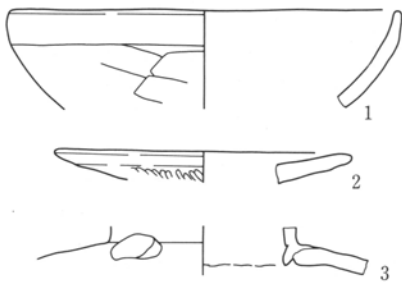
152図 土坑 4 区159・163・164・5 区50・54・56・57・70・71遺構図・遺物図

土坑 5 区 55

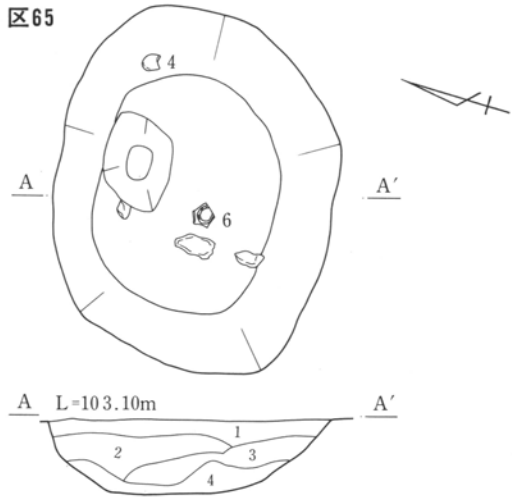


土坑 5 区 55 土層注記

- 1 にぶい黄褐色土 IV層に類似。VI層をブロック状に30%含む。
- 2 黒褐色土 VI層に類似。IV層をブロック状に20~30%含む。
- 3 黒褐色土 VII層に類似。IV層・VI層ブロック状に20~30%含む。
- 4 黒褐色土 VI層主体。IV層を30%含む。
- 5 黒色土 VII層に類似。IV層・VI層をブロック状に10%含む。

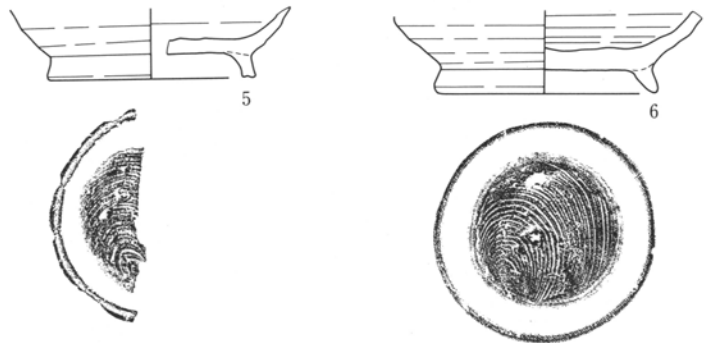
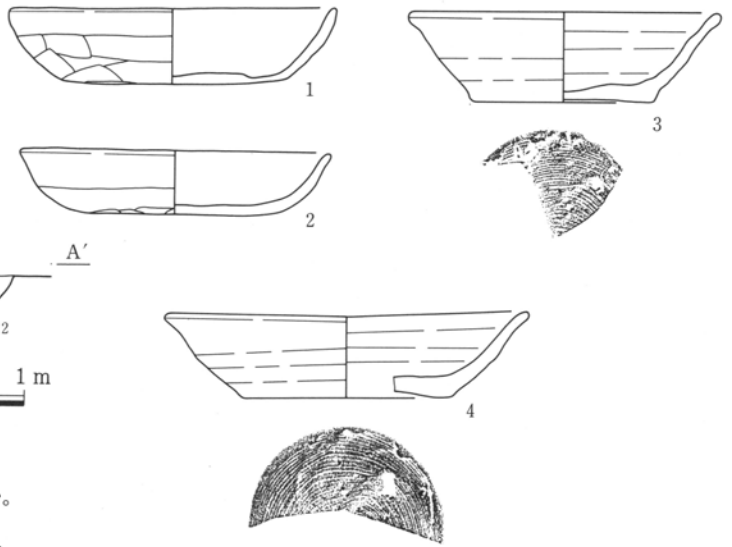


土坑 5 区 65



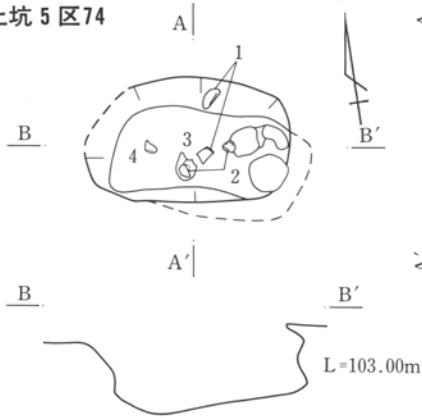
土坑 5 区 65 土層注記

- 1 黒褐色土 VII層に類似。焼土粒を10%含む。
- 2 黒褐色土 IV層・VI層の混合土。焼土粒・灰を10%含む。
- 3 暗褐色土 IV層・VI層の混合土。焼土粒・灰を20~30%含む。
- 4 黒褐色土 IV層・VI層の混合土。焼土粒10%、VIII層ブロック5~10%含む。

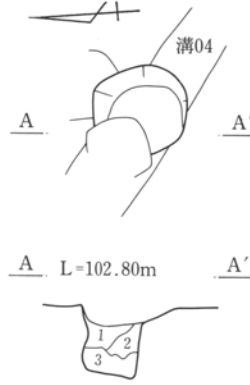


153図 土坑 5 区 55・65 遺構図・遺物図

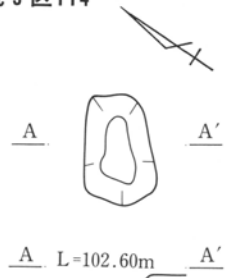
土坑 5 区74



土坑 5 区105

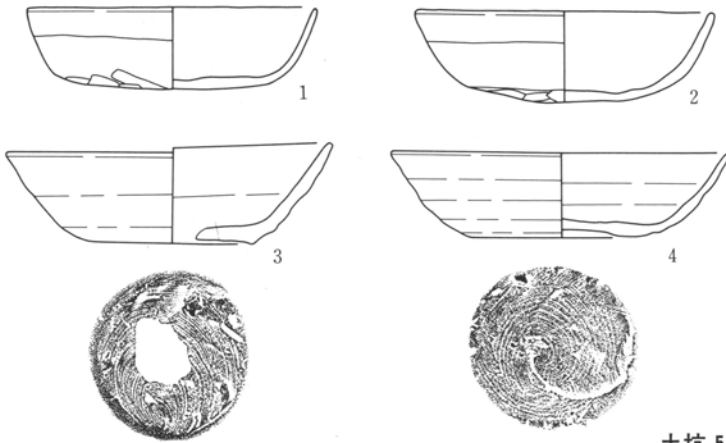


土坑 5 区114

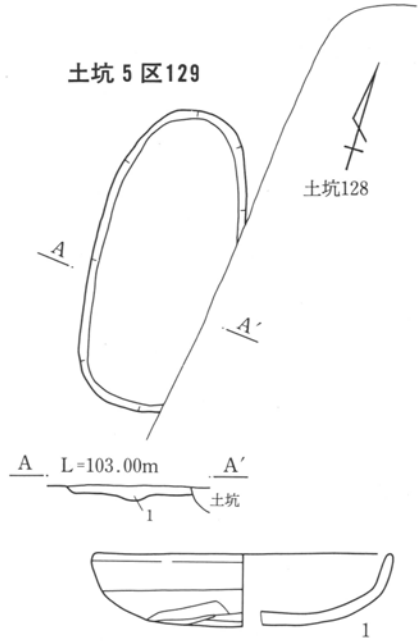


土坑 5 区74 土層注記

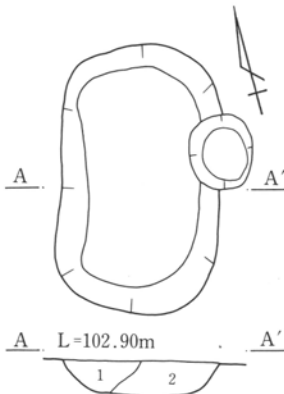
- 1 黒褐色土 IV層に近似。As-C (径2~5mm) と土粒を5%含む。
1の下部は2~5mmの黒色灰が堆積。
- 2 黒褐色土 焼土粒小ブロックを10%とVIII層ブロックを5~15%含む。
- 3 暗褐色土 2に近似。焼土粒・小ブロック・VIII層ブロックを10~20%含む。



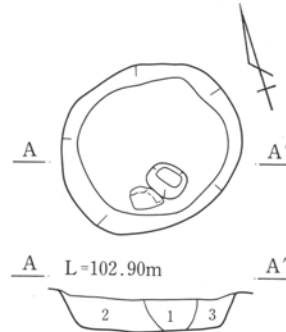
土坑 5 区129



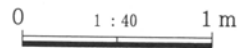
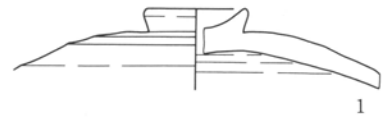
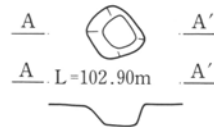
土坑 5 区134



土坑 5 区138



土坑 5 区151



土坑 5 区105 土層注記

- 1 黒褐色土 シルト質。しまりやや強い。焼土粒2%・炭化物微量含む。
- 2 黒褐色土 シルト質。しまり強い。焼土を微量含む。
- 3 黒褐色土 粘質土。粘性有り、しまり強い。黄色シルトブロックを10%含む。

土坑 5 区129 土層注記

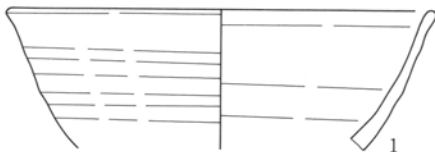
- 1 灰黄褐色土 IV層に類似。VI層ブロックを10%含む。

土坑 5 区134 土層注記

- 1 灰黄褐色土 IV層に類似。As-Cを2%含む。
- 2 黒褐色土 IV層に類似。VI層・VII層ブロックを30%含む。

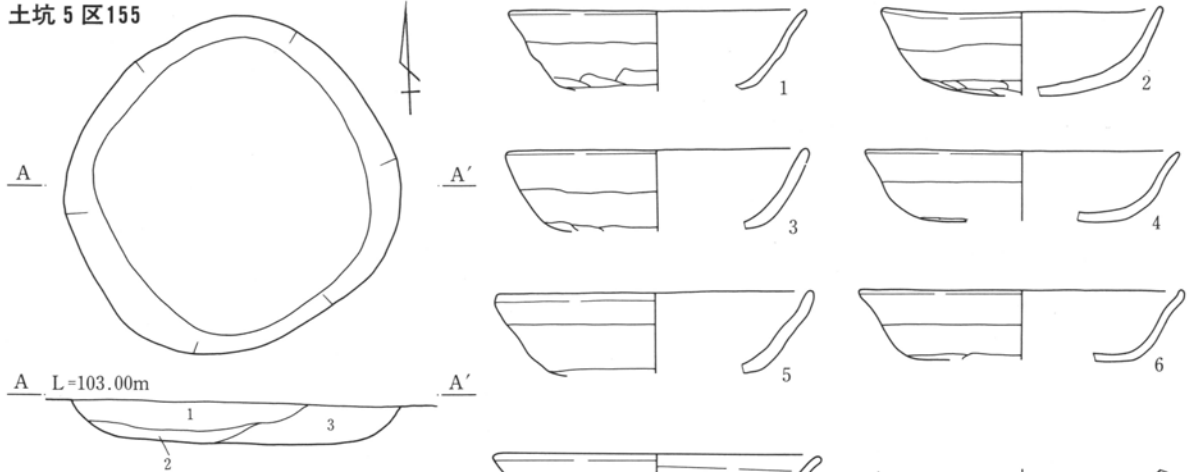
土坑 5 区138 土層注記

- 1 灰黄褐色土 IV層に類似。VI層ブロックを20%含む。
- 2 黒褐色土 IV層に類似。VI層・VII層ブロックを30%含む。
- 3 黒褐色土 VII層主体。VI層ブロックを20%を含む。



154図 土坑 5 区74・105・114・129・134・138・151 遺構図・遺物図

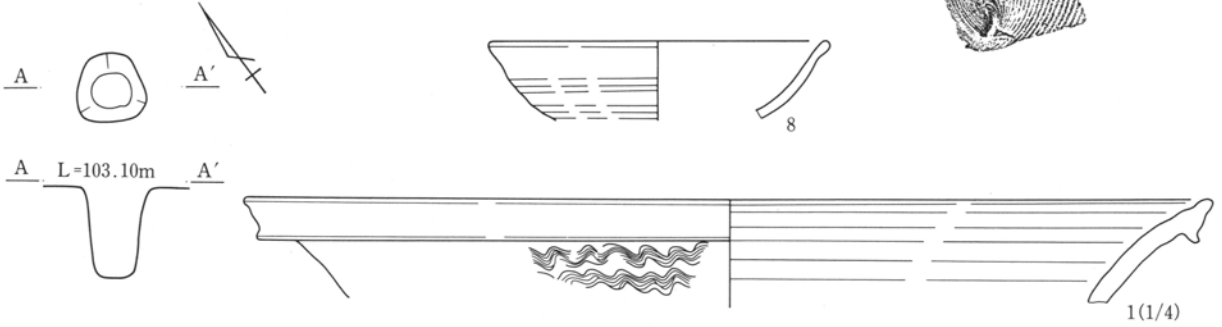
土坑 5 区155



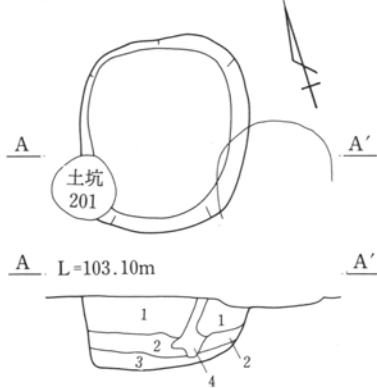
土坑 5 区155 土層注記

- 1 黒褐色土 焼土ブロックを20%含む。
- 2 黒褐色土 1に類似。焼土ブロックを5%含む。
- 3 黒褐色土 VIに類似。焼土粒を3%含む。

土坑 5 区161



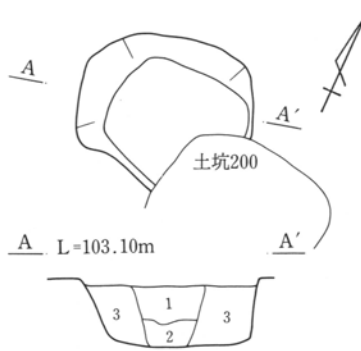
土坑 5 区200



土坑 5 区200 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。
- 2 黒褐色土 IV層・VI層の混合土。VII層ブロックを10%含む。
- 3 浅黄色土 VII層30%・VIII層70%の混合土。
- 4 浅黄色土 VIII層ブロック。

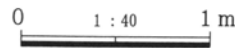
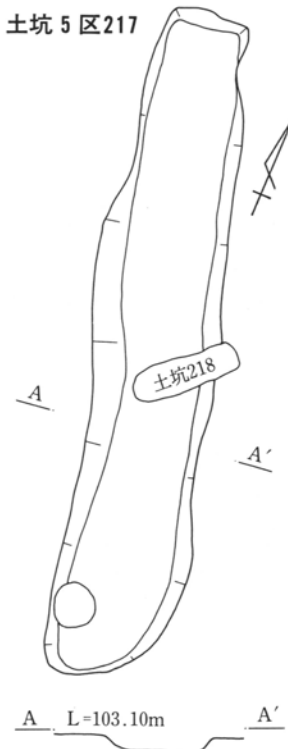
土坑 5 区202



土坑 5 区202 土層注記

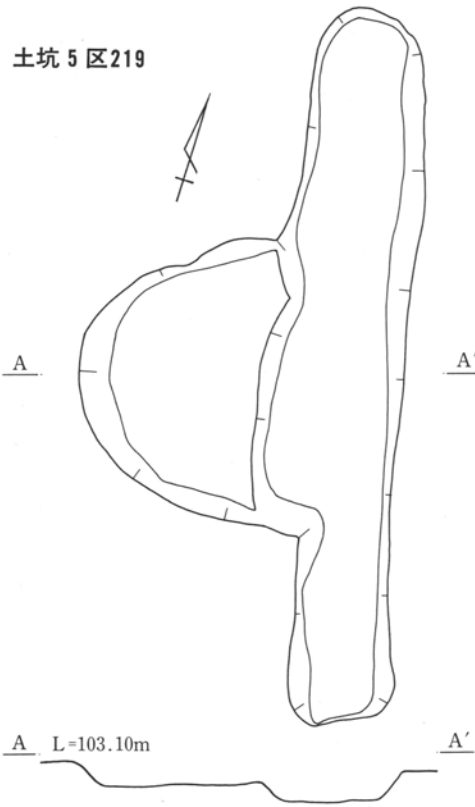
- 1 黒褐色土 IV層・VI層の混合土。As-C5%と焼土粒1%含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。VIII層ブロック30%含む。
- 3 黒褐色土 IV層に類似。VI層ブロック10%含む。

土坑 5 区217

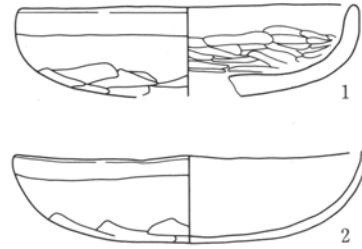
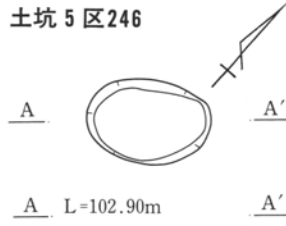


155図 土坑 5 区155・161・200・202・217 遺構図・遺物図

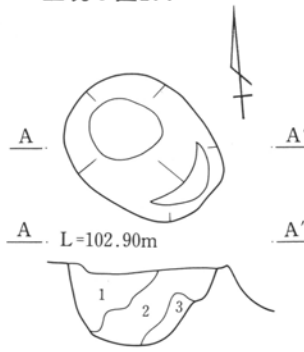
土坑 5 区219



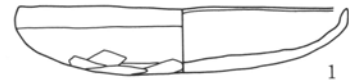
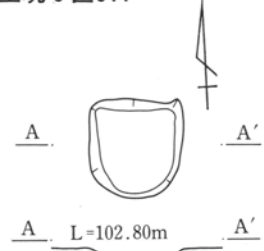
土坑 5 区246



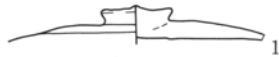
土坑 5 区271



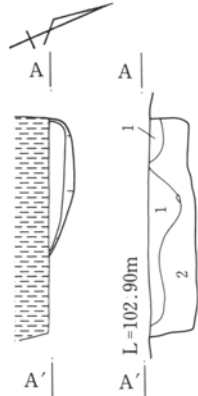
土坑 5 区311



A L=103.10m



土坑 5 区319



土坑 5 区271 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。VI層ブロックを30%を含む。
 - 2 黒褐色土 IV・VI・VII層の混合土。(2:4:4)
 - 3 黒色土 VII層に類似。IV・VI層が若干混入。
- As-Cを2%を含む。

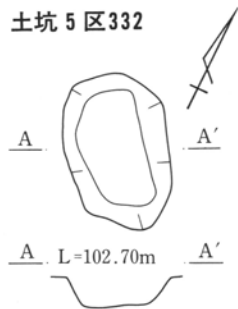
土坑 5 区319 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。
- 2 黒褐色土 VI層に類似。VI・VII層混入。

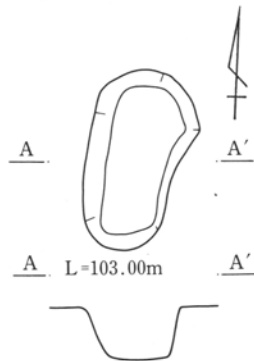
土坑 5 区246 土層注記

- 1 黒褐色土 IV・VI層の混土。As-Cを5~7%含む。

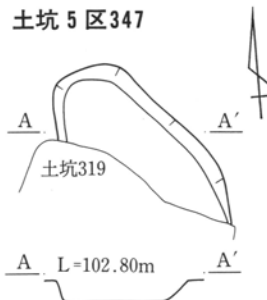
土坑 5 区332



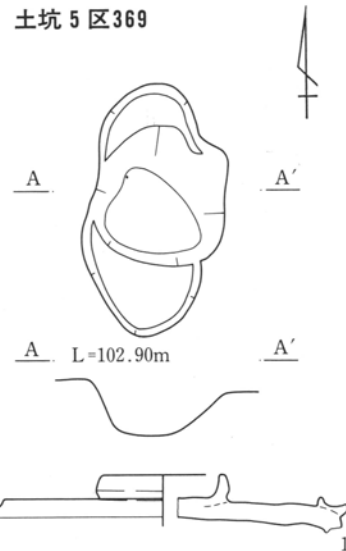
土坑 5 区342



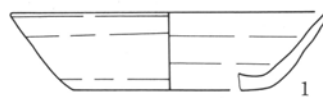
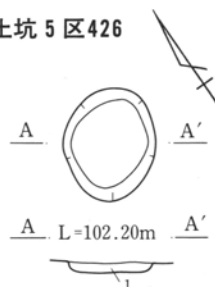
土坑 5 区347



土坑 5 区369

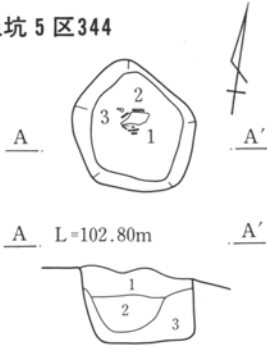


土坑 5 区426

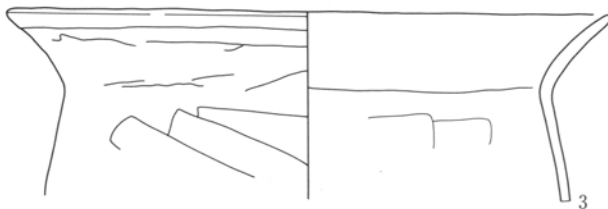
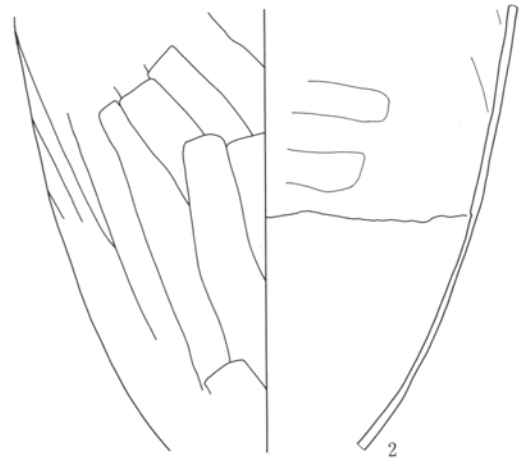
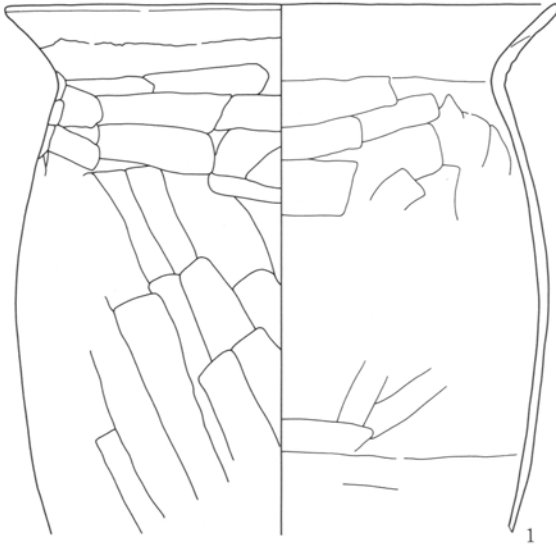


0 1:40 1m

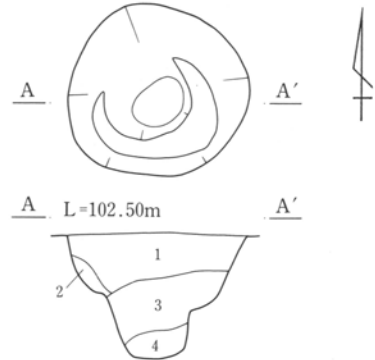
土坑 5 区344



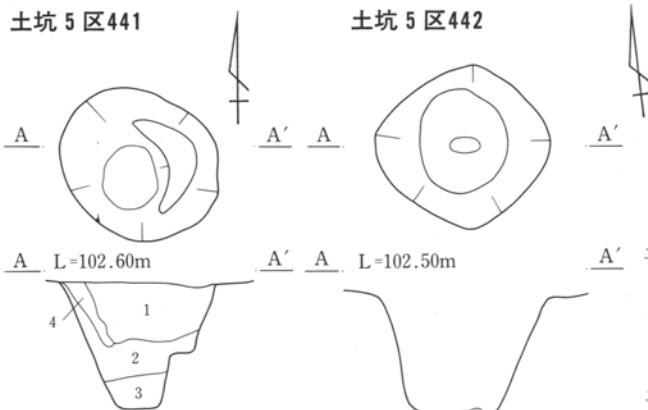
土坑 5 区344 土層注記
 1 黒褐色土 IV層に類似。
 2 黒褐色土 VI層に類似。
 3 黒褐色土 VI・VII層の
 混合土。



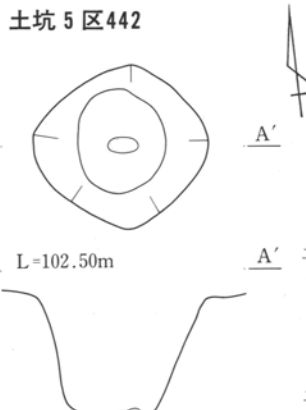
土坑 5 区443



土坑 5 区441

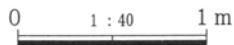


土坑 5 区442



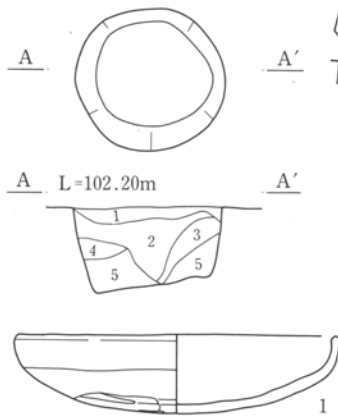
土坑 5 区441 土層注記
 1 黒褐色土 VI層に類似。IV層が30~50%混入。
 2 黒褐色土 VII層に類似。VIII層が20~30%混入。
 3 黒色土 VII層に類似。VIII層ブロック(径5~10mm)を10%含む。
 4 黒褐色土 VIII層に類似。VIII層ブロック(径10~30mm)を50%含む。

土坑 5 区443 土層注記
 1 黒褐色土 IV層に類似。As-Cを5~10%含む。
 2 黒褐色土 VI層に類似。As-Cを2%含む。
 3 褐色土 VII層主体。シルト質。
 4 黒褐色土 VII層主体。VIII層ブロック(径5~20mm)を10%含む。



157図 土坑 5 区344・441・442・443 遺構図・遺物図

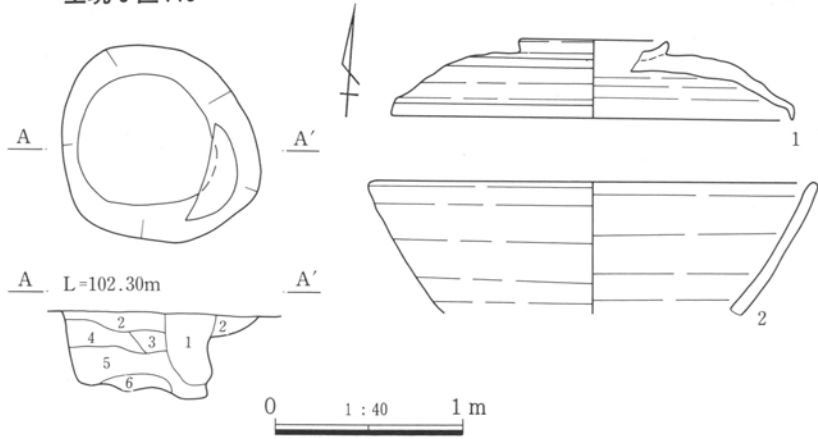
土坑 5 区 445



土坑 5 区 445 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層主体。IV層ブロックを3%含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。VIII層ブロック(径50~80mm)を30%含む。
- 3 黒褐色土 VII層に類似。2に類似。As-Cを3%含む。
- 4 黒褐色土 VII層に類似。VIII層ブロックを含む。
- 5 におい黄橙色土 VIII層がブロック状。VII層を2~30%含む。

土坑 5 区 446



土坑 5 区 446 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層に類似。砂質気味。As-C 3%・焼土粒(径2mm)微量含む。
- 2 黒褐色土 VI層に類似。As-Cを3%含む。
- 3 灰黄褐色土 VIII層主体。ブロック状。IV層を20%含む。
- 4 黒褐色土 VI層に類似。砂質気味。As-Cを3%含む。
- 5 黒色土 VII層に類似。As-C 1%弱・VIII層ブロック10%含む。
- 6 黒色土 VII層に類似。VIII層ブロックを15%含む。

158図 土坑 5 区 445・446 遺構図・遺物図

(6) 溝

4区～6区調査区第2面では溝・溝状遺構を35条検出した。これらの溝のうち出土遺物や重複する遺構などから奈良・平安時代に属すると断定できる溝は23条である。これらの溝のうち居宅の区画溝4区03と排水溝4区164については「居宅」の項で記載した。本項では残りの溝について掲載してある。

溝 5 区 48

5区調査区を南北に位置する。グリッドは10M～11A-15・16である。他遺構との重複関係は中世館堀、奈良時代住居5区53、61、260、261、古墳時代溝5区04などと重複する。新旧関係は本遺構の方が中世館堀より古く、他の遺構よりは新しい。残存状態は溝の北端にあたる箇所が調査区外に延びるが状態は比較的良好である。

形態は直線的ではなく幅も振幅が見られ10Oの南と北側では幅に大きな差が見られる。規模は幅1.0～2.1m深度20～30cmで全長は調査区内で45mを測

る。底面は緩い丸みをもち、傾斜は地形と同様に北から南へかけてであるが凹凸が見られる。

埋没土はIV層に類似したやや灰色を帯びた暗褐色土である。

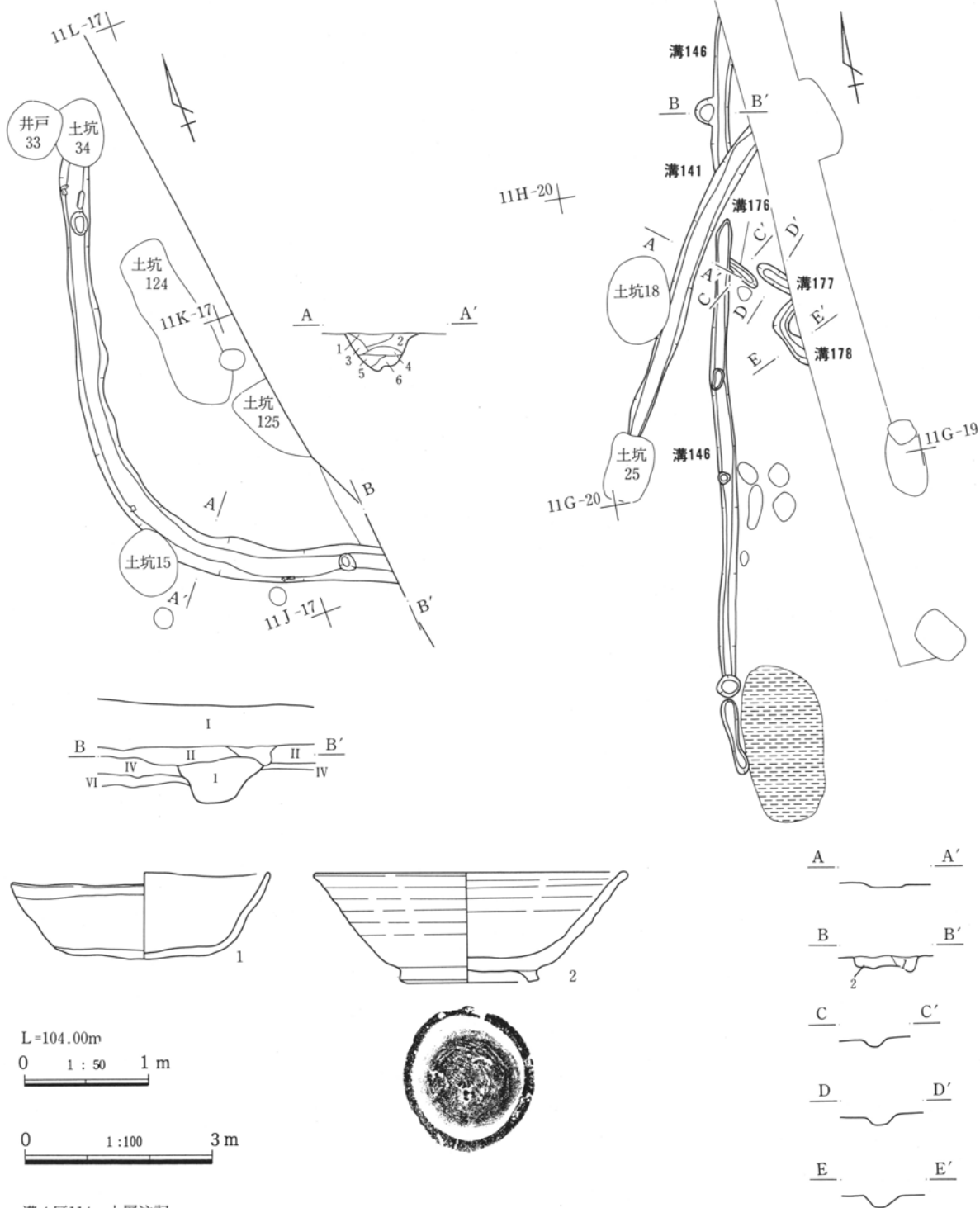
遺物は土師器杯類約1,000点、甕350点、須恵器杯・碗類260点、甕・壺類50点と多量の土器が出土している。出土した土器は8世紀前半代から9世紀後半代までの幅広い時期に及ぶが9世紀後半代の土器が主体を占めている。

溝5区48は形態や埋没土などの様相から人為的な掘削によるものではなく洪水などによって流された土砂によって削られた結果によると想定される。本溝内から9世紀後半代の土器が多量に出土しており、溝北側の地点には同時期の集落の存在が推察される。

本溝の時期は出土遺物から9世紀後半代以降に比定される。

溝4区114

溝141・146・176・177・178



溝4区114 土層注記

- 1 におい黄褐色土 IV層に近似。
- 2 灰黄褐色土 砂質土。
- 3 におい黄褐色土 IV層に近似。
- 4 灰黄褐色土 砂質土。
- 5 3と4の混合土。
- 6 におい黄褐色土 3と同様。

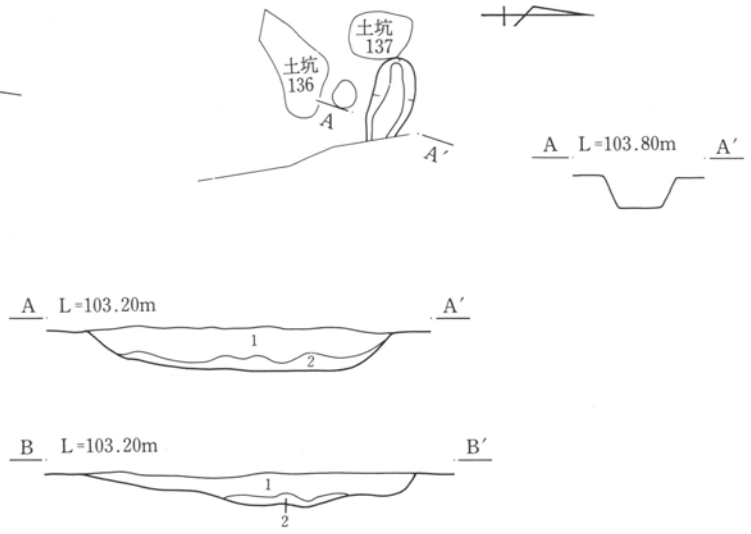
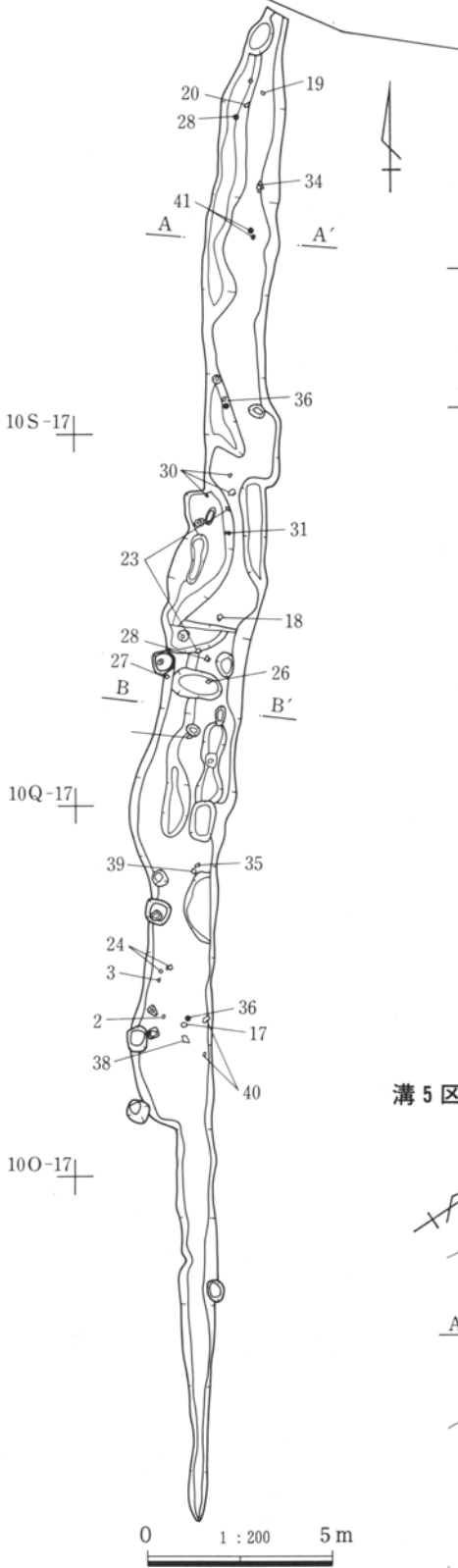
溝4区146 土層注記

- 1 黒褐色土 As-C混土粘質土・砂質土まだらに含む。
- 2 黒褐色土 1に類似。

159図 溝4区114・141・146・176・177・178 遺構図・遺物図

溝 5 区48

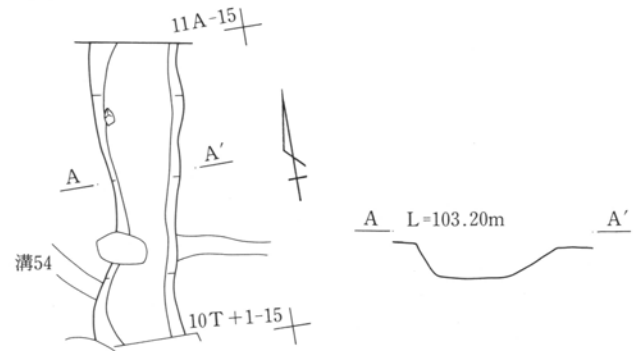
溝 4 区148



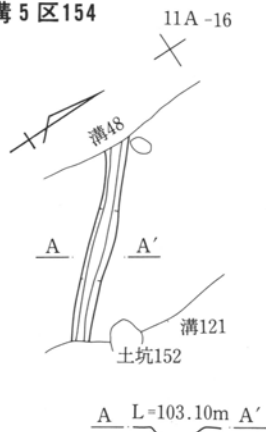
溝 5 区48

- 1 黒褐色土 IV・VI層の混合土。As-C (径1~3mm)を5%含む。
- 2 黒褐色土 VII層主体。IV・VI層をブロック状に5~10%含む。

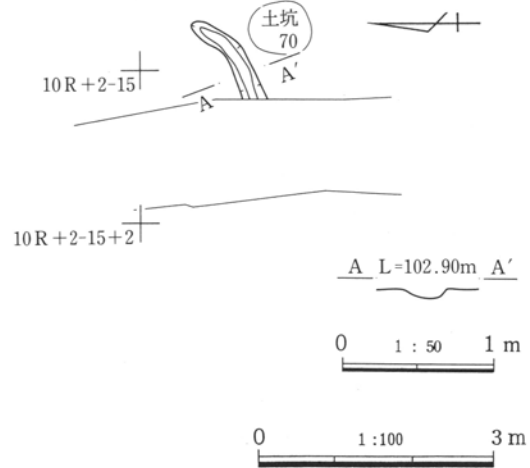
溝 5 区121



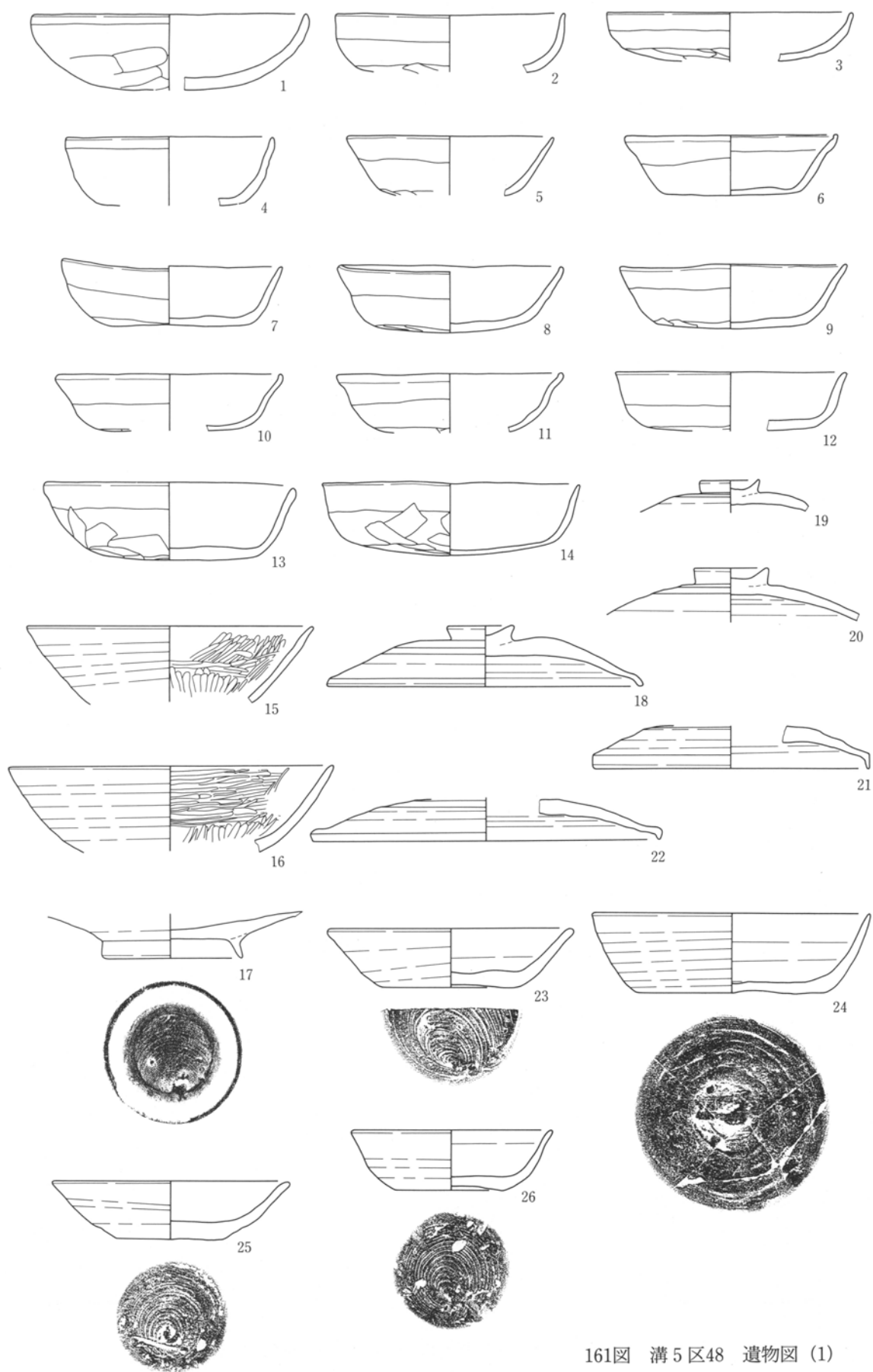
溝 5 区154



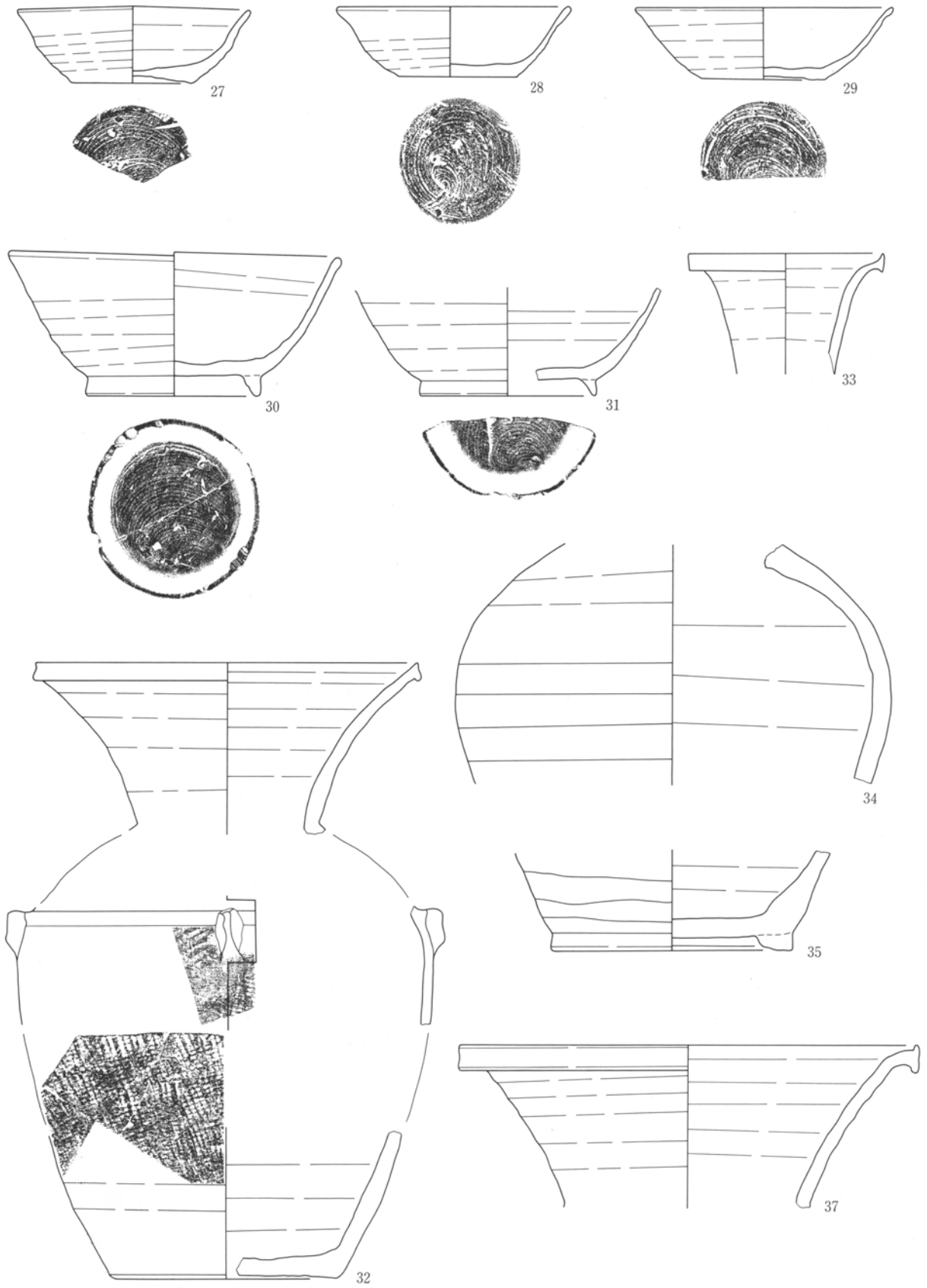
溝 5 区147



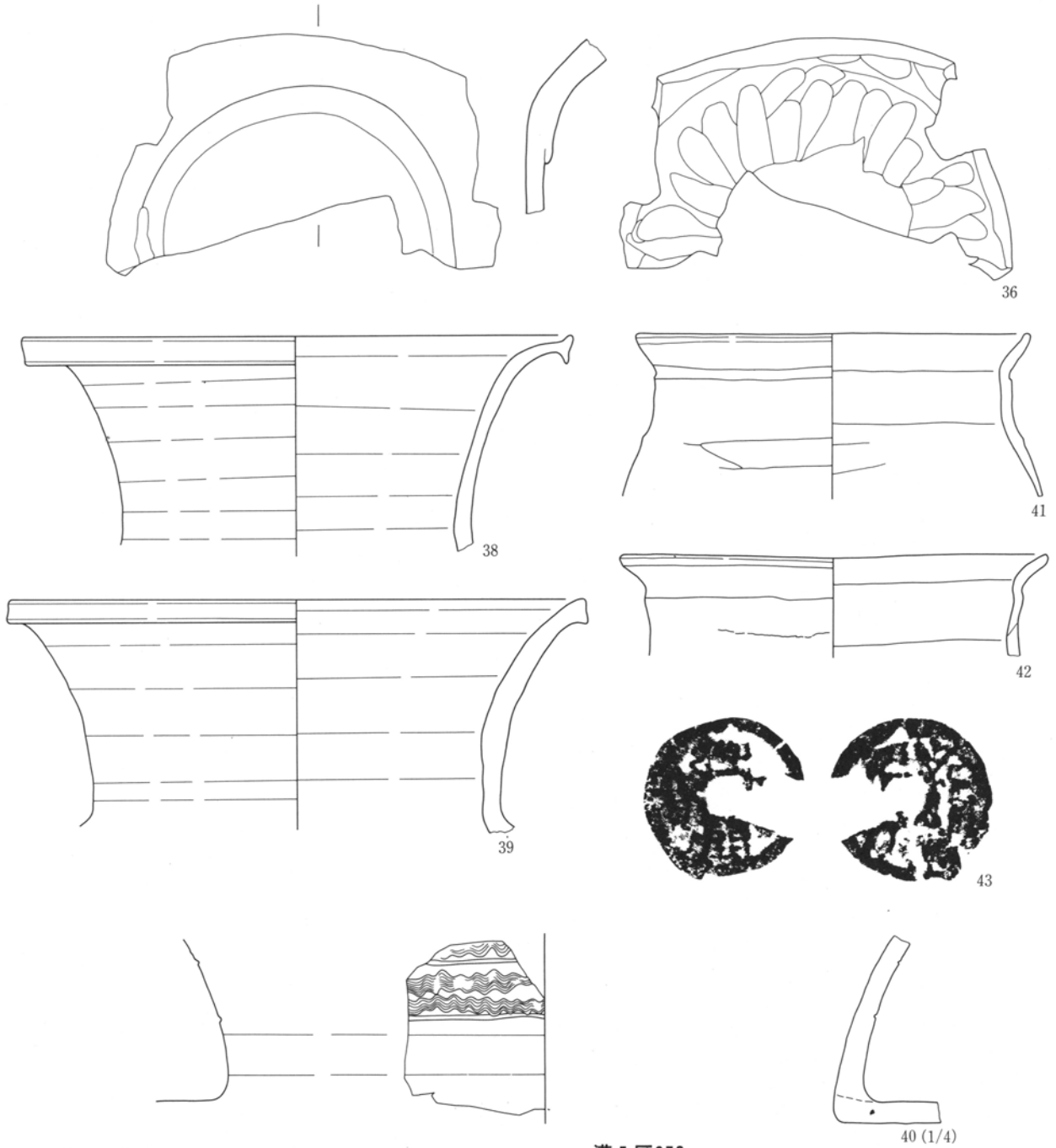
160図 溝 4 区148・5 区48・121・147・154 遺構図



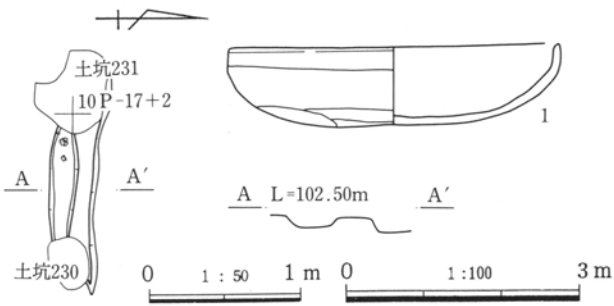
161图 溝5区48 遺物図(1)



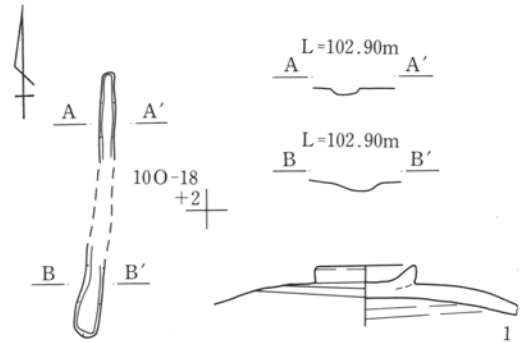
162図 溝5区48 遺物図(2)



溝5区232

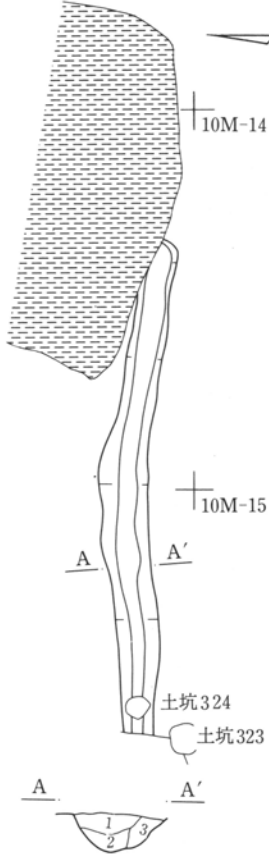


溝5区370



163図 溝5区48 遺物図(3)、溝5区232・370 遺構図・遺物図

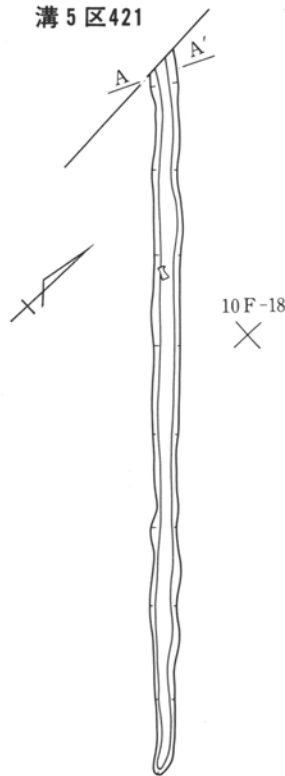
溝 5 区 326



溝 5 区 326 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層主体。As-C 5% 含む。
- 2 黒褐色土 VI層主体。IV層を 20~30% 含む。
- 3 黒褐色土 VII層類似。

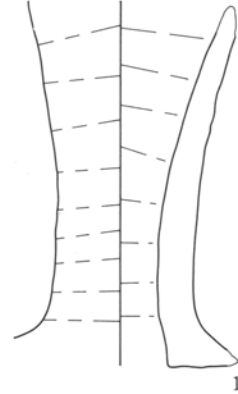
溝 5 区 421



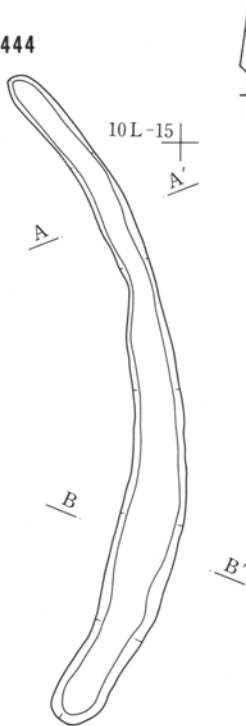
L=102.30m
A A'

溝 5 区 421 土層注記

- 1 褐灰色土 IV層に類似か。As-C を 5% 含む。
- 2 黒褐色土 VI層に類似。VII層が混入。As-C を 1% 含む。

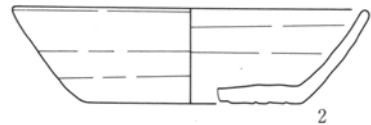


溝 5 区 444



A L=102.50m A'

B L=102.50m B'

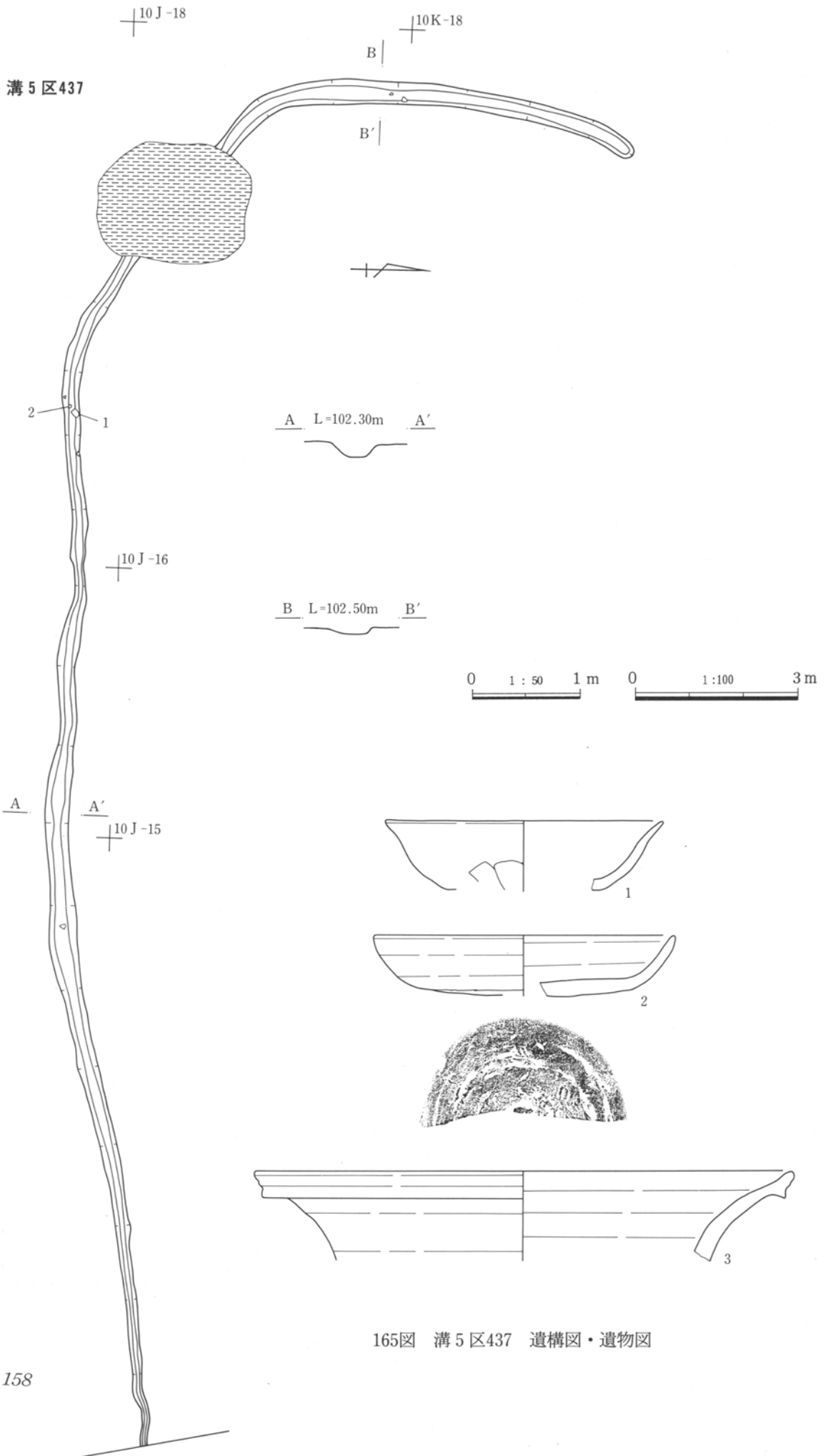


0 1:50 1 m

0 1:100 3 m

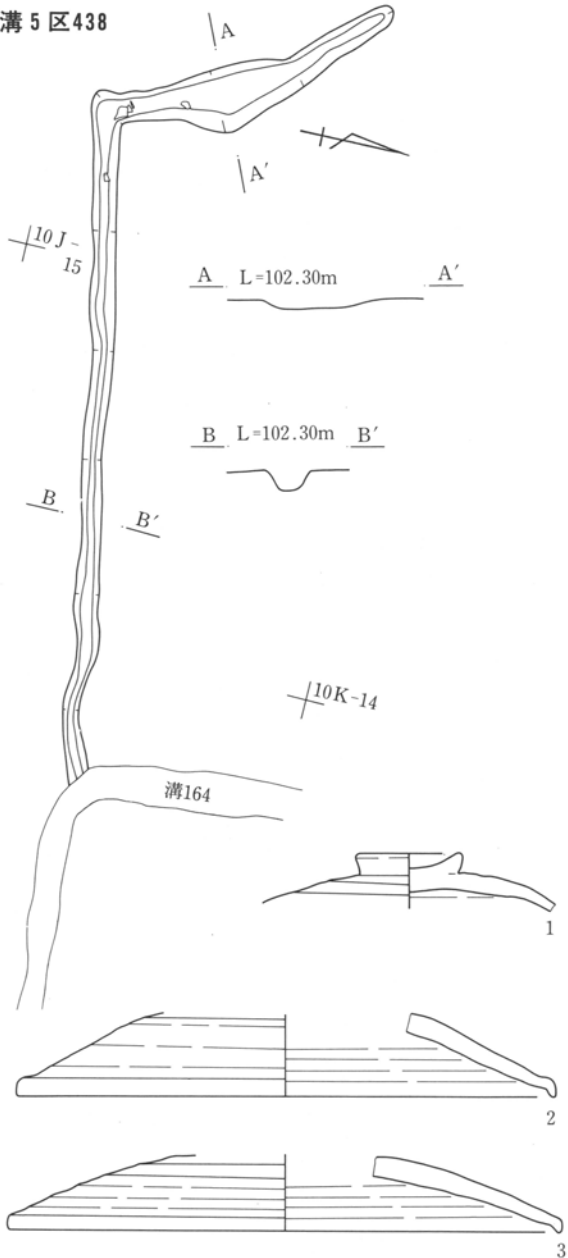
164図 溝 5 区 326・421・444 遺構図・遺物図

溝5区437

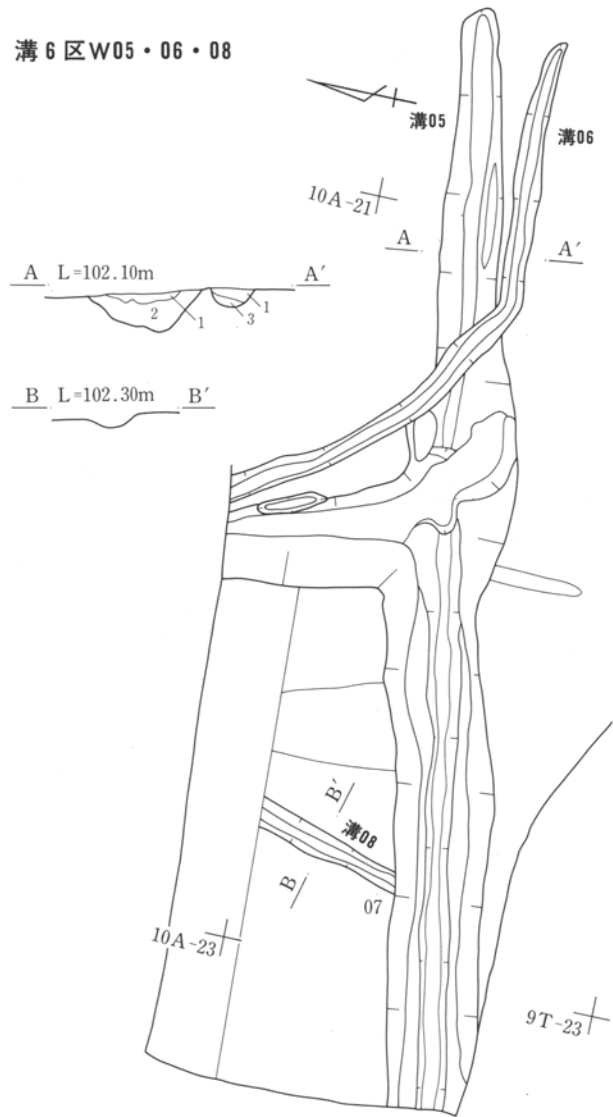


165図 溝5区437 遺構図・遺物図

溝 5 区 438

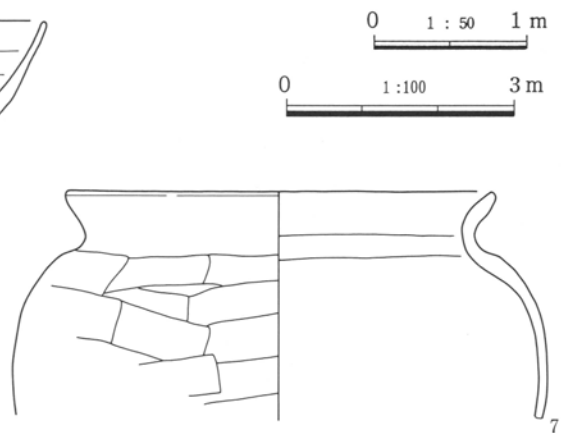
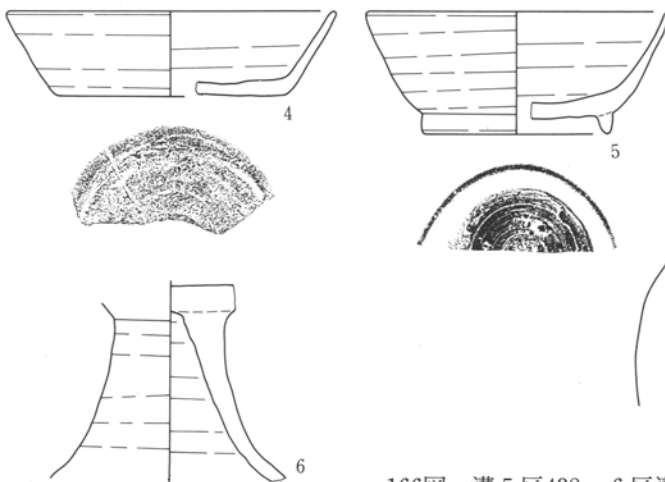


溝 6 区 W05・06・08



溝 6 区 W05・溝 6 区 W06

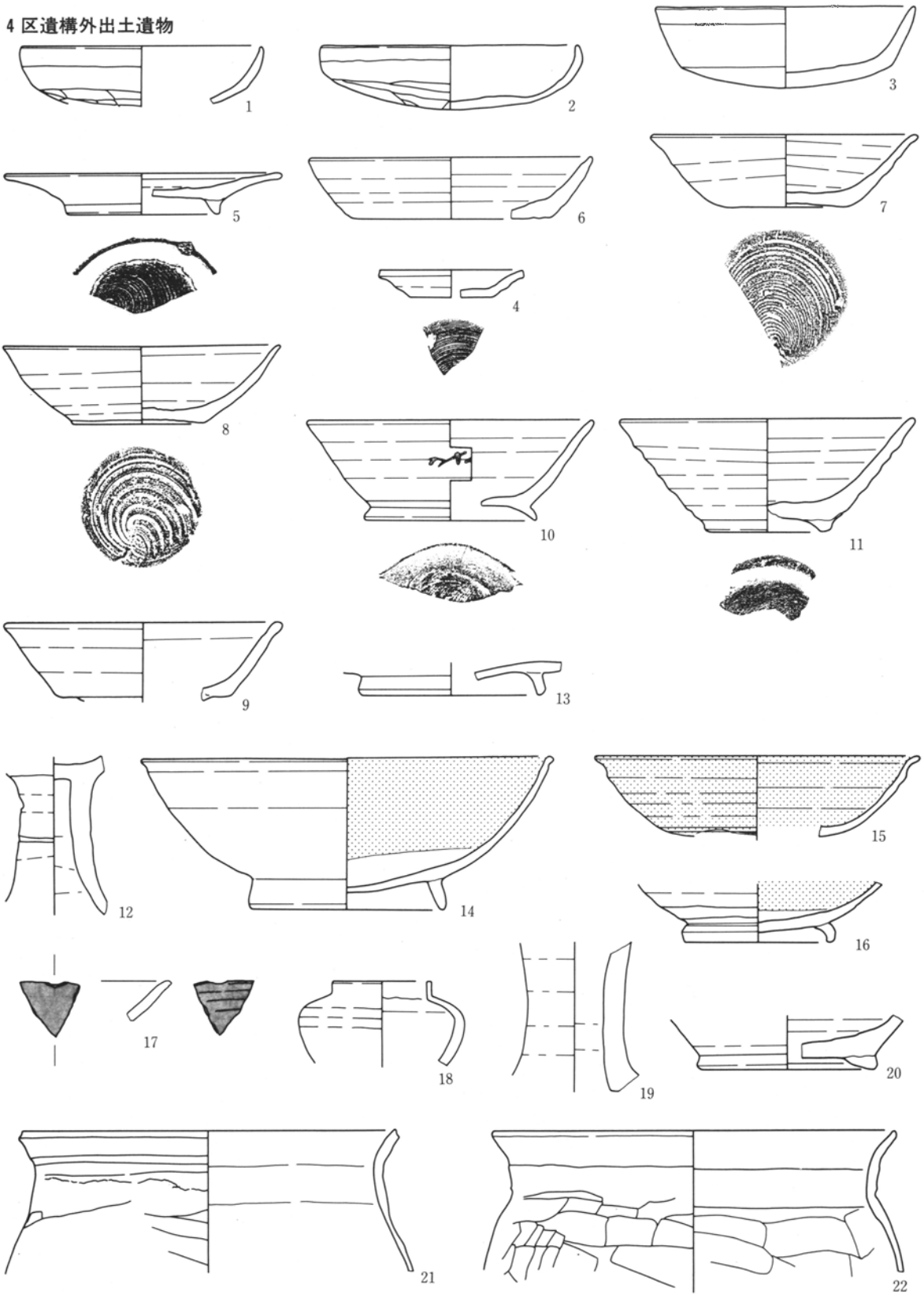
- 1 褐灰色土 粘質土主体。As-B? (砂質土)を40%含む。
- 2 褐灰色土 粘質土主体。As-Cを微量含む。黒褐粘質土ブロックも含む。
- 3 灰褐色土 粘質土主体。2に比べ灰色・橙色強い。



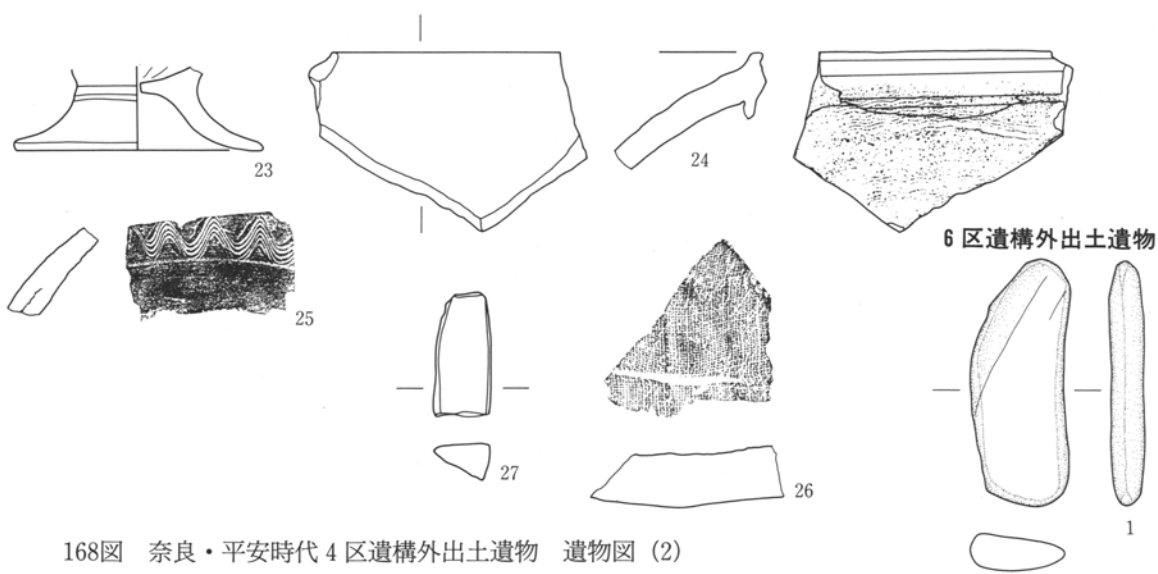
166図 溝 5 区 438・6 区溝 W05・W06・W08 遺構図・遺物図

(7) 遺構外出土遺物

4区遺構外出土遺物



167図 奈良・平安時代4区遺構外出土遺物 遺物図(1)

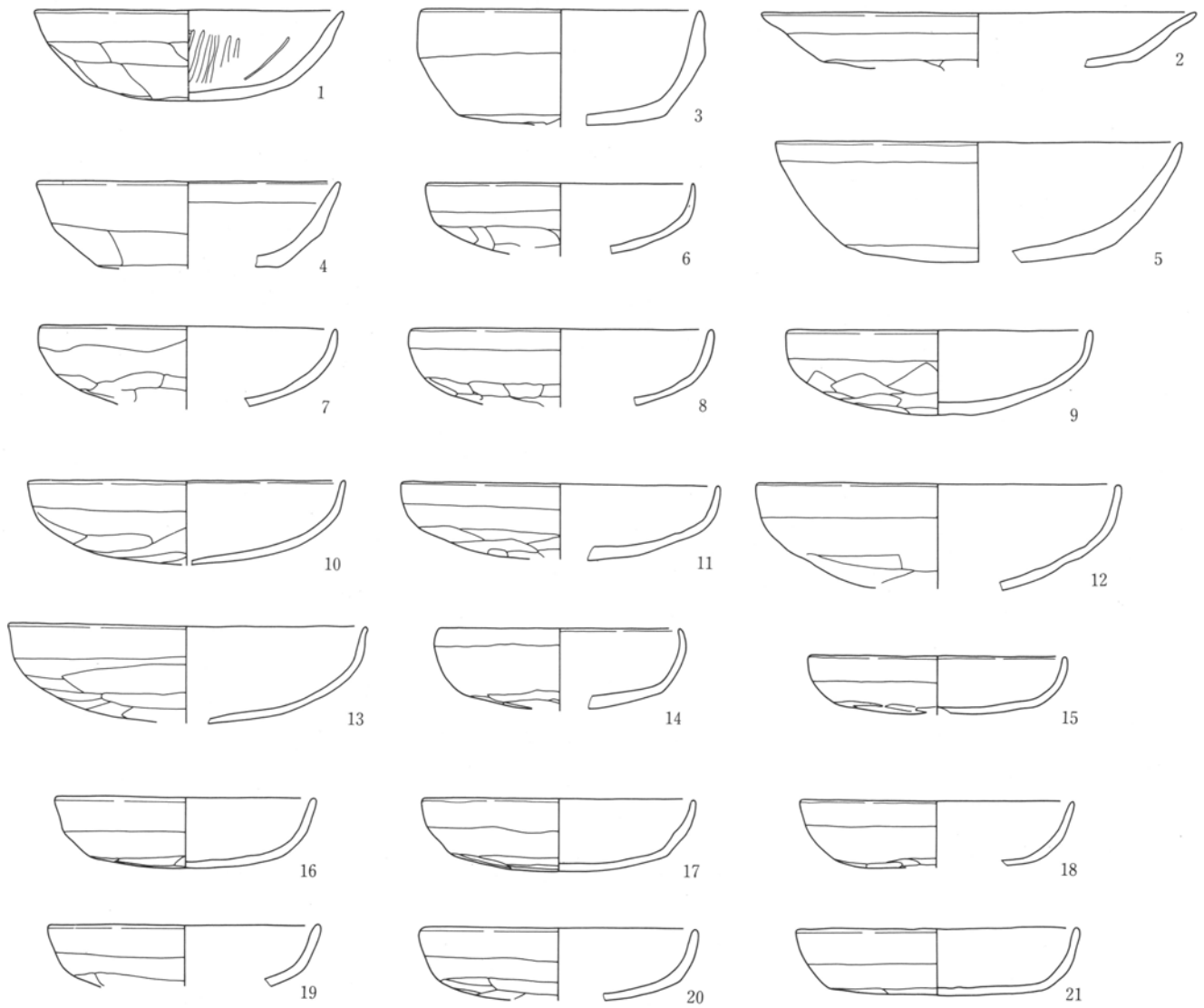


168図 奈良・平安時代4区遺構外出土遺物 遺物図 (2)

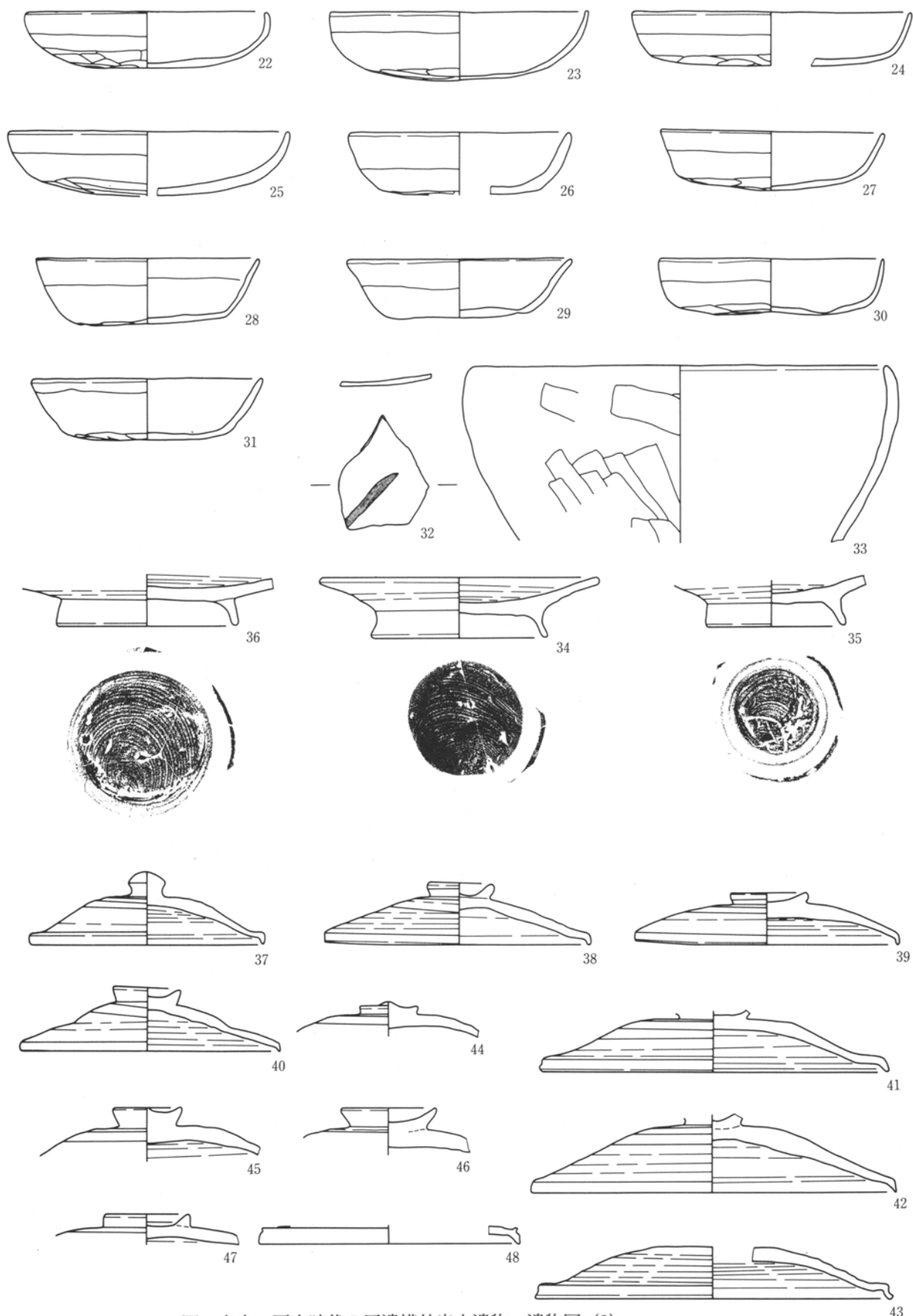
6区遺構外出土遺物

6区遺構外出土遺物 遺物図

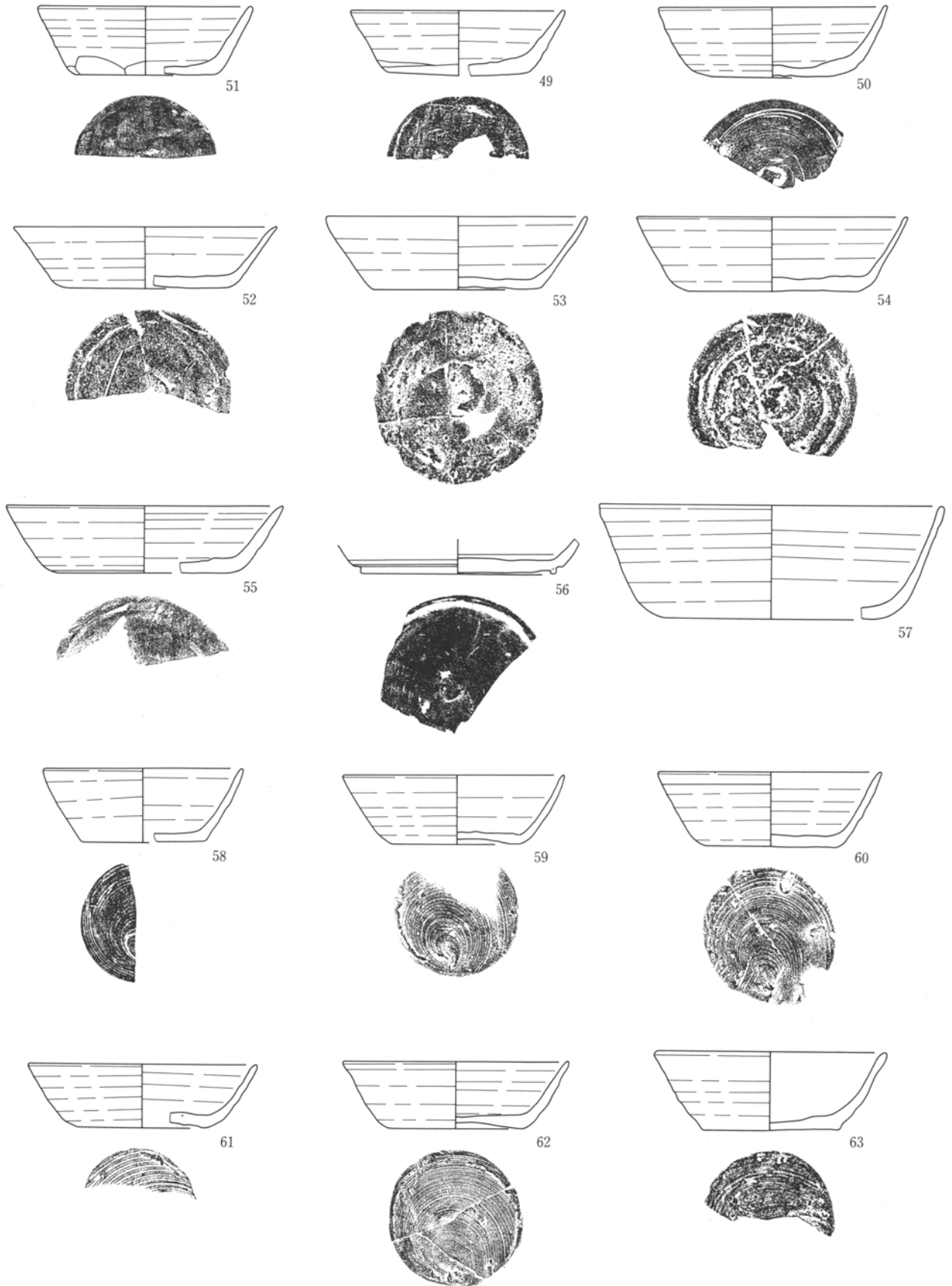
5区遺構外出土遺物



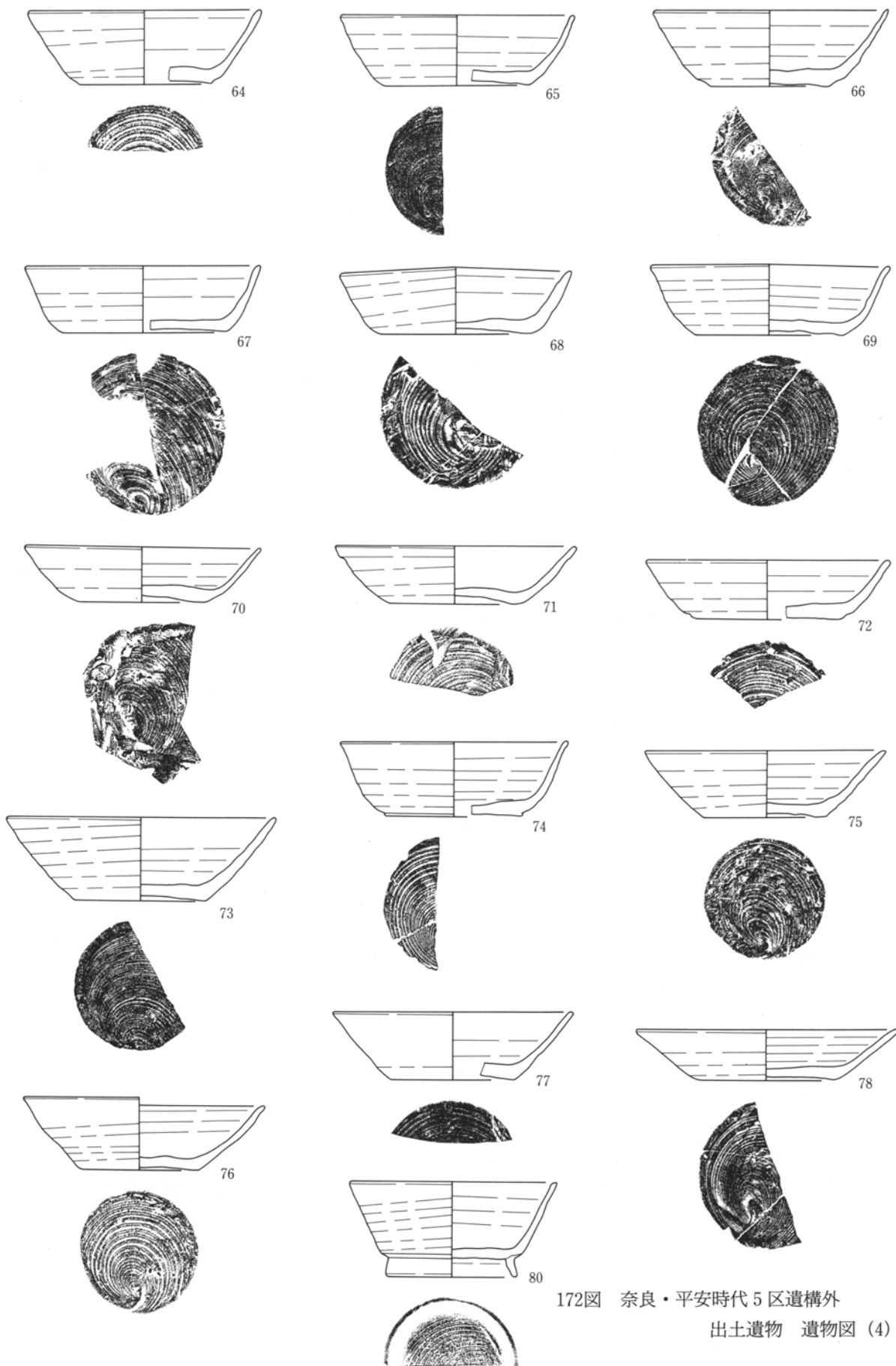
169図 奈良・平安時代5区遺構外出土遺物 遺物図 (1)



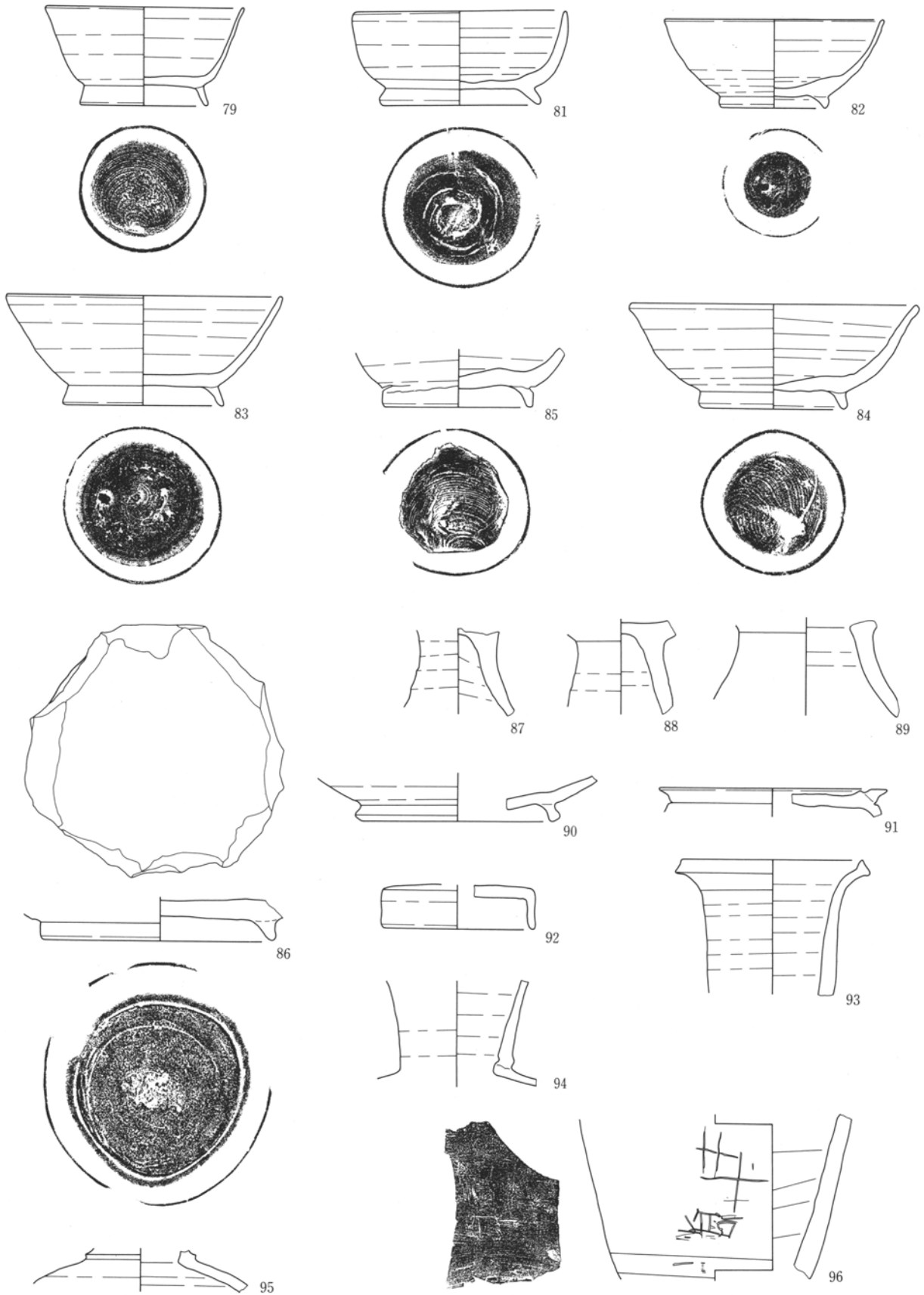
170図 奈良・平安時代5区遺構外出土遺物 遺物図(2)



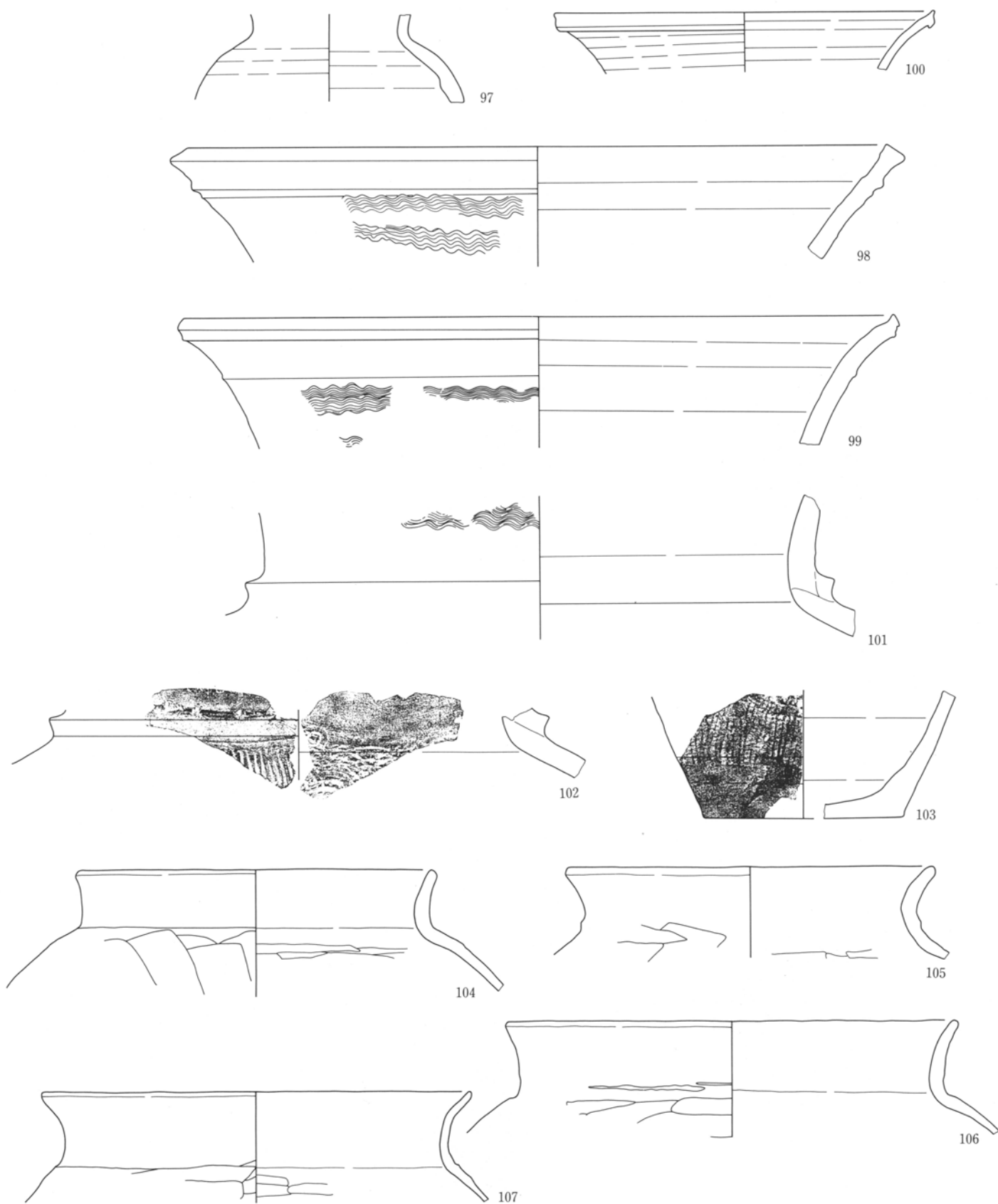
171図 奈良・平安時代5区遺構外出土遺物 遺物図(3)



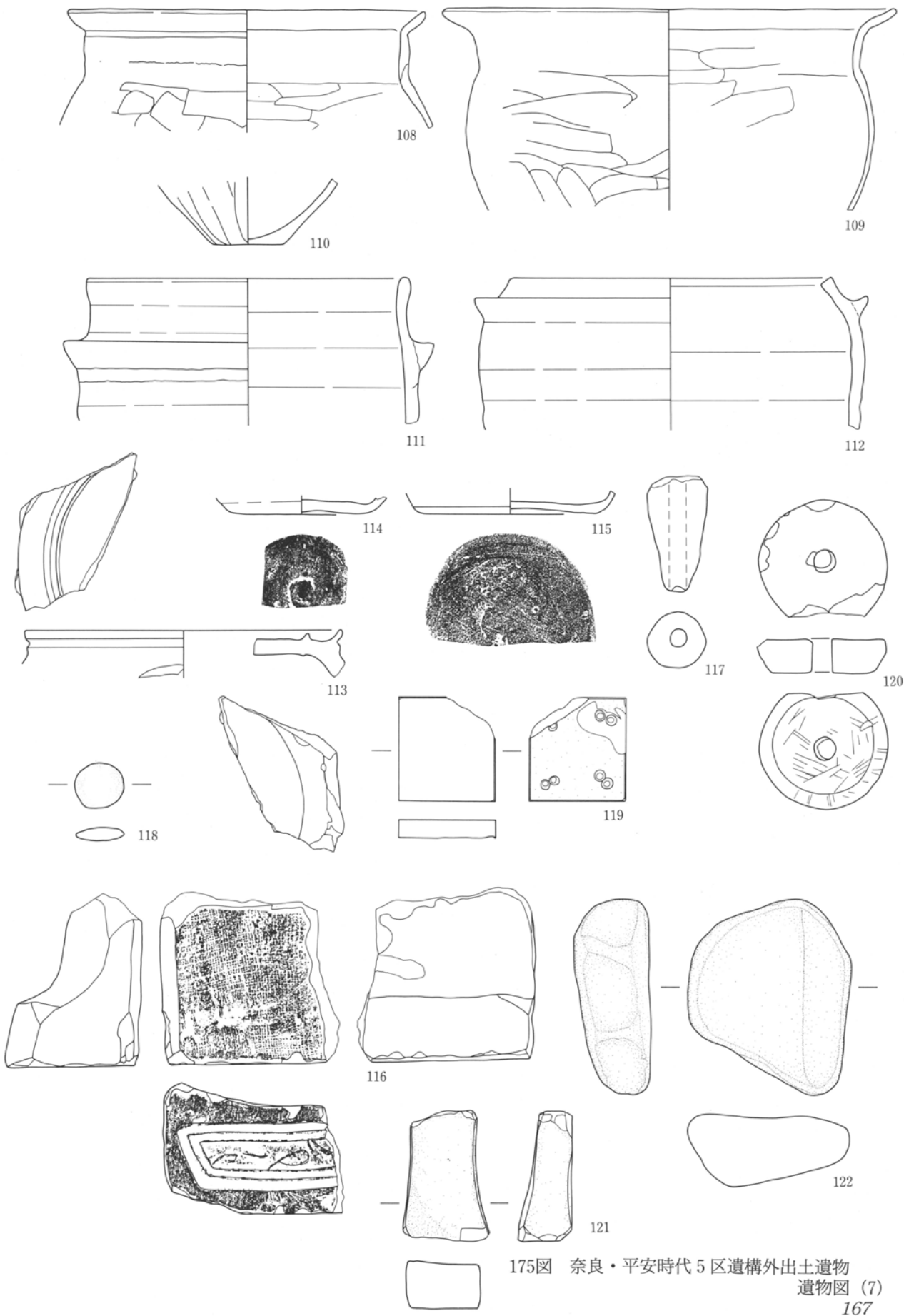
172図 奈良・平安時代5区遺構外
出土遺物 遺物図(4)



173図 奈良・平安時代5区遺構外出土遺物 遺物図(5)



174図 奈良・平安時代5区遺構外出土遺物 遺物図(6)



175図 奈良・平安時代5区遺構外出土遺物
遺物図(7)
167

V 自然科学分析

1. 小八木志志貝戸遺跡出土木材の樹種同定

植田弥生(パレオ・ラボ)

1999年の小八木志志貝戸遺跡4区～6区、小八木井野川遺跡の発掘調査では73点の生材・炭化材が出土した。これらの材については遺跡地での植生、当時の木材の使用状況などを明らかにできる資料であることからその樹種を同定する必要性があった。そのため樹種同定をパレオ・ラボに委託した。その結果が下記のとおりであるが、委託した時点では報告書の刊行は小八木志志貝戸遺跡4区～6区、小八木井野川遺跡について縄文時代から中世まで一括して掲載する予定であったがその後の諸事情によって「小八木志志貝戸遺跡4区・5区中世編・小八木井野川編」と今回の報告に分冊することになった。そのため「樹種同定」についても2000年度に刊行した「小八木志志貝戸遺跡群3」に小八木志志貝戸遺跡4区・5区の中世遺構出土材と小八木井野川遺跡出土材をそして本報告書で4区・5区の奈良平安時代以前の遺構出土材とに分割して掲載する結果になった。そのため材の資料NO.などで一部欠落が生じている。

1. はじめに

当遺跡は高崎市小八木町に所在し、縄文時代から中世に至る様々な遺構が検出されている。ここでは、5区の古墳時代前期の竪穴住居や奈良時代の掘立柱建物、井戸および廃棄遺構から出土した炭や生材の樹種同定結果を報告する。各遺構に伴い出土した炭や木材の樹種を明らかにすることは、当時の木材利用の状況や生活の中で身近な存在であった樹種を知る一助となるものである。

2. 炭化材樹種同定の方法

炭は先ず横断面(木口)を手で割り実体顕微鏡でおおよそ特徴を捉え、分類群の目安をつける。アカガシ亜属・コナラ節・クヌギ節・クリは横断面の管孔配列が特徴的であり、実体顕微鏡下の観察で同定可能であるが、それ以外の分類群については(方向の破断面・横断面・接線断面・放射断面)を走査電子顕微鏡で観察し同定を決定する。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡(日本電子㈱製 JSM-T100型)で観察と写真撮影を行った。

生材の組織標本は、片刃の剃刀を用いて材の横断面(木口)・接線断面(板目)・放射断面(柁目)の3方向を薄く剥ぎ取りスライドガラスの上に並べ、ガムクロラルで封入し永久プレパラートを作成した。光学顕微鏡を用いてこれらの材組織を観察し同定を行った。

3. 結果

18表に同定結果の一覧を示した。また18表では各遺構ごとの検出樹種と点数を示した。今回の調査試料全体からは、針葉樹のモミ属の1分類群、落葉広葉樹のクヌギ節・クリ属・ウツギ属の3分類群、常緑広葉樹のアカガシ亜属の1分類群、そしてタケ亜科(タケ類)も検出された。

以下に同定の根拠とした各分類群の材組織の観察結果を記載する。

(1) モミ属 *Abies* マツ科 P L70 1a-1c(試料No23)

仮道管・放射柔細胞からなり樹脂細胞はない針葉樹材。放射柔細胞の壁は厚く放射断面において接線壁に数珠状肥厚が見られ。分野壁孔は小型のスギ型とヒノキ型、1分野に1～4個。放射組織の細胞高は比較的高い。

(9) コナラ属コナラ亜属クヌギ節 *Q. subgen. Quercus sect. Cerris* ブナ科 P L70 9a-9c(試料No31)

年輪の始めに大型の管孔が配列し、晩材部は厚壁・円形の小型の管孔が単独で放射方向に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、チロースがある。放射組織は同性、単列のもの集合状のものがある。

(10) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 P L71 4a-4c(試料No4)

年輪の始めに大型の管孔が密に配列し、晩材部では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性のみである。

(14) ウツギ *Deutzia crenata* Sieb. et Zucc. ユキノシタ科 P L71 14a-14c(試料No12)

非常に小型の管孔が均一に散在し、径の大きな細胞からなる幅の広い放射組織が特徴的な散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は横棒数が多い階段穿孔。放射組織は異性、1～3細胞幅、細胞高は非常に高い。放射柔細胞は大きいので細胞幅が広く、放射組織の縁には鞘細胞が見られる。

(18) タケ亜科 Gramineae subfam. Bambusoideae イネ科 P L71 18a.(試料No10) 19a(試料No20)

厚みがあり、やや硬質の稈の破片で明瞭な節があり一条の溝がある。維管束は不整中心柱で多数が同心円状に均質に配置している。維管束は向軸側に原生木部、その左右に後生木部の2個の管孔、背軸側に篩部があり、全体としては4から3個の穴の集合に見える。維管束の周りは厚壁の繊維細胞からなる維管束鞘が帽子状にある。稈の外周に位置する維管束鞘は特に厚く発達し、厚壁の繊維細胞だけの塊も島状に密在し、稈を堅く支持している様子がわかる。このような形質からイネ科のタケ類とササ類を含むタケ亜科であり、稈は固く径は太いことからタケ類と同定される。

4. まとめ

全体的にはクリとクヌギ節が圧倒的に多く検出された。クリは、中世の土坑墓・井戸や奈良時代の掘立柱建物柱穴・廃棄・井戸などから検出された。奈良時代と中世の様々な遺構から出土したことから、クリは奈良時代から中世では利用度の高い樹種であったようである。一方、古墳時代前期の住居5区457号から出土した建築材26点はすべてクヌギ節であった。前回報告(「小八木志貝戸遺跡群2 II古墳時代編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団報告第272集)した古墳時代初期の竪穴住居(2区80号遺構)から出土した炭化材52試料の樹種は、クヌギ節が圧倒的に多くほかにクリ・コナラ節・エノキ属が各1～2点ずつ検出されている。従って当遺跡では、奈良時代から中世の様々な遺構からはクリが多く出土するがクヌギ節はあまり検出されないのに対し、古墳時代前記の住居跡からはクヌギ節が圧倒的に優占して出土しクリはあまり検出されない傾向が認められた。クリもクヌギ節も共に建築材や道具類に利用される樹種であることから、クリとクヌギ節は時代により利用頻度が変化した可能性も考えられる。

井戸からは、針葉樹や広葉樹そしてタケ類の複数種の樹種が検出され、 $\phi 1\sim 3$ cmの丸木や加工痕がある破片などが多かった。ウツギ属の枝が居宅井戸5区180号と中世井戸5区45号から検出されたが、経験的な見解ではあるが井戸から出土した植物体の中にウメやモモ核と共に丸木のウツギ属が検出される機会が多いように思える。ウツギ属に属するウツギは、古代より忌み植物として民俗的には扱われてきたそうであり、またウツギの花の咲き具合によりその年の豊作を予想するなど、呪いや水・稲作などとの関連性が深い植物であるようなので、単に井戸周辺に生育していた枝が井戸内に落ちたものではなさそうである。

18表 小八木志志貝戸遺跡出土材の樹種

試料No	調査地区	遺構番号	遺構名	時代	No	材状態	樹種	備考
18	5区	387	掘立柱建物	奈良時代	P 2	生材 木	クリ	
19	5区	60	廃棄	奈良時代	410 木	生材 木	クリ	
20	5区	60	廃棄	奈良時代	415 杭	生材	タケ亜科	タケ類
21	5区	167	掘立柱建物	平安時代	P 6	炭	クヌギ節	
22	5区	180	井戸	奈良時代	1	生材 1	ウツギ属	φ0.8cmほか同径5点あり
23	5区	180	井戸	奈良時代	1	生材 2	モミ属	加工痕?
24	5区	180	井戸	奈良時代	1	生材 3	クリ	加工痕?
25	5区	180	井戸	奈良時代	1	生材 4	クリ	ほか9点あり
26	5区	180	井戸	奈良時代	1	生材 5	モミ属	
27	5区	180	井戸	奈良時代	1	生材 6	モミ属	
28	5区	180	井戸	奈良時代	1	生材 7	モミ属	
29	5区	180	井戸	奈良時代	1	生材 8	アガガシ亜属	
30	5区	457	竪穴住居	古墳時代	1 貯蔵穴	炭	クヌギ節	
31	5区	457	竪穴住居	古墳時代	2 貯蔵穴	炭	クヌギ節	
32	5区	457	竪穴住居	古墳時代	3 貯蔵穴	炭	クヌギ節	
33	5区	457	竪穴住居	古墳時代	13	炭	クヌギ節	
34	5区	457	竪穴住居	古墳時代	14	炭	クヌギ節	
35	5区	457	竪穴住居	古墳時代	15	炭	クヌギ節	
36	5区	457	竪穴住居	古墳時代	16	炭	クヌギ節	
37	5区	457	竪穴住居	古墳時代	17	炭	クヌギ節	
38	5区	457	竪穴住居	古墳時代	18	炭	クヌギ節	
39	5区	457	竪穴住居	古墳時代	19	炭	クヌギ節	
40	5区	457	竪穴住居	古墳時代	20	炭	クヌギ節	
41	5区	457	竪穴住居	古墳時代	21	炭	クヌギ節	
42	5区	457	竪穴住居	古墳時代	22	炭	クヌギ節	
43	5区	457	竪穴住居	古墳時代	24	炭	クヌギ節	
44	5区	457	竪穴住居	古墳時代	25	炭	クヌギ節	
45	5区	457	竪穴住居	古墳時代	26	炭	クヌギ節	
46	5区	457	竪穴住居	古墳時代	27	炭	クヌギ節	
47	5区	457	竪穴住居	古墳時代	28	炭	クヌギ節	
48	5区	457	竪穴住居	古墳時代	29	炭	クヌギ節	
49	5区	457	竪穴住居	古墳時代	30	炭	クヌギ節	
50	5区	457	竪穴住居	古墳時代	31	炭	クヌギ節	
51	5区	457	竪穴住居	古墳時代	32	炭	クヌギ節	
52	5区	457	竪穴住居	古墳時代	33	炭	クヌギ節	
53	5区	457	竪穴住居	古墳時代	34	炭	クヌギ節	
54	5区	457	竪穴住居	古墳時代	39	炭	クヌギ節	
55	5区	457	竪穴住居	古墳時代	43 貯蔵穴	炭	クヌギ節	

VI・おわりに

小八木志志貝戸遺跡はすでに刊行されている報告書によって弥生時代から中世に至る複合遺跡であることが知られている。特に「小八木志志貝戸遺跡群1」で掲載した1区2区調査区を中心とする弥生時代～古墳時代前期にかけての集落、墓域、溝、人形土器。「小八木志志貝戸遺跡群2」で掲載した須恵器大甕を配した古墳など今まで県内でも類例を見ない遺構・遺物を報告している。

今回の報告でもこの周辺では類例の少ない縄文時代の掘立柱建物、円形柱列、古墳時代の火山灰降下後の復旧畠、奈良時代の竪穴住居群、掘立柱建物群など多くの成果があげられる。

特にいままでの調査で比較的希薄であった奈良時代の遺構群が検出され、これらの遺構群が一つの「居宅」遺構としてまとまることになった。この居宅遺構は調査範囲が道路範囲と限定されているため全域を発掘調査することはできなかったが多くの成果を得ることができた。

居宅は「IV 遺構・遺物 5. 奈良平安時代 (1) 居宅」で記したように溝で区画され内部の建物群は3期にわたる変遷が見られる。建物群はそれぞれの期に2棟～3棟以上の建物で構成されておりそれに付随する施設として井戸が設けられている。

これらの内部施設は居宅構築時より各期を経るにしたがい建物の規模や施設の内容が大きく充実したものに变化していることが解っている。

群馬県内では多くの奈良・平安時代の遺跡を発掘調査し、その報告書も刊行されている。しかし、発掘調査された遺跡のうち寺院、東山道、生産遺跡を除いた多くの遺跡が竪穴住居を主体とする集落遺跡である。特に県内の発掘調査では官衙と想定される遺構は古代新田郡衙の一部と推定される新田町天良七堂遺跡、古代群馬郡の八木院の可能性が指摘されている高崎市大八木屋敷遺跡、勢多郡衙の館と推定される前橋市上西原遺跡など僅かに3遺跡が調査されているにすぎない。また、小八木志志貝戸遺跡の

ような居宅遺構も前橋市下東西遺跡や今井道上・道下遺跡、新田町境ヶ谷戸遺跡など数えるほどしか見つかっていない。見つかっている居宅遺構も今井道上・道下遺跡、境ヶ谷戸遺跡は建物と区画溝の一部でしかない。下東西遺跡は全体の東半だけで正殿と考えられる建物は見つかっていない。こうした中で今回の小八木志志貝戸遺跡の居宅は施設の両側は調査範囲外であったが正殿と想定される建物は見つかって大まかな配置も明らかである。そして立地も古代群馬郡八木郷でその郷域も旧中川村という明確に想定される範囲でその範囲の中では最近の開発によって多くの遺跡が発掘調査され多くの成果が上げられているなど古代における地域の復元が比較的容易な地域である。こうした状況については「III 周辺の環境 2. 歴史的環境」に若干記述したが、その中でも古代八木郷では今までの正観寺遺跡群、小八木遺跡、熊野堂遺跡、融通寺遺跡、大八木屋敷遺跡などの成果から郷の中心地は井野川よりの熊野堂遺跡や、融通寺遺跡、大八木屋敷遺跡に想定されていた。しかし、今回の小八木志志貝戸遺跡の成果により8世紀前半には八木郷でも東側地域も単なる集落だけでなく富裕層・富豪層なり中心的施設が存在したことが明らかになった。

今回、検出した居宅は建物や井戸の変遷をみると建て替えを重ねる毎に官衙の様相を取り入れており、この居宅の居住者の経済力が大きなものになったことが解る。しかし、こうした巨大化した勢力も8世紀第3四半期には突如として廃棄されてしまう。こうした廃棄されてしまう背景については今のところ明らかにすることはできないが古代八木郷について復元、そして古代上野の様相について考える上で多大な資料を得られたと考える。

本報告書では紙面や整理期間の関係でこうした成果について言及できなかったが機会を改めて記す予定である。

遺 物 觀 察 表

凡例

1. 土器の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本彩色研究所 監修「標準土色帖」を参照にした。
2. 色調は文字数の関係で「にぶい」は「に」に省略してある。
3. 色調の次項目①～④は遺物の計測値である。

土 器

- ① 口径 ② 底径 ④ 器高
- ③ 高台径、摘み径、胴部最大径、頸部径

石 器

- ① 全長 ② 幅 ③ 厚 ④ 重量

単位はcm、gである。

4. 出土位置のローマ数字は基本的な層位を現わす。
5. 出土位置の+は床面、底面からの高さである。

小八木志貝戸遺跡4 遺物観察表

縄文時代

遺物NO.	挿入NO.	PLNO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
敷石住居2区36														
1	12	44	縄文土器	深鉢	埋没土下部	突起	に黄褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。橋状突起。竹管文が施された隆帯と沈線文。
2	12	44	縄文土器	深鉢	埋甕	胴～底部	に黄褐	5.2				粗砂粒	良好	後期称名寺式期新。胴部渦巻き状沈線文、沈線内縄文R.L。
3	12	44	縄文土器	深鉢	埋没土下部	胴部片	に黄褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈線内縄文R.L。
4	12		縄文土器	深鉢	埋没土下部	胴部片	明黄褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期中。沈線内縄文R.L、竹管文。
5	12		縄文土器	深鉢	埋没土下部	胴部片	に黄褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈線内竹管文。
6	12	44	縄文土器	深鉢	埋没土下部	胴部片	に黄褐					粗砂粒	良好	後期初頭
7	12	44	石器	磨石	埋没土下部	完形		7.8	6.9	6.1	510	粗粒輝石安山岩		敲打痕有り
8	12	44	石器	磨石	埋没土下部	完形		8.1	6.3	4.2	334	変質玄武岩		両面を使用。
9	12	44	石器	凹石	埋没土下部	一部欠		9.8	7.4	4.7	552	粗粒輝石安山岩		上面に浅い凹が1孔。
掘立柱建物2区72														
1	14	44	縄文土器	深鉢	柱穴埋没土	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。口縁部下に凸帯貼付、凸帯に刻み目。
2	14	44	縄文土器	深鉢	柱穴埋没土	口縁部片	明赤褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。口縁部下に凸帯貼付。
3	14	44	縄文土器	深鉢	柱穴埋没土	口縁部片	黒褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。口唇部に2条の沈線、胴部沈線内縄文R.L。
4	14		縄文土器	深鉢	柱穴埋没土	胴部片	明赤褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈線区画内縄文R.L。
配石2区23														
1	18	44	縄文土器	深鉢		頸～胴部	に黄褐					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線文。
2	18		縄文土器	深鉢		胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線渦巻き文。
3	18		縄文土器	深鉢		胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線文。
4	18	44	縄文土器	深鉢		胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線区画内縄文R.L。
5	18		縄文土器	深鉢		胴部片	明黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線文。
6	18		縄文土器	深鉢		胴部片	灰黄褐					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線文。
7	18		縄文土器	深鉢		胴部片	明赤褐					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線区画内縄文R.L。
8	18	44	縄文土器	深鉢		口縁部片	に黄褐					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。口縁部下に縷状凸帯貼付。
9	18	44	縄文土器	深鉢		胴～底部	に橙					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。胴部ヘラ磨き。底部縷状代痕。
10	18	44	縄文土器	深鉢		胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。沈線区画内縄文R.L。
11	18		縄文土器	深鉢		胴部片	明黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。沈線区画内縄文R.L。
12	18	44	石器	鎌		一部欠		2.74	1.61	0.52	1.85	珪質頁岩		基部の両端を欠損。
13	18	44	石器	打製石斧		2/3		9.7	4.8	1.4	114	変質玄武岩		刃部細を欠く。
14	18	44	石器	打製石斧		一部片		3.6	4.3	1.4	27.3	黒色頁岩		基部のみ。
15	19	44	石器	加工痕のある剥片				4.8	8.3	3.1	129	黒色頁岩		
16	18	44	石器	凹石		1/2		6.3	8	5.5	386	粗粒輝石安山岩		大小2の凹有り。
17	19	44	石器	多孔石		表面剥離		20	18.1	12.8	5171	粗粒輝石安山岩		両面を使用。

遺物NO.	挿入NO.	PLNO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
遺物集中2区40														
1	21	45	縄文土器	深鉢		口縁部片	褐灰					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。内外面へラ磨き。
2	21	45	縄文土器	深鉢		胴部片	褐灰					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線区画内縄文R.L。
3	21	45	石器	打製石斧		一部片		6.2	5.9	1.4	56	灰色安山岩		
4	21	45	石器	打製石斧		ほぼ完形		12.6	6.7	2.4	192	黑色頁岩		基部の一部を欠く。
埋藏2区51														
1	23	45	縄文土器	深鉢	底面	口縁～胴	に黄橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期古。口縁部下凸帯。胴部沈線区画内縄文R.L。
埋藏4区228														
1	24	45	縄文土器	深鉢	底面	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期加曾利E式期。隆帯区画内縄文R.L。
埋藏5区464														
1	25	45	石器	磨石	+50	1/2		9.2	10	4.7	577	粗粒輝石安山岩		上面を使用。
2	25	45	石器	凹石	+40	一部欠		9	8.6	6.7	624	粗粒輝石安山岩		新旧関係のある2孔あり。
埋藏5区563														
1	27	45	縄文土器	深鉢	底面	1/6	に黄褐	46				粗砂粒	良好	後期称名寺式期、沈線区画内縄文R.L。
土坑2区112														
1	30	45	縄文土器	深鉢	+33	口縁部片	暗灰黄					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。隆帯文、沈線区画内縄文R.L。
2	30	45	縄文土器	深鉢	+33	口縁部片	に橙					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅣ式期。隆帯文、縄文R.L。
3	30	45	縄文土器	深鉢	埋没土	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期中葉。沈線区画内縄文R.L。
4	30	45	縄文土器	深鉢	埋没土	口縁部片	に橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期中葉。沈線区画内縄文R.L。
5	30	45	縄文土器	深鉢	+37	口～胴部	に黄橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期後半。沈線区画内縄文R.L。
6	30	45	縄文土器	深鉢	埋没土	胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈線区画内縄文R.L。
7	30	45	石器	鎌	埋没土	完形		2.50	1.73	0.39	1.61	黑色安山岩		
8	30	45	石器	石核	埋没土			1.30	2.48	0.87	2.65	黒曜石		
9	30	45	石器	石核	+63			2.72	1.85	1.26	6.24	黒曜石		
土坑4区184														
1	31		縄文土器	深鉢	+14	胴部片	に橙					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。隆帯文内縄文L R。
2	31		縄文土器	深鉢	埋没土	胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈線区画内縄文R.L、竹管文。
土坑4区186														
1	31		縄文土器	深鉢	埋没土	胴部片	に橙					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。沈線区画内縄文L R。
2	31	45	縄文土器	深鉢	埋没土	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期中葉。沈線区画内縄文R.L。
土坑4区222														
1	31	46	石器	石核	+14			6.3	7.5	3.8	147	珪質頁岩		
土坑4区223														
1	31		縄文土器	深鉢	埋没土	胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線区画内縄文R.L。

遺物NO.	挿図NO.	PL NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
土坑4区231														
1	-	46	石器	剥片	埋没土			6.6	4.8	3	103	黒曜石		
2	-	46	石器	剥片	埋没土			4.1	2.8	2.6	34	黒曜石		
3	-	46	石器	剥片	埋没土			3.6	3.5	2.4	29	黒曜石		
土坑4区242														
1	32		縄文土器	深鉢	埋没土	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期新。
土坑4区264														
1	32	46	石器	石核	埋没土			4.2	3.1	1.3	16.5	チャート		
土坑4区251														
1	32	46	縄文土器	深鉢	埋没土	口縁部片	褐灰					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。沈線区画内縄文R.L。
土坑4区252														
1	32		縄文土器	深鉢	埋没土	口縁部片	に橙					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。隆帯文内縄文R.L。
2	32		縄文土器	深鉢	埋没土	口縁部片	褐灰					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。隆帯文内縄文R.L。
土坑4区253														
1	32		縄文土器	深鉢	埋没土	胴部片	褐灰					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。渦巻き文、文様間縄文R.L。
土坑5区486														
1	34	46	縄文土器	深鉢	埋没土	突起片	に黄橙					粗砂粒	良好	加曾利EⅢ式期。
土坑5区519														
1	34	46	石製品	石棒	埋没土	下位片	に黄橙	14.2	7.1	6.4	1045	閃緑岩		端部に敲打痕あり。
土坑5区559														
1	34	46	縄文土器	深鉢	埋没土	口縁部片	褐灰					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。
2区遺構外														
1	36	46	縄文土器	深鉢	敷石住居36	胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。縄文R.L。
2	36		縄文土器	深鉢	敷石住居36	胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。縄文R.L。
3	36	46	縄文土器	深鉢	配石23	胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。縄文R.L。沈線区画内縄文R.L。
4	36	46	縄文土器	深鉢	11S-22	突起片	に黄橙					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅣ式期。縄文R.L。
5	36	46	縄文土器	深鉢	敷石住居36	胴部片	浅黄橙					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅣ式期。隆帯文内縄文R.L。
6	36		縄文土器	深鉢	敷石住居36	胴部片	褐灰					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅣ式期。隆帯文内縄文R.L。
7	36	46	縄文土器	浅鉢	12B-20	口縁部片	褐灰					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈線区画内縄文R.L。
8	36	46	縄文土器	浅鉢	古墳住居62	口縁部片	暗灰黄					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈線区画内竹管文。
9	36	46	縄文土器	深鉢	12D-23	突起片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。側面に沈線文。
10	36	46	縄文土器	深鉢	古墳集中56	突起片	に黄褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈線文と竹管文。
11	37	46	縄文土器	深鉢	古代住居09	突起片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。
12	37	46	縄文土器	注口土器	古墳古墳66	胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。
13	37	46	縄文土器	深鉢	12B-20	胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈線区画内縄文R.L。

遺物NO.	挿圖NO.	PL.NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
14	37		縄文土器	深鉢	弥生廃棄97	胴部片	灰黄褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈線区画内縄文R.L。
15	37	46	縄文土器	深鉢	古墳住居18	突起片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期中葉。
16	37	46	縄文土器	深鉢	古墳住居19	突起片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期中葉。
17	37	46	縄文土器	深鉢	古墳住居111	口縁部片	暗灰黄					粗砂粒	良好	後期称名寺式期中葉。沈線文。
18	37	46	縄文土器	浅鉢	弥生廃棄97	突起片	明赤褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期新。
19	37	47	縄文土器	浅鉢	弥生廃棄101	突起片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期新。
20	37	47	縄文土器	深鉢	12G-21	突起片	褐灰					粗砂粒	良好	後期称名寺式期新。
21	37		縄文土器	深鉢	弥生廃棄101	胴部片	に橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期新～堀之内1式期。
22	37	47	縄文土器	注口土器	古墳古墳66	胴部片	に橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。胴部沈線文。
23	37	47	縄文土器	深鉢	12B-19	突起片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。胴部沈線文。
24	37	47	縄文土器	浅鉢	弥生廃棄101	突起片	明赤褐					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。
25	37	47	縄文土器	浅鉢	古墳集中56	突起片	暗灰黄					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。
26	38	47	縄文土器	浅鉢	弥生廃棄101	口縁部片	に橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。2条の沈線文間竹管文。
27	37	47	縄文土器	深鉢	古墳住居13	口縁部片	褐灰					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。突起上半欠落。
28	38	47	縄文土器	深鉢	敷石住居36	口～胴部	褐灰					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線文。
29	37	47	縄文土器	深鉢	古墳古墳66	口縁部片	に橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。
30	38	47	縄文土器	深鉢	弥生廃棄101	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。
31	38	47	縄文土器	浅鉢	古墳古墳66	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。
32	38	47	縄文土器	深鉢	近世溝01	口縁部片	褐灰					粗砂粒	良好	後期堀之内式期。口唇部沈線文と竹管文。
33	38	47	縄文土器	深鉢	11S-21	胴部片	褐灰					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線文。
34	38	47	縄文土器	深鉢	古墳集中56	胴部片	に橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線区画内縄文L.R。
35	38	47	縄文土器	深鉢	古墳集中56	胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線区画内縄文L.R。
36	38	47	縄文土器	深鉢	11S-22	胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。胴部渦巻き文。
37	38	47	縄文土器	深鉢	古墳住居18	胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。胴部沈線文。
38	38	47	縄文土器	深鉢	11S-18	胴部片	明赤褐					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線区画内縄文R.L。
39	38	47	縄文土器	深鉢	II層	胴部片	明赤褐					粗砂粒	良好	後期堀之内式期古。胴部列点刺突文。
40	38	47	縄文土器	浅鉢	弥生廃棄101	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内式期。口縁部沈線文。
41	38	47	縄文土器	深鉢	弥生住居15	突起片	に黄褐					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期(1式期新)。突起隆帯貼付。
42	38		縄文土器	深鉢	古墳住居87	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。
43	39	47	縄文土器	浅鉢	12B-20	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。口縁部内面沈線文。
44	38	47	縄文土器	浅鉢	11S-20	口縁部片	褐灰					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。
45	39	47	縄文土器	深鉢	II層	口～胴部	褐灰					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。沈線区画内縄文R.L。
46	39	47	縄文土器	深鉢	11S-20	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。口唇部刻み目文。口縁部新鮮区画内縄文R.L。
47	39		縄文土器	深鉢	敷石住居36	胴部片	黒褐					粗砂粒	良好	後期堀之内式期。胴部沈線文。
48	39	48	石製品	装身具		1/3		3.4	1.4	1.1	7	変玄武岩		非常に研磨されている

遺物NO.	挿入NO.	PL NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	整形の特徴
49	39	48	石製品	石棒	古墳古墳66	1/2		12.3	6.9	6.3	627	緑色片岩	下部下半を欠く。
50	39	48	石製品	石棒	2区	中位片		14.6	6	4.2	728	緑色片岩	側面に2カ所の凹、折断面に敲打痕有り。
51	39	48	石製品	石棒	古墳住居20	下位片		5.3	3.3	2.9	93	緑色片岩	端部に敲打痕有り。
52	39	48	石製品	石棒	11S-19	小片		8.3	8.5	4.2	490	緑色片岩	下部の一部。
53	39	48	石器	鏃	古墳古墳66	完形		2.11	1.76	0.26	0.70	黒曜石	
54	39	48	石器	鏃	古墳古墳66	一部欠		1.50	1.27	0.28	0.71	チャート	先端部を欠く。
55	39	48	石器	槍	弥生住居100	一部片		4.12	1.82	0.62	4.10	珪質頁岩	先端部と基部の大半を欠く。
56	39	48	石器	鏃	11S-21	一部欠		1.68	1.79	0.34	1.30	黒色安山岩	先端部を僅かに欠く。
57	40	48	石器	スクレーパー	11S-22	完形		5.3	7.3	1.3	52	黒色頁岩	
58	39	48	石器	スクレーパー	12K-21	一部欠		7.1	7.3	2.2	130	黒色頁岩	刃部欠損。
59	40	48	石器	スクレーパー	2区	完形		7.1	3.8	1.2	43	黒色頁岩	
60	40	48	石器	スクレーパー	近世昌03	完形		8.7	7.6	2.1	150	珪質頁岩	
61	40	48	石器	スクレーパー	2区	完形		6.2	1.6	1.1	65	珪質頁岩	
62	40	48	石器	スクレーパー	弥生廃棄97	完形		5.9	5.1	1.2	56	頁岩	
63	40	48	石器	くさび形	弥生廃棄101	完形		3.06	1.90	0.70	4.70	チャート	
64	40	48	石器	打製石斧	中世土坑34	完形		10.4	6.4	2.2	174	黒色頁岩	
65	40	48	石器	打製石斧	弥生竪穴67	一部片		4.7	3.8	1.2	29	黒色頁岩	両端を欠く。
66	40	48	石器	打製石斧	12B-20	1/2		6.5	5.0	1.7	20	黒色頁岩	上半を欠く。
67	40	48	石器	打製石斧	12J-23	1/2		4.8	4.9	2.7	48	黒色頁岩	上半を欠く。
68	40	48	石器	打製石斧	2区	一部片		1.9	5.2	1.2	29	黒色頁岩	中位の一部片。
69	41	48	石器	打製石斧	12F-19	一部片		49	4.1	1.6	36	黒色頁岩	両端を欠く。
70	41	48	石器	打製石斧	弥生廃棄101	1/2		6.3	5.5	2.8	103	黒色頁岩	上半を欠く。
71	41	48	石器	打製石斧	弥生竪穴100	1/2		6.8	6.6	2.3	122	頁岩	上半を欠く。
72	41	48	石器	打製石斧	弥生竪穴15	1/3		5.2	6.4	1.1	48	細粒輝石安山岩	上半を欠く。
73	41	48	石器	打製石斧	弥生廃棄101	1/3		6.3	6.9	1.0	61	細粒輝石安山岩	上半を欠く。
74	41	48	石器	打製石斧	12E-21	1/2		6.3	6.1	2.0	101	硬質泥岩	上半を欠く。
75	41	48	石器	使用痕のある石器	12E-21	完形		6.99	2.50	1.01	18	珪質頁岩	
76	41	48	石器	石核	2区			3.3	4.7	5.9	31	黒曜石	
77	41	48	石器	石核	古墳竪穴65			6.1	4.6	3.5	114	硬質泥岩	
78	41	48	石器	石核	古墳竪穴80			7.2	6.7	3.3	163	頁岩	
79	42	48	石器	磨石	12L-25	完形		10.5	4.6	2.3	187	かんらん岩	端部に小凹あり、擦り面に割痕あり。
80	42	48	石器	磨石	古墳土器105	完形		9.3	7.2	2.7	283	砂岩	周辺部に敲打痕有り。
81	42	48	石器	磨石	11R-20	3/4		10.1	8.2	4.2	557	粗粒輝石安山岩	両面を使用。
82	42	49	石器	磨石	12D-20VI	3/4		10.5	6	2.4	290	ホルンフェルス	側面に敲打痕有り。
83	42	49	石器	凹石	11S-18VII	完形		8.3	4.5	4.1	283	粗粒輝石安山岩	上面に浅い凹。

遺物NO.	挿入NO.	PL NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
84	42	49	石器	凹石	平安住居09	完形		10.5	9	6.5	969	粗粒輝石安山岩	焼成	両面に凹が各1。
85	42	49	石器	凹石	12Q-23	完形		8.6	6.5	4.3	377	粗粒輝石安山岩		上面に小凹が5カ所。
86	42	49	石器	凹石	古墳土器105	完形		13.1	6.7	3.5	516	粗粒輝石安山岩		側面に敲打痕有り。
87	42	49	石器	凹石	弥生住居15	2/3		15.5	8.5	3.5	919	閃緑岩		側面に敲打痕有り。
88	43	49	石器	凹石	古墳住居18	2/3		14	15.3	5.3	1034	粗粒輝石安山岩		両面に凹が各1。
89	43	49	石器	多孔石	古墳住居87	一部欠		23.6	11.7	12.4	4060	粗粒輝石安山岩		2面を使用
90	43	49	石器	多孔石	Ⅷ層	ほぼ完形		24	13	6.1	2964	粗粒輝石安山岩		上面のみを使用
91	43	49	石器	多孔石	2区	一部欠		24.8	13.8	9.7	4400	粗粒輝石安山岩		両面を使用
92	-	49	磔	棒状	古墳住居68	完形		9.3	2.8	1.4	65	黒色片岩		両端部に敲打痕有り。
93	-	49	磔	棒状	古墳住居61	完形		17.7	4	3	429	緑色片岩		両端部に敲打痕有り。
94	-	49	磔	短冊状	12G-20	一部欠		6.7	2.5	1.1	26	緑色片岩		端部に敲打痕有り。
95	-	49	磔	短冊状	12R-24	一部欠		7.5	2.6	1.3	38	黒色片岩		端部に磨り痕有り。
96	-	49	磔	短冊状	12E-21Ⅱ	1/2		9.4	4.7	1.4	85	黒色片岩		磨り痕有り。
97	-	49	磔	短冊状	古墳古墳66	一部欠		9.6	6.6	2.1	220	黒色片岩		端部に敲打痕有り。
98	-	49	磔	短冊状	古墳古墳66	一部欠		10.6	4.9	2.1	150	黒色片岩		端部に敲打痕有り。
99	-	49	磔	短冊状	12J-23	完形		11.8	4.8	2.1	172	黒色片岩		両端部に敲打痕有り。
100	-	49	磔	短冊状	2区	完形		16.5	9.5	2.6	592	黒色片岩		端部に敲打痕有り。
101	-	49	磔	円状か	2区	一部片		7	5.3	2.3	131	黒色片岩		端部に敲打痕有り。
4区遺構外														
1	44	49	縄文土器	深鉢	古代溝114	口縁部片	に黄褐	28.8				粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。沈線区画内縄文R.L。
2	44	49	縄文土器	深鉢	古代溝114	口縁部片	浅黄橙					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。沈線区画内縄文R.L。
3	44	49	縄文土器	深鉢	弥生土坑307	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。沈線区画内縄文R.L。
4	44	49	縄文土器	深鉢	11J-16	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。沈線区画内縄文R.L。
5	44	49	縄文土器	深鉢	11I-18	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。区画内縄文L.R。
6	44	49	縄文土器	深鉢	近世削平31	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。区画内縄文L.R。
7	44	49	縄文土器	深鉢	表土	胴部片	に褐					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。隆帯区画内縄文R.L。
8	44	49	縄文土器	深鉢	中世墓坑185	胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。沈線区画内縄文R.L。
9	44	49	縄文土器	深鉢	不明溝277	胴部片	に黄褐					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。縄文R.L。
10	44	49	縄文土器	深鉢	風倒木294	胴部片	明赤褐					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。沈線区画内縄文R.L。
11	44	49	縄文土器	深鉢	表土	胴部片	明赤褐					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。沈線区画内縄文R.L。
12	45	49	縄文土器	深鉢	近世削平31	口~胴部	に黄橙	23				粗砂粒	良好	中期加曾利EⅣ式期。沈線区画内・突起縄文R.L。
13	44	50	縄文土器	深鉢	風倒木294	口縁部片	に黄褐					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅣ式期。沈線区画内縄文R.L。
14	45	50	縄文土器	深鉢	弥生土坑307	胴部片	褐灰					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅣ式期。突起欠落。
15	45	50	縄文土器	深鉢	近世土坑74	胴部片	明黄褐					粗砂粒	良好	中期加曾利E式期。沈線区画内縄文R.L。
16	45	50	縄文土器	深鉢	近世土坑74	胴部片	明黄褐					粗砂粒	良好	中期加曾利E式期。沈線区画内縄文R.L。

遺物NO.	挿図NO.	PL NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
17	45		縄文土器	深鉢	近世削平31	突起片	に黄褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。
18	45		縄文土器	深鉢	11H-19	突起片	に黄褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。
19	45		縄文土器	深鉢	11R-20	胴部片	浅黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線区画内縄文R.L。
20	45		縄文土器	浅鉢	11D-18	口縁部片	に褐					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。口唇部に1条の沈線。胴部へラ磨き。
21	45	50	縄文土器	浅鉢	11D-16	胴部片	明赤褐					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。頸部に竹管文、胴部沈線区画内縄文R.L。
22	45	50	縄文土器	深鉢	11D-17	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。口唇部沈線文。北陸系土器。
23	46	50	縄文土器	深鉢	11E-17	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。沈線区画内縄文R.L。
24	46		縄文土器	深鉢	11I-20	突起片	に橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。
25	46	50	縄文土器	深鉢	古代溝114	胴部片	明黄褐					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線区画内縄文R.L。
26	46	50	縄文土器	深鉢	中世火葬25	胴部片	浅黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線区画内縄文L.R。
27	46		縄文土器	深鉢	近世削平31	胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。隆帯に刻み目文。
28	46		縄文土器	深鉢	不明土坑272	胴部片	浅黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線間縄文L.R。
29	46		縄文土器	深鉢	不明土坑312	胴部片	に橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線区画内R.L。
30	46	50	縄文土器	深鉢	11P-22	胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線文、縄文R.L。
31	46		縄文土器	深鉢	11E-18	胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線文。
32	46		縄文土器	深鉢	古墳古墳105	胴部片	明黄褐					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。沈線文。
33	46	50	縄文土器	深鉢	中世溝02	突起片	褐灰					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。
34	46	50	縄文土器	深鉢	奈良溝03	口縁部片	浅黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。沈線区画内縄文R.L。
35	46	50	縄文土器	深鉢	中世溝02	底部片	黒褐					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。沈線文。
36	46	50	縄文土器	深鉢	中世溝02	胴部片	浅黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。沈線区画内縄文R.L。
37	46	50	縄文土器	深鉢	中世溝02	胴部片	褐灰					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。沈線区画内縄文R.L。
38	46	50	縄文土器	深鉢	古墳土坑249	口縁部片	に黄橙	32.0				粗砂粒	良好	後期加曾利B1式期。沈線区画内縄文L.R。
39	47	50	石器	磨製石斧	11I-18II	1/2		8.6	5.3	1.4	92	変玄武岩		上端を欠く。
40	47	50	石器	磨製石斧	11C-16II	1/3		7.3	3.6	1.7	79	変玄武岩		刃部欠損。
41	47	50	石器	鎌	11I-20	2/3		3.59	2.15	0.49	2.8	黒色安山岩		先端部を欠く。
42	47	50	石器	打製石斧	中世土坑40	2/3		7.8	4.3	2.2	11.3	黒色頁岩		刃部側を欠く。
43	47	50	石器	打製石斧	平安戸井66	完形		13.6	7.3	1.8	216	頁岩		
44	47	50	石器	打製石斧	11G-18	ほぼ完形		10.5	5.7	7.3	134	頁岩		
45	47	50	石器	打製石斧	11Q-18	1/2		7.7	5.9	2.7	127	硬質泥岩		上半を欠く。
46	47	50	石器	石核	11J-19	完形		1.72	1.67	0.60	1.8	黒曜石		
47	48	50	石器	加工痕のある剥片	古墳住居226			2.68	4.93	1.43	10.5	珪質頁岩		
48	48	50	石器	加工痕のある剥片	古墳古墳105			5.5	5.4	2.6	76	ホルンフェルス		
49	48	51	石器	石皿	4区	1/4		15.4	134	3.5	1116	粗粒輝石安山岩		中央部は周囲より1cmほど低い。
50	48	50	石器	磨石	11R-19IV	完形		6.1	5.4	3.8	152	粗粒輝石安山岩		上面のみを使用。
51	48	50	石器	磨石	古墳古墳105	ほぼ完形		8.5	6.5	3.3	222	硬質泥岩		擦り面に削痕あり。

遺物NO.	挿図NO.	PLNO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
52	48	50	石器	磨石	古墳古墳105	3/4		9.9	6.7	4.3	453	粗粒輝石安山岩		捺痕あり。
53	48	50	石器	多孔石	中世土坑30	2/3		12	8.4	4.5	387	粗粒輝石安山岩		上面に凹3カ所、下面1カ所
54	49	50	石器	多孔石	11S-20	一部欠		13.4	9	4.8	667	粗粒輝石安山岩		両面を使用。
55	49	51	石器	多孔石	中世溝51	完形		21.2	21.2	11.3	3640	粗粒輝石安山岩		上面のみを使用。
56	49	51	石器	多孔石	中世方形55	完形		21	19.4	14	4310	粗粒輝石安山岩		
57	-	51	磔	円形	中世火葬25	一部欠		6	5.1	0.9	44	緑色片岩		片面を非常によく磨っている。
58	-	51	磔	棒状	11N-20VII	完形		4.4	0.8	0.7	4	緑色片岩		研磨が見られる。
59	-	51	磔	棒状	11G-20II	完形		14.5	4.2	3.3	327	黒色片岩		両端部に敲打痕有り。
60	-	51	磔	短冊状	11H-19	一部欠		15.1	9.1	3.1	556	黒色片岩		端部に磨り痕有り。
5区遺構外														
1	50	51	縄文土器	深鉢	奈良住居261	突起片	に黄橙					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。
2	50	51	縄文土器	浅鉢	10O-14VII	口縁部片	灰黄褐					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅢ式期。口唇部竹管文、胴部沈線区画内縄文R.L。
3	50	51	縄文土器	深鉢	10J-18VII	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅣ式期。隆帯区画内縄文R.L。
4	50	51	縄文土器	注口土器	10J-16VII	口縁部片	に橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。隆帯・沈線文。
5	50	51	縄文土器	注口土器	10J-13VII	頸部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期新。沈線区画内縄文R.L。
6	50	51	縄文土器	浅鉢	平安溝48	突起片	に橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。隆帯・沈線文。
7	50	51	縄文土器	浅鉢	10J-18VII	口縁部片	灰黄褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈線区画内に竹管文。
8	50	51	縄文土器	深鉢	奈良廃棄60	突起片	明赤褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。
9	50	51	縄文土器	深鉢	10K-16VII	突起片	に橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。
10	50	51	縄文土器	深鉢	10K-14VII	突起片	暗灰黄					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。
11	50	51	縄文土器	深鉢	奈良廃棄60	突起片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。
12	50	51	縄文土器	深鉢	10J-15VII	突起片	に橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。
13	50	51	縄文土器	浅鉢	10J-17VII	口縁部片	灰白					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈線区画内竹管文。
14	51	51	縄文土器	深鉢	奈良廃棄60	口～胴部	に黄橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期古。沈線区画内縄文R.L.か。
15	51	51	縄文土器	深鉢	10K-14VII	口縁部片	に橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。
16	51	52	縄文土器	深鉢	10J-14VII	口縁部片	暗灰黄					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。
17	51	52	縄文土器	深鉢	10O-14VII	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。口唇部竹管文、口縁部縄文L.R。
18	51	52	縄文土器	深鉢	10J-16VII	口縁部片	灰黄褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期新。沈線文。
19	51	52	縄文土器	深鉢	10J-13VII	口縁部片	に橙					粗砂粒	良好	後期称名寺式期新。
20	51	52	縄文土器	深鉢	奈良住居261	口縁部片	に黄褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期新。沈線文。
21	51	52	縄文土器	浅鉢	10S-18VII	口縁部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。
22	51	52	縄文土器	浅鉢	古墳住居457	口縁部片	灰オリーブ					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。隆帯上に刻み目文。
23	51	52	縄文土器	深鉢	古墳住居457	口縁部片	灰黄褐					粗砂粒	良好	後期堀之内式期。沈線区画内縄文R.L。
24	51	52	縄文土器	深鉢	奈良廃棄436	口縁部片	に黄褐					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。隆帯に刺突文。
25	51	52	縄文土器	深鉢	10K-16VII	口縁部片	灰黄褐					粗砂粒	良好	後期堀之内1式期。隆帯に竹管文・刺突文。

遺物NO.	挿入NO.	PL.NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
26	51	52	縄文土器	深鉢	10K-14VII	胴部片	橙					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。縄文R.L。
27	51	52	縄文土器	注口土器	古墳住居457	胴部片	に黄橙					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。沈線区画内縄文R.L。
28	51	52	縄文土器	注口土器	古墳住居457	胴部片	灰白					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。沈線幾何学文、縄文R.L。
29	51	52	縄文土器	注口土器	11A-20VII	胴部片	灰					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。沈線文。縄文R.L。
30	51	52	縄文土器	深鉢	古墳住居457	口縁部片	明赤褐					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。沈線幾何学文、縄文R.L。
31	51	52	縄文土器	深鉢	11C-19VII	口縁部片	灰黄褐					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。沈線文、区画内縄文R.L。
32	51	52	縄文土器	深鉢	10K-18VII	口縁部片	黄灰					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。隆帯文、交点に竹管文。
33	52	52	縄文土器	深鉢	10N-17VII	口縁部片	に橙					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。口縁部隆帯文、胴部沈線文。
34	52	52	縄文土器	深鉢	古墳住居457	胴部片	黄褐					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。沈線文、沈線間縄文R.L。
35	52	52	縄文土器	深鉢	古墳住居457	胴部片	灰黄褐					粗砂粒	良好	後期堀之内2式期。円形沈線文、縄文R.L.か。
36	52	52	石製品	石棒	10K-14VII	小片		6	7.1	6.2	263	粗粒輝石安山岩		
37	52	52	石器	磨製石斧	奈良住居260	完形		3.4	1.4	0.4	5	変玄武岩		端部に使用痕。
38	52	52	石器	磨製石斧	近世溝31	完形		6.7	3.3	1.7	55	変玄武岩		端部に使用痕。
39	52	52	石器	磨製石斧	奈良住居260	完形		10.4	5	2.8	229	変玄武岩		上半部剥離が激しい。
40	52	52	石器	磨製石斧	奈良掘立387	下半片		6.5	7.6	3.2	173	ミロナイト緑岩石		端部に使用痕。
41	52	52	石器	磨製石斧	10J-14VII	上半片		3.3	3.3	2	38	変玄武岩		
42	52	52	石器	石鏃	奈良住居53	一部片		1.40	1.30	0.35	0.76	黒曜石		先端部を欠く。
43	52	52	石器	石鏃	10J-14	完形		1.44	1.44	0.22	0.34	黒曜石		
44	52	52	石器	石鏃	近世畠02	完形		2.17	1.54	0.33	0.87	チャート		
45	52	52	石器	石鏃	10K-15	完形		3.00	1.38	0.37	1.14	チャート		
46	52	52	石器	石鏃	10J-15VII	完形		2.94	1.18	0.44	1.25	チャート		
47	52	52	石器	石鏃	中世堀03	一部欠		1.74	1.62	0.30	0.81	黒色安山岩		先端部を欠く。
48	52	52	石器	石鏃	奈良住居418	完形		2.46	1.93	0.27	1.02	黒色安山岩		
49	52	52	石器	石鏃	10I-13	一部欠		2.10	1.74	0.39	1.34	黒色安山岩		基部片側を欠く。
50	52	52	石器	石鏃	11A-18	一部欠		2.15	1.36	0.23	0.55	黒色安山岩		基部片側を欠く。
51	52	52	石器	石鏃	10L-13	一部欠		1.67	1.29	1.35	0.88	黒色安山岩		先端部、基部を欠く。
52	52	52	石器	石鏃	奈良井戸180	一部欠		3.15	2.94	0.74	5.27	黒色頁岩		先端部を欠く。
53	53	52	石器	スクレーパー	奈良廃棄60	完形		6.0	4.5	0.7	28	珪質頁岩		
54	53	52	石器	スクレーパー	古代土坑65	完形		7.1	4.0	1.2	45	珪質頁岩		
55	53	52	石器	スクレーパー	奈良掘立170	完形		6.2	5.7	1.2	61	黒色頁岩		
56	53	52	石器	スクレーパー	10R-19	完形		11.8	5.3	1.2	87	黒色頁岩		
57	53	53	石器	スクレーパー	奈良住居53	完形		5.8	6.9	1.0	43	頁岩		
58	53	53	石器	スクレーパー	近世土坑12	一部欠		4.7	4.2	0.8	15	頁岩		刃部欠損。
59	53	53	石器	くさび形石器	奈良住居53	完形		3.7	3.4	0.8	15	チャート		
60	53	53	石器	打製石斧	中世堀03	1/2		5.3	3.5	0.8	22	黒色頁岩		刃部側を欠く

遺物NO.	挿図NO.	PL.NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	整形の特徴
61	54	53	石器	打製石斧	中世井戸16	完形		11.9	7.7	1.6	167	黑色頁岩	
62	53	53	石器	打製石斧	10N-19	1/2		7.3	5.9	3.6	195	黑色頁岩	刃部側を欠く
63	54	53	石器	打製石斧	奈良廃棄60	1/3		5.2	5.6	2.0	73	黑色頁岩	刃部側を欠く
64	54	53	石器	打製石斧	10J-14	2/3		8.7	3.7	1.3	67	黑色頁岩	刃部側を欠く
65	54	53	石器	打製石斧	10J-14	1/3		5.3	4.3	1.8	59	黑色頁岩	両端を欠く
66	54	53	石器	打製石斧	10J-15	1/2		8.3	6.3	2.8	168	黑色頁岩	刃部側を欠く
67	54	53	石器	打製石斧	10J-15	1/2		6.5	4.5	0.9	39	黑色頁岩	刃部側を欠く
68	54	53	石器	打製石斧	中世堀40	一部片		3.5	2.5	1.2	8	黑色頁岩	
69	54	53	石器	打製石斧	10M-14	一部片		3.6	3.3	1.2	20	頁岩	中程の小片
70	55	53	石器	打製石斧	10J-13	1/4		4.8	5.2	1.7	46	頁岩	刃部側を欠く
71	54	53	石器	打製石斧	奈良住居418	1/2		7.2	5.3	1.5	80	細粒輝石安山岩	刃部側を欠く
72	55	53	石器	打製石斧	奈良廃棄60	2/3		9.2	4.2	1.7	87	細粒輝石安山岩	上部を欠く。
73	55	53	石器	打製石斧	10J-13	一部片		4.2	3.7	1.1	26	細粒輝石安山岩	上部を欠く。
74	55	53	石器	打製石斧	10J-14	一部片		4.5	3.0	1.2	24	細粒輝石安山岩	
75	55	53	石器	打製石斧	10I-16	2/3		8.4	4.3	1.3	85	細粒輝石安山岩	刃部側を欠く。
76	55	53	石器	打製石斧	10Q-18	完形		10.2	5.1	1.3	105	細粒輝石安山岩	
77	55	53	石器	打製石斧	古墳溝04	完形		8.0	5.6	1.3	110	変質玄武岩	
78	55	53	石器	打製石斧	奈良廃棄60	1/2		6.0	7.1	2.3	121	変質玄武岩	上部を欠く。
79	56	53	石器	打製石斧	10J-14	1/2		8.5	9.9	2.5	256	変質玄武岩	刃部側を欠く。
80	55	53	石器	打製石斧	近世土坑35	1/2		7.9	4.2	1.6	82	硬質泥岩	両端を欠く。
81	56	53	石器	打製石斧	奈良廃棄60	一部片		4.5	4.3	1.5	36	硬質泥岩	
82	56	53	石器	打製石斧	10J-15	1/2		7.8	40.3	3.7	327	硬質泥岩	刃部側を欠く。
83	56	53	石器	使用痕のある石器	10K-15			6.0	2.8	0.5	141	黑色頁岩	
84	56	53	石器	石核	奈良廃棄60			1.7	3.2	1.0	8.0	黒曜石	
85	56	53	石器	石核	10I-17			1.3	2.8	0.8	4.2	黒曜石	
86	56	53	石器	石核	奈良柵172			3.7	5.2	1.7	37	黑色安山岩	
87	57	53	石器	石核	10H-16			8.1	8.8	2.7	236	硬質泥岩	
88	56	53	石器	石核	11A-20			7.8	7.2	10.4	691	アイサイト	
89	57	53	石器	加工痕のある剥片	10K-16			3.1	4.1	1.1	15	チャート	
90	58	53	石器	加工痕のある剥片	10K-14			7.7	5.7	1.7	113	黑色頁岩	
91	58	53	石器	加工痕のある剥片	10K-15			3.7	1.6	0.8	5.8	黑色頁岩	
92	58	53	石器	加工痕のある剥片	10G-18			3.7	2.7	0.9	15	黑色頁岩	
93	57	53	石器	加工痕のある剥片	10C-20			18.0	16.7	5.0	185	黑色頁岩	
94	59	53	石器	加工痕のある剥片	11A-20			2.6	2.6	0.9	7.1	黑色頁岩	
95	58	53	石器	加工痕のある剥片	10J-14			7.5	6.0	2.0	106	珪質頁岩	

遺物NO.	挿図NO.	PLNO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	整形の特徴
96	59	53	石器	加工痕のある剥片	10L-14			4.3	4.3	1.7	40	珪質頁岩	
97	59	53	石器	加工痕のある剥片	10J-13			3.5	4.0	1.1	20	黑色安山岩	
98	59	53	石器	加工痕のある剥片	10J-16			3.8	5.4	1.7	3.6	硬質泥岩	
99	59	53	石器	加工痕のある剥片	10N-16			2.7	4.3	1.0	1.2	硬質泥岩	
100	60	53	石器	加工痕のある剥片	10N-15			7.0	6.4	2.4	130	硬質泥岩	
101	60		石器	加工痕のある剥片	10P-15	完形		6.1	5.1	2.2	48	硬質泥岩	
102	60		石器	打製石斧	奈良廃棄60	一部片		2.3	3.0	0.9	64	硬質泥岩	両端を欠く
103	61	54	石器	石皿	10L-15VI	1/4		13.4	11	4	589	粗粒輝石安山岩	裏面に凹凸(多孔石として使用)が見られる。
104	61	54	石器	石皿	10L-14VI	一部片		7.5	11.2	4	301	粗粒輝石安山岩	裏面凹あり。
105	60	54	石器	磨石	5区	完形		9	7.8	3.6	477	粗粒輝石安山岩	両面を使用。
106	60	54	石器	磨石	10L-13IV	完形		10.9	5.8	4.2	341	粗粒輝石安山岩	擦り面に削痕あり。
107	61	54	石器	磨石	10M-14VI	1/2		6.5	8.2	4.5	34	粗粒輝石安山岩	両面を使用。
108	60	54	石器	磨石	10Q-19VI	4/5		7.3	8.1	1.3	118	砂岩	上面だけ使用。
109	60	54	石器	磨石	10J-16IV	2/3		4.6	6.3	1.1	68	粗粒輝石安山岩	上面だけ使用。
110	61	54	石器	磨石	平安住居58	2/3		7.8	6.8	3.7	282	変玄武岩	上面だけ使用。
111	61	54	石器	磨石	10F-18II	1/3		6	12.5	2.5	267	粗粒輝石安山岩	上面だけ使用。
112	61	54	石器	磨石	奈良住居61	1/4		8.3	10.8	6.4	573	粗粒輝石安山岩	上面だけ使用。
113	61	54	石器	磨石	平安住居53	1/4		10	7.7	3	293	凝灰質砂岩	上面だけ使用。
114	61	54	石器	凹石	奈良掘立170	完形		13.7	12.1	9.1	2184	粗粒輝石安山岩	両面に浅い凹が各1カ所。
115	61	54	石器	凹石	奈良廃棄60	完形		17	11.8	7.6	1663	粗粒輝石安山岩	上面に凹1カ所。
116	62	54	石器	凹石	奈良廃棄60	2/3		6	8	3.5	299	粗粒輝石安山岩	上面に凹1カ所。
117	62	54	石器	多孔石	奈良廃棄60	完形		13	12	9	2216	粗粒輝石安山岩	上面にまばらな孔。
118	62	54	石器	多孔石	10I-14VI	一部片		8.2	10.6	3.3	247	粗粒輝石安山岩	
119	62	54	石器	多孔石	10I-17VI	1/2		9.8	10.4	4.3	479	粗粒輝石安山岩	上面のみ使用。
120	62	54	石器	多孔石	奈良廃棄60	1/4		18.4	13.8	10.5	3430	粗粒輝石安山岩	両面に孔あり。
121	-	54	礫	棒状	奈良住居53	完形		10.1	2.5	1.7	64	黑色片岩	
122	-	54	礫	棒状	奈良廃棄60	完形		10	3.9	2.2	113	雲母石英片岩	
123	-	54	礫	棒状	奈良住居260	完形		11.3	3.4	1.8	97	黑色片岩	
124	-	54	礫	棒状	トレンチ	完形		11.9	3.6	2.3	116	黑色片岩	
125	-	54	礫	短冊状	10J-17VII	完形		9.6	4.1	1.7	92	黑色片岩	
126	-	54	礫	短冊状	奈良廃棄60	完形		12.6	3.7	1.9	122	黑色片岩	
127	-	54	礫	短冊状	奈良廃棄60	完形		13.6	4.6	2	167	黑色片岩	端部敲打痕有り。
128	-	54	礫	半円状	古墳溝04	完形		14.3	5.8	1.8	208	片玄武岩	
6区遺構外													
1	63	54	石器	石鏃	中央調査区	完形		2.11	1.68	0.39	1.42	黒曜石	
2	63	54	石器	打製石器	9T-21	1/2		7.0	5.1	1.0	46	硬質泥岩	上半を欠く。

遺物NO.	埋圀NO.	PLNO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
住居4区167														
1	64	55	弥生土器	台付甕	床直	1/2	赤色	10.8				細砂粒	良好	口縁部1条の波状文、頸部廉状文、胴部上位波状文。
住居4区215														
1	66	55	弥生土器	台付甕	床直	1/2	灰黄褐	10.8		7	14.5	細砂粒	良好	口唇部波状文、頸部廉状文、胴部上位波状文、胴部過半から脚部はヘラ磨き。
2	66	55	弥生土器	壺	+9~15	1/2	に黄橙	16.2		19.4		細砂粒	良好	外面胴部、内面口縁部赤色塗彩。口縁部刷毛目、頸部刷毛目、胴部上位波状文、中位へラ磨き、下位刷毛目。内面口縁部へラ磨き。
3	66	55	弥生土器	壺	+11	口縁部片	浅黄橙	26.6				細砂粒	良好	口唇部波状文、頸部廉状文、胴部上位波状文、内面へラナデ。
4	66	55	弥生土器	壺	+8、掘方	4/5	橙			31	12.4	細砂粒	良好	口縁部刷毛目、頸部廉状文と2段の波状文、胴部刷毛目後へラ磨き。
5	66	55	石器	凹石	+5	完形		15.3	13.6	7.4	1411	粗粒輝石安山岩		両面に凹有り、上面擦痕あり。
6	-	55	礫	分銅形	+19	完形		8.5	4.5	1.3	72	雲母石英片岩		上下面に擦痕有り。
7	-	55	礫	棒状	埋没土	一部欠		11.4	4.1	2.2	142	雲母石英片岩		端部に敲打痕有り。
壺箱4区180														
1	67	55	弥生土器	壺	底面	胴部	浅黄橙			46		細砂粒	良好	胴部へラ削り。内面へラナデ。
土坑4区211														
1	68	55	弥生土器	壺	底面	2/3	橙	13.4	7.8		16.8	細砂粒	良好	口縁部へラナデ、頸部波状文。内面へラナデ。
土坑4区306														
1	68		弥生土器	壺	+15	胴部片	浅黄					細砂粒	良好	外面刷毛目。内面へラナデ。
土坑4区307														
1	68	55	弥生土器	壺	+12	胴部下位	浅黄		7.6			細砂粒	良好	内外面へラ磨き。
2	68	55	弥生土器	甕	+6	胴部下位	に黄橙		6			粗砂粒	良好	外面へラ削り。
4区遺構外														
1	69	55	弥生土器	高坏	古墳105	脚部片	赤褐					細砂粒	良好	脚部へラ磨き。
2	69	55	弥生土器	壺		口縁一部欠	に黄橙	7.4	4.2		10.7	細砂粒	良好	頸部廉状文、胴部上半波状文、下半へラ磨き。
3	69	55	弥生土器	壺	11G-17	口縁一部欠	橙	6.8	4	9	9	細砂粒	良好	口縁部に一对の2小孔。胴部へラ削り。内面胴部へラ磨き。
4	69	55	弥生土器	甕	11J-19II	口縁部片	に黄橙	18.8				細砂粒	良好	口縁部波状文、頸部廉状文、内面へラ磨き。
5	69	55	弥生土器	台付甕	11P-18	1/5	に黄橙	9.2				細砂粒	良好	頸部廉状文、胴部上半波状文、下半へラ磨き。内面へラ磨き。
5区遺構外														
1	70	55	弥生土器	高坏	11A-19VI	脚部片	灰黄					細砂粒	良好	外面赤色塗彩。縦方向へラ磨き。
2	70		弥生土器	甕	10T-18VIII	口縁部片	に褐	14				粗砂粒	良好	口唇部波状文。
3	70		弥生土器	甕	10P-17VII	口縁部片	に黄橙	17				粗砂粒	良好	口唇部波状文、口縁部刷毛目。
4	70		弥生土器	甕	11A-20VIII	口縁部片	灰黄褐	17.2				粗砂粒	良好	口唇部波状文、口縁部刷毛目、頸部2連止廉状文。内面へラ磨き。

古墳時代

遺物NO.	挿図NO.	PL.NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
住居5区457														
1	73	56	土師器	椀	貯蔵穴	底部一部欠		8.6						
2	73	56	土師器	椀	貯蔵穴	口縁一部欠	に橙	9.5	3.5		5.5	細砂粒	良好	内外面へラ磨き。
3	73	56	土師器	小型壺	埋没土	4/5	橙	10	4.6	12.7	15.4	粗砂粒	良好	外面へラ削り。内面へラナデ。
4	73	56	土師器	壺	埋没土	胴部上半片	に黄橙					粗砂粒	良好	外面刷毛目+へラ磨き。内面へラナデ。
5	73	56	土師器	壺	埋没土	胴部上半片	黄橙					粗砂粒	良好	外面へラ磨き。内面へラナデ。
6	73	56	土師器	壺	+9	底部	橙					粗砂粒	良好	外面刷毛目。内面刷毛目+へラナデ。
7	73	56	土師器	台付甕	埋没土	口縁部片	に黄褐	16.8				微砂粒	良好	口縁部横ナデ、頸部以下刷毛目。
8	73	56	石器	磨石	埋没土	2/3		7.8	7.5	3.6	374	粗粒輝石安山岩		
住居4区226														
1	75		土師器	杯	埋没土	口縁部片	明褐	14				微砂粒	良好	外面横方向へラ磨き、内面放射状へラ磨き
2	75	56	土師器	高坏	埋没土	脚部片	橙					細砂粒	良好	外面へラ磨き、内面ナデ。
古墳4区105														
1	77	56	土師器	高坏	周堀埋没土	脚部片	橙					細砂粒	良好	外面へラ磨き
2	77	56	須恵器	甕	周堀埋没土	口縁部片	暗灰	22.6				細砂粒	還元焰	口縁部上位に1段の波状文。
3	77		須恵器	甕	周堀埋没土	口縁部片	黄灰					細砂粒	還元焰	
4	77	56	石製品	剣形模造品	周堀埋没土	完形		4.8	2.2	0.6	10	蛇紋岩		穿孔は2カ所と未貫通の1孔あり。
溝5区04														
1	81		土師器	壺	埋没土	底部片	に黄橙					細砂粒	良好	底部へラ削り。内面へラナデ。
畠4区111														
1	83	56	石製品	白玉	埋没土	完形		0.6	0.6	0.4	0.14	滑石		孔径0.3
畠6区E01														
1	86	56	土師器	壺	9 S-21VI	底部	明黄褐					細砂粒	軟質	脚部へラ削り後へラ磨き。内面刷毛目。
遺構外4区														
1	87		土師器	杯	中世溝5I	口縁部片	黒褐	12.6				微砂粒	良好	口縁部横ナデ、底部へラ削り。
2	87		須恵器	杯蓋	11N-22II	口縁部片	灰	13.8		13		微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転方向不明。天井部回転へラ削り。
3	87		須恵器	杯	11P-21II	口縁部片	灰	16.2		17.4		微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転方向不明。底部回転へラ削り。
4	87		土師器	高坏	11R-18	杯身下半	に橙					粗砂粒	良好	脚部貼付。外面杯部ナデ、脚部へラ削り。内面へラ磨き。
5	87	56	土師器	高坏	11H-17II	脚部片	赤			7.6		微砂粒	良好	脚部貼付、外面へラ磨き。
6	87	56	土師器	高坏	中世墓坑102	脚部片	浅黄橙					微砂粒	良好	杯部内面黒色処理、へラ磨き。脚部貼付、外面へラ磨き。
7	87	56	土師器	高坏	11R-19	脚端部片	に黄橙			15.6		粗砂粒	良好	外面赤彩か。端部横ナデ、内面へラナデ。
8	87	56	土師器	小形壺	11Q-19	胴部	に黄橙		4.6	8.7		粗砂粒	良好	脚部ナデ、底部へラ削り。内面へラナデ。
9	87	56	土師器	小形壺	11Q-18II	1/2	明赤褐	7.8		12.6	12.9	粗砂粒	軟質	内面に輪積痕。口縁部横ナデ、胴部へラ削り。
10	87		土師器	甕	11G-18IV	口縁部片	に橙	18				粗砂粒	良好	口縁部横ナデ、底部へラ削り。胴部刷毛目。内面へラナデ。
11	87	57	土師器	甕	中世土坑60	口~胴部片	に褐	13.4		13.8		細砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部へラ削り。内面へラナデ。

遺物NO.	挿図NO.	PL NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
12	87	57	土師器	甕	中世土坑80	1/3	に橙	17.8	20.2			粗砂粒	良好	外面刷毛目。内面口縁部刷毛目、胴部ヘラナナア。
13	87	56	土師器	台付甕	11R-18VI	口~胴部片	黒褐	12.8				細砂粒	良好	口縁部横ナア、胴部刷毛目、内面ヘラナナア。
14	87	57	土師器	台付甕	11Q-18VI	底~脚部片	に黄橙		5			細砂粒	良好	外面刷毛目。内面口縁部刷毛目、胴部ヘラナナア。内面ヘラナナア。
15	87		須恵器	甕	近世朝平跡31	口縁部片	灰白	15.2				微砂粒	還元焰	ロクロ整形。
16	87	57	須恵器	甕	近代集石05	口縁部片	灰オリーブ	20.4				微砂粒	還元焰	ロクロ整形。区画線間に波状文。
17	88	57	埴輪	人	近世集石05	手	に橙					細砂粒	良好	手先端部貼付痕、ナア整形。
18	88	57	石製品	剣形模造品	近世朝平跡31	3/4		5.3	2.7	0.5	12	滑石		穿孔は2カ所
19	88	57	石製品	剣形模造品	中世溝51	3/4		4.4	1.3	0.4	2	滑石		穿孔は1カ所
遺構外5区														
1	89		土師器	器台	平安住居48	脚部片	橙					細砂粒	良好	内外面ヘラ磨き。
2	89	57	須恵器	ハンウ	10K-17VI	胴部	灰		10.2			細砂粒	還元焰	ロクロ整形。胴部中程に1孔。区画線内刺突文。
3	89		須恵器	瓶	10K-17VII	口縁部	灰白	8				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。頸部貼付。
4	89		土師器	鉢	11B-20IV	口縁部片	橙	21.4				細砂粒	良好	口唇部折り返し。
5	89		土師器	壺	11A-20VII	口縁部片	に褐	13.6				細砂粒	良好	口縁部横ナア、頸部刷毛目。
6	89		土師器	壺	近世溝40	胴部下位片	橙	4.6				細砂粒	良好	胴部ヘラ削り。内面ヘラナナア。
7	89		土師器	甕	トレンチ	底部片	に橙	10.8				粗砂粒	良好	内面刷毛目。
8	89		土師器	手捏ね	10T-19VI	底部片	橙		2.6			微砂粒	良好	胴部下半面取り状のヘラ削り。内面ヘラナナア。
9	89		土師器	手捏ね	10T-19VI	胴部片	黒褐					細砂粒	良好	内外面ナア。
10	89	57	石製品	勾玉	10J-14VI	1/4		2.5	2.2	1	5	ざよくずい		孔径2~4mm
11	89	57	石製品	白玉	居宅井戸180	完形		1	1.1	0.5	1	滑石		孔径2mm

遺物NO.	埋藏NO.	PLNO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
居宅区画溝4区03														
1	94	57	須恵器	杯蓋	埋没土、+19	口縁一部欠	灰	18		5.4	3.2	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。揃み貼付。
2	94	57	須恵器	碗	埋没土	1/4	灰	17.8	12.4	16	8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回りか。高台貼付。
3	94	57	土製品	羽口	埋没土、+29	1/3	灰黄					細砂粒	良好	先端部径7.0、孔径1.6
居宅区画柵5区172														
1	95		須恵器	杯蓋	P 9	口縁部片	灰	19				微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回りか。天井部中程回転へら削り。
居宅掘立柱建物5区169														
1	96		土師器	高坏	P10	杯部口縁部	橙	22.4				細砂粒	やや軟質	内外面へら磨き。
2	96	57	須恵器	杯	P 8	1/3	灰	13.2	7.5		3.7	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部へら削り。焼成時に杯蓋口縁部が付着。
居宅掘立柱建物5区400														
1	98		土師器	杯	P 2	口縁部片	に黄橙	10.6	8.6			微砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へら削り。
居宅掘立柱建物5区377														
1	99		土師器	杯	P 9	口縁部片	に褐	11.8	9.6			微砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へら削り。
2	99		土師器	杯	P 9	口縁部片	橙	12	8		2.3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へら削り。
3	99		土師器	杯	P 6	口縁部片	に褐	12	9.6			微砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へら削り。
4	99	57	土師器	杯	P 8	1/5	橙	12.6	10.6		3	微砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へら削り。
居宅掘立柱建物5区387														
1	101		須恵器	杯蓋	P 5	揃	灰白			4.3		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。揃みは貼付。
2	101		須恵器	杯蓋	P 6	口縁部片	灰白	15.8				微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部中程は回転へら削り。
3	101		須恵器	杯	P 8	底部片	灰白		9.2			微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転へら削り。
居宅掘立柱建物5区168														
1	102		須恵器	杯蓋	P 2	口縁部片	灰白	11.2				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部中程は回転へら削り。
2	102	57	須恵器	甕	P 5他	口縁部片	灰白	43.6				粗砂粒	還元焰	口縁部4段の波状文。
居宅掘立柱建物5区166														
1	103		土師器	杯	P 8	口縁部片	橙	11	9			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へら削り。
2	103		土師器	杯	P 3	口縁部片	橙	13.8	12.2			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へら削り。
3	103		須恵器	杯蓋	P13	口縁部片	灰	14				微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回りか。
4	103		須恵器	杯	P 7	底部片	灰		6.5	6.3		微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回りか。高台貼付。
5	103		土師器	甕	P 2	底部片	橙		5.6			細砂粒	良好	胴部下部へら削り。内面へらナデ。
居宅掘立柱建物5区171														
1	106		須恵器	杯	P 5	底部片	褐灰		7.8			微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転へら削り。
2	106	57	石器	砥石	P10	1/2		6.8	4.9	4.1	177	花崗岩砂岩		
3	106	57	石器	砥石	P10	1/2		7.7	5.3	3.9	217	花崗岩砂岩		

遺物NO.	押図NO.	PLNO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
居宅掘立柱建物5区170														
1	108		土師器	杯	P 3	口縁部片	橙	12				細砂粒	やや軟質	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
2	108		土師器	杯	P 2	口縁部片	橙	14.8	9.6		3	微砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
3	108		須恵器	杯蓋	P 3底面	天井部	灰白			36		微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。揃み貼付。天井部回転ヘラ削り。
4	108		須恵器	杯蓋	P 3	口縁部片	灰白					微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転ヘラ削り。
5	108		須恵器	杯	P 3	底部片	灰		7.2			微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
6	108		須恵器	甕	P 2	胴部小片	灰					細砂粒	還元焰	外面叩き。
7	108	57	土師器	甕	P 3 + 15	口～胴中部	に赤褐	23.2				細砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面ヘラナデ。
居宅井戸5区181														
1	110		土師器	杯	埋没土	1/4	に黄橙	11.4	10.2		3.4	微砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
2	110		土師器	杯	埋没土	口縁部片	に橙	12	11			微砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
3	110		土師器	杯	埋没土	1/8	に褐	12.6	11		3	微砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
4	110		土師器	杯	埋没土	1/6	に褐	14	12.6			微砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
5	110	58	土師器	杯	埋没土	ほぼ完形	に橙	14.3	13.2		4.3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。底部に「ト」の墨書。
6	110	58	土師器	杯	埋没土	7/8	に赤褐	17	13.2		5.3	細砂粒	良好	口唇部横ナデ、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。
7	110	58	須恵器	杯	埋没土	ほぼ完形	黄灰	14.6	9.4		3.5	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
居宅井戸5区180														
1	112		土師器	杯	埋没土	口縁部片	に褐	11	8.2			微砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
2	112		土師器	杯	埋没土	口縁部片	橙	12				細砂粒	やや軟質	口縁部上半横ナデ、下半ヘラ削り。
3	112		須恵器	杯	埋没土	口縁部片	灰	14				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。
4	112		須恵器	杯	埋没土	底部片	灰		7			微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
5	112	58	須恵器	杯	埋没土	底部片	灰		6.1			細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。底面に「令」の墨書。
6	112	58	土師器	甕	埋没土他	胴部一部欠	橙	17.8		22.2	16.5	細砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部～底部ヘラ削り。内面ヘラナデ。
7	112	58	須恵器	甕	埋没土	口縁部片	灰					細砂粒	還元焰	口唇部下に凸帯、口縁部は区画線内に波状文。
8	112	58	石器	磨石	埋没土	1/6		9.7	9.4	6.1	626	粗粒輝石安山岩		片面だけ使用
居宅溝5区164														
1	113		土師器	杯	埋没土	口縁部片	に橙	14				細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
2	113	57	土師器	杯	埋没土	1/3	に黄橙	12	9			細砂粒	良好	口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。
居宅廃棄5区60														
1	115		土師器	杯		1/3	に橙	10.8	7.8		4.3	細砂粒	良好	口縁部上位横ナデ、中位ナデ、下位ヘラ削り。底部ヘラ削り。
2	115		土師器	杯		1/4	に橙	12	7		3.5	粗砂粒	軟質	口縁部上半横ナデ、下半ヘラ削り。底部ヘラ削り。
3	115	58	土師器	杯		1/2	に橙	11.8	8		3.2	細砂粒	良好	口縁部上位横ナデ、中位ナデが残る、下位ヘラ削り。底部ヘラ削り。
4	115		土師器	杯		1/3	に橙	11.8	8		3.5	細砂粒	良好	口縁部上位横ナデ、中位ナデ、下位ヘラ削り。底部ヘラ削り。
5	115	58	土師器	杯		1/2	に橙	12.3	6		4.3	微砂粒	軟質	口縁部上位横ナデ、中位ナデ、下位ヘラ削り。底部ヘラ削り。
6	115	58	土師器	杯		1/2	に橙	12.3	7.2		4.2	粗砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ヘラ削り。底部ヘラ削り。

遺物NO.	挿図NO.	PL.NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
7	115	58	土師器	杯		2/3	橙	12.6	10.6		3.5	粗砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
8	115	58	土師器	杯		2/3	に橙	12.8	9		3.7	粗砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
9	115	58	土師器	杯		1/2	に橙	13	12.8		3.2	細砂粒	良好	口縁部横ナデ。底部ヘラ削り。
10	115	58	土師器	杯		1/2	橙	13	11.8		3.3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
11	115		土師器	杯		1/4	に橙	13.4	12		3.3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
12	115		土師器	杯		1/4	橙	14	12.6		4	粗砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
13	115	58	土師器	杯	口縁部片	1/4	に橙	10.8	8.4			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
14	115		土師器	杯		1/4	橙	11.8	8.6		2.7	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
15	115		土師器	杯		1/4	橙	11.9	9.6		3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
16	115	58	土師器	杯		1/3	橙	12	10		3.2	細砂粒	やや軟質	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
17	115	58	土師器	杯		完形	橙	12.8	11		3.4	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
18	115		土師器	杯		1/4	に橙	12.9	10.4		3.2	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
19	115		土師器	杯		1/5	に橙	12.8	10		2.8	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
20	115	58	土師器	杯		1/3	に橙	12.9	9.2		3.5	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
21	115		土師器	杯		1/5	橙	13	11		3.2	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
22	115	58	土師器	杯		1/3	に橙	13	9.5		3.2	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
23	115	58	土師器	杯		1/3	に褐	13	12		3.3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
24	115		土師器	杯		1/6	に橙	13.2	9		2.5	粗砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
25	115		土師器	杯		1/5	橙	13.8	12		2.5	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
26	115		土師器	杯		1/5	橙	13.8	10		3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
27	115		土師器	杯		1/5	橙	14	12.2		3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
28	115		土師器	杯		1/5	橙	14.8	13		2.7	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
29	115	58	土師器	杯		1/2	橙	13	9.8		2.8	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
30	115	58	土師器	杯		完形	橙	12.8	10.3		2.9	細砂粒	良好	口縁部横ナデ。底部ヘラ削り。
31	115		土師器	杯		1/3	に橙	12	8.7		3.5	細砂粒	良好	口縁部横ナデ。底部ヘラ削り。
32	115	58	黒色土器	碗		3/4	に褐	13.1	8		4	細砂粒	酸火焰	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。内面ヘラ磨き、黒色処理。
33	115	58	黒色土器	碗		3/4	橙	17.7	9		5.3	細砂粒	酸火焰	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部回転糸切り。内面ヘラ磨き、黒色処理。
34	116	58	須恵器	杯蓋		2/3	灰	10.5		1.8	2.8	細砂粒	還元焰	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。天井部中程まで回転ヘラ削り。
35	116	59	須恵器	杯蓋		3/4	灰	18.8		3.2	4	細砂粒	還元焰	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。天井部中程まで回転ヘラ削り。
36	116	59	須恵器	杯蓋		1/2	灰			2.5		粗砂粒	還元焰	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。天井部中程まで回転ヘラ削り。
37	116	59	須恵器	杯蓋		1/2	灰	17				細砂粒	酸火焰	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。天井部中程まで回転ヘラ削り。
38	116		須恵器	杯蓋		1/5	灰白	13.7		3.5	2.4	細砂粒	還元焰	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。天井部中程まで回転ヘラ削り。
39	116	59	須恵器	杯蓋		1/3	灰白	14.6		4	4.8	微砂粒	還元焰	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。天井部中程まで回転ヘラ削り。
40	116	59	須恵器	杯蓋		1/3	灰	14.8		4.4	4	粗砂粒	還元焰	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。天井部中程まで回転ヘラ削り。
41	116	59	須恵器	杯蓋		1/3	灰	15		4.1	2.9	細砂粒	還元焰	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。天井部中程まで回転ヘラ削り。
42	116	59	須恵器	杯蓋		1/2	灰	16.6		3.8	3.9	細砂粒	還元焰	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。天井部中程まで回転ヘラ削り。

遺物NO.	挿図NO.	PL NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
43	116	59	須恵器	杯蓋		1/2	灰白	15.4		3.3	3.1	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。揃み貼付。天井部中程まで回転ヘラ削り。
44	116	59	須恵器	杯蓋		1/2	灰	15.6		4.2	3.5	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。揃み貼付。天井部中程まで回転ヘラ削り。
45	116		須恵器	杯蓋		1/4	灰			3.4		粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。揃み貼付。天井部中程まで回転ヘラ削り。
46	116	59	須恵器	杯蓋		1/3	灰			5		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。揃み貼付。天井部中程まで回転ヘラ削り。
47	116		須恵器	杯蓋		1/4	暗灰			3.3		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。揃み貼付。天井部中程まで回転ヘラ削り。
48	116	59	須恵器	杯蓋		1/3	灰白			4.3		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。揃み貼付。天井部中程まで回転ヘラ削り。
49	116		須恵器	杯蓋		1/3	灰白			4.5		粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。揃み貼付。天井部中程まで回転ヘラ削り。
50	116	59	須恵器	杯蓋		1/2	灰白	14.4				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部中程まで回転ヘラ削り。
51	116	59	須恵器	杯蓋		揃み欠	灰	14.5				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。回転糸切り。揃み貼付。天井部中程まで回転ヘラ削り。
52	116	59	須恵器	杯蓋		揃み欠	灰	17.6				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部中程まで回転ヘラ削り。
53	116		須恵器	杯蓋		1/3	灰	18.8				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部中程まで回転ヘラ削り。
54	116	59	須恵器	杯蓋		完形	灰白	17.6		3.9	1.8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。揃み貼付。天井部中程まで回転ヘラ削り。
55	116		須恵器	杯		1/5	灰	12.7	6.5		4	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
56	116	59	須恵器	杯		1/2	褐灰	12.4	8.5		3.6	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
57	116		須恵器	杯		1/2	灰	12.7	8.5		3.3	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
58	116	59	須恵器	杯		1/2	灰	13.1	9		2.8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ切り、回転ヘラ削り。
59	116	59	須恵器	杯		1/2	灰	13.4	9.6		3.3	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ切り、回転ヘラ削り。
60	117	59	須恵器	杯		1/3	褐灰	13.6	8.9		3.6	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ切り、回転ヘラ削り。
61	117	59	須恵器	杯		1/2	灰	10.8	5.9		3.7	微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。内面底部に「X」のヘラ描き。
62	117		須恵器	杯		1/5	灰	11.1	6.1		3	微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
63	117		須恵器	杯		1/2	灰	11.3	6.6		3.8	微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
64	117		須恵器	杯		1/2	灰	11.5	7.2		3.4	微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。口縁部最下位1段の回転ヘラ削り。
65	117	59	須恵器	杯		2/3	灰白	11.5	6.8		4.2	微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
66	117	59	須恵器	杯		1/3	灰	11.6	6.4		3.3	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
67	117	59	須恵器	杯		3/4	灰	11.7	7.2		3.2	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
68	117	59	須恵器	杯		3/4	灰	11.7	6.5		3.8	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
69	117	60	須恵器	杯		2/3	灰	11.8	6.5		3.6	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ切り、回転ヘラ削り。
70	117	60	須恵器	杯		3/4	灰	11.9	6.8		3.9	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
71	117	60	須恵器	杯		1/2	灰褐	11.9	6		4	微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。口縁部最下位1段の回転ヘラ削り。
72	117		須恵器	杯		1/5	灰白	11.9	7		4.3	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
73	117	60	須恵器	杯		3/4	灰	12	7		3.1	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後周囲ヘラ削り。
74	117	60	須恵器	杯		1/2	灰	12.2	6.5		3.3	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後周囲ヘラ削り。
75	118	60	須恵器	杯		2/3	灰	12.2	7		3.4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後周囲ヘラ削り。
76	118	60	須恵器	杯		3/4	灰白	12.2	6.3		3.7	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
77	118	60	須恵器	杯		3/4	灰白	12.3	7.5		3.8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
78	118	60	須恵器	杯		2/3	灰	12.4	7.9		3.6	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。

遺物NO.	挿入NO.	PL.NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
79	118	60	須恵器	杯		1/3	灰白	12.4	6.5		3.8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。口縁部に輪積痕。底部回転糸切り。
80	118		須恵器	杯		1/5	黄灰	12.5	7.7		3.5	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
81	118		須恵器	杯		1/2	灰白	12.5	7.5		3.8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
82	118		須恵器	杯		1/4	灰白	12.6	6.9		3.8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
83	118		須恵器	杯		1/3	褐灰	12.6	6.5		3.4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り、回転ヘラ削り。
84	118	60	須恵器	杯		1/4	灰	12.6	6.5		3.9	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
85	118	60	須恵器	杯		ほぼ完形	灰	12.8	8		3.5	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
86	118	60	須恵器	杯		3/4	橙	12.8	6.5		3.9	粗砂粒	酸火焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
87	118	60	須恵器	杯		2/3	灰	12.8	7.7		4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り、回転ヘラ削り。
88	118	60	須恵器	杯		1/2	灰	13.4	8.4		3.9	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
89	118		須恵器	杯		1/3	灰	13.4	7		4.6	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
90	119		須恵器	杯		1/4	灰	14	8.8		4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
91	119	60	須恵器	杯		1/2	明褐灰	14.2	8.7		4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
92	119	60	須恵器	杯		1/2	灰白	14.5	9		4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
93	119		須恵器	杯		1/2	灰	13	6		3.5	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
94	119		須恵器	杯		1/3	黄灰	13.2	7		3.3	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部ヘラ削り。口縁部最下位回転ヘラ削り。
95	119		須恵器	杯		1/3	灰	12.4				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回りか。
96	119	60	須恵器	有台杯		1/2	灰	14.2	11	10	4.2	微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転ヘラ削り。
97	119	60	須恵器	有台碗		1/2	灰	10.5	6	6.2	5.6	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転糸切り。
98	119	60	須恵器	有台碗		1/2	灰	11.5	7.3	7	5.6	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転糸切り。
99	119		須恵器	有台碗		1/5	灰	15.8	10	10	6.6	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転糸切り。
100	119	60	須恵器	有台碗		1/4	灰	15.7	9.3	9	7.2	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回りか。高台貼付。
101	119	60	須恵器	有台碗		1/4	灰	15.9	8.6	8.7	7.4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転糸切り。
102	119	60	須恵器	有台碗		1/4	灰	12	6.7	6.8	5.1	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転ヘラ削り。
103	119	60	須恵器	有台碗		1/2	灰	12.3	6	6.2	4.2	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転ヘラ削り。
104	119	60	須恵器	有台碗		2/3	灰白	15.4	8	7.6	5.7	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転ヘラ削り。
105	119	60	須恵器	有台盤		底部片	灰		17.2	15.6		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転糸切り。
106	120		須恵器	高坏		底部片	灰					微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。脚部貼付。
107	120		須恵器	高坏		脚部片	灰					細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。脚部貼付。
108	120	61	須恵器	平瓶	10L-13IV他	1/4	暗灰黄		18.6	25.8		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台・口縁部貼付。胴部回転ヘラ削り。
109	120	61	須恵器	短頸壺		口~胴部	灰	10				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回りか。
110	120	61	須恵器	長頸壺		頸部~胴	灰		7			粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。頸部貼付。
111	120	61	須恵器	長頸壺		口縁部片	灰	9.4				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。
112	120		須恵器	長頸壺		口縁部片	灰	11				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回りか。
113	120		須恵器	長頸壺		頸部片	暗灰			8.6		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回りか。頸部貼付。

遺物NO.	押図NO.	PLNO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
114	120		須恵器	長頸壺		胴部片	灰			19		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。胴部下位回転へラ割り。
115	120		須恵器	長頸壺		胴部片	灰	10.6		19		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。胴部下位回転へラ割り。
116	121	61	須恵器	長頸壺		胴部	灰			25.6		粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。胴部下位回転へラ割り。頸部貼付。
117	121	61	須恵器	長頸壺		胴部	灰			20.4		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。胴部下位回転へラ割り。頸部貼付。
118	120	61	須恵器	長頸壺		胴部	灰		8.5	7		粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。胴部下位回転へラ割り。高台貼付。
119	121		須恵器	長頸壺		底部片	灰白		9.2			細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。胴部下位回転へラ割り。
120	121	61	須恵器	鉢		口～胴部	灰	16		17.2		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。胴部中に2条の凹線。
121	121	61	須恵器	鉢		口～胴部	灰	31.8				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。
122	121	61	須恵器	鉢		1/2	灰	23.7		40		粗砂粒	還元焰	胴部平行叩き。
123	121	61	須恵器	鉢		口縁部片	灰	22.4				粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。
124	121	61	須恵器	鉢		口縁部片	灰	43.8				粗砂粒	還元焰	口縁部3段の波状文。
125	121	61	須恵器	鉢		口縁部片	灰	44				粗砂粒	還元焰	口縁部に波状文。
126	122		土師器	鉢		口～胴部	に橙	12.8				細砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部へラ割り。内面へラナデ。
127	122		土師器	鉢		口～胴部	に褐	13.3				細砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部へラ割り。内面へラナデ。
128	122	61	土師器	鉢		口～胴部	に橙	14.3				細砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部へラ割り。内面へラナデ。
129	122	62	土師器	鉢		口～胴部	に橙	22				細砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部へラ割り。内面へラナデ。
130	122	62	土師器	鉢		口～胴部	に黄橙	19.2		29		細砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部へラ割り。内面へラナデ。
131	122	62	土師器	杯		底部片	橙					細砂粒	良好	底部へラ割り。底部に墨書、文字判読不能。
132	122	62	土師器	杯		底部片	橙					細砂粒	良好	底部へラ割り。底部に墨書、文字判読不能。
133	122	62	土師器	杯		底部片	に褐					細砂粒	良好	底部へラ割り。底部に墨書、文字判読不能。
134	122	62	土師器	杯		底部片	橙					細砂粒	良好	底部へラ割り。底部に墨書、文字「令」か。
135	122	62	土師器	杯		底部片	橙					細砂粒	良好	底部へラ割り。底部に墨書、文字判読不能。
136	122	62	土師器	杯		底部片	橙					細砂粒	良好	底部へラ割り。底部に墨書、文字判読不能。
137	122	62	土師器	杯		底部片	橙					細砂粒	良好	底部へラ割り。底部に墨書、文字判読不能。
居宅廃棄5区436														
1	123	62	土師器	杯	+ 3	完形	橙	13			3.6	細砂粒	良好	口縁部上位横ナデ、中位ナデ、下位～底部へラ割り。
2	123		土師器	杯	埋没土	1/5	に褐	13			3.4	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へラ割り。
3	123	62	土師器	杯	埋没土	1/2	に黄橙	13.4			3.4	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へラ割り。
4	123	62	土師器	杯	埋没土	1/3	に橙	13.8			3.3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へラ割り。
5	123		土師器	杯	埋没土		褐	13				細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へラ割り。
6	123	62	土師器	杯	+ 3	完形	に橙	12.8	9.4		3.1	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へラ割り。
7	123		土師器	杯	埋没土	1/4	に褐	12.6	9.3		2.7	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へラ割り。
8	123	62	土師器	杯	埋没土	1/4	に褐	13.8	9.6		2.9	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へラ割り。
9	123	62	須恵器	杯蓋	+ 2	完形	灰	10.2	1.6		2.1	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摘貼付。天井部回転へラ割り。
10	123	62	須恵器	杯蓋	埋没土	ほぼ完形	灰	19.6	4.6		3.8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摘貼付。天井部回転へラ割り。

遺物NO.	挿入NO.	PL.NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
11	123		須恵器	杯蓋	埋没土	口縁部片	灰	12				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転へら削り。
12	123		須恵器	杯蓋	埋没土	口縁部片	灰	13.8				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転へら削り。
13	123		須恵器	杯蓋	埋没土	口縁部片	灰白	18				細砂粒	還元焰	ロクロ整形。天井部回転へら削り。
14	124	62	須恵器	杯	+5	1/3	灰白	14.8	8.8		3.8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り。
15	124	62	須恵器	高盤	+4	4/5	灰	15.6	7.6	11	8.5	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。脚部貼付。
16	124	62	須恵器	甕	+3	口~胴部片	灰	41.8	46.8			粗砂粒	還元焰	胴部外面叩き、内面ナデ。
17	124	62	石製品	不明	埋没土	1/4		15	10.8	10.2	992	館塚灰岩		上下側面を平坦に整形。
住居5区49														
1	127	63	須恵器	杯	貯蔵穴	4/5	橙	10	4.5		3.3	粗砂粒	酸火焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り。
住居5区51														
1	128	63	土師器	杯	+5	1/4	に橙	11.7	9.4		3.1	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へら削り。
2	128	63	土師器	杯	+5	3/4	に橙	12.2	8.4		3.5	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へら削り。
3	128		土師器	杯	+5	口縁部片	橙	13.8	9		3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へら削り。
4	129	63	須恵器	杯	+8	1/4	灰	13.5	7.8		3.6	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部系切り。
5	129		須恵器	杯	床直	底部片	灰白		6.4			細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部系切り。
6	129		須恵器	碗	+8	底部片	橙		7	6.4		細砂粒	酸火焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部系切り。
7	129		土師器	甕	+6	口~胴部	橙	20				細砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部へら削り。内面へらナデ。
8	129		土師器	甕	+10	頸~胴部	橙					細砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部へら削り。内面へらナデ。
住居5区52														
1	131	63	土師器	杯	埋没土	1/3	橙	11.7	7.2		3.2	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へら削り。
2	131	63	土師器	杯	+16	2/3	橙	11.8	7		3.7	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へら削り。
3	131		須恵器	杯蓋	埋没土	口縁部片	灰	15.6				粗砂粒	還元焰	ロクロ整形。
4	131		須恵器	杯	埋没土	口縁部片	灰	14.6				粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。
住居5区53														
1	134		土師器	杯	埋没土	口縁部片	に黄橙	15.8	11			微砂粒	軟質	口縁部横ナデ、底部へら削り。
2	134		土師器	杯	埋没土	口縁部片	に橙	15.8				細砂粒	良好	口縁部横ナデ、底部へら削り。
3	134	63	土師器	杯	+4	3/4	に橙	13.4			3.1	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半から底部にかけてへら削り。
4	134		土師器	杯	床直、+16	1/5	橙	11.2			3.1	粗砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半から底部にかけてへら削り。
5	134	63	土師器	杯	床直	2/3	橙	12.6			3.6	細砂粒	良好	口縁部横ナデ、底部へら削り。
6	134		土師器	杯	埋没土	口縁部片	橙	12.6				細砂粒	良好	口縁部横ナデ、底部へら削り。
7	134	63	土師器	杯	埋没土	1/3	橙	14	12.2		3.7	粗砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へら削り。
8	134	63	土師器	杯	床直、掘方	3/4	橙	16.4	13		4.5	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へら削り。
9	134		土師器	杯	埋没土	1/6	に橙	10.6	9.8		2	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へら削り。
10	134		土師器	杯	埋没土	1/6	に橙	12.2			3.2	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へら削り。
11	134	63	土師器	杯	床直	1/3	に橙	13.8	11		2.9	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へら削り。

遺物NO.	挿入NO.	PL.NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
12	134	63	土師器	杯	+15	1/2	橙	12.6	8.4		3.2	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
13	134		須恵器	杯蓋	埋没土	口縁部片	灰	16.8				細砂粒	還元焰	ロクロ整形。
14	134		須恵器	杯蓋	掘方	口縁部片	灰白	12.8				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。
15	134	63	須恵器	杯蓋	掘方	天井部片	灰			3.5		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摘み貼付。天井部回転ヘラ削り。
16	134	63	須恵器	杯	掘方	1/2	灰	14.8	8.6		3.5	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。
17	134		須恵器	碗	埋没土	底部片	灰		10	9.8		細砂粒	還元焰	ロクロ整形。高台貼付。口縁部下位回転ヘラ削り。
18	134		須恵器	甕	埋没土	口縁部片	灰	30				粗砂粒	還元焰	ロクロ整形。
19	135		土師器	甕	埋没土	口縁部片	橙	13.8				細砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面ヘラナデ。
20	135		土師器	甕	床直、掘方	口縁部片	橙	22.2				細砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面ヘラナデ。
21	135	63	石器	砥石	床直	1/2		10	12.6	4.2	76.4	粗粒輝石安山岩		使用は片面だけ
住居5区58														
1	138	63	土師器	杯	床直、+9	1/4	に赤褐	17.8	9		5.3	細砂粒	良好	口唇部横ナデ、口縁部上位ナデ、中位から底部はヘラ削り。
2	138	63	土師器	杯	床直、+10	1/4	に赤褐	18.8	12.2		6.7	細砂粒	良好	口唇部横ナデ、口縁部上位ナデ、中位から底部はヘラ削り。
3	138		土師器	杯	+14、15	口縁部片	に赤褐	18.8				細砂粒	良好	口唇部横ナデ、口縁部上位ナデ、中位から底部はヘラ削り。
4	138		土師器	杯	埋没土	1/4	に褐	19.2				細砂粒	良好	口唇部横ナデ、口縁部上位ナデ、中位から底部はヘラ削り。
5	138		土師器	杯	+7	1/6	に褐	13	10.2			細砂粒	良好	口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。
6	138		土師器	杯	+8、15	1/6	に赤褐	14.2	13.2			細砂粒	良好	口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。
7	138	63	土師器	杯	埋没土	1/2	に赤褐	14.2	13.2		2.6	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
8	138	63	土師器	杯	床直	4/5	に黄褐	13			3.6	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
9	138	63	土師器	杯	埋没土	1/4	に赤褐	13.2			3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
10	138		土師器	杯	埋没土	口縁部片	に褐	13.4				細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
11	138		土師器	杯	+7	口縁部片	に褐	13.8				細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
12	138		土師器	杯	埋没土	口縁部片	に褐	14.4				細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
13	138		土師器	杯	埋没土	1/6	に褐	18.2			4	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
14	138		土師器	杯	埋没土	1/4	に赤褐	15			2.5	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
15	138	63	須恵器	杯蓋	床直	完形	灰白	14.8		3.7	2.4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摘み貼付。天井部回転ヘラ削り。
16	138	63	須恵器	碗	床直	2/3	灰褐	17	13.4	12.6	7.2	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転ヘラ削り。
17	138		須恵器	短頸壺	埋没土	胴部片	灰			23.4		細砂粒	還元焰	ロクロ整形。内面下半ナデ。
18	138		須恵器	壺	+4	胴部片	灰			21.2		粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。胴部下半回転ヘラ削り。
19	138		須恵器	甕	+5	胴部片	灰					粗砂粒	還元焰	外面平行叩き、内面同心円状了テ具痕。

遺物NO.	挿入NO.	PL NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
住居5区61														
1	141		土師器	皿	埋没土	1/5	に橙	14.4				細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
2	141		土師器	杯	埋没土	1/5	に赤褐	14.3				細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
3	141		土師器	杯	床直	1/4	に橙	11.8				細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半～底部ヘラ削り。
4	141		土師器	杯	掘方	1/4	に橙	13				細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
5	141	63	土師器	杯	床直	1/2	に橙	14.4	10.5		3.7	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
6	141		土師器	杯	床直	口縁部片	に黄褐	13.2	10			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
7	141		土師器	杯	掘方	口縁部片	橙	14				細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
8	141	63	須恵器	杯蓋	床直	1/2	褐灰	14.6		3.6	2.2	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摘貼付。天井部回転ヘラ削り。
9	141		須恵器	杯蓋	床直	摘片	灰			4.2		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摘貼付。天井部回転ヘラ削り。
10	141	63	須恵器	杯	+5	1/2	灰	12.6	9.2		3.3	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部分回転ヘラ削り。
11	141	63	須恵器	短頸壺蓋	床直	1/3	灰	13.8				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部分回転ヘラ削り。
12	141		須恵器	甕	埋没土	口縁部片	灰	27.6				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部分回転ヘラ削り。
13	141	63	石器	磨石	床直	完形		7.8	7.4	2.6	7.7	二ツ岳軽石		
住居5区63														
1	142	64	土師器	杯	床直	3/4	明褐	11.8	7.9		3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
2	142		須恵器	高坏	埋没土	脚部片	灰黒					細砂粒	還元焰	ロクロ整形。
3	142		須恵器	長頸壺	埋没土	胴部片	灰黒			17		細砂粒	還元焰	ロクロ整形。
4	142	64	須恵器	甕	埋没土	口縁部片	灰黒	52				細砂粒	還元焰	ロクロ整形。口縁部に波状文。
住居5区260														
1	144		土師器	杯	埋没土	口縁部片	橙	15.8	12			細砂粒	良好	口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。
2	144	64	土師器	杯	床直、掘方	3/4	橙	12.6	7.6		4.1	細砂粒	良好	口縁部上位横ナデ、中位～底部ヘラ削り。
3	144		土師器	杯	+7	口縁部片	に橙	11.8				細砂粒	良好	口縁部上位横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
4	144		土師器	杯	掘方	1/4	橙	12.2			3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半～底部ヘラ削り。
5	144	64	土師器	杯	+7	完形	に橙	12.8			3.5	細砂粒	良好	口縁部上位横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
6	144		土師器	杯	+8	1/5	橙	12.8	10		3	細砂粒	良好	口縁部上位横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
7	144	64	須恵器	杯蓋	床直	完形	黄灰	15.8		4.5	3.4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摘貼付。天井部回転ヘラ削り。
8	144		須恵器	杯	埋没土	底部片	灰		9			細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部分回転ヘラ削り。
9	144		須恵器	杯	床直	底部片	灰		7.6			細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部分回転系切り。
10	144	64	須恵器	碗	+5、12	1/2	灰白	10.2	4.6			細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台剥落。底部回転ヘラ削り。
11	144	64	土師器	甕	床直、+10	口～胴部片	明褐	20.4				細砂粒	良好	輪痕残る。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面ヘラナデ。
12	144	64	土師器	甕	床直	口～胴部片	明褐	20.8				細砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面ヘラナデ。
13	144	64	土師器	甕	+4～6	胴～底部片	明褐		7.6			細砂粒	良好	胴部～底部ヘラ削り。内面ヘラナデ。5

遺物NO.	棟図NO.	PL.NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
住居5区261														
1	146		土師器	杯	埋没土	口縁部片	橙	16.8	13.8			細砂粒	良好	口縁部横ナデ、底部へラ削り。
2	146		土師器	杯	掘方	口縁部片	明赤褐	13.8				細砂粒	良好	口唇部横ナデ、口縁部へラ削り。
3	146		土師器	杯	埋没土	口縁部片	橙	12.2	11.6			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
4	146		須恵器	杯蓋	埋没土	天井部片	灰白					細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転へラ削り。
5	146		須恵器	盤	埋没土	底部片	灰白		15			細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転へラ削り。
6	146		土師器	甕	カマド	口縁部片	橙	13.2				粗砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部へラ削り。
7	146		土師器	甕	床直	口～胴部片	に橙	18.6				細砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部へラ削り。
住居5区418														
1	147		土師器	杯	堀方	口縁部片	橙	13.2	8		2.8	粗砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半から底部はへラ削りか。
2	147		土師器	杯	堀方	口縁部片	橙	13.6	8.6		2.8	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半から底部はへラ削りか。
3	147		土師器	杯	埋没土	口縁部片	に黄橙	19.2				細砂粒	良好	口縁部上位横ナデ、中位から底部へラ削り。
4	147		須恵器	杯蓋	埋没土	口縁部片	褐灰	14.2				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回りか。
5	147		須恵器	杯蓋	埋没土	口縁部片	黄灰	15.6				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。
6	147		須恵器	杯蓋	堀方、埋没土	口縁部片	灰	19.8				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転へラ削り。
7	147		須恵器	杯	埋没土	口縁部片	灰	12				細砂粒	還元焰	ロクロ整形。
8	147		須恵器	杯	埋没土	底部片	明褐灰		8.4			細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転へラ削り。
9	147	64	須恵器	碗	埋没土	1/2	灰	10.6	6.4	6	5.5	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。
掘立柱建物5区167														
1	148		須恵器	甕	P7	口縁部片	灰	24.8				細砂粒	還元焰	ロクロ整形。
井戸4区219														
1	149	64	石器	磨石	埋没土	完形		10	8.6	4.3	276	二ツ岳軽石		
土坑4区132														
1	151	64	須恵器	杯	+5	1/2	黄灰	13.8	8		3.5	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
土坑4区134														
1	151		灰釉陶器	長頸壺	埋没土	口縁部片	灰白	10				微砂粒	還元焰	ロクロ整形。外面の施釉剥落。
土坑5区54														
1	152	64	土師器	杯	埋没土	2/3	に橙	11.2	8		3.4	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
土坑5区55														
1	153		土師器	杯	埋没土	口縁部片	に橙	15.4				細砂粒	良好	口縁部上位横ナデ、中位以下へラ削り。
2	153		黒色土器	皿	埋没土	口縁部片	に橙	11.6				細砂粒	酸火焰	内外面黒色処理。ロクロ整形、外面下半へラ磨き。
3	153		須恵器	把手付瓶	埋没土	頸部片	黄灰					細砂粒	還元焰	ロクロ整形。把手貼付。頸部と胴部接合。

遺物NO.	挿図NO.	PL.NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
土坑5区65														
1	153	64	土師器	杯	埋没土	1/3	に橙	12.8	8.8		3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半～底部ヘラ削り。
2	153	64	土師器	杯	埋没土	1/5	に褐	12	7		2.5	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
3	153	64	須恵器	杯	埋没土	1/4	灰	12	7.2		3.6	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
4	153	64	須恵器	杯	+10	1/2	灰白	14.2	8.2		3.4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
5	153		須恵器	碗	埋没土	底部片	黄灰		8	8.2		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転糸切り。
6	153	64	須恵器	碗	+12	底部	灰		8.4	8.4		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転糸切り。
土坑5区74														
1	154	64	土師器	杯	+25、46	3/4	に褐	11.2	8		3.2	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
2	154	64	土師器	杯	+3、24	3/4	に褐	11.8	7.8		3.6	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
3	154	64	須恵器	杯	+15	2/3	に橙	12.8	6.4		4	粗砂粒	酸火焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
4	154	64	須恵器	杯	+27	1/2	灰白	13.2	7		3.4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
土坑5区129														
1	154		土師器	杯	埋没土	口縁部片	に橙	11.6	7.6		2.8	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
土坑5区134														
1	154	64	須恵器	碗	埋没土	口縁部片	灰	16.6				粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。
土坑5区151														
1	154		須恵器	杯蓋	埋没土	天井部片	灰			4		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摘貼付。天井部回転ヘラ削り。
土坑5区155														
1	155		土師器	杯	埋没土	1/4	に橙	11.6	7.6			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデとヘラ削り、底部ヘラ削り。
2	155		土師器	杯	埋没土	口縁部片	に褐	11	8		3.5	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
3	155		土師器	杯	埋没土	1/4	に橙	11.8	8.8			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
4	155		土師器	杯	埋没土	口縁部片	橙	12.2	8			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
5	155	64	土師器	杯	埋没土	口縁部片	橙	12.4	8.6			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
6	155		土師器	杯	埋没土	口縁部片	橙	12.8	9.2			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
7	155	64	須恵器	杯	埋没土	1/4	灰	12.6	6.4		3.7	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
8	155		須恵器	杯	埋没土	口縁部片	灰	13.2				細砂粒	還元焰	ロクロ整形。
9	155		須恵器	杯	埋没土	底部片	灰		6			細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
土坑5区161														
1	155	65	須恵器	甕	埋没土	口縁部片	灰	25.6				粗砂粒	還元焰	口縁部波状文。
土坑5区219														
1	156		須恵器	杯蓋	埋没土	天井部片	灰黄褐			2.9		細砂粒	酸火焰	ロクロ整形。摘貼付。天井部回転ヘラ削り。
土坑5区246														
1	156	65	土師器	杯	埋没土	1/4	に黄橙	13			3.5	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。内面ヘラ磨き。
2	156	65	土師器	杯	埋没土	1/3	橙	13.8			3.4	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。

遺物NO.	挿図NO.	PL.NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
土坑5区311														
1	156	65	土師器	杯	埋没土	1/2	に橙	13	7		2.7	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
土坑5区342														
1	156	65	石器	砥石	埋没土	1/3		6.1	5.3	1.3	64	擬灰質砂岩		
土坑5区344														
1	157	65	土師器	甕	埋没土		明褐	21.6				細砂粒	良好	輪積痕残る。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面ヘラナデ。
2	157	65	土師器	甕	埋没土		に赤褐	22.2				細砂粒	良好	輪積痕残る。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面ヘラナデ。
3	157	65	土師器	甕	埋没土		赤褐	23.8				細砂粒	良好	輪積痕残る。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面ヘラナデ。
土坑5区369														
1	156	65	須恵器	短頸壺蓋	埋没土	天井部	灰			4.4		微砂粒	還元焰	ロク口整形、回転右回り。摘・鈔貼付。天井部回転ヘラ削り。
土坑5区426														
1	156		須恵器	杯	埋没土		灰	12.6	7.8		2.9	細砂粒	還元焰	ロク口整形。底部回転ヘラ削り。
土坑5区445														
1	158	65	土師器	杯	埋没土	1/4	に橙	12.6			3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
土坑5区446														
1	158		須恵器	杯蓋	埋没土	1/5	灰	15.8		5.8	3.1	細砂粒	還元焰	ロク口整形、回転右回り。摘貼付。天井部回転ヘラ削り。
2	158		須恵器	碗	埋没土		灰白	17.4				細砂粒	還元焰	ロク口整形。
溝4区114														
1	159	65	土師器	杯	埋没土	2/3	橙	12.1	8		4.1	細砂粒	良好	歪太、口唇部横ナデ、口縁部ナデで指頭痕残る。底部無調整。
2	159	65	須恵器	碗	埋没土	1/2	灰	14.8	8.2	5.8	5.3	粗砂粒	還元焰	ロク口整形、回転右回り。底部ナデで切り離し技法不明。高台貼付。
溝5区48														
1	161		土師器	杯	埋没土	1/5	橙	14.2			4	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
2	161		土師器	杯	+ 6		橙	11.8	9			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
3	161		土師器	杯	+ 2		橙	12.6	9		2.5	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
4	161		土師器	杯	埋没土	1/6	明黄褐	11.8	7.6		3.5	細砂粒	良好	口唇部横ナデ、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。
5	161		土師器	杯	埋没土		橙	10.8	7.4			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
6	161	65	土師器	杯	埋没土	1/2	明赤褐	10.8	7.4		3.1	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
7	161	65	土師器	杯	埋没土	3/4	橙	11.3	8.8		3.6	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
8	161	65	土師器	杯	埋没土	3/4	橙	11.5	8		3.5	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
9	161	65	土師器	杯	埋没土	3/4	に橙	11.7	8.2		3.4	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
10	161		土師器	杯	埋没土	1/4	橙	11.7	7.8		3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
11	161		土師器	杯	埋没土		明褐	11.7	8			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
12	161	65	土師器	杯	埋没土	1/4	に黄橙	11.8	8.4		3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
13	161	65	土師器	杯	埋没土	3/4	に黄橙	13	8.2		4	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデとヘラ削り、底部ヘラ削り。
14	161	65	土師器	杯	埋没土	1/3	に橙	13.2	9		3.7	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデとヘラ削り、底部ヘラ削り。

遺物NO.	挿図NO.	PL.NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
15	161		黒色土器	碗	埋没土	口縁部片	に橙	14.8				微砂粒	還元焰	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。内面ヘラ磨き。
16	161		黒色土器	碗	埋没土	口縁部片	に橙	16.8				微砂粒	還元焰	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。内面ヘラ磨き。
17	161	65	須恵器	皿	+13	底部	灰	7	7.4			細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転ヘラ削り。
18	161	65	須恵器	杯蓋	+11	2/3	灰	16	3.3		3.1	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転ヘラ削り。
19	161	65	須恵器	杯蓋	+14	天井部	灰		3			細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転ヘラ削り。
20	161	65	須恵器	杯蓋	+13	天井部	灰		3.8			細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転ヘラ削り。
21	161		須恵器	杯蓋	埋没土	口縁部片	灰	14.2				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転ヘラ削り。
22	161		須恵器	杯蓋	埋没土	口縁部片	灰	18				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転ヘラ削り。
23	161	65	須恵器	杯	+10、11	1/3	灰	12.6	7		3	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
24	161	65	須恵器	杯	+2、3	完形	灰白	14.2	9.8		4.2	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
25	161		須恵器	杯	埋没土	1/3	灰	12.2	5.2		3	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
26	161	65	須恵器	杯	+9	3/4	灰白	10.4	5.8		3.1	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
27	162	65	須恵器	杯	+27	1/4	灰	12	6.2		4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
28	162	66	須恵器	杯	+10	3/4	灰	12	6.2		3.6	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
29	162		須恵器	杯	埋没土	1/4	灰	13.4	6.2		3.8	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
30	162	66	須恵器	碗	+1、4、6	完形	灰白	17	9.2	8.8	7.4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転ヘラ削り。
31	162		須恵器	碗	+9	1/3	灰白		9.2	9		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転ヘラ削り。
32	162	66	須恵器	凸帯付四耳壺	埋没土		暗灰	20	11.6	21.6	31.8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形。凸帯・耳貼付。胴部外面叩き。
33	162		須恵器	長頸壺	埋没土	口縁部片	灰	10				粗砂粒	還元焰	ロクロ整形。
34	162	66	須恵器	長頸壺	+15	胴部片	灰			22.6		細砂粒	還元焰	ロクロ整形。胴部下回転ヘラ削り。
35	162		須恵器	長頸壺	+6	底部片	灰		12.6			細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部貼付。
36	163	66	須恵器	横瓶	+12、13	胴部片	灰					細砂粒	還元焰	胴部閉塞部分ナデ。胴部叩き。
37	162		須恵器	甕	埋没土	口縁部片	灰	23.8				細砂粒	還元焰	ロクロ整形。
38	163	66	須恵器	甕	+10	口縁部片	灰	25.8				細砂粒	還元焰	ロクロ整形。
39	163		須恵器	甕	+7	口縁部片	灰	27				細砂粒	還元焰	ロクロ整形。
40	163	66	須恵器	甕	+2、6	頸部片	灰					細砂粒	還元焰	胴部と頸部は接合。口縁部は凹線による区画と波状文。
41	163	66	土師器	甕	+6、18	口～胴部片	明赤褐	18.2				細砂粒	良好	口縁部～頸部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面ヘラナデ。
42	163	66	土師器	甕	埋没土	口～頸部片	橙	20				細砂粒	良好	頸部に輪積痕。口縁部～頸部横ナデ。
43	163	66	銅製品	銭貨	+8	一部欠		2.68	0.62	0.16				神功開寶
溝5区232														
1	163	66	土師器	杯	+7	1/2	に橙	13	11		3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
溝5区370														
1	163		須恵器	杯蓋	埋没土	天井部片	灰			3.8		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転ヘラ削り。
溝5区421														
1	164	66	須恵器	長頸壺	底面	頸部	灰					細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。頸部カキ目。

遺物NO./埴田NO./PL.NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
溝5区437												
1 165	土師器	杯	+ 2	1/5	橙	15.2				微砂粒	軟質	口縁部上半横ナデ、下半～底部ヘラ削り。
2 165	須恵器	杯	+ 3	1/3	灰	15.6	10		3.3	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
3 165	須恵器	甕	埋没土	口縁部片	灰	29.6				細砂粒	還元焰	ロクロ整形。
溝5区438												
1 166	須恵器	杯蓋	埋没土	天井部片	灰			4		粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摘貼付。天井部回転ヘラ削り。
2 166	須恵器	杯蓋	埋没土	口縁部片	灰	21				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転ヘラ削り。
3 166	須恵器	杯蓋	+ 4	口縁部片	灰	21.8				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転ヘラ削り。
4 166	須恵器	杯	埋没土	1/4	灰	13	9		3.3	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
5 166	須恵器	椀	埋没土	1/3	灰	12	7.6	7.2	4.8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転ヘラ削り。
6 166	須恵器	高坏	+ 1	脚部片	灰					細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。脚部貼付。
7 166	土師器	甕	+ 5	口～胴部片	橙	16.6		21.2		粗砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面ヘラナデ。
溝5区444												
1 164	須恵器	杯蓋	埋没土	口縁部片	灰	13.4				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転ヘラ削り。
2 164	須恵器	杯	埋没土	2/3	灰白	13.8	8.5		3.7	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
遺構外4区												
1 167	土師器	杯	中世墓坑47	口縁部片	に橙	12	10.6			微砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
2 167	土師器	杯	近世土坑61	完形	明赤褐	12.6	12		3.3	粗砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部ヘラ削り。
3 167	土師器	杯	近世集石99	1/3	橙	13	10.6		4.1	水鏡	軟質	口縁部上半横ナデ、下半ヘラ削り。削りの単位は薄減のため不明。
4 167	須恵器	小皿	11I-20	1/6	灰白	7.2	4		1.4	微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
5 167	須恵器	皿	古墳105	1/3	灰白	13.6	8	7.6	2	微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
6 167	須恵器	杯		口縁部片	灰	14	10		3.1	微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部ヘラ削り。
7 167	須恵器	杯	11F-16IV	1/2	灰白	13.2	6.4		3.6	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
8 167	須恵器	杯	中世溝51	1/2	灰白	14	6.6		3.9	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
9 167	須恵器	椀	11I-16	口縁部片	灰	13.8	8.6		3.8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部ヘラ削りか。
10 167	須恵器	椀	11H-17IV	1/6	灰	14.4	8.2	8.4	4.8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部ヘラ削りか。
11 167	須恵器	椀	11N-20IV	1/4	灰白	14.6	6.4	5.4	5.6	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部ヘラ削りか。
12 167	須恵器	高盤	11L-14IV	脚部片	浅黄					微砂粒	酸化焰	脚部中程に1条の凹線。ロクロ整形、回転右回り。
13 167	灰釉陶器	皿	中世溝16	底部片	灰		9.2	8.8		微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部ナデ。
14 167	灰釉陶器	椀	古墳105	4/5	灰白	20.6	9.6	9.2	7.7	微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。施釉方法刷毛塗り。
15 167	灰釉陶器	椀	11G-17IV	口縁部片	灰黄	16				微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回りか。個体部下位回転ヘラ削り。
16 167	灰釉陶器	椀	11I-17	底部片	灰		7.1	6.9		微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部ナデ。体部下位回転ヘラ削り。
17 167	緑釉陶器	椀	11H-19IV	口縁部小片	灰					微砂粒	還元焰	
18 167	須恵器	小形短頸壺	中世溝51	口～胴部片	灰	4.5		8.2		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回りか。

建物NO.	通図NO.	PL.NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
19	167		須恵器	長頸壺	11J-22IV	頸部片	灰					細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。
20	167		灰釉陶器	長頸壺	11I-20IV	底部片	灰白		9	8.6		微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。
21	167	67	土師器	甕	11L-21IV	口縁部片	赤褐	18.6				細砂粒	良好	外面輪積み痕。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。
22	167	67	土師器	甕	11L-21II	口~胴部片	に橙	20				細砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。
23	168	67	土師器	台付甕	11K-17IV	脚部	橙	2.8		9.6		細砂粒	良好	脚部貼付。脚部横ナデ。内面胴部ヘラナデ。
24	168		須恵器	甕	中世溝02	口縁部片	褐灰					細砂粒	還元焰	口縁部2段以上の波状文。
25	168		須恵器	甕	中世溝01	口縁部片	淡黄					細砂粒	還元焰	口縁部1段以上の波状文。
26	168	67	土製品	平瓦	中世溝02	小片	灰オリーブ					粗砂粒	還元焰	
27	168	67	石器	砥石	11J-19	1/2		4.9	2.3	1.5	18	砥沢石		非常に使い込んでいる
5区遺構外														
1	169	67	土師器	杯	10J-16VII	1/3	に黄橙	13.4	6		3.9	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半~底部ヘラ削り。内面放射状暗文。
2	169		土師器	杯	10L-13VI	口縁部片	橙	18.8	14			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
3	169		土師器	杯	10L-13VI	1/4	橙	12.2	8.8		5	粗砂粒	軟質	口縁部上半横ナデ、下半~底部ヘラ削り。
4	169		土師器	杯	10L-13VI	1/4	橙	13	8		3.7	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半~底部ヘラ削り。
5	169		土師器	杯	10L-13VI	1/4	橙	17.6	11.4		5.2	粗砂粒	軟質	口唇部横ナデ、口縁部~底部ヘラ削り。
6	169		土師器	杯	10L-13VI	1/4	明黄褐	11.6			3.7	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
7	169		土師器	杯	谷地	1/4	明黄褐	12.8				細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
8	169	67	土師器	杯	10J-15IV	1/4	に黄橙	13				細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
9	169	67	土師器	杯	10J-14IV	ほぼ完形	に橙	13.2			3.6	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
10	169	67	土師器	杯	10N-15IV	1/3	に黄橙	13.8			3.7	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
11	169	67	土師器	杯	10K-17IV	1/2	に黄橙	13.8			3.3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
12	169		土師器	杯	10K-15IV	1/4	に黄橙	15.6			3.3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
13	169	67	土師器	杯	試掘坑	1/4	に黄橙	15.6			4.2	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、中位ナデ、下部~底部ヘラ削り。
14	169	67	土師器	杯	10L-13VI	1/4	橙	10.6				細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
15	169		土師器	杯	10L-13VI	1/4	橙	11	9		2.7	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
16	169		土師器	杯	10L-13VI	1/5	に橙	11.1	8.4		3.1	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
17	169	67	土師器	杯	10L-13VI	3/4	橙	11.8	9.6		3.1	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
18	169		土師器	杯	10L-13VI	1/4	橙	11.8	9.6			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
19	169		土師器	杯	10L-13VI	1/4	橙	11.8	9.6			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
20	169	67	土師器	杯	10L-13VI	1/2	に橙	12	10.4			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
21	169	67	土師器	杯	近世溝21	2/3	橙	12.2	9.6		3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
22	170	67	土師器	杯	10O-18IV	3/4	に橙	12.6	11.2		3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
23	170	67	土師器	杯	谷地	3/4	橙	13.6	10		3.6	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
24	170		土師器	杯	10L-13VI	1/4	橙	14.6	12.8		2.8	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
25	170	67	土師器	杯	攪乱	1/4	橙	14.8	11.4		3.4	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。

遺物NO.	挿入NO.	PLNO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
26	170	67	土師器	杯	10L-13VI	1/4	橙	11.6	8.2		3.3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
27	170	67	土師器	杯	10L-13VI	2/3	に橙	11.8	9.8		3.1	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
28	170	68	土師器	杯	10O-16II	1/2	明赤褐	11.8	8		3.5	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
29	170	68	土師器	杯	中世土坑10	2/3	橙	11.9	7.8		3.2	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
30	170	68	土師器	杯	10I-17II	1/2	橙	11.9	10		3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ削り。
31	170	68	土師器	杯	10L-13VI	1/3	橙	12	8		3.2	細砂粒	良好	口唇部横ナデ、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。
32	170	68	土師器	杯	10L-13VI	底部小片	に褐					細砂粒	良好	底部ヘラ削り。外面に墨書、判読不能。
33	170	68	土師器	鉢	10J-15VI	口縁部片	に黄橙	22				細砂粒	良好	口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。
34	170	68	須恵器	皿	10T-16VI	2/3	灰	14.8	9	9	3.2	微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転糸切り。
35	170		須恵器	皿	10N-15II	底部	灰		7.3	7.6		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転糸切り。
36	170		須恵器	皿	10T-16VI	2/3	灰		9.2	9.6		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転糸切り。
37	170		須恵器	杯蓋	10L-14	4/5	灰白	12.2		2	3.8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摺貼付。天井部回転ヘラ削り。
38	170	68	須恵器	杯蓋	10J-15II	4/5	灰	14.2		3.6	3.3	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摺貼付。天井部回転ヘラ削り。
39	170	68	須恵器	杯蓋	10O-13II	4/5	灰	13.9		3.9	2.7	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摺貼付。天井部回転ヘラ削り。
40	170	68	須恵器	杯蓋	5区谷地	4/5	灰	13.9		3.6	3.3	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摺貼付。天井部回転ヘラ削り。
41	170	68	須恵器	杯蓋	5区谷地	4/5	灰	18.4				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摺貼付。天井部回転ヘラ削り。
42	170		須恵器	杯蓋	10J-15II	1/4	灰	19.4				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摺貼付。天井部回転ヘラ削り。
43	170		須恵器	杯蓋	10T-17II	1/4	灰白	18.8				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摺貼付。天井部回転ヘラ削り。
44	170		須恵器	杯蓋	10L-18VI	天井部片	灰			3		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摺貼付。天井部回転ヘラ削り。
45	170	68	須恵器	杯蓋	10S-15II	天井部片	灰白			3.6		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摺貼付。天井部回転ヘラ削り。
46	170		須恵器	杯蓋	10I-17II	天井部片	灰			4.8		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摺貼付。天井部回転ヘラ削り。
47	170		須恵器	杯蓋	10O-17II	天井部片	灰			4.4		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。摺貼付。天井部回転ヘラ削り。
48	170		須恵器	杯蓋	10S-19II	口縁部片	灰白	13.8				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、凸帯削り出し。
49	171	68	須恵器	杯	10K-13II	1/3	灰	11.2	7.5		3.4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。口縁部下位～底部回転ヘラ削り。
50	171	68	須恵器	杯	10O-14IV	1/4	灰	11.8	6.4		3.6	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
51	171	68	須恵器	杯	5区谷地	1/3	黄灰	11.2	7.5		3.6	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。口縁部下位ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。
52	171	68	須恵器	杯	10N-17II	1/3	灰	13.8	8.8		3.2	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
53	171	68	須恵器	杯	5区谷地	完形	灰	13.8	8.9		3.8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
54	171	68	須恵器	杯	5区谷地	1/4	灰	14.4	8.8		3.9	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
55	171		須恵器	杯	10M-17IV	1/4	灰	14.4	9.1		3.5	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
56	171		須恵器	杯	近世溝31	底部片	灰		11	10.2		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台削出し。底部回転ヘラ削り。
57	171		須恵器	杯	10Q-17IV	1/5	灰	17.8	11.2		6	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。
58	171	68	須恵器	杯	10O-13IV	1/3	灰	10.4	6.5		3.8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
59	171	68	須恵器	杯	10L-13IV	1/3	灰	11.8	6.9		3.8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
60	171	68	須恵器	杯	10L-13IV	2/3	灰白	11.8	7.1		3.9	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。

遺物NO.	挿図NO.	PL.NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
61	171		須恵器	杯	10L-13V	1/2	灰	11.8	6.9		3.3	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
62	171	68	須恵器	杯	10L-13V	1/2	灰白	12	7.3		3.5	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
63	171		須恵器	杯	10K-16VI	1/3	灰	12	7.2		4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
64	172		須恵器	杯	10I-17IV	1/4	灰	12.2	7		3.9	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
65	172	68	須恵器	杯	10L-13V	1/4	灰	12.2	7.6		3.7	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
66	172	68	須恵器	杯	10O-13V	1/4	黄灰	12.4	6.3		4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
67	172	68	須恵器	杯	10L-13V	2/3	灰	12.4	8.8		3.3	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
68	172	68	須恵器	杯	10I-17IV	1/2	灰白	12.5	8		3.5	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
69	172	68	須恵器	杯	10I-17IV	2/3	灰	12.5	7.6		3.8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
70	172		須恵器	杯	10L-13V	1/4	灰	12.5	6.8		3	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
71	172		須恵器	杯	10M-16IV	1/4	灰	12.7	6.9		3	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
72	172		須恵器	杯	10O-17IV	1/4	黄灰	12.8	7.8		3.2	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
73	172		須恵器	杯	10O-19IV	1/4	灰白	14	7		4.3	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
74	172	68	須恵器	杯	10L-13V	1/4	灰白	11.8	7.2		3.9	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
75	172	68	須恵器	杯	10I-17IV	3/4	灰黄褐	12.7	6.5		3.5	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
76	172	68	須恵器	杯	10R-14V	3/4	黒褐	12.7	6.1		3.8	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
77	172	69	須恵器	杯	10L-14	1/3	灰白	12.6	6.6		3.6	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
78	172		須恵器	杯	10L-13V	1/3	灰白	13.6	7.2		2.7	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。
79	173	69	須恵器	椀	近世土坑23	1/2	灰	10.4	6.3	6.6	5.1	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転糸切り。
80	172	69	須恵器	椀	10L-13V	1/2	灰	10.8	6.7	6.8	5	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転糸切り。
81	173	69	須恵器	椀	試掘坑	完形	灰	10.3	8.1	8.3	4.9	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転糸切り。
82	173	69	須恵器	椀	10J-13VI	1/2	灰	11.4	5.8	5.4	4.6	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部ナデ。
83	173	69	須恵器	椀	5区谷地	2/3	灰	14.3	7.8	8.2	5.7	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転糸切り。
84	173	69	須恵器	椀	10L-13V	1/2	灰	14.8	7.7	7.3	5.4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転糸切り。
85	173		須恵器	椀	10O-18V	底部	灰白		8	7.4		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転糸切り。
86	173		須恵器	盤	10G-13VI	底部	褐灰		12	11.6		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転糸切り。
87	173		須恵器	高坏	10G-18V	脚部片	灰白					微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。
88	173		須恵器	高坏	近世溝21	脚部片	灰					細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。
89	173		須恵器	高坏	10S-15V	脚部片	灰白					微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。
90	173	69	灰釉陶器	椀	近世溝31	底部片	灰白		10	10		微砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。高台貼付。底部貼付。底部回転糸切り。口縁部打ち欠く。
91	173		須恵器	短頸壺蓋	古墳溝04	天井部片	灰			12		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。高台貼付。凸帯削り出し。
92	173	69	須恵器	長頸壺蓋	10N-16IV	1/3	灰白	7.8				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。
93	173		須恵器	長頸壺	10O-14V	口縁部片	灰	9.4				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。
94	173		須恵器	長頸壺	11A-16V	頸部片	灰			6		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。頸部貼付。
95	173		須恵器	長頸壺	10R-15V	脚部片	灰			5.8		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。頸部貼付。頸部凸帯貼付。